

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第707集

うちだかいづか

内田貝塚発掘調査報告書

主要地方道大船渡広田陸前高田線事業関連遺跡発掘調査

2019

岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

(公財)岩手県文化振興事業団

内田貝塚発掘調査報告書

主要地方道大船渡広田陸前高田線事業関連遺跡発掘調査



調査区全景（南から）



調査区全景（東から）



貝層全景（南東から）



貝層断面（A-A' 南から）



貝層断面アップ（南から）



貝層 遺物出土状況（北東から）



貝層 魚骨出土状況



貝層周辺 獣骨出土状況



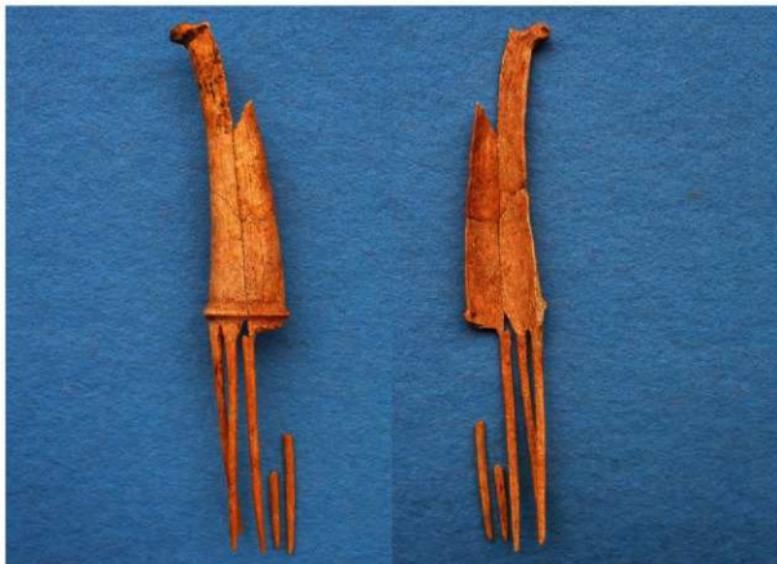
石製品



貝製品



骨角牙製品



骨角牙製品（櫛）

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民共有の財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図られなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業團埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとっていました。

本報告書は、大船渡市における主要地方道大船渡広田陸前高田線事業に関連して平成29年度に発掘調査された、内田貝塚の調査成果をまとめたものであります。内田貝塚は大船渡湾の南西岸、標高40m前後の斜面地に立地しており、縄文時代前期中葉の貝塚（貝層）と前期末葉に営まれた集落からなる複合遺跡であることが分かりました。特に、前期中葉の貝塚からは当時の縄文人が食したと思われる貝類や魚・獣骨が多量にみつかり、他に骨角牙製品や貝製品が出土しました。縄文時代前期の貝塚は県内でも発掘調査の事例が少なく、今回の発掘調査成果は該期の社会様相を知る貴重な資料となります。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター、大船渡市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成31年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野洋樹

例　　言

- 1 本報告書は、平成29年度に行った内田貝塚（大船渡市末崎町字内田54番地6ほか）の発掘調査の成果を収録したものである。
- 2 今回の調査は主要地方道大船渡広田陸前高田線事業に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センターとの協議を経て、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 遺跡台帳に登録されている遺跡番号は「NF69-0083」である。
- 4 遺跡略号、調査期間、調査担当者、調査面積、委託者は以下の通りである。

遺跡略号：UTD - 17
調査期間：平成29年6月1日～9月29日
調査担当者：須原 拓・立花雄太郎・戦場由裕
調査面積：3,027m²
委託者：岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター
- 5 室内整理期間と担当者は、以下の通りである。

整理期間：平成29年11月1日～平成30年3月31日
担当者：須原 拓・戦場由裕
- 6 調査および整理における委託業務については次の機関に依頼した。

基準点測量：有限会社 スカイ測量設計
航空撮影：株式会社 リッケイ
遺構・遺物図版編集：株式会社 リッケイ
石材鑑定：花崗岩研究会
黒曜石産地同定および骨角器の同定分析：株式会社 古環境研究所
貝層出土の骨・貝同定分析：株式会社 バリノ・サーヴェイ
放射性炭素年代測定（AMS測定）：株式会社 加速器分析研究所
遺物実測およびPEAKIT図作成：株式会社 ラング
- 7 本遺跡の調査成果は、すでに『平成29年度発掘調査報告書』（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第692集）において発表しているが、内容については本書が優先する。
- 8 本報告書の執筆・編集は須原 拓が行った。
- 9 本報告書で使用した地形図は、国土地理院発行1:25,000「大船渡」「盛」を使用している。
- 10 野外調査ならびに整理作業、報告書作成に際し、次の方々からご協力、ご指導いただいた。記して深く感謝いたします。（敬称略）

江川達也、大上立朗、河本純一、金野良一、佐々木務、佐藤巧庸、鈴木めぐみ、富岡直人、曳地隆元、町田賢一、松崎哲也、山田しょう、大船渡市教育委員会
- 11 本遺跡の調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

凡　　例

1 遺構について

- (1) 本文中の図版縮尺は以下を原則とし、各図版にはスケールを付している。
- 縦穴住居跡・土坑の平面・断面：1/80・1/40
　　貝層の平面・断面：1/50
- (2) 遺構断面の土層注記については以下の項目を基本とし、記録した。
- 色調（『標準土色帖』（農林水産省農林技術会議局監修1993）を基準とする）
　　粘性（4段階表示：強い、やや強い、やや弱い、弱い）
　　しまり（4段階表示：密、やや密、やや疎、疎）
　　混入物の有無（混入量は5段階表示：微量 1～10%・少量 11～20%・中量21～30%・やや多い31～40%・多量41～50%）

2 遺物について

- (1) 本文中の図版縮尺は以下を原則とし、各図版にはスケールを付している。
- 縄文土器：1/3　　土製品：1/2
　　剝片石器：2/3　　礫石器：1/2・1/3・1/4　　骨角牙製品・貝製品：2/3・1/1
- (2) 遺物図面のアミかけについては凡例図および第7～9図に示した通りである。
- (3) 観察表の表記項目については以下の通りである。

縄文土器・土製品

出土地点・層位、器種、残存部位、外面文様（文様／特徴）、内面調整（文様）、外面調整・内面調整、胎土混入物、時期（土器型式）、口径、器高、底径、コゲの付着、焼成について観察し、記載した。

文様については、口唇部（「唇」）、口縁部（「口」）、胴部（「胴」）、胴部上半（「胴上」）、胴部下半（「胴下」）、底部（「底」）に分けて、それぞれの文様を観察し、記載している。

色調については、『標準土色帖』（農林水産省農林技術会議局監修）の色調を基準とした。

焼成については、土器の断面を観察し、断面内の黒色層を基準として4分類した。

良　　好→断面に黒色層がみとめられず、断面の色調が橙色を帯びるもの。

やや良好→断面に明瞭な黒色層は認められないが、土器の内外面色調と比べ、やや暗い（黒色味がかったり）もの。

やや不良→断面の中央部にのみ黒色層がみとめられるもの。

不　　良→断面の半分以上に黒色層が認められ、焼成の際の火回りが悪いもの。

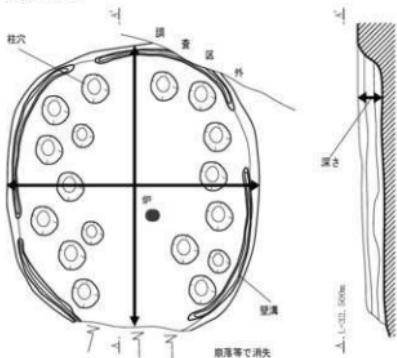
石器・石製品

出土地点・層位、器種、分類、残存部位、石材（産地）、長さ、幅、厚さ、重さについて観察し、記載した。石材は花崗岩研究会による鑑定結果を記した。

骨角牙製品・貝製品

出土地点・層位、器種、残存状態、特徴、材質、長さ、幅、厚さ、重さを記載した。

竪穴住居跡



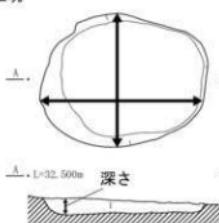
【竪穴住居跡の規模計測について】

住居の最も長い範囲を長軸とし、それに直交する範囲を短軸とし計測した。

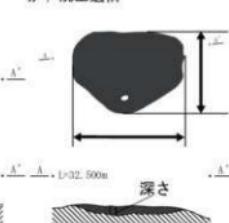
※竪穴住居跡の深さは、検出面から最深部を計測した。

壁・床面が消失している場合は残存する範囲を計測し、(○cm)と記した。

土坑



炉 / 烧土遺構



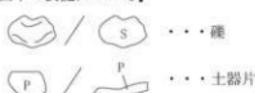
【土坑・焼土遺構の規模計測について】

最も長い範囲を長軸、それに直交する範囲を短軸とし計測した。

深さは、床面から焼土が及ぶ範囲の最深部を計測した。

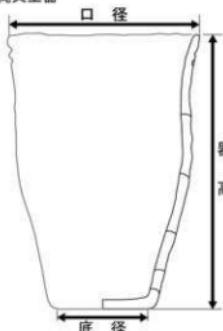
※壁・床面が消失している場合は残存する範囲を計測し、(○cm)と記した。

【図中の表記について】



【遺物の計測について】

縄文土器



※欠損している場合

残存部分のみ計測：(○cm)
残存部から口径

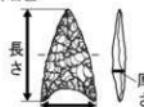
・底径を推定：(○cm)

と表記する。

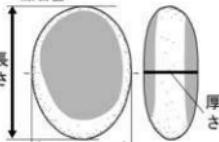
破片資料については計測して

いない。

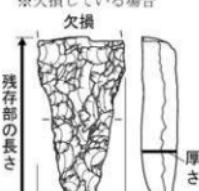
剥片石器



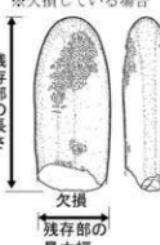
砾石器



※欠損している場合



※欠損している場合



※アミの表現
については
第7～9図
を参照。

目 次

I	発掘調査に至る経過	1
II	遺跡周辺の地理的環境	
1	遺跡の位置・調査前の現況について	1
2	遺 跡 の 立 地	1
III	遺跡周辺の歴史的環境	
1	大船渡市の遺跡	3
2	大船渡湾周辺の貝塚遺跡と内田貝塚	3
IV	調査の経過と方法	
1	野外調査について	7
2	室内整理について	8
3	貝層から出土した動物遺存体の整理について	9
V	出土遺物の分類	
1	縄文土器、土製品	10
2	石器・石製品	12
3	その他の遺物（骨角牙製品・貝製品・錢貨）	15
VI	調査の概要と基本土層	
1	調査の概要	19
2	基 本 土 層	23
VII	検出遺構と出土遺物	
1	検 出 遺 構	27
2	遺構外出土遺物	123
VIII	自然科学分析	
1	放射性炭素年代（AMS測定）	265
2	貝層から検出した火山灰の分析	279
3	黒曜石分析	284
4	貝層から出土した貝輪、骨角牙製品の同定分析	287
5	貝層から出土した貝類、魚・獸骨の同定	290
IX	総 括	
1	出土遺物の検討	314
2	貝層からの検討	322
	報告書抄録	415

図版目次

第1図	内田貝塚位置図	2	第50図	貝層61～63層	70
第2図	大船渡湾周辺の貝塚	5	第51図	貝層64～66層	71
第3図	グリッド図	7	第52図	貝層67～68層	72
第4図	貝層の整理作業について	9	第53図	貝層上面遺物出土状況	75
第5図	縄文土器分類図1	11	第54図	貝層出土遺物1	76
第6図	縄文土器分類図2	12	第55図	貝層出土遺物2	77
第7図	石器分類図1	16	第56図	貝層出土遺物3	78
第8図	石器分類図2	17	第57図	貝層出土遺物4	79
第9図	石器分類図3	18	第58図	貝層出土遺物5	80
第10図	内田貝塚と周辺地形	20	第59図	貝層出土遺物6	81
第11図	遺構配置図	21	第60図	貝層出土遺物7	82
第12図	基本土層柱状図	23	第61図	貝層出土遺物8	83
第13図	基本土層1	24	第62図	貝層出土遺物9	87
第14図	基本土層2	25	第63図	貝層出土遺物10	88
第15図	基本土層3	26	第64図	貝層出土遺物11	89
第16図	1号住居跡1	27	第65図	貝層出土遺物12	92
第17図	1号住居跡2	28	第66図	貝層出土遺物13	93
第18図	1号住居跡出土遺物1	30	第67図	貝層出土遺物14	94
第19図	1号住居跡出土遺物2	31	第68図	柱穴状土坑位置図	122
第20図	1号住居跡出土遺物3	32	第69図	遺構外出土縄文土器分布	123
第21図	1号住居跡出土遺物4	33	第70図	遺構外出土遺物1	130
第22図	1号住居跡出土遺物5	34	第71図	遺構外出土遺物2	131
第23図	土坑1	36	第72図	遺構外出土遺物3	132
第24図	土坑2	39	第73図	遺構外出土遺物4	133
第25図	土坑出土遺物1	41	第74図	遺構外出土遺物5	134
第26図	土坑出土遺物2	42	第75図	遺構外出土遺物6	135
第27図	土坑出土遺物3	43	第76図	遺構外出土遺物7	136
第28図	貝層範囲	45	第77図	遺構外出土遺物8	137
第29図	貝層 堆積層新旧関係	47	第78図	遺構外出土遺物9	138
第30図	貝層1～3層	50	第79図	遺構外出土遺物10	139
第31図	貝層4～6層	51	第80図	遺構外出土遺物11	140
第32図	貝層7～9層	52	第81図	遺構外出土遺物12	141
第33図	貝層10～12層	53	第82図	遺構外出土遺物13	142
第34図	貝層13～15層	54	第83図	遺構外出土遺物14	143
第35図	貝層16～18層	55	第84図	遺構外出土遺物15	144
第36図	貝層19～21層	56	第85図	遺構外出土遺物16	145
第37図	貝層22～24層	57	第86図	遺構外出土遺物17	146
第38図	貝層25～27層	58	第87図	遺構外出土遺物18	147
第39図	貝層28～30層	59	第88図	遺構外出土遺物19	154
第40図	貝層31～33層	60	第89図	遺構外出土遺物20	155
第41図	貝層34～36層	61	第90図	遺構外出土遺物21	156
第42図	貝層37～39層	62	第91図	遺構外出土遺物22	157
第43図	貝層40～42層	63	第92図	遺構外出土遺物23	158
第44図	貝層43～45層	64	第93図	遺構外出土遺物24	159
第45図	貝層46～48層	65	第94図	遺構外出土遺物25	160
第46図	貝層49～51層	66	第95図	遺構外出土遺物26	161
第47図	貝層52～54層	67	第96図	遺構外出土遺物27	162
第48図	貝層55～57層	68	第97図	遺構外出土遺物28	163
第49図	貝層58～60層	69	第98図	遺構外出土遺物29	164

第 99 図	遺構外出土遺物30	165	第131図	遺構外出土遺物62	197
第100図	遺構外出土遺物31	166	第132図	遺構外出土遺物63	198
第101図	遺構外出土遺物32	167	第133図	遺構外出土遺物64	199
第102図	遺構外出土遺物33	168	第134図	遺構外出土遺物65	200
第103図	遺構外出土遺物34	169	第135図	遺構外出土遺物66	201
第104図	遺構外出土遺物35	170	第136図	遺構外出土遺物67	202
第105図	遺構外出土遺物36	171	第137図	遺構外出土遺物68	203
第106図	遺構外出土遺物37	172	第138図	遺構外出土遺物69	204
第107図	遺構外出土遺物38	173	第139図	遺構外出土遺物70	205
第108図	遺構外出土遺物39	174	第140図	遺構外出土遺物71	206
第109図	遺構外出土遺物40	175	第141図	遺構外出土遺物72	207
第110図	遺構外出土遺物41	176	第142図	遺構外出土遺物73	208
第111図	遺構外出土遺物42	177	第143図	遺構外出土遺物74	209
第112図	遺構外出土遺物43	178	第144図	遺構外出土遺物75	210
第113図	遺構外出土遺物44	179	第145図	遺構外出土遺物76	211
第114図	遺構外出土遺物45	180	第146図	遺構外出土遺物77	212
第115図	遺構外出土遺物46	181	第147図	遺構外出土遺物78	213
第116図	遺構外出土遺物47	182	第148図	遺構外出土遺物79	214
第117図	遺構外出土遺物48	183	第149図	遺構外出土遺物80	215
第118図	遺構外出土遺物49	184	第150図	遺構外出土遺物81	216
第119図	遺構外出土遺物50	185	第151図	遺構外出土遺物82	217
第120図	遺構外出土遺物51	186	第152図	遺構外出土遺物83	218
第121図	遺構外出土遺物52	187	第153図	遺構外出土遺物84	219
第122図	遺構外出土遺物53	188	第154図	遺構外出土遺物85	220
第123図	遺構外出土遺物54	189	第155図	遺構外出土遺物86	221
第124図	遺構外出土遺物55	190	第156図	遺構外出土遺物87	222
第125図	遺構外出土遺物56	191	第157図	遺構外出土遺物88	224
第126図	遺構外出土遺物57	192	第158図	縄文土器集成	315
第127図	遺構外出土遺物58	193	第159図	石器の分析	317
第128図	遺構外出土遺物59	194	第160図	貝類の分析 1	320
第129図	遺構外出土遺物60	195	第161図	貝類の分析 2	321
第130図	遺構外出土遺物61	196	第162図	各種動物の季節性	323

表 目 次

第1表	大船渡湾岸の貝塚	6	第11表	柱穴状土坑一覧	123
第2表	遺構名変更表	8	第12表	遺構外出土魚・獸骨一覧	224
第3表	遺構・貝層・包含層出土遺物一覧	22	第13表	縄文土器觀察表	225
第4表	1号住居跡柱穴一覧表	29	第14表	土製品觀察表	246
第5表	貝層觀察表	48	第15表	石器觀察表	247
第6表	貝層 縄文土器出土量(層序別)	73	第16表	石製品觀察表	261
第7表	貝層 石器出土点数(層序別)	85	第17表	骨角牙製品觀察表	262
第8表	貝層 骨角器出土点数(層序別)	90	第18表	須恵器觀察表	264
第9表	貝層 貝類出土量 出土点数(層序別)	98	第19表	錢貨觀察表	264
第10表	貝層 魚・獸骨出土量(層序別)	112			

写真図版目次

卷頭カラー写真図版1	調査区全景	写真図版43	縄文土器21	368
卷頭カラー写真図版2	貝層全景、貝層断面	写真図版44	縄文土器22・土製品2・須恵器・錢貨	
卷頭カラー写真図版3	貝層断面アッフ、貝層 遺物出土状況	写真図版45	石器1	369
卷頭カラー写真図版4	貝層 魚骨出土状況、貝層 腕辺縫骨出土状況	写真図版46	石器2	370
卷頭カラー写真図版5	石製品、貝製品	写真図版47	石器3・石製品1	371
卷頭カラー写真図版6	骨角牙製品、骨角牙製品(櫛)	写真図版48	石器4・石製品2	372
写真図版1	調査区全景	写真図版49	石器5	373
写真図版2	調査区全景	写真図版50	石器6	374
写真図版3	基本土層	写真図版51	石器7	375
写真図版4	1号住居跡	写真図版52	石器8	376
写真図版5	1～4号土坑	写真図版53	石器9	377
写真図版6	5～8号土坑	写真図版54	石器10	378
写真図版7	9号土坑・遺構外出土遺物	写真図版55	石器11	379
写真図版8	貝層1	写真図版56	石器12	380
写真図版9	貝層2	写真図版57	石器13	381
写真図版10	貝層3	写真図版58	石器14	382
写真図版11	貝層4	写真図版59	石器15	383
写真図版12	貝層5	写真図版60	石器16	384
写真図版13	貝層6	写真図版61	石器17	385
写真図版14	貝層7	写真図版62	石器18	386
写真図版15	貝層8	写真図版63	石器19	387
写真図版16	貝層9	写真図版64	石器20	388
写真図版17	貝層10	写真図版65	石器21	389
写真図版18	貝層11	写真図版66	石器22	390
写真図版19	貝層12	写真図版67	石器23	391
写真図版20	貝層13	写真図版68	石器24	392
写真図版21	貝層14	写真図版69	石器25	393
写真図版22	貝層15	写真図版70	石器26	394
写真図版23	縄文土器1	写真図版71	石器27	395
写真図版24	縄文土器2	写真図版72	石器28	396
写真図版25	縄文土器3	写真図版73	石器29	397
写真図版26	縄文土器4	写真図版74	石器30	398
写真図版27	縄文土器5	写真図版75	石器31	399
写真図版28	縄文土器6	写真図版76	石器32	400
写真図版29	縄文土器7	写真図版77	石器33	401
写真図版30	縄文土器8・土製品1	写真図版78	石器34	402
写真図版31	縄文土器9	写真図版79	石器35・石製品2	403
写真図版32	縄文土器10	写真図版80	骨角牙製品	404
写真図版33	縄文土器11	写真図版81	貝製品	405
写真図版34	縄文土器12	写真図版82	貝1	406
写真図版35	縄文土器13	写真図版83	貝2	407
写真図版36	縄文土器14	写真図版84	貝3	408
写真図版37	縄文土器15	写真図版85	貝4・骨(魚類1)	409
写真図版38	縄文土器16	写真図版86	骨(魚類2)	410
写真図版39	縄文土器17	写真図版87	骨(海棲・陸棲哺乳類1)	411
写真図版40	縄文土器18	写真図版88	骨(陸棲哺乳類2)	412
写真図版41	縄文土器19	写真図版89	骨(陸棲哺乳類3・鳥類・解体痕など)	413
写真図版42	縄文土器20			414

I 発掘調査に至る経過

内田貝塚は、まちづくり連携道路整備事業主要地方道大船渡広田陸前高田線船河原地区の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

主要地方道大船渡広田陸前高田線は一般国道45号と小細浦地区を結ぶ主要道路であるとともに、沿線にはJR大船渡線細浦駅が立地するなど当該地区的生活道路としても重要な路線である。本事業は、東日本大震災津波により、細浦地区的多数の家屋が流失するなどの甚大な被害が生じたことから、高台移転などと一体となり浸水区域を回避する延長2.2kmの2車線道路を整備するものであり、平成24年度に事業着手したものである。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成28年6月16日付け大土セ第329号により、沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター所長から岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課総括課長あてに試掘調査を依頼し、平成28年6月22日～24日に試掘調査を行い、平成28年7月12日付け教生第614号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成29年6月1日付けで公益財團法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することになった。

(岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター)

II 遺跡周辺の地理的環境

1 遺跡の位置・調査前の現況について

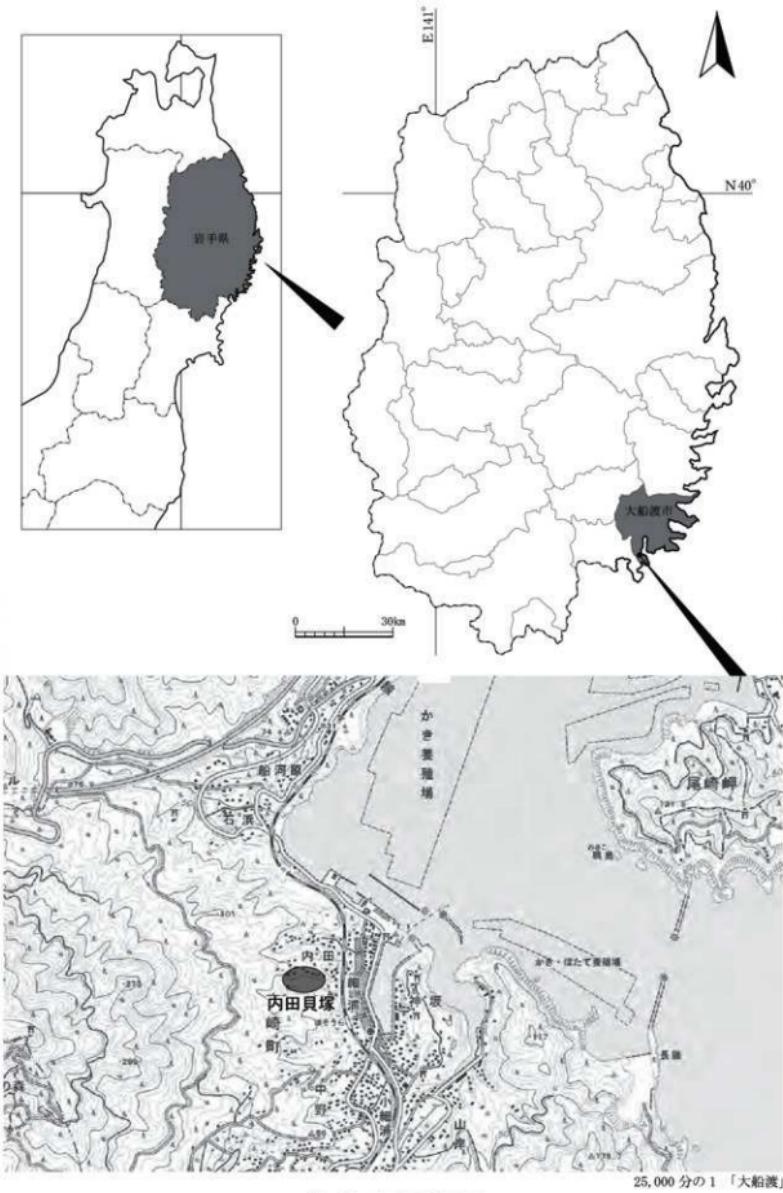
内田貝塚は大船渡市末崎町字内田54番地6ほかに所在し、大船渡湾から東へ約300mに位置する。座標では北緯39度01分05秒、東経141度42分38秒付近に相当し、国土地理院発行の5万万分の1地形図「盛」の図幅に含まれる。

今回、本遺跡は「まちづくり連携道路整備事業主要地方道大船渡広田陸前高田線」に伴い、発掘調査が実施されることとなった。調査前の現況は森林・荒地であったが、昭和初期ごろまでは畠地として利用されていた。

2 遺跡の立地

内田貝塚が面する大船渡湾はリアス式海岸で、湾奥にそそぐ盛川によって形成された溺れ谷でもある（昔は箭嶋入り江と呼ばれた）。湾内は屈曲したL字状を呈し、奥行き約6km、最大幅は約2kmを測り、水深は平均20mである。湾口は湾の東南東側に開いているが、幅は約720mと狭く、そのため湾内は閉鎖性水域（内海）である。この点は縄文時代において、海産物の採集に大きな影響があったと推測され、次章に記すが、大船渡湾岸には16箇所の貝塚遺跡が分布する。

内田貝塚は大船渡湾西岸の南側に位置する。大船渡湾西岸には、湾に平行して、北から水上山（874m）、飛定地山（550m）、箱根山（447m）が連り、内田貝塚は箱根山から続く丘陵の斜面地に立地する。標高は45～36m前後で、比較的急な斜面地である。なお本遺跡は大船渡湾まで約300mしか離れていないが、湾から100mは海岸（現細浦漁港）であり、海までの距離は実質200m程度である。



第1図 内田貝塚位置図

III 遺跡周辺の歴史的環境

1 大船渡市の遺跡

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課で作成した「岩手県遺跡情報検索システム」(平成29年3月31日現在)によると、大船渡市内には216箇所の遺跡が登録されており、時代ごとに概観してみても縄文時代早期から近世に至る各時代の遺跡が確認されている。

なかでも縄文時代の遺跡は多く、100遺跡を越えている。近年では旧三陸町の田代遺跡や中野遺跡、また中村遺跡において、縄文時代中期の竪穴住居跡がそれぞれ数十棟見つかっており、市内にも大規模な縄文集落が点在していることが判明してきた。

また大船渡湾岸に多くの貝塚遺跡が分布することは、古くから知られており、なかには国指定史跡である納ノ浦貝塚や下船渡貝塚、大洞貝塚など著名な遺跡が存在する。

2 大船渡湾周辺の貝塚遺跡と内田貝塚

気仙地方沿岸（大船渡市・陸前高田市・宮城県気仙沼市）では、貝塚遺跡が集中的に分布しており、大船渡湾岸でも、湾奥から湾口近くまで16箇所の貝塚遺跡が確認されている（第2図、第1表）。

時期の内訳は縄文時代前期が5遺跡、中期は4遺跡、後期は6遺跡、晩期は7遺跡である（時期が重複する遺跡もある）。

以下、過去の発掘調査成果から、各遺跡の特徴を概観する。

長谷堂貝塚（1）は、もっとも北側の湾奥から2.7kmに位置し、盛川の東岸に形成された河岸段丘上に立地する。平成29年度までに17回の発掘調査が行われており、縄文時代中期から弥生時代の遺構・遺物が見つかっている。貝層は中期に比定されると想定され、アサリを中心とした貝類やシカ・イノシシなどの獸骨、サケなどの魚骨が出土している。特筆すべき点として平成29年度調査で貝層下位から10頃分前後のイヌの集骨を検出している。

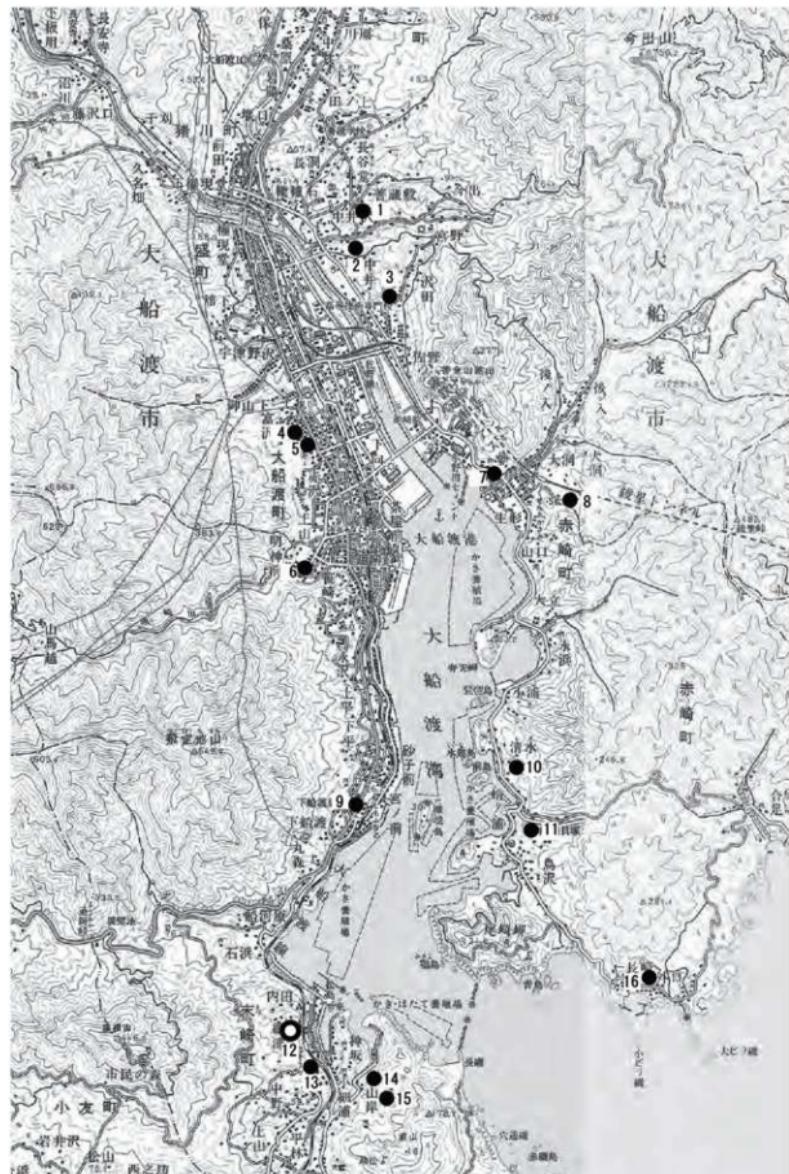
大洞貝塚（8）は、湾奥の東岸に位置し、やや海から離れた標高30m前後の丘陵に立地する。大正時代、東北帝国大学医学部の発掘調査で出土した縄文時代晩期の土器群が「大洞式土器」として提唱され、その標識遺跡となった。晩期の貝層が緩斜面地の4か所で確認されており、昭和30年代、慶應義塾大学によって、また平成6～11年には大船渡市教育委員会によって調査され、貝・骨類や骨角器類を豊富に含む良好な貝層であることが判明した。特に「B地点」と呼ばれる貝層では、多量の動植物遺存体が出土しており、貝類はアサリを中心として81種類、骨類はシカやイノシシなど17種類、魚骨はサバ・マグロ・サケなど26種類が同定されている。骨角牙製品では鹿角製の釣針・ヤス・銛、また装飾付きの鹿角製刺突具が出土し、他に装身具が多く見つかっている。

下船渡貝塚（9）は、湾口からわずかに奥に入る西岸に位置し、標高20m前後の丘陵に立地する。昭和36年、慶應義塾大学と岩手大学により発掘調査が行われ、縄文時代後期、晩期の貝塚遺跡であることが判明した。貝層からはアサリを中心とした貝類、シカ・イノシシ・ガン・カモなどの獸骨、またマグロ・イルカ・スズキ・サバなどの魚骨が出土している。他に墓壙が見つかっており、屈葬や抱石された人骨が埋葬されていた。また特筆すべき点として犬が墓壙から出土している（埋葬された？）。骨角牙製品では鹿角製の腰飾りが見つかっている。

清水貝塚（10）は大船渡湾東岸に位置し、湾に張り出した標高は20～25mの丘陵末端斜面地に立地する。1952年に慶應大学江坂輝弥氏により、また1955年には西村正衛・菊池義次・金子浩昌氏により発掘調査が行われた。貝層からは前期前葉から中期後葉までの縄文土器が出土しているが、出土量から大木4式期と大木7a式期が貝層の時期と推測される。出土した貝類はアサリが多く、出土した貝類の半数を占める。これにスガイ、レイシ、イガイが次ぎ、また少量ながらイボニシ、イシダタミ、コシダカガンガラ、オオノガイが出土している。魚骨ではマグロ、マダイが多く、少ないがカツオ、イワシ、サバ、ブリ、マアジも見つかっている。獸骨は全体的に少なく、イノシシ、シカ、イヌがみつかり、またイルカも出土している。骨角牙製品は主に大木4式土器に共伴し釣針や骨針などが出土しているが、出土量は少ない。この点について、1958年の報告書では特にマグロなどの大型回遊魚は湾内への追い込み漁などの漁撈であった可能性が推測され、また刺突具が出土しないことから、骨角牙製品以外の刺突具（例えば石器）があった可能性が示唆されている。他に貝層したから屈葬位の人骨が出土しており、層位から前期初頭と推測されている。清水貝塚は、内田貝塚とは湾を挟んだ対岸に位置し、また貝層の時期も大木4式期でほぼ同時期といえる。そして本報告でみていくが、内田貝塚から出土した貝類や魚・獸骨とは共通点多い。

蛸ノ浦貝塚（11）も湾口東岸に位置し、清水貝塚に隣接する。標高30m前後の丘陵に立地する。昭和32年、早稲田大学により発掘調査が行われ、縄文時代前期、中期の貝塚遺跡であることが判明した。貝層の厚さは2mを超えており、県内最大級の貝層であると考えられている。貝層からは多量の貝類が出土しているが、スガイやイガイなどの岩礁性の貝とアサリなどの砂底に生息する貝が両方とも多く見受けられるのが特徴である。また骨類ではマグロの骨が多いのが特徴で、マグロの骨のみが堆積する層も見受けられた。骨角牙製品は鹿角製の釣針やヘラが主に貝層から出土している。また刺突文や刻文を施した装飾品も見受けられる。

以上のように大船渡湾岸の貝塚遺跡は古くから調査事例が豊富である。そのなかで前期中葉と後晩期の貝塚に関しては、その内容がある程度把握されている遺跡が少なくない。そして両者には出土する貝類や動物遺存体、骨角牙製品に差異が見受けられる。この点を踏まえ、次章以降、内田貝塚の調査成果を見ていくこととする。



第2図 大船渡湾周辺の貝塚
「盛」・「綾里」(50,000分の1)に加筆

第1表 大船渡海岸の貝塚

番号	遺跡名	所在地	貝層の時期	貝層の立地標高	貝層の規模	人工遺物	自然遺物	文献
1	長谷堂貝塚	大船渡市猪川町字長谷堂はか	中期後葉 ～末葉	丘陵 25～30m	10× 10m・10 ×30m	土器(中期・後期・ 晩期・弥生)石器	貝(アサリ・ウニ・マガキ) 骨(シカ・イノシシ・イヌなど)	
2	中井貝塚	大船渡市赤崎町字中井	後期～晩期 (詳細は不明)	丘陵 30～40m	不明	土器	不明	金野1991
3	沢田貝塚	大船渡市赤崎町字沢田	前期～中期 (詳細は不明)	丘陵 20～30m	5×5m	土器	貝(アサリ)	金野1991
4	富沢貝塚I	大船渡市大船渡町字地ノ森富沢	晩期	河岸段丘 10m	不明	土器(晩期) 石器 骨角牙製品(鈴・ヤス)	貝(アサリ・ウチムラサキ・ マガキ・アカニシ) 骨(ニホンジカ・イノシシなど)	金野1991
5	富沢貝塚II	大船渡市大船渡町字明神前	晩期					
6	田中貝塚	大船渡市大船渡町字明神前	後期		不明	石器	不明	大船渡市立博物館 1991
7	生形貝塚	大船渡市赤崎町字生形	前期～後期		不明	不明	不明	
8	大洞貝塚	大船渡市赤崎町字大洞	晩期	段丘上 15～25m	25×30m; 15×20m; 15×25m; 10×20m	土器(中期・後期・ 晩期) 石器 骨角牙製品(釣針・ 鉗・彌形角製品・イ ノシシ牙・垂角品な ど)	貝(アサリ・ホタテ・ウチ ムラサキ・オニアサリ) 骨(マグロ・マダイ・ス スキ・シカ・イノシシ・ タヌキ・キツネ・ニホン オオカミ)	大船渡市 教育委員会2000
9	下船渡貝塚	大船渡市大船渡町字宮ノ前	晩期	丘陵20m	60× 150m・20 ×35m	土器(晩期・弥生) 石器	貝(アカニシ・レイシ・ アサリ・ホタテ) 骨(マグロ・マダイ・イ ルカ・イノシシ)	
10	清水貝塚	大船渡市赤崎町字清水	前期	段丘上 40m	0.5× 0.5m	土器(前期・中期) 石器 骨角牙製品(釣針・ 骨ヘラ・角ヘラ・骨 針・貝輪など)	貝類(ヒメエゾボラ・ミ ガキボラ・アカニシ・レ イシ・イボニシ・ツメタ ガイ・エゾマグロ・イ ミニナ・タマキビ・フジ ツボ類・カニ・ウニ類) 骨(サメ類・マイワシ・ マグロ・カツオ・ブリ・ マダイ・スキ・ガンカ モ科・イシシ・ニホン ジカ・イカ・クジラ)	岩手県愛 護協会 1976など
11	蛸ノ浦貝塚	大船渡市赤崎町蛸ノ浦	前期	段丘上 40m	150× 100m	土器(前期・中期) 石器 骨角牙製品(釣針・ 骨ヘラ)	貝(スガイ・ウミニナ・ タマキビ・サザエ・チ ヂミボラ・レイシ・アカ ニシ・ホタテ・ウチムラ サキ・アサリ・オニアサ リ・カガミガイ) 骨(マグロ・シカ・イノ シシ)	
12	内田貝塚					本 報 告		
13	細浦上ノ山 貝塚	大船渡市末崎町字細浦	中期～晩期	丘陵 15～30m	15×15m	土器(中期～晩期) 石器 骨角牙製品(釣針・ 叉状角器・骨針・鱗 骨製骨器・骨匙)	貝(マガキ・アワビ・ウ チムラサキ・アサリ・ヒ メシラトリ・ミガキボラ・ チヂミボラ・ヒレガイ・ ウミニナ・ツメタガイ・ エゾタマガキ) 骨(シカ・イノシシ)	
14	鬼沢(山 岸)貝塚	大船渡市末崎町字山岸	後期	丘陵 30～50m	10×10m	土器(後期) 貝輪	貝(アサリ・シジミ) 鹿角	金野1991
15	小細浦貝塚	大船渡市末崎町字小細浦	後期		不明	不明	不明	
16	長崎貝塚	大船渡市赤崎町字長崎	晩期	台地40m	不明	土器(晩期)	不明	金野1991

※岩手県教育委員会2000を基本にし、右上参考文献も含め加筆し作成

IV 調査の経過と方法

1 野外調査について

本調査に先立ち、平成28年、岩手県教育委員会により試掘調査が実施され、委託者との協議を経て調査区が設定されている。

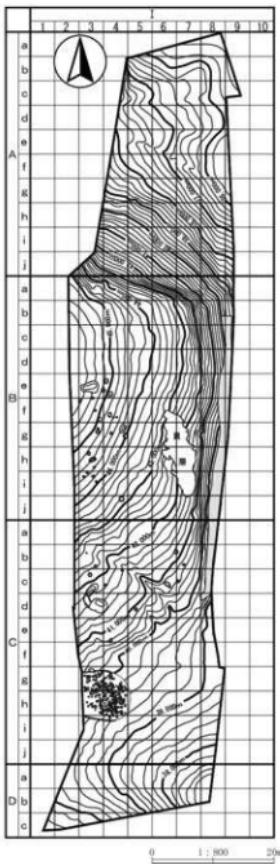
平成29年6月1日（木）より調査を開始した。調査員3名、野外作業員17名体制でスタートし、以降、野外作業員を若干、増員しながら調査を行った。

調査区の地形が比較的急な斜面地であり、また調査区は住宅地に囲まれているため、調査開始時から排土置き場に苦慮した。調査区の隣接地に排土置き場はなく、また、大型トラック等が往来することができないため、調査区外に排土を運搬することも不可能であった。そこで、まず調査区の北側半分を調査し、その際の排土は未調査の調査区南側に仮置きすることにした。8月7日（月）に北側半分の調査が終了し、部分終了確認を受けた。その後、調査区南側に仮置きした排土および表土を終了した調査区北側に運搬し、南側の調査を行った。

調査に関しては重機（バックホー0.45m³、キャリアダンプ6t）を用いて表土除去を行い、その後、人力による遺構検出作業から行った。検出した遺構は、規模や性格により、適宜に4分法と2分法を選択し、精査を行った。各遺構については平面と断面、また必要に応じ遺物出土状況の実測および、写真撮影を行った。遺構図の実測には、調査期間の短縮を考慮に入れ、デジタルカメラ（OLYMPUS ToughTG-4）を用いた写真解析測量を活用した（撮影は調査員が行い、解析作業および図化作業を（株）リッケイに委託した）。他に調査範囲の地形測量などにはCUBIC社製遺構実測ソフト「遺構くん」と光波トランシットを用いている。遺構外から出土した遺物の取り上げについては4m四方を基準として取り上げグリッドを設定し、取り上げを行った（グリッド位置については第3図参照）。

6月中旬、調査区の中央から東側において、検出面で破碎貝の広がりを確認し、貝層と判断した。貝層の調査方法については、7月6日に金野良一氏から指導を受け、堆積層ごとの広がりと隣接する堆積層どうしの新旧関係を確認し、そして堆積層ごとに層全体の土壤を全て採集した（『悉皆採集法』）。そのため、貝層全体はそれほど大きくなかったが、調査員1名、作業員4～5名が毎日付きっきりで作業を行っても、7月上旬から9月末の3ヶ月を費やした。

写真撮影は主に、デジタルカメラ1台（キャノンEOS 6D）



第3図 グリッド図

と35mmカメラ1台（モノクローム）を使用し、同アングルのデジタル写真・銀塩写真両方撮影している。また8月10日にラジコンヘリ機を用いて、上空から遺跡全景の写真撮影を行った（株式会社 リッケイに委託）。

平成29年8月5日（土）現地説明会を開催し、調査成果を町民、地元住民に説明した。約75名の参加があった。

平成29年9月22日（金）に委託者、県教育委員会の立ち会いの下、調査区南側半分について、終了確認を受けた。これをもって本遺跡の調査終了が決定し、以降、残務を片付けつつ、9月29日（金）に全て終了し、撤収した。

2 室内整理について

平成29年11月1日から平成30年3月31日の期間に室内整理作業を行った。調査員2名、室内作業員8名体制である。

調査員は、原稿執筆、遺物観察表作成、実測図の点検・修正・遺構・遺物図版の割付、および貝層から出土した動物遺存体の整理作業を行った。室内作業員は土器、石器などについては遺物水洗から始め、注記、仕分け、遺物実測・拓本、実測図トレース、および貝層から出土した動物遺存体の整理作業を分担した。なお複雑な形態や文様をもつ縄文土器23点および骨角器5点については従来の方法で実測するのではなく、（株）ラングに委託し、PEAKIT図を作成した。なお縄文土器23点については当センターで断面図を実測し、トレースした断面図をPEAKIT図と合成し、本報告書に掲載している。

遺物の写真撮影は当センターの写真技師と調査担当者（須原）が撮影を行った。撮影にはデジタルカメラ（キャノンEOS 6D・オリンパスOM-D EM10Mark II）を用いている。

遺構図面の整理、および遺構・遺物図版、写真図版の作成は、（株）リッケイに業務委託した。遺構図面については野外調査時に作成した図面を調査員の指示のもとに、第2原図を作成し、それから遺構図版作成を行った。遺物図版については室内整理作業員が作成した拓本および実測トレース図をスキャンし、調査員の指示のもと、図版作成を行っている。写真図版も同様である。各図版の作成にはAdobe社「IllustratorCS 6」を使用し、デジタルにて図版を作成した。

なお本報告書作成にあたり、各遺構名を野外調査時から変更した。本報告書に記された遺構名を優先する。遺構名の変更については第2表の通りである。

第2表 遺構名変更表

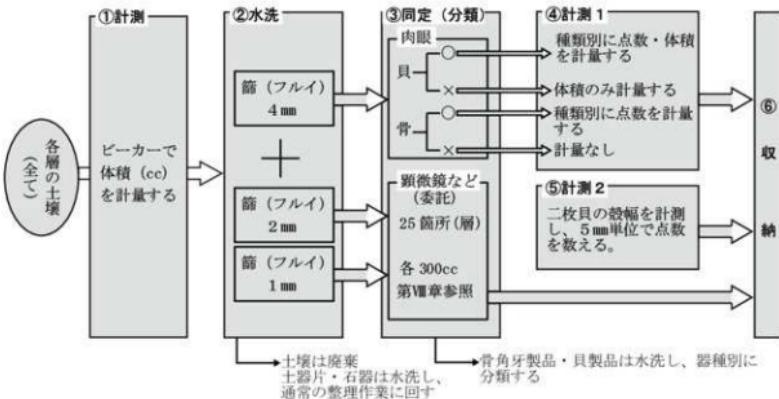
新遺構名	旧遺構名	時代	新遺構名	旧遺構名	時代
1号住居跡	S I01	縄文時代前期末葉～中期初頭	6号土坑	S K06	縄文時代前期中葉
1号土坑	S K01	縄文時代前期中葉	7号土坑	S K07	縄文時代前期中葉
2号土坑	S K02	縄文時代前期中葉	8号土坑	S K08	縄文時代前期中葉
3号土坑	S K03	縄文時代前期中葉	9号土坑	S K09	縄文時代前期中葉
4号土坑	S K04	縄文時代前期中葉			
5号土坑	S K05	縄文時代前期中葉	貝層○層	貝層範囲○層	縄文時代前期中葉

3 貝層から出土した動物遺存体の整理について

貝層の調査では、堆積層の土壤をすべて採集し、当センターへ持ち帰った。そして、以下の手順で整理作業を進めた。

- ① 土壌の体積(cc)を計量し、層毎に集計した。計量には市販のピーカーを用いた。
 - ② 貝層の土壌を水洗し、4mmの篩と2mmの篩の両方を用いながら、人工遺物（繩文土器・石器・骨角牙製品・貝製品）と動物遺存体を選別した。また一部であるが2mmの篩の代わりに1mmの篩を用いた。
 - ③ 4mm篩で選別した貝類は、奥谷2006などを参考にしつつ、種類別に分類した。4mm篩で選別した骨類は佐々木本務氏による同定作業を依頼し、その結果を基に一部須原が同定した。
2mmないし1mmの篩で選別した動物遺存体も分かるものは同定したが、細かく、肉眼での同定が難しいもの、25箇所（層）について、各300cc分の土壌を対象に同定分析を委託した。結果については第Ⅷ章－5に記した。
 - ④ ③で種類ごとに仕分けした貝類については、体積(cc)と点数を計量した。
 - ⑤ 仕分けした貝類のうち二枚貝については、殻幅が残存するものは計量(mm)した。
 - ⑥ 仕分け・計量した動物遺存体は層毎にまとめ、種類別に袋詰めし、収納した。

動物遺存体は各種類の代表的なものを標本としてまとめ、掲載遺物と共に収納した。



第4図 貝層の整理作業について

V 出土遺物の分類

1 繩文土器、土製品

縩文土器・土製品

大コンテナ32箱分の縩文土器、土製品が出土している。貝層と遺構外から出土するものが主体だが、ほとんどが破片である。時期は前期前葉から中期末葉であり、特に前期中葉から後葉、また前期末葉から中期初頭に比定される縩文土器が多い。

出土した縩文土器については、早瀬・菅野・須藤2006、早瀬2008、相原1990などを参考に、主に文様をメルクマールとして各土器型式に分類した。各土器型式の分類基準は以下の通りである（第5・6図）。

大木2a式：胎土に纖維を含む。口縁部に横位の結節回転文が巡る。細い隆帯が付くものもある。

大木2b式：胎土にわずかに纖維を含む。口縁部から胴部上半にかけ多段化した横位のS字状連鎖沈文が巡る。また口縁部には押圧文や刻みの施された隆帯が付くものもある。

大木3式：単節縩文を地文とし、主に口縁部に沈線による円文、半裁竹管状工具を用いた平行沈線による山形状文やクランク状文、刻みを加えた貼付隆帯が施文される。

大木4式：単節縩文を地文とし、細い貼付隆帯による波状文や、格子状文、曲線状文などが施文される。また口縁部に幅広の隆帯で方形などの意匠を描いた文様が付くものや、円形の突起が付くものもある。

大木5a式：単節縩文や単軸絡条件第1類を地文とし、口縁部から胴部へと鋸歯状の沈線を連続される。口唇部や口縁部に鋸歯状あるいは波状を呈した隆帯が付き、隆帯には押圧文が連続する。他に地文のみで、口唇部に押圧文が巡るものもある。

大木5b式：単節縩文を地文とし、口縁部から胴部にかけて細い貼付隆帯による鋸歯状文が連続して施文される。また格子状文や円文が付くものもある。

大木6式：深鉢と浅鉢がある。深鉢の器形は、本遺跡ではほとんどが破片で判断できないものが多いが、長胴形と球胴形が見受けられる。口縁部には幅広の隆帯が付き、沈線が斜行・波状に施文される。また半裁竹管状工具による平行沈線で鋸歯状の文様を描くものもある。頭部は隆帯や沈線が巡る。胴部は斜行縩文を地文とし、加えて沈線や隆帯が付く。

大木7a式：深鉢の器形は長胴形と球胴形が見受けられる。口縁部には沈線や隆帯で文様が描かれる。古段階 沈線は大木6式よりも細い。橋状突起（把手）や円文が付くものも多い。頭部には隆帯や沈線が巡る。胴部は単節縩文が地文となるものが多く、少ないが結束羽状縩文も見受けられる。

大木7a式：単節縩文を地文とし、口縁部から胴部にかけて主に隆帯で文様が施文される。刻みを施す新段階 した隆帯が胴部を巡るものが多い。

大木8a式：深鉢はキャリバー形が多く、口縁部に沈線や隆帯による曲線状の文様が描かれる。

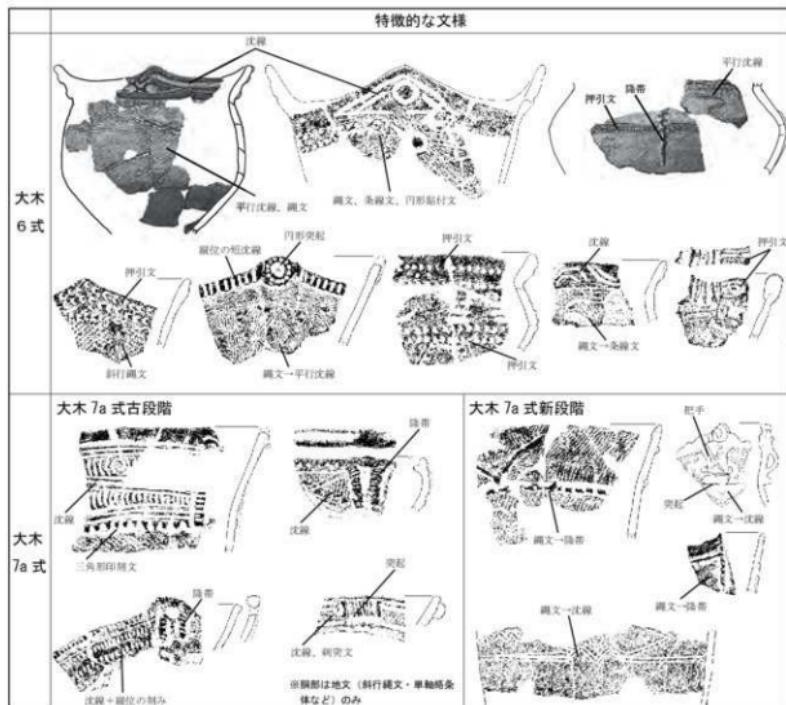
大木10式：口縁部から胴部にかけ、沈線による曲線状区画文が描かれ、区画内に充填縩文が施文される。

円盤状土製品：円形を呈する。土器片を転用し、縁辺（側縁）を研磨によって整形されている。

粘土塊：形態が不整形で厚みがある。また指頭により整形した痕跡があるもの。

		特徴的な文様					
大木 2a式	大木 2a式	大木 2a式			大木 2b式		
	大木 2b式	結節回転文	結節回転文、隆帯		平行沈線、S字状連鎖沈文	平行沈線、S字状連鎖沈文	隆帯 (+押圧文)、S字状連鎖沈文
大木 3式	押引文	繩文、隆帯 (+押圧文)		隆帯 (+押圧文)、S字状連鎖沈文	隆帯 (+円形刺突文)、円形刺突文		
	平行沈線による山形状文	平行沈線によるクランク状文	沈線による円文	縦位の短沈線 (爪形文)、沈線による波状文	刻みを加えた貼付隆帯		
大木 4式	貼付隆帯 (押圧文)	貼付隆帯 (波状文)	貼付隆帯 (波状文)	貼付隆帯 (波状文)	貼付隆帯 (波状文+曲線状文)		
	貼付隆帯 (梯子状文)	貼付隆帯+太い隆帯	太い隆帯+突起	円形突起 (刺突文充填)	沈線 (曲線状文)		
大木 5a式	円形突起 (刺突文) + 繩文→沈線 (繩目状文)		隆帯 (刺突文) + 繩文→沈線 (锯歯状文)	貼付隆帯 (曲線状文)	貼付隆帯 (山形状文)	貼付隆帯 (山形状文)	貼付隆帯 (山形状文)
	隆帯 (沈線文を加える)	隆帯 (押圧文を加える)		貼付隆帯 (連續する锯歯状文)			

第5図 繩文土器分類図1



第6図 綿文土器分類図2

2 石器・石製品

大コンテナ約31箱分の石器・石製品が出土している。石器の器種は石鏃・石鏃失敗品・尖頭器・石錐・石匙・楔形石器・不定形石器・ユーズドフレイク・リタッチドフレイク・磨製石斧・礫器・敲磨器類・特殊磨石・石皿・台石・石核・石核状石器・フレイク・チップである。石製品は石棒・抉狀耳飾り・玉類・輕石製品が出土している。

石器の器種分類については鈴木1991を、また石製品の分類については日本考古学協会2016を参考にした。さらに点数が多い器種は形態の特徴などから細分した。各器種の特徴と細分類の内容について記す。

石鐵

長さ5cm以下の扁平な二等辺三角形に整形し、鋭角な先端部が作り出される。形態から3分類した。また形態や二次加工の状態から製作途中に廃棄されたと考えられるものは石鎚失敗品とした(第7図上)。

I類：凹基無茎鍶（基部がやや丸みをもつものも含む）

II類：平基無茎鍶（基部がわざかに窪むものも含む）

III類：平基有茎鍶・凸基有茎鍶（菱形）

楔形石器

形態は方形基調で、上下方向、もしくは上下左右方向に打撃による階段状剥離が連続するもの。打撃の方向（階段状剥離の位置）から2分類した（第7図上）。

I類：上下方向のみ。 II類：上下左右方向にみられるもの。

尖頭器

長さ10cm以上で二次加工により両端を鋭利に作り出し、棒状に整形しているもの。形態から2分類した（第7図上）。

I類：両端が鋭利な棒状、木の葉状を呈するもの。

II類：棒状で一端は鋭利で、もう一端は石匙のような摘み部が作出される。所謂「押出型ポイント」（山形県教委1990）である。

石錐

二次加工により錐状の端部が作出されるもの。形態から以下のように2分類した（第7図上）。

I類：摘み部を有し、錐部が長いもの。

II類：摘み部が不明瞭で、端部に錐部を作出するもの。

石匙

二次加工により幅広の刃部が作出され、端部に突出した摘み部が付くもの。刃部の向きで3分類した（第7図中央）。

I類：刃部が縦方向に付くもの。

II類：刃部が横方向に付くもの。

III類：刃部が斜方向に付くもの。

不定形石器

定形化した形態をもたず、概ね扁平。縁辺部の1/2以上に刃部を作出している。刃部角度や刃部の形状から4分類した（第7図中央）。

I類：刃部の角度が60°以下のもの。所謂、「削器」を含む。

II類：刃部の角度が60°未満のもの。所謂、「搔器」を含む。

III類：刃部作出の二次加工が、I・II類よりも粗い、または不連続であるもの。

IV類：片面のほぼ全面に自然面を残すフレイクを素材とし、もう片面には縁辺のほぼ全周に刃部が作出される。所謂「力持型スクレイパー」（岩埋文第510集 2008）である。

ユーズドフレイク（以降、Uフレイク／UFと表記）

フレイクの中で、縁辺に微細剥離が連続するものや二次加工が縁辺に施されても1/2以下しか連続しないものを、不定形石器や後述するフレイクとも区別し、Uフレイクとした（第7図下）。細分はしていないが、観察表には、素材となるフレイクの分類（後述）を記した。

リタッチドフレイク（以降、Rフレイク／RFと表記）

フレイクの中で、最終剥離面において刃部作出とは考えられない二次加工が施されているものを、後述するフレイクとは区別し、Rフレイクとした（第7図下）。細分はしていないが、観察表には、素材となるフレイクの分類（後述）を記した。

磨製石斧

平面形が撥形、長方形を呈し、剥離や敲打によって整形された後、研磨を施して仕上げられた石斧を磨製石斧とした。敲打痕が全面に見受けられるものは製作途中に廃棄された未成品とした（第8図中央）。

礫器

礫または大形の剥片を素材とし、周辺の一部に大きな剥離を連続的に加え、刃部としたものを礫器として一括した。形態と刃部の加工で4細分した（第8図上）。

I a類：礫を素材とし、片面のみ二次加工を施し、刃部を作出する。

I b類：礫を素材とし、両面から二次加工を施し、刃部を作出する。

II a類：大型の剥片（フレイク）を素材とし、片面のみ二次加工を施し、刃部を作出する。

II b類：大型の剥片（フレイク）を素材とし、両面から二次加工を施し、刃部を作出する。

敲磨器類

長辺あるいは径が10cm以下で、使用痕（磨痕、敲打痕、凹痕）が確認できた礫石器。所謂「磨石」、「凹石」、「敲石」であるが、使用痕が複数種確認できるものもあり、また形態や大きさも一様ではない。上記の器種に特定できないものが多く、したがって、これらを敲磨器類として一括した。使用痕の種類や組み合わせなどで8分類した（第8図中央）。

特殊磨石

扁平な楕円形の礫を素材とし、その一辺を剥離し（打撃を加え）た上で、磨った痕跡が見受けられる礫石器（第8図中央）。形態に一定の規格性がみられるので、敲磨器類とは区分した。

石皿

偏平で長辺、短辺ともに10cm以上の大型の礫石器（第8図下）。正裏面で磨痕、凹痕などの使用痕跡が確認できた。形態から2分類した。

I類：扁平な自然礫を素材とし、縁辺を加工せずに扁平面を使用するもの。

II類：方形を呈し、また端部を縁状に残したり、脚が見受けられるなど整形を施したもの。

なお、破片資料の中には使用痕とは異なる擦痕や研溝が見受けられるものがあった。これらは石皿の欠損品を砥石に二次利用しているものと推測する。形態の特徴から、石皿に含めている。

台石

長辺、または径が10cm以上の大型の礫石器。石皿よりも厚みがあり、偏平ではない。主に片面に敲打痕や磨痕などの使用痕跡が確認できる。形態から2分類した（第8図下）。

I類：球状や厚みのある楕円形を呈するもの。

II類：棒状、または角柱状を呈するもの。

砥石

形態は一定ではないが、表面に研磨痕と推定される細かい線状の削痕や細い溝状の削痕（研溝）が見受けられるものを砥石とした（第9図上）。前述の通り、石皿の欠損品を二次利用しているものもある。細分はしていないが、重みがあり、大きさも5cm大以上を有するものは置いて使用したもの（置き砥石）と考え、また大きさ5cm以下で片手に収まる程度のものは手でもって使用したもの（手持ち砥石）ではないかと推測する。

石核

剥片剥離作業で、フレイク（剥片）を剥がし、残った原石。また定型的な石器ではなく、かつフレイクとするには厚みがあるものも石核とした（第9図中央）。

剥離作業の方向など、いくつか種類があるが、今回出土したものでは細分はしていない。

石核状石器（礫器や敲磨器類Ⅱ類の一一種か）

こぶし大の礫を素材とし、ほぼ全周を剥離している。ただしフレイクを排出するための「剥離作業」によるものとは考えられない。一部には階段状剥離が見受けられ、剥離作業ではなく、石器そのものに打撃を加えた可能性がある。後述するが、本遺跡ではこの石器が多量に出土している。上記の石核とは機能・用途が異なる可能性が高い（礫器や敲磨器類Ⅱ類のように、敲いて使用する石器か）。便宜的だが、石核とは分けて「石核状石器」とした（第9図中央）。頁岩などの硬質な石材が素材である。

フレイク

上記の分類項目全てからはずれた剥片石器。打面と背面の形状から9分類（I a～III c類）し、また打面・背面が分からぬフレイクを4分類（IV a～IV d類）した（第9図下）。

チップ

フレイクのなかで、1cm四方に満たないものを、便宜的ではあるが「チップ」とした。細分はしていない。

石製品

石棒

長さ10cm以上の棒状を呈する磨製石器で、断面形は円形を呈するもの。

玉類

円形に整形し、穿孔されるもの。

軽石製品

軽石・安山岩を素材とし、板状、あるいは球状に整形したもの。

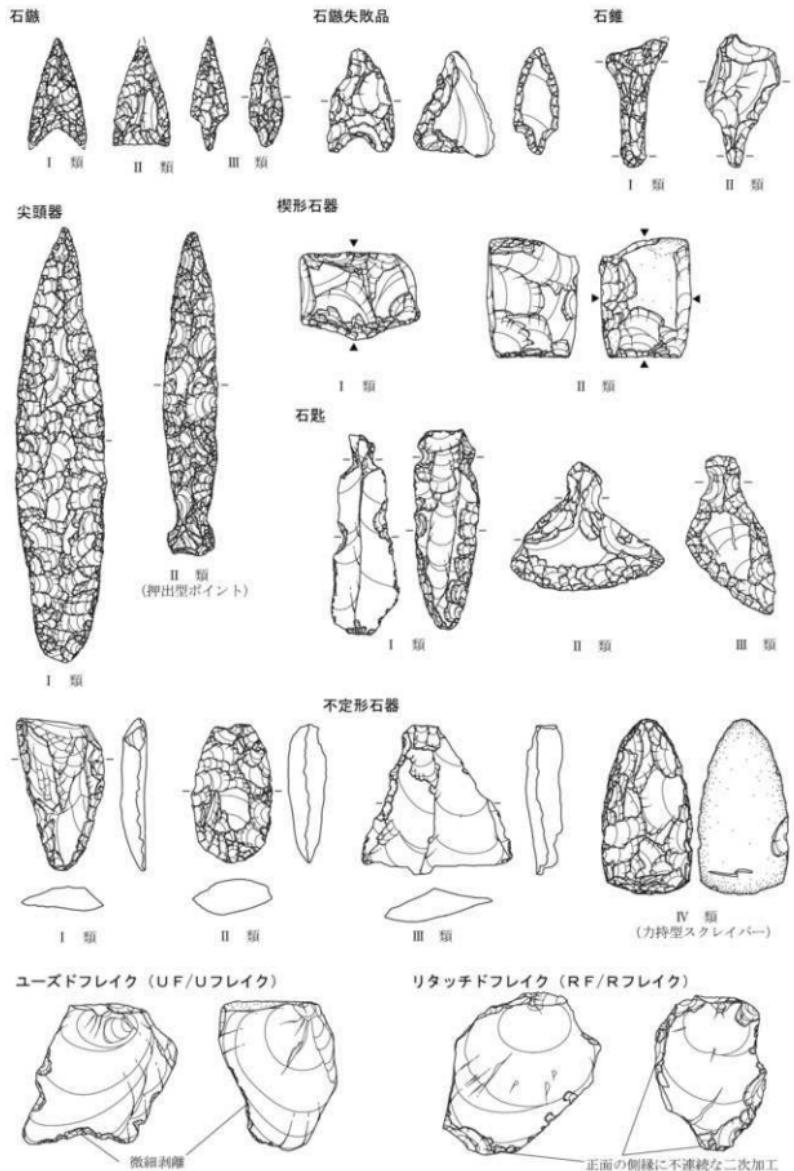
円盤形石製品

側面を打ち欠きや敲打し、径4～6cmの偏平な円形に整形された石製品。出土点数が少ないので細分していないが、側面の整形方法で幾つかに分けられる。

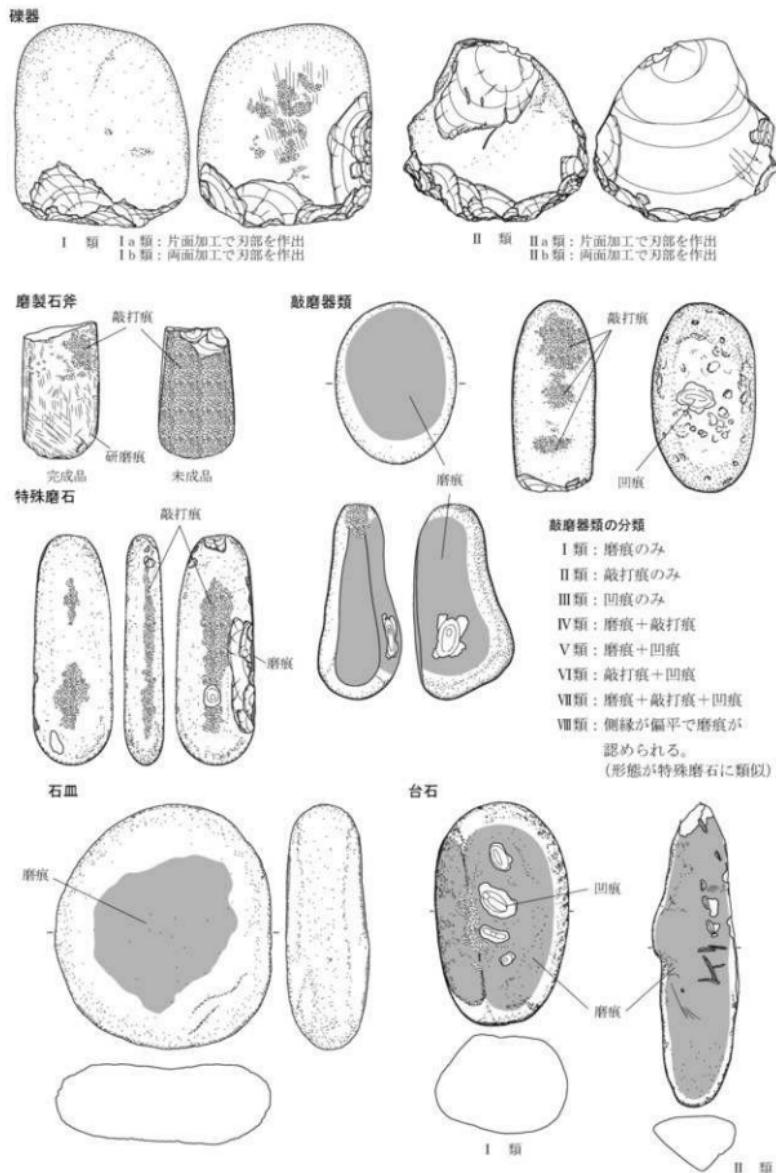
3 その他の遺物（骨角牙製品・貝製品・錢貨）

貝層から骨角牙製品29点、貝製品29点が出土している。骨角牙製品は鎌田1994などを参考にして、釣針、骨針、刺突具、箆、鹿角製・牙製垂飾品、櫛、列点文装飾品に分類した。貝製品は貝輪、管状装飾品、タカラガイ製品に分類した。いずれも詳細は第VII章-1（3）に記している。

他に古代以降の遺物で、須恵器と錢貨が出土している。須恵器は小片で、時期など詳細は不明である。錢貨は「日本出土錢總覧」（兵庫埋蔵錢調査会1996）を参照し、種類を特定した。なお觀察表の記載も上記の参考文献を基に作成している。

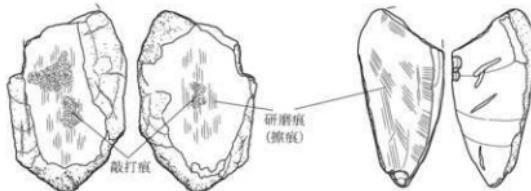


第7図 石器分類図1

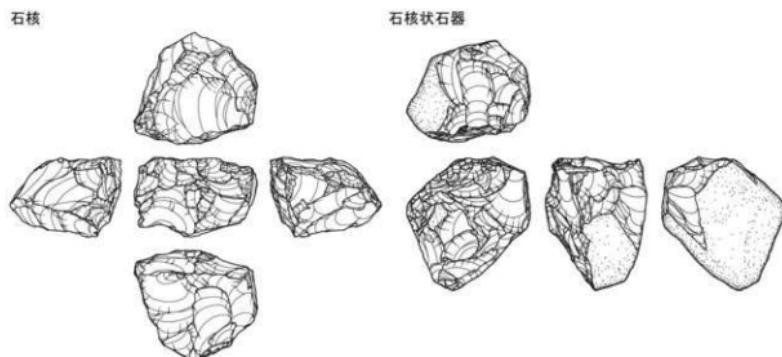


第8図 石器分類図2

砥石

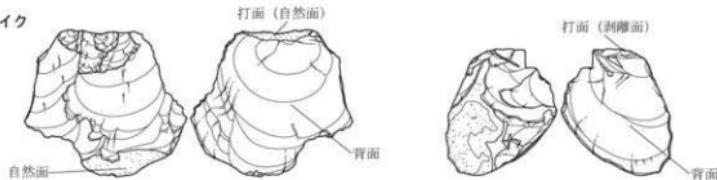


石核



石核状石器

フレイク



フレイクの分類

- I a 類：自然面を打面とし、背面もすべて自然面であるフレイク
- I b 類：自然面を打面とし、背面の一部に自然面が残るフレイク
- I c 類：自然面を打面とし、背面はすべて剥離し、自然面が残らないフレイク
- II a 類：一回剥離作業を行った面を打面とし、背面はすべて自然面であるフレイク
- II b 類：一回剥離作業を行った面を打面とし、背面の一部に自然面が残るフレイク
- II c 類：一回剥離作業を行った面を打面とし、背面はすべて剥離し、自然面が残らないフレイク
- III a 類：二回以上剥離作業を行った面を打面とし、背面はすべて自然面であるフレイク
- III b 類：二回以上剥離作業を行った面を打面とし、背面の一部に自然面が残るフレイク
- III c 類：二回以上剥離作業を行った面を打面とし、背面はすべて剥離し、自然面が残らないフレイク
- IV a 類：打面・背面が不明。塊状のフレイク
- IV b 類：打面・背面が不明。自然面が残らない塊状のフレイク
- IV c 類：打面・背面が不明。自然面が残る薄片のフレイク
- IV b 類：打面・背面が不明。自然面が残らない薄片のフレイク

第9図 石器分類図3

VI 調査の概要と基本土層

1 調査の概要

内田貝塚は、大船渡湾の南西岸、海から約300m奥に位置し、遺跡の西側にそびえる箱根山から続く丘陵末端に立地する。遺跡に立つと、東側の眼前には海（大船渡湾）が広がる。

調査区は南北約130m、東西約32mで南北方向に長く、面積は3,027m²である。標高は40~45mを測る。

内田貝塚とその周辺は、西から東へと緩やかに傾斜する丘陵頂部平坦面の東端に相当する（第10図）。この丘陵頂部平坦面は、幅を狭めながら南北東方向へと延びるもの、南北両側と東側は崖状の急激な斜面地となって海の方へと下がっている。内田貝塚はこの丘陵平坦面から東側急斜面地にかけて立地する。

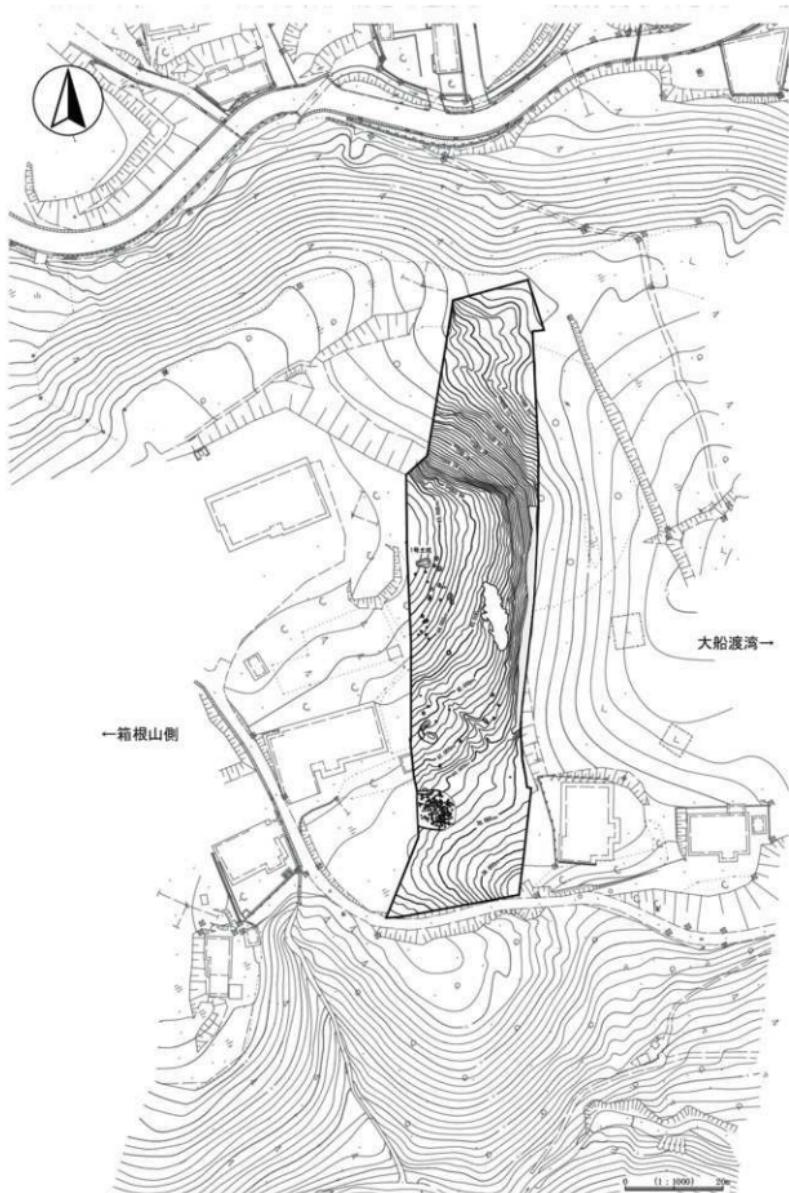
調査区内の地形は中央が高く（標高45m前後）、南北両端は低い（最も低い場所は標高40m）。また中央から南北端にむかって、比較的急な斜面になっている。上記の通り、箱根山から続く細い丘陵末端の一部に立地するが、ちょうど調査区中央は丘陵頂部の平坦面に、また調査区の南北両端は丘陵頂部から傾斜する斜面に相当する。遺構は主に調査区中央から斜面に集中し、堅穴住居跡のみ調査区の南端、斜面の傾斜が緩くなる場所に立地する。

検出遺構は、縄文時代前期末葉の堅穴住居跡1棟、土坑1基、縄文時代前期中葉の土坑8基と貝層1箇所、また時期不明の柱穴状土坑29個である。調査区中央の高い場所に縄文時代前期中葉の土坑、そこから下がる傾斜地に貝層、また調査区南端には前期末葉の堅穴住居跡が位置しており、縄文時代前期中葉と前期末葉とで遺構の分布が異なる（第11図）。

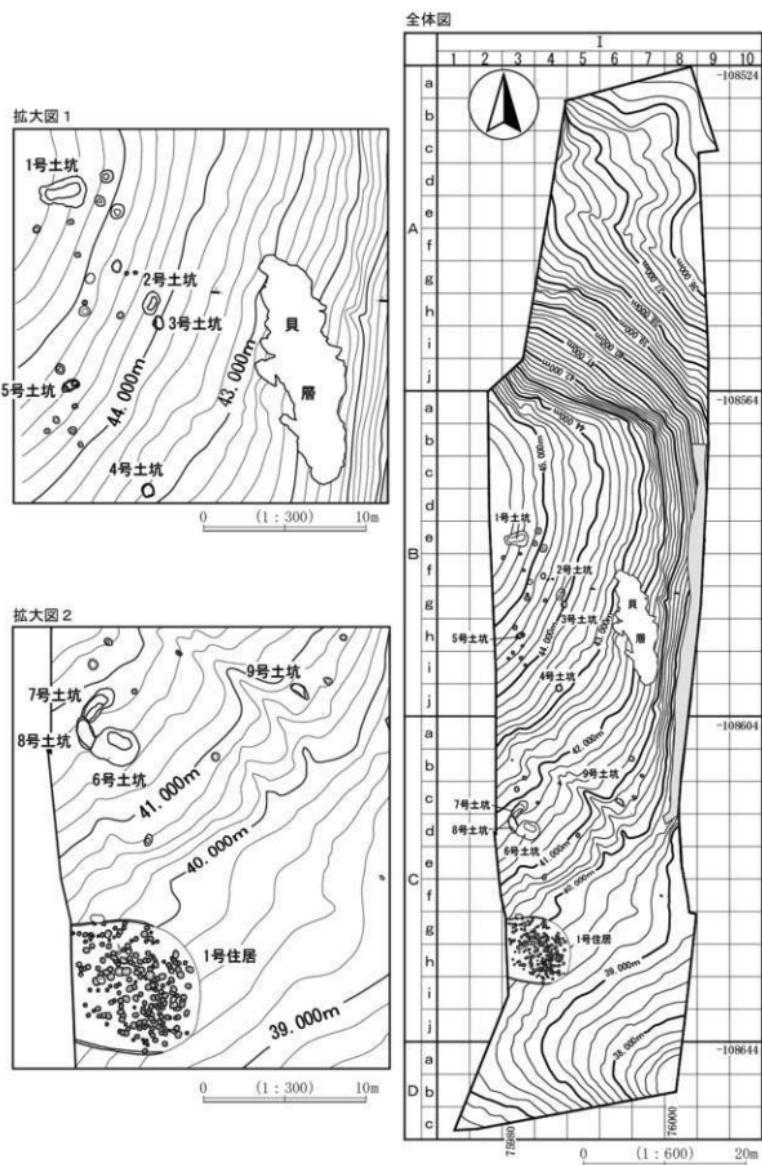
調査区の広い範囲に堆積するⅡ層土・Ⅲa層土から、比較的多くの遺物が出土しており、Ⅲa層土からは前期中葉から後葉の遺物、Ⅱ層土からは前期後葉以降の遺物が出土している。特に標高43~41mの傾斜地にⅡ層土が較的厚く堆積しており、部分的にであるが多量の遺物を包含している（第68図参照）。

出土遺物は、縄文土器大コンテナ32箱（前期～中期）、石器大コンテナ31箱である。貝層や遺構外（Ⅱ層・Ⅲa層）から出土する遺物が多く、一方で遺構内から出土する遺物は少ない。また貝層からは自然遺物の他に、縄文時代前期中葉の骨角牙製品（釣針・骨針・刺突具・櫛・牙製垂飾品など）や貝製品（貝輪・管状ツノガイ製品・タカラガイ製品）が出土している。

今回の調査で特筆すべき点は、縄文時代前期中葉の貝層を調査したことである。貝層は調査区中央、やや東側で確認した。貝層は14.5×5.0mを測り、面積は約46m²分である。時期は出土した土器から大木3～4式期に比定する。貝層は混貝土層と土層で構成され、純貝層は見受けられない。貝層からは、24科37種の貝類が出土し、スガイ・レイシ・コシダカガニガラ・クボガイといった小型の巻貝が多くを占めており、一方、イガイ・アサリといった二枚貝は比較的少ない。また棘皮動物（ウニ類）、軟體動物（ヒザラガイ）がある。魚・獸骨が中コンテナ14箱分出土し、魚は2綱12目26科27属で、タイ科マグロ属・スズキ・カツオなど豊富である。一方、獸骨は海棲哺乳類は3種、陸棲哺乳類は9科9属11種、鳥類2科、爬虫類1種、両生類1種が見つかっている。



第10図 内田貝塚と周辺の地形



第11図 遺構配置図

第3表 遺構・貝層・包含層出土遺物一覧

出土位置 出土個数	縦文土器 (個)	石器(件)												石棒 (石器)	石斧 (石器)	土製品 粘土塊 (個)	
		石礫	石礫 失敗品	石礫	石礫 石器	石礫	石器	不完全 石器	始祖 石器	特徴 骨器	鉄器 骨器	石核 石器	石核 石器	石核 石器			
埋下位 電源	186752 28922	4 2	1 1	1 1	1 1	12 1	4 1	24 1	4 1	24 1	3 1	3 3	3 3	18 5	5 128		
1号住居 壁内	68892	5		1			4	1	5		1	1	11	63			
1号土坑 埋土中	14914	1	1			1		2				1	1	1	35		
2号土坑 埋土中				6													
3号土坑 埋土中																	
4号土坑 埋土中																	
5号土坑 埋土中	1595														5		
6号土坑 埋土中	111961	5	1	1	1	1	1	12			4	9	1	74	1		
7号土坑 埋土中	1310		1											10			
8号土坑 埋土中	6312								1	4				7			
9号土坑 埋土中	12957													1			
貝層																	
柱穴群	436160	71	1	3													
柱穴群	3483																
Ⅰ層	198298	3		1	1	4	21	1	28	1	80	3	1	9	12	44	4
Ⅱ層	243956	61	8	9	5	6	22	148	8	99	268	21	9	32	47	303	52
急合層	1483																
Ⅲ層	128867	68	7	2	2	7	21	123	8	93	1	260	10	13	3	29	44
Ⅳ層上面	142996	17	1	1	1	1	21	2	6	48	2	1	2	1	39	139	1
出土地点 不明	-	25069	2					3	5	10		1	1	38	3	54	
		539414	270	19	21	10	19	57	404	29	266	4	850	37	28	6	98
															141	890	146
															670	1	33
																18	

2 基本土層

調査区全体13箇所で基本的な土層の堆積様相を観察した(第13~15図)。複数箇所で土層を確認したのは、調査区の北側、中央南側で地形が異なり、また遺構や貝層の有無などから、場所によって土層の堆積が異なると想定したためである。

基本土層は以下の通りである(第12図)。

I 層：灰黄褐色シルト(10YR5/3) 表土。

層厚10~30cm。粘性やや弱、しまりやや密、粒子やや粗。

II 層：暗褐色シルト質粘土(10YR3/3) 繩文時代前期後葉から中期に堆積した遺物包含層。

層厚10~50cm、粘性やや強く、しまり密、粒子は細かい。炭化物微量、砂岩系礫少量、赤褐色粒子(土器片?)微量含む。調査区の中央から南側では、色調の違いなどから、II a層(10YR3/3)とII b層(10YR4/3)とに2細分した。この両者は、出土する土器を比べても差がないので、時期差によるものではない。また、出土する遺物は時期幅が広いので、斜面により、流动している可能性はある。

III a層：暗褐色シルト質粘土(10YR3/4) 繩文時代前期後葉の遺物包含層。

層厚は10~20cm、粘性強、しまり密、粒子細かい。砂岩系礫中量、赤褐色粒子少量含む。主に調査区の中央から北側で確認した。また貝層の上面に堆積する。遺物包含層であるが、場所によって、遺物の出土量に差異がある。この層下に貝層が堆積する。

III b層：黒褐色シルト質粘土(10YR2/3) 貝層の下に堆積する層。

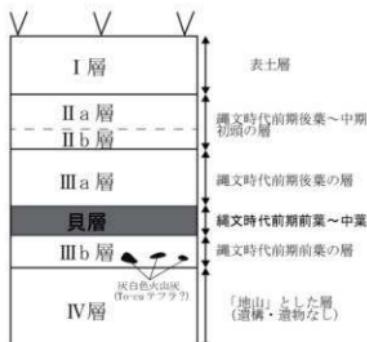
層厚は10~20cm。粘性強、しまりやや密、粒子細かい。調査区中央から北側で確認した。III a層に類似するが、やや暗い。またTo-Cuテフラがブロック状で混入する。

IV 層：明黄褐色粘土(10YR7/6) 地山。

層厚は10~20cm。粘性強、しまりやや密、粒子細かい。

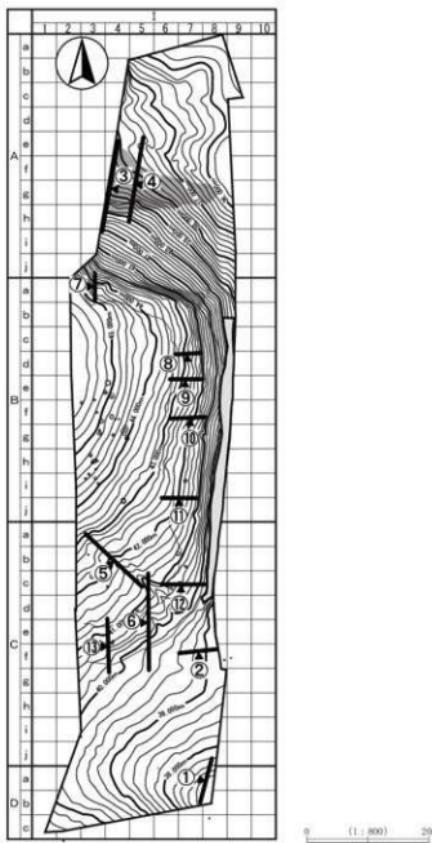
またやや硬い粘土であり、この層の下に遺構・遺物があるとは考えにくいので、IV層以下の掘り下げはせず、この層を最終遺構面とした。細かい礫のほかに、赤褐色の小片が微量~少量混じる。この混入物はかなり細かく碎けた土器片ではないかと考える。したがって、遺跡の周辺には縄文時代前期前葉以前の土器を含む土層があり、それが本遺跡内に流れてきて堆積し、IV層を形成したと推測する。その際に含まれていた土器片も細かく碎けたのではないかと考える。

なお、本文中および遺構注記に記した「地山ブロック」とは、IV層土が1~20cm程度の塊状になったものである。

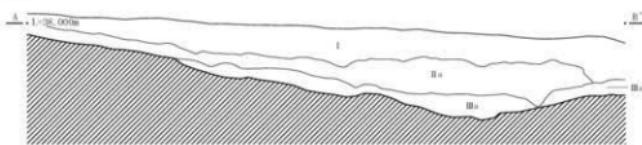


第12図 基本土層柱状図

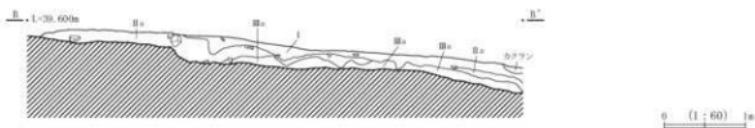
基本土層位置図



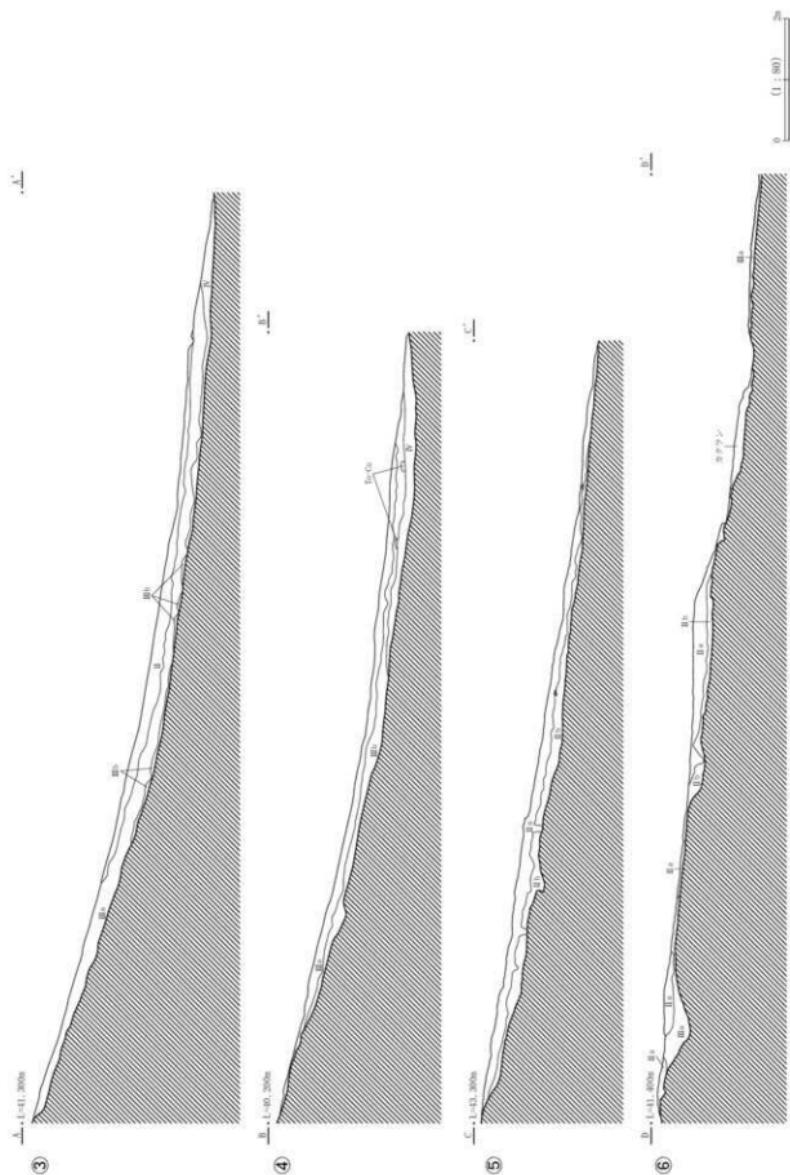
①



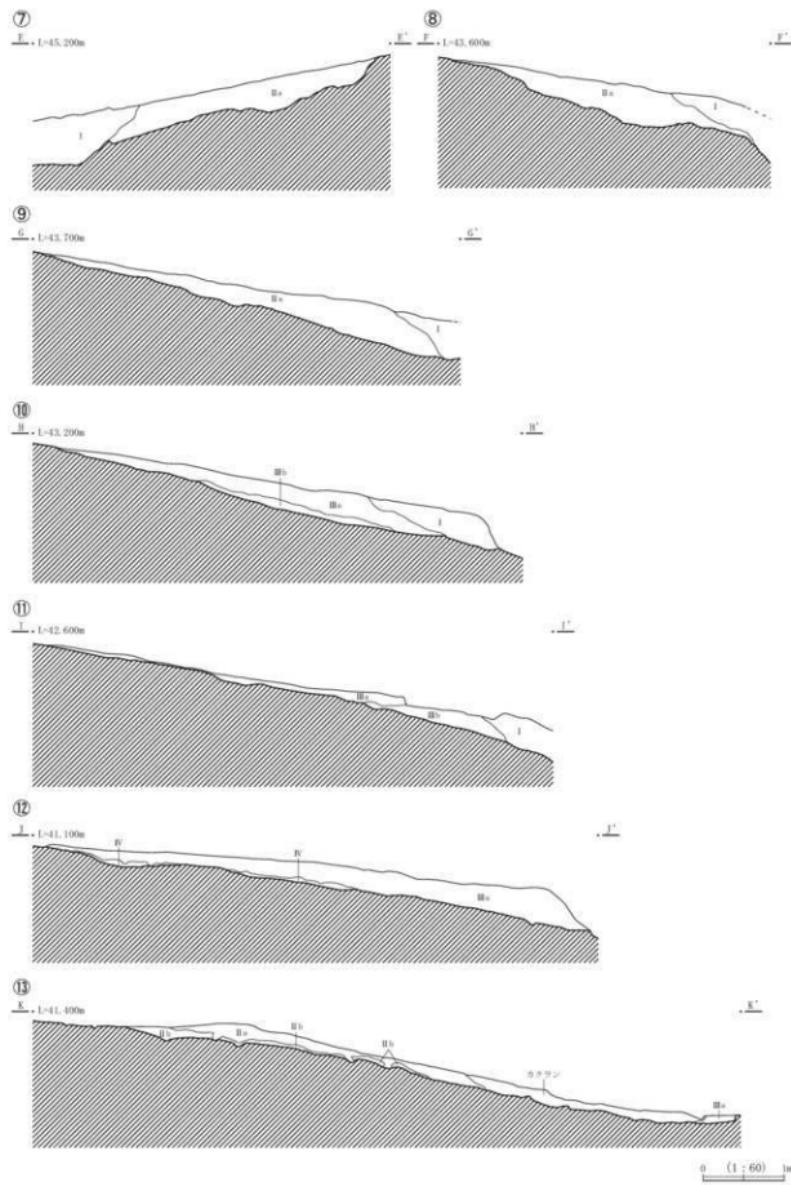
②



第13図 基本土層 1



第14図 基本土層2



第15図 基本土層 3

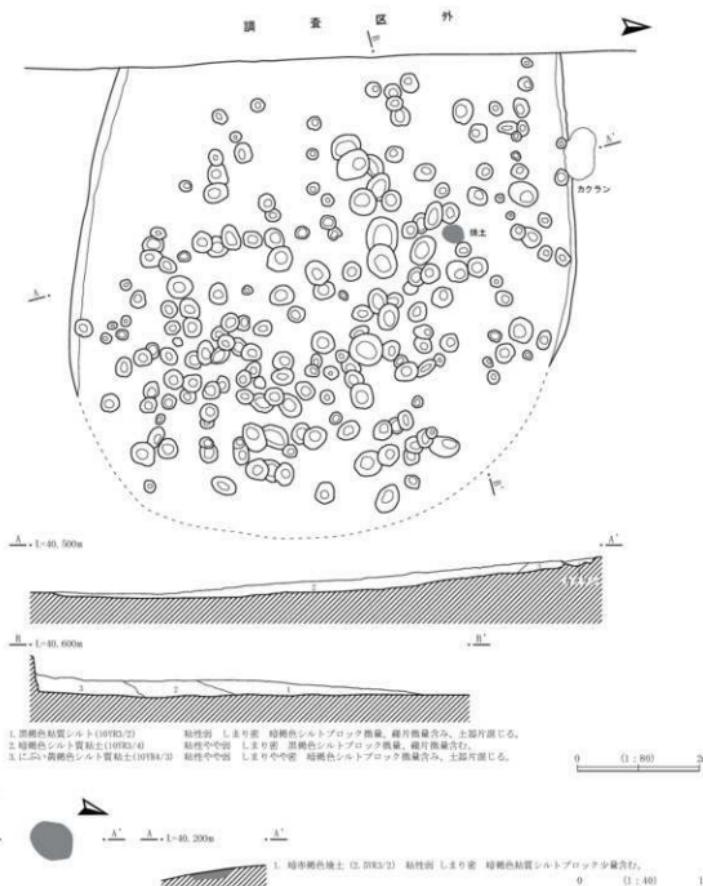
VII 検出遺構と出土遺物

1 検出遺構

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡（第16～22図、写真図版4・23・45・46）

[位置・検出状況] 調査区南端 I C 3 g、I C 3 h、I C 4 g、I C 4 h、I C 4 i グリッドに位置し、



第16図 1号住居跡

Ⅲa層上面で検出した。本遺構は削平により、床面近くまで消失している。

【その他の遺構との重複】なし。

【平面形】不整な楕円形を呈する。【規模】長軸(8.3) × (7.8)m・深さ15cm

【埋土】3層のみ確認した。ただし上記の通り、遺構上部は消失しており、埋土も床面近くのみしか残存していない。また1層は流入土の可能性がある。暗褐色シルト質粘土(2層)が主体層で炭化物などが混入する。

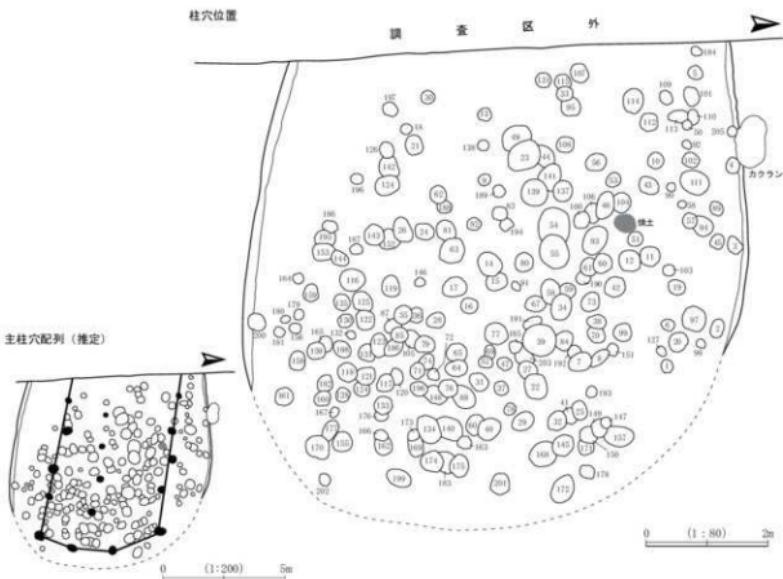
【床面・壁】柱穴を検出したIV層面を床面とした。概ね平坦であるが、北側がやや高く、したがって床面が傾斜している。東側から南側は壁が消失しているため、床面の範囲が不明瞭である(第16図には、柱穴の位置などから床面と判断できた範囲について、点線で示した)。壁は、北側の一部のみ残存する。ほぼ直立である。

【炉】明確に炉と判断できたものはないが、床面の中央からやや北側に40×30cmの焼土1箇所を確認した。焼土は現地性で、床面上で火を焚いたものと考えるが、被熱は弱く、断ち割ったところ、焼土は床面下2cm程度であった。

【附属施設】柱穴204個を確認した。柱穴配列からは第17図左下のような主柱穴配列を推測した。主柱穴は西側の調査区外へのびると推定する。また他にも多数の柱穴があるので複数回の建て替えがあったと推定する。

【出土遺物】縄文土器は29056.6g分出土している。埋土上位が消失しており、したがって出土遺物は全て、床面から埋土下位にかけてのものである。出土量は少ない。

12点掲載した(1~12)。1は球胴形深鉢の大型破片である。4単位の波状口縁を呈し、口縁部は無文で肥厚する。頸部は平行沈線による鋸歯状文が巡り、胴部も平行沈線で大きく鋸歯状、あるいは



第17図 1号住居跡

第4表 1号住居跡柱穴一覧表

柱穴名	埋土	積出面 標高 (m)	底面 標高 (m)	深さ (cm)
1	暗褐色シルト	39.914	39.752	16.2
2	ない黄褐色シルト	39.914	39.775	13.9
3	暗褐色シルト	40.039	39.867	17.2
4	暗褐色シルト	40.054	39.908	14.6
5	ない黄褐色シルト	40.222	39.946	27.6
6	暗褐色シルト	39.914	39.609	36.5
7	暗褐色シルト	39.718	39.378	34.0
8	暗褐色シルト	39.752	39.528	22.4
9	黒褐色シルト	39.965	39.572	36.8
10	暗褐色シルト	39.993	39.882	11.1
11	黒褐色シルト	39.891	39.629	26.2
12	黒褐色シルト	39.820	39.620	20.0
13	黒褐色シルト	39.808	39.597	21.1
14	黒褐色シルト	39.552	39.393	15.9
15	黒褐色シルト	39.632	39.373	27.9
16	黒褐色シルト	39.645	39.380	36.5
17	暗褐色シルト	39.633	39.364	26.9
18	暗褐色シルト	39.813	39.671	14.2
19	暗褐色シルト	39.939	39.641	29.8
20	暗褐色シルト	39.939	39.616	32.3
21	黒褐色シルト	39.792	39.570	22.2
22	黒褐色シルト	39.676	39.336	34.0
23	暗褐色シルト	39.880	39.643	25.7
24	黒褐色シルト	39.689	39.389	30.0
25	黒褐色シルト	39.684	39.486	19.8
26	黒褐色シルト	39.705	39.465	24.0
27	黒褐色シルト	39.642	39.428	21.4
28	暗褐色シルト	39.633	39.384	24.9
29	暗褐色シルト	39.587	39.436	15.1
30	黒褐色シルト	39.965	39.675	19.0
31	暗褐色シルト	39.444	39.106	33.8
32	暗褐色シルト	39.702	39.474	22.8
33	-	39.894	39.724	17.0
34	黒褐色シルト	39.676	39.502	17.4
35	暗褐色シルト	39.662	39.477	18.5
36	暗褐色シルト	39.633	39.445	18.8
37	暗褐色シルト	39.610	39.285	32.5
38	黒褐色シルト	39.733	39.429	36.4
39	黒褐色シルト	39.676	39.502	17.4
40	暗褐色シルト	39.570	39.088	48.2
41	黒褐色シルト	39.684	39.478	20.6
42	暗褐色シルト	39.820	39.552	26.8
43	黒褐色シルト	39.993	39.779	19.4
44	暗褐色シルト	39.859	39.524	33.5
45	暗褐色シルト	39.039	39.676	16.3
46	暗褐色シルト	39.885	39.611	27.4
47	黒褐色シルト	39.636	39.294	34.2
48	暗褐色シルト	39.666	39.504	16.2
49	暗褐色シルト	39.880	39.628	25.2
50	暗褐色シルト	39.045	39.371	17.4
51	黒褐色シルト	39.894	39.520	37.1
52	黒褐色シルト	39.444	39.032	41.2
53	暗褐色シルト	39.931	39.731	20.0
54	-	39.838	39.566	27.2
55	-	39.757	39.543	21.4
56	-	39.927	39.749	17.8
57	-	39.996	39.854	14.2
58	-	39.994	39.854	14.0
59	暗褐色シルト	39.721	39.528	19.3
60	暗褐色シルト	39.816	39.642	17.4
61	黒褐色シルト	39.774	39.592	18.2
62	暗褐色シルト	39.736	39.557	17.9
63	暗褐色シルト	39.678	39.434	24.4
64	暗褐色シルト	39.564	39.272	29.2
65	暗褐色シルト	39.601	39.254	34.7
66	暗褐色シルト	39.562	39.174	37.8
67	暗褐色シルト	39.667	39.475	26.2
68	黒褐色シルト	39.673	39.290	38.3
69	暗褐色シルト	39.661	39.448	16.2
70	黒褐色シルト	39.717	39.528	18.9
71	暗褐色シルト	39.581	39.371	21.0
72	暗褐色シルト	39.518	39.339	17.9
73	暗褐色シルト	39.736	39.476	28.0
74	黒褐色シルト	39.524	39.354	17.0
75	暗褐色シルト	39.717	39.530	18.7
76	暗褐色シルト	39.528	39.295	24.3
77	暗褐色シルト	39.645	39.277	37.5
78	暗褐色シルト	39.587	39.006	58.1
79	暗褐色シルト	39.577	39.408	16.9
80	黒褐色シルト	39.703	39.508	19.5
81	黒褐色シルト	39.699	39.461	22.8
82	暗褐色シルト	39.552	39.163	38.9
83	暗褐色シルト	39.538	39.337	40.1
84	黒褐色シルト	39.685	39.506	18.1
85	暗褐色シルト	39.591	39.282	30.9
86	暗褐色シルト	39.598	39.204	38.2
87	-	39.623	39.397	22.6
88	暗褐色シルト	39.537	39.156	38.1
89	暗褐色シルト	40.062	39.856	21.1
90	にじ黄褐色シルト	40.009	39.888	12.1
91	黒褐色シルト	39.652	39.510	14.2
92	黒褐色シルト	40.028	39.968	16.0
93	黒褐色シルト	39.837	39.568	26.9
94	暗褐色シルト	40.018	39.846	17.2
95	にじ黄褐色シルト	39.891	39.718	17.3
96	暗褐色シルト	39.671	39.538	13.3
97	暗褐色シルト	39.509	39.759	18.0
98	暗褐色シルト	39.914	39.734	18.0
99	暗褐色シルト	39.783	39.525	25.8
100	黒褐色シルト	39.841	39.633	18.0
101	暗シルト	40.076	39.996	18.0
102	暗褐色シルト	40.025	39.984	14.1
103	暗褐色シルト	39.920	39.790	13.0
104	暗褐色シルト	39.919	39.673	24.6
105	暗褐色シルト	39.593	39.279	21.4
106	暗褐色シルト	39.880	39.696	18.4
107	暗褐色シルト	39.948	39.728	22.0
108	暗褐色シルト	39.882	39.642	24.0
109	暗褐色シルト	40.060	39.760	30.6
110	暗シルト	40.078	39.906	17.2
111	暗褐色シルト	40.054	39.714	34.0
112	暗褐色シルト	39.985	39.806	17.9
113	暗褐色シルト	40.023	39.994	10.9
114	暗シルト	40.012	39.786	24.0
115	暗褐色シルト	39.894	39.722	17.2
116	暗褐色シルト	39.697	39.528	16.9
117	にじ黄褐色シルト	39.570	39.401	16.9
118	黒褐色シルト	39.559	39.401	15.8
119	暗褐色シルト	39.702	39.498	20.4
120	暗褐色シルト	39.577	39.415	16.2
121	暗褐色シルト	39.573	39.373	20.0
122	暗褐色シルト	39.619	39.389	23.0
123	黒褐色シルト	39.601	39.310	29.1
124	暗褐色シルト	39.534	39.301	23.3
125	暗褐色シルト	39.657	39.391	26.6
126	暗褐色シルト	39.590	39.466	12.4
127	黒褐色シルト	39.655	39.527	12.8
128	暗褐色シルト	39.507	39.241	26.6
129	暗褐色シルト	39.729	39.534	22.5
130	暗褐色シルト	39.590	39.383	20.7
131	にじ黄褐色シルト	39.570	39.424	25.4
132	黒褐色シルト	39.590	39.466	12.4
133	暗褐色シルト	39.548	39.399	20.9
134	暗褐色シルト	39.568	39.330	25.8
135	暗褐色シルト	39.619	39.381	23.8
136	黒褐色シルト	39.591	39.350	24.1
137	暗褐色シルト	39.806	39.613	24.3
138	黒褐色シルト	39.808	39.568	34.0
139	暗褐色シルト	39.577	39.384	29.2
140	暗褐色シルト	39.577	39.388	19.6
141	暗褐色シルト	39.584	39.368	22.5
142	暗褐色シルト	39.584	39.339	19.7
143	暗褐色シルト	39.792	39.318	47.4
144	暗褐色シルト	39.696	39.495	20.1
145	黒褐色シルト	39.702	39.504	19.8
146	暗褐色シルト	39.577	39.384	19.3
147	暗褐色シルト	39.577	39.497	26.0
148	暗褐色シルト	39.558	39.399	15.9
149	暗褐色シルト	39.588	39.425	24.5
150	黒褐色シルト	39.715	39.517	19.8
151	暗褐色シルト	39.732	39.626	7.6
152	暗褐色シルト	39.715	39.534	18.1
153	暗褐色シルト	39.666	39.519	16.7
154	暗褐色シルト	39.630	39.339	28.1
155	暗褐色シルト	39.540	39.205	24.5
156	暗褐色シルト	39.540	39.321	20.1
157	暗褐色シルト	39.769	39.613	15.6
158	黒褐色シルト	39.517	39.342	17.5
159	暗褐色シルト	39.599	39.245	26.4
160	暗褐色シルト	39.747	39.331	14.8
161	黒褐色シルト	39.455	39.199	25.6
162	暗褐色シルト	39.528	39.308	22.0
163	暗褐色シルト	39.548	39.310	23.8
164	暗褐色シルト	39.596	39.428	16.8
165	暗褐色シルト	39.516	39.297	21.9
166	暗褐色シルト	39.534	39.368	26.6
167	暗褐色シルト	39.470	39.340	13.0
168	黒褐色シルト	39.654	39.308	34.6
169	暗褐色シルト	39.550	39.243	30.7
170	黒褐色シルト	39.548	39.348	26.5
171	暗褐色シルト	39.618	39.350	18.4
172	黒褐色シルト	39.743	39.530	18.4
173	暗褐色シルト	39.550	39.371	17.9
174	黒褐色シルト	39.551	39.272	27.2
175	暗褐色シルト	39.539	39.311	22.8
176	暗褐色シルト	39.542	39.331	22.8
177	暗褐色シルト	39.542	39.331	20.1
178	暗褐色シルト	39.542	39.331	19.3
179	暗褐色シルト	39.549	39.338	20.1
180	暗褐色シルト	39.549	39.338	20.1
181	暗褐色シルト	39.548	39.364	13.4
182	暗褐色シルト	39.502	39.368	13.4
183	暗褐色シルト	39.539	39.338	20.1
184	暗褐色シルト	39.542	39.338	19.3
185	暗褐色シルト	40.022	40.098	12.4
186	暗褐色シルト	39.665	39.513	13.2
187	暗褐色シルト	39.685	39.473	26.9
188	暗褐色シルト	39.730	39.572	15.8
189	暗褐色シルト	39.780	39.678	16.2
190	黒褐色シルト	39.751	39.537	21.4
191	暗褐色シルト	39.675	39.484	19.1
192	暗褐色シルト	39.701	39.475	22.6
193	暗褐色シルト	39.718	39.477	24.1
194	暗褐色シルト	39.734	39.524	21.0
195	暗褐色シルト	39.667	39.578	9.9
196	暗褐色シルト	39.772	39.633	13.9
197	暗褐色シルト	39.865	39.368	13.4
198	暗褐色シルト	39.565	39.396	16.9
199	暗褐色シルト	39.518	39.387	13.1
200	暗褐色シルト	39.473	39.291	18.2
201	暗褐色シルト	39.588	39.373	21.5
202	暗褐色シルト	39.424	39.349	17.5
203	-	39.642	39.432	20.2
204	-	40.078	39.921	15.7

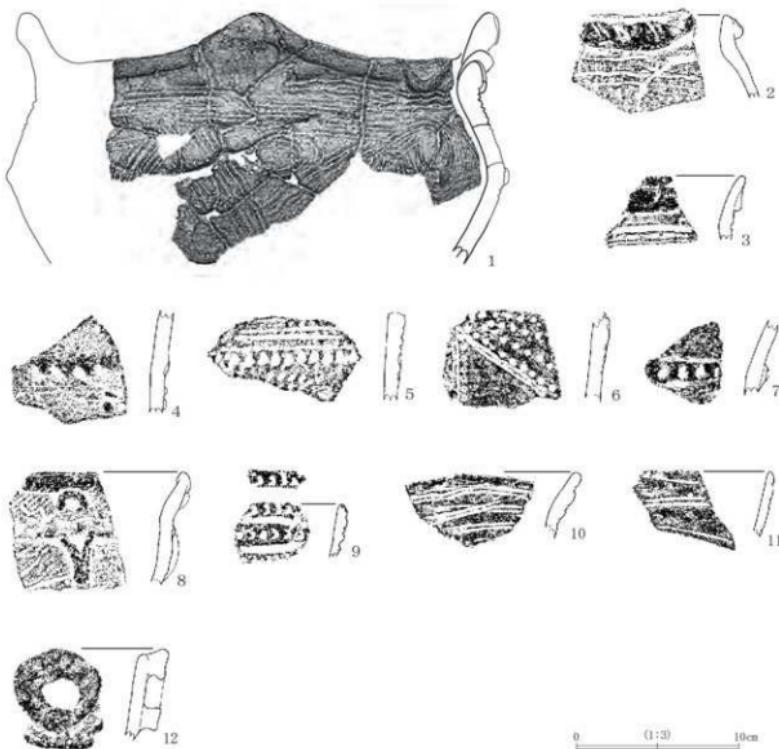
「-」……上層觀察する前に安裝したため土質は不明である。

曲線状の文様を描く。大木6式と推測する。2も同様である。3は長胴形深鉢の口縁部片で、口縁部に隆帯が付く。また頭部には沈線が巡る。大木6式と推測する。4は頭部片で、頭部が肥厚し、その下に三角形印刻文が巡る。胴部には平行沈線とボタン状貼付文が付く。大木6~7a式の範疇である。5・6は胴部片で平行沈線と刺突文が巡り、7は長胴形深鉢の頭部片で押圧文を加えた隆帯が巡る。いずれも大木6~7a式の範疇である。8は大木7a式新段階と推測する深鉢の口縁部片である。単節繩文を地文とし、半円状とV字状の隆帯が付く。9は半裁竹管状工具による刺突文が口唇部と口縁部に充填される。10・11は半裁竹管状工具による平行沈線が横位、斜位に巡る。12は口唇部に付く円環状の突起であり、いずれも大木4~5a式と推定でき、やや古い。

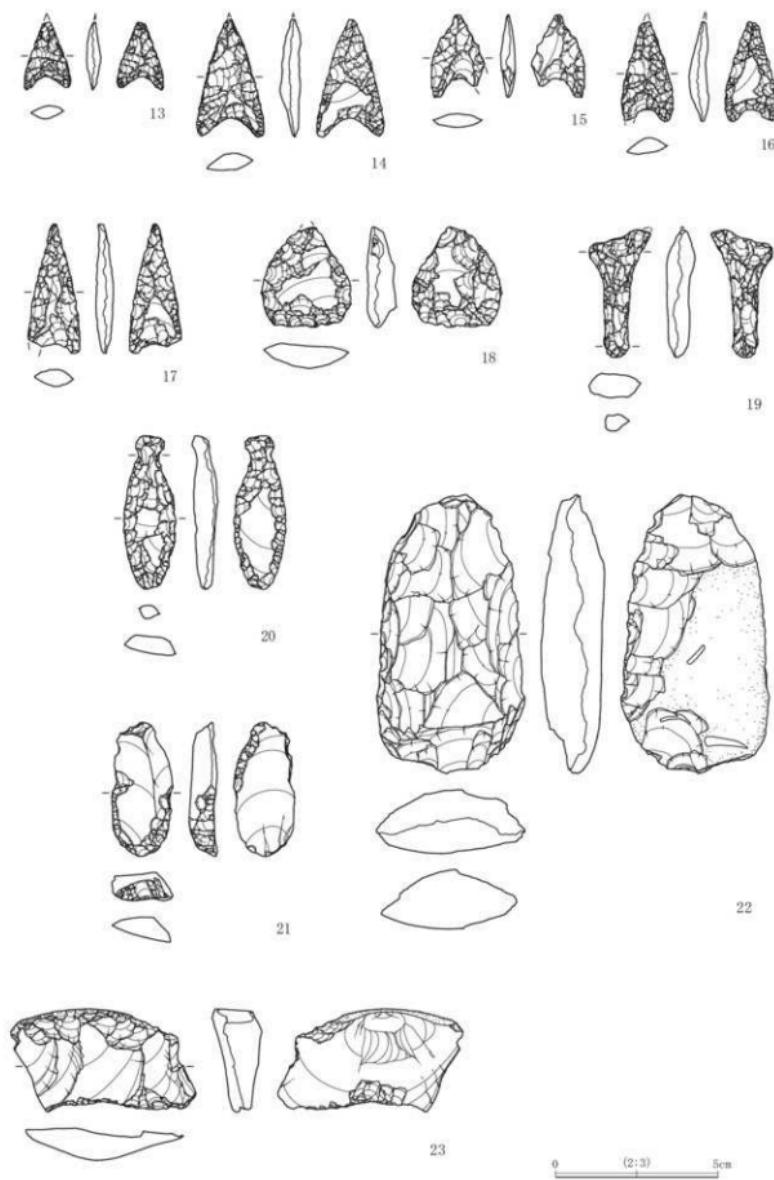
石器は25点掲載した(13~37)。

13~17は石鎚である。全て石鎚I類に分類した。13は体部まで剥離が及ぶが、14~17は体部の一部に二次加工が及んでいない。形態は様々である。18は石鎚失敗品である。おそらく石鎚III類を作出したのであるが先端部が左右非対称である。

19は石錐とした。ただし錐部の先端が太く、また丸く整形されているので、異形石器の可能性もある。20は石匙で、石匙I類に相当する。



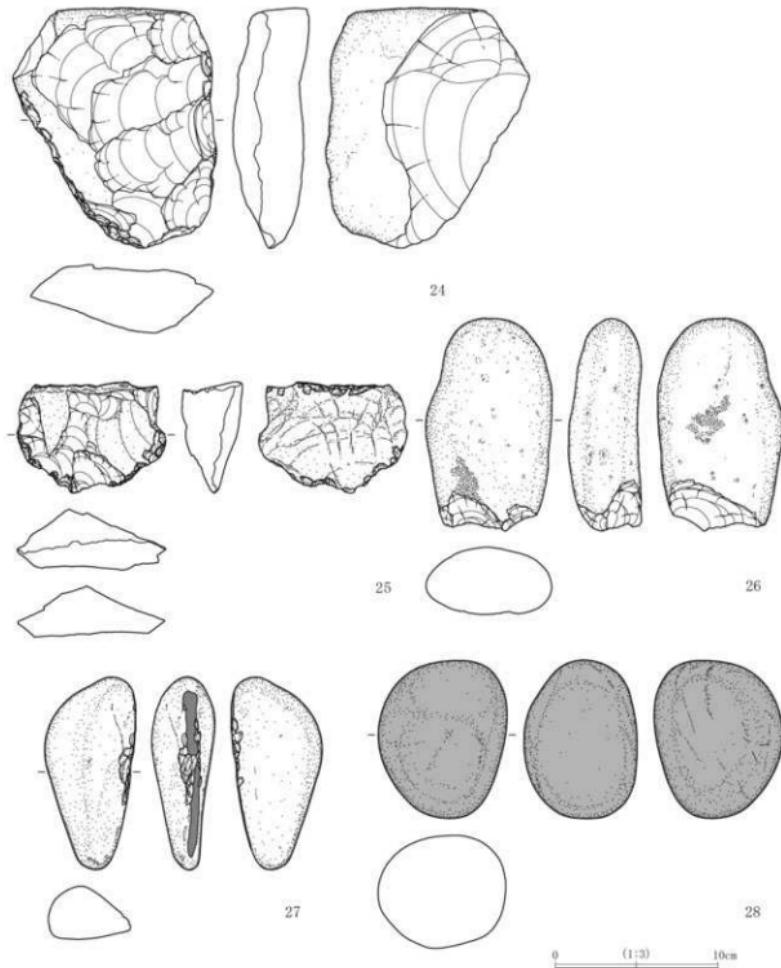
第18図 1号住居跡出土遺物 1



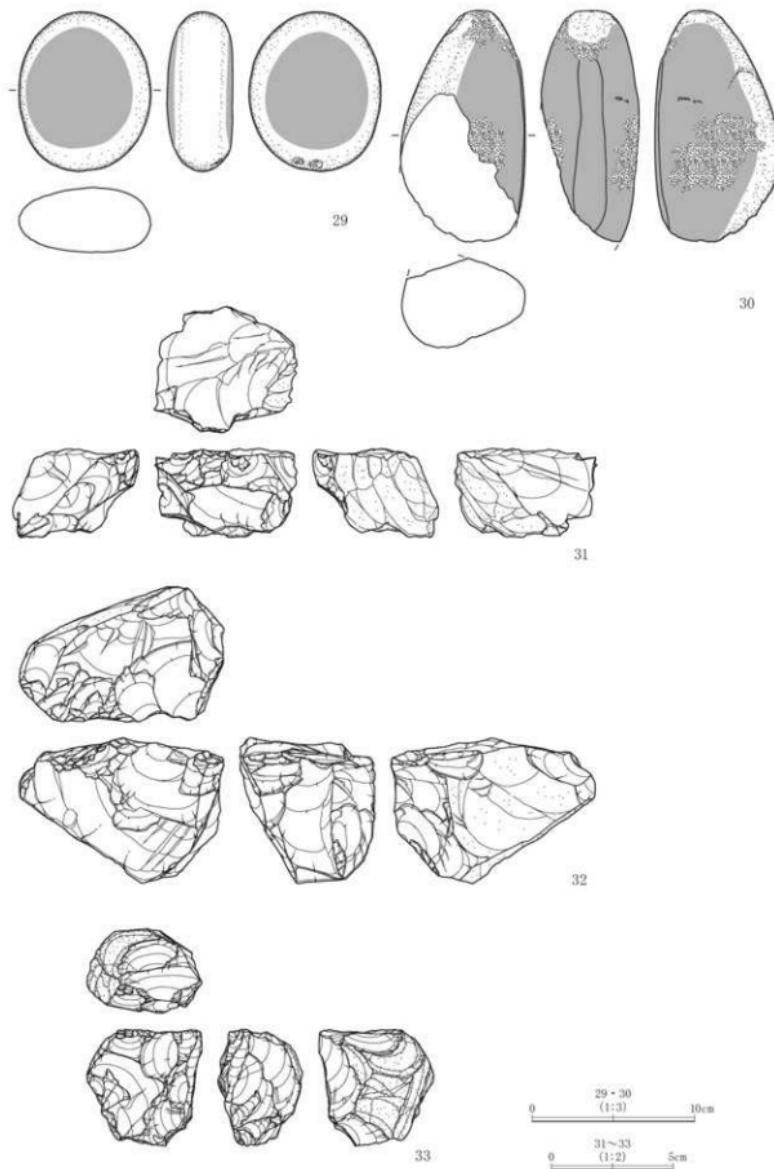
第19図 1号住居跡出土遺物2

21~23は不定形石器である。21は縦長のフレイクを素材とし、片側の端部に刃部を作出している。22はIV類か。片面のみならず、自然面にも二次加工が及ぶ。剥離が大きく、やや粗い。23は横長のフレイクを素材とし、縁辺に刃部を作出している。

24~26は礫器である。24は方形の礫を素材とする。自然面を残し、片面の縁辺に刃部を作出している。25は自然面が残る大きなフレイクを素材とする、鋭利な端部に二次加工を施し、刃部を作出している。26は梢円形の礫を素材とし、端部が打撃によるものと推測する剥離が連続する。また体部には敲打痕が見受けられ、敲磨器類の転用の可能性がある。



第20図 1号住居跡出土遺物3



第21図 1号住居跡出土遺物4

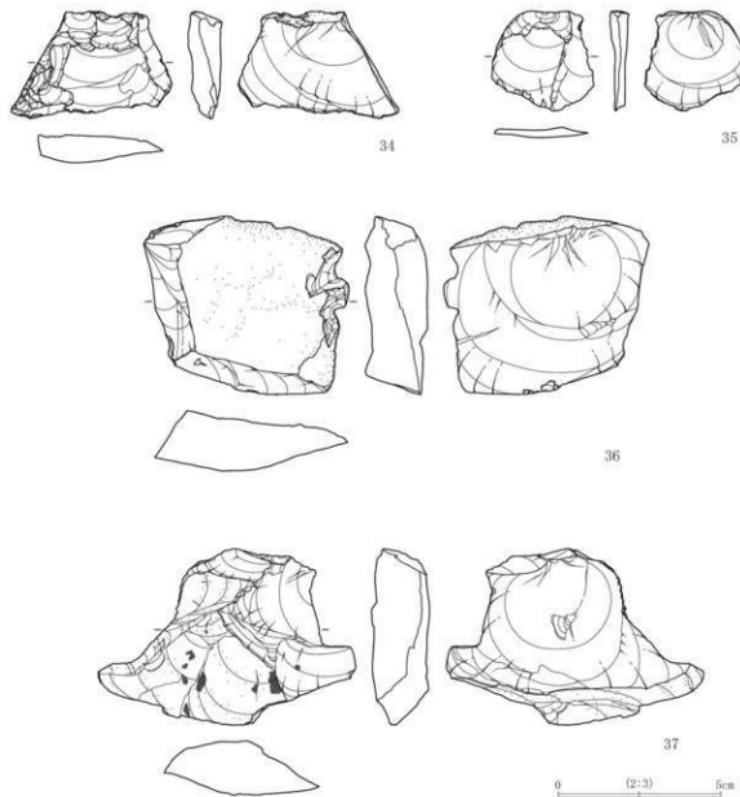
27は特殊磨石である。三角形を呈する礫を素材とし、細い側面に磨面とその周辺に剥離が見受けられる。

28～30は敲磨器類である。28は敲磨器類Ⅰ類に相当する。球状の礫を素材とし、全面に磨痕が及ぶ。29も敲磨器類Ⅰ類で偏平な円形の礫を素材とし、偏平な両面に磨痕が見受けられる。30は一端が欠損する。敲磨器類Ⅱ類である。細い偏平面を磨面とし、その周辺には磨痕と敲打痕が広がる。

31～33は石核である。31は角ばった形態で、広い面（実測図上面）を作業面とし、側面の一部に剥離作業を行っている。32は三角形を呈し、広い面（実測図上面）を作業面とし、側面に剥離作業を行っている。また作業面も剥離作業を行っている。33は自然面が残るが、それ以外は剥離が見受けられ、また方向が様々であり、回転しながら剥離作業を行ったものと推測する。

34～37はフレイクである。34～36は自然面を打面とする。37は2回剥離した面を打面としている。また背面には付着物（アスファルト？）が見受けられる。

【時期】出土した土器の年代から縄文時代前中期葉（大木6式期）と判断した。



第22図 1号住居跡出土遺物5

(2) 土 坑

1号土坑（第23・26図、写真図版5・46）

【位置・検出状況】調査区中央西端 I B 3 e グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】なし。

【平面形】不整な楕円形で長辺が歪である。 【規模】280×185cm・深さ40cm

【埋土】4層からなる。にぶい黄褐色シルト質粘土を主体とし、上部は灰黄褐色シルト質粘土が堆積する。全体的に炭化物や赤褐色粒子が混じる。

【底面・壁】IV層土面を底面と推定した。皿状に窪むが、やや凹凸が見受けられる。壁は全周する。緩やかに広がりながら立ち上がる。

【出土遺物】埋土中から石器が出土している。3点掲載した。61・62はフレイクである。61は自然面を打面とする。縁辺にみられる微細剥離は剥離作業によるものではないと考える。62は1回剥離した面を打面とする。63はRフレイクとした。打面の近くに横方向から剥離している。用途は不明である。

【性格】不明。

【時期】出土遺物が石器のみで時期判断は難しいが、貝層と隣接しており、その位置関係から本遺構は縄文時代前期中葉に帰属すると推測する。

2号土坑（第23図、写真図版5）

【位置・検出状況】調査区中央西側 I B 4 g グリッドに位置する。IV層上面で検出した。本遺構は削平により遺構上部の大半を消失している。

【その他の遺構との重複】なし。

【平面形】不整な楕円形。 【規模】139×85cm・深さ5cm

【埋土】1層のみ確認したが、上記の通り、遺構上部がほとんど消失している。灰黄褐色シルト質粘土を主体とし、炭化物が混入する。

【底面・壁】IV層面を底面とした。ほぼ平坦である。壁は全周する。大きく広がりながら立ち上がる。

【出土遺物】図示していないが、石器が出土している。

【性格】不明。

【時期】出土遺物からは、時期判断は難しいが、貝層と隣接しており、その位置関係から本遺構は縄文時代前期中葉に帰属すると推測する。

3号土坑（第23図、写真図版7）

【位置・検出状況】調査区ほぼ中央 I B 4 g グリッドに位置する。IV層上面で検出した。本遺構は削平により遺構上部の大半を消失している。

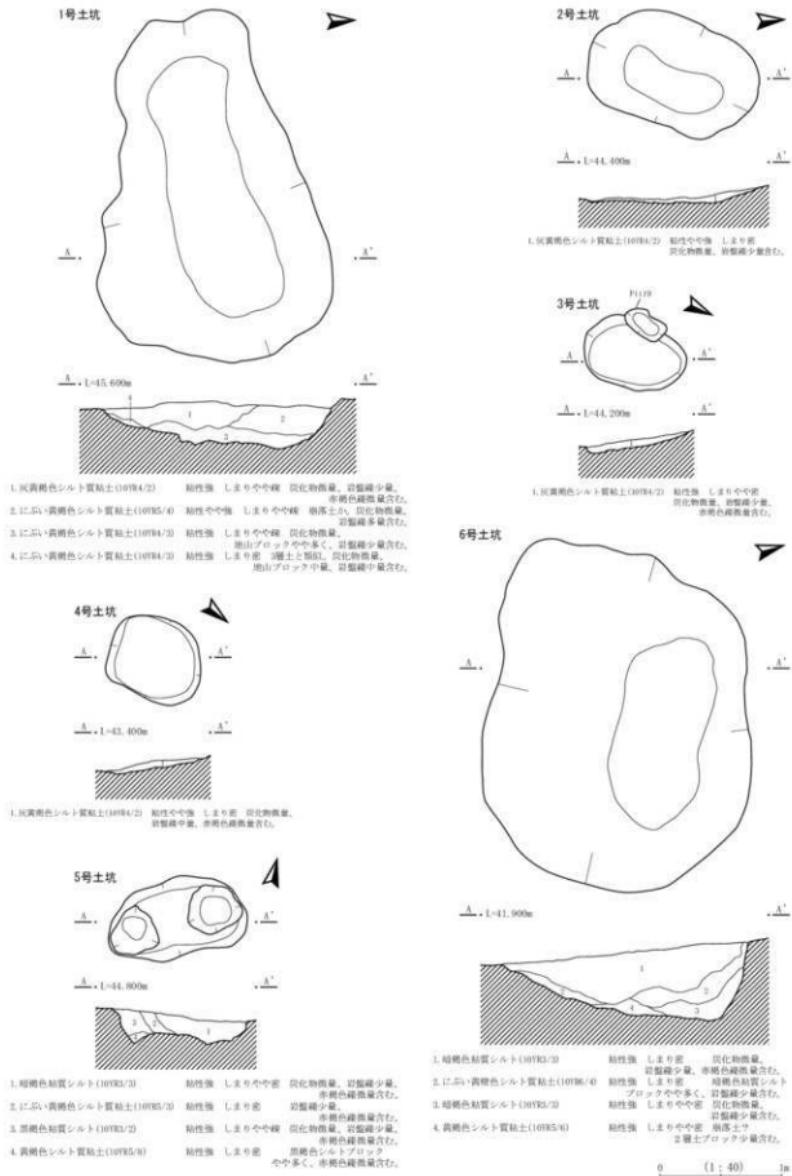
【その他の遺構との重複】Pit19と重複する。

【平面形】不整な楕円形。 【規模】85×65cm・深さ5cm

【埋土】1層のみ確認したが、上記の通り、遺構上部がほとんど消失している。灰黄褐色シルト質粘土を主体とし、炭化物が混入する。

【底面・壁】IV層面を底面とした。ほぼ平坦であるが、北側が高く、南へと傾斜している。壁は全周する。緩やかに広がりながら立ち上がる。

【出土遺物】なし。



第23図 土坑1

〔性格〕 不明。

〔時期〕 出土遺物がなく、時期判断は難しいが、貝層と隣接しており、その位置関係から本遺構は縄文時代前期中葉に帰属すると推測する。

4号土坑（第23図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 調査区中央 I B 4 j グリッドに位置する。IV層上面で検出した。本遺構は表土により遺構上部の大半を消失している。

〔その他の遺構との重複〕 なし。

〔平面形〕 不整な楕円形。 〔規模〕 79×65cm・深さ5cm

〔埋土〕 1層のみ確認したが、上記の通り、遺構上部がほとんど消失している。灰黄褐色シルト質粘土を主体とし、炭化物が混入する。

〔底面・壁〕 IV層面を底面とした。ほぼ平坦であるが、北側が高く、傾斜している。壁はほぼ全周する。大きく広がりながら立ち上がる。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明。

〔時期〕 出土遺物がなく、時期判断は難しいが、貝層と隣接しており、その位置関係から本遺構は縄文時代前期中葉に帰属すると推測した。

5号土坑（第23・26図、写真図版6・24）

〔位置・検出状況〕 調査区中央 I B 3 h グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

〔その他の遺構との重複〕 なし。

〔平面形〕 不整な長楕円形。 〔規模〕 115×68cm・深さ25cm

〔埋土〕 4層からなる。暗～黒褐色粘質シルト（1・3層）を主体とし、黄褐色シルト質粘土（2・4層）を挟む。全体的に疊、赤褐色粒子が混じる。

〔底面・壁〕 IV層面を底面とした。ほぼ平坦で、長辺の両端は丸く窪む。壁は全周する。部分的に直立するが概ね緩やかに広がりながら立ち上がる。

〔出土遺物〕 埋土中から縄文土器が出土している。小片のみで、1点掲載した（57）。大木6式の深鉢口縁部片である。幅広の沈線が巡り、刺突文が巡る。

〔性格〕 不明。

〔時期〕 出土した土器の年代から縄文時代前期末葉、大木6式期と判断した。

6号土坑（第23・25～27図、写真図版6・23・24）

〔位置・検出状況〕 調査区南側 I C 3 d、I C 4 d グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

〔その他の遺構との重複〕 8号土坑と重複し、本遺構の方が新しい。

〔平面形〕 歪な楕円形。 〔規模〕 295×240cm・深さ60cm

〔埋土〕 4層からなる。暗褐色粘質シルト（1・3層）を主体とし、にぶい黄橙色～黄褐色シルト質粘土（2・4層）を挟む。

〔底面・壁〕 IV層面を底面とした。ほぼ平坦である。壁は全周する。南側は大きく広がりながら立ち上がり、北側は直立気味である。

〔出土遺物〕 埋土中から縄文土器、石器、石製品が出土している。他の土坑と比べ、遺物の出土量は多い。

縄文土器は19点掲載した（38～56）。38は深鉢の大型破片である。胴部が膨らみ、口縁部が大きく外反する器形が復元できた。口唇部に貼付隆帯が付き、緩やかな波状文を描く。また頭部下にも貼付隆帯による波状文と曲線状文が横位に巡る。39は深鉢の口縁部片で38と同様な器形と推測する。口唇部に2段の貼付隆帯による波状文が付き、また口縁部については、外面が無文であるが、内面には貼付隆帯による波状文、曲線状文が付く。40は深鉢の大型破片で、直線的に外へと開く器形と推測する。口縁部は肥厚しており、短い貼付隆帯による波状文が付く。貼付隆帯の間隔から4単位であった可能性が高い。また胴部にも横U字状の貼付隆帯が並ぶ。41は胴部片で地文を施文後、大木3式の特徴の1つである沈線による円文と、大木4式の特徴である貼付隆帯による波状文が両方付く。大木3式から大木4式へと移行する過渡期の土器である可能性が高い。42、43は深鉢の胴部片で、38と同様な貼付隆帯が付く。44は40に類似する器形で、無文の口縁部直下に43と同様な貼付隆帯が付く。45は口縁部から胴部上半が残存する深鉢で、胴部が緩やかに膨らみ、口唇部が外へと屈曲する器形である。口唇部には貼付隆帯が付くが、ひどく剥離しており、文様の意匠は不明である。口縁部は無文であるが、その直下に幅広の貼付隆帯が横位に3条、また短い貼付隆帯が縦位に3条付く。46は深鉢の胴部片で大きく膨らむ器形と推測する。全体に細い貼付隆帯による矢羽根状、梯子状文が描かれている。

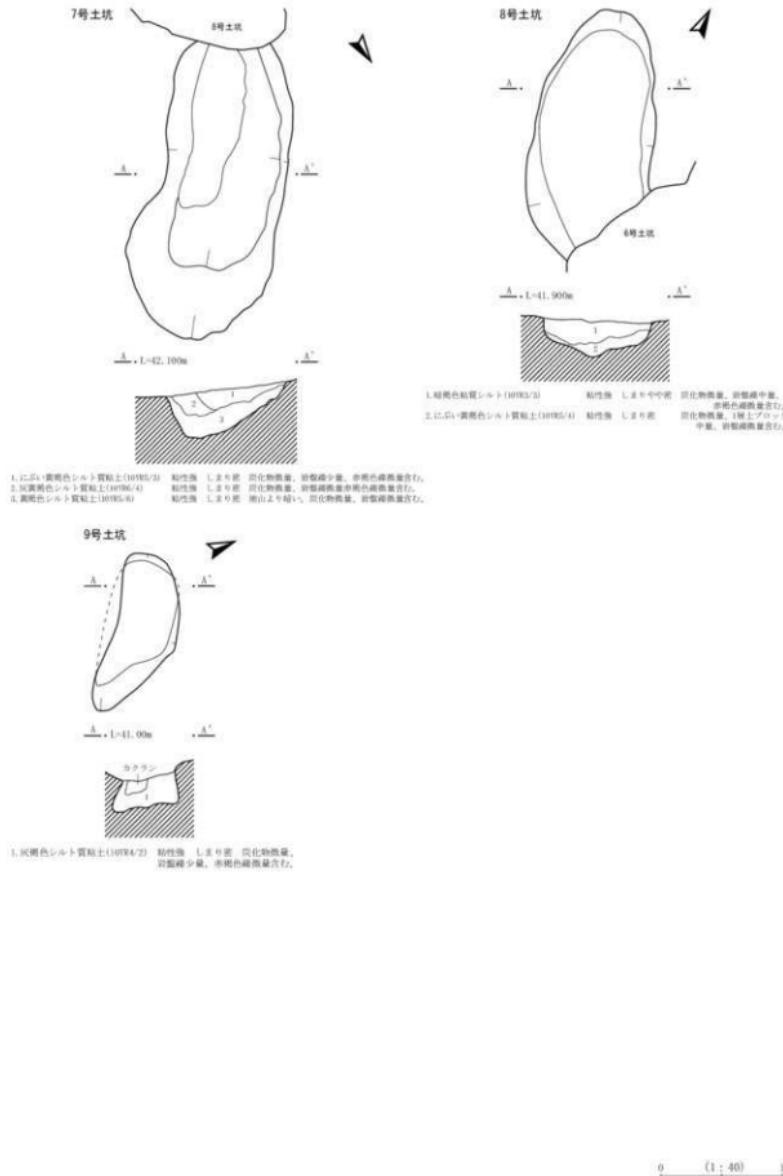
上記の土器群とは時期が異なる土器片も見受けられる。47・48は大木3～4式と推測する。47は深鉢口縁部片で刺突文を加えた貼付隆帯が直線状と鋸歯状に巡る。48も深鉢口縁部片であるが、地文を施文後、半裁竹管状工具による平行沈線で鋸歯状文が横位に巡る。49は深鉢胴部片で円形刺突文を加えた貼付隆帯が2条横位に巡る。大木4式と判断したが、もう少し新しい可能性がある。50は深鉢胴部片で平行沈線に円形のボタン状の貼付文が付く。大木6式と推測する。51は大木7a式と推測する。口縁部の波底部下に隆帯による円文と縦位の隆帯が付き、また沈線が充填される。口縁部と胴部は隆帯で区画されており、また胴部には、単節縄文が横位に巡り、結節部が明瞭に残る。52・53は地文のみの深鉢で、單軸絡条体1類が施文されているので、大木5a式ではないかと推測する。55は浅鉢としたが、鉢に近い器形である。口唇部に舌状の突起が付く。口縁部から胴部上半は縄文が施文されるが、胴部下半は無文である。大木4～5a式の範疇と推測する。56も浅鉢としたが鉢か。無文で外面に輪積み痕が残る。時期は不明だが大木4～5a式の範疇か。

石器は5点掲載した（64～68）。64、65は石鏃で、大きさと形態はやや異なるがどちらもI類である。64は体部に自然面が残る。66は尖頭器I類で、厚みのある木の葉状の形態である。一端は銳利に作出され、もう一端（実測図の上端）は平らに整形されている。67は赤色頁岩製の不定形石器で、一部欠損する。自然面の残るフレイクを素材とし、片側縁辺のみ刃部を作出している。68は石核状石器で、厚みのある球体を呈する。一部自然面が残るが、ほぼ全面剥離する。ただし縁辺の広い範囲で加撃によるものと推測する階段状剥離が見受けられ、フレイクを排出するための剥離作業をおこなったものではないと判断し、石核状石器とした。

石製品は1点掲載した（69）。滑石製の球状耳飾りである。欠損品で、1/2程度残存する。全体に研磨痕が見受けられる。また基部側に1箇所穿孔されているが、器面に対して斜めに穿孔している。補修孔であろうか。

【性格】不明。

【時期】出土した土器の年代はやや幅があるが、最も出土量の多い縄文時代前期中葉を本遺構の時期と判断した。



第24図 土坑2

7号土坑（第24図、写真図版6）

【位置・検出状況】調査区南側 I C 3 c、I C 3 d グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】8号土坑と重複し、本遺構の方が古い。

【平面形】不整な長椭円形。 【規模】(239) × 120cm・深さ35cm

【埋土】3層からなる。黄褐色系のシルト質粘土が堆積し、全体的に炭化物や礫が混じる。

【底面・壁】IV層面を底面とした。丸く窪む。壁は全周する。西側は緩やかに広がりながら立ち上がり、東側は直立気味である。

【出土遺物】図示していないが、石器が出土している。

【性格】不明。

【時期】出土遺物からは、時期判断は難しいが、重複する6号、8号土坑の時期から、本遺構は縄文時代前期中葉に帰属すると推測した。

8号土坑（第24・26図、写真図版6・24）

【位置・検出状況】調査区南側 I C 3 d グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】6号土坑と重複し、本遺構の方が古い。

【平面形】不整な長椭円形。 【規模】(200) × (100) m・深さ27cm

【埋土】2層からなる。埋土上位は暗褐色シルトを、埋土下位にはぶい黄褐色シルト質粘土を主体とする。

【底面・壁】VI層土面を底面と推定した。丸く窪む。壁は全周する。わずかに外へと広がるが直立気味である。

【出土遺物】埋土中から縄文土器が出土している。1点掲載した(58)。大木4式の深鉢口縁部片で、口縁部が大きく外反する器形と推測される。地文として単節縄文を施文し、頸部には貼付隆帯による波状文が横位に巡る。

【性格】不明。

【時期】出土遺物から縄文時代前期中葉に帰属すると判断した。

9号土坑（第24図、写真図版6・24）

【位置・検出状況】調査区南側 I C 6 c グリッドに位置する。IV層上面で検出した。

【その他の遺構との重複】なし。

【平面形】歪な楕円形。 【規模】130 × 60cm・深さ27cm

【埋土】灰褐色シルト質粘土を主体とする単層である。炭化物や礫が混じる。

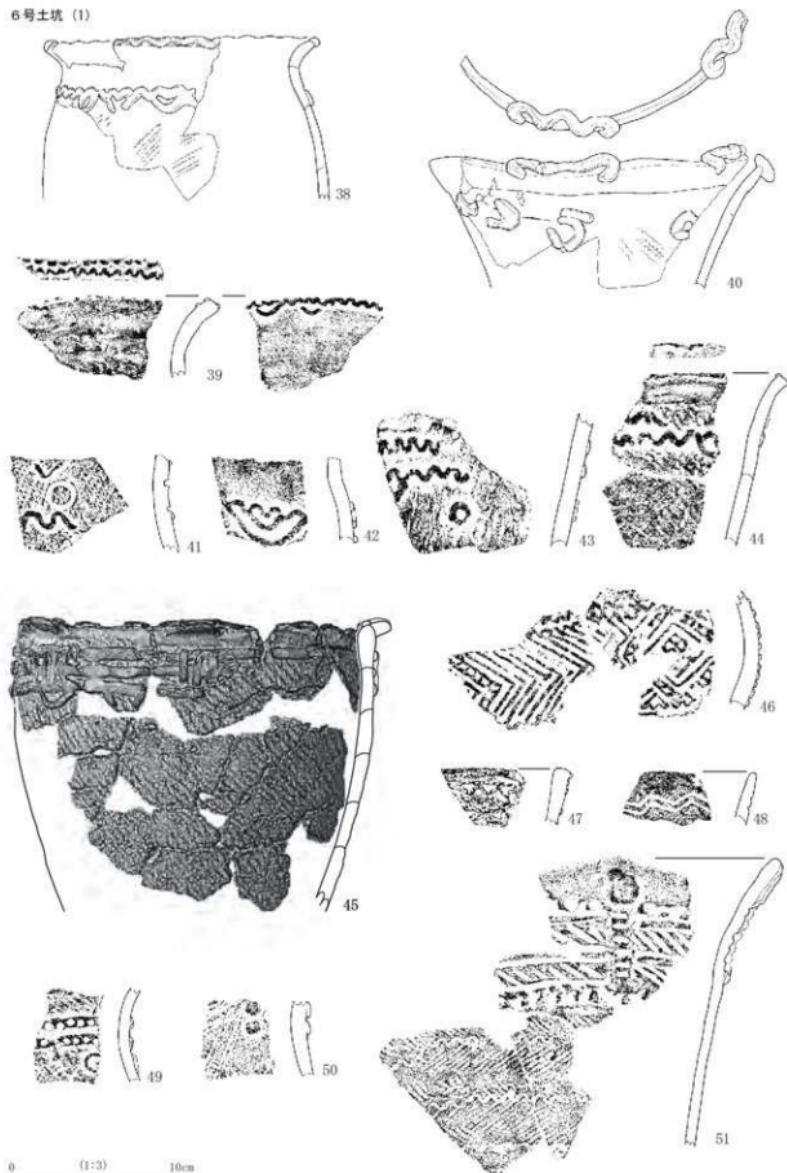
【底面・壁】VI層面を底面とした。平坦である。壁は全周する。緩やかに広がりながら立ち上がる。

【出土遺物】埋土中から縄文土器が出土している。2点掲載した(59・60)。59は深鉢口縁部片で口縁部は無文、頸部に隆帯が横位に巡る。胴部は地文（単軸絡条体1類）のみである。大木5式の範疇と推測する。60は深鉢口縁部片でS字状連鎖沈文が横位に巡り、また、刻みを施した隆帯が付される。大木2b式と判断した。

【性格】不明。

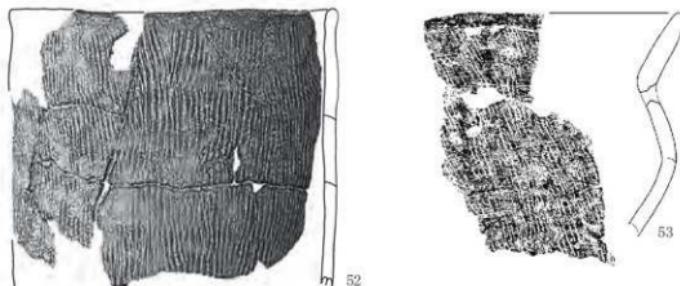
【時期】出土遺物は時期幅が広く、時期判断は難しいので、周辺の土坑の時期を参考として、縄文時代前期中葉と判断した。

6号土坑 (1)

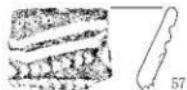


第25図 土坑出土遺物 1

6号土坑 (2)



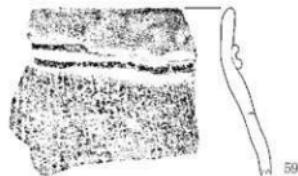
5号土坑



8号土坑



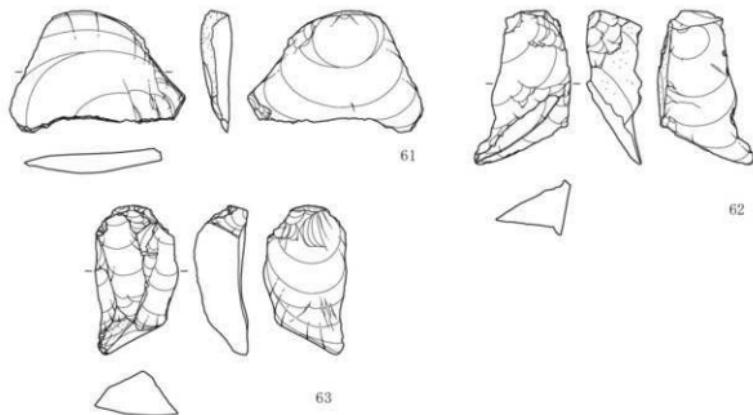
9号土坑



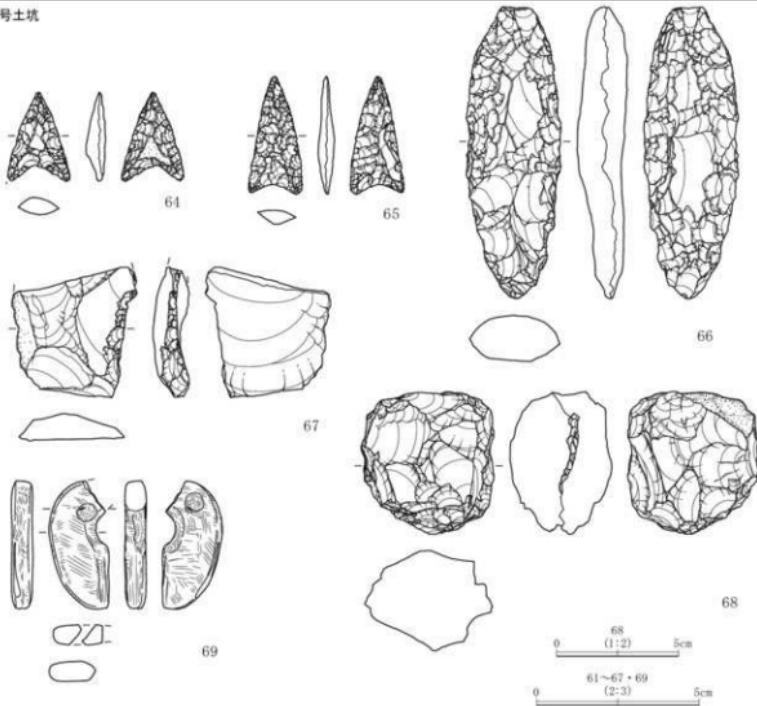
0 (1:3) 10cm

第26図 土坑出土遺物2

1号土坑



6号土坑



第27図 土坑出土遺物3

(3) 貝 層

【位置・検出状況】調査区中央 IB 6 f、IB 6 g、IB 6 h、IB 7 f、IB 7 g、IB 7 h、IB 7 i グリッドに位置する。Ⅲ a 層土を掘り下げ、遺構検出を進めたところ、上記グリッドの範囲で、細かい破碎貝の広がりを確認し、この範囲を貝層と判断した。

また貝層よりも東側（斜面下方）には、貝類や獸骨が多く混じる土層が堆積していた。検出当初はこの範囲も貝層と考えていたが、土色などから貝層ではなく、その上面に堆積したⅢ a 層であることが判明した。このことから貝層中の動物遺存体は一部が貝層の外へと流れ出ていることが判明した。

第28図上には、上記のⅢ a 層を取り除き、貝層と判断できた範囲を図示した。

【立地】標高43~41mの東向き斜面地に立地する。斜面の傾斜は20~25°である。

Ⅲ b 層上のやや疊んだ地形に貝類、動物遺存体や土器片、石器などが堆積し、貝層を形成している。【その他の遺構との重複】なし。

【貝層全体の規模・平面形】北西から南東にかけ長く、14.5×5.0mを測る。面積は46m²である。

平面形は長楕円形を基調とするが、突出している部分があり、非常に歪な平面形をなしている（第28図上）。これは下記に示す、68枚の堆積層が広く重なった結果であり、元々このような平面形をなしていたわけではない。

【堆積層の概要】貝類や魚・獸骨などを廃棄した「まとまり」と捉えることを目的として分層を試みた。

68枚（層）の堆積層を確認した。第28図中央に示した図は全ての堆積層を一括で重ねた状況を示している。かなり複雑に重複していることが見て取れ、絶え間なく貝類や魚・獸骨が廃棄されていたことが窺える。

各堆積層の属性や特徴については第5表に記した。全ての堆積層は粘質シルトないしシルト質粘土を主体とする「混貝土層」か「土層」である。土色は黒褐色、暗褐色、灰黃褐色を基本とし、貝類が多く混入する層は、にぶい黄橙色などに変色している。

貝類や魚・獸骨の混入は各堆積層で見受けられ、全く混入しない堆積層はない。貝類や魚・獸骨の混入量は、混貝土層で土壤の1~4割、土層は土壤の1割以下であった。

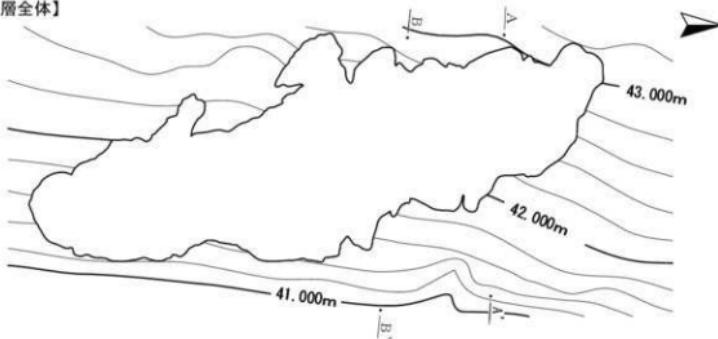
【堆積層の平面形・規模】各堆積層の平面形は第30~52図に示した。平面形はいずれの堆積層も歪で、また一様ではない。なお斜面の傾斜と堆積層の広がりに関連性は無いように見受けられた。

各堆積層の規模は、最も大きい4層で5.5m²、最も狭い64層で0.8m²を測る。他はこの範疇であるが、概ね1.3~2.0m²前後である。層厚は薄い層で2cm、厚い層では20cmを測る。

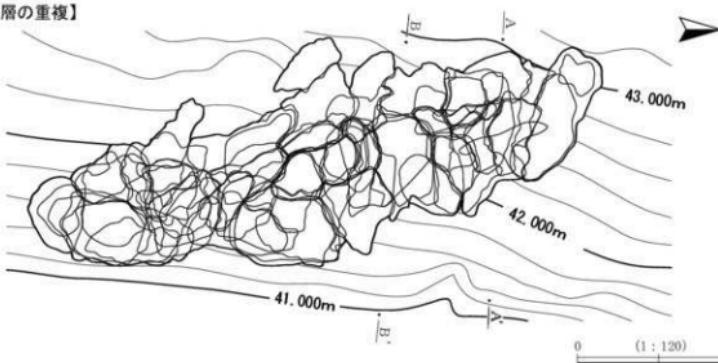
また各堆積層の土壤総量を第5表に記した。これは層中の動物遺存体だけでなく、土器や石器、また土壤そのものを含めた総量である。最も多い30層が727,700cc、最も少ない34層が38,700ccである。他は概ね100,000~200,000ccの範疇に収まる。

【各堆積層の広がりと重複関係】第30~52図には隣接し重複する堆積層と垂直に重複する層を合わせて図示した。また2箇所で断面観察を行ったが、堆積層の垂直方向の重なりは3~5層分程度（第28図下の断面図 A-A': 50層・52層・67層 B-B': 49層・46層・52層・57層・62層）であり、全ての堆積層が垂直に重なっているのではなく、むしろ横方向に分布し（第28図中央）、重複し合っている。【堆積層の新旧関係と3つのグループ】各堆積層は主に水平方向に分布し、古い堆積層の上や隣接地に堆積する。全てが垂直方向には堆積していないが、各堆積層が重複しているので、全ての堆積層には新旧関係がある。第29図には各堆積層の新旧関係を示した。これは堆積層どうしの重複関係から推測しているが、一部、矛盾が生じてしまった。

【貝層全体】

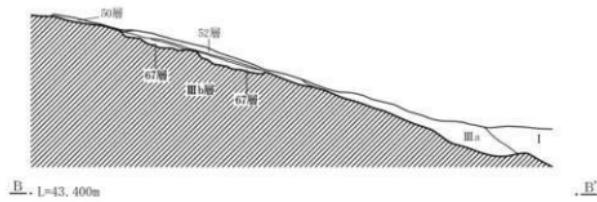


【各層の重複】



【貝層断面】

Δ , I=43,400m \triangle



第28図 貝層範囲

各堆積層の新旧関係は、Ⅲ b 層に近い、貝層の下位に相当する層は旧く、貝層の上位に相当する層は新しいと判断する。ただし 7 層はそれほど古くないと判断した層だが、下はⅢ b 層に至っており、このような層もある。これは貝層が形成されてからしばらく経過した後、それまで貝層が分布していなかった場所に貝類や魚骨が廃棄されたためではないかと推測する。28 層は重複する層もあるが、一部、層下がⅢ b 層に至っており、7 層と同様と考える。

また堆積層の新旧関係とそれぞれの位置関係から堆積層は以下の 3 つのグループに大別できる。

A 群（第29図左）

貝層の南側に分布する、2・4～19・25 層で構成される一群である。

2・4 層は貝層でも上層に相当し、また土質がⅢ a 層に類似していることから二次堆積層ではないかと推測するが、他は一次堆積層と判断した。

最も古いと判断した 25 層から始まり、2～3 層（枚）の堆積層があり、概ね貝層の終焉時期まで貝類や魚・骨の廃棄が繰り返されたと推測する。ただし、後述する B 群と比べて層数が少ないと、また混貝土層よりも土層が多い（4・7・12・13・14・16・25 層）ことから、次に述べる B 群と比べて、貝層内の使用頻度は薄かった可能性もある。

なお貝層の最下層に相当する 18・19・25 層の下に堆積するⅢ b 層で、To-Cu テフラがブロック状に混入するのを確認した。

B 群（第29図中央）

貝層の中央から北側に分布する、3・20～24・26～31・33・35・36・38～51・53～59・61～65・67・68 層で構成される一群である。

3 層は貝層の上位に相当し、また土質がⅢ a 層に類似することから二次堆積層と判断したが、他は一次堆積層と判断した。構成する堆積層の多くは混貝土層である。

A 群と比べて堆積層が多く、また第29図に示したように、B 群内でもさらに小さなグループが見受けられる。

まず最も古いと判断した 67・68 層から始まり、65 層へと続く一群がある。この一群は概ね近い場所で 50・55・58・61・63・64・65 層が重複し、他に 56・57・59 層とも重複している。他に 62 層から始まる一群と 40 層から始まる一群が見受けられる。これらは一部、27 層が最上層となるが、最終的には 20～24・26・28～33 層の一群に集約され、貝層の終焉時期まで至ると推測される。A 群と比べると近い場所で何度も貝類や魚・骨の廃棄が繰り返され、貝層が形成されていったことが窺える。

28・40・62・67・68 層は貝層の最下層で、層下はⅢ b 層に達している。28 層は、部分的にⅢ b 層に達しているだけであるが、その層中から To-Cu テフラがブロック状で混入するのを確認した。

C 群（第29図右）

貝層の北側に分布する、1・32・34・37・52・60・66 層で構成される一群である。

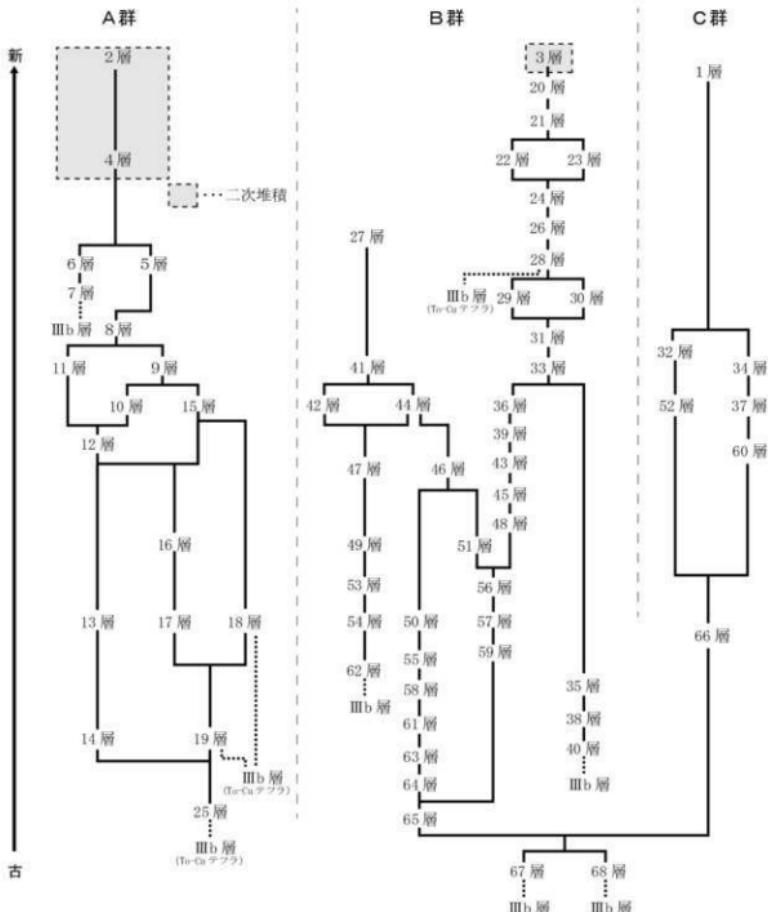
34・66 層は混貝土層で、その他の堆積層は土層である。

貝類は少ないが魚・骨、土器片の混入が多いのが特徴で、1 層はマグロを主体とした魚骨が多く、32 層はイルカ類の頭蓋骨や椎体が、また 37 層は土器片の混入が目立っている。そういった点で A・B 群とは様相を異なる一群と言える。

B 群の最も古い堆積層である 67・68 層とも重複しており、それが 66 層へと続き、32・52 層、34・37・60 層の 2 箇所に分かれるが、最終的に 1 層に集約される。各堆積層の重複の在り方は、A・B 群とはやや異っており、特定の魚・骨、土器片などを一括廃棄した範囲であることが推測される。なお 1 層は貝層の最上層に当たり、全ての堆積層の中で、最も新しいと判断している。

【貝層の時期】貝層の下位から中位の堆積層から縄文時代前期中葉、大木3式に比定される土器が、一方、貝層上層から貝層上面にかけは大木4式に比定される土器がまとまって出土している。したがって貝層の時期は大木3式期から大木4式期にかけてと判断する。

なお、10・17・18・36・40・43・45・46・50・51・52・54・57・61・62・63・64・66・67層の層中から出土した炭化物について、放射性炭素年代(AMS)測定を行っており、 $5,220 \pm 30$ yrBP (67層)から $4,980 \pm 30$ yrBP (17層)に収まる結果を得ている(第Ⅶ章-1)。



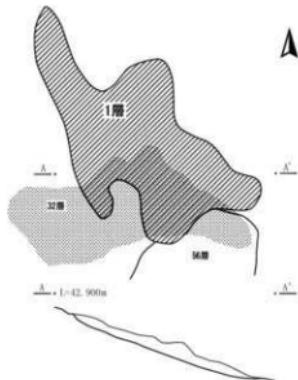
第29図 貝層 堆積層新旧関係

第5表 貝層観察表

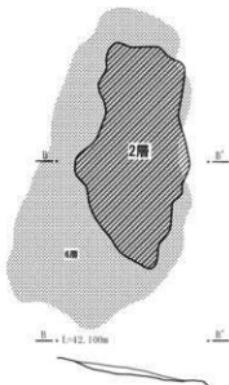
番号	層の種類	厚さ(cm)	土質 (土色)	粘性	しまり	土量 (cc)	混入度 (目視)	貝層の特徴
1	土層	10	黒褐色粘土シルト (10YR2/2)	やや薄	やや密	48,910	5%以下	最上部で、魚骨(マグロ主体)と歯骨(イルカ主体)が多く混じる。
2	混貝土層	10	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	薄	やや密	158,000	20%	土質はⅢa層に類似し、二次堆積層の可能性がある。破碎貝は混入する。
3	混貝土層	5	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	やや薄	やや疎	208,800	20%	土質はⅢa層に類似し、二次堆積層の可能性がある。貝類の混入は2層より少ない。
4	土層	5	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	強	密	267,200	10%	土質はⅢa層に類似し、二次堆積層の可能性がある。貝類は少ない。
5	混貝土層	5	暗褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	弱	密	179,700	30%	土量が少ない間に、細かい破碎貝が多く混入する。
6	混貝土層	15	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	強	やや密	428,900	20%	細かい破碎貝が主体で、万遍なく混じるが少ない。また大きな土塊片が目立つ。
7	土層	8	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	強	やや密	217,400	5%	貝類は大きいか破碎貝が多い。貝類が主体だが、層全体に万遍なく混じる。本層は地山(Ⅲb層)である。
8	混貝土層	5	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/4)	強	密	98,300	20%	比較的大きい破碎貝が多い。目視でスガイ・レイシガイ・イガイを確認した。
9	混貝土層	5	褐色シルト質粘土 (10YR2/4)	やや弱	疎	125,600	40%	間引いた層と比べ、貝類が多い。大きい破碎貝が主体で、目視でスガイ・レイシガイを確認。
10	混貝土層	5	暗褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	やや強	やや疎	168,300	40%	9層より貝類が多い。範囲を本層とした。層上位に黒褐色シルト質粘土が1cm程度埋積する。
11	混貝土層	2	暗褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	強	やや疎	99,500	30%	8層より貝類が多い。範囲を本層とした。細かい破碎貝が層全体に万遍なく混じる。
12	土層	15	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	強	密	471,310	10%	混貝土層に挟まれた岡層(土層)。貝類は少ないが、目視でスガイを確認した。
13	土層	20	にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR4/3)	強	密	175,800	10%	貝層Ⅲb位に相当し。層中に地山プロック(苔巣土)が少量混じる。細かい破碎貝が主体で、ツメクサを確認した。
14	土層	20	暗褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	強	密	189,500	10%	開削した13層と土質や混入物が類似する。ただし13層よりも貝類が少ない。
15	混貝土層	3	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	強	やや密	30,400	30%	間引いた層より貝類が多い範囲を本層とした。目視でスガイやアサリを確認した。
16	土層	3	灰黄褐色シルト質粘土 (10YR4/2)	強	やや疎	122,750	10%	8、12、15層(混貝土層)に挟まれた土層で、細かい破碎貝が主体で、層全体に万遍なく混じる。
17	混貝土層	6	灰黄褐色シルト質粘土 (10YR4/2)	強	やや疎	119,350	30%	貝層Ⅲb位に相当する。貝類は多く混じるが、細かい破碎貝が主体で、層全体に万遍なく混じる。
18	混貝土層	9	灰黄褐色シルト質粘土 (10YR4/2)	強	密	103,600	20%	貝層Ⅲb位に相当する。細かい破碎貝が微量、万遍なく混じる。層のⅢb層と火山灰ブロックを確認。
19	混貝土層	5	暗褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	強	やや疎	116,400	20%	貝層Ⅲd位に相当する。破碎貝が主体で層中に万遍なく混じる。層のⅢb層と火山灰ブロックを確認した。
20	混貝土層	10	暗褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	強	やや疎	150,400	20%	二次堆積の可能性がある3層の下、3層よりも貝類は少ないが、土質は一次堆積と判断した。
21	混貝土層	5	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	強	やや密	76,300	40%	間引いた層より貝類が多い。大きな破碎貝が多く、歯骨の混入も目立つ。
22	混貝土層	11	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	強	密	234,150	40%	貝層Ⅲb位に相当する。貝類が多く、範囲を本層とした。大きい破碎貝が多く、目視でスガイやイガイを確認。
23	土層	3	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	強	やや密	146,900	5%以下	混貝土層に挟まれた薄い土層でわずかに貝類が混じる。層の東西端に破碎貝の塊を確認した。
24	混貝土層	5	灰黄褐色シルト質粘土 (10YR4/2)	やや弱	やや疎	63,600	20%	隣接する層(混貝土層)と比べ、貝類は少ない。破碎貝が主体で層中に万遍なく混じる。
25	土層	3	暗褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	やや弱	やや密	209,200	5%以下	貝類の最も下層に相当し、本層下は地山(Ⅲb層)である。土層としたが破碎貝がわずかに混じる。
26	土層	5	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	やや弱	やや密	94,600	10%	貝類は少ない。混入する貝は破碎貝で、層中に万遍なく混じる。
27	混貝土層	11	暗褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	やや強	やや密	102,900	30%	最上層に相当し、貝類が多く混じる。ただし木根によりやや搅乱されている。
28	混貝土層	9	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	強	密	190,700	40%	混土層に近い。大きい破碎貝が主体でオキシジミを確認した。また黒褐色粘土ブロックが混じる。
29	土層	3	灰黄褐色シルト質粘土 (10YR4/2)	やや弱	やや疎	60,700	5%以下	貝層Ⅲb層に相当し、貝類は部分的に偏在し、特に東側で貝類が増加する。
30	土層	15	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	やや強	やや疎	727,700	5%以下	範囲広く、細かい破碎貝がわざかに混じる程度。土質はⅢa層と同様。
31	混貝土層	8	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/2)	強	やや疎	69,800	30%	破碎貝が多く混じる。大きい破碎貝も目立つが、目視で種類が分らる貝類は確認できない。
32	土層	10	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	やや強	やや密	86,300	5%以下	1層と同様で、歯骨貝が多く混じる。ただし1層よりマグロは少なく、イルカの椎骨が目立つ。
33	混貝土層	10	にぶい黄褐色～ 黒褐色シルト質粘土 (10YR3/4-10YR2/2)	強	密	111,900	40%	貝類は多くの混貝土層に近い。貝類は部分的に偏在し、特に東側で貝類の土色は黄褐色に変色する。
34	混貝土層	3	黒褐色シルト質粘土 (10YR2/3)	やや強	やや密	38,700	20%	1層と3層に挟まれる混貝土層。破碎貝が主体だが、少量である。

番号	層の種類	層厚 (cm)	土質 (土色)	粘性	しまり	土量 (cc)	混じ度 (目視)	貝層の特徴
35	土層	3	にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR 4/3)	やや強	やや疊	58,900	5%以下	貝層の最下部に相当する。混じ土層に挟まれた間層(土層)で、細かい破砕貝がわずかに混入する。
36	混じ土層	3	黒褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	やや強	やや疊	322,500	30%	貝層は多いが破砕貝が主体である。また貝類は層中に偏在する。
37	土層	3	灰褐色シルト質粘土 (10YR 4/2)	強	やや疊	111,200	5%以下	1・2層と類似し、土器、石器、魚・貝骨を多く含む。貝類は細かい破砕貝がわずかに混じる。
38	混じ土層	15	灰褐色シルト質粘土 (10YR 4/2)	強	密	185,100	40%	貝層は多く混じ土層に近い。また目視でスガイ、レイシガイを確認した。
39	混じ土層	2	暗褐色シルト質粘土 (10YR 3/3)	強	やや疊	45,100	20%	隣接する層より貝類が少ない。細かい破砕貝が主体で万遍なく混じる。
40	混じ土層	5	にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR 4/3)	強	やや疊	194,200	40%	貝層は薄いが貝類の混入が多く混じ土層に近い。ただしことんどが破砕貝である。
41	混じ土層	5	暗褐色シルト質粘土 (10YR 3/3)	強	密	229,800	30%	層の裏側に貝類が偏在する。大きい破砕貝が主体でエゾアワビを確認した。
42	混じ土層	5	にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR 4/3)	やや強	やや疊	85,200	20%	隣接する層と土質は類似するが、貝類が少ないので糞糞を本層とした。
43	混じ土層	10	暗褐色シルト質粘土 (10YR 3/4)	強	やや密	251,900	30%	細かい破砕貝が主体であるが、隣接する層と比べると貝類は少ない。また土器片が多く混じる。
44	土層	8	黒褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	強	密	138,800	10%	層の裏側で土質は a 層に類似する。破砕貝が少量混じり、また魚骨が立つ。
45	混じ土層	3	黒褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	強	密	162,500	30%	大きい破砕貝の層中に万遍なく混じる。目視でイワガキを確認した。
46	混じ土層	4	黒褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	強	密	288,500	20~30%	恵層は土層の貝混入量を類似しているが、本層の方が大きいか破砕貝が目立ち、目視でイワガキなどが確認できた。
47	混じ土層	4	黒褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	やや弱	やや密	144,000	40%	45層まで、本層の方が貝類が多い。破砕貝は大小確認できる。
48	土層	5	黒褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	強	やや密	126,600	10%	貝層間に挟まれた間層(土層)である。わずかだが破砕貝が万遍なく混じる。またカニの甲殻が混在した。
49	混じ土層	6	黒褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	強	密	82,400	20%	隣接する貝層よりも貝類は少ないが、破砕貝は比較的大きい。
50	混じ土層	3	暗褐色シルト質粘土 (10YR 3/3)	強	密	88,700	20%	土層に近い。細かい破砕貝が主体で、層中に万遍なく混じる。
51	混じ土層	11	灰褐色シルト質粘土 (10YR 4/2)	強	やや疊	282,500	30%	ベルトで断面を確認。スガイなど種類の分かれる貝類が多い。
52	土層	4	黒褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	強	密	89,100	10%	隣接する37層と類似するが、本層の方が貝類が少ない。概骨も混じるが32層よりも少ない。
53	混じ土層	5	にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR 3/3)	やや弱	やや疊	91,100	40%	貝類が多く、層全体が変色している。破砕貝が主体だが、スガイなど巻貝が目立つ。
54	混じ土層	4	にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR 3/3)	やや強	やや疊	80,500	30~40%	貝層の下位に相当するが、貝類は多く、大きな破砕貝やスガイやイシガイなどを確認した。
55	混じ土層	4	黒褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	強	密	52,400	20%	貝類は少ないが、大きな破砕貝が多い。
56	土層	8	暗褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	強	やや密	131,700	5%以下	貝層に相当する。混じ土層に挟まれた間層(土層)。細かい破砕貝がわずかに混じる。
57	土層	3	暗褐色シルト質粘土 (10YR 3/4)	強	やや密	167,200	10%	土質は隣接する56層に類似するが、本層の方が貝類は多い。シカの甲殻骨が出土した。
58	混じ土層	6	暗褐色シルト質粘土 (10YR 2/2)	強	やや密	72,000	40%	貝類の多く。大きな破砕貝が偏在的に集中する。鹿角が出土した。
59	混じ土層	6	にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR 3/3)	やや強	やや疊	76,900	30%	隣接する58層と土質は類似するが、土色が異なり、貝類は少ない。
60	土層	20	暗褐色シルト質粘土 (10YR 3/3)	強	密	389,800	5%以下	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・19・20層と類似する。概魚骨は少ないが、土器片、石器片がよく混じる。
61	混じ土層	4	灰褐色シルト質粘土 (10YR 4/2)	強	密	122,900	30%	貝層の下位に相当する。貝類は多く、大きな破砕貝やスガイやイシガイがやや偏在する。
62	混じ土層	3	にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR 3/3)	やや弱	やや密	94,600	30%	貝層の最下層に相当する。貝類が多いため、層全体が変色している。
63	土層	8	暗褐色シルト質粘土 (10YR 3/4)	やや強	やや密	108,500	10%	貝類の混入は少ないが、細かい破砕貝が層中に万遍なく混じる。
64	混じ土層	3	灰褐色シルト質粘土 (10YR 4/2)	強	やや密	62,800	30%	貝層の最下層に相当する。貝類が多く、大きな破砕貝や形狀の分かれた巻貝が立つ。
65	混じ土層	4	灰褐色シルト質粘土 (10YR 4/2)	やや強	やや疊	174,600	20%	隣接する層と比べて、貝類が少ない。破砕貝が万遍なく混じる。またスガイなどの巻貝を確認した。
66	混じ土層	6	暗褐色シルト質粘土 (10YR 2/4)	強	密	174,100	40%	貝類が多く混じ土層に近い。破砕貝が主体であるが、大小あり、それ程偏在する。
67	混じ土層	6	灰褐色シルト質粘土 (10YR 4/2)	強	やや密	316,600	40%	貝層の最下層に相当する。貝類が多く混じ土層に近い。層中には大きな破砕貝が万遍なく混じる。
68	混じ土層	7	黒褐色シルト質粘土 (10YR 3/2)	強	やや密	51,600	40%	貝層の最下層に相当する。貝類が多く混じ土層に近い。層中には大きな破砕貝が万遍なく混じる。

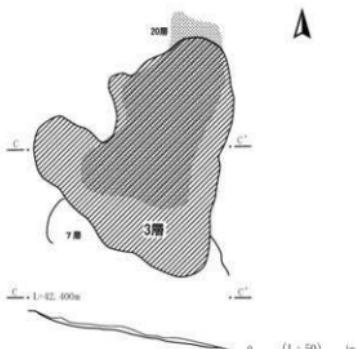
1層



2層



3層

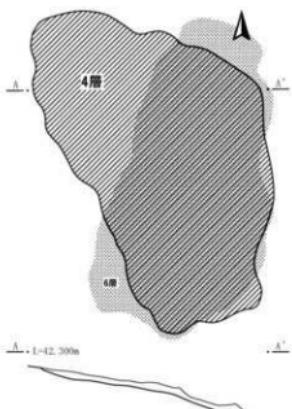


…堆積層

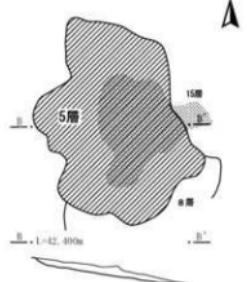
…重複し、下に重なる堆積層

第30図 貝層1～3層

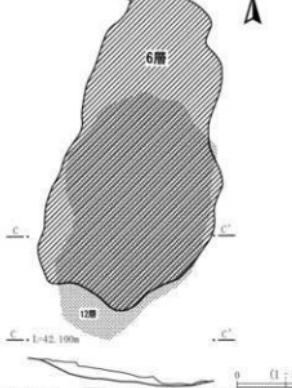
4層



5層



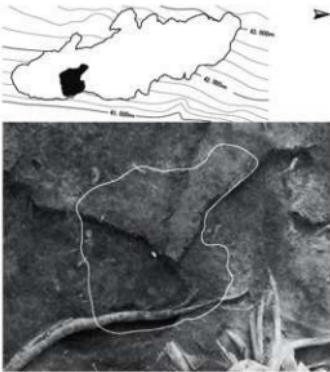
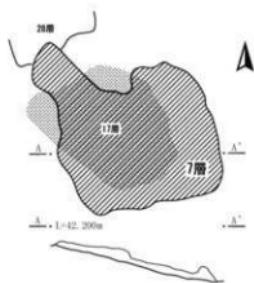
6層



■…堆積層 ■…重複し、下に重なる堆積層

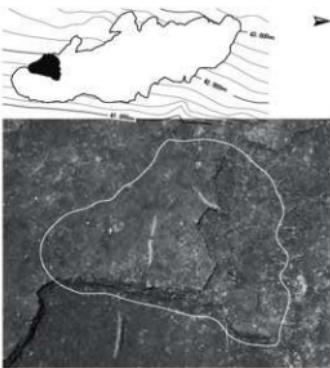
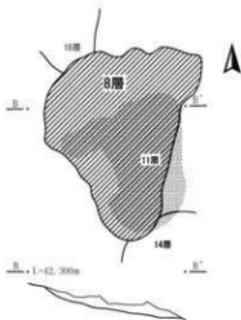
第31図 貝層 4～6層

7層



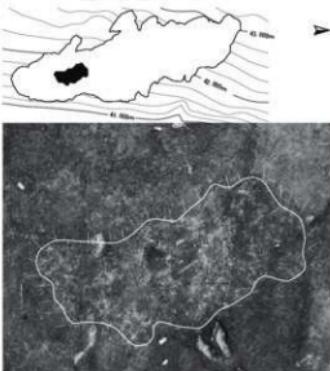
7層検出状況（直上。上が西）

8層



8層検出状況（直上。上が西）

9層

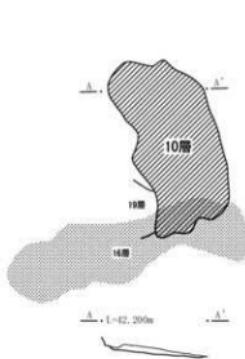


9層検出状況（直上。上が西）

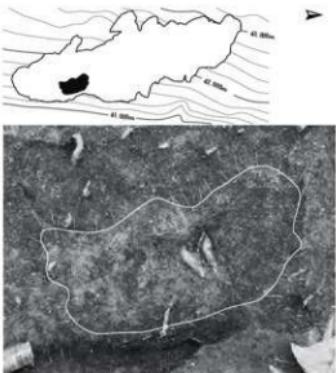
■…堆積層 ▨…重複し、下に重なる堆積層
第32図 貝層7～9層

0 (1 : 50) m

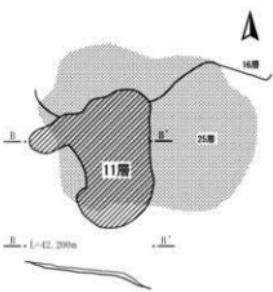
10層



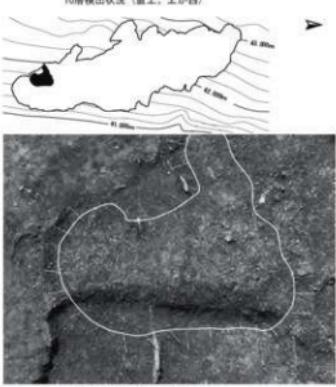
A



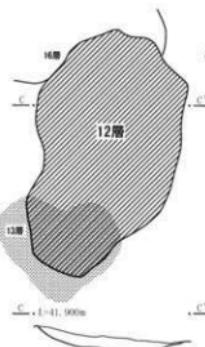
11層



A



12層

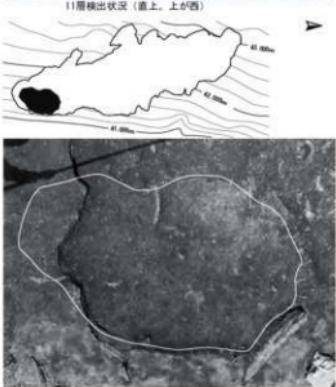


A

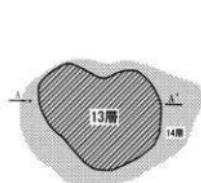
□…堆積層

▨…重複し、下に重なる堆積層

第33層 貝層10~12層



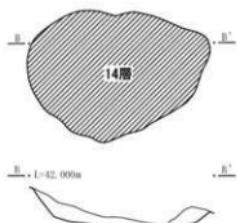
13層



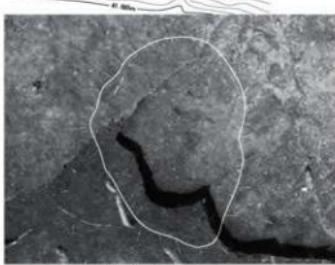
A



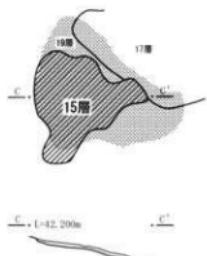
14層



B

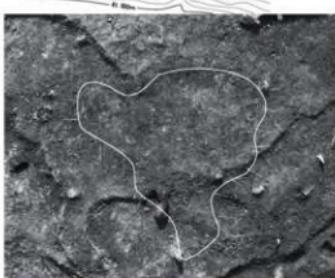


15層



C

0 (1 : 50) m

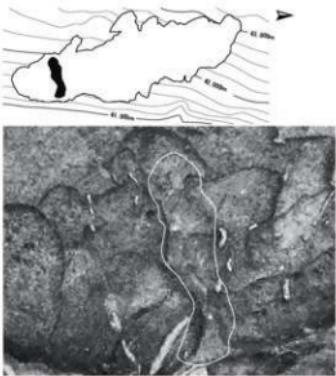
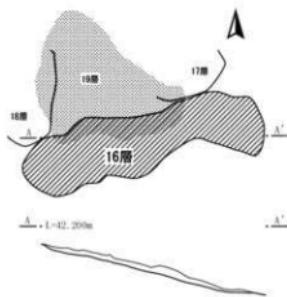


■…堆積層

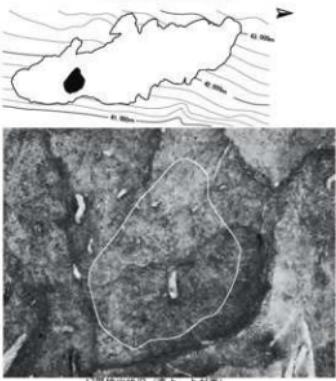
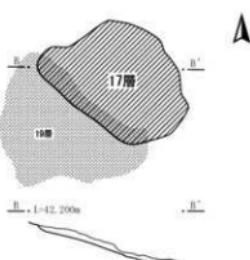
■…重複し、下に重なる堆積層

第34図 貝層13～15層

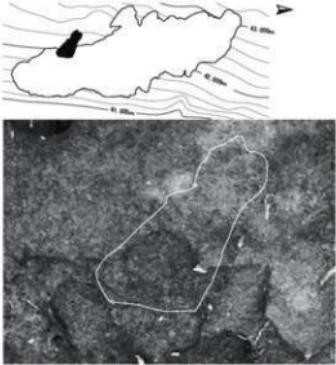
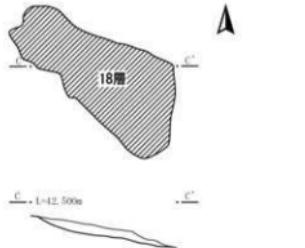
16層



17層



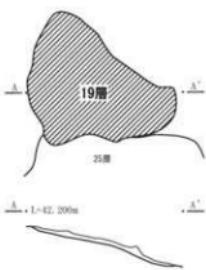
18層



■…堆積層 ▨…重複し、下に重なる堆積層

第35図 貝層16~18層

19層



A

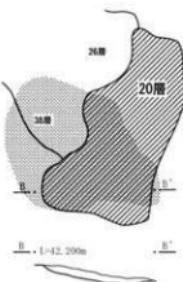


▲



19層検出状況（直上、上が西）

20層



A



▲



20層検出状況（直上、上が西）

21層



A



▲

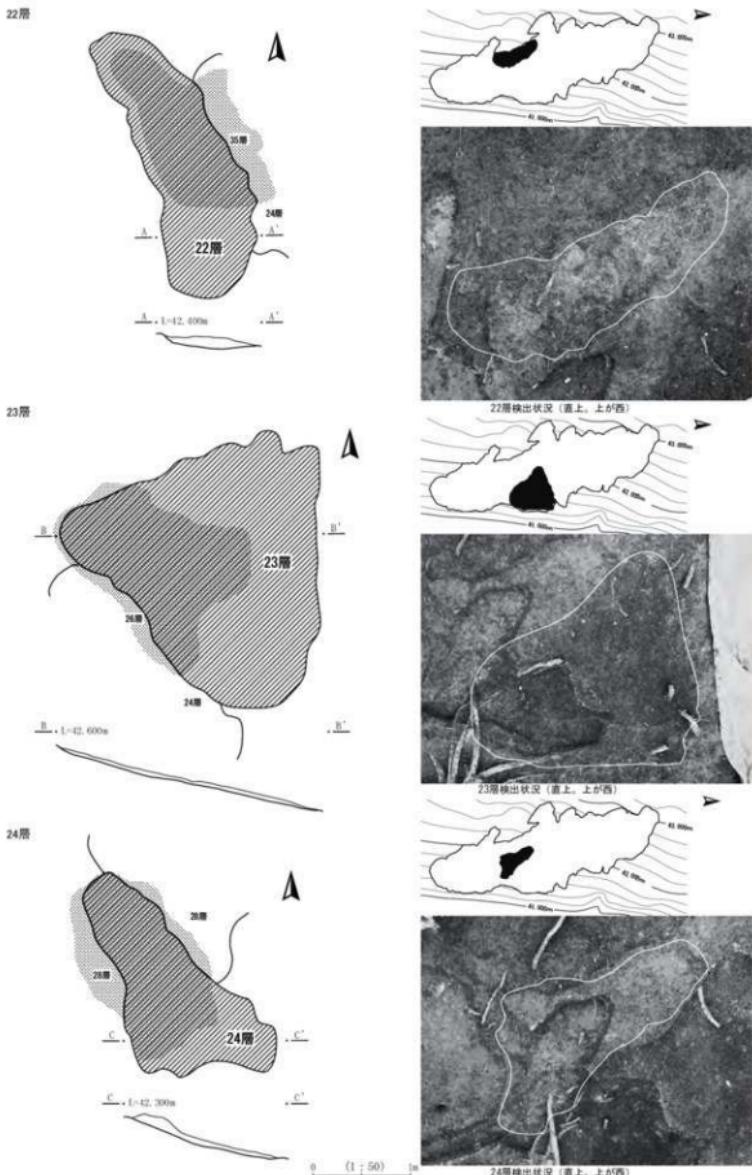


21層検出状況（直上、上が西）

■…堆積層

■…重複し、下に重なる堆積層

第36図 貝層19~21層



第37図 貝層22~24層

25層



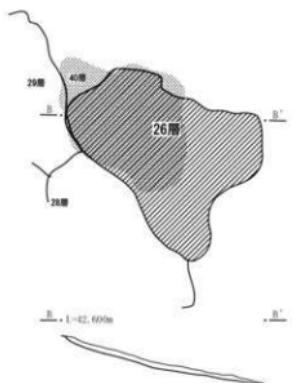
A



▲



26層



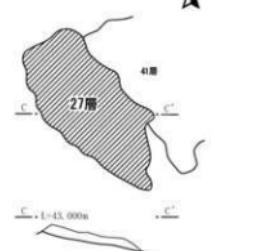
A



▲



27層



0 (1:50) 1m

■…堆積層

■…重複し、下に重なる堆積層

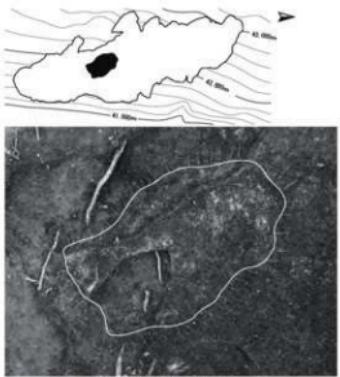
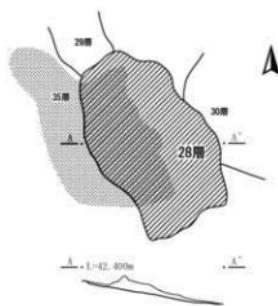


▲

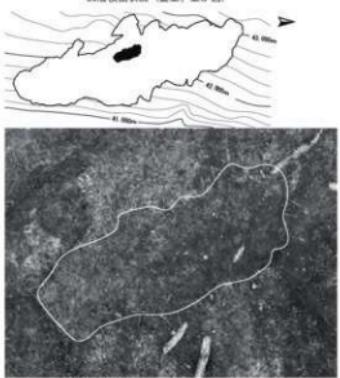
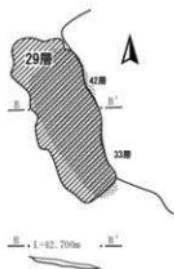


第38図 貝層25~27層

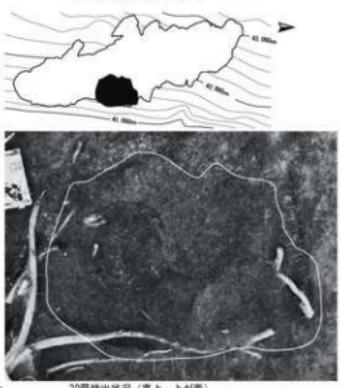
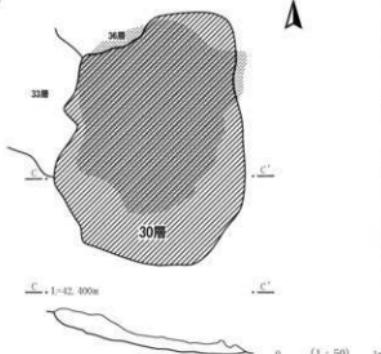
28層



29層



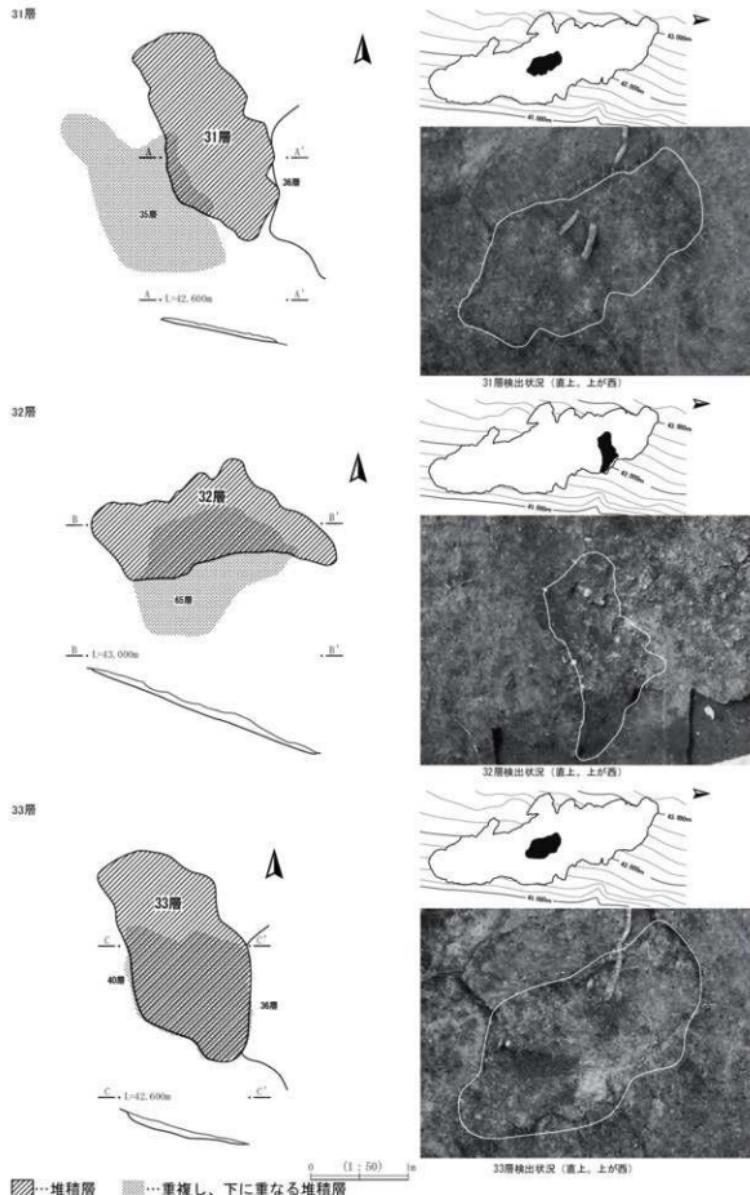
30層



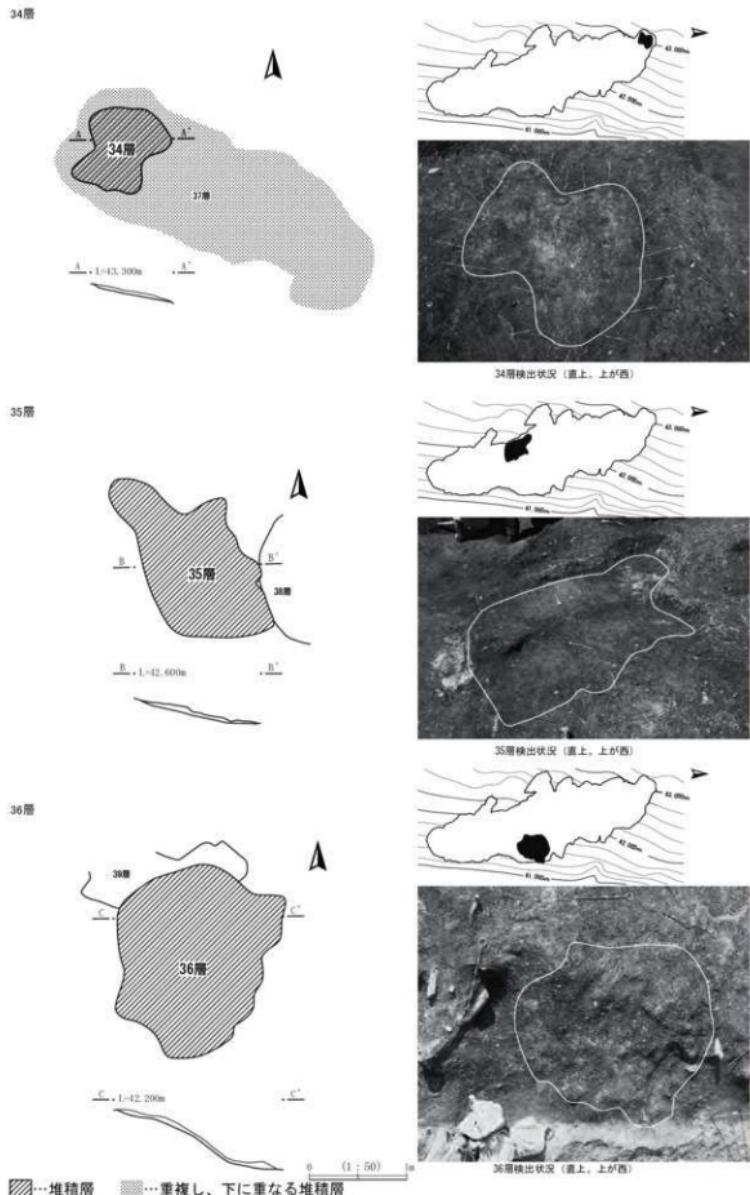
■…堆積層 ■…重複し、下に重なる堆積層

第39層 貝層28~30層

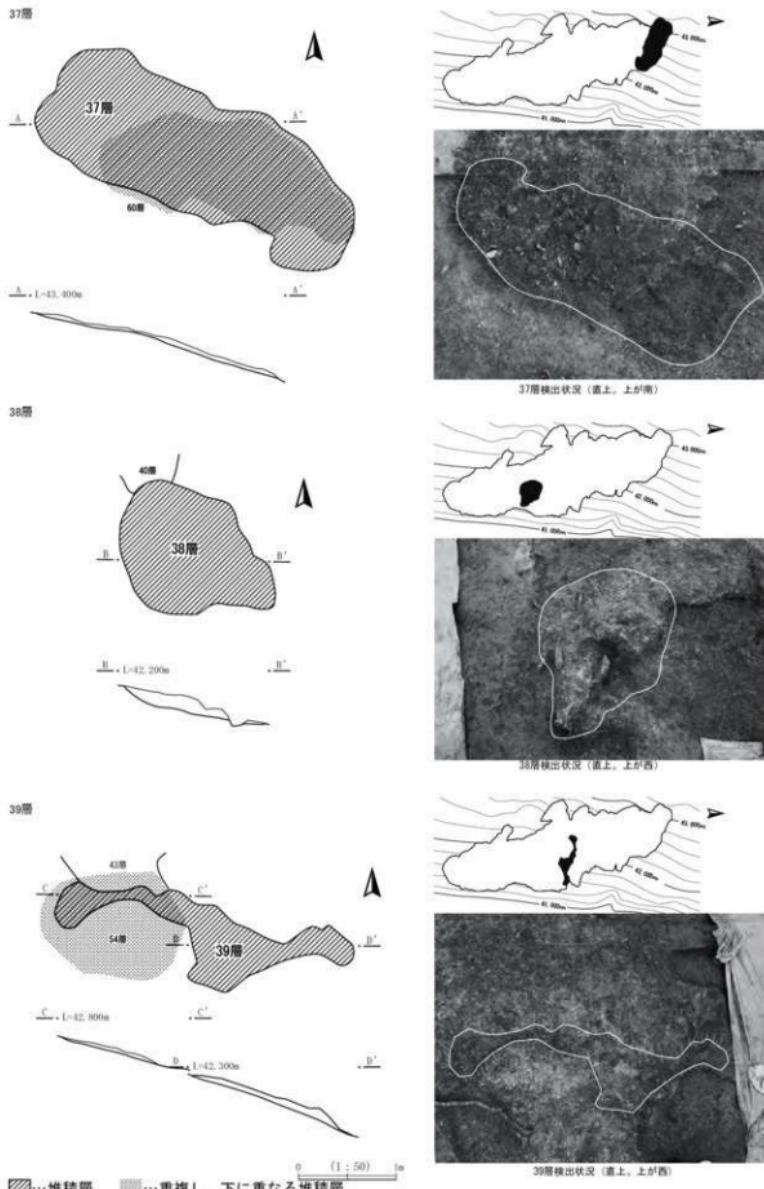
0 (1 : 50) m



第40図 貝層31~33層

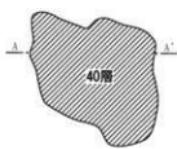


第41図 星曆34~36曆



第42図 貝層37~39層

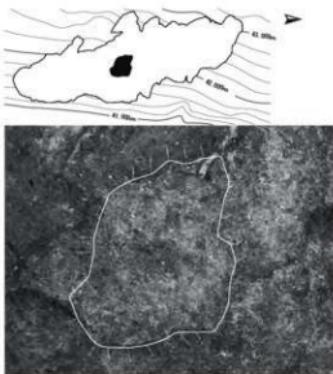
40層



A

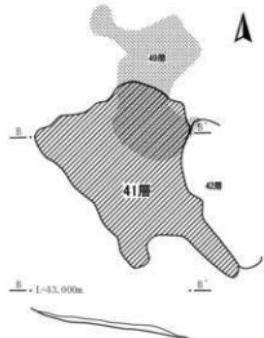


A

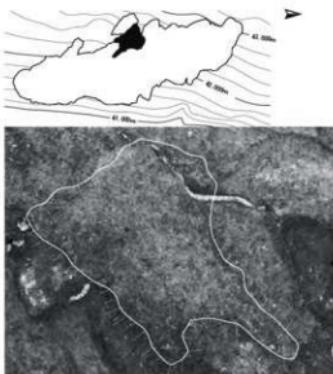


40層検出状況（直上。上が西）

41層

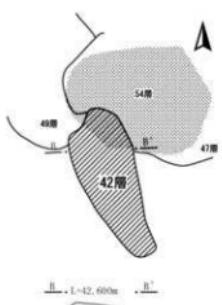


A

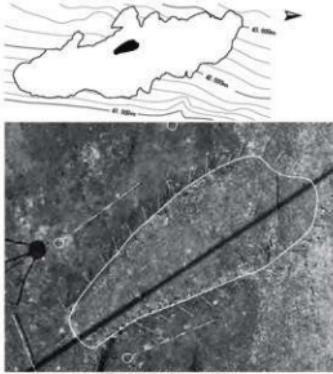


41層検出状況（直上。上が西）

42層



A

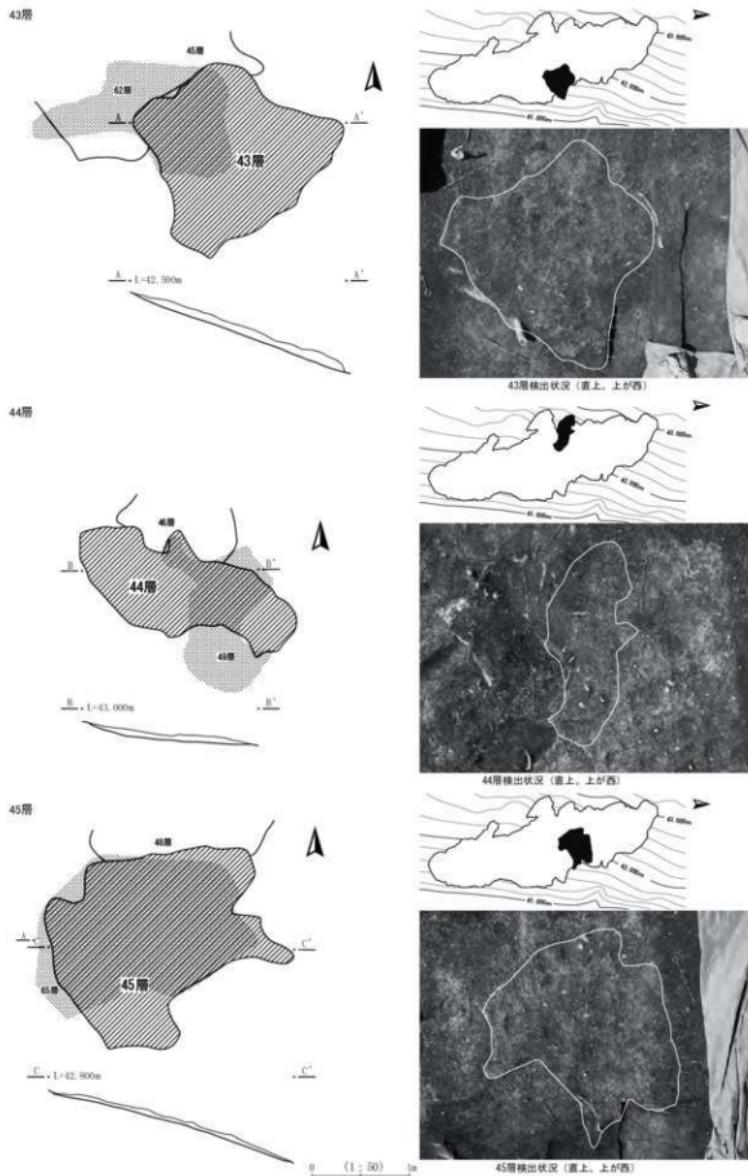


42層検出状況（直上。上が西）

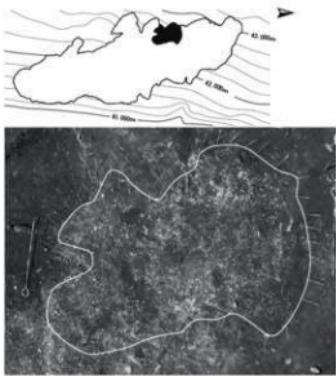
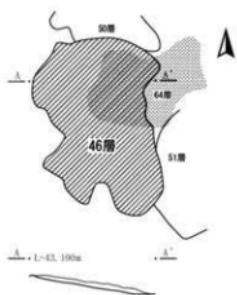
■…堆積層

■…重複し、下に重なる堆積層

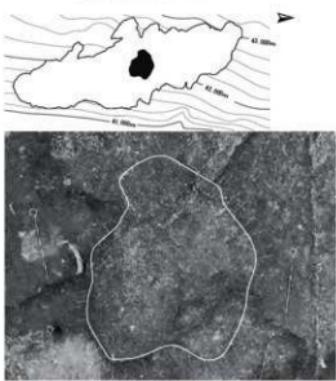
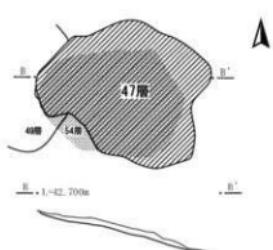
第43図 貝層40~42層



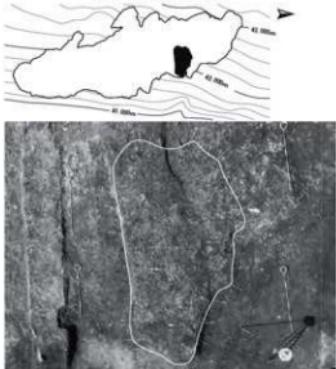
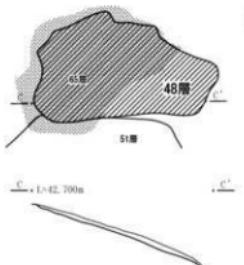
46層



47層



48層

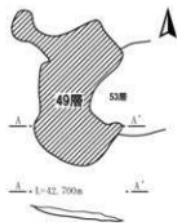


■…堆積層

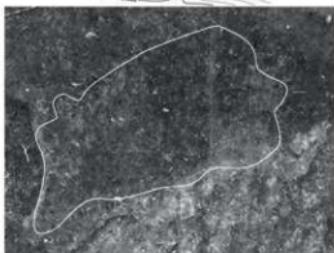
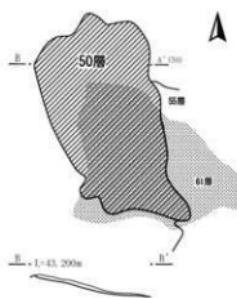
■…重複し、下に重なる堆積層

第45図 貝層46~48層

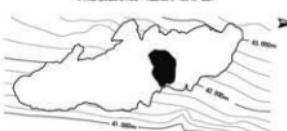
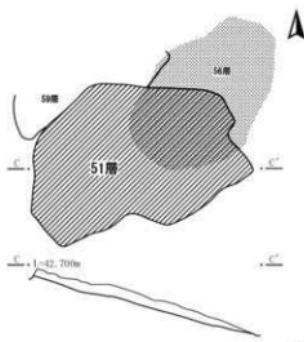
40層



50層



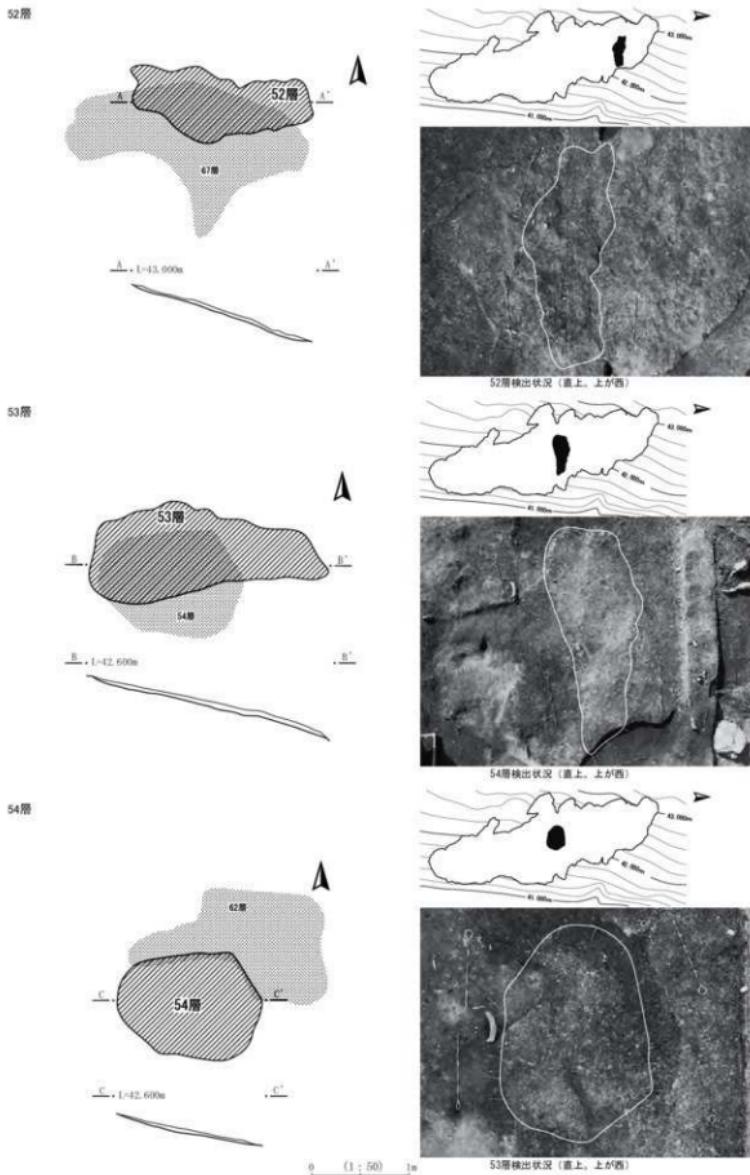
51層



■…堆積層

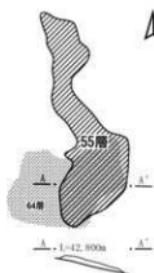
■…重複し、下に重なる堆積層

第46図 貝層49~51層



第47図 貝層52~54層

55層



A

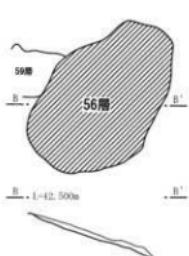


→



55層検出状況（直上。上が西）

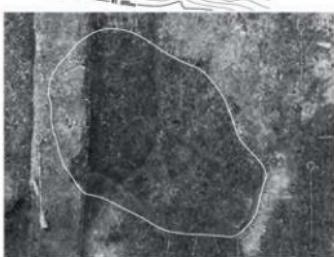
56層



A

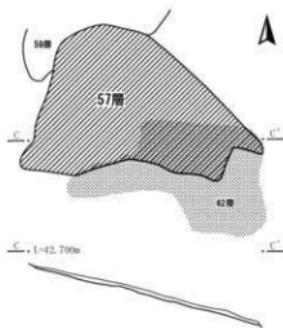


→



56層検出状況（直上。上が西）

57層



A



→

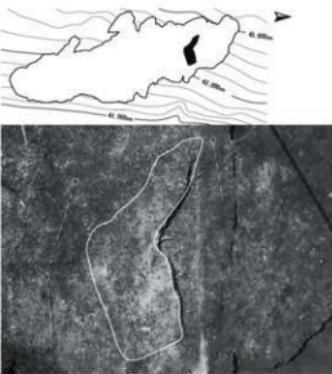
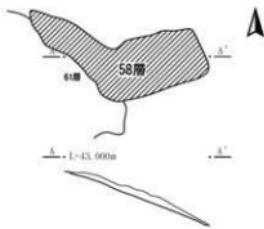


57層検出状況（直上。上が西）

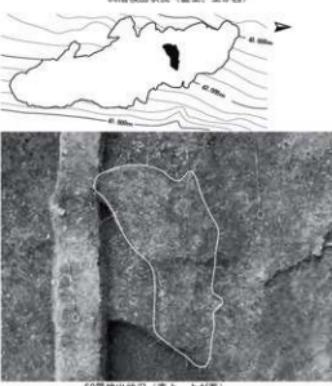
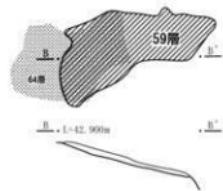
■…堆積層 ■…重複し、下に重なる堆積層

第48図 貝層55~57層

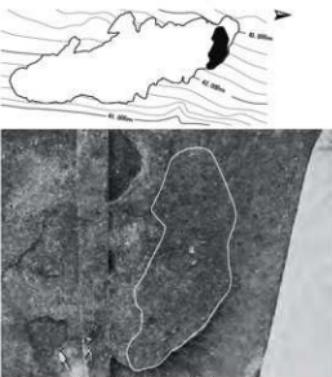
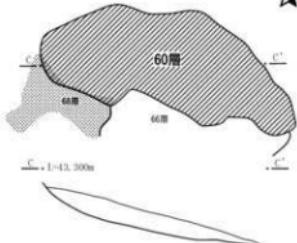
58層



59層



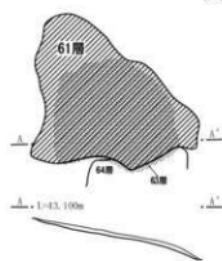
60層



■…堆積層 ■…重複し、下に重なる堆積層

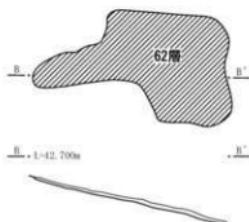
第49図 貝層58~60層

61層



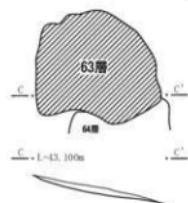
61層検出状況（直上。上が西）

62層



62層検出状況（直上。上が西）

63層



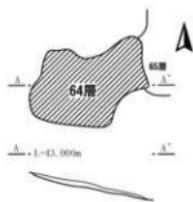
63層検出状況（直上。上が西）

■…堆積層

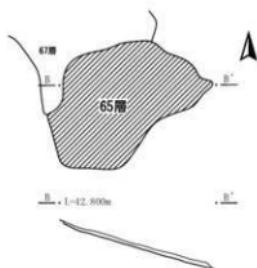
■…重複し、下に重なる堆積層

第50図 貝層61～63層

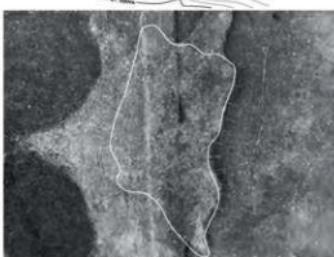
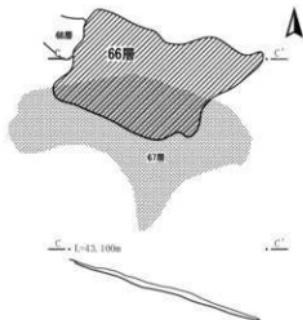
64層



65層



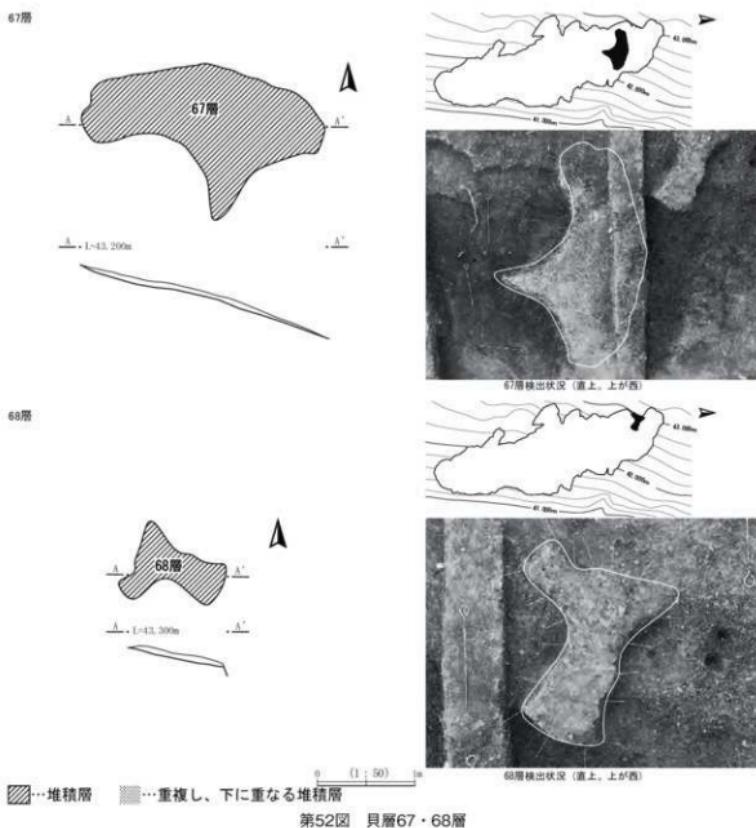
66層



■…堆積層

■…重複し、下に重なる堆積層

第51図 貝層64～66層



[出土遺物]

縄文土器

各堆積層から出土している。各堆積層の出土量は第6表に示した通りであり、貝層全体では総重量52,487.2g分になる。ただし完形品や器形が復元できた土器はわずかで、ほとんどが破片である。したがって、貝層内出土の縄文土器は故意に埋置されたものではなく、他の自然遺物と同様に廃棄により混入したと推測する。

前述の通り、貝層下のⅢ b 層中には火山灰（To-Cu テフラ）が混入する。したがって貝層は前期前葉以降に堆積したと推測される。また貝層最下層からは前期前葉の土器が、また貝層下～中位からは前期前～中葉の土器がまとまって出土している。そして貝層上面（Ⅲ a 層）からは前期中葉～後葉（大木4～5式）の土器が多く出土しており、第53図には貝層上面の土器出土状況を図示した。したがって貝層は、「堆積層の最下層に前期前葉」→「堆積層中に前期前葉～前期中葉」→「貝層上面（Ⅲ a 層）」

に前期中葉～後葉」という3時期のまとまりとしてとらえることができる（詳細は第IX章に記した）。105点掲載した（70～174）。

70は大木2b～3式の範疇とした深鉢の大型破片で、口縁部から胴部に単節縄文を横位に施文し、口縁部には半裁竹管状工具による押引文が2段で巡る。71～73は大木2a式と判断した。72・73は結節回転文が巡る。74・75は結節部が残る縄文を施文しており、大木2a式にも見えるが、大木3式と判断した。

76～79・85～89は大木2b式と判断した。76～79は口縁部に刻みなどを施した隆帯が巡る一群で隆帯下にS字状連鎖沈文が巡る。80～84は胴部に結節部が残る縄文を多段化させて施文する一群で、大木2b～3式の範疇である。85～89は口縁部から胴部にS字状連鎖沈文が施文され、85・86には加えて口縁部に隆帯が巡る。

90～117は大木3式と判断した。90～92は口縁部の無文帶下に、刻みや押引文を施した隆帯が巡る。93・94は器形が復元できた深鉢である。どちらも頸部が括れ、口縁部は外反する。地文には結節部の残る縄文を横位に数段巡らせ、口縁部には平行沈線による円文やX字状、山形状文が描かれる。97～103は口縁部に平行沈線による鋸齒状文が施文される。104～106も器形が復元できた深鉢で口縁部が大きく外反する。104は口縁部に継位の短沈線が巡り、胴部は単節縄文を地文とし、沈線による波状文が巡る。105は口縁部に低い隆帯が2条付き、その上から継位の刻みが施される。107～111は口縁部は無文で、頸部から胴部は、単節縄文を地文とし、その上に沈線を施文する一群である。112～115は沈線による円文が施文される。116・117は細かい刻みを施した貼付隆帯が付く。隆帯にみられる刻みの在り方から大木3式としたが、大木4式以降の可能性もある。

118～142は大木4式と判断した。単節縄文を地文とし、主に細い貼付隆帯による波状文、ハート形状文、梯子状文を描いており、同様な文様の土器が貝層中および貝層上面から多く出土している。119・120は大きく外反する深鉢の口縁部片で、口縁部内面にも貼付隆帯が施文される。121・122は器形が復元できた深鉢で、121は胴部上半で括れ、口縁部は外反する。口縁部は無文で、胴部は単節縄文を地文とし、貼付隆帯による3段の波状文が横位に巡り、曲線文が加えられる。文様の特徴は大木

第6表 貝層 縄文土器出土量（層別）

層名	重量(g)	層名	重量(g)	層名	重量(g)	層名	重量(g)	層名	重量(g)
貝層上面	7241.6	16層	220.8	32層	1285.2	48層	801.4	64層	218
1層	4660.6	17層	1621	33層	931.3	49層	1524	65層	255.0
2層	537.7	18層	41.7	34層	137.8	50層	2129	66層	309.8
3層	851.8	19層	3.7	35層	305.7	51層	1072.6	67層	445.4
4層	909.0	20層	620.5	36層	1249.4	52層	244.2	68層	29.4
5層	1491.3	21層	209.6	37層	2614.3	53層	53.4	層位不明	156.7
6層	1879.1	22層	1461.7	38層	559.9	54層	60.9		
7層	1057.1	23層	1041.9	39層	150.8	55層	230.4	合計	52487.2
8層	224.1	24層	194.3	40層	844.9	56層	98.6		
9層	797.5	25層	3.1	41層	690.0	57層	80.0		
10層	811.7	26層	383.6	42層	33.9	58層	348.1		
11層	170.9	27層	65.0	43層	537.0	59層	226.2		
12層	1076.9	28層	674.0	44層	487.2	60層	721.8		
13層	314.4	29層	623	45層	1322.3	61層	351.1		
14層	294.4	30層	4754.9	46層	863.8	62層	1472.8		
15層	0.0	31層	389.7	47層	473.2	63層	48.6		

4式であるが、器形は大木3式に近い。122は胴部が直線的に広がり、口唇部直下で外へと屈曲する。文様は121と同様である。123は胴部から直線的に立ち上がる器形で、口唇部に突起が付く。124は122と同様な形態で、文様も類似する。大きく屈曲した口唇部に円環状を呈した貼付隆帯が付く。125～133は口縁部や胴部に貼付隆帯による波状文や曲線状文が付く。なかには132や133のように口唇部にも貼付隆帯による波状文が付く土器も見受けられた。135～137は細い貼付隆帯（梯子状文）に加え、幅広の貼付隆帯が付く。137は球胴形の深鉢で、頸部で括れ、口縁部は大きく開く。胴部は単節縄文を地文とし、細い貼付隆帯による梯子状文、波状文が付き、一部の隆帯は幅広となる。また口唇部には渦巻文と鋸歯状文を描いた突起状の隆帯が付く。140は直線的に立ち上がる形態の深鉢で、口唇部から口縁部にかけ、貼付隆帯による波状文が巡り、胴部にはS字状や渦巻文を模した梯子状文が施文される。141や142は口縁部に円環状の突起が付く。円環状の突起には刺突文が充填されている。

143～149は大木5a式と判断した。143・144・146は口縁部が無文で、その下に沈線による鋸歯状文が横位に巡る。145は深鉢口縁部片で、地文の上から2段以上の鋸歯状文が巡る。147～149は沈線による鋸歯状文が縦位や斜位に巡る。147は波状口縁を呈し、波頂部の上面が鋸歯状を呈している。148は口縁部に隆帯が加えられる。また口唇部と隆帯に刺突文が巡る。150は無文の浅鉢（鉢？）で、口唇部に4単位の突起が付く。また突起と口唇部全体に円形の押圧文が巡る。時期の判断は難しいが、文様の在り方から大木5式の範疇と推測する。

152～160は地文のみの深鉢である。152・154・156・157は単軸絡条体1類が縦位に施文されており、大木5式の範疇と判断した。155は口唇部にS字状を模した太い貼付隆帯が付いている。大木4～5式の範疇と推測する。

161は胴部が大きく張出し、口縁部が外反する深鉢で、大木6式と判断した。口縁部には沈線による弧状文と山形状文が横位に巡り、胴部は単節縄文による地文のみである。166は口縁部片で横位に沈線が巡り、その間を縦位の短沈線が充填される。大木7a式古段階と判断した。167は剥離が激しく、文様が不明瞭であるが、大木7a式新段階と判断した。

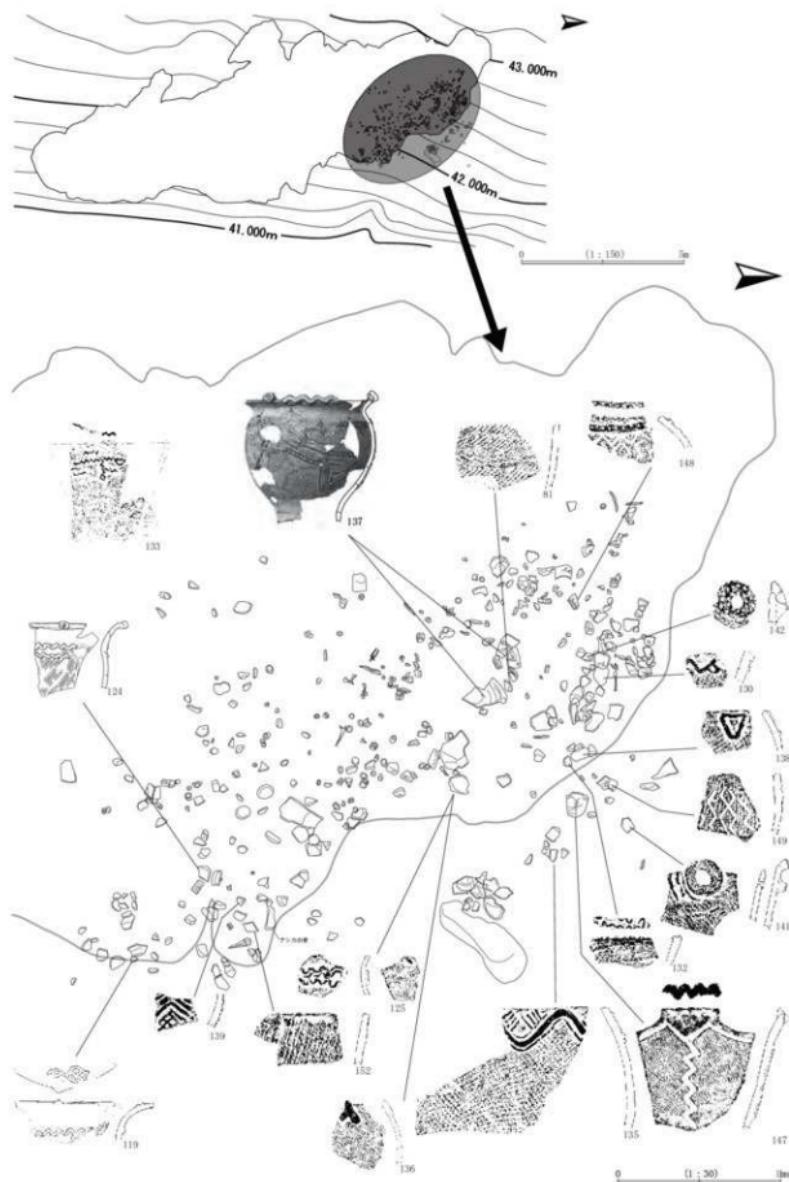
165・168～171は地文のみの破片で、地文や器形の特徴から前期末葉～中期初頭の範疇と推測する。また172～174は深鉢の胴部下半で、やはり地文のみであるが、時期は前期末葉～中期初頭の範疇と推測している。

172・173には底面に敷物圧痕が見受けられる。どちらも不明瞭であるが、ござ目（一戸町2015）と判断した。

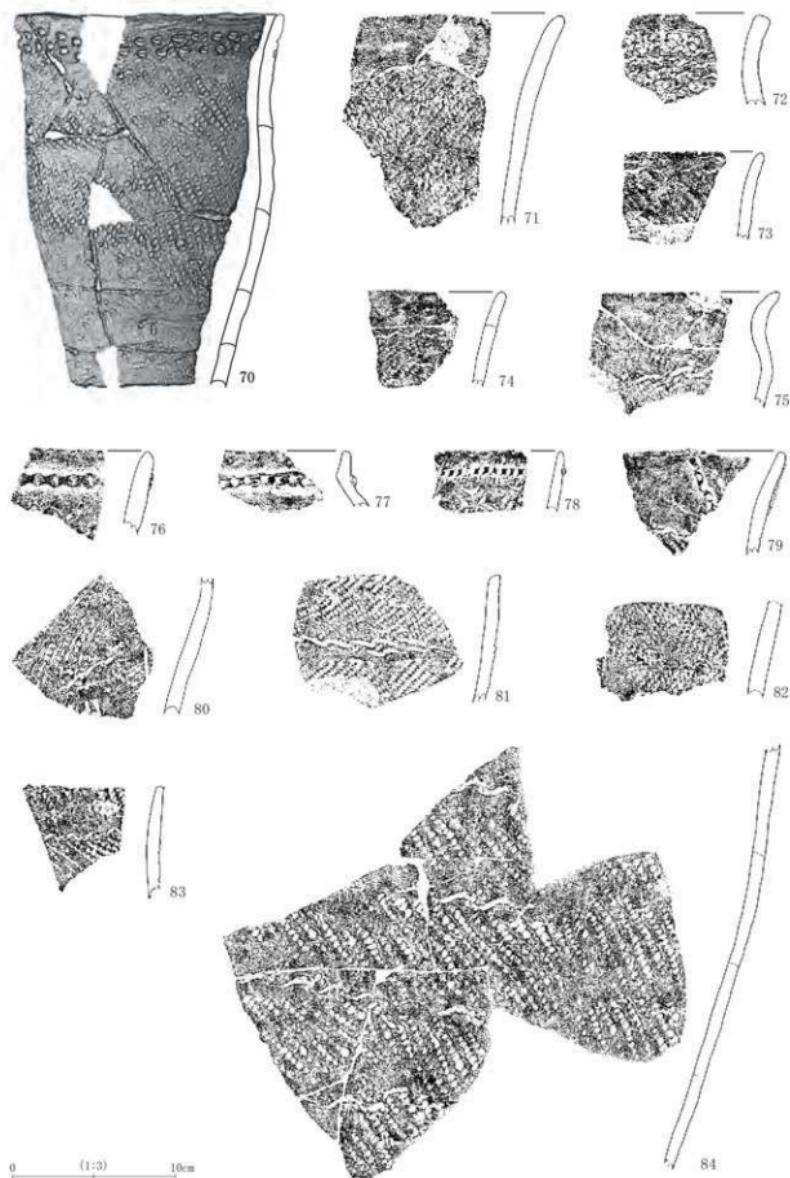
土製品・粘土塊

土製品は円盤形土製品1点（175）のみ出土している。175は全体の1/2のみ残存する。深鉢胴部片の転用で、沈線が見受けられる。

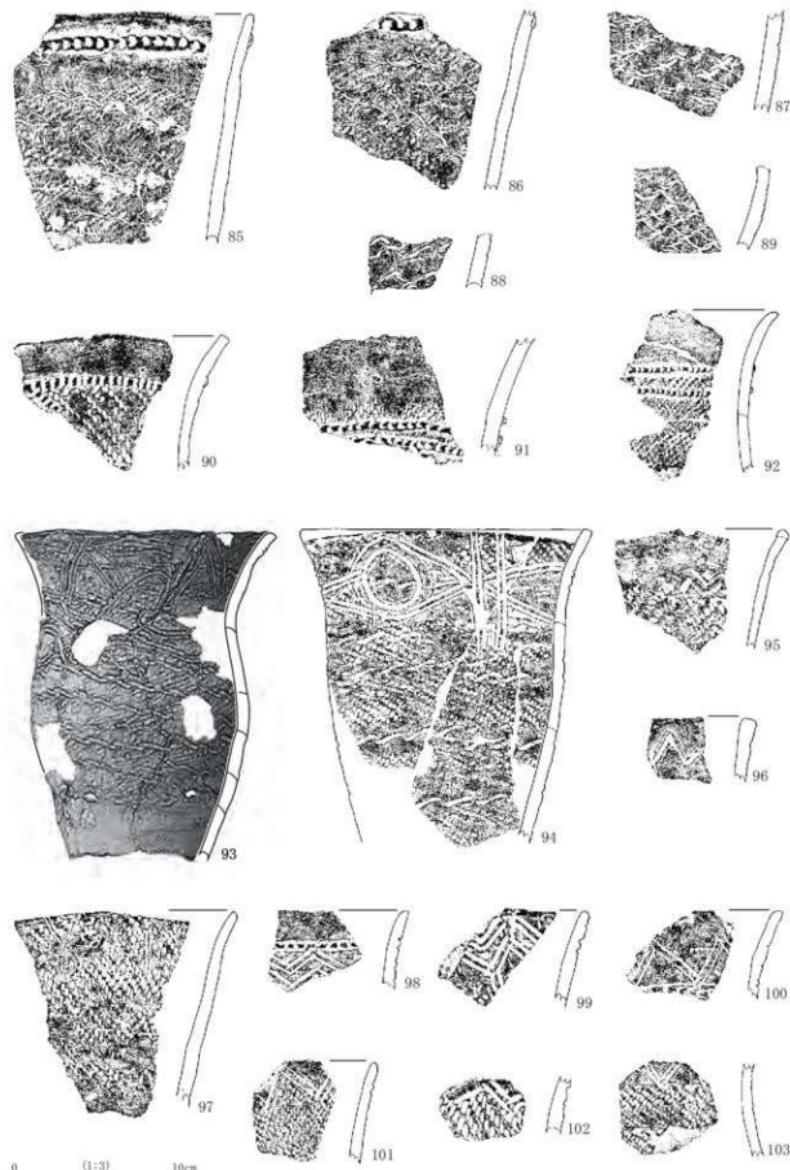
粘土塊は4点（176～179）出土し、全点掲載している。4点には大きさや形態に共通性はない。176・177・179は指頭で捏ねたと思われる痕跡が見受けられる。178は細長い形態であるが、故意に整形したものかは定かではない。



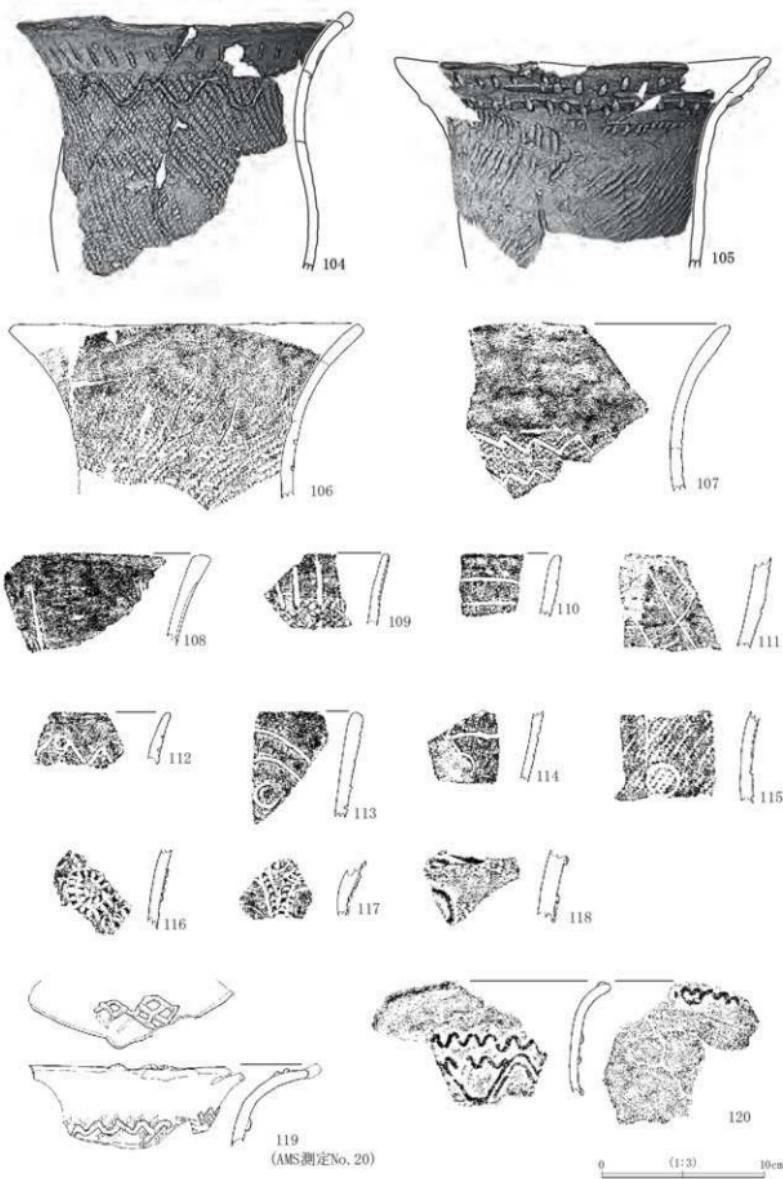
第53図 貝塚上面遺物出土状況



第54図 貝層出土遺物 1



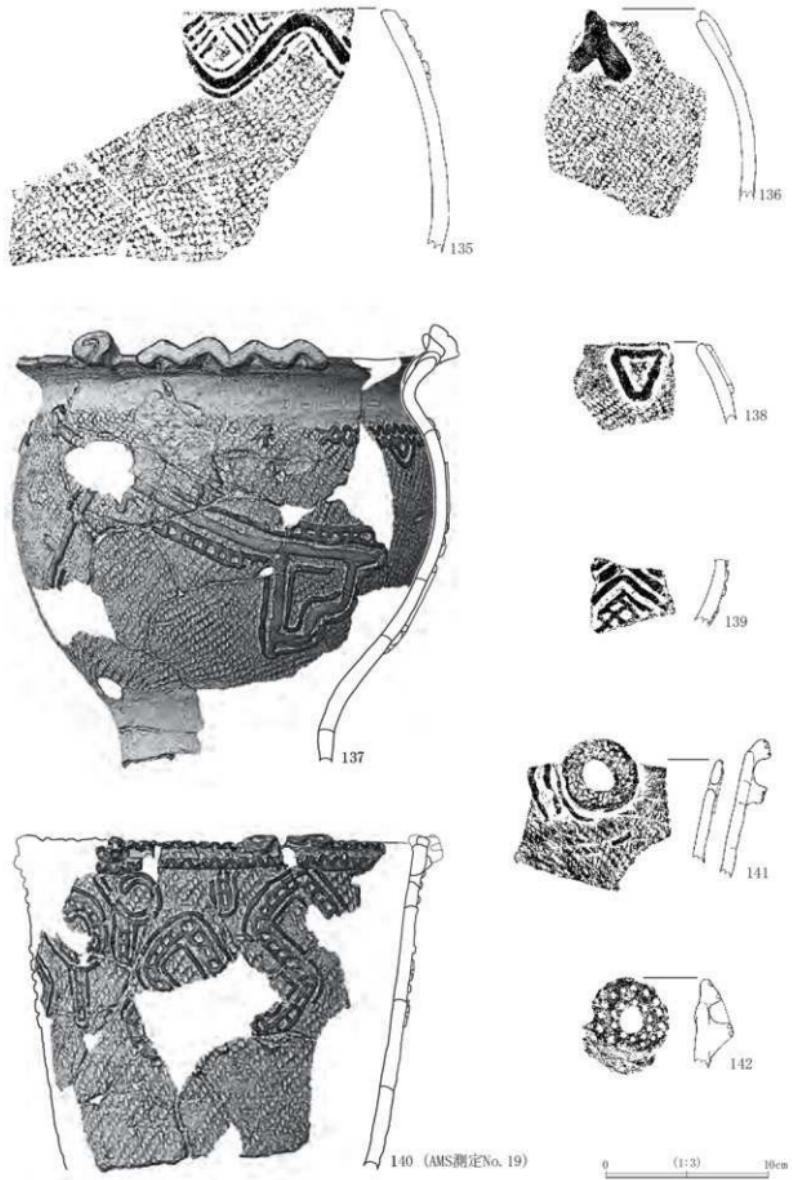
第55図 貝層出土遺物2



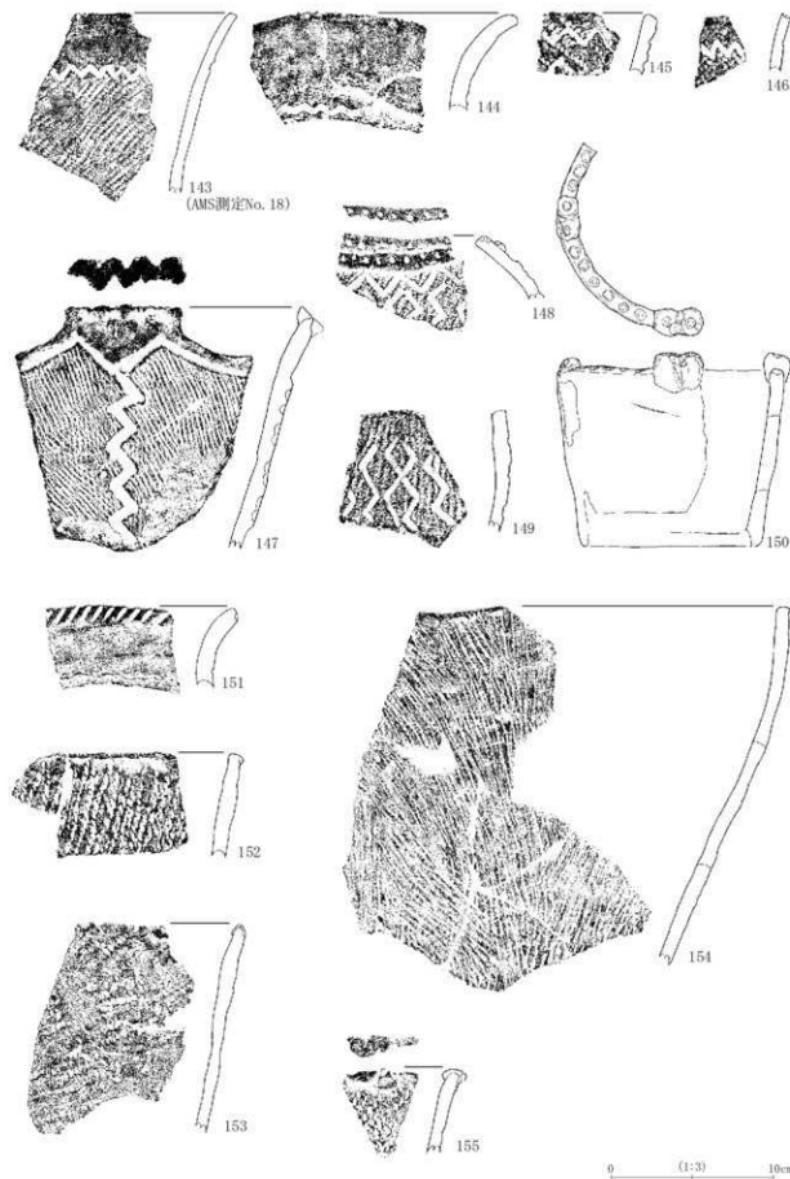
第56図 貝層出土遺物3



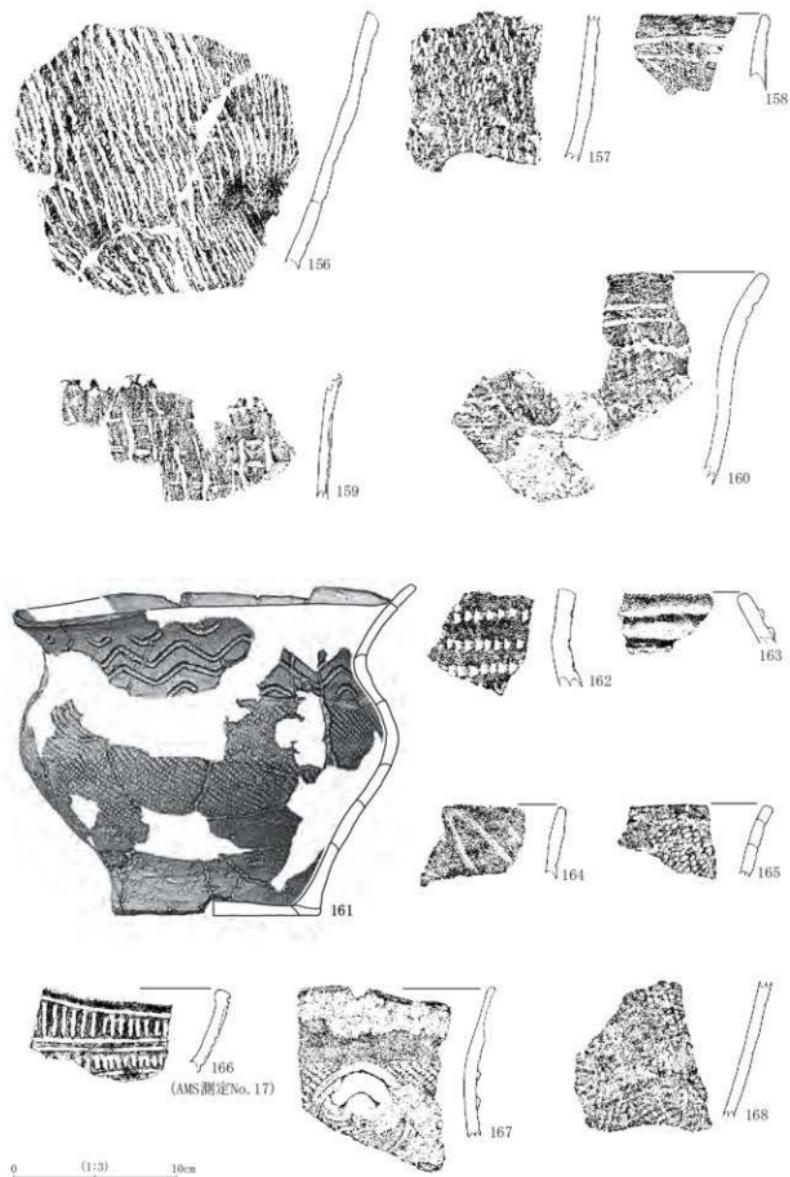
第57図 貝層出土遺物 4



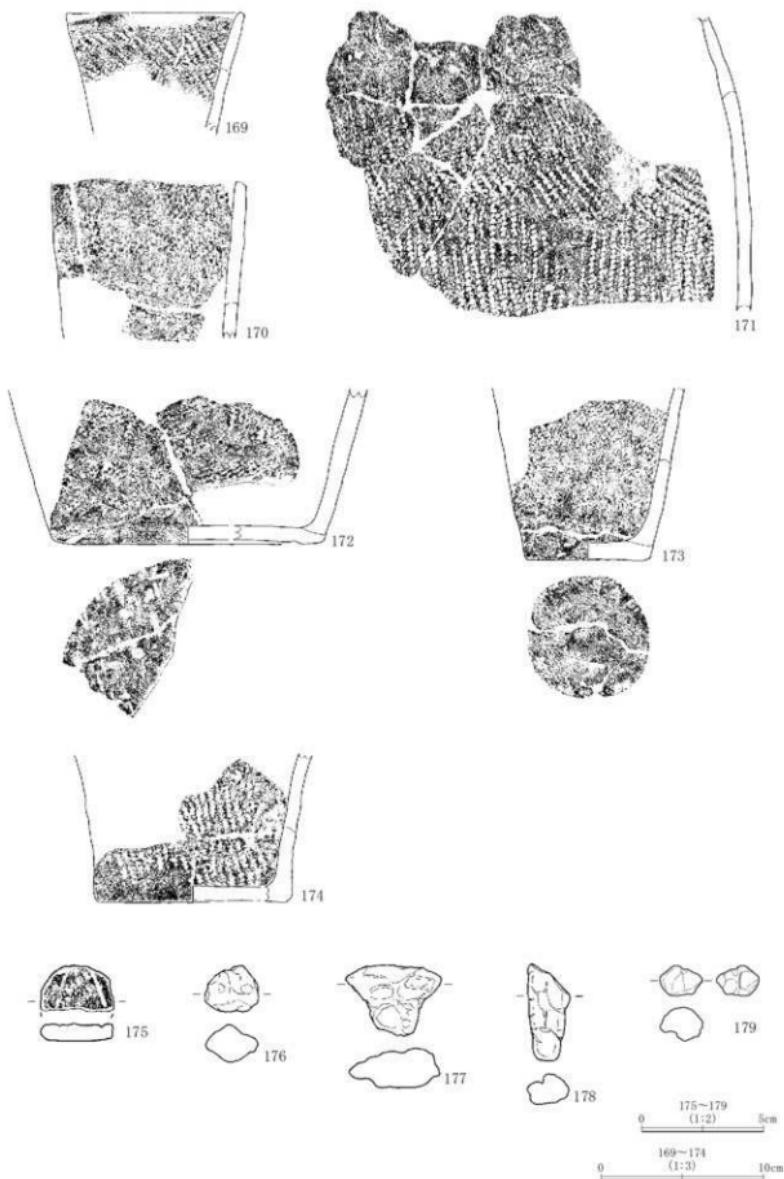
第58図 貝層出土遺物 5



第59図 貝層出土遺物 6



第60図 貝層出土遺物 7



第61図 貝層出土遺物8

石器

各堆積層から出土しており、層毎に出土した器種と、その点数を第7表に示した。石錐や石匙が出土していない堆積層があること以外で、層毎の器種や出土点数に特徴や偏りが見いだせない。石器も繩文土器や他の動物遺存体と同様に廃棄により混入したと推測する。

38点を掲載した（180～206）。

180～193は石錐である。全体的にI類が多く、掲載した石錐もI類が多い（180～184・186～188）。I類は、形態がほぼ正三角形（180など）と二等辺三角形（186など）があり、また基部形態が、弧状を呈するもの（180など）と屈曲するもの（182など）に二分される。また181や184など押圧剥離による二次加工が体部の中央に及んでいないものも多い。これらについては縁辺に二次加工が及び、平面形を整形できているので、石錐失敗品ではなく、完成品とした。II類（185・189～193）は形態が二等辺三角形を呈する。基部が直線的に平なもの（193）は少なく、やや内側に入るものの（189など）が多い。

194は石錐失敗品とした。二等辺三角形を呈する。まだ素材となるフレイクの片面しか二次加工が施されておらず、先端部もやや歪である。縁辺周辺のみ刃部と考えられる二次加工が施されている。

195・196は尖頭器で、どちらもII類で、いわゆる「押出型ポイント」である。195は石錐に類似する形態であるが、本遺跡から出土している石錐よりも一回り大きく、また厚みがある。棒状の基部を有し、体部は二等辺三角形を呈する。196は基部の両端には抉りを入れており、石匙の摘み部のような形態をする。刃部は両面加工を施す。

197～199は不定形石器である。197は全体の1/2を欠損する。長辺を両面から加工し刃部を作出している。198は厚みがある。全体に二次加工が及んでいるが、形態は歪である。長辺の一部と短辺に両面から二次加工を施し、刃部を作出している。199は自然面の残るフレイクを素材とし、縁辺の広い範囲に刃部を作出している。二次加工は片面のみが主体で、一部、両面から及んでいる。

200～202はUフレイクである。200は縦長のフレイクを素材とし、長辺の一部にのみ二次加工（刃部）を施し、また微細剥離痕が見受けられる。201は方形でやや厚みのあるフレイクを素材とし、縁辺の一部に微細剥離痕が連続する。202は薄いフレイクで、縁辺の広い範囲に微細剥離痕が連続する。

203は磨製石斧で基部のみ残存する。頁岩製で完成品である。残存する長さは3cm弱であり、ここから推測できる本来の長さも6～7cm程度で、比較的小型の磨製石斧である。全体に研磨痕が残る。

204は敲磨器類で、IV類とした。厚みのある楕円形の礫を素材とし、全体に使用痕がある。広い片面とその側面には磨痕が、もう片面と端部には敲打痕が見受けられる。端部は敲打により削れて変形（欠損？）している。

205は石核である。光沢のない頁岩製で厚みのある立方体を呈する。自然の残る平坦な面を打面とし、剥離作業をしている。一部敲打痕が残り、石核状石器の可能性もある。

206はフレイクである。比較的大型の頁岩で、II b類とした。一回剥離した面を打面としている。正面、背面にわずかだが自然面が残る。

石製品

貝層からは、玦状耳飾り、玉類、軽石製品が出土しており、全点掲載した（207～217）。なお、玦状耳飾りは6号上坑からも出土しているが、玉類、軽石製品は、貝層以外からは出土していない。

207・208は滑石製の玦状耳飾りで、どちらも欠損品である。207は体部の1/2が残存し、円形を呈すると推測する。全体に研磨痕が薄く残る。また中央の円形を、研磨で整形した痕跡が見受けられる。

第7表 貝層 石器出土点数（層序別）

	石鏃	尖頭器	不定形 石器	U F	R F	磨製石 斧	鍥器	敲磨 器類	石核状 石器	石皿	台石	石核	フレ イク	チップ	石製品	総計
1層				1					4				18	7		30
2層	1		2	1					1				33	36		74
3層	4			3				1	1				46	12		66
4層	2			3									16		1	21
5層	3		1										11	41		56
6層	4		1	8					1				96	174		285
7層	3		1	3	1				1				64	12		83
8層									1				5			6
9層													7	6		13
10層	2			2					1				22	39		65
11層	1			2									8	4		15
12層	2			2		1							19	12		36
13層				1									11	4		15
14層	3		1	1									10	2		17
15層													5			5
16層	1			1									8			10
17層													4			4
20層	2	2	2	1					1				29	3		22
21層													6	14	1	21
22層	4								1	1			6	3	1	16
23層	4		1	1									25			31
24層	2			2									6			10
26層													19	1		20
27層													7	7		14
28層													2			2
29層			1													1
30層	8	4	4		2		2	2	1	1		1	290	244		556
31層	1												10	8		19
32層	1							2					5			8
33層	2												3	1		6
35層	1												2	7	1	11
36層			1						1				3		1	6
37層	3							4					1			8
38層													3	1		4
39層													2			2
40層	1												3			4
41層	1		2										6	4	13	
42層			1										1			2
43層													3		1	4
44層			1				1						5		2	9
45層							1						1	1		3
46層	1		1	1									14			17
47層				1									2			3
48層	1								1				2			4
49層													1			1

	石錐	尖頭器	不定形 石器	U F	R F	磨製石 斧	鍛器	敲磨 器類	石核状 石器	石皿	台石	石核	フレ イク	チップ	石製品	総計
50層			2										4			6
51層	1		2			1							1			5
52層													2			2
54層													4	3		7
55層			1										3	2		6
57層								1					2			3
58層					1			1					1			3
59層	1												1			2
60層	2			2					2			1	2			9
61層	3				2								9			14
62層	1															1
63層	1		1										2	1		5
64層													2			2
65層													2			2
66層				1		1	1						2	2		7
67層	2							1					8	1		9
68層	2					2					1		4			6
層不明	1	1											17	17		36
総計	72	3	22	45	5	6	5	25	5	1	1	3	907	665	12	1746

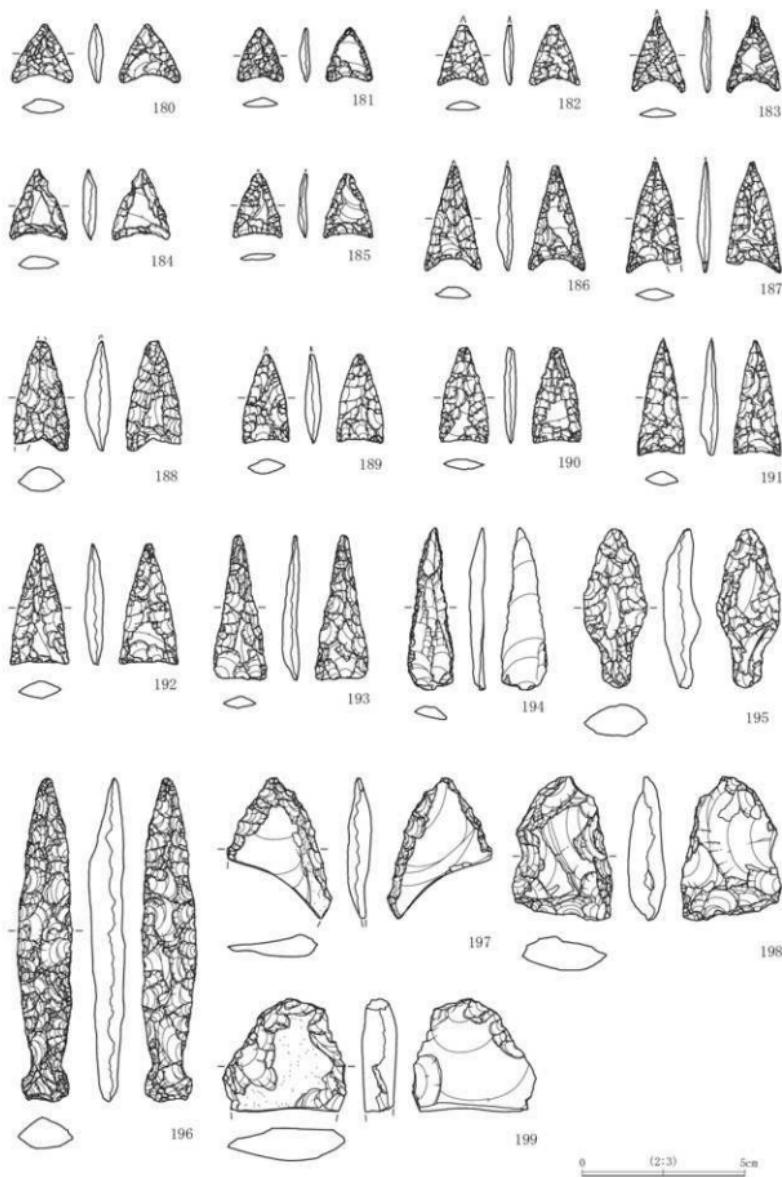
208は切れ目のある先端部の片側のみ残存する。207同様に、円形を呈するものと推測する。全体に研磨痕が見受けられ、中央の円孔と切れ目も研磨し、整形されている。

209~216は玉類である。いずれも大きさは1cm大で、形態は円形、楕円形など不揃いである。全て穿孔されている。209は形態が楕円形に近いが片側の端部が欠損したように細くなる。ただしその部分にも研磨が施されているので、欠損したものを研磨しなおして再利用している可能性がある。穿孔は1箇所だが、欠損部の可能性がある端部にも穿孔したような痕跡がある。したがって穿孔は2箇所であったか、あるいは欠損部を整形し、別の場所に穿孔し直したものと推測する。210はほぼ円形であるが、やや歪で他の玉類と比べて薄い。穿孔は中央からややずれている。211はほぼ円形であるが、側面からみると、片側が薄く、かなり歪である。厚みは1.5~4mmと、一様ではなく、斜めに整形している。ただし穿孔はほぼ中央に施されている。212は楕円形であるが一部直線的で隅丸方形にも近い形態である。穿孔はほぼ中央に施されている。213は楕円形を呈する。厚みが1.5~5mmで一様ではなく、斜めに整形されている。穿孔はほぼ中央に施されている。214は円形を呈する。穿孔は中央に施されている。215は円形である。厚みが1.5~3mmで一様ではなく、斜めに整形されている。穿孔はほぼ中央に施されるが、径4mmで、他の玉類と比べて、一回り大きい。216は欠損品で全体の1/2が残存する。円形を呈し、穿孔は中央に施される。

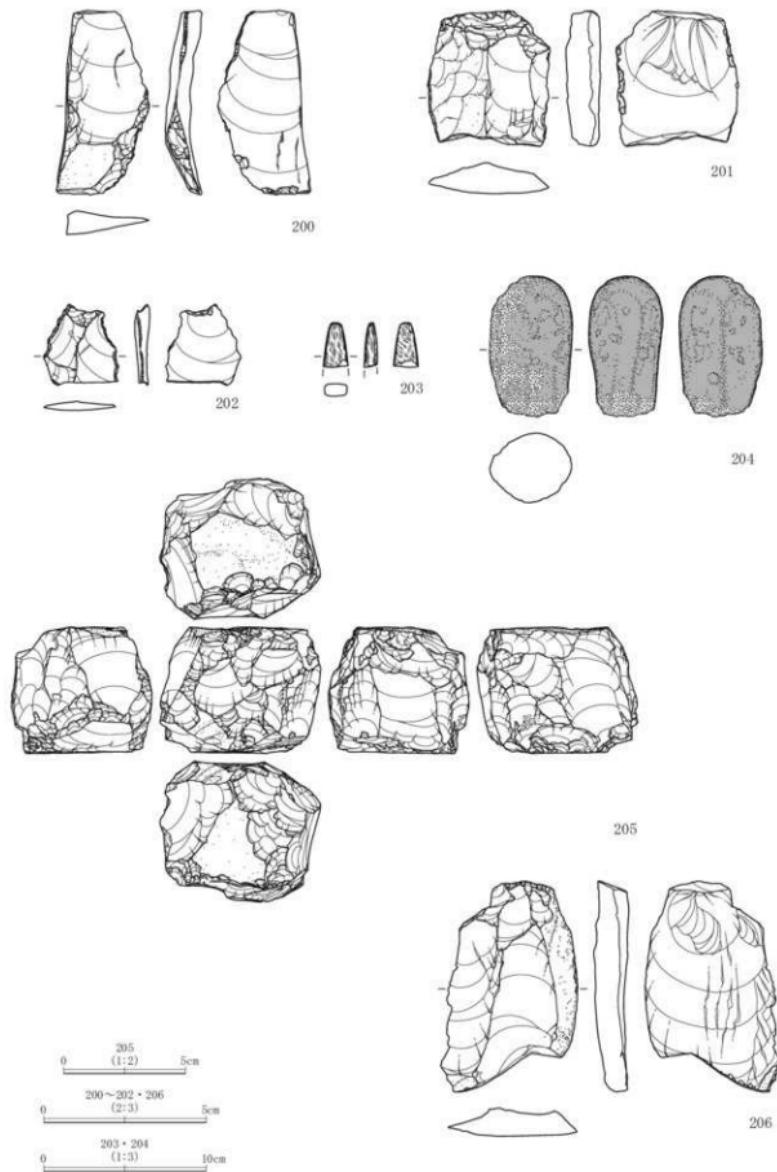
217は軽石製品である。灰白色を呈した十和田系の軽石を素材とする。厚みのある楕円形に整形されているが所々に稜が見受けられる。ほぼ中央を両面から穿孔している。用途は不明である。

骨角牙製品

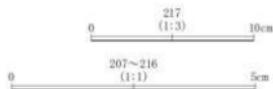
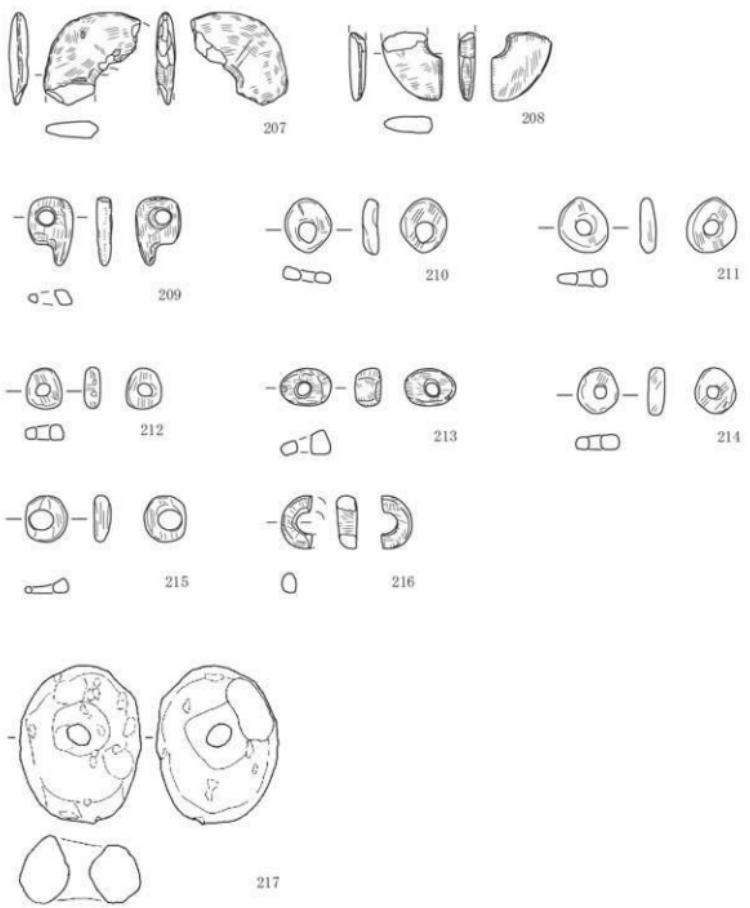
貝層から29点の骨角牙製品が出土している。時期は、共伴する繩文土器から、前期中葉大木3~4式期と推測する。出土点数はまとまっているが、器種毎にすると、いずれの器種も少なく、さらに堆



第62図 貝層出土遺物9



第63図 貝層出土遺物10



第64図 貝層出土遺物11

積層ごとでは、1～2点程度しか出土していない。縄文土器や石器と同様に、動物遺存体とともに廃棄されたものと推測され、特殊な状態で埋設された痕跡などは見受けられない。

骨角牙製品21点を掲載した（218～236）。

218～220は釣針で、いずれも鹿角製である。

218は完形で、無鏽である。軸はやや内側に曲がるがほぼ真直ぐ伸び、彎曲部はU字形を呈する。先端部は銳利に整形されている。断面は、軸と先端が円形に、彎曲部は偏平に整形される。

219は218よりも小型の無鏽釣針で、軸が欠損するが、残存部から軸はやや外向きである可能性がある。彎曲部はU字形を呈し、先端は218と同様に銳利に整形される。断面は、軸と先端はほぼ円形だが、わずかに歪である。

220は前者2点よりもさらに小型の無鏽釣針である。軸の一部が欠損するが、軸は真直ぐ伸びる。彎曲部はU字形を呈し、先端部は218・219よりも銳利に整形されている。断面形は彎曲部がやや厚みをもつ。

221・223～226・228は、いずれも欠損品で形態全体が不明であるが、残存部分が棒状であることから刺突具と判断した。

221は棒状で、先端が銳利に整形されている。ただし端部は使用して磨滅したのか、丸みを帯びている。もう片方の端部は欠損しているが、コ字状に整形されており何かをはめ込む孔の可能性がある。

222は所謂「骨針」である。鹿角製である。全体が磨かれ、滑らかに仕上げられている。頭部はやや偏平で1箇所、穿孔されている。

223・224は棒状で、両端が欠損する。片側の端部へとむかうにつれ径が小さくなっている。先端は針状に銳利であったと推測する。223は断面が円形になるように研磨され、表面が滑らかである。224は稍円形に整形されている。223ほどではないが、表面が磨かれている。

225は未成品（失敗品？）と考えている。棒状の先端部が欠損する。全体が角ばっており整形されていないが、部分的に面取りされている。

226は221と同様な形態で、さらに先端部が丸みを帯びている。

227は骨砦である。シカの尺骨、近位端付近を素材とする。遠位端側は切断され、銳利な砦状に整形している。その部分は整形によるものか使用時の磨滅か定かではないが、滑らかである。

第8表 貝層 骨角器出土点数（層序別）

層名	牙骨角製品	貝製品	層名	牙骨角製品	貝製品
上面	釣針（角）		39層	不明（角）2	
1層	釣針（角）		41層		管状装飾品3
3層	刺突具（角）2	貝輪	43層	牙製垂飾品（牙）	管状装飾品2
4層		貝輪	44層		タカラガイ製品
5層		貝輪	45層	装飾品（角）、未成品（角）	管状装飾品2
6層		管状装飾品2	46層	骨砦（骨）、不明（角）	管状装飾品4
7層		管状装飾品	47層	刺突具（角）	管状装飾品
12層	列点文装飾品（角）	貝輪、管状装飾品	51層	鹿角製垂飾品（角）3	貝輪2、管状装飾品
20層	鹿角製垂飾品（角）		55層		管状装飾品
22層	牙製垂飾品（牙）		60層	釣針（角）、骨針（骨）	
30層	釣針、刺突具？（角）		61層		管状装飾品
32層		貝輪	63層	不明（骨）	管状装飾品
36層	釣針（角）、不明（骨）、（角）		66層	未成品（角）	
38層	釣針、不明（骨）、（角）		67層		管状装飾品

228は鹿角の一部のみを鋭利に整形している。もう一端は幅広に残されており、摘み部のような形態を呈している。

229は鹿角の破片で、縁辺に擦り切痕が見受けられる。刺突具を製作する上での廃材（残欠）と考えられる。

230・231は装飾品と判断した。230は鹿角製である。大きく欠損しており、形態全体が不明であるが、体部を大きく穿孔している。231は魚骨で、タイ科の頸骨である。両側から刻みが入っており、また1箇所、穿孔されている。

232・233は棒状で、用途不明。どちらも両端が欠損し、形態そのものも分からぬ。断面形を円形ないし楕円形に整形し、また刻みが1周する。他に切断痕が見受けられる。

234・235も用途不明である。端部を欠損しているが、V字形に整形され、また彎曲部に浅い刻みを施している。平面形からは釣針の可能性もあるが、断面形が異なる。

236は櫛である。体部の一部は欠損するが、整形し、装飾されている。櫛部は3本が残存し、もう2本は先端のみである。体部には磨いた際の擦痕が残り、櫛部は削って作出されている。

237は装飾品と推測する。欠損しており、形態は不明であるが、中央の円孔から切り込みが施され枝状耳飾りと類似する形態かと推測する。偏平で、片面の縁辺部には細かい円形の刺突が巡るのが特徴である。

238・239は牙製垂飾品である。238はイヌの切歯を、239はキツネの後臼歯を素材としている。どちらも1箇所穿孔している。

貝製品

貝層から29点の貝製品が出土している。骨角牙製品と同様に、貝層出土の縄文土器に共伴しているので、時期は前期中葉大木3～4式期と推測する。堆積層ごとの出土点数に偏りは見受けられない。また出土状況は骨角牙製品と同様であり、いずれの貝製品も動物遺存体とともに廃棄されたと推測する。

貝製品29点を掲載した（239～267）。

239～244は貝輪である。全て同定分析を行い、タマキガイ科との結果を得ている（第Ⅶ章－4参照）が、その後、岡山理科大学の富岡教授からタマキガイ科のなかのベンケイガイであろうとの指摘を受けた。ベンケイガイは県内では三陸沿岸で採取できる貝である（戸羽2009）が、遠方より採取したベンケイガイを本遺跡へ搬入した可能性もある。全て欠損品であり、本来の形態（環状であるか、弧状で両端に穿孔を施すものか）は分からぬ。

239は最も残りが良かった貝輪で、径7.9cmである。全体を整形のために研磨しており、成長線や放射状線は浅くしか見受けられない。

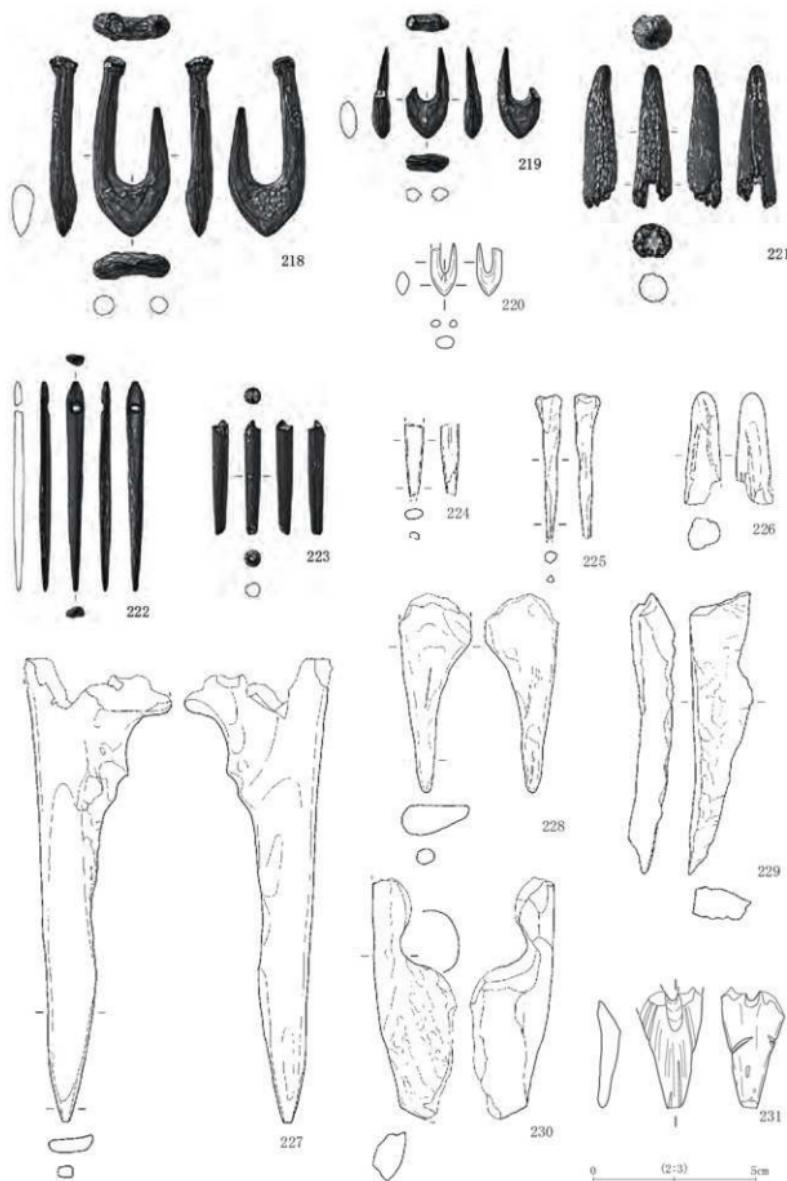
240は径6.6cm残存する。239と同様、全体を研磨するが、239よりは成長線や放射状線が残る。

241は径5.9cm残存する。後世の付着物（錆？）のため、表面の状態が分かりづらいが、上記の2点と同様に研磨により整形されている。

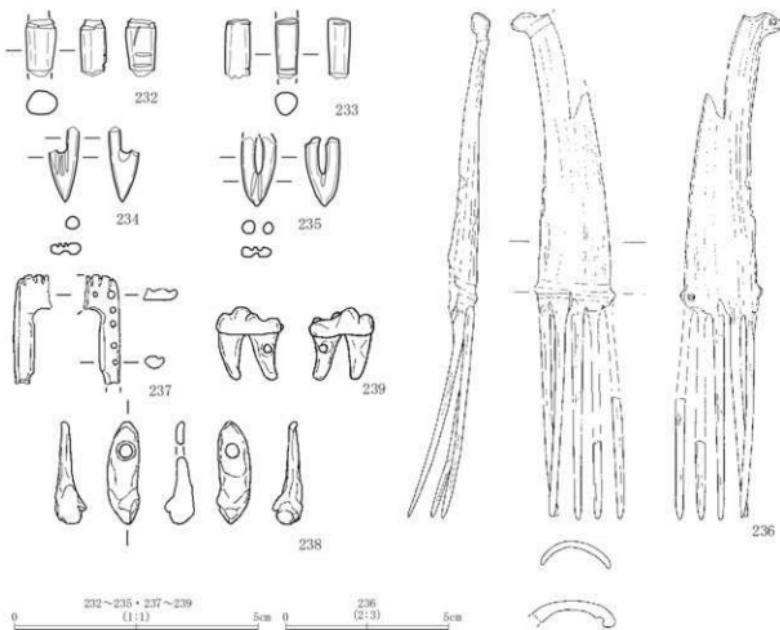
242、243、244は破片で、形態は不明である。全体に整形のための研磨を施しているが、成長線や放射状線は比較的残っている。

245は破片で弧状を呈する。表面が剥離し、また磨滅（摩耗？）もしている。特徴として端部の片側1箇所が穿孔されている。弧状を呈する貝輪の端部破片の可能性が高いが、幅が他の貝輪と比べて小さいので、貝輪ではなく、貝製の垂飾品の可能性もある。

246～266はツノガイ製品（忍澤2011）で、ヤカドツノガイの中央部ないし中央部から頂部寄りを輪



第65図 貝層出土遺物12



第66図 貝層出土遺物13

切りにした「管玉状」を呈する。明らかに欠損したものは別として、輪切りした端部は滑らかであり、摩耗していると考える。長さは2cmを超えるもの(246・247)も見受けられるが、概ね1.5cm前後(250など)が主体ではないかと推測する。

267はタカラガイ製品(宮城県教育委員会1986)で、小型のメダカラガイの背面を大きく削りとっている。

貝類・棘皮動物

貝層から33科54種の貝と棘皮動物1類、軟体動物1類が出土している。貝の多くは、岩礁域に生息するものである。

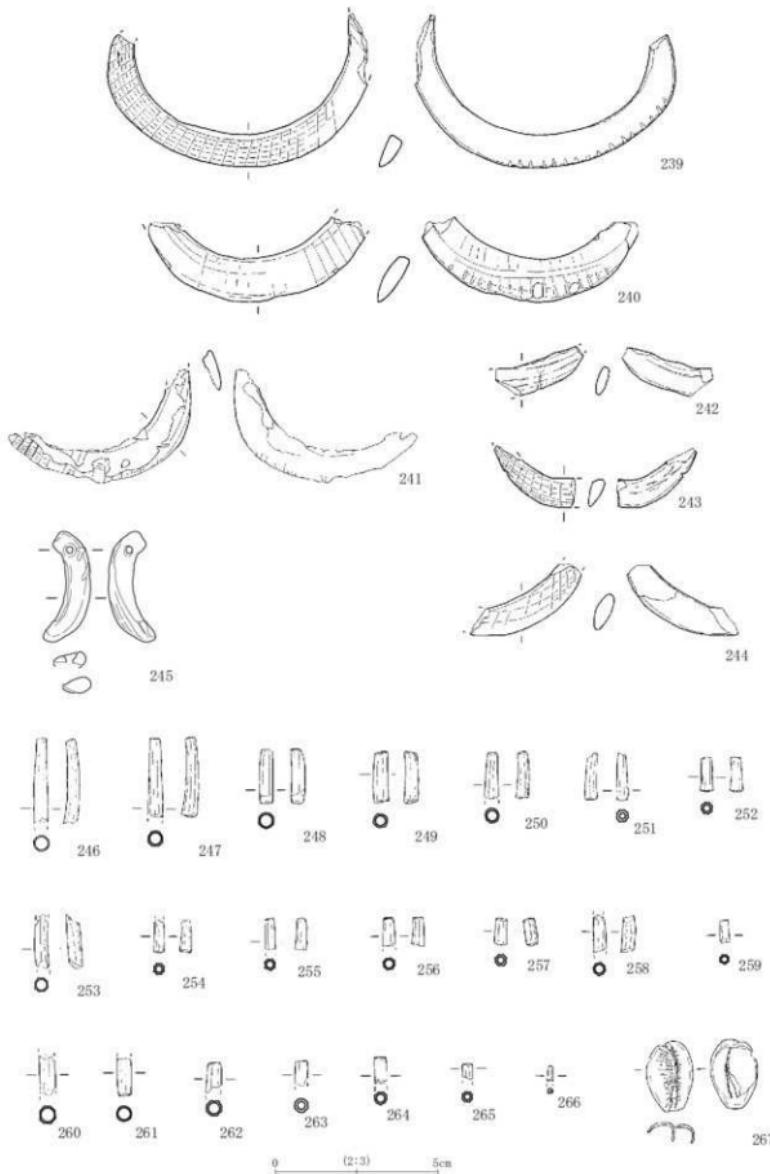
以下、出土した貝、棘皮動物、軟体動物について、出土層位、出土量、またその特徴や推定される用途について記す。

分類名については奥谷編2000を、また現生種の貝類の大きさについては奥谷2006を参考とした。

ヨメガカサガイ(腹足綱カサガイ目ヨメガカサガイ科) /

ユキノカサガイ科/ユキノカサガイ(写真図版85中央) /シロガイ(腹足綱カサガイ目ユキノカサガイ科)

貝層上面、4~10・12・13・15・16・20~22・24・27・28・30・31・33・35・36・38・40・41・



第67図 貝層出土遺物14

42・46~49・51・53・54・56~59・61・63~67層から、シロガイ34点、ユキノカサガイ27点、ユキノカサガイ科、ヨメガカサガイ19点が出土している。微小な貝であるが、出土量は少くない。全て割れており、残存する部分で計測すると長径が4.0cmのものもあるが、ほとんどは1.5~1.0cm前後で現生種より小さい。微小であり、食用ではないと推測する。殻頂部を割って貝輪の素材とした可能性もある（そのような形状で出土したものもある）が細かく、貝輪であるか不明。

エゾアワビ（前鰓亞綱古腹足目ミミガイ科 写真図は85上）

5~9・12~14・16~18・21・22・26~29・33・35~38・40~43・46~49・51~54・58・61・63~67層から出土しており、58点分を数えるが、全て破片である。13層から出土したものが最も大きい破片で、殻長7.0cm残存する。おそらく現生種よりも小型。食用と考える。

クボガイ（前鰓亞綱古腹足目ニシキウズガイ科 写真図版82中央）

貝層上面、4~10・12・14・16・19・21~24・26~31・33・35・36・38~59・61~67層から2,546点出土している。22・33・47層で突出して多いが、他の層にはあまり偏りはなく、万遍なく出土している。殻高2.5cm前後で、現生種よりも小型である。食用と考える。

コシダカガンガラ/オオコシダカガンガラ（前鰓亞綱古腹足目ニシキウズガイ科 写真図版82中央）

形状がクボガイに類似し、腕孔が開く貝をコシダカガンガラとしたが、ヘソアキボガイも含まれるかもしれない。貝層上面、5・9・10・12・20・21・22・23・26~29・31~33・36・38・40・41~67層で2,644点出土している。そのうちオオコシダカガンガラは51・56層で5点のみである。殻高2.5~2.0cm前後で、現生種よりも小型である。食用と考える。

イシダタミ（前鰓亞綱古腹足目ニシキウズガイ科 写真図版82上）

貝層上面、2・4~12・14~17・19・21~24・26~36・38~59・61~68層から6,429点出土している。特に40~68層で多い傾向がある。殻高2.5cm前後で、現生種とはほぼ同じである。殻の残りが良いものが多く、食用と考える。

スガイ（前鰓亞綱古腹足目サザエ科 写真図版82上）

出土した貝類で最も多く、貝殻自体は13層を除き、貝層上面と各層で24,882点出土している。また蓋のみであれば、13層も含め、全ての堆積層で30,196点出土している。出土量では貝殻は41~53層に集中する傾向が見受けられる。殻高は2.0cm前後で、現生種よりもやや小さい。食用と考える。

タマキビ（前鰓亞綱盤足目タマキビ科 写真図版82上）

2・4・6・9・10~16・19・22・24・27~31・33・36・38~41・43~47・49・50・51・53~59・61~63・65・67層で459点出土している。破片はスガイと区別がつかないものもあり、もっと多い可能性が高い。殻高は2.0~1.3cmであるが1.3cm前後が多く、現生種よりはやや小さい。スガイとともに採取されたものと推測される。微小であり、食用か不明である。

ウミニナ（前鰓亞綱盤足目ウミニナ科 写真図版82中央）

貝層上面、5~10・12・14・18・21・22・24・26~33・35・36・38・40・41~55・57~67層から843点出土している。ホソウミニナが混じっているかもしれないが、区別がつかず一括した。殻高は3.0~2.0cmで現生種とはほぼ同じである。食用か。

オオヘビガイ（前鰓亞綱盤足目カデガイ科 写真図版83下）

2・5・9・10・12・22・27・28・31・38・43・45・46・47・49・56・60・61・63・64・66層から31点出土している。9・45・47層からは4点ずつだが、他の層は1~2点しか出土していない。また小片が多い。最も大きいもの（9層 写真図版のもの）で殻長26cm、殻幅3.6cmではほぼ現生種と同じである。食用か不明である。

ツメタガイ（前鰓亜綱盤足目タマガイ科 写真図版83下）

2・5・8・10・12・13・14・30・33・35・36・41・43・48・49・51・65・66・67層から29点出土している。41層で5点、10層で3点、他は1～2点ずつである。殻長は3.5～2.0cm、殻幅6.5～3.0cmであり、現生種よりも小型である。点数は少ないが体層を割られているものもあるので、食用と考える。

メダカラガイ（前鰓亜綱盤足目タカラガイ科）

44層から出土した貝製品と判断した1点（267）である。殻高2.0cmで、現生種とはほぼ同じである。南海産の貝のひとつと考えられているが、戸羽親雄氏により、タカラガイ科でもメダカラガイだけは、県内沿岸に生息することが確認されており（戸羽2009）、また福田友之氏の調査で下北半島沿岸でも採集できることが確認されている（福田2018）。したがって遠方から搬入されたものかは不明である。貝製品製作のためにもたらされたものと推測する。

ボウシュウボラ（前鰓亜綱盤足目フジツガイ科）

3・7・15・18・21・53層から、各層1点ずつで6点出土している。いずれも破片で大きさは不明であるが、おそらく現生種よりも小型と考える。割られていることから、食用か。

ヒレガイ（前鰓亜綱新腹足目アッキガイ科 写真図版82下）

2～10・12・14・16・20～24・26～31・33・35・36・38～47・49・51・53・54・56・57・58・62～67層から133点が出土している。出土量では22層で突出しており（21点）、他にも5・9層も多い。殻高6.0～4.0cmで、現生種よりも小型である。殻頂部が欠けたりはするものの、体層を割られた様子が見受けられないので、食用かは不明である。

ミガキボラ（前鰓亜綱新腹足目アッキガイ科 写真図版83上）

22・33・36・38・43～45・48・50・51・61・65・67層から26点出土している。出土量ではあまり偏りは見受けられない。全て破片である。最も残りが良いもので殻高が9.0cmであり、現生種とはほぼ同じである。体層が割られており、食用と考える。

オウヨウラクガイ（前鰓亜綱新腹足目アッキガイ科 写真図版82下）

貝層上面、2・4・7・9・15・16・20・28・29・30・33・39・40・41・45・46・48～51・53・54・58層から52点出土している。出土量では33・40層が突出しており（6点ずつ）、他の層も1～3点とばらつきが目立つ。殻高が5.0cm前後で現生種と同じである。殻頂が欠けるなどするが、体層などは割られておらず、食用かは不明である。

レイシガイ（前鰓亜綱新腹足目アッキガイ科 写真図版82上）

イボニシとの区別がつかず、一括している。3・68層を除き、全ての堆積層から4,632点が出土している。殻高は5.5～3.0cmで、3.0cm前後が多く、現生種より小型（イボニシなら現生種とほぼ同じ）。殻の残りが良いものが多い。食用と考える。

アカニシ（前鰓亜綱新腹足目アッキガイ科 写真図版83上）

5・6・9・10・12・22・30・35・38・41・42・47・49・53・57・59・61層から31点出土している。出土量では偏りは見受けられないが、貝の大きさは殻高が13.0～4.0cmまで見受けられる。それでも現生種より小さい。殻高13.0cmの貝は体層が割られており、食用と考えるが、小型のものになると割られていないものが多く、用途も食用とそれ以外の両方があった可能性がある。

チヂミボラ（前鰓亜綱新腹足目アッキガイ科 写真図版82下）

5・6・7・9・10・12・13・14・16～20・22・23・24・26～30・33・36・38～45・47・48・49・51～55・57・58・61・63・67層から249点出土している。出土量では42層が突出しており（26点）、他にも7～10層・36・38層で多い。殻高3.0cm前後で現生種とほぼ同じである。体層が割られていない

ものが多く、食用ではないと推測する。用途は不明である。

ヨフバイ（前鰓亜綱新腹足目エゾバイ科 写真図版82下）

2・7・8・28・33・36・40・44・46・47・51・53・57・59・63層で87点が出土している。出土量は46・47・51層に集中する傾向が見受けられた。殻高5.0~2.0cmで、現生種とはほぼ同じがやや大きい。大きいものは体層が割られているものもあるので、食用か。なお現生種のヨフバイは房総半島以南に生息するものであるが、戸羽氏によると三陸海岸でも生息が確認されている（戸羽2009）。

テングニシ（前鰓亜綱新腹足目テングニシ科 写真図版83下）

5層から1点出土したのみである。残存する殻高6.8cmで、現生種よりも小さい。体層は割れているが、1点のみであり、食用かは不明である。

ヤカドツノガイ（掘足綱ツノガイ目ゾウゲノツノガイ科 写真図版83下）

5・6・22・23・31・33・36・41・43・46・58層から自然の貝殻26点が、また6・7・12・41・43~47・51・55・61・63・67層で21点のヤカドツノガイを素材としたツノガイ製品（246~266）が出土している。自然の貝殻は全て割れしており、残存部の殻長は長いもので4.0cm前後、ほぼ現生種と同じか、やや小型か。ツノガイ製品の素材として搬入されたと考える。

コベルトフネガイ（翼形亜綱フネガイ目フネガイ科 写真図版84下）

5・6・7・9・12・17・20・21・28・31・38・40・44・46・47・51・65・67層から33点出土している。6・9層が突出して多い（6点ずつ）が、他は1~2点程度である。殻長2.5~2.0cmで現生種とはほぼ同じである。食用か不明である。

ベンケイガイ（翼形亜綱フネガイ目タマキガイ科）

3~5・12・32・51層から7点出土している。全て貝製品（貝輪 239~245）で、自然の貝殻は見つかっていない。南海産の貝で、遠方からの搬入品としてとらえられる貝であるが、福田友之氏によると青森県七里長浜でも採集できるようである（福田1999）。貝輪の素材として搬入されたものと推測する。

イガイ（エゾイガイ？ 写真図版84上）/ムラサキインコ（翼形亜綱イガイ目イガイ科）

1・4~24・26~68層から7,416点出土している。スガイの次に個数が多いが、全て破片である。残りの良いもので殻長6.0cmを測る。現生種とはほぼ同じであろう。全て破片なのは、食用に割られたものと考える。

ナミガシワ（翼形亜綱カキ目ナミガシワ科 写真図版84中央）

2・8・9・22・23・31・33・37・38~41・43・45~47・50・51・53・57~59層から41点出土している。出土量は40~50層に集中する傾向がある。破片で、細かく割れているものが多いので、個数はもっと多い可能性が高い。残存する貝で殻長を測ると、最も残っているものは6.0cm程度と大きいが、2.0~3.0cm程度が多く現生種とはほぼ同じである。食用か不明である。

イワガキ/マガキ/イタボガキ（翼形亜綱カキ目イタボガキ科 写真図版84上）

貝層上面、1~19・21~25・27~31・33・35~68層から出土しており、個数では947点を数えるが、すべて破片で、かなり細かく割れているため、個数が集計できないものが多く、点数はもっと多い可能性が高い。出土量は41~53層にやや偏る傾向が見受けられる。残存する貝で殻長を測ると、最も残っているもので6.0cm程度であり。現生種よりやや小型か。食用と考える。

マテガイ（異歯亜綱マルスタダレガイ目シジミ科 写真図版85下）

41・47・51層から4点出土している。いずれも破片で、2.0cm程度残存するものが多い。本来の殻長は不明。貝製品の素材かとも思われるが、該当する貝製品は出土していないので、搬入された理由は不明である。

第9表 貝層 貝類出土量 出土点数(層序別)

層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入 (cc)	種類	体積 (cc)	点数 (点)	分 析	層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入 (cc)	種類	体積 (cc)	点数 (点)	分 析
上 面	土層	832	ユキノカサガイ	1	2			チヂミボラ	5	3					
			インダタミ	60	25			ダンダニシ	10	1					
			スガイ	360	117			アラニシ	5	1					
			蓋(スガイ)	1	1			サカドツノガイ	1	1					
			クボガイ		8			コベルトツノガイ	10	1					
			コシダカガニガラ	70				エゾツキガイ	5	2					
			ウニ	10	6			稚貝(巻貝)	5	28					
			レインガイ	150	32			イガイ	20	102					
			オウロウラクガイ	10	1			イワガキ/マガキ	600	1					
			イワキ/マガキ	30	1			アラリ	600	513					
			アサリ	30	12			ウムラサキ(右殻)	5	1					
			カキラクサキ(右殻)	100	2			オカシジミ	10	2					
			ウニ	10	143.1			オオノガイ(左殻)	5	1					
			スガイ	1	1			オオノガイ(右殻)	5	1					
			蓋(スガイ)	5	8			ウニ	5	143.1					
			レインガイ	10	1			不明	2185	—					
1	土層	48810	イガイ	5	2			ユキノカサガイ科	1	7					
			イワキ/マガキ	5	1			エゾツワビ	5	1					
			アサリ	5	1			インダタミ	25	9					
			オオノガイ(不明)	5	1			クボガイ	5	1					
			ウニ	10	143.1			スマギ	100	16					
			不明	10	—			タキビ	5	5					
			イシダタミ	5	1			蓋(スガイ)	50	513					
			スガイ	10	1			ウニナ	5	1					
			タマビ	30	5			スマメガイ	1	1					
			蓋(スガイ)	30	273			ヒガツガイ	40	4					
2	混貝 土層	158,000	オオノガイ	5	1			レインガイ	400	45					
			アサリ	5	1			チヂミボラ	10	9					
			オオノガイ(不明)	5	1			アラニシ	1	1					
			ウニ	10	143.1			コベルトツノガイ	3	6					
			不明	10	—			サカドツノガイ	2	4					
			イシダタミ	5	1			稚貝(巻貝)	5	17					
			スガイ	10	1			イガイ	10	46					
			タマビ	10	1			イワガキ/マガキ	150	10					
			オオノガイ	50	1			アラリ	100	217					
			ヒレガイ	10	1			オカシジミ	1	2					
3	混貝 土層	208,800	オウロウラクガイ	5	1			オオノガイ(左殻)	1	1					
			レインガイ	200	12			ウニ	10	143.1					
			ヨツバ	5	3			不明	1418	—					
			稚貝(巻貝)	100	1			ヒザウガツ?	1	1					
			ナミヨガシワ	10	2			ユキノカサガイ科	10	2					
			イワキ/マガキ	50	1			シロガイ	1	4					
			アサリ	30	48			エゾツワビ	2	1					
			オオノガイ(不明)	10	10			インダタミ	50	16					
			ウニ	5	143.1			タボガイ	25	5					
			不明	700	—			スマギ	400	126					
4	土層	267,300	スガイ	5	2			蓋(スガイ)	30	443					
			蓋(スガイ)	20	91			ウニナ	3	2					
			キクスズメ	5	1			スマズメ	5	1					
			ボウショウガボラ	100	1			スマメガイ	1	2					
			ヒレガイ	5	1			ボクシュウボラ	30	1					
			イワキ/マガキ	10	4			ヒレガイ	10	1					
			アサリ	10	2			オウヨウラクガイ	10	1					
			不明	250	—			レインガイ	450	18					
			ユキノカサガイ科	5	2			チヂミボラ	50	13					
			インダタミ	5	2			ヨツバ	1	1					
5	混貝 土層	179,700	タボガイ	5	1			コベルトツノガイ	5	1					
			スガイ	25	11			稚貝(巻貝)	1	28					
			蓋(スガイ)	25	241			イガイ	27	6					
			ヒレガイ	5	1			イワガキ/マガキ	105	23					
			オウロウラクガイ	5	3			アラリ	100	101					
			レインガイ	100	1			オカシジミ	1	2					
			稚貝(巻貝)	10	18			オオノガイ(右殻)	30	2					
			イガイ	5	1			ウニ	5	143.1					
			イリオモチ	5	1			不明	1100	—					
			イワキ/マガキ	20	3			ユキノカサガイ科	1	1					
7	土層	217,400	オオノガイ(不明)	20	3			エゾツワビ	10	1					
			ヒザウガツ?	5	1			インダタミ	35	14					
			スガイ	25	3			タボガイ	7	2					
			タマビ	10	18			スマギ	300	175					
			蓋(スガイ)	25	241			蓋(スガイ)	50	390					
			ヒレガイ	5	1			ウニナ	1	1					
			オウロウラクガイ	5	3			スマズメ	1	1					
			レインガイ	100	1			ヒレガイ	1	1					
8	混貝 土層	98,300	稚貝(巻貝)	10	18			エゾツワビ	10	1					
			スガイ	150	157			インダタミ	35	14					
			エゾツワビ	25	1			タボガイ	7	2					
			イシダタミ	400	156			スマギ	300	175					
			タボガイ	60	15			蓋(スガイ)	50	390					
			コシダカガニガラ	5	5			ウニナ	1	1					
			スガイ	1,580	617			スマズメ	1	1					
			蓋(スガイ)	50	443			ヒレガイ	1	1					
			ウニナ	20	8			レインガイ	100	66					
			オカシジミ	2	2			ヨツバ	1	1					
			キクスズメ	5	3			稚貝(巻貝)	1	5					
			スマギ	5	2										
			タボガイ	5	2										
			ヒレガイ	200	7										
			レインガイ	720	76										

層名	層の種類	層の土量(cc)	貝の混入量(cc)	種類	体積(cc)	点数(点)	分類	層名	層の種類	層の土量(cc)	貝の混入量(cc)	種類	体積(cc)	点数(点)	分類
8 混貝 土層	98,300	1,264	イガイ	25	45			巻(スガイ)	50	366					
			ナミマガシワ	1	1			ウニニナ	5	2					
			イワガキ/マガキ	65	12			オマビガイ	1	1					
			アサリ	10	13			カキズメ	1	2					
			オマガイ(左殻)	75	1			スマゼイ	10	2					
			オマガイ(右殻)	75	2			フタガイ	5	1					
			ウニ	3	13上			ヒレガイ	50	6					
			不明	573	-			レシガイ	200	88					
9 混貝 土層	125,600	5,212	ユキノカサガイ科	10	25			ナミボラ	40	6					
			シロガイ	1	2			アヒニシ	15	1					
			キクイザラ	1	1			コムルトボネザイ	5	1					
			エゾアワビ	10	1			地貝(巻貝)	2	2					
			イシダタミ	225	28			イガイ	10	35					
			タガガイ	250	38			イサザイ科(タマエガイ?)	3	1					
			コシダカガングラ	274	16			イタボガキ	20	1					
			スガイ	900	-			イワガキ/マガキ	110	14					
			タマボビ	1	-			アリ	150	64					
			巻(スガイ)	25	184			ウムラサキ(不明)	1	1					
			ウニニナ	10	12			オマシジミ	40	1					
			オマガビガイ	10	4			オマガイ(左殻)	3	1					
10 混貝 土層	168,300	2,853	オカスズメ	5	1			オマガイ(右殻)	1	1					
			スズメガイ	5	8	○		ウニ	5	13上					
			ヒレガイ	90	2			不明	1275	-					
			オウロワタガイ	5	3			ユキノカサガイ科	5	23					
			レシガイ	580	104			エゾアワビ	10	1					
			ナミボラ	25	11			タガキビ	1	1					
			アヒニシ	5	4			巻(スガイ)	5	74					
			コベトトボネガイ	5	6			フタガイ	100	2					
			地貝(巻貝)	5	20			レシガイ	5	6					
			イガイ	10	49			ナミボラ	5	4					
			ナミマガシワ	1	2			地貝(巻貝)	1	5					
			イワガキ/マガキ	200	12			イワガキ/マガキ	11	1					
11 混貝 土層	99,300	3,212	アサリ	100	40			アサリ	1	2					
			ウニ	100	13上			ウムラサキ(不明)	5	7					
			不明	2675	-			ムサキンシコ	1	1					
			ユキノカサガイ科	10	9			オマガイ(左殻)	5	1					
			インダタミ	50	31			ウニ	1	13上					
			タガガイ	50	22			不明	150	-					
			コシダカガングラ	200	4			エゾアワビ	1	1					
			スガイ	200	61			イシダタミ	1	2					
			タマボビ	10	16			タガガイ	1	1					
			巻(スガイ)	10	246			スガイ	1	8					
			ウニニナ	1	2			タガキビ	1	4					
12 土層	437,310	2,143	オマガビガイ	10	1			巻(スガイ)	5	66					
			キクイズメ	5	3			ウニニナ	1	2					
			スズメガイ	1	2			フタガイ	1	1					
			タマボビ	5	3			ヒレガイ	5	1					
			巻(スガイ)	5	46			レシガイ	50	23					
			レシガイ	10	9	○		ナミボラ	1	1					
			地貝(巻貝)	1	2			地貝(巻貝)	10	12					
			イガイ	1	4			イガイ	1	2					
			イワガキ/マガキ	5	1			イワガキ/マガキ	5	1					
			アサリ	1	1			アリ	10	15					
			ウニ	1	13上			オマガイ(左殻)	10	1					
			不明	1850	-			ウニ	1	13上					
13 混貝 土層	30,400	290	イシダタミ	1	1			不明	125	-					
			スガイ	5	6			ユキノカサガイ科	1	2					
			タマボビ	2	2			インダタミ	1	1					
			巻(スガイ)	5	46			スガイ	1	20					
			レシガイ	10	9			タガキビ	1	1					
			地貝(巻貝)	1	2			巻(スガイ)	1	23					
			イガイ	1	4			ボウシウホウ	5	1					
			イワガキ/マガキ	5	1			オウロワタガイ	3	3					
			アサリ	1	1			レシガイ	1	1					
			ウニ	1	13上			地貝(巻貝)	1	26					
			不明	2	-			イガイ	1	3					
			ユキノカサガイ科	10	8			イワガキ/マガキ	5	1					
14 土層	122,750	656	エゾアワビ	11	1			アリ	10	15					
			インダタミ	20	1			ウムラサキ(不明)	1	1					
			タガガイ	11	1			オマガイ(左殻)	20	7					
			コシダカガングラ	90	17			オマガイ(右殻)	20	8					
			スガイ	90	13			不明	200	-					
			タマボビ	1	-			ユキノカサガイ科	5	1					
15 混貝 土層	30,400	290	エゾアワビ	1	-			エゾアワビ	1	1					
			インダタミ	1	-			インダタミ	13	1					
			タガガイ	1	-			タガガイ	3	1					
			コシダカガングラ	1	-			スガイ	25	8					
			スガイ	1	-										
			タマボビ	1	-										
16 土層	122,750	656	ユキノカサガイ科	10	8										
			エゾアワビ	11	1										
			インダタミ	20	1										
			タガガイ	11	1										
			コシダカガングラ	90	17										
			スガイ	90	13										

層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入量 (cc)	種類	体積 (cc)	点数 (点)	分 析	層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入量 (cc)	種類	体積 (cc)	点数 (点)	分 析
16 土層	122750	656	タマカビ		7			21 混合土層	76300	3903	ヒラメ(スガイ)		20	109	
			ミズクガイ	15	98	1					レイシガイ	470	70		
			スズメガイ	1	1						コモルトキガイ	5	1		
			ヒレガイ	6	1						帆貝(巻貝)	15	5		
			オウロウラクガイ	5	1						イガイ	50	126		
			レインガイ	27	2						イワガキ/マガキ	425	14		
			チヂミボラ	3	1						アマリ	25	39	○	
			帆貝(巻貝)	1	3						オナシジミ	5	2		
			イガイ	3	15						オオノガイ(左殻)	100	4		
			イワガキ/マガキ	45	13						オオノガイ(右殻)	100	1		
17 混合土層	119350	214	アサリ	25	30						ウニ	20	1以上		
			オキシジミ	1	2						不明	2186	~		
			ウニ	1	13.1						ユキノカサガイ科	5	13		
			不明	476	~						エゾアワビ	30	6		
			エゾアワビ	1	1						イシダタミ	360	127		
			シザクミ	5	3						スガイ	1610	411		
			スガイ	20	10						コモルトキガウラ	5	56		
			ヒラメ(スガイ)	5	33						スライ	1880	654		
			レインガイ	5	3						タマカビ	150	25		
			チヂミボラ	1	2						ヒラメ(スガイ)	40	574		
18 混合土層	103600	406	コモルトキガイ	1	1						ウニニテ	5	3		
			イガイ	1	4						オナヒビガイ	5	1		
			イワガキ/マガキ	5	13.1						キヌスキ	5	12		
			アサリ	5	7						スズメガイ	1	2		
			オオノガイ(左殻)	5	1						ヒガイ	280	21		
			オオノガイ(右殻)	5	1						ナマガシ	5	1		
			不明	160	~						イワガキ/マガキ	2300	15		
			エゾアワビ	1	1						アマリ	300	92		
			スガイ	15	3						オキシジミ	10	2		
			ヒラメ(スガイ)	10	25						オオノガイ(左殻)	100	14		
19 混合土層	116400	545	オナヒビガイ	5	2						オオノガイ(右殻)	80	15		
			ボウソウウボラ	5	1						ウニ	660	1以上		
			レインガイ	30	1						不明	10510	~		
			チヂミボラ	5	1						イシダタミ	5	1		
			イガイ	10	8						タボガイ	20	2		
			イワガキ/マガキ	20	1						コモルトキガウラ	5	1		
			アサリ	10	3						スライ	40	16		
			オオノガイ(不明)	10	1						ヒラメ(スガイ)	20	20		
			ウニ	5	13.1						レインガイ	30	13		
			不明	280	~						チヂミボラ	5	1		
20 混合土層	150400	460	イシダタミ	40	6						ヤドツノガイ	5	1		
			タボガイ	10	1						オナヒビガイ	5	1		
			スガイ	70	8						ナマガシ	5	1		
			ヒラメ(スガイ)	10	31						イワガキ/マガキ	25	3		
			レインガイ	40	4						アマリ	5	1		
			チヂミボラ	5	3						ウニニテ	5	1		
			イガイ	10	5						オナヒビガイ	5	1		
			イワガキ/マガキ	25	2						ナマガシ	5	1		
			アサリ	30	11						イワガキ/マガキ	25	3		
			オキシジミ	50	1						アマリ	5	1		
21 混合土層	76300	3903	ウニニテ	5	13.1						ウニニテ	5	1		
			スガイ	20	9						スライ	10	12		
			オキシジミ	5	2						ウムラサキ	5	1		
			ヒレガイ	15	2						オオノガイ(右殻)	5	1		
			オウロウラクガイ	5	1						ウニ	20	1以上		
			チヂミボラ	5	1						不明	600	~		
			アサリ	20	9						スライ	10	6		
			オキシジミ	5	2						チヂミボラ	10	2		
			コモルトキガイ	5	1						帆貝(巻貝)	30	67		
			不明	250	~						イガイ	15	22		
22 混合土層	234150	20551	スキンカサガイ科	5	1						イワガキ/マガキ	100	2		
			エゾアワビ	50	20						アマリ	10	12		
			イシダタミ	50	15						ウムラサキ	5	1		
			タボガイ	230	33						オオノガイ	5	1		
			レインガイ	10	10						ウニニテ	5	1		
			コモルトキガイ	50	2						スズメガイ	5	1		
			ヒラメ(スガイ)	10	31						ヒガイ	50	1		
			レインガイ	30	1						レインガイ	100	6		
			チヂミボラ	10	1						チヂミボラ	10	2		
			アサリ	20	9						帆貝(巻貝)	30	67		
23 土層	146900	495	スキンカサガイ科	5	4						イガイ	15	22		
			エゾアワビ	30	6						イワガキ/マガキ	100	2		
			イシダタミ	30	3						アマリ	10	12		
			タボガイ	60	4						ウムラサキ	5	1		
			スライ	40	6						オオノガイ	5	1		
			ヒラメ(スガイ)	20	20						ウニニテ	30	30		
			レインガイ	30	1						スズメガイ	5	1		
			チヂミボラ	5	1						ヒガイ	50	1		
			アサリ	20	9						レインガイ	100	6		
			オキシジミ	5	2						チヂミボラ	10	2		
24 混合土層	63600	1995	スキンカサガイ科	5	4						帆貝(巻貝)	30	67		
			エゾアワビ	30	6						イガイ	15	22		
			イシダタミ	30	3						イワガキ/マガキ	100	2		
			タボガイ	60	4						アマリ	10	12		
			スライ	40	6						ウムラサキ	5	1		
			ヒラメ(スガイ)	20	20						オオノガイ	5	1		
			レインガイ	30	1						ウニニテ	30	30		
			チヂミボラ	5	1						スズメガイ	5	1		
			アサリ	20	9						ヒガイ	50	1		
			オキシジミ	5	2						レインガイ	100	6		
25 土層	209200	120	スキンカサガイ科	5	4						チヂミボラ	10	1		
			エゾアワビ	30	6						ウムラサキ	10	17		
			イシダタミ	30	3						オオノガイ	10	17		
			タボガイ	230	98						ヒガイ	20	2		
			ウミニナ	5	2						スライ	10	1		
			キヌスキ	2	1						オナヒビガイ	5	1		
			ボウソウウボラ	20	1						ウニニテ	5	1		
			ヒレガイ	10	2						スズメガイ	5	1		
			スガイ	230	98						ヒガイ	15	22		
			不明	600	~										

層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入量 (cc)	貝の種類	体積 (cc)	点数 (点)	分率 (%)	層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入量 (cc)	貝の種類	体積 (cc)	点数 (点)	分率 (%)
25 土層	209,200	120	イワガキ/マガキ	5	1			29 土層	60,700	1,300	ヒレガイ	50	1		
			アサリ	5	4						オウロウラクガキ	20	2		
			オキシジミ	5	2						レモンガイ	60	16		
			ウニ	5	13.1						ホタテボラ	5	1		
			不明	60	-						椎貝(巻貝)	5	2		
26 土層	94,600	376	エゾアワビ	1	1						イガイ	10	12		
			イシガタミ	5	2						イタボガキ	5	1		
			タボガイ	10	11						イワガキ/マガキ	30	1		
			コシダカガングラ	1							オノノガイ(左殻)	50	2		
			スガイ	80	31						オノノガイ(右殻)	50	4		
			亀(スガイ)	10	81						ウニ	5	13.1		
			ウミニナ	1	1						不明	610	-		
			ヒレガイ	1	1						ユキノカサガイ科	1	1		
			レモンガイ	10	11						イシダチミ	5	1		
			チドリボラ	1	1						タボガイ	10	2		
27 芝貝 土層	103,900	2,468	タボガイ	5	9						スガイ	50	13		
			イワガキ	20	7						タツキビ	5	3		
			エゾアワビ	10	4						亀(スガイ)	30	445		
			スガイ	1	2						ウミニナ	1	1		
			タボガイ	1	1						キクスズメ	1	1		
			コシダカガングラ	1							フタザギイ	1	1		
			ウミニナ	1	2						ヒレガイ	10	1		
			オキシジミ	1							オウロウラクガキ	10	3		
			ウニ	1	13.1						レモンガイ	60	24		
			不明	220	-						ホタテボラ	20	5		
28 芝貝 土層	190,700	11,520	シロガイ	1	1						アラニン	3	1		
			エゾアワビ	3	1						椎貝(巻貝)	3	1		
			スガイ	50	24						イガイ	10	30		
			タボガイ	1							イワガキ/マガキ	90	3		
			亀(スガイ)	10	174						アサリ	10	20		
			イシガタミ	5	1						オノノガイ(左殻)	10	2		
			タボガイ	55	3						オノノガイ(右殻)	10	11		
			コシダカガングラ	1							ウニ	5	13.1		
			ウミニナ	1	2						不明	690	-		
			オキシビガイ	5	1						ユキノカサガイ科	3	2		
29 土層	60,700	1,100	ヒレガイ	1	1						シロガイ	1	4		
			レモンガイ	10	11						イシダチミ	50	20		
			チドリボラ	1							タボガイ	90	16		
			イワガキ	5	2						コシダカガングラ	5	9		
			ウニ	1	13.1						スガイ	310	102		
			オキシビガイ	1							タツキビ	30	36		
			ヒレガイ	1	1						亀(スガイ)	20	344		
			チドリボラ	5	3						ウミニナ	5	5		
			椎貝(巻貝)	5	4						オキハビガイ	1	1		
			イガイ	205	378						キクスズメ	1	1		
31 混合 土層	69,800	2,810	イワガキ/マガキ	30	2						ヒレガイ	100	9		
			アサリ	40	14						レモンガイ	200	38		
			ウチカラウキ(不明)	1	1						サヨドノガイ	1	1		
			オノノガイ(左殻)	3	1						コムルトネオゼイ	1	2		
			オノノガイ(右殻)	3	2						椎貝(巻貝)	1	5		
			ウニ	5	13.1						イガイ	50	186		
			不明	1983	-						ナミガシシリ	10	1		
			ユキノカサガイ科	5	1						イワガキ/マガキ	130	5		
			エゾアワビ	5	1						アサリ	50	40		
			タボガイ	400	8						オキシジミ	10	1		
32 土層	86,300	318	タボガイ	25	352						オノノガイ(左殻)	5	3		
			コシダカ	500	16						オノノガイ(右殻)	5	1		
			オニナツリ	130	1						ウニ	5	13.1		
			アカモツ	47							不明	1773	-		
			ハマグリ?	50	1						イシダチミ	1	1		
			オノノガイ(左殻)	200	4						コシダカガングラ	1	1		
			オノノガイ(右殻)	25	2						スガイ	2	2		
			ウニ	25	13.1						亀(スガイ)	10	46		
33 混合 土層	111,900	12,061	不明	7846	-						レモンガイ	1	1		
			エゾアワビ	20	10						ヒレガイ	1	1		
			イシダチミ	50	22						タボガイ	1	2		
			タボガイ	60	13						ウニ	1	13.1		
			コシダカガングラ	9							不明	300	-		
34 土層	111,900	12,061	タボガイ	100	48						ユキノカサガイ科	5	24		
			タボガイ	10	2						エゾアワビ	10	1		
			亀(スガイ)	10	90						オキメガサ	1	1		
			ウミニナ	10	10						イシダチミ	500	155		
			スガイ	100	10						タボガイ	1300	37		

層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入量 (cc)	種類	体積 (cc)	点数 (点)	分 析	層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入量 (cc)	種類	体積 (cc)	点数 (点)	分 析
33 褐貝土層	111900	12061	ウミニア	50	19			37 混貝土層	111,200	375	椎貝(巻貝)	10	6		
			キクシヌメ	5	3						イガイ	5	2		
			スズメガイ	5	2						ナマガシシリ	20	1	○	
			ワカメガイ	5	2						イワガキ/マガキ	20	1		
			ヒレガイ	5	5						不明	200	-		
			オウカヨウラクガイ	100	6						エゾノカサガイ科	5	5		
			レインガイ	460	172						エゾアワビ	5	1		
			チドリボラ	5	6						イシダタミ	20	8		
			ヨフハイ	5	1						タマガイ	140	28		
			ミガキボラ	50	2						コグロカガニガラ	5	5		
			ヤカドリノガイ	5	1						スガイ	45	58		
			ヒメノガイ(巻貝)	5	28	○					タマキビ	5	3		
			イガイ	150	111						道(スガイ)	10	198		
34 褐貝土層	38,700	135	ナミカゼシワ	5	3						ウニニチ	1	1		
			イワガキ/マガキ	960	18						オホヘビガイ	1	1		
			アサリ	79							ヒレガイ	40	2		
			ウミルリサキ	1							レインガイ	450	172		
			オカシジミ	620	2						ナマコボラ	10	11		
			オイノガイ(左殻)	5	7						アソニシ	10	2		
			オイノガイ(右殻)	5	8						ミガキボラ	60	2		
			ウニ	10	133.1						コベルトフネガイ	5	3		
			不明	5,900	-						イガイ	65	173		
			ナマゼシリ	5	1						ナマゼシリ	1	1		
35 土層	58,900	744	イシダタミ	5	1						イワガキ/マガキ	210	6		
			スザンミ	5	4						アソリ	5	17		
			道(スガイ)	10	17						オシシジミ	5	1		
			レインガイ	5	1						オオノガイ(右殻)	5	3		
			イガイ	10	25						ウニ	10	133.1		
			不明	100	-						不明	1280	-		
			ユキノカサガイ科	1	1						イシダタミ	10	2		
			エゾアワビ	10	1						タボガイ	20	8		
			インダタミ	5	1						スガイ	100	44		
			タボガイ	5	2						タマキビ	5	2		
			スガイ	50	25						道(スガイ)	10	71		
			道(スガイ)	10	37						ヒレガイ	10	1		
			ウミニア	10	10						ナウカヨウラクガイ	10	1		
36 褐貝土層	322,500	10,517	ツメガイ	1	1						レインガイ	110	27		
			ヒレガイ	1	1						ナマコボラ	10	2		
			レインガイ	50	12						イガイ	10	5		
			アカシシ	5	1						ナマゼシリ	10	1		
			椎貝(巻貝)	1	1						イワガキ/マガキ	50	2		
			イガイ	20	60						アソリ	1	1		
			イワガキ/マガキ	50	4						ウニ	5	133.1		
			オオノガイ(不明)	100	1						不明	300	-		
			ウニ	5	133.1						エゾノカサガイ科	5	1		
			不明	420	-						エゾアワビ	5	11		
			ユキノカサガイ科	5	7						インダタミ	10	1		
			エゾアワビ	5	1						タボガイ	1150	302		
			インダタミ	100	41						タマガイ	100	76		
			タボガイ	30	10						コグロカガニガラ	450	60		
37 土層	111,200	375	コシシカガニガラ	8							スガイ	100	356		
			スガイ	500	263						タマキビ	1000	4		
			タマビ	500	27						道(スガイ)	50	540		
			道(スガイ)	50	631						ウニニチ	10	15		
			サザエ	5	1						ヒレガイ	5	1		
			ウミニア	10	8						ナウカヨウラクガイ	5	6		
			ツメガイ	5	1						レインガイ	400	108		
			ヒレガイ	50	2						ナマコボラ	5	5	○	
			レインガイ	400	141						コブツイ	5	3		
			ナマコボラ	12	14						コベルトフネガイ	5	2		
			ヨフハイ	5	1						椎貝(巻貝)	5	10		
			ミガキボラ	50	3						イガイ	100	110		
			ヤカドリノガイ	5	2						ナマゼシリ	5	4		
			椎貝(巻貝)	5	28						イワガキ/マガキ	200	15		
38 混貝土層	185,100	2,883	イガ	100	77						アソリ	5	58		
			スガイ	10	1						ウナムラサキ(右殻)	1			
			道(スガイ)	100	32	○					ウナムラサキ(不明)	1000	1		
			レインガイ	5	1						オキシジミ	22			
			不明	8,650	-						オオノガイ(右殻)	15			
			エゾアワビ	5	1						ウニ	10	133.1		
			スガイ	10	1						不明	7200	-		
			道(スガイ)	100	32	○					エゾノカサガイ科	50	54		
			レインガイ	5	1						エゾアワビ	100	1		
			不明	8,650	-						インダタミ	500	266		
			エゾアワビ	5	1						タボガイ	1750	93		
			スガイ	10	1						コグロカガニガラ	2600	304		
			道(スガイ)	100	32	○					スガイ	2600	949		

層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入量 (cc)	種類	体積 (cc)	点数 (点)	分 析	層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入量 (cc)	種類	体積 (cc)	点数 (点)	分 析
41	混貝 土層	279,800	28,066	タマカビ		9		44	混貝 土層	138,800	9,040	ヨツバイ	5	2	
				巻(スガイ)	100	1164						ナガミボラ	20	9	
				ウニナ	100	104						コムルトナガイ	5	1	
				クモカズメ	1	1						帆貝(巻貝)	25	11	
				ワミガハイ	10	5						イガイ	400	144	
				ヒレガイ	200	5						イワガキ/マガキ	250	17	
				オカラヨウラクガイ	10	3						カサザル科	5	1	
				レシガハイ	1,900	473						アサリ	400	101	
				ナガミボラ	50	26	○					オサノガイ(左殻)	100	3	
				アカシシ	10	2						オサノガイ(右殻)	100	18	
				ヤカドリノガイ	5	10						ウニ	10	1 BL上	
				マツガイ	5	2						不明	5755	-	
				帆貝(巻貝)	10	49						イシダチミ	100	62	
				イガイ	2,310	1,124						クモガハイ	50	16	
42	混貝 土層	85,300	4,020	ナミガシワ	5	2						コムダカダンガラ	4		
				イワガキ/マガキ	900	20						スズメイ	308		
				アサリ		103						タマキビ	1,310	17	
				オカラガイ(左殻)	2,600	41						巻(スガイ)	130	1,123	
				オカラガイ(右殻)		41						ウニナ	10	5	
				ヒレガイ	200	143.1						オサヘビガイ	10	4	
				ウニ		14,600	-					ヒレガイ	5	1	
				不明								オカラヨウラクガイ	5	4	
				ユキノカサガハイ科	5	1						レシガハイ	150	31	
				エノアワビ	5	1						ナミミボラ	10	3	
				イシダチミ	200	87						タコキボラ	100	3	
				タボガハイ	250	21						帆貝(巻貝)	5	3	
				コムダカダンガラ		31						イガイ	10	13	
				スズメイ	425	133						ナミガシリ	5	1	
43	混貝 土層	251,900	14,666	巻(スガイ)	25	110						イワガキ/マガキ	500	36	
				ウニナ	50	11						アサリ	57		
				ヒレガイ	10	1						オサシジミ	500	2	
				レイシガハイ	400	87						オサノガイ(左殻)	1		
				ナミミボラ	10	3						ウニ	5	1 BL上	
				アカシシ	50	1						不明	5,700	-	
				帆貝(巻貝)	5	28									
				イガイ	100	114						ヨメガカサハイ	10	2	
				イタコガハイ	10	1						ユキノカサガハイ	5	2	
				イワガキ/マガキ	120	7						エノアワビ	5	1	
				キウル科	5	1						イシダチミ	800	291	
				アサリ	10	13						タマキビ	1,200	84	
				オカラガイ(左殻)	250	9						コムダカダンガラ	172		
				オカラガイ(右殻)		12						スズメイ	3,450	1,562	
				ヒレガイ	5	13.1						タボガハイ	250	2246	
				不明		2,085	-					巻(スガイ)	250		
44	混貝 土層	138,800	9,040	エノアワビ	1	1						ウニナ	100	85	
				イシダチミ	300	153						オサヘビガイ	1	1	
				タボガハイ		189						ヒレガイ	1	1	
				コムダカダンガラ		26						オカラヨウラクガイ	10	1	
				スズメイ		1,446						レイシガハイ	300	226	
				タマカビ		7						コムカイ	50	13	
				巻(スガイ)	200	1,490						カドツノミガイ	1	1	
				ウニナ	10	8						コムルトナガイ	1	1	
				オカラビガイ	1	1						帆貝(巻貝)	5	28	
				ワミガハイ	1	1						イガイ	1,500	437	
				ヒレガイ	10	1						ナミガシリ	1	2	
				レイシガハイ	250	84						イワガキ/マガキ	1,200	123	
				ナミミボラ	1	4						アサリ		13	
				シベガボラ	1	2						オサシジミ		1	
				ヤカドリノガイ	1	3						オサノガイ(左殻)	1,130	40	
				帆貝(巻貝)	10	21						オサノガイ(右殻)		24	
				イガイ	160	113						ウニ	50	1 BL上	
				ナミカシワ	5	5						不明	11,200	-	
				イワガキ/マガキ	300	19						ヨメガカサハイ		17	
				ツバガハイ		119						エノアワビ	10	9	
				オサシジミ	410	1						コムダカダンガラ		2	
				オカラガイ(右殻)		2						スズメイ	3,050	1,280	
				ヒレガイ	5	1						タボガハイ		8	
				レイシガハイ	550	89						巻(スガイ)	150	1,472	
				ミガキボラ		1						ウニナ	50	39	
				タボガハイ	150	17						オサヘビガイ	5	4	
				コムダカダンガラ		38						ヒレガイ	10	1	
				スズメイ	1,110	603						レイシガハイ	800	213	
				タマカビ		9						ナミミボラ	50	13	
				巻(スガイ)	50	196						タボガハイ			
				ウニナ	25	12						コムルトナガイ			
				ヒレガイ	5	1						ヨメガカサハイ			
				レイシガハイ	550	89						エノアワビ			

届名	届の種類	届の土量 (cc)	具の混入量 (cc)	種類	体積 (cc)	点数 (点)	分 析
47 芝貝 土等	144,000	19013	アカニシ	5	3		
			ヨツバイ	5	23		
			コバケトフネガイ	5	2		
			稚貝(色貝)	5	29		
			イガイ	50	62		
			ナミガシワ	5	4		
			イワガキ/マガキ	1,400	36		
			マダガイ	1	1		
			アサリ		95		
			ウムラサキ		1		
			オオノガイ(左殻)	500	14		
			オオノガイ(右殻)		7		
			稚貝(二枚貝)	5	9		
			ウニ	5	143上		
			不明		11,450		
48 土等	126,600	7,267	ユキノカサガイ	1	1		
			エフアワビ	1	1		
			イシダタミ	200	106		
			タボイ	300	67		
			コシダカガシガラ		22		
			スガイ	2,100	1,040		
			造(スガイ)	80	742		
			ウニナ	50	10		
			フメガイ	50	1		
			オウカヨウラクガイ	10	1		
			レインガイ	200	37		
			チヂミボラ	50	9		
			ミゼミボラ	10	1		
			稚貝(色貝)	5	14		
			イガイ	50	10		
49 芝貝 土等	82,400	8,682	イワガキ/マガキ	300	27		
			ウムラサキ		39		
			アサリ		1		
			オオノガイ(左殻)	200	5		
			オオノガイ(右殻)		1		
			ウニ	10	143上		
			不明		3,950		
			ユキノカサガイ科	1	2		
			エフアワビ	1	1		
			タボイ	450	19		
			コシダカガシガラ		97		
			イシダタミ	160	54		
			スガイ	1,000	465		
			タマカビ		3		
50 芝貝 土等	88,700	4,491	造(スガイ)	30	290		
			ウニナ	10	13		
			フメガイ	5	1		
			ヒレガイ	5	3		
			オウカヨウラクガイ		1		
			レインガイ	250	128		
			ミゼミボラ	10	3		
			稚貝(色貝)	5	60		
			イガイ	250	60		
			ナミガシワ	5	4		
			イワガキ/マガキ	250	28		
			ウムラサキ	100	1		
			ハマカリ	100	1		
			オオノガイ(左殻)	200	4		

届名	届の種類	届の土量 (cc)	具の混入量 (cc)	種類	体積 (cc)	点数 (点)	分 析
50 芝貝 土等	88,700	4,491	オオノガイ(右殻)			8	
			ウニ		10	1以上	
			不明		2,000	—	
			ユキノカサガイ科			4	
			シロガイ		10	3	
			エフアワビ		10	1	
			イシダタミ		900	569	
			タボイ			157	
			コシダカガシガラ		1,250	294	
			オオコシダカガシガラ			3	
			スガイ		5,500	2,304	
			タボイ			28	
			造(スガイ)		200	1,768	
			ウニナ		50	60	
			タキズヌメ		1	2	
51 芝貝 土等	88,700	31,064	フレイガイ		10	2	
			ヒメガイ		5	6	
			オオウコヨウラクガイ		5	3	
			レインガイ		600	128	
			チヂミボラ		10	17	
			ヨツガイ		10	13	
			ミガキボラ		100	3	
			コシルトフネガイ		1	1	
			稚貝(色貝)		20	46	
			イガイ		50	36	
			イワガキ/マガキ		600	44	
			ナミガシワ		3	1	
			マガガイ		1	1	
			アサリ			52	
			ウムラサキ(右殻)		600	5	
52 土等	88,100	5,121	オオノガイ(左殻)			8	
			ウニ		10	1以上	
			不明		21,630	—	
			エフアワビ			3	
			イシダタミ		150	55	
			タボイ			4	
			コシダカガシガラ		100	18	
			スガイ		600	375	
			造(スガイ)		50	414	
			ウニナ		10	5	
			レインガイ		10	14	
			チヂミボラ		10	2	
			稚貝(色貝)		10	3	
			イガイ		150	50	
			イワガキ/マガキ		100	7	
53 芝貝 土等	91,100	19,492	アサリ			7	
			オシシジミ			10	
			オオノガイ(左殻)			8	
			オオノガイ(右殻)			8	
			ウニ		10	1以上	
			不明		3,450	—	
			ユキノカサガイ			10	
			ユキノカサガイ科			5	
			シロガイ			5	
			エフアワビ			5	
			イシダタミ		400	254	
			タボイ			700	88
			コシダカガシガラ			114	
			スガイ		6,000	1,968	
			タマカビ			6	
54 芝貝 土等	91,100	19,492	造(スガイ)			4	
			ウニナ		80	751	
			ワニナ		50	39	
			ボウシユウボラ		5	1	
			ヒガイ		50	5	
			オウカヨウラクガイ		20	1	
			レインガイ		800	151	
			チヂミボラ		10	1	
			アカニシ		1	1	
			ヨツガイ		5	6	
			稚貝(色貝)		10	46	
			イガイ		200	44	
			ナミガシワ		1	1	
			イワガキ/マガキ		300	46	
			アサリ			5	
55 芝貝 土等	91,100	19,492	オオノガイ(左殻)		200	13	
			オオノガイ(右殻)		17		

層名	層の種類	層の土量 (cc)	貝の混入 量(cc)	貝の混入 量(cc)	種類	体積 (cc)	点数 (件)	分 析
53	混貝土層	91,100	19,462	ウニ 不明		5 10,600	1以上 -	○
				ユキノカサガイ科	10	1		
				シロガイ	2			
				エフアワビ	1	1		
				イシダタミ	300	132		
				クボガイ	200	32		
				コシザカガングラ	19			
				スガイ	1,500	628		
				タマビ	6			
				墨(スガイ)	50	569		
				ウニナ	10	7		
				ヒレガイ	2			
				オカワヨウラクガイ	10	1		
				椎貝(色貝)	10	13		
				レイガイ	400	214		
				チヂミボラ	10	3		
				イセイ	220	210		
				イワキキ/マガキ	250	18		
				アサリ	25			
				オキノガイ(左殻)	200	8		
				オキノガイ(右殻)	5			
				ウニ	30	143.1		
				不明	4,000	-		
				イシダタミ	50	17		
				クボガイ	50	2		
				コシザカガングラ	9			
				スガイ	180	72		
				タマビ	3			
				墨(スガイ)	10	149		
				ウニナ	50	7		
				レイガイ	30	3		
				チヂミボラ	50	3		
				イセイ	100	63		
				イワキキ/マガキ	100	2		
				椎貝(色貝)	5	5		
				アサリ	17			
				ウチカラウキ(不明)	10	1		
				オキノガイ(左殻)	2			
				オキノガイ(右殻)	1			
				ウニ	1	143.1		
				不明	630	-		
				ユキノカサガイ科	1	1		
				イシダタミ	50	11		
				クボガイ	2			
				コシザカガングラ	30	4		
				オキノシダカガングラ	2			
				スガイ	20	11		
				タマビ	3			
				墨(スガイ)	20	220		
				オキノビガイ	1	1		
				ヒレガイ	10	1		
				レシガイ	1	1		
				イセイ	50	30		
				イワキキ/マガキ	20	4		
				ウチカラウキ(不明)	30	1		
				オキノガイ(左殻)	2			
				オキノガイ(右殻)	1			
				ウニ	1			
				不明	1,480	-		
				ユキノカサガイ科	1	8		
				イシダタミ	620	291		
				クボガイ	850	98		
				コシザカガングラ	1,920			
				スガイ	2,100	968		
				タマビ	6			
				墨(スガイ)	30	381		
				ウニナ	50	21		
				ヒレガイ	1	1		
				レイガイ	200	42		
				チヂミボラ	1	1		
				アカシ	50	2		
				ヨツバイ	5	9		
				イセイ	60	4		
				イタガキ	5	1		
				ナミガシワ	1	1		
				イワキキ/マガキ	50	7		
				アサリ	9			
57	混貝土層	167,200	13,459					
				オキシジミ	1	2		
				オオメガイ(左殻)	700	14		
				オオメガイ(右殻)	14			
				ウニ	5	143.1		
				不明	8,710	-		
				ユキノカサガイ科	1	2		
				エフアワビ	10	1		
				イシダタミ	500	365		
				クボガイ	200	14		
				コシザカガングラ	31			
				スガイ	1,200	574		
				タマキビ	1,200	6		
				墨(スガイ)	80	800		
				ウニナ	10	5		
				ヒレガイ	10	2		
				チヂミボラ	20	5		
				オキノヨウラクガイ	1			
				レイガイ	200	158		
				サンドツメガイ	1	1		
				椎貝(色貝)	10	20		
				イセイ	700	210		
				ナミガシワ	1	1		
				イワキキ/マガキ	400	26		
				アサリ	40	81		
				オキシジミ	700	2		
				オオメガイ(左殻)	6			
				オオメガイ(右殻)	3			
				ウニ	10	143.1		
				不明	4,450	-		
				シロガイ	5	5		
				ユキノカサガイ	1			
				イシダタミ	950	417		
				タボガイ	1,300	56		
				コシザカガングラ	1,300	330		
				スガイ	1,600	750		
				タマキビ	180	18		
				墨(スガイ)	180	1259		
				ウニナ	180	158		
				レシガイ	400	92		
				アカニシ	1	1		
				ヨツバイ	5	9		
				椎貝(色貝)	40	39		
				イセイ	10	4		
				ナミガシワ	5	1		
				イワキキ/マガキ	130	3		
				アサリ	6			
				ウツムラサキ(不明)	160	1		
				オキノガイ(左殻)	160	4		
				オキノガイ(右殻)	4			
				ウニ	1	143.1		
				不明	5,500	-		
				コシザカガングラ	5	1		
				スガイ	5	2		
				墨(スガイ)	10	56		
				ウニナ	1	1		
				オオヘビガイ	1	1		
				レイガイ	5	4		
				シロガイ	5	2		
				エフアワビ	1	1		
				イシダタミ	600	356		
				タボガイ	250	11		
				コシザカガングラ	57			
				スガイ	1,400	1,097		
				タマキビ	1,400	17		
				墨(スガイ)	200	1,993		
				ウニナ	50	21		
				オオヘビガイ	1	1		
				レイガイ	500	103		
				チヂミボラ	50	12		
				アカニシ	1	1		
				ミガキボラ	100	2		
61	混貝土層	121,900	12,364					

層名	層の種類	層の土量(cc)	貝の混入量(cc)	種類	体積(cc)	点数(点)	分類
61 混貝土層	121,900	12,364	椎貝(巻貝)	5	7		
			イワガイ	100	26		
			イワガイ/マガキ	600	71		
			アサリ		25		
			ウムラサキ(左殻)		13		
			ウムラサキ(右殻)		7		
			オキシジミ	800	10		
			オオノガイ(左殻)		10		
			オオノガイ(右殻)		16		
			ウニ		1	13.1.	
			不明	7500	-		
62 混貝土層	94,600	5,521	イシダタミ	200	28		
			タボダイ		22		
			コシノカガニガラ	200	39		
			スガイ		494		
			タマビ	1,200	1		
			亀(スガイ)		1		
			アサリ	100	10		
			オキシジミ		2		
			オオノガイ(左殻)	100	3		
			オオノガイ(右殻)		2		
			不明	3,300	-		
63 土層	108,300	13,118	シロガイ	5	2		
			ユキノカサガイ		4		
			エゾノワビ	1	1		
			イシダタミ	600	282		
			タボダイ		25		
			コシノカガニガラ		110		
			スガイ	1,600	751		
			タマビ		15		
			亀(スガイ)	150	1,474		
			ウニニナ	50	19		
			オキシビガイ		1		
			キクイズメ	1	3		
64 混貝土層	62,800	5,281	ヒレガイ	500	3		
			レシダガイ	500	120		
			チヂミボラ	5	7		
			ヨフバイ	50	1		
			椎貝(巻貝)	5	4		
			イワガイ	50	61		
			イワガイ/マガキ	1,200	52		
			アサリ		8		
			オキシジミ		2		
			オオノガイ(左殻)	600	8		
			オオノガイ(右殻)		23		
			ウニ		5	13.1.	
			不明	7,250	-		
65 混貝土層	174,600	13,092	ユキノカサガイ科	10	1		
			イシダタミ	250	111		
			タボダイ		21		
			コシノカガニガラ		29		
			スガイ	1,000	405		
			亀(スガイ)	50	280		
			ウニニナ	30	23		
			オキシビガイ		1		
			ヒレガイ	50	1		
			エゾボラ		1		
			レシダガイ	400	43		
			イワガイ		9		
66 混貝土層	174,100	7,240	イワガイ/マガキ	300	14		
			アサリ		1		
			オキシジミ	100	10		
			オオノガイ(左殻)		15		
			オオノガイ(右殻)		12		
			ウニ		10	13.1.	
			不明	8,500	-		
			エゾアワビ		5	4	
			シロガイ		290	113	
			ユキノカサガイ		1		
			イシダタミ		1,250	396	
67 混貝土層	316,600	19,592	シロガイ		50	350	
			タボダイ		10	1	
			コシノカガニガラ		50	1	
			スガイ		1,250	794	
			タボキビ		1,200	7	
			亀(スガイ)		200	712	
			ウニニナ		50	9	
			フトガレイ		50	1	
			ヒレガイ		50	3	
			レシダガイ		300	81	
			チヂミボラ		1	1	
			エゾボラ		100	2	
			コシルトボタガイ		1	1	
68 混貝土層	51,600	450	椎貝(巻貝)		10	6	
			イワガイ		900	473	
			イワガイ/マガキ		510	57	
			アサリ			13	
			オキシジミ			4	
			ウムラサキ(左殻)			1	
			ウムラサキ(右殻)			3	
			オキシジミ			14	
			オオノガイ(左殻)			12	
			オオノガイ(右殻)			13	
			ウニ		10	13.1.	
			不明	13,400	-		
69 混貝土層	174,600	13,092	イシダタミ		10	4	
			スガイ		10	6	
			亀(スガイ)		10	29	
			イワガイ		10	5	
70 土層	108,300	13,118	イワガイ/マガキ		10	1	
			不明	400	-		

アサリ／オニアサリ（異歯亜綱マルスダレガイ目マルスダレガイ科 写真図版84中央）

貝層上面、1~3・5~28・30・31・33・35・36・38~49・51~55・57~59・61~67層から2,379点出土している。出土した二枚貝の中で最も多い。ただし右殻・左殻の区別をせず集計しているので、個数にすると、半分ぐらいか。殻幅は3.5~1.0cmが多く、現生種より小型である。食用と考える。

ウチムラサキ（異歯亜綱マルスダレガイ目マルスダレガイ科 写真図版84中央）

貝層上面、5・12・13・15・24・27・33・36・40・47・48・50・51・55・56・59・61・65・67層から97点出土している。右殻・左殻どちらかのみ出土するものが多く、合わさるものを集計すると個数はかなり少ない。出土量は48・61層で突出して多い傾向が見受けられる。ほとんどが破片であり、残りの良いもので殻長を測ると6.8cmで、現生種よりも小さい。食用と考える。

オキシジミ（異歯亜綱マルスダレガイ目シジミ科 写真図版84下）

5~7・12・16・19~22・25・26・31・33・36・38・43・45・46・52・57・58・61~65・67層から63点出土している。右殻・左殻を分けずに集計しているので、個数は不明である。おそらく半分以下であろう。52・61層が突出して多い（10点）が、他は1~2点程度である。殻長は5.0cm前後で現生種とはほぼ同じである。食用と考える。

オオノガイ（異歯亜綱オオノガイ目オオノガイ科 写真図版84下）

1・2・4~8・10・12~15・17・18・21・22・24・27~31・33・35・36・38・40・41~59・61~67層から715点出土している。層ごとに右殻・左殻で合わせて個数を集計したところ、262個になった。出土量は40~53層に集中する傾向が見受けられる。殻長10cmを測る、現生種とはほぼ同じものも見受けられるが、8.5cm前後で、現生種よりもやや小さい。食用と考える。

その他の貝類

エゾフネガイが5層から2点、エゾボラが64層から1点出土している。

微小な貝類では、キクコザラ（腹足綱カサガイ目ユキノカサガイ科）が9・47層から3点、スズメガイ・キクスズメ（前鰓亜綱中腹足目スズメガイ科）が3・5・6・7・9・10・12・16・21・22・24・30・31・33・41・51・63層から合わせて63点、キザル科（二枚貝綱異歯目キザルガイ科）が42・44層から2点出土している。他に自然科学分析の結果により、オカチョウジガイ、バツラマイマイ、コハクガイ科、ウネナシトマヤガイ、チシマフジツボ、アカフジツボなどが確認されている（第Ⅷ章-5）。

また巻貝の稚貝が2・4~16・21・22・24・26~31・33・35~37・40~55・58~63・67層から868点出土している。主にスガイやクボガイ、またアッキガイ科である。殻長は0.5cm程度で、食用とは考えられない。

棘皮動物**ウニ類（棘皮動物門ウニ綱ウニ類）**

貝層上面、1・2・5~14・16・18~33・35・36・38~61・63~67層で出土している。ばらばらの状態で出土しており、棘とその周辺しか確認できないので、個数は不明。出土した層の数から、かなり多いものと推測する。食用と考える。

軟体動物**ヒザラガイ類（軟体動物門多板綱ヒザラガイ類）**

5・7層で2点出土し、また自然科学分析でも確認されている（第Ⅷ章-5）。微小であり、また出土量が少ないので、搬入された理由は不明。食用ではないと推測する。

魚・獸骨

各堆積層から中コンテナ14箱分の魚・獸骨が出土している。これらについては佐々木務氏の協力を得て、一部、調査員も加わって種の同定、分類、集計を行った。その結果は、第10表に示した通りである。なお分類が不能な骨に関しては一括して重量のみ記した。

魚骨

17層を除く、全ての堆積層から、2綱12目26科27属の魚骨が出土している。

板鰓亜綱（サメ・エイ類）

48・50・54・55・61・62層から出土している。同定できた部位は椎体のみで、サメ類かエイ類かまでは同定できないものがほとんどである。なお55層から出土した椎体1点はサメ類と同定した。出土した椎体は写真図版86に掲載した2種がある。いずれも径0.6~1.0cm前後を測る。

スズキ

貝層上面・1~8・11・13~16・18・21~23・26~33・35・36・38・42~58・61・63・64層から出土している。同定できた部位は、主に椎骨（第一椎骨、腹椎、尾椎）で、他に基後頭骨、前上顎骨、主上顎骨がある。尾椎が最も多く出土している。尾椎の大きさは、径0.3~0.5cmが多い。

マダイ/タイ科

17層を除き、全ての堆積層から出土している。同定できた部位は、前上顎骨、主上顎骨、歯骨、方骨、角骨、主鰓蓋骨、額骨、前頭骨、前眼骨、基後頭骨、副蝶形骨、椎骨（第一椎骨、腹椎、尾椎）、尾柄部である。椎骨が最も多いが、前上顎骨も目立ち、30層から25点出土した。尾椎の大きさは径1.2cm前後が多い。また額骨や尾椎に解体痕の残るものを見受けられた（写真図版89）。

サバ属

貝層上面・1~11・13~16・18~24・26~33・35・36・38・42~55・57~65・67・68層から出土しており、22~49層に多く出土する傾向が見受けられた。同定できた部位は、歯骨、方骨、椎骨（腹椎、尾椎）、下尾骨で、ほとんどが椎骨である。尾椎の大きさは径0.3~0.6cm前後が多い。

カツオ

貝層上面・1~16・18~23・25~39・42~55・57~65・67・68層から出土しており、9・21・28層で多い傾向が見受けられた。同定できた部位は、前上顎骨、主上顎骨、歯骨、方骨、角骨、椎骨（第一椎骨、腹椎、尾椎）、尾柄部、尾部棒状骨で、ほとんどが椎骨である。尾椎の大きさは径0.5~1.0cm前後が多い。

ソウダガツオ属

貝層上面・1~7・9~12・14・18~20・22~24・27~33・35・36・38・41~53・55・57~62・65・67層から出土しており、36・59層で多い傾向が見受けられた。同定できた部位は、椎骨（腹椎、尾椎）のみである。尾椎の大きさは径0.5~0.7cm前後が多い。

マグロ属

貝層上面・1~16・18~26・28~41・43~55・57~63・65~67層から出土しており、特に1層が多い傾向があり椎骨が114個見つかっている（出土状況は巻頭カラー写真図版4上）。同定できた部位は、主上顎骨、歯骨、舌顎骨、方骨、基後頭骨、副蝶形骨、椎骨（腹椎、尾椎）、尾柄部で、ほとんどが椎骨である。尾椎の大きさは、大きいもので径4.5cm、小さいもので径1.0cmである。また尾椎に解体痕の残るものを見受けられた（写真図版89）。

ヒラメ

10・30・31・50・52層から出土している。突出して多い層はない。同定できた部位は、主上顎骨、

基後頭骨、方骨、椎骨（第一椎骨、腹椎、尾椎）で、ほとんどが椎骨である。尾椎の大きさは、径1.5cm前後が多い。

ブリ

4・7・16・23・25~27・30~34・36・38・44・51・54・55・58・65層から出土しており、32・38層でやや多い傾向が見受けられた。同定できた部位は、主上顎骨、方骨、基後頭骨、椎骨（第一椎骨、腹椎、尾椎）で、ほとんどが椎骨である。尾椎の大きさは径1.5~1.7cm前後が多い。

ボラ科

20・36・38・45・57・58層から出土しており、特に38層で多い傾向が見受けられた。同定できた部位は、椎骨（腹椎、尾椎）のみである。尾椎の大きさは径0.5~0.8cm前後である。

アイナメ

貝層上面・1~16・18~26・28~41・43~55・57~63・65~67層から出土している。20・52層で多い傾向が見受けられた。同定できた部位は、前上顎骨、歯骨、椎骨（腹椎・尾椎）で、ほとんどが椎骨である。尾椎の大きさは径0.2~0.5cm前後が多い。

ウマズラハギ科/カワハギ科

1・2・4~7・22~24・28・30~33・36~38・40・41・43・45~48・51・52・54・55・57・58・61層から出土しており、45・48層で多い傾向が見受けられた。同定できた部位は、椎骨（尾椎）と第一背鱗棘である。尾椎の大きさは径0.4~0.7cm前後が多い。

フグ科・マフグ科

2・12・20・22・23・30・31・32・39・43~45・47~49・52・54・59層から出土している。特に突出して多い層はない。同定できた部位は、椎骨（腹椎・尾椎）である。尾椎の大きさは径0.5~0.7cm前後が多い。

その他

マアナゴ、アナゴ、ウナギ、ウミタナゴ科、カンバチ、キュウセン（？）、マアジ、マダラ（？）、コイ科、フナ属が出土している。

また1mmないし2mmの範で採取した骨類の同定分析では、上記の他に、ウルメイワシ科、カタクチイワシ科、ニシン亜科、サヨリ属、タラ科、クロアナゴ亜科、コチ科、メバル亜科、カマス属、アユ属、サケ属も見つかっている（第Ⅶ章-5）。

海棲哺乳類

1・3・5・19・23・30・32・43・46~48・50~52・57・58・60・61・63・68層からイルカ類、アシカの骨が出土している。

イルカ類

1・3・5・19・23・30・32・43・46・47・50~52・57・58・60・61・63・68層から出土しており、特に1・32層で多い傾向が見受けられた。同定できた部位は、後頭骨、耳骨、椎体で、ほとんどが椎体である。また32層から大きな後頭骨（写真図版87）が出土している。椎体の大きさは径3.8~4.0cm前後が多い。

アシカ

1・48層から出土している。出土した部位は、上腕骨と尺骨、桡骨である。1層から出土した桡骨（写真図版87中央左端）は長さが20cmを測る。

陸棲哺乳類

1～10・12・14・16・18～25・27・28・30～53・55～68層で9科9属11種の骨が出土している。

ニホンジカ／シカ

貝層上面・1・3・4～7・9・10・12・14・16・20～24・27・28・30・31・33・34・36～39・41～49・51・53・55・56・57～61・63・66～68層から出土しており、36～61層で多い傾向が見受けられた。同定できた部位は、は、角、上顎骨、下顎骨、後頭骨、耳骨、頸椎、寛椎、胸椎、腰椎、肩甲骨、肋骨、上腕骨、中手骨、尺骨、桡骨、大腿骨、中足骨、膝蓋骨、距骨、基節骨、中節骨、末節骨である。

角は、落角もあるが、多くは角座が残り、頭蓋骨から割られて採取されている。また頭蓋骨自体は破片がわずかに出土する程度である。上顎骨、下顎骨は多く、そのほとんどに前、後臼歯が残っている。ただしだいくとも10cm程度であり、故意に割られている可能性がある。頸椎、寛椎、胸椎、腰椎はわずかである。また肋骨も少ない。肩甲骨、上腕骨、大腿骨もわずかで、一方、中手骨、中足骨は比較的多い。ただし、そのほとんどが破片で、こちらも故意に割られた可能性がある。距骨、基節骨、中節骨も比較的多く、これは割れずに残っているものが多い。また踵骨に解体痕の残るものを見受けられた（写真図版89）。

イノシシ

貝層上面・1～8・9・10・12・14・21～25・28・30～33・36～39・41～47・49～53・57～63・65～68層から出土しており、特に7・22・28・30・33・36・37・43・44・51～53・60・68層で多い傾向がある。同定できた部位は、前頭骨、側頭骨、頬骨、頭頂骨、後頭骨、上顎骨、下顎骨、歯（切歯、犬歯、前臼歯、後臼歯）、環椎、頸椎、胸椎、腰椎、肋骨、肩甲骨、尺骨、桡骨、第2・3・4・5中手骨、大腿骨、脛骨、膝蓋骨、第2・3・4・5中足骨、踵骨、基節骨、中節骨、末節骨、副蹄である。また未成年の胸椎と基節骨が見つかっている。

頭骨はいずれも細かい破片であり、全体がわかる大きさのものはない。また上顎骨、下顎骨も同様で、どちらも前、後臼歯が残るものも多いが、犬歯や切歯の方まで骨自体が残るものがほとんどない。臼歯と犬歯の間で故意に割られているのかもしれない。なお歯のみは多く出土している。環椎、頸椎、胸椎、腰椎はわずかである。肋骨も少ない。桡骨や尺骨、大腿骨、脛骨も少なく、またいすれも割れている。中手骨、中足骨は多いが、やはり大きいものになると、割られている。解体痕の残るものが多く（写真図版89）、したがって故意により割ったことが推測される。踵骨、基節骨、中節骨、末節骨、副蹄は割れずに残っている。

イヌ

6・10・22・24・32・36・37・50・66層から出土している。出土数はそれほど多くなく、各層で1～2点程度である。同定できた部位は、下顎骨、歯（臼歯）、腰椎、上腕骨、尺骨である。出土層位がさまざまであるので、同一個体ではないと推測する。他に骨角牙製品のなかで、犬歯を利用して加工された牙製垂飾りが1点（238）出土している。

ニホンノウサギ／ウサギ

6・21・25・60層から出土している。出土数は少ない。同定できた部位は、上腕骨、大腿骨、距骨である。出土層位がさまざまであるので、同一個体ではないと推測する。

ツキノワグマ（？）

1層からツキノワグマと推測される哺乳類の骨が1点出土している。部位は桡骨で、割れており、遠位端のみである。故意に割られたかは不明である。

タヌキ（？）・キツネ

37・50・60層でタヌキと推測される哺乳類の骨が出土している。同定できた部位は、上腕骨、寛骨で、出土層位がさまざまであるので、同一個体ではないと推測する。また9層からはキツネと推測する哺乳類の上腕骨は出土している。キツネは他に、骨角牙製品のなかで、臼歯を利用して加工された牙製垂飾りが1点（239）出土している。

イタチ科（？）

41層からイタチ科と推測される哺乳類の骨が出土している1点出土している。部位は上顎骨である。その他

16・38・40層から小型の哺乳類（ネズミ？）の指骨が見つかっている。また60・68層からは種は不明だが幼獣の基節骨（？）や成長途中の歯が出土している。

また1mmないし2mmの箇で採取した骨類の同定分析では、ネズミ科、ハタネズミ亜科の骨がみつかっている（第VII章-5）。

鳥類

出土数は、少なくないが、破片が多く、種の同定が難しく、判断できたのはキジ科とウ（？）のみである。他は不明鳥類として、骨の部位のみ記した。

キジ科

10・12・14・30・32・33・36・44・45・48・57・63層から出土しており、各層1～2点程度の出土数である。出土した部位は、上腕骨、脛骨、尺骨、脛足根骨、手根中手骨、足根中足骨である。出土層位がさまざまであるので、同一個体ではないと推測する。また上腕骨、尺骨、脛骨など、やや長い骨はほとんどが割れている。故意によるもの可能性がある。手根中手骨は小さいものが多く、割れていないものが目立つ。

ウ？

44層から脛足根骨1点が出土している。長さ12.2cmで、比較的小型といえる。

種不明の鳥類

上記の2種以外は同定できなかったが、1・9・21・28・30・33・36・38・39・44・50・51・60・64層から上記の2種とは別の骨が出土している。同定した部位は、鳥口骨、肩甲骨、尺骨、大腿骨、趾骨、橈骨、手根中手骨、脛足根骨、足根中足骨がある。大きさはさまざまであり、複数種混ざっているものと推測する。また長い骨はほとんどが割れており、故意によるもの可能性がある。36・64層から長管骨（大腿骨？）が1点ずつ出土しているがどちらも解体痕が残っている。

爬虫類・両生類

わずかだが、ヘビ類とカエル類が出土している。

ヘビ類

9・10層から椎骨が1点ずつ出土している。椎骨の大きさは径0.2cmである。

カエル類

1mmないし2mmの箇で採取した骨類の同定分析では、カエル類が見つかっている（第VII章-5）。

第10表 貝層・魚・獸骨出土量(層序別)

層名	種類	残存部位	点数	内訳/特徴
貝層上面	スキ	椎骨	9	尾椎5
	マダイ	角骨	1	左1
	タイ科	主上顎骨	1	左1
		角骨	1	右1
		第一椎骨	3	右2, 左1
		椎骨	17	腹椎1, 尾椎16
	サバ属	椎骨	4	尾椎4
		角骨	1	右1
	カワフ	椎骨	4	尾椎4
		足部	3	
貝層上面	ツウダガワオ属	椎骨	2	尾椎3
		力骨	1	右1
	マグロ属	椎骨	58	第一椎骨1, 腹椎9, 尾椎48
	アイナメ	椎骨	6	腹椎2, 尾椎4
	不明魚類	頭蓋骨	1	
		下顎骨	1	左1
	ニホンジカ	鹿角	1	
		基礎骨	5	
		中顎骨	1	
		下顎骨	4	
シカ		角歯片	4	
		耳骨	1	
		腰椎	1	
		中顎骨	1	
		蹠骨	2	右1, 左1
		前腕骨	1	
	イノシシ	上顎骨	1	右(M3あり)1
		下顎骨	1	左(M1~2あり)
		下顎歯	3	C, P3, M3
		胸椎	2	
1		第2中足骨	1	左1
		未分類	1	
	スキ	椎骨	9	腹椎2, 尾椎7
	マダイ	前上顎骨	4	右2, 左2
	タイ科	基底頭骨	1	
		角骨	2	右2
		椎骨	12	第一椎骨4, 尾椎8
		足部	2	
	サバ属	椎骨	3	尾椎3
	サバ属科	下顎骨	2	
イノシシ	カワフ	椎骨	3	腹椎1, 尾椎2
		足部	2	
		前腕骨	2	
		椎骨	114	腹椎13, 尾椎101
	マグロ属	足部	5	
		足部降起歯支持骨	1	
		下足骨	1	
	ツウダガワオ属	椎骨	1	尾椎1
	アイナメ	前上顎骨	3	右2, 左1
	イルカ類	胸椎	6	
2	アシカ	椎骨	6	
		耳骨	1	
	ニホンジカ	椎骨	1	左迷走環
		上顎骨	2	右(M2あり)1, 左(M1, M2あり)1
		下顎骨	1	右(Cあり)1
		大歯	1	
		切歯	2	
		前中骨	1	
		第2中手骨	1	
	ツキノワグマ?	椎骨	1	左1
2	不明鳥類	跗足根骨?	1	
		未分類	14086g	
	スキ	椎骨	4	第一椎骨1, 尾椎3
	タイ科	椎骨	11	腹椎1, 尾椎10
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				

層名	種類	残存部位	点数	内訳／特徴	層名	種類	残存部位	点数	内訳／特徴
6	マグロ属	尾柄後起骨支持骨	1		10	椎骨		1	第一椎骨1、腹椎5、尾椎28
	カワハギ科	椎骨	6	尾椎6		尾柄部		2	
	ニホンジカ	頭骨	1	左1		尾部移行骨		2	
	シカ	臼齒	1			尾柄後起骨支持骨		1	
	イヌシシ	肋骨	1			椎骨		10	腹椎3、尾椎7
	イヌ	上腕骨	1	右1		椎骨		12	腹椎12、尾椎21
	ノウサギ	上腕骨	1			尾柄部		2	
	未分類			763.0g		尾維椎前椎体		1	
	スズキ	椎骨	4	第一椎骨1、尾椎3		椎骨		10	腹椎1、尾椎9
	マダイ	前上顎骨	1	左1		マグロ属		10	第一椎骨1、尾椎9
7	タイ科	椎骨	31	第一椎骨3、腹椎4、尾椎24		ツカサゴ科	椎骨	1	尾椎1
	ウツボ科	尾柄部	3			ヒラメ	椎骨	1	第一椎骨1
	カワハギ科	尾柄部	1			アイヌメ?	椎骨	6	腹椎1、尾椎5
	マグロ属	椎骨	2	尾椎2		未分類			
	アマメ	椎骨	2	腹椎1、尾椎1		上顎歯		1	M1
	カワハギ科	椎骨	4	尾椎4		下顎歯		2	M22
	ニホンジカ	足根骨	1			中顎骨		2	
	シカ	上顎歯	1	右白歯		前臼歯		1	
	カワフオ	角咬片	1			副歯		2	
	イヌシシ	中顎骨	1			臼歯		1	
8	カワフオ	歯根骨	1	左1		キジ科	冠足根骨	3	
	マグロ属	椎骨	2	尾椎2		ヘビ類	椎骨	1	
	アマメ	椎骨	2	腹椎1、尾椎1		未分類			289.1g
	カワハギ科	椎骨	2	尾椎2		スズキ	椎骨	2	第一椎骨1、尾椎1
	マグロ属	椎骨	2	尾椎2		タイ科	椎骨	2	第一椎骨1、尾椎1
	アマメ	椎骨	4	腹椎1、尾椎1		カワフオ	椎骨	8	腹椎1、尾椎7
	カワハギ科	椎骨	4	尾椎4		ソウダガツオ属	椎骨	7	尾椎7
	ニホンジカ	上顎歯	1	右白歯		サバ属	椎骨	3	尾椎3
	シカ	角咬片	1			マグロ属	椎骨	8	腹椎1、尾椎7
	カワフオ	中顎骨	1			アイヌメ?	椎骨	6	腹椎1、尾椎5
9	イヌシシ	歯根骨	1	左1		未分類			115.6g
	カワフオ	椎骨	1	尾椎1		タイ科	椎骨	1	第一椎骨1、尾椎3
	マグロ属	椎骨	2	尾椎2		カワフオ	椎骨	15	腹椎4、尾椎11
	アマメ	前上顎骨	1	右1		ソウダガツオ属	椎骨	3	尾椎3
	カワハギ科	椎骨	5	尾椎5		マグロ属	椎骨	8	腹椎1、尾椎7
	マグロ属	尾柄部	1			アイヌメ?	尾柄後起骨支持骨	1	
	アマメ	尾柄部	4	尾椎4		マグロ属	椎骨	1	腹椎1
	不明細乳類	胸椎	5	腹椎3、尾椎2		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
	マダラ	椎骨	5	腹椎3、尾椎4		コイ科	椎骨	1	尾椎1
	マダラ	前上顎骨	1	尾椎1		不明魚類	尾端頂骨	1	
10	未分類			995.9g		シカ	臼歯	1	
	スズキ	椎骨	2	尾椎2		カワフオ	頭骨	1	左1
	マダイ	前上顎骨	1	右1		ソウダガツオ属	尾蓋骨	1	
	タイ科	椎骨	5	尾椎5		マグロ属	尾蓋骨	1	
	カワフオ	尾柄部	1			アイヌメ?	第3中足骨	1	右1
	マグロ属	椎骨	4	尾椎4		不明細乳類	耳骨	1	
	アマメ	椎骨	5	腹椎3、尾椎2		キジ科	愈合骨	1	液化塊
	不明細乳類	胸椎	1	尾椎1		未分類			540.0g
	マダラ	椎骨	1	腹椎1		桃鈍葉鱗	椎骨	1	
	マダラ	前上顎骨	1	左1		スズキ	椎骨	7	尾椎7
11	マダラ	前上顎骨	2	右1、左1		タイ科	椎骨	3	尾椎3
	マダラ	主上顎骨	2	右2		カワフオ	椎骨	7	腹椎2、尾椎5
	カワフオ	角咬片	1	左1		ソウダガツオ属	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	中顎骨	1			マグロ属	椎骨	8	腹椎1、尾椎7
	カワフオ	歯根骨	1	左1		アイヌメ?	椎骨	6	腹椎1、尾椎5
	カワフオ	尾柄部	1			未分類			115.6g
	ソウダガツオ属	椎骨	13	腹椎4、尾椎9		タイ科	椎骨	1	第一椎骨1、尾椎3
	マグロ属	椎骨	8	腹椎1、尾椎7		カワフオ	椎骨	15	腹椎4、尾椎11
	ツカサゴ科	椎骨	2	尾椎2		ソウダガツオ属	椎骨	3	尾椎3
	アイヌメ?	椎骨	4	尾椎4		マグロ属	椎骨	8	腹椎1、尾椎7
12	イルカ類	椎体	1			アイヌメ?	尾柄後起骨支持骨	1	
	カワフオ	尾柄部	11	脊椎板2		マグロ属	椎骨	1	腹椎1
	カワフオ	臼歯?	1	M1 (右) 1		コイ科	椎骨	2	腹椎2
	シカ	臼歯?	3	I, P3, MI (左)		不明魚類	愈合骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		未分類			540.0g
	カワフオ	臼歯?	1	右1		桃鈍葉鱗	椎骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		スズキ	椎骨	7	尾椎7
	カワフオ	臼歯?	1	右1		タイ科	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	椎骨	1	尾椎1
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1
13	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2、尾椎5
	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		未分類			118.2g
	カワフオ	臼歯?	1	右1		スズキ	椎骨	3	第一椎骨3、尾椎4
	カワフオ	臼歯?	1	右1		タイ科	椎骨	2	第一椎骨2、腹椎1、尾椎1
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	椎骨	1	尾椎1
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	尾椎2
	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		未分類			118.2g
14	カワフオ	臼歯?	1	右1		スズキ	椎骨	3	第一椎骨3、尾椎4
	カワフオ	臼歯?	1	右1		タイ科	椎骨	2	第一椎骨2、腹椎1、尾椎1
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	椎骨	1	尾椎1
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎1、尾椎1
15	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
16	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
17	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
18	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
19	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
20	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ	臼歯?	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		カワフオ	肋骨	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		ソウダガツオ属	肥嚢	1	
	カワフオ	臼歯?	1	右1		マグロ属	椎骨	2	腹椎2
	カワフオ	臼歯?	1	右1		アイヌメ?	椎骨	3	尾椎3
	カワフオ	臼歯?	1	右1		シカ</td			

番号	種類	残存部位	点数	内訳/特徴	番号	種類	残存部位	点数	内訳/特徴
15	サバ属	椎骨	5	腹椎2、尾椎3	22	タイ科	尾柄部	4	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		サバ属	椎骨	19	腹椎3、尾椎16
	マグロ属	椎骨	1	尾椎1		カツオ	椎骨	22	腹椎2、尾椎20
	未分類		58.9g			カツオ	尾柄部	1	
	鰐類脊索	椎体	2			ソウダガツオ属	椎骨	12	腹椎2、尾椎10
16	スズキ	椎骨	2	尾椎2		メジロ属	椎骨	3	尾椎3
	ブリ	椎骨	1	腹椎1		マグロ属	椎骨	10	尾椎10
	タイ科	椎骨	5	腹椎1、尾椎4		マフタ科	椎骨	2	腹椎1、尾椎1
	サバ属	椎骨	9	腹椎2、尾椎7		カワハギ科	椎骨	1	尾椎1?
	カツオ	椎骨	17	第1椎骨1、腹椎2、尾椎14		ニホンジカ	中足骨	1	古墳地
17	カツオ	尾柄部	1			シカ	基節骨	1	
	鰐類前椎体	2				下顎骨	左 (P4, M1, M2あり)	1	
	下尾椎	1				第3中足骨	1		
	マグロ属	椎骨	2	腹椎1、尾椎1		第2中足骨	1	解剖地あり	
	マグロ属?	椎骨	1	尾椎1		中足骨	1		
18	アイナメ	椎骨	4	腹椎1、尾椎3		上腕骨	1		
	シカ	中足骨	1			未分類		383.2g	
	小頭鰐乳頭	物骨	1			スズキ	椎骨	8	尾椎8
	未分類		218.7g			タイ科	椎骨	1	第一椎骨1、腹椎4、尾椎11
	カツオ	未分類	49.4g			カツオ	尾柄部	1	
19	スズキ	基後頭骨	1			ブリ	椎骨	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		サバ属	椎骨	9	尾椎9
	タイ科	椎骨	3	尾椎3		カツオ	椎骨	4	腹椎4、尾椎5
	サバ属	椎骨	4	尾椎4		ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1
	カツオ	椎骨	2	尾椎2		マグロ属	椎骨	3	尾椎3
20	ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1		ワラ科	椎骨	2	尾椎2
	アイナメ	椎骨	4	尾椎4		カワハギ科	椎骨	4	尾椎4
	イルカ類	椎体	1			アイナメ	椎骨	1	尾椎1
	未分類		620.2g			イルカ類	椎体	1	
	カツオ	基後頭骨	1			唐角	1	落角	
21	タイ科	上面頸骨	1	左1		シカ	臼齒	1	
	カツオ	椎骨	19	腹椎4、尾椎15		唐差骨	1		
	鰐類頭状骨	1				下顎骨	左 (M1あり) 1		
	サバ属	椎骨	21	尾椎21		大歯	1		
	カツオ	椎骨	8	尾椎3、尾椎4、尾椎3		雄	1		
22	ソウダガツオ属	椎骨	6	腹椎3、尾椎3	未分類		201.1g		
	カツオ	尾柄部	1		前頭骨	1			
	マグロ属	椎骨	16	腹椎2、尾椎14	上主頭骨	1			
	カツオ	椎骨	6	尾椎6	上鳥嘴骨	1			
	マグロ属?	椎骨	1		下頭骨	3	腹椎2、尾椎1		
23	ボラ科	椎骨	1	尾椎1	タイ科	椎骨	1		
	ワラ科	椎骨	1	尾椎1	サバ属	椎骨	10	腹椎4、尾椎6	
	カツオ	椎骨	12	腹椎1、尾椎11	ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1	
	アイナメ	椎骨	1		マグロ属	椎骨	14	腹椎4、尾椎14	
	イルカ類	椎体	1		カワハギ	脊椎棘	1		
24	未分類		57.9g		アイナメ	椎骨	6	腹椎6、尾椎6	
	カツオ	基後頭骨	1		イヌ?	尺骨	1		
	マダイ	上面頸骨	1	左1	ニホンジカ	蹠骨	1		
	カツオ	椎骨	1	尾椎1	シカ	上腕骨	1	左1	
	マグロ属	椎骨	1		上頭骨	1	P4 (左) 1		
25	カツオ	尾柄部	1		未分類		135.1g		
	カツオ	椎骨	1		ブリ	方骨	1		
	カツオ	椎骨	1		タイ科	椎骨	1		
	カツオ	椎骨	1		カツオ	上頭骨	1		
	カツオ	椎骨	1		カツオ	角骨	1		
26	マグロ属	尾柄部	1		カツオ	上頭骨	1		
	カツオ	椎骨	1		マグロ属	尾柄部	1		
	カツオ	椎骨	1		カツオ	角骨	1		
	カツオ	椎骨	1		カツオ	方骨	1		
	カツオ	椎骨	1		カツオ	天骨	1	左連合端	
27	二ホンハサギ	人駆骨	1		二ホンハサギ	人駆骨	1	左連合端	
	カツオ	尾柄椎前椎体	1		未分類		41.4g		
	カツオ	尾柄部	1		コイ科	椎骨	3	尾椎3	
	カツオ	椎骨	1		スズキ	椎骨	8	尾椎8	
	カツオ	椎骨	1		タイ科	椎骨	16	第一椎骨1、尾椎15	
28	カツオ	椎骨	1		サバ属	椎骨	13	尾椎13	
	カツオ	椎骨	1		カツオ	椎骨	10	腹椎3、尾椎7	
	カツオ	尾柄部	1		カツオ	尾椎	1		
	カツオ	椎骨	1		ブリ	椎骨	3	腹椎3	
	カツオ	椎骨	1		マグロ属	椎骨	2	尾椎2	
29	カツオ	椎骨	1		未分類		154.5g		
	カツオ	基節頭骨	1		未分類		154.5g		

前: 切歛 (I), 大歯 (C), 前臼歛 (P1~P4), 後臼歛 (M1~M3)

番号	種類	残存部位	点数	内訳/特徴	番号	種類	残存部位	点数	内訳/特徴
27	スズキ	椎骨	2	尾椎1, 尾椎3	30	カツオ	上・下頸骨	4	右2, 左2
	コイ科	椎骨	3	尾椎3		カツオ	方骨	1	左1
	ブリ	上・下頸骨	1	右1		カツオ	方骨	2	右1, 左1
	マダイ	前上頸骨	1	右1		カツオ	椎骨	37	複数12, 尾椎25
		椎骨	2	左1		カツオ	尾柄部	8	
	タイ科	上頸蓋骨	1	左1		カツオ	尾部棒状骨	1	
		椎骨	3	尾椎3		ソウダガツオ属	椎骨	14	複数1, 尾椎13
	サバ属	椎骨	17	複数15, 尾椎2		ソウダガツオ属	方骨	1	左1
	カツオ	椎骨	5	尾椎5		ソウダガツオ属	椎骨	49	複数1, 尾椎48
	ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1		ソウダガツオ属	方骨	5	複数3, 尾椎2
28	コイ科	椎骨	2	尾椎2		アイナメ	前上頸骨	1	右1
	不明魚類	前上頸骨	1			ヒラメ	椎骨	1	尾椎3
	カツオ	椎骨	1			ウマヅラハギ	第一背鰭棘	1	
	カツオ	椎骨	23	複数3, 尾椎30		ウマヅラハギ	椎骨	1	尾椎1
	ニホンジカ	助骨	1			カワハギ科	椎骨	4	尾椎4
	中頭骨		2			不明魚類	方骨	1	
	未分類		188.6g			イルカ類	椎体	1	
	アナゴ	椎骨	9	尾椎9		ニホンジカ	上頸骨	1	P1 (左) 1
	スズキ	椎骨	11	尾椎11		シカ	鹿角	1	解体後あり
	マダイ	前上頸骨	2	右1, 左1		カツオ	前頸骨	1	
29	カツオ	上・下頸骨	1	左1		カツオ	頭骨	1	
	タイ科	角骨	1	右1		カツオ	上頸骨	1	
		椎骨	23	複数3, 尾椎30		カツオ	下頸骨	1	
	サバ属	椎骨	24	尾椎24		カツオ	切歯	1	
	カツオ	椎骨	39	複数4, 尾椎35		カツオ	上頸骨	1	
	ソウダガツオ属	椎骨	7	尾椎7		カツオ	下頸骨	1	
	マグロ属	椎骨	2	複数2, 尾椎20		カツオ	切歯	1	
	カワハギ科	椎骨	5	尾椎5		カツオ	上頸骨	1	
	カワハギ科	第一背鰭棘	1			カツオ	下頸骨	4	C (左), P4 (左) 1, M3 (左) 2
	ニホンジカ	後頭骨	1	右1		カツオ	第一頸椎底筋	1	
30	ニホンジカ	下頸筋突起	1	左1		カツオ	第六中手骨	2	右1, 左1
	シカ?	基節骨	1			カツオ	第五中手骨	1	
	シカ?	胸椎	1			カツオ	中頭骨	1	
		下顎骨	1	左 (M3未発育) 1		カツオ	末頭骨	2	
	イノシシ	白歯	1			カツオ	副歯	1	
	シカ?	肩甲骨	1			カツオ	副根中手骨	1	左近位端
	カツオ	人頭骨	1	右1		カツオ	足根中趾骨	2	
	イノシシ(未成年)	第5中足骨	2	左1, 不明 1		カツオ	足根	1	左1
	イノシシ(未成年)	胸椎	1			未分類		1439.7g	
	不明鳥類	胫跗不明	1			コイ科	椎骨	2	尾椎2
31	未分類		405.6g			スズキ	椎骨	9	複数1, 尾椎8
	スズキ	椎骨	2	尾椎2		マダイ	前上頸骨	2	左2
	タイ科	椎骨	9	尾椎9		タイ科	上・下頸骨	2	右2
	サバ属	椎骨	5	尾椎5		カツオ	上頸蓋骨	3	右2, 左1
	カツオ	椎骨	1	第一・第二背鰭棘		カツオ	頭骨	3	右3, 左1
	ソウダガツオ属	尾柄部	2			カツオ	角骨	1	左1
	マグロ属	椎骨	1	尾椎1		カツオ	尾部棒状骨	13	複数2, 尾椎11
	未分類		45.6g			カツオ	尾部棒状骨	1	
	板鰓革鰐	椎体	5			ブリ	椎骨	1	尾椎1
	コイ科	椎骨	1	尾椎1		サバ属	椎骨	15	複数1, 尾椎1
32	スズキ	前上頸骨	1	左1		カツオ	椎骨	5	複数1, 尾椎4
	ブリ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	尾柄部	2	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		ソウダガツオ属	椎骨	4	尾椎4
	ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1		カツオ	上・下頸骨	1	
	マグロ属	椎骨	2	尾椎2		カツオ	頭骨	1	
	未分類		1439.7g			カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	2	尾椎2		カツオ	方骨	1	
	カツオ	椎骨	9	複数1, 尾椎8		カツオ	角骨	1	
	カツオ	椎骨	5	尾椎5		カツオ	尾柄部	31	複数8, 尾椎23
	カツオ	椎骨	1	第一・第二背鰭棘		カツオ	副歯	2	
33	カツオ	尾柄部	2			マグロ科	椎骨	4	複数1, 尾椎1
	ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1		マグロ科	椎骨	1	複数1, 尾椎1
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	背鰭	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
34	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
35	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
36	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
37	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
38	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
39	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
40	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
41	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
42	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
43	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
44	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
45	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
46	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
47	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
48	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
49	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
50	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
51	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
52	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
53	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
54	カツオ	椎骨	1	尾椎1		カツオ	副歯	1	
	カツオ	椎							

番号	種類	残存部位	点数	内訳／特徴
マダイ	前上顎骨		6	右1, 左5
	主上顎骨		1	左
	歯骨		4	(3), 左1
	角骨		1	左1
	椎骨		3	尾椎(骨橋)3
	椎骨		22	尾椎7, 尾椎15
	ブリ		6	第一椎骨1, 尾椎5
	カシバチ		1	尾端1
	サバ属		14	頭椎2, 尾椎12
	カツオ		15	頭椎6, 尾椎9
ソウダガフオ属	椎骨		4	頭椎1, 尾椎3
	椎骨		8	頭椎1, 尾椎7
	マグロ属		1	
	仔豚脊椎骨		1	
	仔豚椎骨		1	
	カワハギマグロ属		1	
	椎骨		4	頭椎4, 尾椎2
	フグ科		5	尾椎5
	アイナメ		5	尾椎5
	カワハギ科		5	尾椎5
イルカ類	肋骨		1	
	頭蓋骨		1	
	頭蓋片		1	
	耳骨		1	
	管導板		1	
	椎体		11	
	イヌ	下顎骨	1	乳臼歯あり
	ヤギ	下顎骨	1	右1
	イヌシシ	下顎骨	1	右1
	不明哺乳類	頭骨	1	
食肉目	大隅		4	
	キン科	上顎骨	1	左近位端
	未分類		3360g	
	スズキ	椎骨	11	第一椎骨1, 頭椎1, 尾椎9
	ブリ	主上顎骨	1	左1
	マダイ	前上顎骨	1	右1
	タイ科	下顎骨	1	左1
	カツオ	歯骨	1	左1
	ソウダガフオ属	歯骨	4	尾椎4
	マグロ属	歯骨	3	尾椎3
ツカカツラ科?	ツカカツラ	椎骨	5	頭椎1, 尾椎4
	ウツラハギ科	第一背鰭棘	1	
	カワハギ科	椎骨	7	尾椎7
	不明魚類	椎骨	6	
	ニホンジカ	蝶形骨	1	
	シカ	中子骨+中足骨	1	後位端開閉部
	未分類	木筋骨	1	
	イヌ	前甲骨	1	左1
	イヌシシ	前甲骨?	2	
	キン科?	蝶形骨	1	
イヌシシ	人骨		4	
	第5中手骨		1	右1
	第2中足骨		1	左1
	中足骨		1	
	未分類	木筋骨	1	
	不明哺乳類	中足骨	1	
	キン科?	中足骨	1	
	不明鳥類	人骨	1	
	未分類	足骨	1	
	タケノコ	尾柄部	1	
カツオ	椎骨		1	頭椎1
	マグロ属	椎骨	3	頭椎1, 尾椎2
	ブリ	椎骨	1	尾椎1
	未分類		400g	
	タケノコ	足骨	1	右1
	カツオ	尾柄部	1	
	マグロ属	椎骨	1	頭椎1
	ブリ	椎骨	1	尾椎1
	未分類		400g	

番号	種類	残存部位	点数	内訳／特徴
31	ニホンジカ	中頭骨	2	
	未分類		25.7g	
	スズキ	椎骨	17	尾椎17
	タイ科	椎骨	2	第一椎骨1, 頭椎1
	カツオ	椎骨	2	頭椎2, 尾椎1
	尾柄部		1	
	ソウダガフオ属	椎骨	1	頭椎1
	サバ属	椎骨	5	尾椎5
	マグロ属	椎骨	1	尾椎1
	アイナメ	椎骨	4	頭椎1, 尾椎3
32	不明哺乳類	尾骨	1	
	未分類		77.6g	
	板鰓半鋼	椎体	1	
	スズキ	椎骨	7	頭椎1, 尾椎6
	タイ科	尾端頭骨	2	
	マダイ	椎骨	4	尾椎4
	未分類	前上顎骨	11	右4, 左7
	スズキ	椎骨	2	右2
	未分類	上顎骨	3	
	カワハギ	方骨	3	右1, 左2
33	カツオ	口蓋骨	2	左2
	カワハギ	舌骨	1	
	カツオ	舌骨	2	右1, 左1
	カツオ	上颌歯骨	1	
	カツオ	尾骨	4	右2, 左2
	カツオ	方骨	2	左2
	カツオ	干鰐蓋骨	6	右1, 左5
	カツオ	上烏鰐骨	2	左2
	カツオ	尾骨	52	第一椎骨1, 頭椎16, 尾椎35
	カツオ	尾柄部	12	
34	カツオ	綱鱗	3	
	ソウダガフオ属	椎骨	19	頭椎1, 尾椎18
	ブリ	椎骨	2	頭椎2
	カツオ	主上顎骨	1	左1
	カツオ	椎骨	123	頭椎16, 尾椎107
	カツオ	尾柄部	7	
	ソウダガフオ属	椎骨	21	尾椎21
	マグロ属	舌頭骨	2	右1, 左1
	カワハギ	解甲骨	1	左1
	カワハギ	椎骨	4	尾椎7
35	不明魚類	尾端頭骨	1	
	イヌ	下顎歯	1	第1第臼歯(左)
	シカ	下顎歯	2	M1(右) 1, M3(左) 1
	シカ	助骨	2	
	シカ	大脛骨	1	近位端
	シカ	中足骨	1	近位端(解体直前)
	シカ	中手骨	1	近位端
	シカ	中手骨	1	左1
	シカ	蝶骨	1	
	シカ	足跡骨	1	
36	イヌシシ	頭頂骨	1	
	イヌシシ	下顎骨	1	左1
	イヌシシ	下顎歯	1	P4(右)
	イヌシシ	下顎骨	1	左(右4あり) 1
	イヌシシ	頭骨	1	
	イヌシシ	第2中手骨	1	左1
	イヌシシ	尾端骨	1	
	イヌシシ	中足骨	2	
	イヌシシ	副脚	2	
	イヌシシ	不明魚類	1	
37	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
38	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
39	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
40	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
41	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
42	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
43	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
44	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
45	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
46	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
47	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
48	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
49	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
50	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
51	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
52	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	中頭骨	1	
	カツオ	下顎骨	1	
	カツオ	下顎歯	1	
	カツオ	頭骨	1	
	カツオ	第2中足骨	1	
	カツオ	尾端骨	1	
	カツオ	中足骨	2	
	カツオ	副脚	2	
	カツオ	不明魚類	1	
53	カツオ</td			

層名	種類	残存部位	点数	内訳／特徴
37	マグロ属	尾柄除松脂支持骨	1	
		下尻骨	1	
	カワハギ科?	椎骨	2	尾椎? 2
	不明魚類	頭顎骨	4	
	イヌ	頭骨	1	
		喉骨	1	左後位端
	ヒョウ	頭骨	1	
	ニホンジカ	中手・中足骨	1	連合端
		第3中手骨	1	
	イノシシ	第5中足骨	1	左1
38	マグロ属	基節骨	1	
		上腕骨	2	
	スズキ?	上腕骨	1	右1
	タヌキ?	上腕骨	1	左1
	未分類		366.0g	
	板鰓革網	椎体	17	
	コイ科	椎骨	1	尾椎1
	マダラ?	椎骨	2	椎骨2
	スマホ	椎骨	1	第一・椎骨1
	スズキ?	椎骨	19	尾椎19
39	キュウセン?	前上腕骨	4	右2、左2
	ムダイ	前上腕骨	3	
	ヒョウ	頭顎骨	1	
	ウミタナゴ科	頭骨	1	
	サバ属	頭骨	1	左1
	ソウダガオ属	頭骨	1	右1
	カワフ	頭骨	104	腹椎28、尾椎76
	カワフ?	椎骨	76	尾椎76
	マグロ属	尾柄部	19	
	ブリ	尾柄部	1	
40	マグロ属	椎骨	12	腹椎1、尾椎11
		上腕骨	6	右2、左4
	アイヌメ	頭骨	1	
	マダラ?	椎骨	2	尾椎1
	ボラ科	椎骨	6	腹椎2、尾椎4
	カワハギ科?	椎骨	6	尾椎6
	ウマヅラハギ?	椎骨	5	尾椎5
	不明魚類	基節頭骨	1	
		頭骨	3	
	カワフ?	椎骨	4	
41	アラモドキ	尾椎	4	
	ニホンジカ	上腕骨	1	左(P2, P3, 24&25)
		頭骨	1	左後位端
		枕骨	1	左1
	イノシシ	中脚骨	1	
		第3中手骨	1	
	タヌキ?	中足骨	2	右1、左1
	小型哺乳類	臼骨	2	
	不明鳥類	手根中手骨?	1	
	未分類		303.9g	
42	カワフ?	椎骨	1	右1
	マグロ属	上腕骨	4	右2、左2
	タイ科	前上腕骨	1	右1
		上腕骨	2	右1、左1
	カワフ?	椎骨	1	右1
	マグロ属	尾椎	5	腹椎1、尾椎2
	ツバメ科	椎骨	4	尾椎4
	ニホンジカ	頭骨	1	
		前上腕骨	2	
	イノシシ	中足骨	1	
43	カワフ?	頭骨	1	
	マグロ属	尾椎	10	腹椎1、尾椎9
	ツバメ科	前上腕骨	1	右1
	サバ属	前上腕骨	1	右1
	カワフ?	頭骨	10	尾椎10
	カワフ?	椎骨	4	尾椎4
	マグロ属	尾柄部	14	尾椎14
	ソウダガオ属	椎骨	1	
	アイナメ	椎骨	1	
	シカ	肋骨	1	
44	カワフ?	胸椎	1	
	マグロ属	尾椎	25	腹椎5、尾椎3、尾椎17
	ツバメ科	前上腕骨	4	
	サバ属	方骨	1	左1
	カワフ?	椎骨	12	腹椎12
	ソウダガオ属	椎骨	4	尾椎4
	カワフ?	前上腕骨	4	右2、左2
	マグロ属	椎骨	1	左1
	ツバメ科	舌側骨	5	腹椎5、尾椎18
	カワフ?	尾柄部	3	
45	マグロ属	椎骨	1	左1
	ツバメ科	絆尾椎	1	
	ニホンジカ	頭骨	2	右1、左1
		後頭骨底部	1	
		前頭骨	1	
	未分類		31.0g	

青: 切歯 (I), 大歯 (C), 前臼歯 (P1~P4), 後臼歯 (M1~M3)

番号	種類	残存部位	点数	内訳／特徴
	ワグ科	椎骨	5	尾椎5
	カワハギ科	第一背鱗	1	
		椎骨	33	尾椎33
	不明魚類	頭蓋骨	3	
	イルカ科	椎体	1	
43		上顎骨	1	右 (M3あり) 1
		下顎骨	1	M1 (左) 1
		下顎骨	1	左 (P2, P3あり) 1
	ニホンジカ	下顎歯	4	P1 (右) 1, 前臼歯1, 後臼歯2
		尺骨	1	左 位置未端
		脛骨	1	左 位置未端
		蹠骨	1	
	シカ	中手骨	1	
		中脚骨	3	
44		上顎骨	1	右 (P4, M1あり)
		下顎骨	1	右 (M1, M2あり)
		下顎歯	6	P1 3, M1 1, M2 1, M3 1
	イノシシ	後頭骨	1	
		胸椎	1	
		第2中足骨	2	右2
		第3中足骨	4	左4
		第5中足骨	2	
		基節骨	2	
		中脚骨	8	
45		木節骨	6	
		前脚	2	
	キジ科	手相中手骨	1	左1
		米分類	796.3g	
	スズキ	椎骨	7	腹椎3, 尾椎4
		肋骨	1	
		上顎骨	1	右1
	タイ科	舌側骨	1	左1
		方骨	1	左1
		椎骨	43	第一椎骨3, 頸椎7, 尾椎37
46	アリ	椎骨	1	腹椎1
	サバ属	椎骨	48	尾椎48
	カワオ	椎骨	11	腹椎11, 尾椎21
		尾柄部	2	
	ソウダガツオ属	椎骨	8	尾椎8
	マグロ属	椎骨	2	腹椎2, 尾椎18
	フグ科	椎骨	6	尾椎6
	アイナメ	椎骨	1	右1
	不明魚類	从後頭骨	1	
	シカ	蹠骨	1	右1解剖面あり
47		前頭骨	1	
		頭骨	2	
	イノシシ	中手骨	1	左1
		趾跡骨	1	
		中脚骨	1	
	ウニ	前足底骨	1	右1
	キジ科	手相中手骨	1	左1
	不明鳥類	大脚骨	2	左1
		跗足骨	1	右位置未端
		米分類	430.4g	
48	ボラ科	椎骨	1	尾椎1
	スズキ	椎骨	38	第一椎骨1, 頸椎1, 尾椎36
	マダイ	前上顎骨	2	右1, 左1
		歯骨	2	右2
		上上顎骨	1	右1
		上上顎骨	1	右1, 左4
		舌側骨	2	右1, 左1
		舟骨	4	右2, 左2
		舟骨	4	右3, 左1
	タイ科	口蓋骨	2	右1, 左1
49		上耳骨	1	
		方骨	1	
		第一椎骨	62	第一椎骨1, 頸椎1, 尾椎60
		尾柄部	4	
	サバ属	椎骨	1	
	カワオ	卡上顎骨	1	
		方骨	1	
		第一椎骨	62	第一椎骨1, 頸椎1, 尾椎60
		尾柄部	2	
		尾部椎骨	1	
50	ソウダガツオ属	椎骨	11	尾椎11
	マグロ属	椎骨	1	尾椎1, 尾椎4
	フグ科	椎骨	2	腹椎1, 尾椎1
		第一背鱗	1	
		尾椎	3	
		尾椎	6	
		尾椎	2	
		尾椎	1	
		尾椎	2	
		尾椎	1	

番号	種類	残存部位	点数	内訳／特徴
		椎骨	1	左1
	カワオ	尾椎	104	腹椎9, 尾椎95
		尾柄部	4	
		尾椎前椎体	3	
	ソウダガツオ属	椎骨	6	尾椎6
45		上顎骨	1	左1
		方骨	1	左1
		翼椎	2	腹椎2, 尾椎8
		尾柄部	1	
		終尾?	1	
	アイナメ	前上顎骨	3	右2, 左1
		椎骨	2	腹椎1, 尾椎1
	ウマヅラギ	第一背鱗	1	
	カワハギ科	椎骨	16	尾椎16
		第一背鱗	3	
46		上顎骨	1	右 (P2~P4, M1, M2あり)
		上顎歯	3	M1 (左) 1, M2 (右) 1, M2 (左) 1
	シカ	下顎歯	1	P4 (右) 1
		胸椎	1	
		上腕骨	1	右位置未端
		大脛骨	1	左位置未端
	シカ?	頭骨の一部	2	
		下顎骨	1	右1
	イノシシ	第4中手骨	1	左1
		第5中手骨	1	右1
47	キン科	手相中手骨	1	
		米分類	487.3g	
	スズキ	椎骨	10	腹椎1, 尾椎9
		前上顎骨	1	左1
		歯骨	1	右1
		舌側骨	1	右1
	タイ科	方骨	1	右1
		上鳥嘴骨	2	
		主鳥嘴蓋	1	右1
		椎骨	15	第一椎骨1, 頸椎14
48		尾柄部	3	
		椎骨	29	尾椎29
	サバ属	椎骨	15	尾椎15
	ソウダガツオ属	方骨	3	右2, 左1
	カワオ	椎骨	5	腹椎5, 尾椎12
		尾柄部	2	
	マグロ属	椎骨	2	腹椎2, 尾椎5
		終尾椎	1	
		前上顎骨	3	右1, 左2
	アイナメ	東洋骨	2	右1, 左1
49	カワハギ科	第一背鱗	1	
		椎骨	1	
		避歯塊	6	
	不明魚類	耳骨	1	
	イルカ類	椎体	1	
	シカ	中脚骨	1	
		肋骨	2	
	イノシシ	中手骨	1	
		中脚骨	1	
	ダヌキ?	上腕骨	1	
50		米分類	362.5g	
	スズキ	椎骨	1	右1
		前上顎骨	1	右1
		歯骨	1	右1
		舌側骨	6	腹椎2, 尾椎4
	タイ科	椎骨	4	右2, 左2
		方骨	1	右1
		舟骨	1	左1
		椎骨	25	腹椎3, 尾椎22
		尾柄部	2	
47	サバ属	椎骨	10	尾椎10
		椎骨	17	腹椎5, 尾椎12
	カワオ	椎骨	6	
		尾柄部	2	
		尾部椎骨	2	
	ソウダガツオ属	椎骨	1	
	マグロ属	椎骨	5	腹椎1, 尾椎4
	フグ科	椎骨	2	腹椎1, 尾椎1
		第一背鱗	1	
		尾椎	1	

漁: 切南(1), 大南(2), 前白南(P1~P4), 緩臼歯(M1~M3)

番号	種類	残存部位	点数	内訳／特徴	番号	種類	残存部位	点数	内訳／特徴
47	カワハギ科	第一背鱗棘	1		50	イルクジ類	椎体	1	
	イルカ類	椎体	1			イノシシ	蹠骨	1	右1
		上腕骨	1	蓮介端イヌの 噛み痕あり		タヌキ?	上腕骨	1	
	シカ	大脛骨	1			イヌ	歯	1	
		中手骨	1			不明鳥類	尺骨	1	
		前足骨	1	左1		未分類		172.4g	
		中手骨	1			スズキ	椎骨	11	複数2。尾椎9
		中足骨	1			筋骨	1		
	イノシシ	中足骨	1			東方骨	1	左1	
		中脛骨	1			前上腕骨	3	左3	
	イノシシ?	上腕骨	1	蓮介端1		角骨	1	左1	
			261.8g			椎骨	14	複数2。尾椎12	
48	板鰓革鰐	椎体	9			尾柄部	2		
	スズキ	椎骨	4	尾椎4		方骨	1	右1	
		筋骨	1			椎骨	25	複数8。尾椎17	
		前上腕骨	3	左3		尾柄部	3		
	タイ科	前腕骨	1	左1		尾椎前椎体	1		
		不規骨	1	左1		シカ	11	尾椎11	
		椎骨	25	複数2。尾椎23		椎骨	16	尾椎26	
		尾柄部	1			第一脚骨	1		
	タイ科?	口吻骨?	2			マグロ属	4	複数4。尾椎10	
	サバ属	椎骨	11	尾椎11		アヒナメ	3	右2、左1	
		方骨	3	左3		椎骨	7	尾椎7	
	カワオ	椎骨	7	複数3。尾椎4		カワハギ科	第一背鱗棘	1	
		尾柄部	3			スズキ	2		
49	ツウダガラオ属	椎骨	5	尾椎5		ニホンシカ	尾骨	1	
		椎骨	6	尾椎6		上顎骨	1		
	マグロ属	尾柄部	1			シカ	1		
		尾端椎	1			上顎骨	2	右(P1、P2、P3あたり) 1、右(13、Cあたり)	
	フグ科	椎骨	3	尾椎3		下顎骨	1	右1	
		椎骨	12	尾椎12		中足骨	1		
	カワハギ科	第一背鱗棘	2			木節骨	1		
		不明魚類	耳骨	1		椎骨	1	左1	
	アシカ	尺骨	2			不明哺乳類	肋骨	1	
		角膜片	1			不明鳥類	大脳骨	1	左1
	シカ	中脛骨	1			尾根中足骨?	1		
	ネジ科?		1			未分類	432.6g		
50	スズキ	椎骨	4	尾椎4	51	スズキ	上上腕骨	1	左1
		主上腕骨	1	左1		下腕骨	2	右2	
		下腕骨	1	右1		方骨	1	左1	
	タイ科	角骨	1	左1		椎骨	1	複数1	
		上鳥嘴骨	1			舌形茎骨	1	左1	
		角骨	2	右1、左1		舌形頭骨	3	右2、左1	
		方骨	1	左1		椎骨	2		
		椎骨	20	複数5。尾椎15		角骨	5	右4、左1	
	サバ属	椎骨	24	尾椎24		上上腕骨	3	右2、左1	
		椎骨	8	複数5。尾椎3		上腕骨	5	右4、左1	
51	カワオ	尾柄部	1			シカ	1		
		尾端椎状骨	1			下腕骨	2	P2、P3	
	ツウダガラオ属	椎骨	2	尾椎2		中足骨	1		
	マグロ属	椎骨	2	複数2、尾椎4		木節骨	1		
	フグ科	椎骨	4	尾椎4		椎骨	1		
	ニホンシカ	尾柄	1			不明哺乳類	肋骨	1	
	シカ	大脳骨	1	左1		不明鳥類	大脳骨	1	左1
		前腕骨	1	左1		尾根中足骨?	1		
	イノシシ	肩甲骨	1			未分類	432.6g		
		中手骨	1	左1		スズキ	上上腕骨	1	
52	未分類		160.7g			下腕骨	2		
	板鰓革鰐	椎体	1			方骨	1		
	スズキ	椎骨	1	複数1、尾椎7		椎骨	1		
		筋骨	1	右1		舌形茎骨	5	右4、左1	
		角骨	1	右1		上上腕骨	3	右2、左1	
	タイ科	前上腕骨	1	右1		上腕骨	5	右4、左1	
		古側骨	2	右1、左1		シカ	3	右2、左1	
		上鳥嘴骨	1			下腕骨	3	右4、左1	
		椎骨	2	尾椎2		角骨	3	右2、左1	
	サバ属	椎骨	9	尾椎9		方骨	1	左1	
53	カワオ	椎骨	1	複数1、尾椎2		11基骨	2		
	ツウダガラオ属	椎骨	2	尾椎2		舌形茎骨	3	左3	
	マグロ属	尾柄部	1			椎骨	3	第一脚骨3、複数8、尾椎2	
	ヒラメ?	椎骨	1	複数1		尾柄部	1		
	アイナメ?	前上腕骨	1	右1		椎骨	1	尾椎3	
		角骨	1			角骨	1	尾椎1	
	イノシシ	中手骨	1	左1		ヒラメ?	1	尾椎1	
			160.7g			アイナメ?	椎骨	10	複数3、尾椎7
	未分類		316.4g			カワハギ科	第一背鱗棘	5	
	スズキ	椎骨	4	複数3、尾椎1		スズキ	尾椎	2	
53	タイ科	椎骨	1	左1		椎骨	17	複数4、尾椎13	
		筋骨	1			未分類	316.4g		

南:切歯(I)、大歯(C)、前臼歯(P1-P4)、後臼歯(M1-M3)

番号	種類	残存部位	点数	内訳／特徴
53	サバ属	椎骨	2	腹椎1、尾椎1
	カツオ	椎骨	13	腹椎1、尾椎12
	ソウダガツオ属	椎骨	6	尾椎6
	マグロ属	椎骨	4	尾椎4
	マグロ属?	尾柄部	1	
	ウナギ	椎骨	1	尾椎1
	シカ	下頸骨	1	P2-P4あり
	イノシシ	前頭骨	2	右1、左1
		鰓頭骨咽骨突起	1	右1
		下顎骨	1	左(M3、M1、M2、M3あり)1
未分類				2537g
54	板鰓章鯛	椎体	1	
	スズキ	椎骨	3	尾椎3
	タイ科	椎骨	1	尾椎1
	ブリ	尾柄部	1	
	サバ属	椎骨	1	尾椎1
	カツオ	椎骨	1	尾椎1
	マグロ属	尾柄部	1	
	カワハギ科	第一背鰭棘	1	
	フグ科	椎骨	1	尾椎1
		未分類	732g	
55	サメ類	椎体	1	
	板鰓章鯛	椎体	2	
	スズキ	椎骨	4	尾椎4
	マダイ	椎骨	1	腹椎1
	タイ科	椎骨	1	
	ブリ	上顎骨	2	左1
	サバ属	前上顎骨	1	右1、左2
	カツオ	方骨	1	右1
		椎骨	4	第1-椎骨2、尾椎2
		アラ	1	尾椎1
56	ソウダガツオ属	椎骨	7	尾椎7
	マグロ属	椎骨	5	腹椎1、尾椎4
	カワハギ科	第一背鰭棘	2	
	シカ	助骨	1	
		未分類	1704g	
	スズキ	上顎骨	1	右1
		右顎骨	1	右1
	タイ科	角骨	1	右1
		右上顎骨	1	左1
	カツオ	方骨	2	右1、左1
57	ソウダガツオ属	椎骨	5	尾椎5
	サバ属	椎骨	6	腹椎1、尾椎5
	マグロ属	椎骨	1	尾椎1
	ボラ科?	椎骨	1	尾椎1
	アイナメ	椎骨	1	尾椎1
	カワハギ科	椎骨	1	尾椎1
	イルカ類	椎体	1	
	シカ	上顎骨	1	(M1、M2、M3あり)1
		未分類	727g	
58	スズキ	椎骨	5	尾椎5
	タイ科	腹椎	6	腹椎1、尾椎5
		上顎骨	1	右1
	カツオ	腹椎	3	腹椎1、尾椎2
		尾柄部	1	
	ソウダガツオ属	椎骨	2	尾椎1
	サバ属	椎骨	16	尾椎16
	マグロ属	椎骨	5	尾椎5
	ボラ科?	椎骨	1	尾椎1
	アイナメ	椎骨	1	尾椎1
58	カワハギ科	椎骨	1	尾椎1
	イルカ類	椎体	1	
59	シカ	上顎骨	1	(M1、M2、M3あり)1
	イノシシ	下顎骨	2	左(M3あり)1、右(P3、P4あり)1
		未分類	215g	
	マダイ	頭上顎骨	1	左1
		上顎骨	2	右1、左1
	タイ科	角骨	1	右1
	サバ属	椎骨	12	腹椎4、尾椎8
	カツオ	椎骨	12	腹椎1、尾椎9
		尾柄部	1	
	ソウダガツオ属	椎骨	18	尾椎18
60	マグロ属	椎骨	3	尾椎3
	ソサカサゴ科	椎骨	5	尾椎5
	マグロ科	椎骨	21	腹椎1、尾椎1
	シカ	上顎骨	1	左遠位端
	イノシシ	下顎骨	3	
		未分類	116g	
	マダイ	頭骨	1	左1
		椎骨	1	
	タイ科	方骨	3	右3
		王冠盡骨	1	右1
60	カツオ	椎骨	6	尾椎6
		尾部棒状骨	3	
	タイ科?	口蓋骨?	1	
	サバ属	椎骨	2	尾椎2
		椎骨	27	尾椎27
	カツオ	尾柄部	3	
		尾棘椎前椎体	1	
	ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1
	マグロ属	椎骨	1	
		頭骨	7	腹椎3、尾椎4
60	不明魚類	終尾椎	4	
	イルカ類	椎体	1	
		後頭骨	1	
	シカ	後頭骨	1	
		未分類	1	
	カツオ	下顎骨	1	右(M1、M2、M3あり)1
		未分類	727g	
	スズキ	椎骨	5	尾椎5
	タイ科	腹椎	6	腹椎1、尾椎5
		上顎骨	1	右1
60	カツオ	角骨	1	
		右上顎骨	1	
	タイ科	右上顎骨	1	
		中顎骨	2	右1
	カツオ	中顎骨	2	
		中顎骨	2	
	ソウダガツオ属	椎骨	1	尾椎1
	サバ属	椎骨	16	尾椎16
	マグロ属	椎骨	5	尾椎5
	ボラ科?	椎骨	1	尾椎1
60	アイナメ	椎骨	1	尾椎1
	カワハギ科	椎骨	1	尾椎1
	イルカ類	椎体	1	
	シカ	上顎骨	1	(M1、M2、M3あり)1
	イノシシ	別甲骨	1	左(M1あり)1、右(P3、P4あり)1
	カジキ	別尾根骨	1	
		未分類	132g	
	スズキ	椎骨	6	腹椎1、尾椎5

番号	種類	残存部位	点数	内訳／特徴
59	タイ科	頭骨	3	右3
		頭上顎骨	2	右1、左1
	カツオ	方骨	1	右
		椎骨	7	腹椎1、尾椎6
	ブリ	椎骨	2	腹椎2
		頭骨	1	右1
	カツオ	椎骨	2	腹椎1、尾椎1
		尾柄部	1	
	ソウダガツオ属	椎骨	4	尾椎4
	サバ属	椎骨	5	尾椎5
60	マグロ属	椎骨	6	腹椎1、尾椎5
		尾柄部	2	
	ボラ科?	椎骨	1	尾椎1
	アイナメ	椎骨	1	尾椎1
	カワハギ科	椎骨	1	尾椎1
	イルカ類	椎体	1	
	シカ	頭骨	1	
		下顎骨	1	
	カツオ	頭骨	1	
		中顎骨	1	
60	カジキ	別尾根骨	1	
		中顎骨	2	
	シカ	中顎骨	2	
		別甲骨	1	
	イノシシ	別尾根骨	1	
		頭蓋	1	
	カジキ	中顎骨	1	
		頭蓋	1	
	ノウサギ	上顎骨	1	遠位端

備: 切歯 (I)、犬歯 (C)、前臼歯 (P1-P4)、後臼歯 (M1-M3)

番号	種類	残存部位	点数	内訳/特徴
60	タヌキ?	寰骨	1	右
	幼帆	基節骨?	1	
	不明鳥類	寰骨	1	
	未分類		655.1g	
	板鰐亜綱	椎体	3	
61		基後頭骨	1	
	ヌズキ	椎骨	1	第一椎骨1、複椎1、尾椎5
		尾柄部	1	
	タイ科	椎骨	1	
	カワハギ科	椎骨	1	複椎1、尾椎5
62	サバ属	椎骨	3	尾椎1、左1
	カツオ	上上顎骨	1	左1
		尾柄部	1	
	ソウダガオワニ属	椎骨	1	複椎1、尾椎3
	マグロ属	椎骨	3	尾椎3
63	カワハギ科	終尾椎	1	
	カワハギ科	椎骨	1	複椎3
	イルカ類	椎体	1	
	シカ	角膜片	1	
	イノシシ	肋骨	2	
64		下顎骨	1	左1
	イノシシ	木節骨	1	
		中足骨	3	
	未分類		87.9g	
	板鰐亜綱	椎体	1	
65	タイ科	上上顎骨	1	右1
		椎骨	1	第一椎骨1、複椎1、尾椎1
		尾柄部	1	
	サバ属	椎骨	7	尾椎1
	カツオ	椎骨	2	尾椎2
66	ソウダガオワニ属	椎骨	3	尾椎3
	アイナメ	椎骨	2	複椎2、尾椎3
	イノシシ	基節骨	1	
	イノシシ(未成標)	中足骨	1	
	未分類		290g	
67	ヌズキ	椎骨	3	尾椎3
		肋骨	1	
	タイ科	上上顎骨	2	右1、左1
	口蓋骨?		2	
		上後頭骨	1	
68	カワハギ科	舌頭骨	1	
	カツオ	椎骨	3	尾椎3
	マグロ属	椎骨	1	尾椎1
	イルカ類	椎体	1	小片
	シカ	椎骨	1	右1
69	イノシシ	椎骨	3	複片
	キジ科	手筋中手骨	1	
	スズキ	基後頭骨	1	
		椎骨	4	複椎1、尾椎3
	タイ科	上上顎骨	1	左1
70	サバ属	椎骨	8	尾椎8
	カツオ	椎骨	1	尾椎1
	不明鳥類	長管骨	1	
	未分類		74.1g	
	タイ科	椎骨	3	複椎2、尾椎1
71	サバ属	椎骨	9	複椎4、尾椎5
	カツオ	椎骨	3	尾椎3
	ソウダガオワニ属	椎骨	3	尾椎3
	マグロ属	椎骨	4	複椎4、尾椎4
	アヒナ?	椎骨	2	複椎2
72	イノシシ	上顎骨	7	複椎7
	未分類		205.1g	
	マグロ	上顎骨	1	右1
	タイ科	方骨	1	右1
		尾柄部	1	
73	タイ科?	上上顎骨	1	
	カツオ	椎骨	1	尾椎1
	サバ属	尾柄部	2	
	アイナメ	椎骨	7	尾椎7
	イルカ類	椎骨	1	尾椎1
74	シカ	椎角	1	
		前頭骨	1	
	イノシシ	下顎骨	1	右(M2、M3あり)
		胸椎	1	
	カツオ	尺骨	1	
75	幼帆	成長途中の歯	1	
	未分類		109.0g	
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
76	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
77	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
78	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
79	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
80	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
81	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
82	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
83	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
84	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
85	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
86	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
87	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
88	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
89	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
90	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
91	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
92	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
93	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
94	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
95	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
96	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
97	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
98	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
99	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
100	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
101	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
102	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
103	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
104	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
105	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
106	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
107	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
108	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
109	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
110	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
111	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
112	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
113	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
114	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
115	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
116	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
117	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
118	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
119	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
120	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
121	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
122	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
123	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
124	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
125	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			
126	カツオ			
	スズキ			
	カツオ			
	マグロ属			
	カツオ			

(4) 柱 穴 群 (第66図)

[位置・検出状況] 29個確認した。

調査区の中央から南側、IB3f～3i、IB4e～4j、IC3b、IC3c、IC4c、IC4e、IC5d、IC7b、IC7c グリッドに位置し、IV層上面で検出した。

[規模] 大きさは径20～50cm、深さは20～40cmの範囲に収まる。

比較的小さく、また浅い柱穴が多いのが特徴である。深さについては、特にIBグリッドに位置する柱穴は、調査区自体が削平を受けているため、遺構上部が消失しているものの、それでも浅いと言え、掘立柱建物跡を構成する柱穴ではないと考える。

[埋土] 概ね灰黄褐色シルト質粘土を主体とする単層が多く、柱痕跡の残るものは確認されていない。

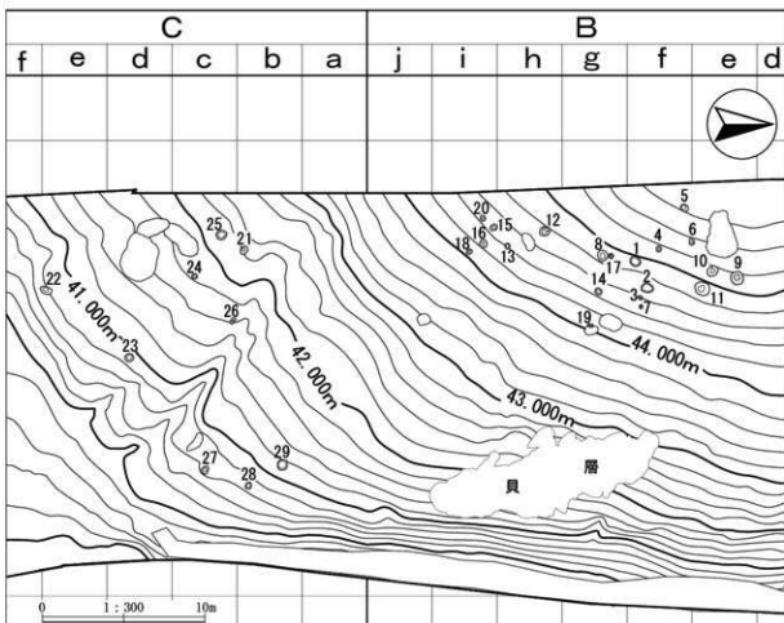
[出土遺物] なし。

[時期] 出土遺物がないため、時期判断する根拠がないが、埋土の様相は周辺に分布する土坑の埋土と類似しており、これらの遺構の時期を参考として、縄文時代前期以降と推定する。

[推測される用途] 不明である。

IBグリッドに位置するPit 1～19は比較的、密集しているが、配置状況や上述の規模・深さから見て掘立柱建物跡の柱穴とは考えられない。またこの柱穴群の周辺には1・3・5号土坑も分布するが、お互いの位置関係からみても、これらの土坑を補助する用途かは定かではない。

ICグリッドに位置するPit 20～29の分布はさらに散在的で、掘立柱建物跡を構成する柱穴ではなく、また周辺にはほかの遺構が無いので、別の遺構を補助する用途であったとも考えられない。



第66図 柱穴状土坑位置図

第11表 柱穴状土坑一覧

柱穴名	検出位置 (グリッド)	規模 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)
1	I B 3f	35×30	44.949	44.868	81
2	I B 4f	40×30	44.735	44.610	125
3	I B 4f	15×15	44.614	44.502	11.2
4	I B 3f	15×15	45.196	44.982	21.4
5	I B 3f	20×15	45.628	45.414	21.4
6	I B 3f	15×15	45.419	45.162	25.7
7	I B 4f	15×15	44.523	44.376	14.7
8	I B 3g	30×30	44.916	44.676	24
9	I B 4e	40×40	45.182	44.820	36.2
10	I B 3e	40×30	45.190	44.856	33.4
11	I B 4e	50×40	44.988	44.634	35.4
12	I B 3h	30×30	44.792	44.490	30.2
13	I B 3h	20×20	44.445	44.304	14.1
14	I B 4g	20×20	44.489	44.304	18.5
15	I B 3i	20×15	44.476	44.130	34.6

柱穴名	検出位置 (グリッド)	規模 (cm)	検出面標高 (m)	底面標高 (m)	深さ (cm)
16	I B 3i	25×25	43.910	43.878	32
17	I B 3g	10×10	44.942	44.772	17.0
18	I B 3i	15×15	44.111	43.920	19.1
19	I B 4g	20×(10)	44.056	43.943	11.3
20	I B 3i	15×15	44.504	44.190	31.4
21	I C 3b	30×20	42.215	42.112	10.3
22	I C 4e	50×30	40.592	40.557	3.5
23	I C 5d	30×30	40.953	40.803	15.0
24	I C 4c	15×15	41.848	41.653	19.5
25	I C 3c	40×40	41.948	41.919	29
26	I C 4c	15×15	41.589	41.415	17.4
27	I C 6c	25×25	40.623	40.371	25.2
28	I C 7b	25×25	40.742	40.538	20.4
29	I C 6b	40×40	41.221	41.044	17.7

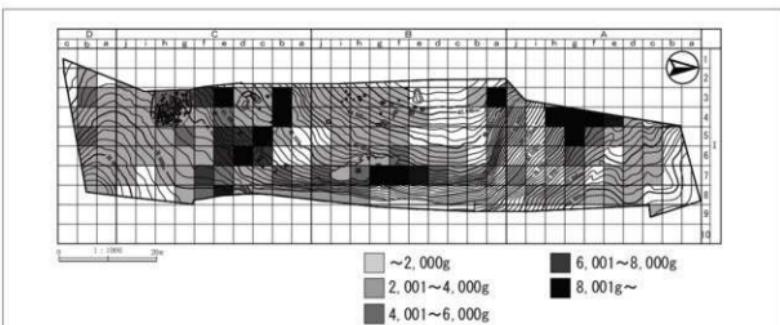
2 遺構外出土遺物

(1) 繩文土器

II層およびIII層から437,751.4g分の縄文土器が出土している。これは今回の調査で出土した縄文土器全体の8割に及ぶ。

前述の通り、標高43~41mの緩斜面にII層とIIIa層が堆積しており、この層中から多く出土している。また調査区北側の急斜面地にもII層、IIIa層が堆積し、特に斜面地下方では、IIIa層中から多く出土している。ただし縄文土器の出土量は地点により大きく変わる（第68図）。また出土した縄文土器は、その多くが小片であり、人為的な埋置や、廃棄した様子は見受けられなかった。したがって、所謂「捨て場」を形成していたわけではないと推測する。

275点掲載した（242~516）。以下、出土した縄文土器を時期ごとに概観する。



第69図 遺構外出土縄文土器分布

前期

268・269・271は大木2a式で、口縁部に、大木2a式のメルクマールである結節回転文が横位に巡る。また胎土に纖維が混入する。270は2段の押引文が横位に巡る。大木2a式と考えるが、貝層から出土した70の文様に類似しており、やや新しい可能性がある。

272～278は大木2b式で口縁部から胴部上半にS字状連鎖沈文が巡る一群である。また272～274は口縁部に刻みや刺突文を加えた隆帯が加えられる。275は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で、口縁部に3条の平行沈線が波頂部に沿うように巡る。276～278は深鉢の胴部片で、S字状連鎖沈文が横位ないし斜位に施文される。

279・280は特殊な撚糸文（単軸絡条件）を施文された胴部片で、279は単軸絡条件6類、280は単軸絡条件5類を施文される。大木2b式の範疇か。

281～303は大木3式と判断した。平行沈線による文様や、細かい刻みを加えた隆帯が付く一群で、大木3式の特徴としてよく見る沈線による円文は少ない。281～284は無節や単節繩文を地文とし、口縁部や口縁部下に平行沈線による山形状文が横位に巡らされている。285は胴部片で、平行沈線による鋸歯状文が描かれる。286～288は平行沈線を巡らし、その間に短沈線を充填、梯子状の文様が描かれている。290・291は鋸歯状文や弧状文が連続的に施文される。294・295は沈線で円文が描かれている。297は口縁部に、細かい刻みを加えた貼付隆帯が付く。同様の貼付隆帯は296にも付く。298は口縁部から胴部にかけての破片で、単節繩文を施文し、口縁部には沈線を蛇行状に施文する。299・300は斜行繩文を施文後、沈線による波状文や縱位の短沈線が横位に巡る。貝層から出土した104と同様な文様である。301は胴部の小破片で、地文となる単節繩文と沈線で円形に近い曲線状文が描かれている。302は口縁部片で横位の沈線が数条巡り、その間に沈線によるクラシック状文が描かれている。303は単節繩文を地文とし、その上に爪形文が横位に巡る。

304～355は大木4式と判断した。細い貼付隆帯で文様を描く一群である。304は胴部に単節繩文を施文し、貼付隆帯で波状文とU字状の曲線状文を組み合わせる。また口唇部にも貼付隆帯が付く。305・306は304と同様な貼付隆帯が付くが、貼付隆帯には押圧文を施している。307～312は貼付隆帯による波状文とV字状の曲線状文を組み合わせた文様が横位に巡る。313は胴部片であるが、文様のモチーフは311や312と同様であるが、貼付隆帯ではなく沈線で文様が描かれている。314～317は貼付隆帯による波状文を多段化し、横位に巡らせている。地文としては単節繩文が施文されることが多いが、315は付加繩文である。316も多段化した波状文が描かれていると推測するが、貼付隆帯が剥離している。また口唇部には波状を呈した貼付隆帯が付く。

318は口縁部下に交互刺突文を施文した隆帯が横位に巡る。それ以外に文様がなく、時期判断が難しいが大木4～5a式の範疇と推測する。319は口縁部に波状を呈した隆帯が横位に付く。320は比較的大きな口縁部片で、口唇部に渦巻状の突起が1点付く。口縁部が幅広の無文になり、胴部は単節繩文を横位に施文し、その上に波状の貼付隆帯が付く。321も同様な文様である。322は胴部片で、貼付隆帯は波状とS字状を呈するモチーフとが連結する。323は口縁部片で、外へと開く器形の深鉢である。口縁部から胴部上半にかけて貼付隆帯により、多段化した波状文とS字状文とが連結する。324は波状口縁を呈する深鉢で、口縁部から胴部にかけ曲線状の貼付隆帯が縦位に複数付く。325は平縁の深鉢で、324と同様な文様であるが、貼付隆帯の端部が円形に丸められている。326は口唇部に押圧文が巡り、口縁部から胴部にかけ、貼付隆帶による波状文が縦位に付く。327～330は幅広の貼付隆帯が付く一群である。327は口縁部から胴部にかけ山形状の貼付隆帯が付き、口唇部には円形突起と波状の貼付隆帯が付く。328・329は貼付隆帯が菱形や方形を模している。330は胴部片で、一部のみ残存する。

波状文か。331～336は口唇部から口縁部に円形ないし円環状の突起が付き、突起には円形の刺突文が充填される。331は円環状突起に刺突文が円孔に沿って巡っている。また突起の裏側にも刺突文が施文される。332も同様な円環状突起が付くが、刺突文は棒状工具である。同じく突起裏面にも刺突文が施される。333・334は円環状突起の破片である。333は中央に大きい円孔があり、細かい刺突文が充填される。334は中央に未貫通の円孔であり細かい刺突文が充填される。335・336は中央に円孔が無く、器面全体に刺突文が充填される。どちらも中央がわずかに窪む。

337～343は貼付隆帯で梯子状文を描く一群である。337は深鉢の大型破片で、胴部が大きく膨らみ、口縁部は大きく外反する器形である。口唇部は欠損しており、突起などの有無は分からぬ。器面全体には単節繩文を地文とし、胴部上半に貼付隆帯による梯子状文をX字状に配する。338は口縁部片で梯子状文に加え、幅広の貼付隆帯も付く。339～343は胴部片で、複数の梯子状文を連結させ曲線状に配する。また340は縦位に梯子状文が連続する。344～353は幅広の貼付隆帯が付く一群であるが、隆帯には沈線が平行して施文される。貼付隆帯は直線もあるが、鋸歯状(345～348・350)や曲線状(352・353)が多い。354は口唇部直下に山形状の隆帯が付き、隆帯には刺突文が施される。355も口唇部に幅広の隆帯が付くが、隆帯には刺突文は施されない。

356～374は大木5a式と判断した。356～362は円形刺突文を加えた隆帯が付く一群である。356は波状口縁を呈する深鉢で波頂部を欠損する。口唇部直下の縁辺と胴部に隆帯が付き、胴部は連続する菱形を描く。また口唇部にも円形刺突文が巡る。357は口唇部直下に繩文原体押圧文が施文され、隆帯は口縁部から胴部へと縦位に垂下する。口唇部には波状の貼付隆帯が付く。358は口縁部から胴部にS字状を呈する貼付隆帯が縦位に付き、同様な隆帯が口唇部にも付く。359は口縁部片で、波頂部は大きく膨らむ突起をなし、上面は円形に整形される。そして突起には大きな円形の窪みを2箇所施している。口縁部から胴部には刺突文を加えた隆帯が弧状に付く。360は小片だが口縁部片で口唇部と隆帯に竹筋状工具による円形刺突文が充填される。361は、外面は地文のみ、口唇部を内外交互に張り出すように整形し、円形刺突文を充填する。

362～373は口縁部から胴部にかけて沈線による鋸歯状文が連続する一群である。地文は単節繩文が主体である。362は口唇部と口縁部に刺突文が巡る。胴部には沈線による鋸歯状文が斜位に連続する。363は波状口縁で、波頂部に刺突文を充填した円環状の突起が付く。口縁部から胴部にかけて、沈線による鋸歯状文が施文される。364も同様な文様である。365は胴部片で横位の隆帯が付き、縦位に鋸歯状文が連続する。366は胴部片で斜位に鋸歯状文が連続する。367も胴部片で縦位に鋸歯状文が連続するが、地文が単軸絡条体1類であるのが特徴である。368・372は胴部片で横位に鋸歯状文が連続する。369は縦位と横位の鋸歯状文が、また直線状の平行沈線も施文される。371も鋸歯状文と平行沈線文が施文される。370は口縁部片で、太い沈線で鋸歯状文が横位に描かれている。373は胴部片で横位の鋸歯状文の他に、沈線による梯子状文が施文される。

374～380は大木5b式と判断した。細い貼付隆帯による鋸歯状文を縦位や横位に連続する一群である。374は口唇部を内外交互に肥厚させ、その口唇部には刺突文が充填される。口縁部には貼付隆帯による梯子状文が、胴部には縦位に鋸歯状文が連続する。375は波状口縁で、口縁部に沿うように鋸歯状文が連続し、胴部には縦位の鋸歯状文が連続する。また地文が単軸絡条体1類である。376・377は平縁であるが、375と同様な文様である。また376は内面が波状に整形されている。378は口縁部には横位の、胴部には斜位の鋸歯状文が連続する。胴部にはクランク状を呈する貼付隆帯も付く。379は胴部片で鋸歯状文と菱形状文が付く。380は口縁部が肥厚し、無文。胴部には細い貼付隆帯による鋸歯状文と3条の沈線が横位に巡り、胴部には縦位の隆帯とボタン状貼付文が付く。

381～384は口縁部片で、地文として単節縄文が施文されるのみで、口唇部は内外に肥厚させ、上面が波状（381～383）や、鋸歯状を呈する。385・386も外面は斜行縄文のみで、口唇部には突起が付く。上面は、385が渦巻文、386は円文である。387は口唇部直下に付く円形の突起である。沈線で渦巻文が描かれている。388は口唇部に付く突起の破片で刺突文が加えられ円環状を呈している。389は地文に、付加条縄文が施文される。口唇部には円形の突起が縦位に付く。390は無文の口縁部片で口唇部に小さい突起が付く。391は波状口縁で、波頂部に円環状の突起が付く。393は深鉢の口縁部片で口縁部が大きく外反する。胴部に細い単軸絡条体1類が縦位に施文され、胴部には浅い沈線で菱形状の文様が描かれている。

392・394～398は文様が縄文のみか無文、口唇部には押圧文や刻みが巡る一群で、その口唇部の文様から大木5式の範疇ととらえている。392は4単位の波状口縁を呈する深鉢で、波頂部は幅広な平坦に整形され、押圧文が施文される。394は直線的に外へと広がる深鉢で外面は単節縄文のみ、口唇部には刻みが巡る。395は393と同様な器形の深鉢である。口縁部は無文、胴部は単節縄文のみが施文され、口唇部には押圧文が巡る。396は深鉢ではば直立気味である。外面には単軸絡条体1類が施文される。口唇部に押圧文が巡る。397は貝層出土の150と同様な形態の鉢の口縁部片で、外面は無文で口唇部に立方体状の突起が付く（4単位か）。また突起の上面と口唇部に円形の刺突文が巡る。398は外へと直線的に開く形態の深鉢で、口縁部は無文、胴部は単節縄文のみ施文される。口唇部に渦巻状の突起が付く。

399～445は大木6式と判断した。器形、文様ともに多様である。399～414は平行沈線による山形状文や曲線状文が施文される一群である。399は胴部上半が緩やかに内湾し、口縁部は大きく外へと開く球胴形の深鉢で、口縁部から胴部下半が残存する。口縁部は肥厚し、幅広の沈線と円文が施文される。頭部には多段化した山形状文が巡り、胴部は単節縄文のみ施文される。400・401も同様な文様である。402～404は胴部片である。上半に山形状文が施文される。399～401と同様な文様である。405は長胴形深鉢の口縁部片で、平行沈線を斜行、波状に施文する。文様がやや雑である。406は胴部片で平行沈線による山形状文に加え、直線も施文される。407は縦位に平行沈線を施文するが、施文が浅く稚拙である。408は斜位に押圧文を加えた隆帯が横位に巡り、胴部には単節縄文を施文し、多段化した山形状文が横位に巡る。409は多重の円文が描かれる。410は波状口縁で口縁部が肥厚し、波頂部には円文、その両側から幅広の沈線が施文される。また口縁部には半裁竹管状工具による押引状の刺突文が巡る。411は410と同様な器形で、口縁部が肥厚し、波頂部の口縁部直下に円環状の隆帯が付く。412は平縁の深鉢で、口縁部に偏平な隆帯が付き、縦位に短沈文が巡る。胴部には平行沈線による山形状文が横位と縦位、両方施文される。413・414は胴部片で、412と同様な文様と推測する。415も同様で、波状口縁を呈し、波頂部には円形刺突文を加えた円環状の隆帯が付く。416は波状口縁で口縁部と頭部に半裁竹管状工具による押引状の刺突文が巡る。

417は4単位の波状口縁で、波頂部には幅広の沈線で円文や三角形文が描かれ、頭部には押引状の刺突文が2段で巡る。胴部には細い沈線で文様が描かれる。418は口縁部に沈線が縦位と横位に施文されるが、沈線自体は細く、また稚拙である。419は浅鉢であろうか。口縁部は肥厚する。口唇部は円形の突起が2個付き、突起には細い刻みが巡る。また鋸歯状、直線状の細い沈線が施文され、三角形の刺突文も施文される。胴部には沈線が施文される。420は胴部が大きく膨らみ口縁部が外へと開く深鉢で、口縁部は肥厚し、胴部上半に細い沈線が施文される。また胴部の中位にボタン状貼付文と押引状の刺突文が巡る。423は胴部片で平行沈線が斜位に連続し、420と同様なボタン状貼付文が付く。425は平行沈線で弧状文を描いており、また沈線間に円形の刺突文が充填される。426・427は平行沈

線を弧状、渦巻状に施文し、沈線間に刺突文を充填する。また内外面に突起が付く。428は口唇部と口縁部それぞれに曲線状、S字状の隆帯が付く。429は口唇部に押圧文を施され、連續波状口縁を呈する。単節繩文を地文とし、刺突による円文が施文される。430は口縁部に細かい刻みを施した隆帯が横位に巡り、胴部には浅い隆帯が波状に巡る。

431は長胴形の深鉢で、口唇部に半円状の突起が1単位で付く。口縁部には縦位の把手が付くが、欠損している。口縁部から胴部に沈線や押引状の刺突文が施文される。胴部は縦位の單軸絹条体1類を地文とする。432は口縁部片で、肥厚した口唇部に刻みを施す。433は口唇部に円環状の突起が付き、突起には細い刻みが巡る。434は口唇部に細かい刻みが施され、胴部には繩文を施文した隆帯が付く。435は小片で細い沈線が巡る。436・437は格子目状に沈線を施文する。438は口唇部に二又の突起が付き、それぞれに刻みと貫通孔が施される。439は口唇部に大きな突起が付き、口唇部から口縁部にかけ、突起や隆帯に非常に細かい刻みが施される。

440～445は胴部が算盤玉状に膨らみ口縁部が外へと開く深鉢である。口縁部から胴部上半にかけ、刺突文や沈線が横位に巡る。443は口唇部に押圧文が巡る。445は頭部と胴部中位に押引状の刺突文が横位に巡る。また胴部には隆帯と沈線が縦位に垂下する。

446～451は押圧文を加えた隆帯が横位に施文される一群で、隆帯は口縁部と胴部の間に施文される。449は隆帯が2条平行する。451は口唇部下と口縁部下の2箇所で押圧文が施文される。

452・453は肥厚した口縁部に沈線が施文される一群である。453は胴部に平行沈線による文様が斜位、縦位に施文される。

454～466は口縁部片で、沈線による文様が描かれる一群である。基本的には口縁部の上下端に横位の沈線が巡り、沈線間に縦位や斜位に沈線や刻みが充填される。459・460は口縁部に馬蹄形の突起が付く。

467は口縁部から胴部下半の大型破片で口縁部には円環状の突起が付き、また波状の沈線が横位に施文される。胴部は単節繩文を地文とし、また縦位に隆帯が垂下する。

中期

468～498は大木7a式古段階と判断した。

468～483は深鉢の口縁部片で、文様からみて、まだ大木6式の可能性がある。沈線による文様が描かれ、隆帯や刻みを加える一群である。468は沈線で渦巻文を描き、その間を縦位の短沈線が充填される。469は口唇部に押圧文を巡らせ、口縁部に幅広の隆帯が縦位に付く。470・472・473は数条の沈線が横位に巡り、沈線間に刻みや刺突文が充填される。471は口縁部に沈線を加えた馬蹄形の突起が付く。475は球胴形深鉢の口縁部片で、波状口縁を呈する。波頂部から縦位に隆帯が垂下し、その両脇には押引文が横位に巡る。胴部にも縦位の隆帯が垂下し、隆帯には押引文が施される。476は平行沈線による山形状文を上下に交叉させながら描く。その間には棒状工具による円形刺突文が充填される。477は口縁部にV字状の隆帯が付く。478は口縁部に横長で半円状の突起が付く。一見、把手にも見えるが、貫通していない。479・480は口縁部の上下端と中央に沈線が横位に巡り、沈線間に縦位の集合沈線を充填する。481も同じ文様であるが、横位の沈線も集合沈線も細いのが特徴である。また三角形印刻文が施文される。482は刻みを加えた隆帯が口縁部の上下端に付き、またそれらを結ぶ縦位の隆帯がある。483は口唇部が欠損する。細い短沈線を斜位と縦位に充填し、三角形印刻文が施文される。

484は底部付近以外が残存する長胴形深鉢である。胴部は膨らみ、口縁部は外へと開く器形で、大木6式の長胴形深鉢の可能性もあるが、文様から大木7a式と判断した。口縁部は単節繩文を地文と

し、3条からなる平行沈線を斜行、円形に施文する。また口縁部には上端と中央に横長の半円状突起が付く。胴部は地文（横位の結束羽状縄文）のみが施文される。485はわずかに外へと開きながら立ち上がる器形である。口縁部には3条の沈線が横位に巡り、沈線間に刻みが充填される。頸部は刻みを加えた隆帯が巡り、胴部は地文として結束羽状縄文が縦位に施文される。486・487は口縁部片で、波状口縁を呈する。上下端に沈線が巡り、沈線間に弧状の短沈線が充填される。487は加えて縦位の把手、突起が付く。488は平縁の深鉢で、487と同様な文様に加え、短沈線を加えた隆帯が縦位に付く。また頸部には三角形印刻文が加えられた隆帯が巡る。489は口縁部が大きく外へと開く深鉢で、文様は488と類似する。490は口縁部片で、細い沈線で文様が描かれ、縦位に弧状の隆帯が付く。口縁部上端には三角形印刻文が施文される。また内面が大きく肥厚するのが特徴である。491は口縁部片で口唇部に渦巻状の突起が付き、突起には刻みが施される。口縁部上端は肥厚し、その下は斜位の格子状に沈線が施文される。また縦位の把手が付く。492は波状口縁で、波頂部が欠損する。口縁部上端は肥厚する。単節縄文を地文とし、沈線による波状文が横位に施文される。また、波頂部から2条の隆帯が垂下する。493は波状口縁を呈し、波頂部には円形の貫通孔がある。また、波頂部からは刻みを加えた隆帯が2条垂下する。口縁部には刻みが4段にわたり横位に巡る。494・495は口縁部片で、口唇部が欠損する。どちらも縄文を施文した隆帯が付く。496は平縁の口縁部片で、単節縄文を地文とし、平行沈線による大きな波状文が横位に施文され、縄文を加えた隆帯が付く。また頸部には刺突文を加えた隆帯が巡る。

497は口縁部は外へと開き、胴部上半は大きく膨らむ球胴形深鉢で、胴部下半で括れ、底部に向かい直立する。胴部には縦位の結節部が残る単節縄文を地文とする。口縁部は短沈線を加えた円環状の突起や縦位の把手が付く。また沈線で渦巻文を描き、その間は弧状の短沈線を充填する。胴部との間には刻みを加えた隆帯が付く。498は長胴形深鉢の胴部片で、頸部には押圧文を加えた隆帯が巡り、胴部には結節部分を残した縦位の単節縄文が施文される。

499～510は大木7a式新段階と判断した。499は胴部片で結節部分の残る縦位の単節縄文を地文とし、平行沈線で文様を描く。500・501はどちらも口縁部片で口唇部直下にS字状を呈した隆帯が付く。口縁部には縦位の把手や二股の突起が付く。把手も含め、口縁部全体に地文として単節縄文が施文される。502も類似する文様である。口唇部には円環形の突起が付くが貫通はしていない。503は口縁部片で、口唇部直下に縄文原体押圧文が沿い、口縁部には押圧文を加えた隆帯が垂下する。504は器面全体に地文として単節縄文を施文する。頸部には押圧文を加えた隆帯が巡り、また口縁部にはV字状の隆帯が付く。508・509も同様な文様である。508は口縁部には押圧文を加えた隆帯が縦位に付く。また平行沈線が数条、横位に巡る。509は口縁部片で、単節縄文を施文し、隆帯と平行沈線で文様を描く。510は口縁部が肥厚する。地文として単節縄文が口縁部から胴部に施文される。胴部には縄文を施した2条の隆帯が垂下する。

511～513は大木8a式新段階と判断した。大木8a式自体の出土量は少ない。511は口縁部片で太い沈線が複数条、横位に施文される。512は口縁部が肥厚し、沈線で縦位の沈線と曲線状文が描かれる。513は胴部片で隆帯がS字状に付く。また隆帯には2条の沈線が施文される。

514～517は大木10式の古段階～新段階である。大木10式は大木8a式同様、出土量は少ないが、516・517のように大型の破片も見受けられる。514は古段階と判断した。口縁部片で沈線による曲線状区画が描かれる。区画内には磨消技法で縄文が施文される。515も古段階と判断した。隆帯で区画文が描かれている。区画内には磨消技法で縄文が施文される。516は新段階と判断した。胴部上半から底部が残存する。単節縄文を地文とし、細い曲線状の区画文が胴部上半に描かれる。区画内は無文で

ある。517は4単位の波状口縁を呈する。口縁部にはやや蛇行気味の曲線状区画が描かれ、区内は無文である。あまり事例ない文様であるが、新段階と推測する。

518は縄文原体押圧文の施文が503に類似しており、大木7a式新段階の可能性がある。519～536は地文のみで、時期が不明な一群である。地文は、単節縄文(526・529・533)の他、単軸絡条体1類(519～521・523)、単軸絡条体1A類(522)、単軸絡条体5類(524・525)があり、また結節部分の残る単節縄文が施文されるもの(527・528)もある。531は波状口縁を呈し、波頂部が1箇所穿孔されている。無文である。

535は台付鉢(深鉢?)の台部分の破片である。無文で、時期は不明である。

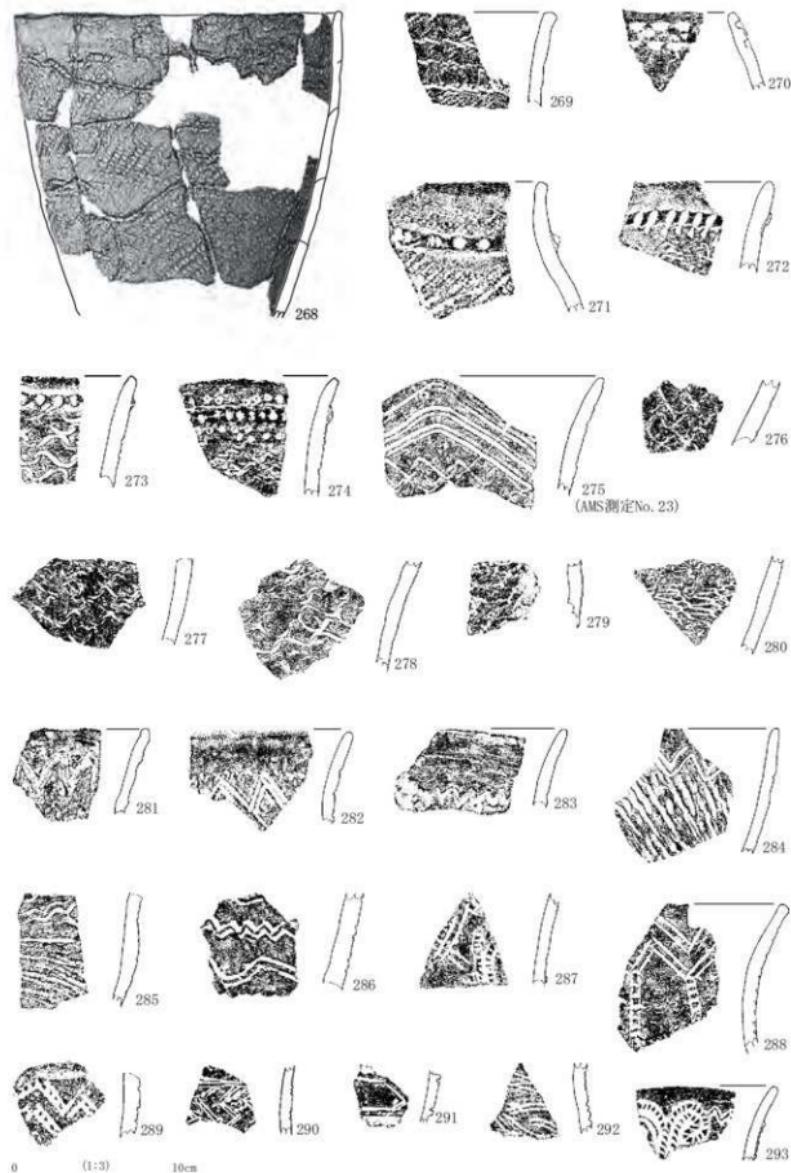
536は鉢で、外へと大きく開く形態である。器面全体が無文である。

537～541は底部資料である。いずれも時期は不明である。底面には敷物圧痕が見受けられる。敷物圧痕の種類については一戸町2015を参考とした。537は浅いがござ目と推測する。538は底面の中央が欠損するが、ござ目と推測する痕跡が見受けられる。539は木葉痕である。540・542は網代痕である。541はござ目と推測する。胴部には条痕文が縱位に施文される。

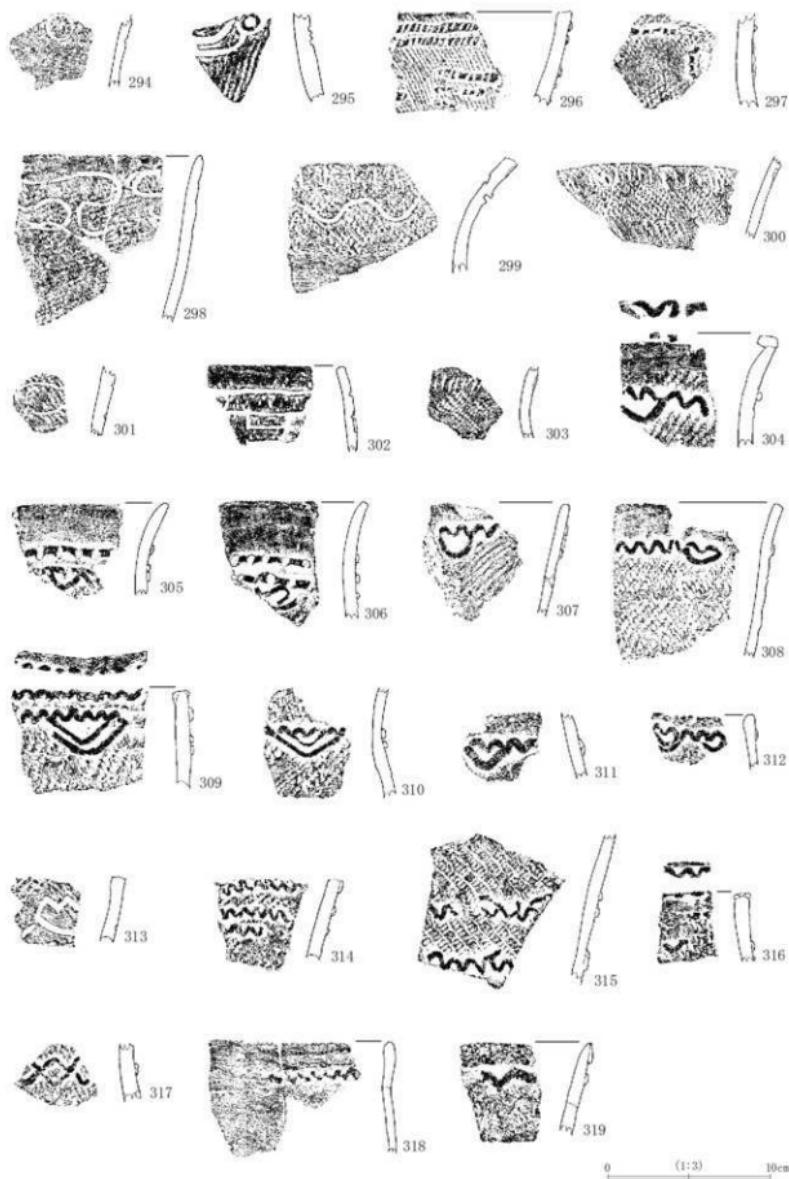
(2) 土製品・粘土塊

土製品は円盤形土製品が出土している。6点掲載した(543～548)。いずれも深鉢の胴部片を転用している。側面を研磨し、円形に整形されているが、歪なものが多い。文様は無文が多いが、544は沈線が残る。

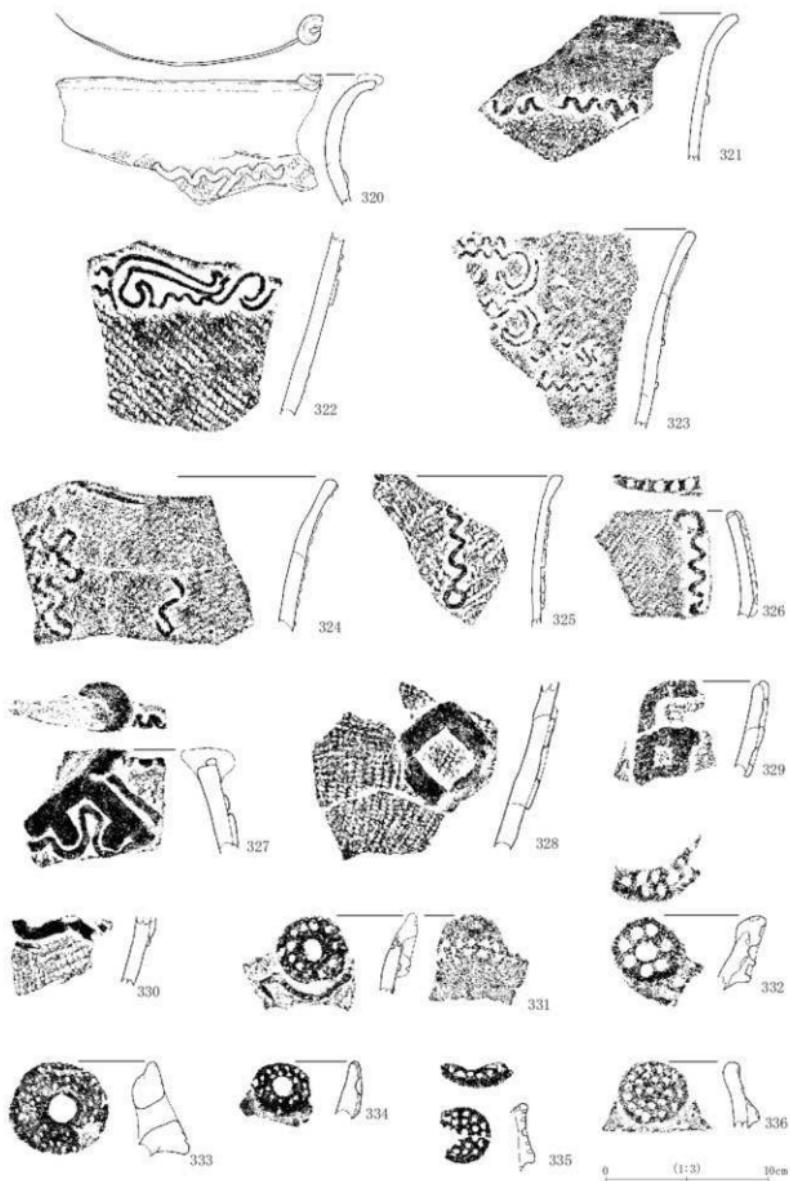
粘土塊は1点出土し、掲載した(549)。球状を呈し、一部、指頭によると思われる整形痕が見受けられた。



第70図 遺構外出土遺物 1



第71図 遺構外出土遺物2



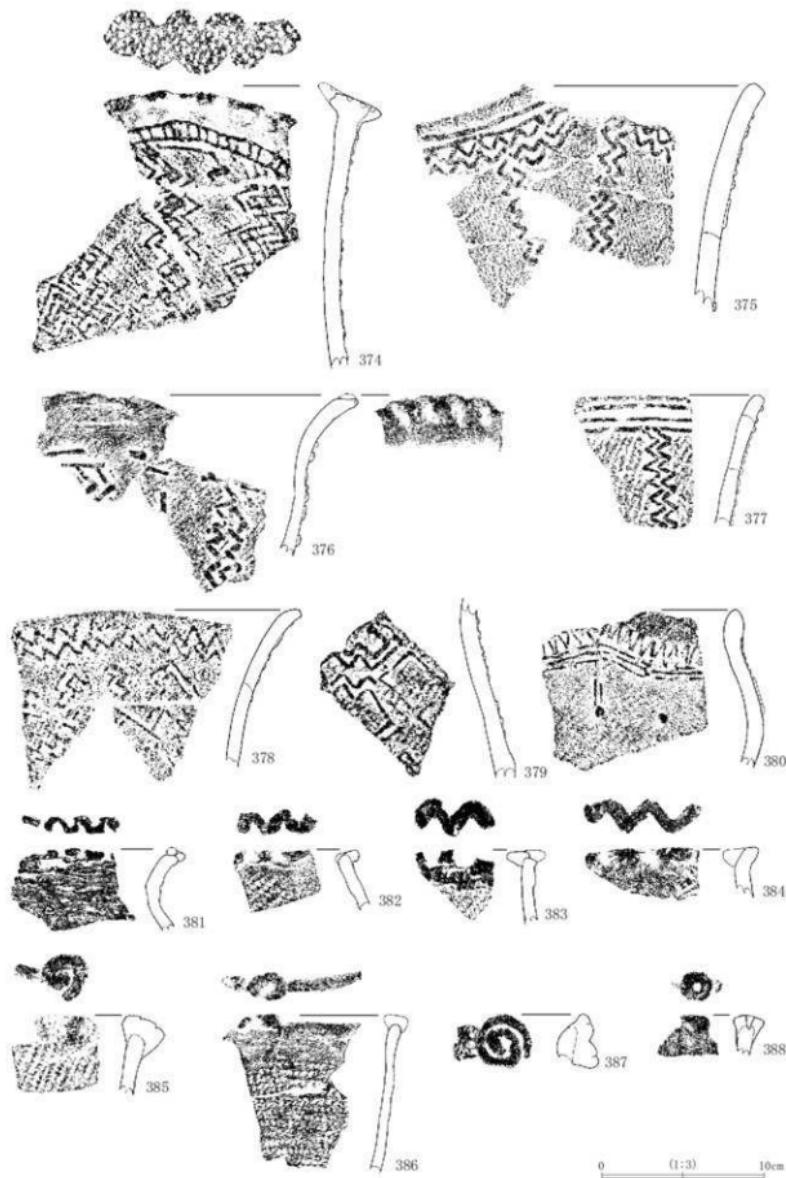
第72図 遺構外出土遺物 3



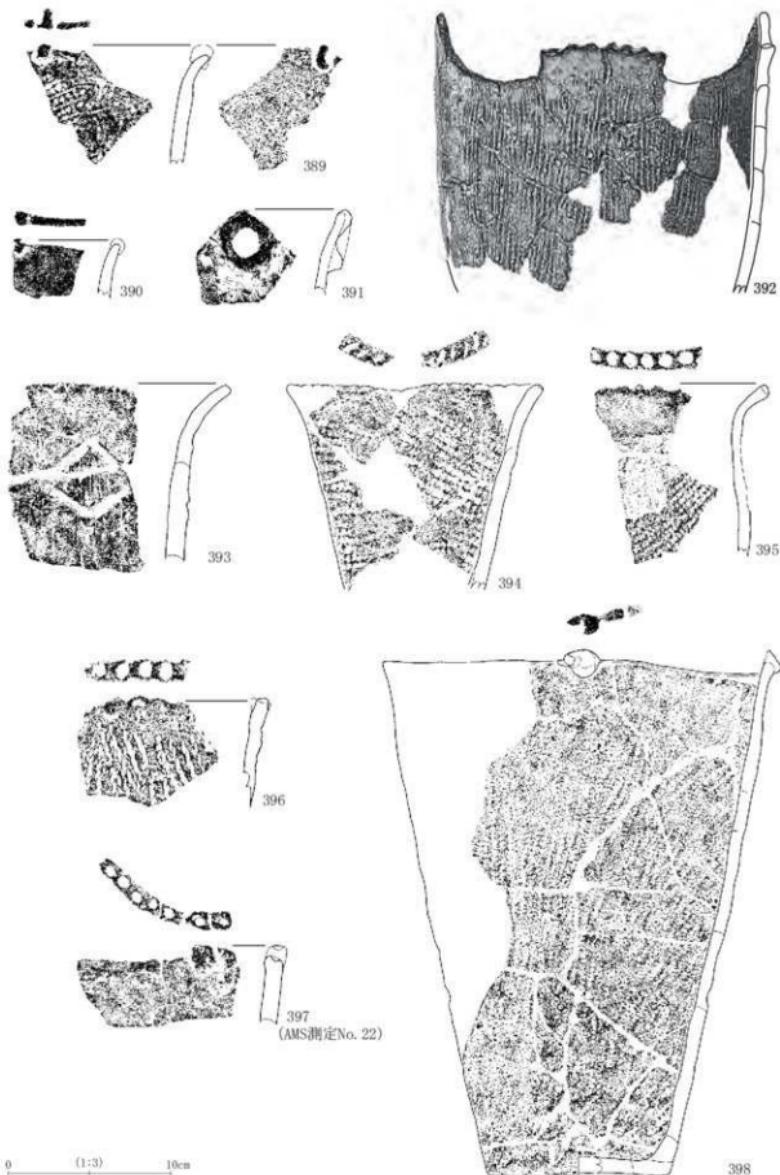
第73図 遺構外出土遺物 4



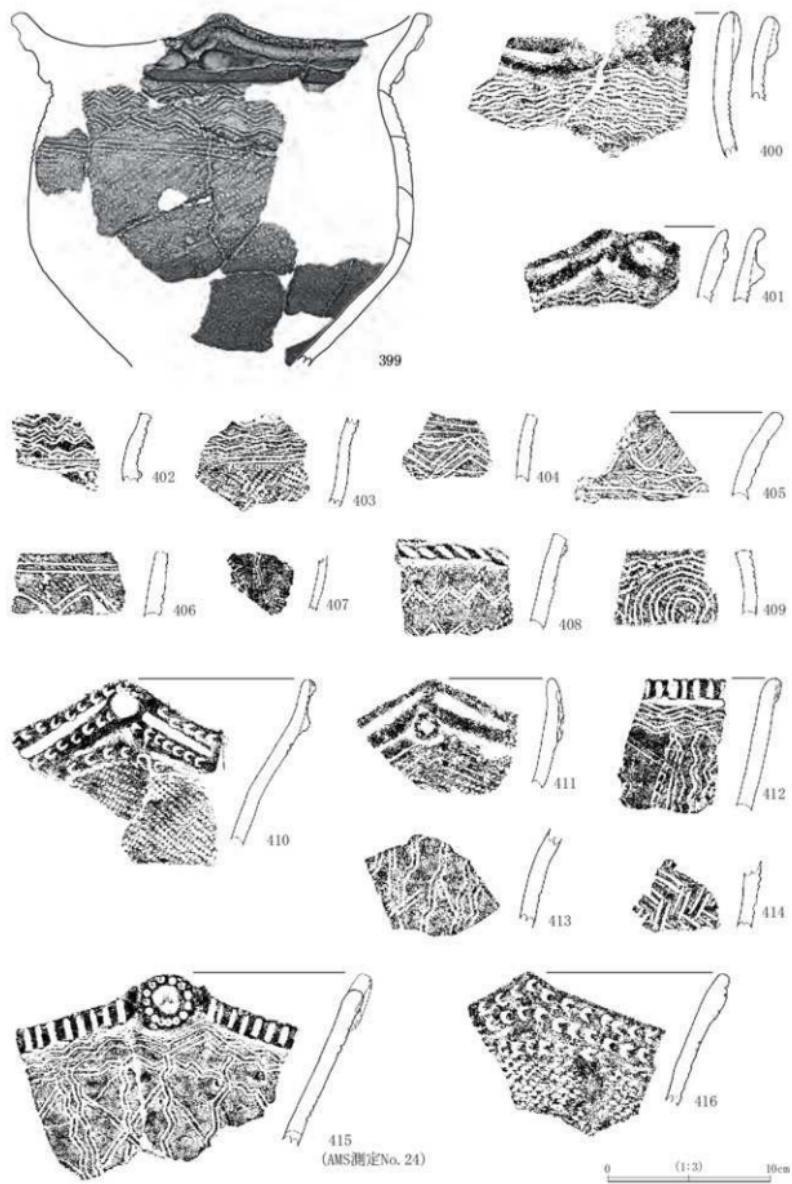
第74図 遺構外出土遺物 5



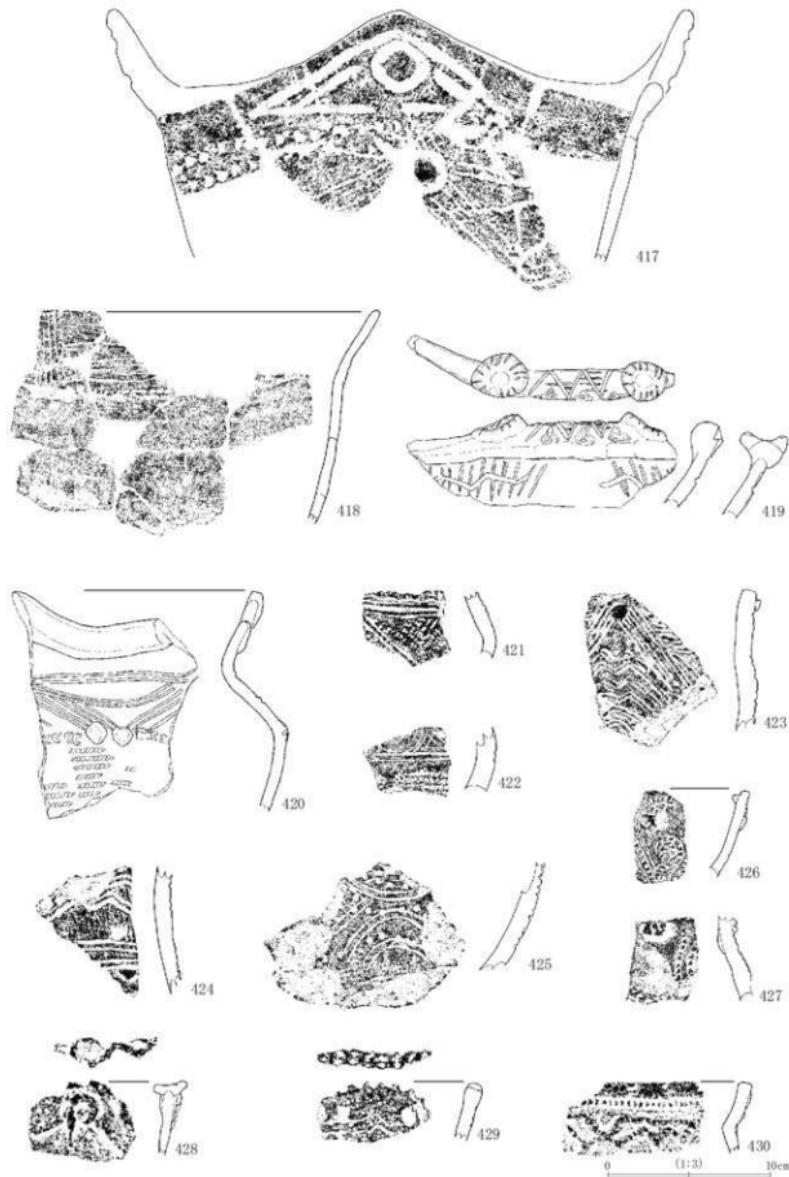
第75図 遺構外出土遺物 6



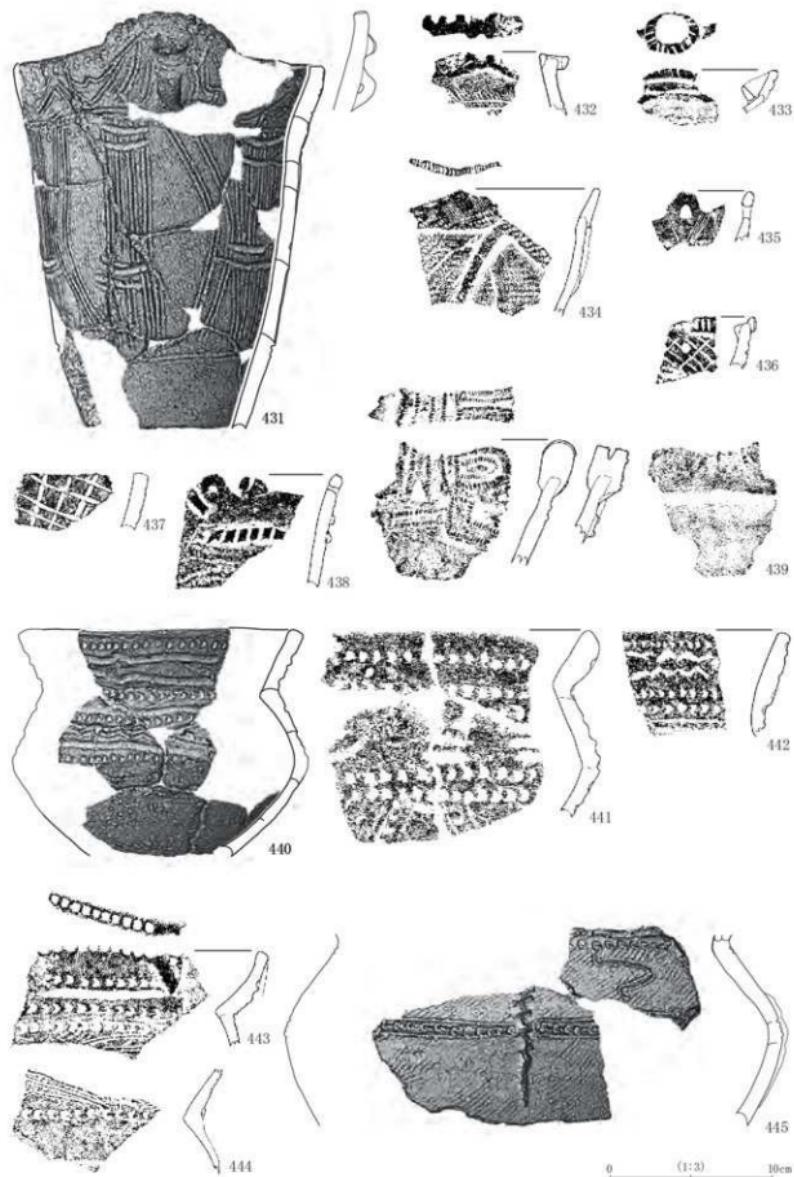
第76図 遺構外出土遺物 7



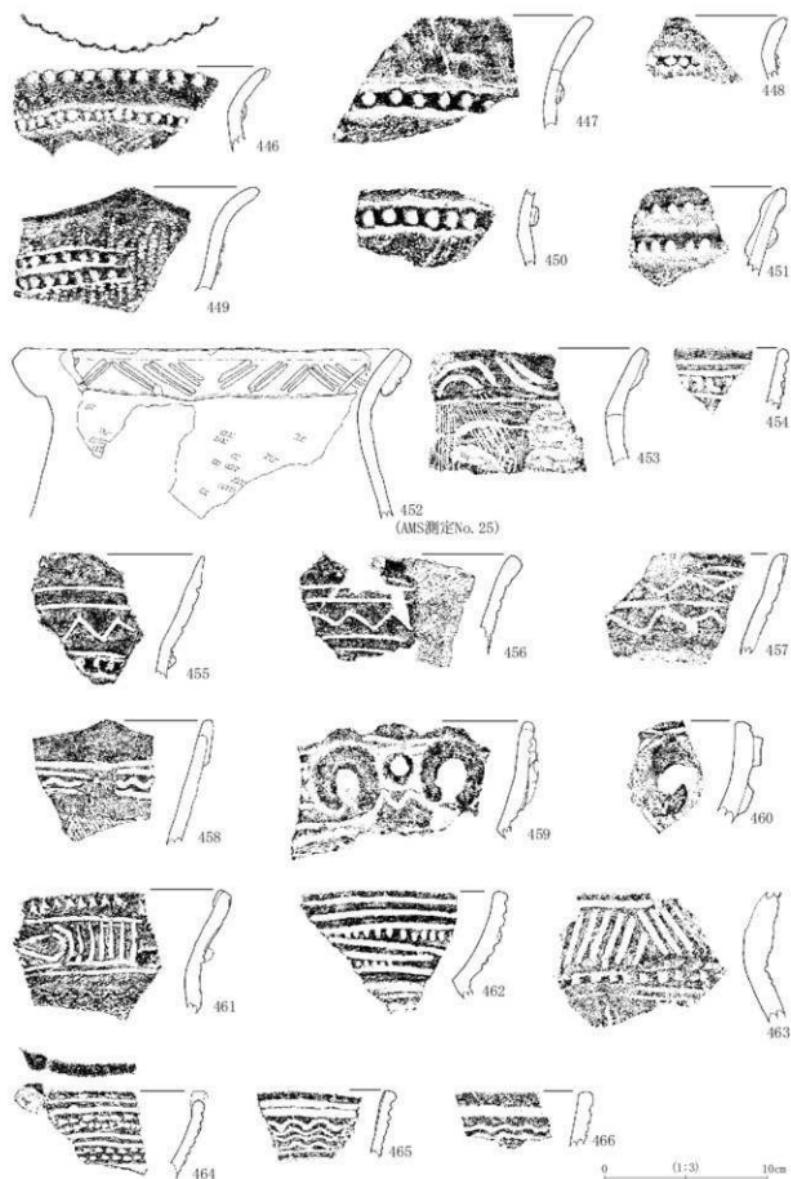
第77図 遺構外出土遺物 8



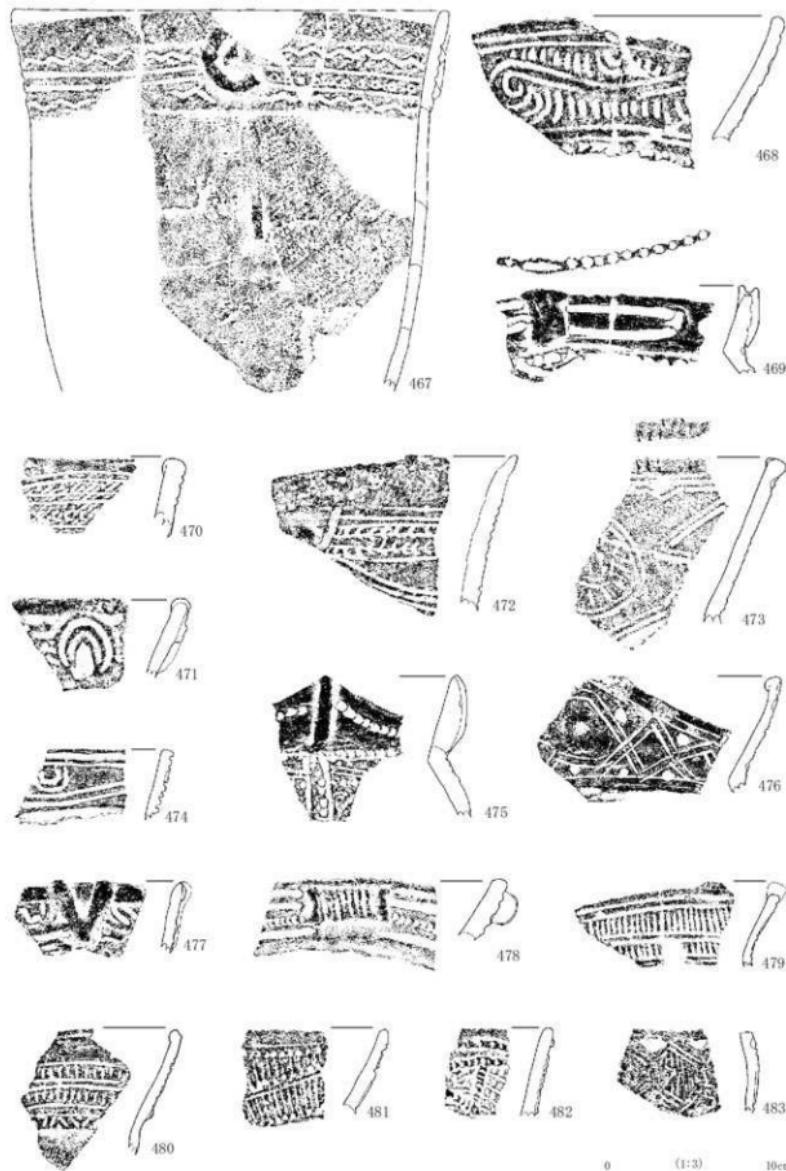
第78図 遺構外出土遺物 9



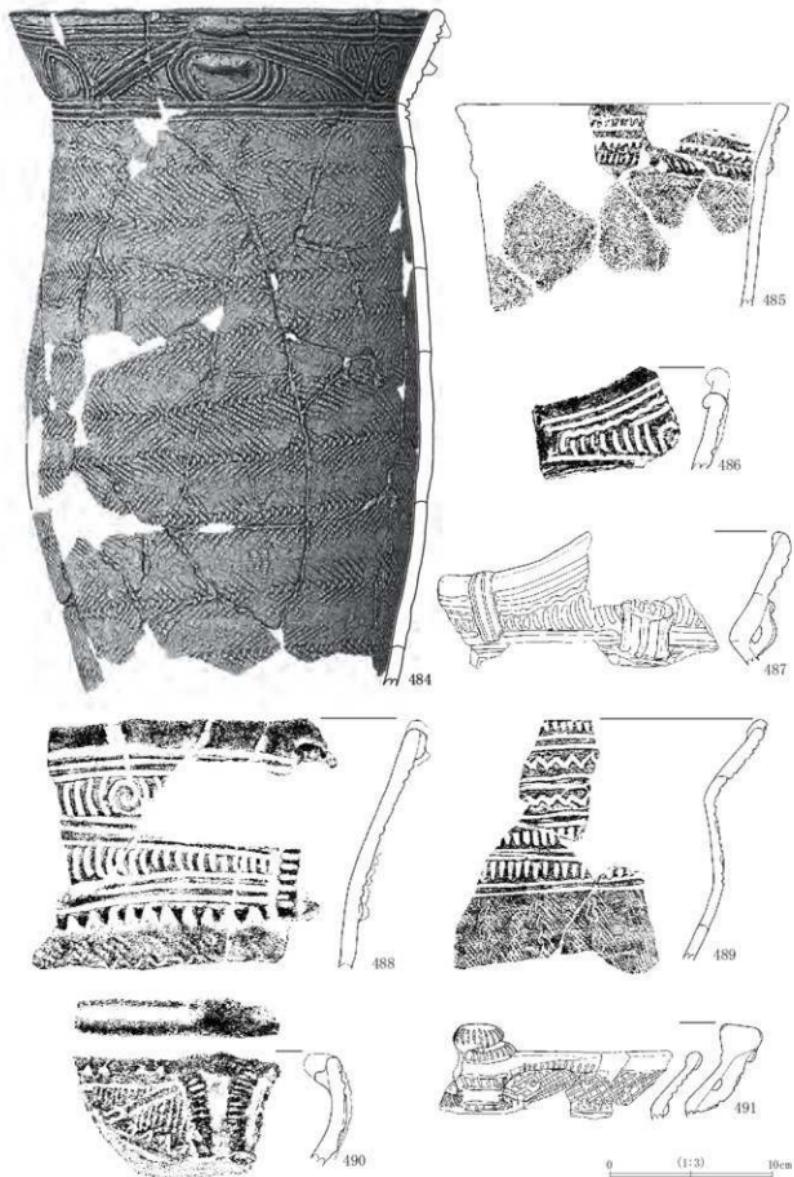
第79図 遺構外出土遺物10



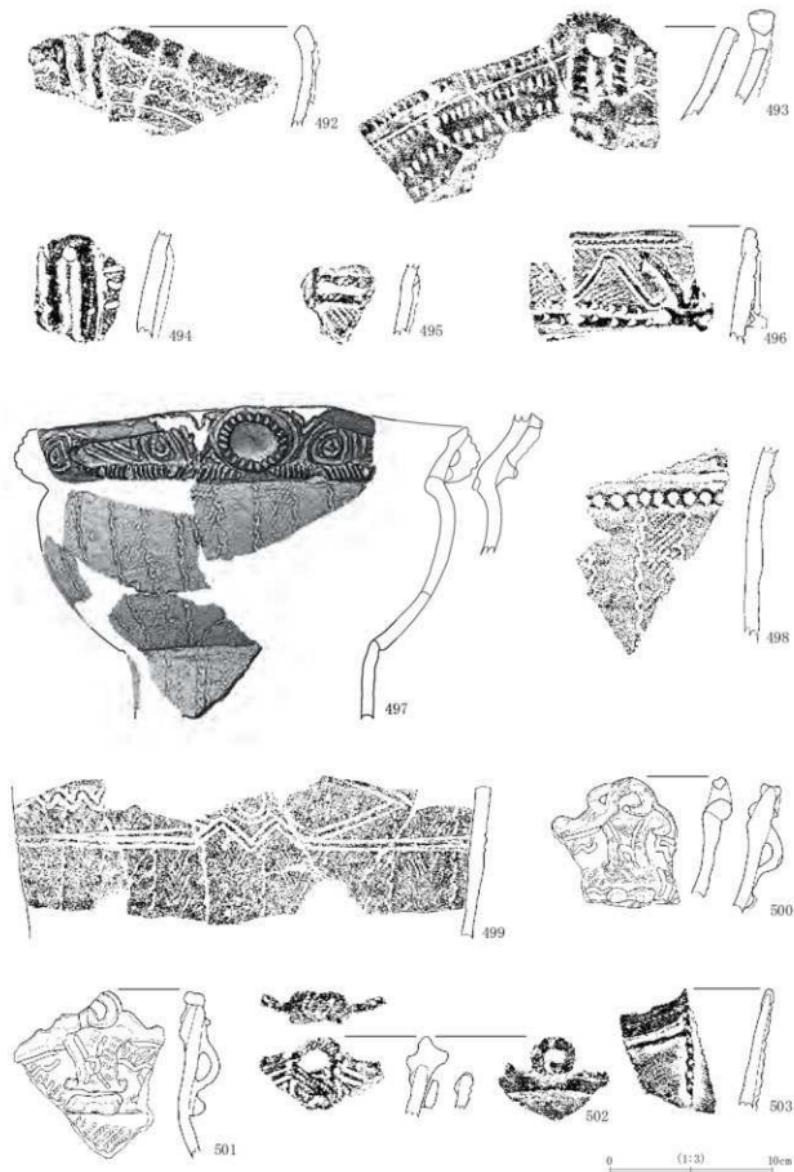
第80図 遺構外出土遺物11



第81図 遺構外出土遺物12



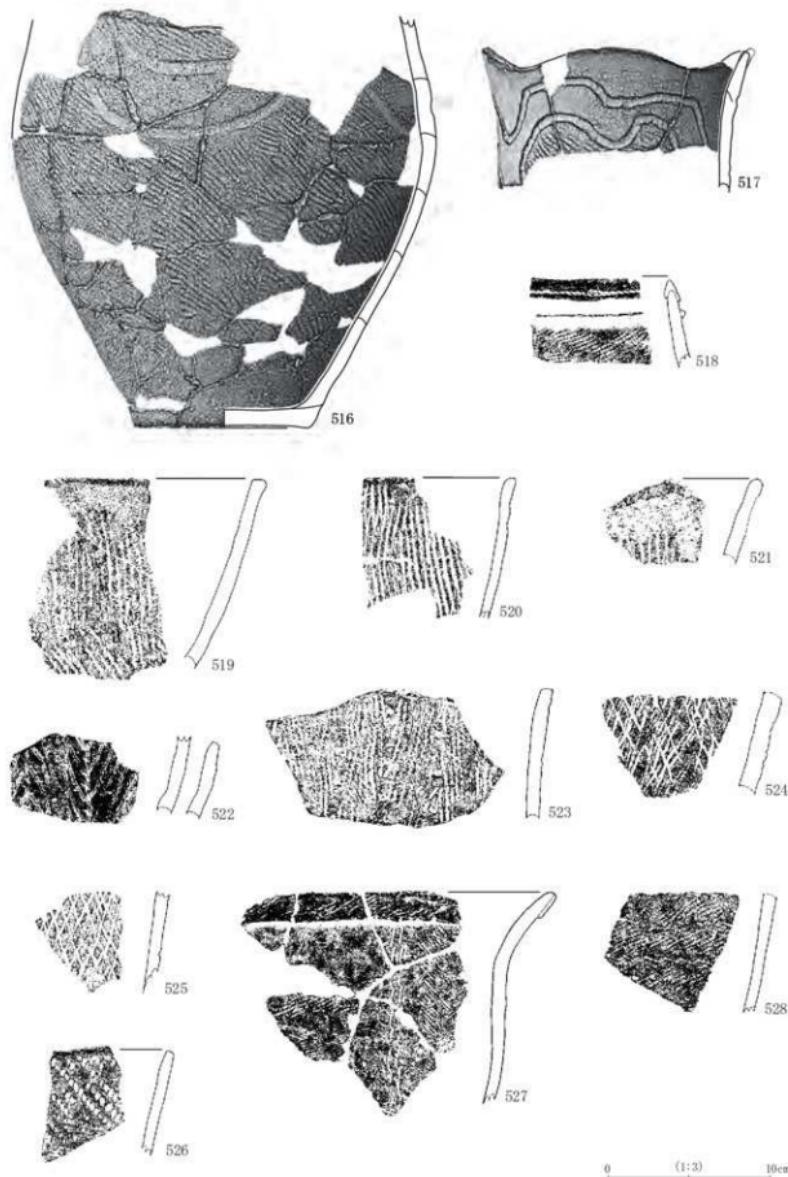
第82図 遺構外出土遺物13



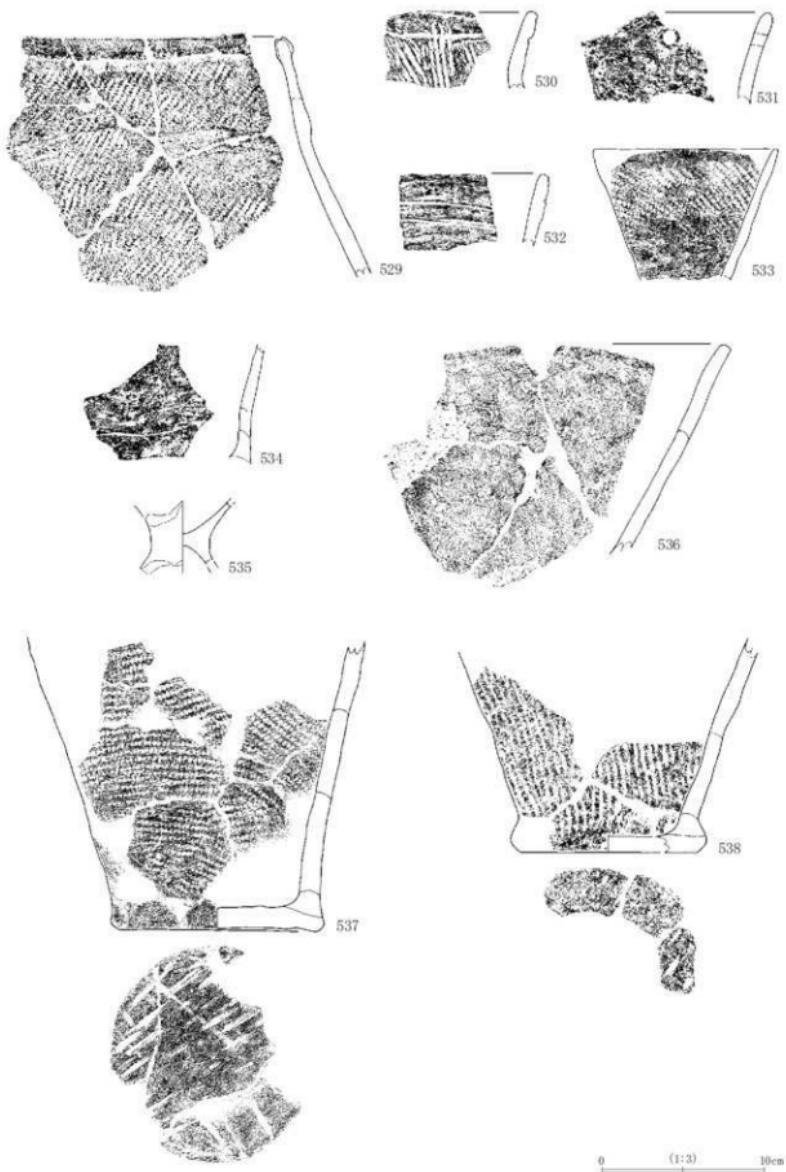
第83図 遺構外出土遺物14



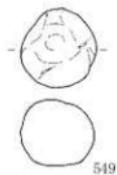
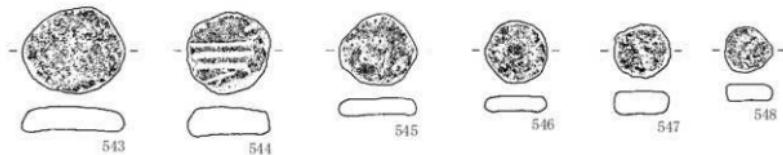
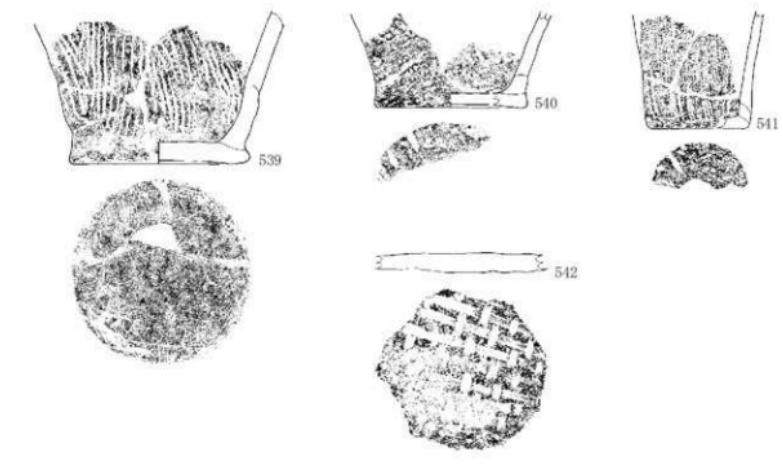
第84図 遺構外出土遺物15



第85図 遺構外出土遺物16



第86図 遺構外出土遺物17



第87図 遺構外出土遺物18

(3) 石 器

石錐は43点掲載した(550~592)。石錐I類(550~576)は、平面形は二等辺三角形で、整形の特徴として、体部まで二次加工が及んでいないものが多い(551・552・556など)。基部はV字状にくびれるもの(550~560)、弧状にくびれるもの(561~563)、やや歪にくびれるもの(564・565)がある。大きさは、小さいものでは長さ1.3cm(554)、大きいものは長さが4cm弱(557・561)まで見受けられる。

石錐II類(577~587)は、平面形は基本的に二等辺三角形である。少ないが正三角形(587)も見受けられる。581・582は体部の先端部側がやや細くなる。また整形の特徴としては、I類同様に体部まで二次加工が及んでいないものが多い。基部は平坦に整形されるが、577・578は、わずかに弧状にくびれる。577・578についてはI類ほど括れていないのでII類範疇としている。大きさでは、小さいもので1.3cm(578)、大きいもので3.7cm(582)である。579は体部を欠損するが、残存部の長さが3.6cmであり、実際は4.0cmを超えるものと推測する。しかし二次加工が粗く、失敗品の可能性もある。

石錐III類(588~592)は、平面形では菱形に近い形態(588)、二等辺三角形に茎部が付くもの(589~591)、体部と茎部が不明瞭なもの(592)がある。このように形態の特徴で厳密には細分できるが、それぞれの点数が少ないので、III類で一括した。整形の特徴としてはI類、II類と同様、体部まで二次加工が及んでいないものが多い。大きさは、出土点数が少ないので傾向が見いだせないが2~3cm前後が多い。

石錐失敗品は11点掲載した(593~603)。二次加工が全体に及ばず平面形が歪であるものから判断した。593~599は平面形が左右非対称である。593~595は石錐I類の製作途中か。いずれも厚みがあり、また593には自然面が残る。

596~598はII類の製作途中か。596は横長のフレイクを素材としている。片面は縁辺の一部しか二次加工が及ばず、素材フレイクの剥離面が残っている。また599は二次加工による整形からみて石錐を製作しようとしたものと推測するが、最終的な平面形は不明である。

600・601は二次加工が全体に及んで整形が終わっているようにみえるが、他の石錐と比べ厚みがあり、失敗品とした。602・603は縁辺部のみ二次加工が施されている。前述の通り、本遺跡出土の石錐は体部にまで二次加工が及んでいないものが多く、602・603も同様であるが、602・603は他の石錐と比べて厚みがなく、失敗品とした。

尖頭器は11点掲載した(604~614)。604は先端部が欠損する。II類に相当し「押出型ポイント」で、基部側は石匙の摘み部のように括れる。605は長さ16.6cmにおよぶ大型の尖頭器である。先端部は非常に鋭利に整形されているが、左右非対称でやや歪である。606はII類か。石錐III類に類似する平面形で厚みもある。貝層出土の195のような「押出型ポイント」の可能性がある。先端部側は三角形を呈し、基部側はやや細く長い。ただし全般的に歪で、体部には自然面も残る。

607~614も尖頭器であるが、先端部から体部を欠損する。いずれも残存部の長さからみて、大型の尖頭器であったと推測する。

石錐は5点掲載した(615~619)。今回の調査において、石錐は剥片石器のなかで、比較的出土量が少い器種である。

石錐I類と考えられるのは616のみである。ただし、平面形は歪で、錐部は欠損するものの、残存部に施された二次加工も全体に及んでいない。失敗品の可能性もある。

615・617～619は石錐II類である。615は両端が欠損する。摘み部が二次加工によって整形されている。617は縦長のフレイクを素材としている。片面に二次加工が施されおらず、失敗品の可能性が高い。618・619はどちらも縦長のフレイクを素材とし、錐部のみ二次加工を施し整形する。

石匙は9点掲載した（620～628）。出土点数は石錐に比べれば多いが、剥片石器全体でみると、占める割合は小さい。

620～623は石匙I類である。刃部は片面加工のものが多く（620～622）、623のみ両面加工である。また623は他の石匙とは平面形がやや異なっており、摘み部の括れが浅く、摘み部自体が横長である。

624・625は石匙II類である。624は刃部の平面形が三角形を呈し、片面加工で刃部が作出される。625は刃部の一部が欠損し、刃部は両面加工で作出している。ガジリが多い。

626～628は石匙III類である。626は横長のフレイクを素材とし、片面の縁辺部のみ二次加工を施し、刃部を作出している。失敗品の可能性もある。627は両面から二次加工を施し整形されるが、刃部先端は内側にむかひ弧状に整形されている。他の石匙は、刃部先端が鋭利か丸みをもつて、それらと比べて異なる平面形である。628も両面加工で刃部を作出し、体部は三角形に整形されている。

楔形石器は6点掲載した（629～634）。剥片石器の中で比較的出土点数が少なかった。また基本的に平面形が方形基調であるものを楔形石器としたが、622～634のように梢円形や歪な平面形をするものでも端部に階段状剥離やそれに類似する加撃の痕跡が連続する石器は楔形石器としている。

629・631・632・634は楔形石器I類である。いずれも厚みがある。629は階段状剥離のみられる縁辺部に自然面が残る。631は剥離が小さく、縁辺の一部には及んでいないのが特徴である。632は加撃による階段状剥離の他にも全体的に剥離しており、何らかの剥片石器の製作途中（失敗）品の可能性があるが、実測図で示した上下端に剥離が集中しており、これを加撃の痕跡と考え、楔形石器とした。634は平面形が歪である。縁辺部全体が大きく剥離しているが、実測図で示した上下端には部分的に剥離が集中しており、楔形石器とした。

630・633は楔形石器II類である。630は厚みがあるが、633は比較的薄い。630は方形基調を呈し、片面には自然面が残る。細かい階段状剥離が3方向で見受けられる。633は台形状の歪な平面形で、縁辺の全体に階段状剥離や細かい剥離の連続が見受けられる。

不定形石器は45点掲載した（635～679）。剥片石器の中では、出土点類が石錐に次ぎ多い器種である。観察表（第13表）には第IV章に示した分類を記しているが、第93～99図は、それとは別に平面形の特徴などで並べている。

635～637は不定形石器IV類で片面の全面に自然面を残し、もう片面に角度の鈍い刃部が付く、所謂「力持型スクレイパー」（岩埋文2008）である。635・636は平面形や大きさがほぼ同じである。ただし石材は635が頁岩で、636は凝灰岩と異なっている。637も大きさはほぼ同じ、平面形は梢円形を呈する。縁辺への打撃が粗く、特に図の下端にあたる縁辺はまだ刃部が作出されていない。失敗品の可能性もある。

638～642は平面形が梢円形を呈し、縁辺部のはば全周、両面加工で、刃部を作出している。分類では不定形石器I類（639・641）と不定形石器II類（638・640・642）とに分かれれる。

643～647・649・656は平面形が三角形や梢円形のフレイクを素材とし、刃部のみ二次加工を施している。刃部は縁辺部の1箇所ないし2箇所に見受けられる。分類では不定形石器I類のみである。

648・650～655・657～666は、平面形は一様ではないフレイクを素材とし、縁辺のはば全周に二次加工が施される。体部にまで二次加工が施されるもの（658・660・663・665）は少なく、ほとんどが素材となるフレイクの正面などが残存する。分類では不定形石器I類（648・650・652・653・655・656・658・660・661・663・665・666）、不定形石器II類（651・654）、不定形石器III類（659・662）

とに分かれる。

664・667～675は厚みのあるフレイクを素材とし、縁辺の一部に二次加工を施し、刃部を作出している。素材のフレイクは667・670・675のように打面や正面が分かるものもあれば、664や668のように剥離の方法が不明な塊状のフレイクを素材とするものも見受けられる。また669・671では自然面が残る。分類では不定形石器I類（664・667・670・674・675）、不定形石器II類（671・672）、不定形石器III類（668・669・673）が見受けられる。

676～679は平面形が歪なフレイクを素材とし、縁辺部に粗い二次加工を施し、刃部を作出している。全て不定形石器III類である。676は体部に付着物（アスファルト？）が見受けられる。677・679は片面に大きく自然面が残る。二次加工は677が片面、679は両面から二次加工を施している。678は平面形が撥形を呈する。長辺の一部に細かい二次加工が集中するが、それ以外は粗い。

Uフレイクは39点掲載した（680～704・706～713・715～718）。定型化したトゥール類ではないが、縁辺の一部に微細剥離（打撃の際に縁辺に及ぶ、細かい割れは含まない）を施すフレイクを全てUフレイクとした。そのため、出土点数は非常に多い。平面形、大きさは様々で、また素材となるフレイクも一様ではない（観察表の「分類」には素材となるフレイクの分類を記した）。また自然面が残るUフレイクも多い。いずれのUフレイクも微細剥離が縁辺部の約1/2ほど連続している。これを刃部として整形されていると考え、用途は不定形石器と同じではないかと考える。

Rフレイクは12点掲載した（705・714・719～728）。打面、正面の残るフレイクのうち、正面に二次加工が部分的に集中するものをRフレイクとし、また714や722のように打面が剥離していても、打面位置と正面が分かるもので、かつ上記のような剥離が施されるものも含む。Uフレイクと同様、定型化したトゥール類ではないが、出土点数は多い。二次加工は正面のごく一部にのみ施されるもの（720～722など）や正面縁辺部の1/2ほどに及んでいるが、剥離自体が不揃いで刃部を作出したとは考えられないもの（705・724など）、二次加工の在り方からは剥離を施した理由が全く分からぬもの（714など）がある。いずれも用途は不明。剥片石器の製作途中で失敗し、廃棄されたものの可能性もある。

磨製石斧は8点掲載した（729～736）。出土点数は砾石器のなかでは多くない。また完成品と未成品とでは完成品の方が多いが、完形品はなく、全て何らかを欠損する。

729～733は完成品である。729は基部を欠損する。基部側の側面を再度、剥離した痕跡があり、欠損品を再加工した可能性もある。また刃部は全体に剥離しているが、使用して剥離したと推測する。730も基部が欠損するが、再加工の痕跡はない。体部に整形時の敲打痕が残る。731は長辺が短く、ずんぐりとした平面形で、基部側の約半分が被熱で赤色化している。ほぼ完形ではあるが刃部が剥離しており、使用時によるものと推測する。732は断面形が梢円形を呈し、厚みがある。欠損した基部に、剥離が連続するが、再利用のためかは不明である。また体部に長辺方向の大きな剥離があるが、使用時のものは不明である。刃部にも剥離が認められる。733は平面形が正方形を呈する。基部周辺は整形時の研磨の方向が体部のものと異なっており、欠損した磨製石斧を再加工したことが推測される。刃部はわずかに剥離している。

734～736は未完成品である。734は剥離段階で廃棄されたものと推定する。ただし剥離のない面は研磨されており、完成品の再加工の可能性もある。735・736はまた敲打段階で廃棄されている。735は側面のみ研磨を施している。736は基部が欠損しており、この基部の欠損が原因で廃棄された可能性がある。

礫器は35点掲載した（737～771）。出土点数は砾石器のなかでは比較的多い。また後述する石核状石器も礫器の一部と推定しているが、ここでは主に刃部（あるいは刃部と推定される連続する剥離）

が見受けられる石器を礫器とした。

737～751・753は礫器I類で、素材礫の縁辺部にのみ二次加工を施し、刃部が作出される。737は大きく厚みのある礫を素材とする。738は片面に敲打痕が見受けられ、体部にも使用の痕跡が見受けられる。739・741は細かい二次加工が連続し、刃部が作出される。一方740・742は粗い剥離が連続するのみである。743は連続する剥離面に敲打痕も見受けられるので、剥離は加撃によるもの可能性もある。744は741と類似するが、片面を大きく剥離（欠損？）している。745は各面が剥離する。長辺の両端に剥離が連続する。746は細長の礫を素材とし、長短辺の一端ずつに刃部が作出される。747は厚みのある礫を素材とし、刃部の他、側面には磨痕、また端部周辺には敲打痕が見受けられる。748は両面の広い範囲に磨痕が見受けられ、長辺の一部のみ二次加工を施す。敲磨器類の転用であろうか。749・750は平面形が方形基調で厚みがある。縁辺部の広い範囲に二次加工が施され刃部を作出している。また749は体部に敲打痕が見受けられる。751は楕円形の礫を素材としている。全体の2/3程度を剥離し、加工しているが、刃部と推定する二次加工は端部の一部のみである。753は小型礫で、長辺の片側のみ刃部が付く。

752・754～771はII類で、不定形石器に類似するものも見受けられるが、不定形石器と比べて大きく、厚みもあるものは礫器II類とした。755は一部欠損する。縁辺が大きく剥離し、さらにその一部に刃部が作出される。756は自然面の残る大きなフレイクを素材とし、その縁辺部にやや不連続だが、剥離を施している。757は厚みのあるフレイクを素材とし、長い縁辺のみ刃部が作出される。758・759は自然面が残るフレイクで、粗い剥離が全周し、その一部に刃部と推測する細かい剥離が連続する。760・761も自然面が広く残る大型のフレイクを素材とし、縁辺の広い範囲に細かい二次加工が連続する。762は被然した礫を素材とする。763は片面に大きく自然面が残る大きなフレイクを素材とし、縁辺に剥離が連続する。ただし、剥離の大きさは不規則である。764～768は上述の礫器と比べると小さいが、厚みがある。どれも縁辺に粗い二次加工が全周し、さらに細かい剥離で刃部を作出している。769は片面が膨らみ、もう片面は偏平で、膨らむ面には敲打痕や研磨痕が見受けられる。石棒などの頭部破片の可能性もあるが、その場合、平坦な面は欠損面と考えられるが、二次加工や敲打がその面にまで及んでおり、一部、刃部と推測する細かい二次加工も見受けられるので、礫器とした。770は一部欠損する。厚みがあり、側面に自然面が残る。刃部と推測する面も厚みがあり、敲打による剥離の可能性も考えられる。771も厚みがある。全面に粗い剥離が見受けられ、端部の一部にのみ刃部が作出されている。また体部の片面に敲打痕が見受けられる。

敲磨器類は54点掲載した（772～788・791～827）。出土点数は礫石器で最も多い。また第IV章に示した分類別に出土点数をみていくと、敲磨器類I～III類に偏る傾向がある。

772～783は敲磨器類I類である。772～781は全面に磨痕が見受けられる。平面形は円～楕円形（774～776・778・780・781）が多いが、不整な楕円形（772・773・777）や方形（779）などがある。782・783は平坦な両面にのみ磨痕が認められる。平面形は、782が不整な楕円形、783は楕円形である。

784～788は敲磨器類II類である。784・785は偏平な楕円形で、平坦な両面に敲打痕が見受けられ、784は側面の一部にも敲打痕が見受けられる。786は短い棒状で、ほぼ全面に敲打痕が見受けられる。787・788は方形に近い塊状で、端部の一部に敲打痕が見受けられる。

791～799・801～810は敲磨器類IV類である。791は厚みのある楕円形の礫を素材とし、全面に磨痕が及び、また片面のみ敲打痕が見受けられる。792・793は偏平な楕円形の礫を素材とし、全面に磨痕が及び、端部1箇所にのみ敲打痕が見受けられる。794は球状の礫を素材とし、全面に磨痕が及び、片側のみ敲打痕が広がる。795は厚みのある不整な楕円形の礫で全面に磨痕、また側面の一部にのみ

敲打痕が見受けられ、打撃のため、敲打痕の周辺は剥離している。798も同様である。796は平坦な面のみ磨痕が見受けられ、端部に敲打痕が見受けられる。797は楕円形の礫を素材とし、平坦面に磨痕が、また側面には全周と平坦面の一部に敲打痕が見受けられる。また打撃のため、側面は変形している。799・801～803は全面に磨痕が及び、側面や端部に小さい敲打痕が見受けられる。804は比較的大型で立方体を呈する。片面は剥離している。もう片面の広い範囲に磨痕と敲打痕が見受けられる。805・806は小型で偏平な礫を素材とし、全面に磨痕、側面に敲打痕が見受けられる。807は片側1/3が欠損するが、平面形は楕円形と推測する。側面と平坦な両面に敲打痕が見受けられる。808は細い棒状の礫を素材とする。片側には磨痕が、もう片側は敲打痕が見受けられる。809も細い棒状で、両端が欠損している。側面の一部のみ敲打痕が見受けられる。810は偏平な細長い楕円形の礫を素材とし、片側の端部にのみ敲打痕が見受けられる。

811・812は敲磨器類V類である。どちらも比較的大きく、厚みがある楕円形の礫を素材とする。811は平坦な片面に磨痕、もう片面に凹痕が見受けられ、また側面には磨痕が及ぶ。812は平坦な両面と側面の一部に磨痕が見られ、平坦面の片面中央にわずかだが凹痕が1箇所見受けられる。

813～816は敲磨器類VI類である。813は菱形の礫を素材とし、平坦な片面に敲打痕と凹痕、もう片面には敲打痕のみが見受けられる。814・815は楕円形で、側面を中心に敲打痕が広がり、また平坦な片面に大きな凹痕が見受けられる。816は厚みのある楕円形で、平坦な両面に凹痕と敲打痕が見受けられる。

800・817～819は敲磨器類VII類である。817は厚みのある歪な楕円形の礫を素材とし、広い面に磨痕が広がり、凹痕が1箇所見受けられる。818も厚みのある歪な楕円形の礫を素材とし、平坦な片面に磨痕、敲打痕が広がり、また細長い凹痕が4箇所見受けられる。また端部が剥離しているが、打撃によるもの可能性がある。819は偏平な円形の礫を素材とし、全面に磨痕が及び、平坦な片面中央に凹痕が、もう片面の中央に敲打痕が見受けられる。

821～827は敲磨器類VIII類とした。いずれも磨痕が及ぶ細長い平坦面がある。821は平坦面がやや幅広で、端部などに敲打痕も見受けられる。822は広い面のうち片面に磨痕と凹痕が、また端部に敲打痕が見受けられる。823は磨痕は細長い平坦面にのみ見受けられる。また広い面には敲打痕が残る。824～826は平坦面とその両側の広い面とにそれぞれ磨痕が見受けられる。827は細長い平坦面の磨痕の範囲は狭く、また敲打痕や打撃による剥離が連続する。特殊磨石に近いが、磨痕の範囲が狭いので、敲磨器類VII類の範疇とした。

特殊磨石は1点掲載した(828)。特殊磨石の出土点数は非常に少ない。828は偏平な楕円礫を素材とし、長辺の側面片側に磨面が伸びる。ただしもう片面には敲打痕が広がり、また広い面にも敲打痕や凹痕が見受けられ、特殊磨石としては特異な方である。

石皿は7点掲載した(829～835)。出土点数は多くないが、大型のものが目立つ。またほとんどが石皿I類で、石皿II類は少ない。

829～832・835は石皿I類である。829は円形の大型礫を素材とし、縁辺に加工は施されていない。偏平だがやや厚みがある。両面に磨面がある。830は、楕円形の大型礫を素材とし、端部が欠損する。縁辺に加工は施されていないが、長辺側の一端が剥離しており、故意によるものかもしれない。片面のみ磨面が広がる。831は側面全体が欠損する、片面のみ磨面がある。832は1/4のみ残存するが、平面形は円形と推測する。片面のみ磨面がある。833も大型の礫を素材とするが、側面が欠損しており、平面形は不明である。両面とも平坦であり、そのうち片面のみ磨面が広がり、また、研溝が3条見受けられる。835は長方形を呈する偏平な礫を素材とし、両面とも磨面で、片面には敲打痕と凹痕が見

受けられる。また端部が集中的に剥離している。

834は石皿II類で、側面が全面欠損しているため、平面形は不明であるが、楕円形の脚が1箇所見受けられる。この脚の大きさからみて、非常に大きい石皿と推測する。上面に磨面が見受けられ、また脚のある面には凹痕や研溝と推測するものが数条見受けられるので、欠損品を二次的に利用している可能性がある。

台石は7点掲載した(789・790・836～840)。789は角張った凝灰質砂岩で、片面の中央に大きな円形の凹痕がある。もう片面は平坦ではなく、非常に不安定である。790は大きな球体に近い礫を素材とし、片面の中央にのみ、磨痕が見受けられた。836は楕円形を呈する。平坦な両面に磨面が広がりまた片面には凹痕4箇所と敲打痕が見受けられる。837は楕円形の礫を素材とする。敲磨器類にも類似するが、敲磨器類と比べると、かなり大型であり、台石とした。平坦な両面に磨面が広がる。838はやや角ばった不整な大型礫を素材とする。加工は施していないが両面とも平坦で、片面の中央に大きな凹痕が1箇所見受けられる。また小孔が多数見受けられるが、これは自然によるもので、人為的ではない。

839・840は台石II類としたもので、棒状を呈する礫を素材とする。839は平坦な面のうち2面に敲打痕が見受けられる。840は断面が三角形を呈し、各面に磨面が広がる。また細い溝が6条見受けられ、研溝や研磨痕と推測する。

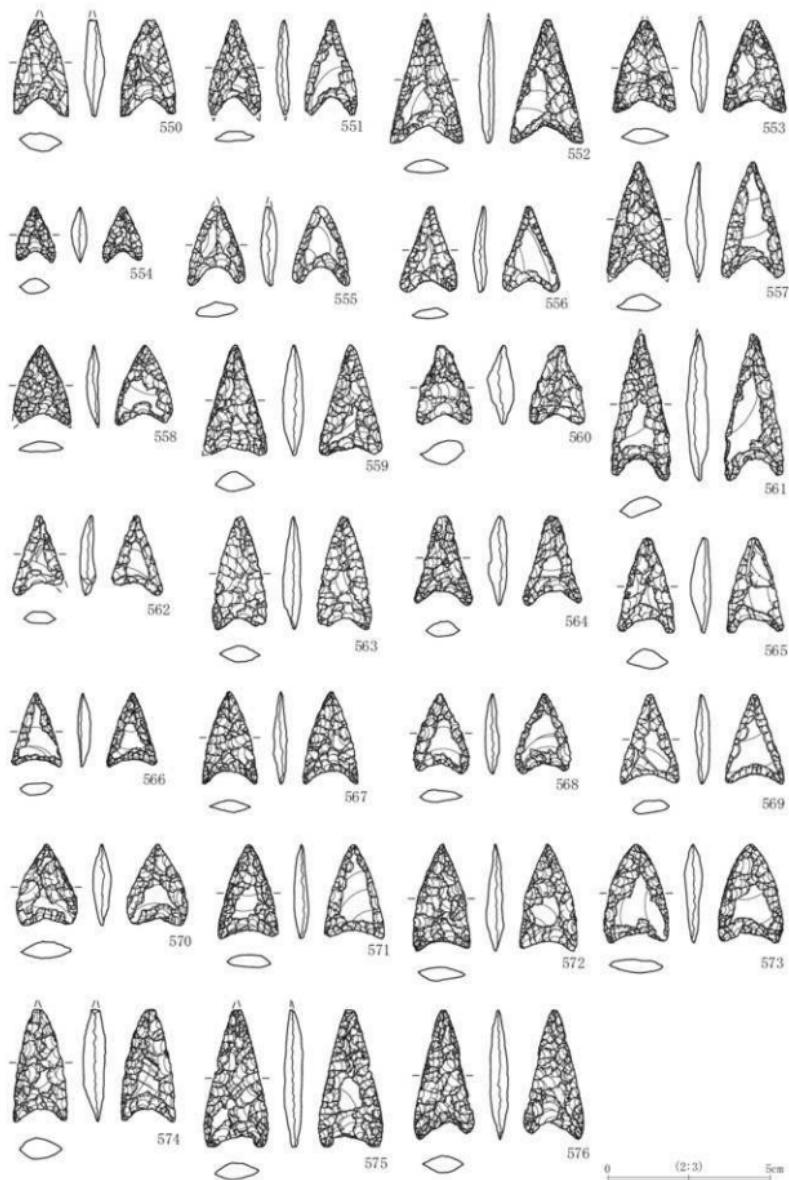
砥石は4点掲載した(841～844)。出土点数は少ない。841は不整形な礫を素材とし、平坦な両面に研磨痕と敲打痕が見受けられる。842は不整な立方体を呈した礫を素材とする。平坦な1面のみ研磨痕が見受けられ、また他の面には敲打痕が広がる。843は楕円形を呈し、両面が研磨によって平坦に変形している(両面とも研磨の方向が見受けられないでの、実測図では磨面と同じトーンで示した)。844は小片だが、片面に研磨痕が見受けられる。手持ち砥石であろうか。

石核は5点掲載した(845～849)。後述の通り、形態上、石核に類似する石器が多量に出土したが、剥離方向などから石核と判断できた石器は少ない。845は角ばった形態で、広い面(実測図上面)を作業面とし、側面から隔離作業を行っている。846は長方形を呈し、自然面が残る。その自然面とは反対の面(実測図上面)を作業面とし、側面で剥離作業を行っている。また端部にも剥離作業を行った痕跡がある。847は小型で、全面に剥離作業の痕跡がある。848は自然面が広く残る。その自然面を作業面とし、その側面のうち1面で剥離作業を集中的に行っている。849も全体が剥離している。各面で剥離の方向が異なっており、回転しながら剥離作業を行ったものと推測する。

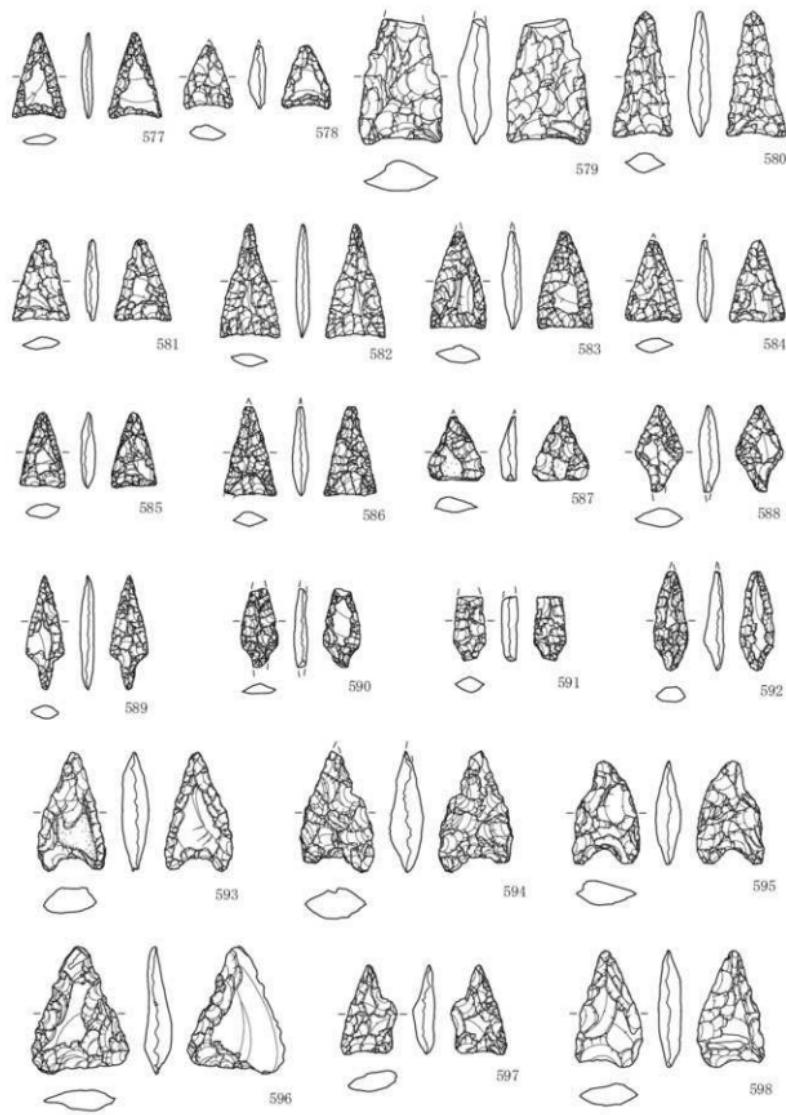
石核状石器は50点掲載した(850～899)。大きさは拳大で、ほぼ全面が剥離している。その特徴から石核かと考えたが、施された剥離がフレイクを排出するために剥離作業を行った痕跡とは考えられず、また階段状剥離が多く見受けられたり、敲打痕を伴うものがあるなど、打撃を目的とした礫器の一種ではないかと推測する。ただし、形態の特徴は前述の礫器とは全く異なるため、便宜的に「石核状石器」とした。

850～855は自然面が残り、鋭利な稜線上に階段状剥離や剥離が集中する範囲が見受けられる。また851は剥離によって端部の片側を円錐状に整形している。854は自然面に広く敲打痕が見受けられ、打撃用に使用されたことが窺える。855は自然面から集中的に剥離を行っているが、849のような石核の可能性もある。

フレイクは27点掲載した(900～926)。トゥール類ではないが、出土した石器の中で、出土点数が最も多い。分類については觀察表に記したが、大きくみて、打面に自然面の残るフレイク(900～906)、1回剥離した面を打面とするフレイク(907～912・914・917)、複数回剥離した面を打面とするフレイク(913・915・919・920)、また打面が不明なフレイク(918・921・922～926)がある。

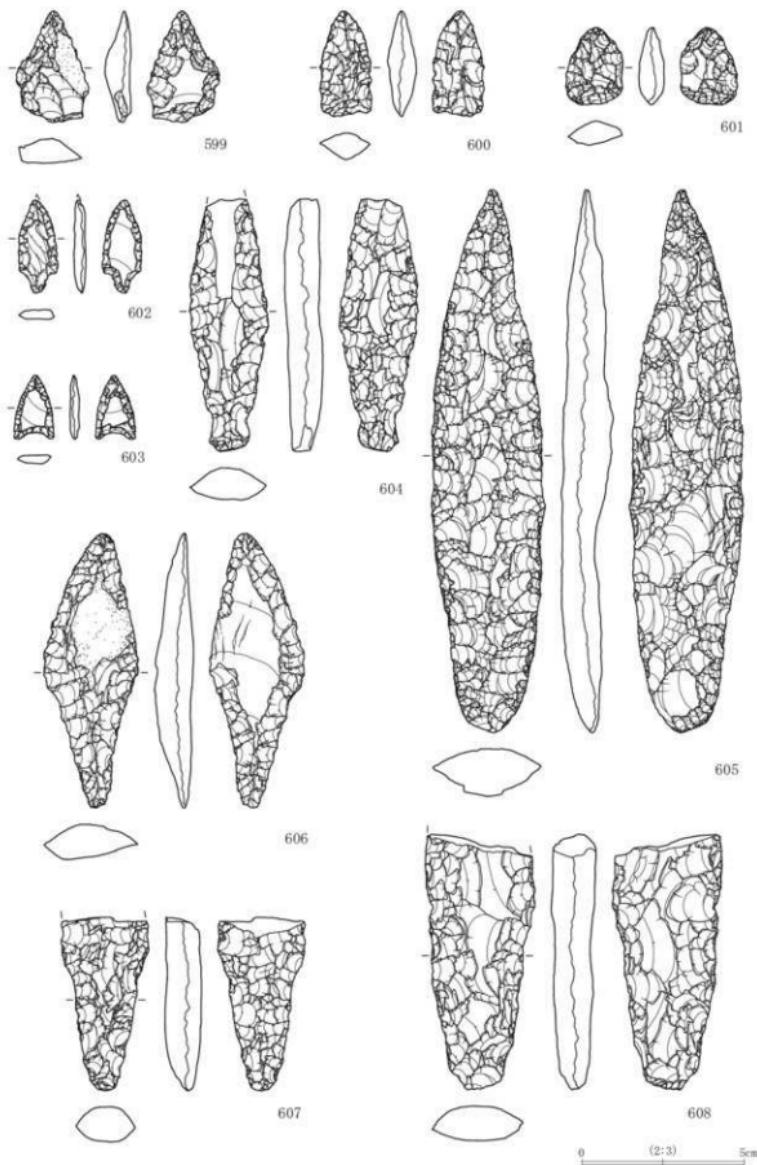


第88図 遺構外出土遺物19

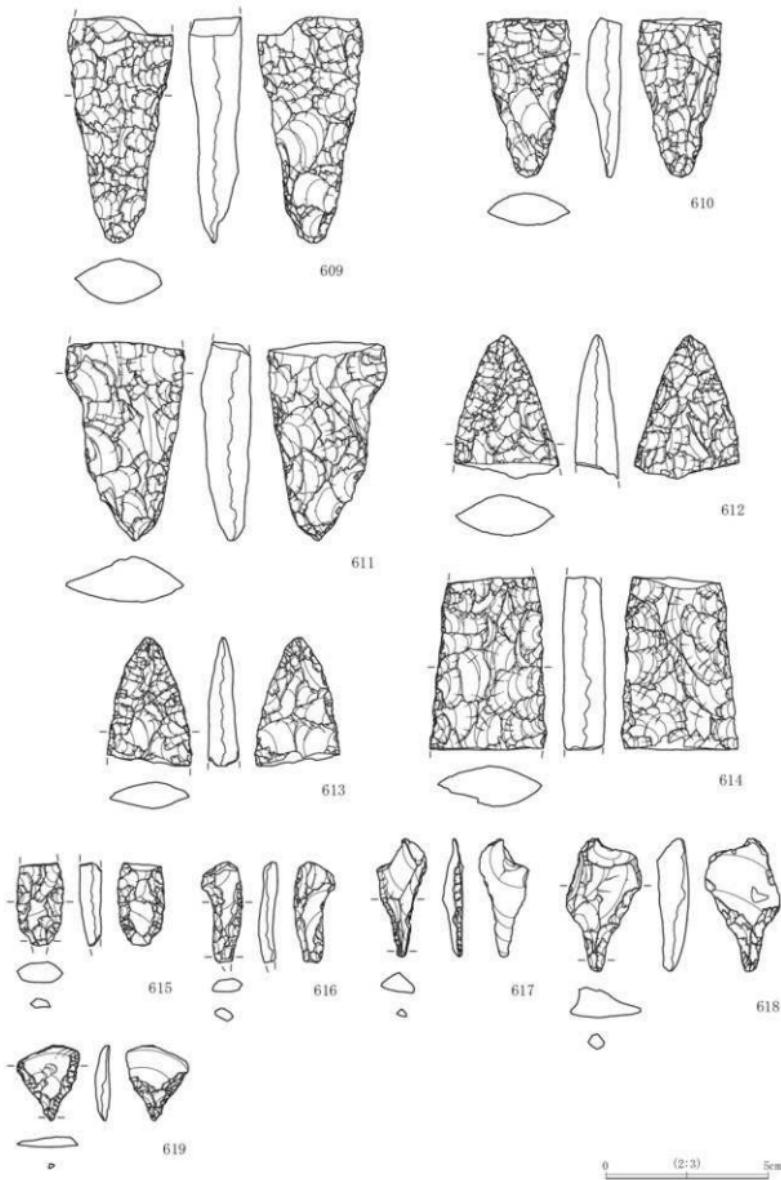


0 (2:3) 5cm

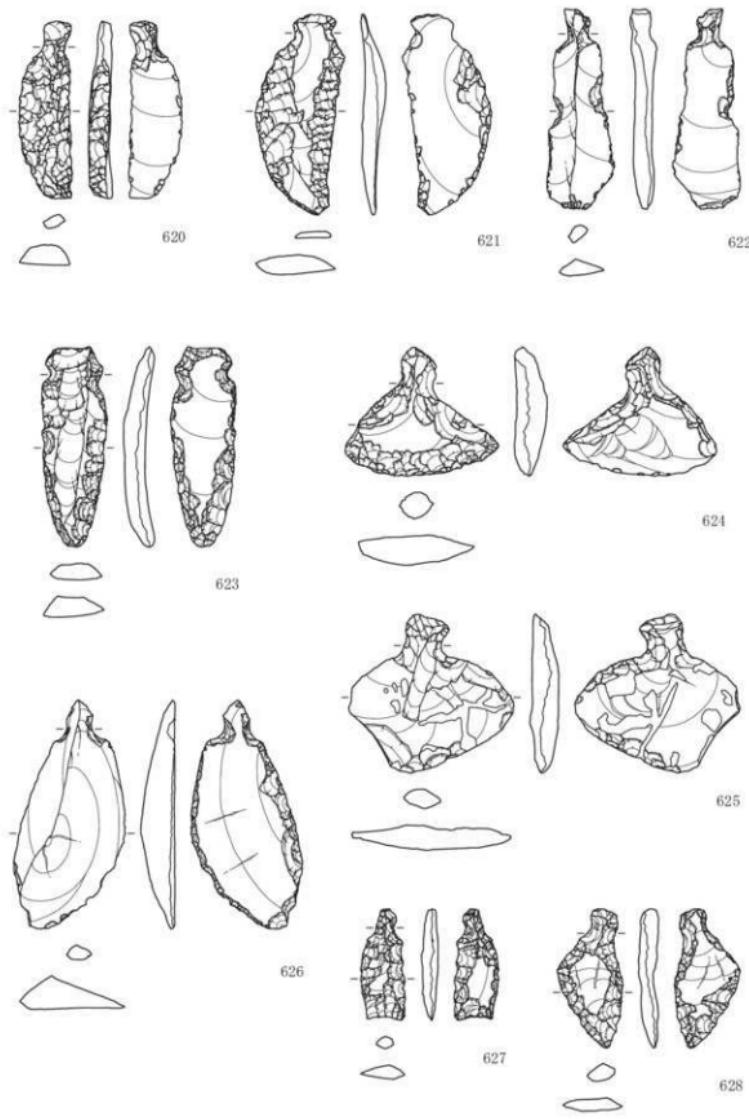
第89図 遺構外出土遺物20



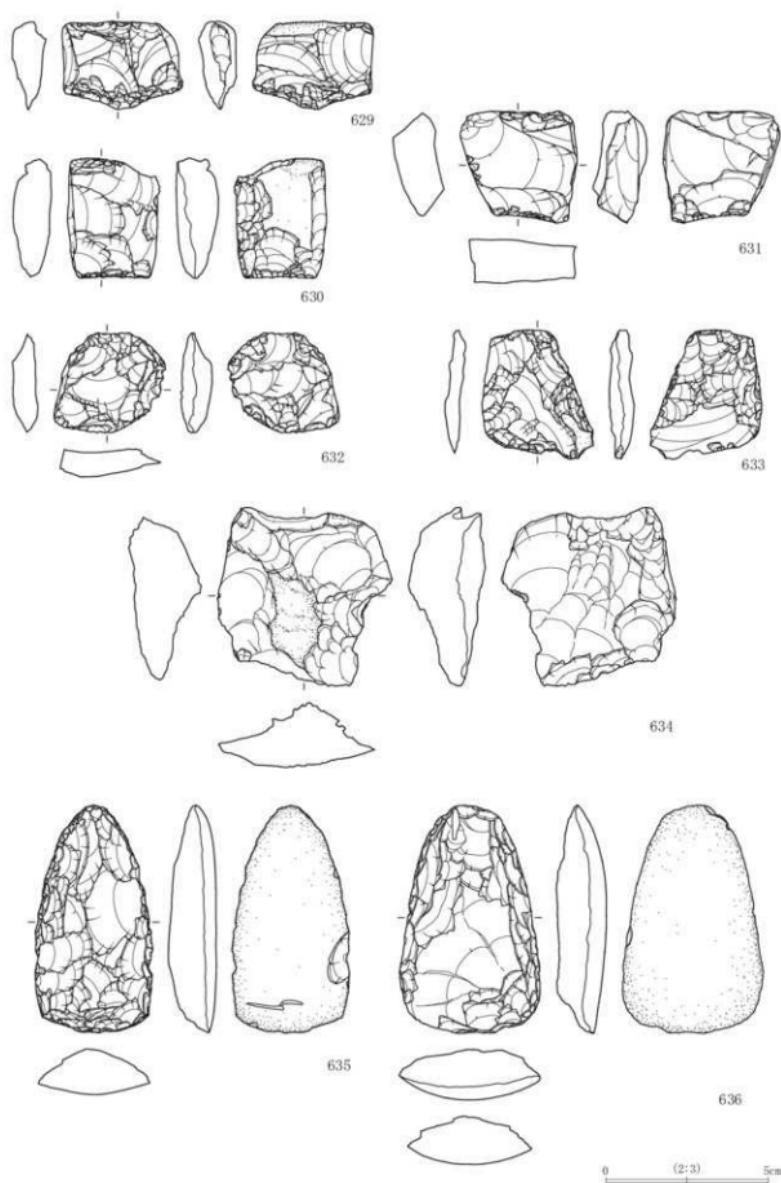
第90図 遺構外出土遺物21



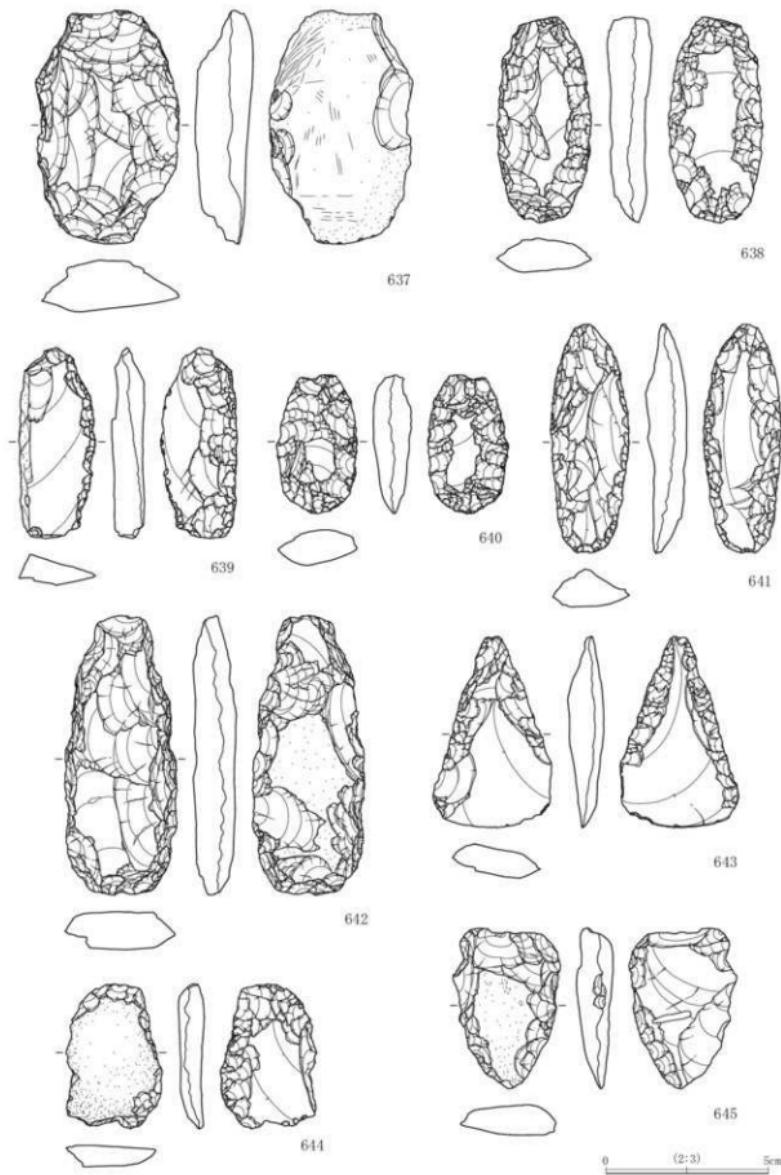
第91図 遺構外出土遺物22



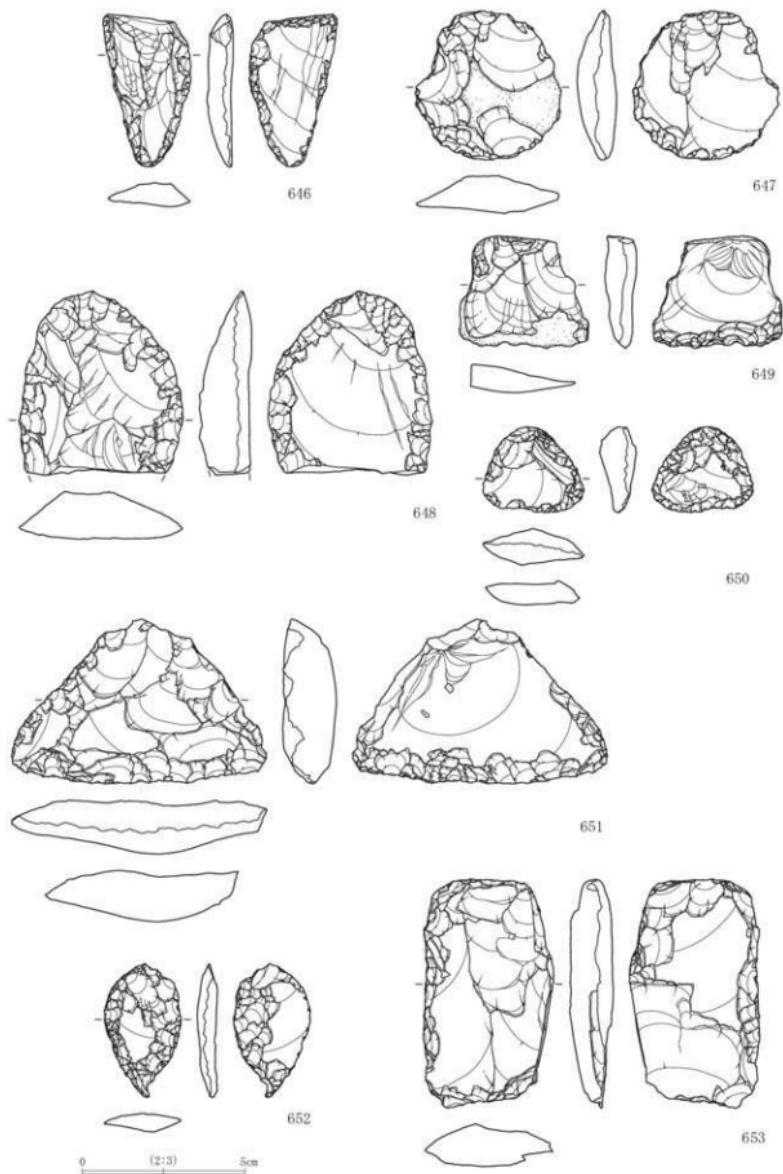
第92図 遺構外出土遺物23



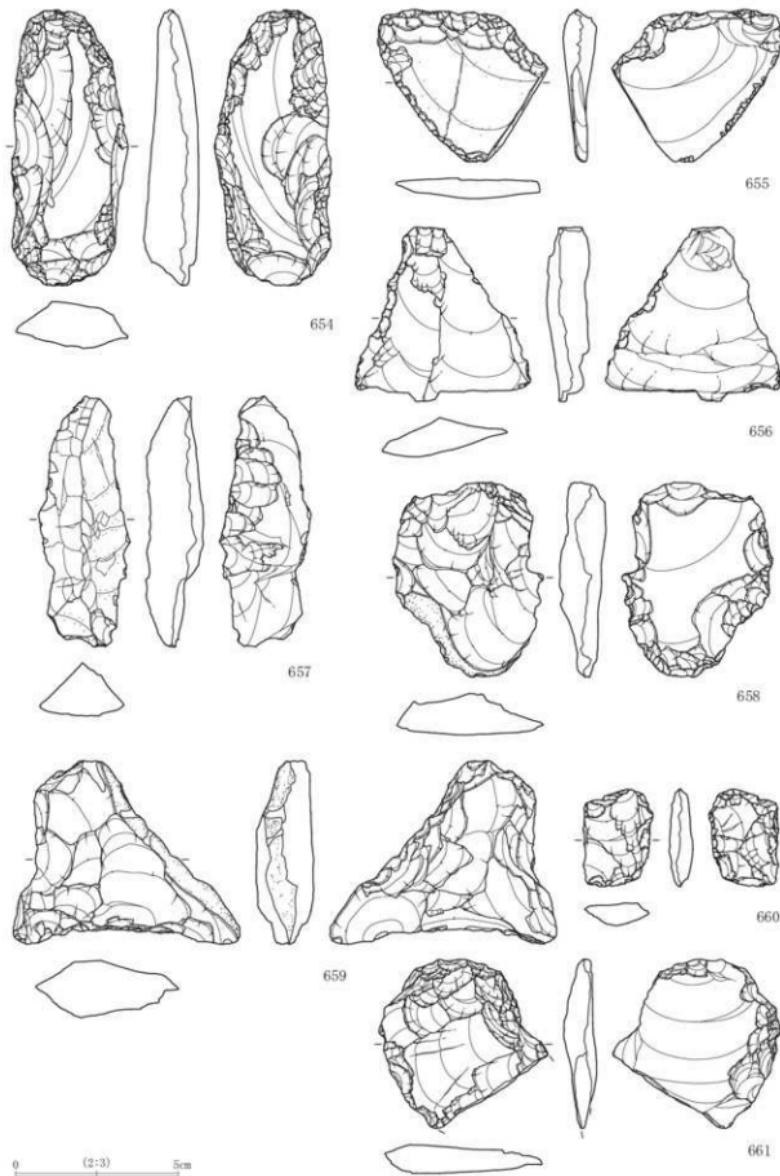
第93図 遺構外出土遺物24



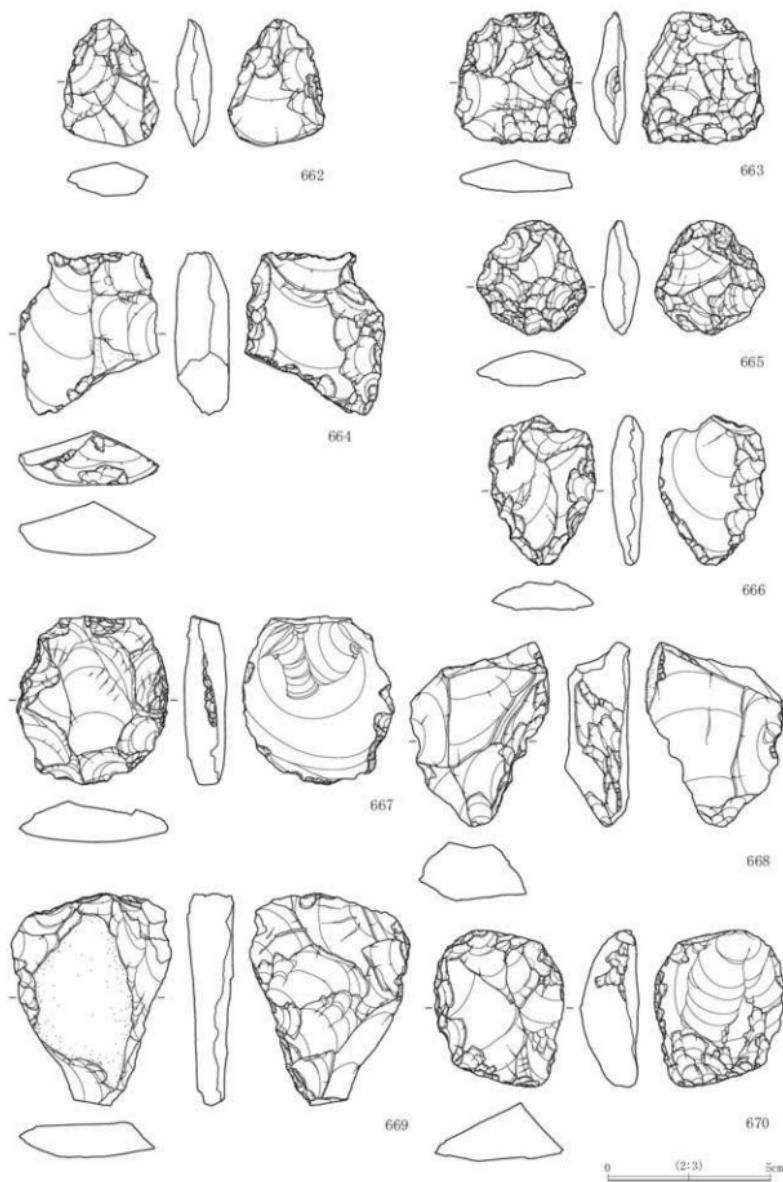
第94図 遺構外出土遺物25



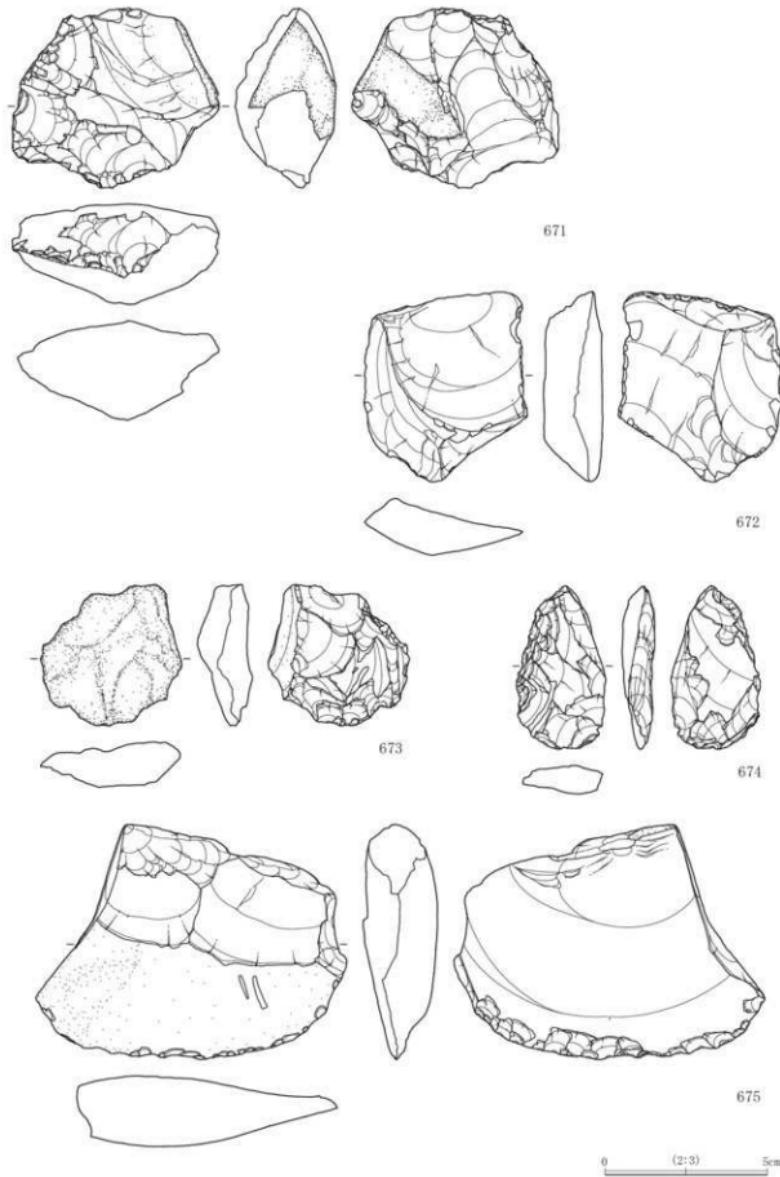
第95図 遺構外出土遺物26



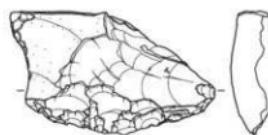
第96図 遺構外出土遺物27



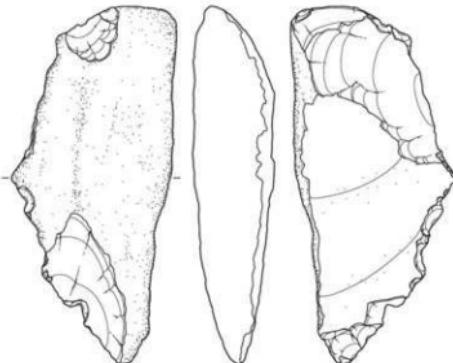
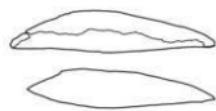
第97図 遺構外出土遺物28



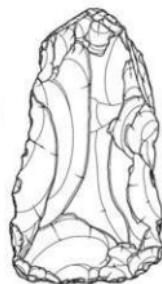
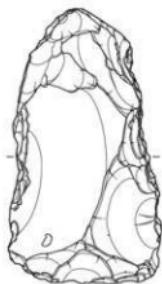
第98図 遺構外出土遺物29



676



677



678

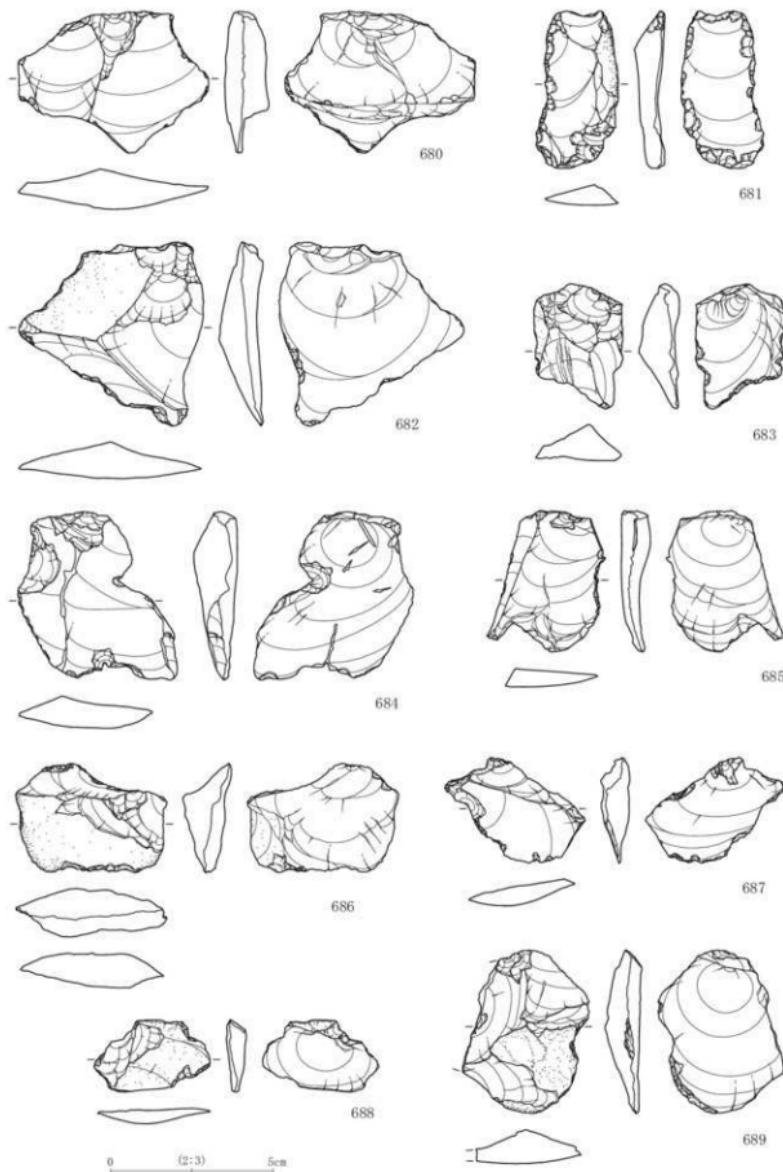


679

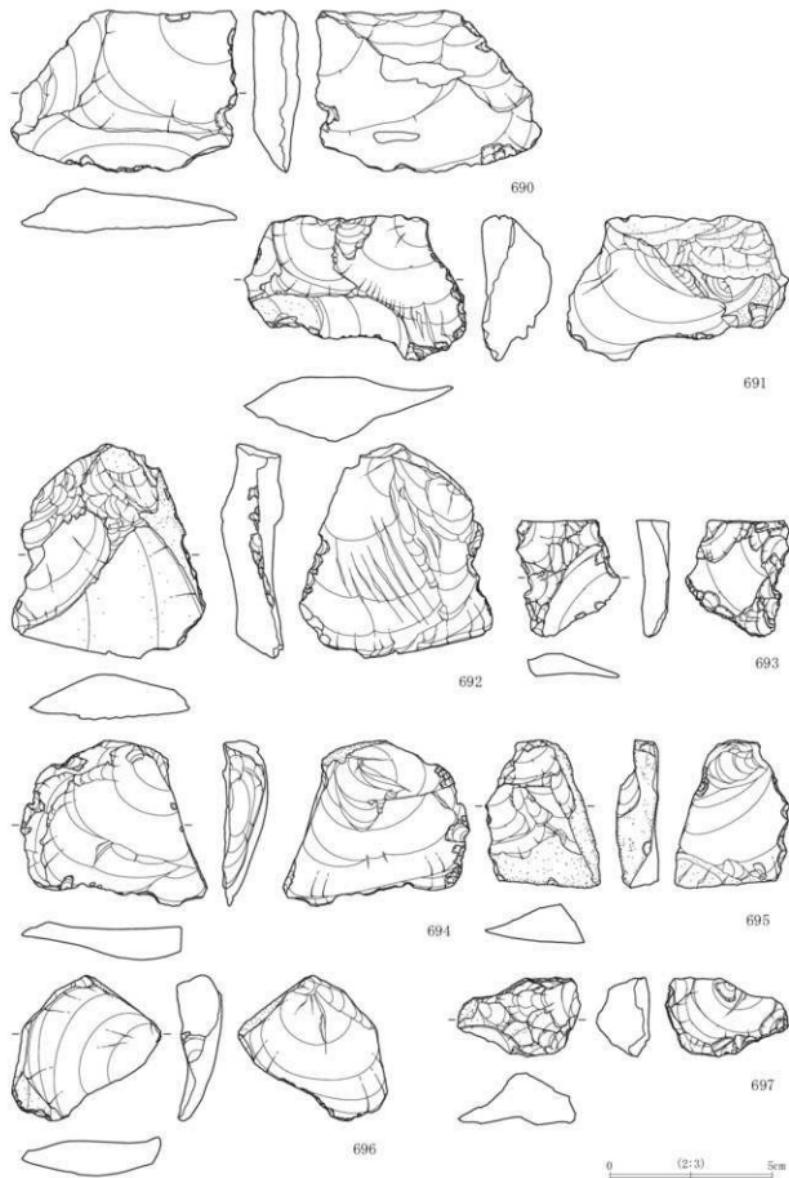


0 (2:3) 5cm

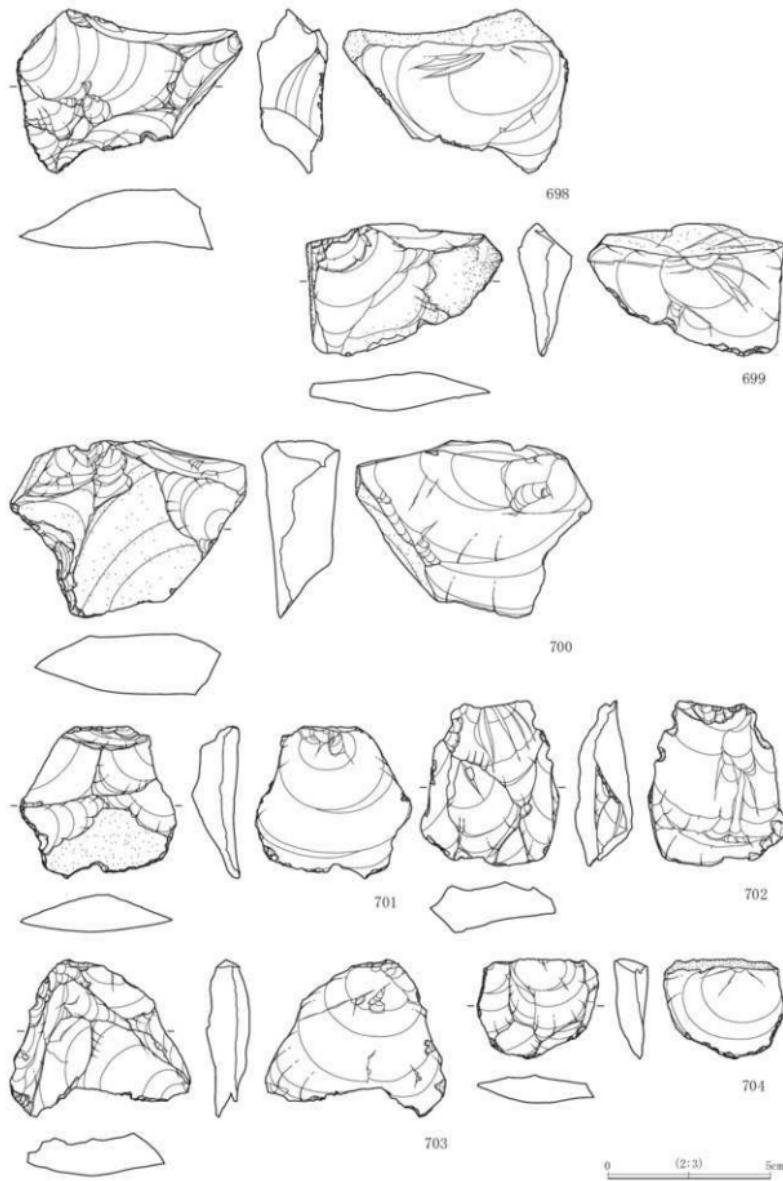
第99図 遺構外出土遺物30



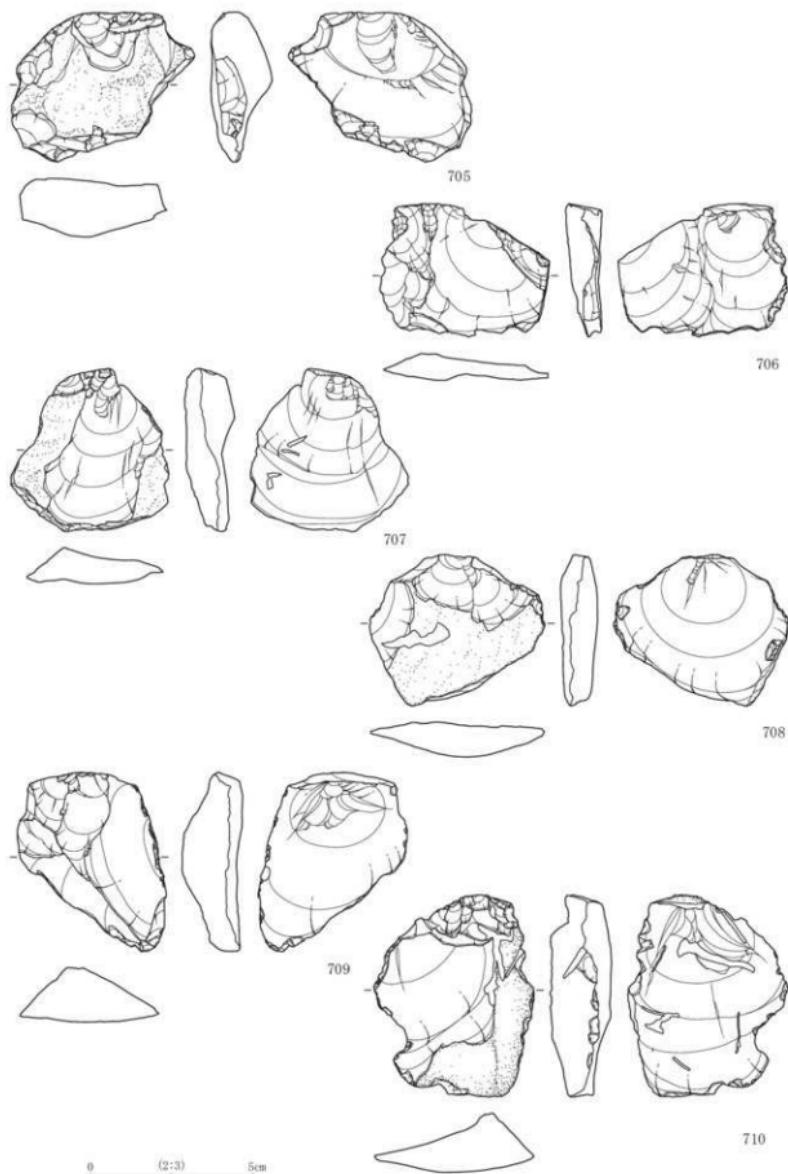
第100図 遺構外出土遺物31



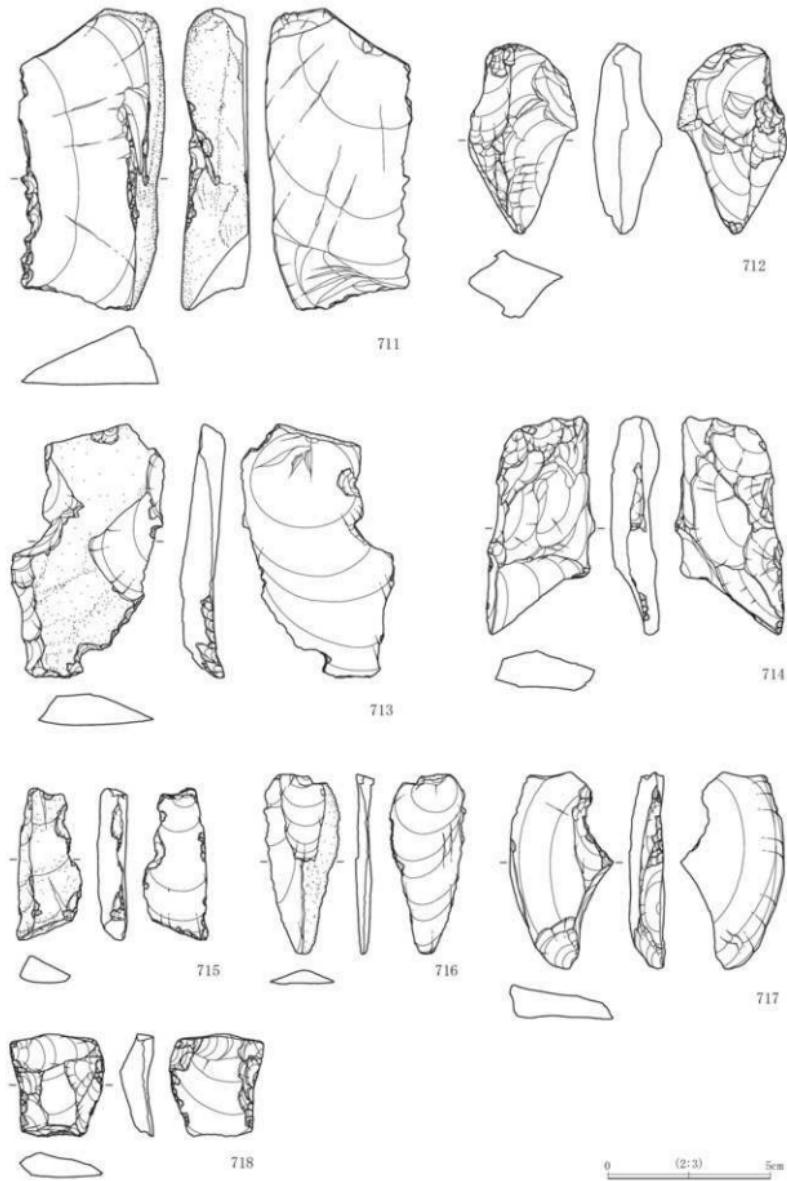
第101図 遺構外出土遺物32



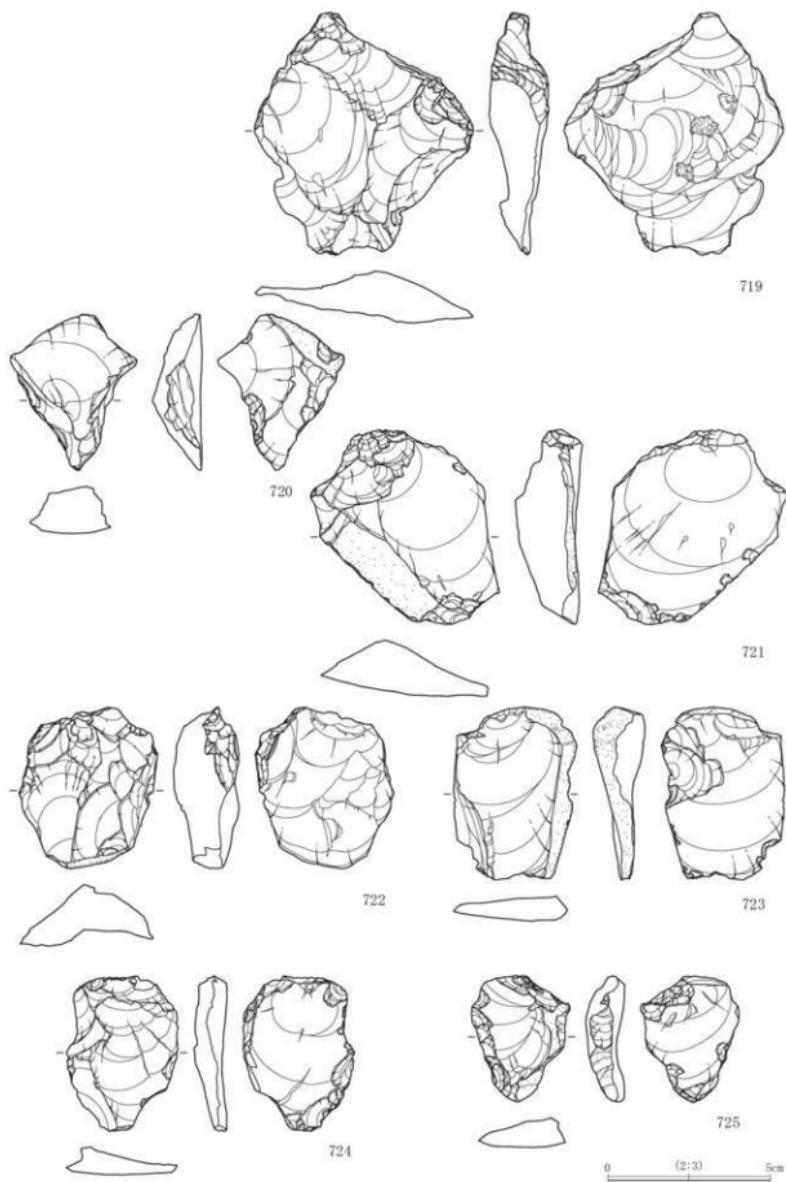
第102図 遺構外出土遺物33



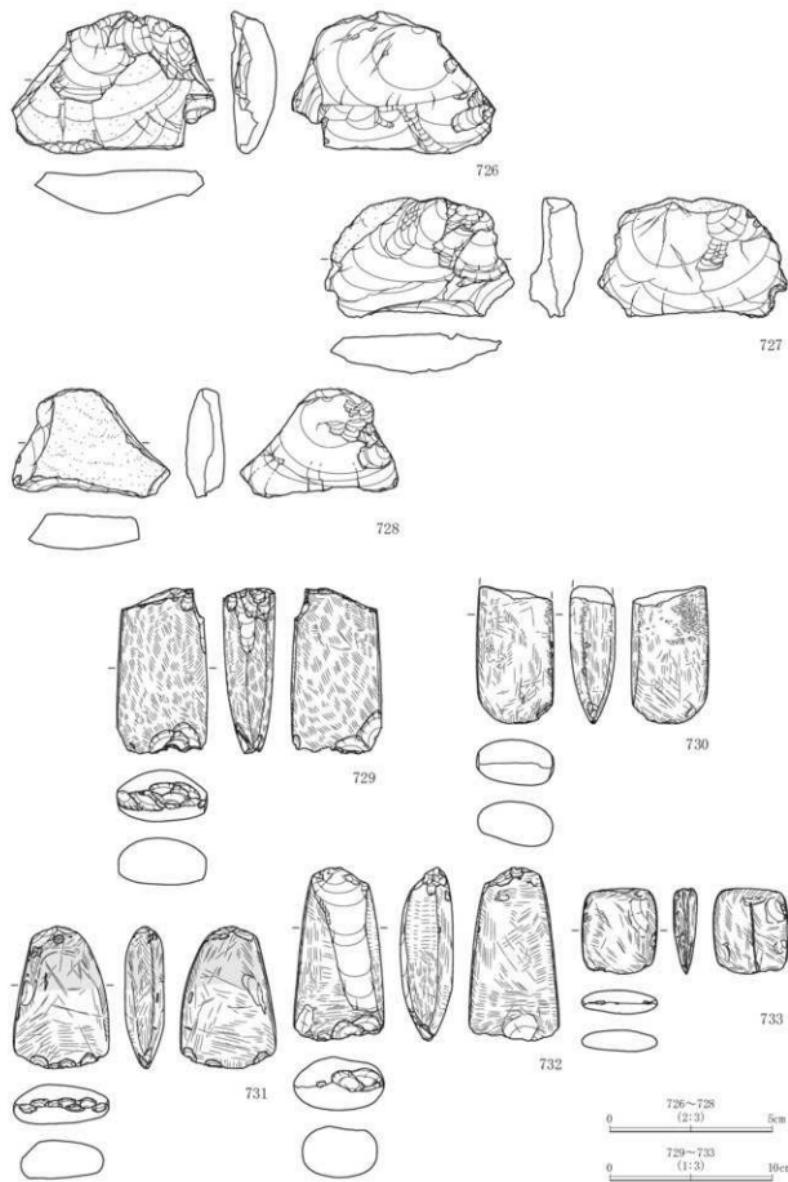
第103図 遺構外出土遺物34



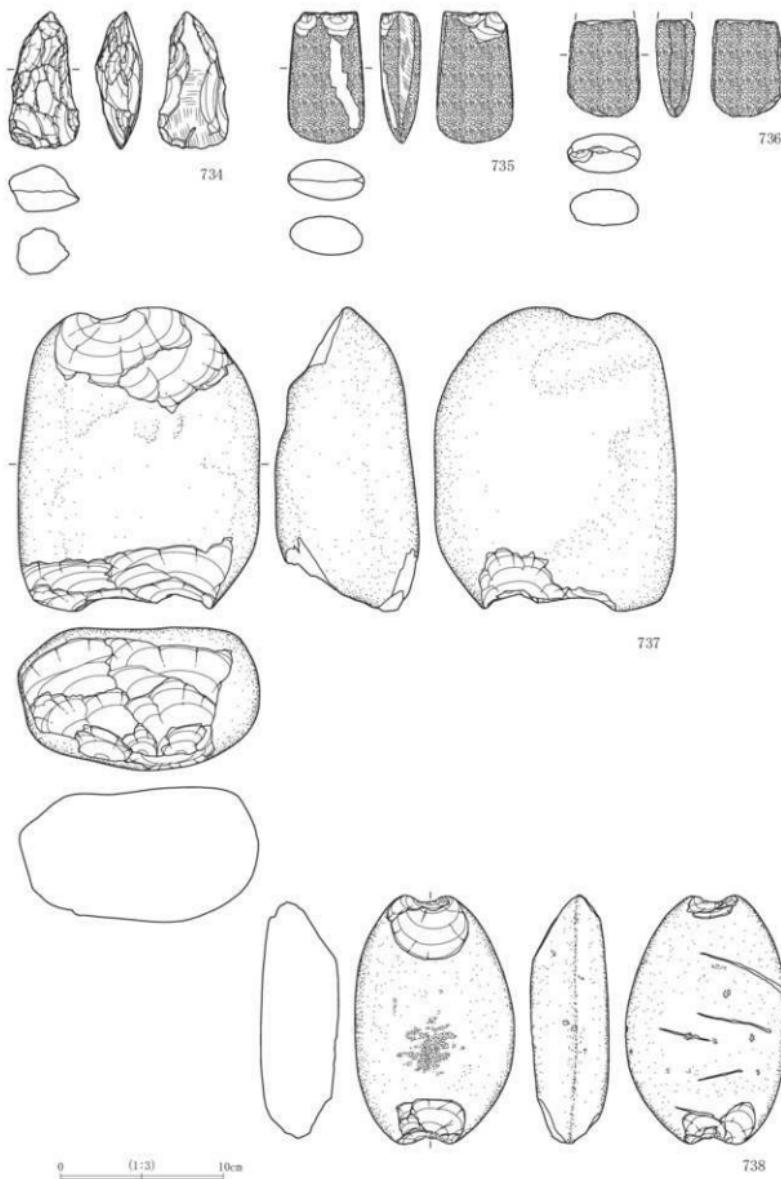
第104図 遺構外出土遺物35



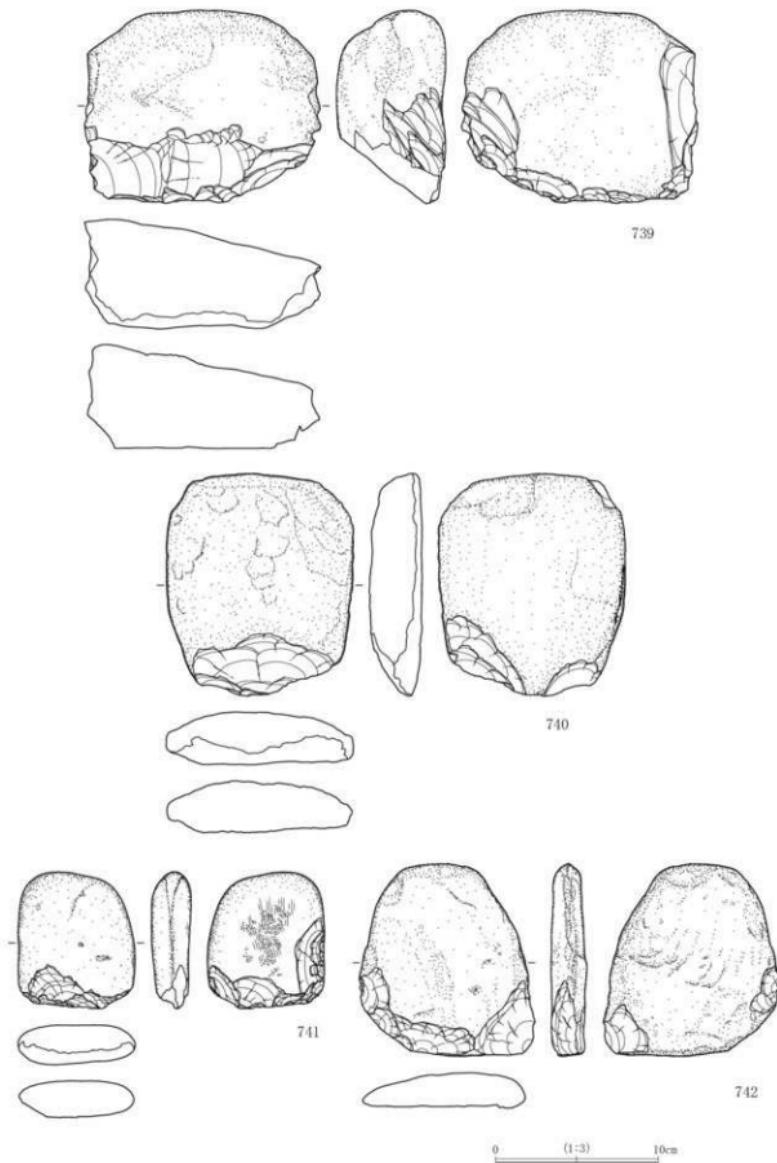
第105図 遺構外出土遺物36



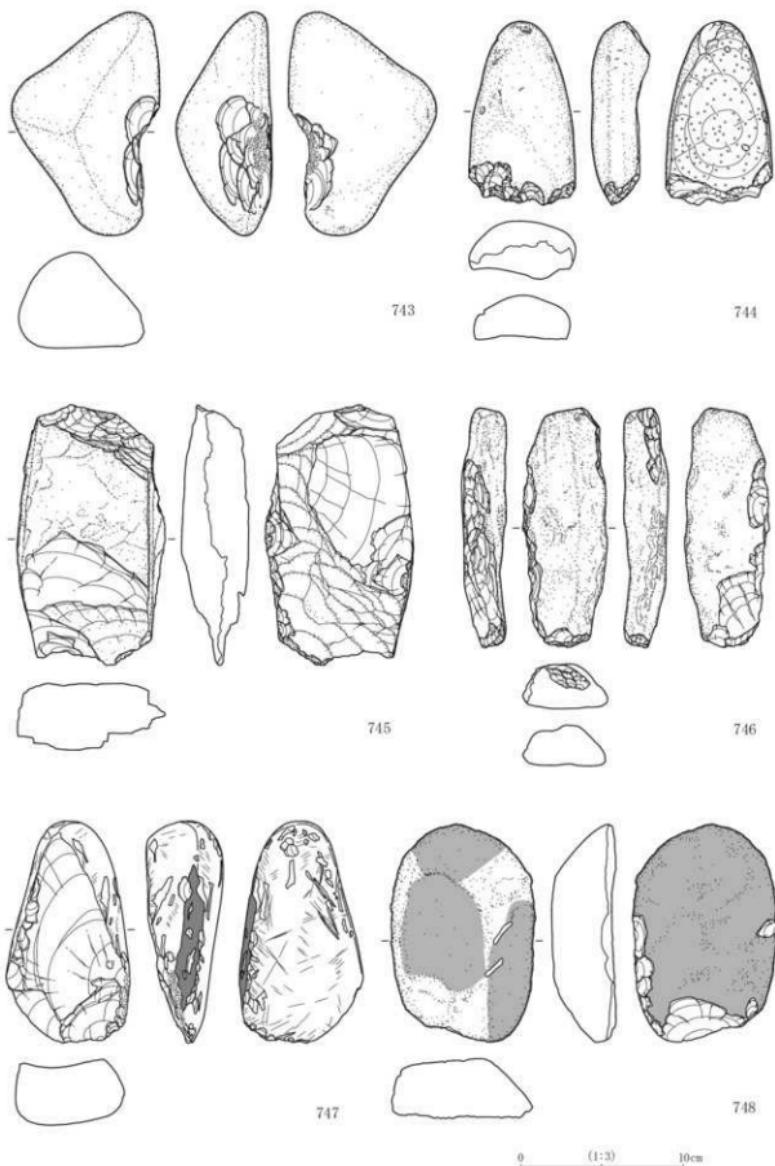
第106図 遺構外出土遺物37



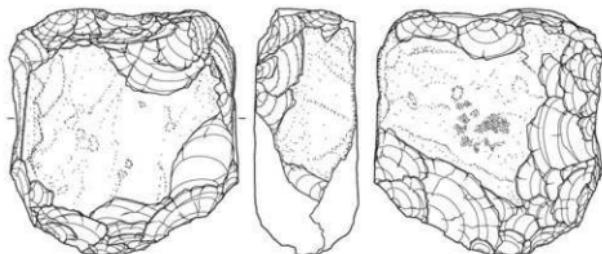
第107図 遺構外出土遺物38



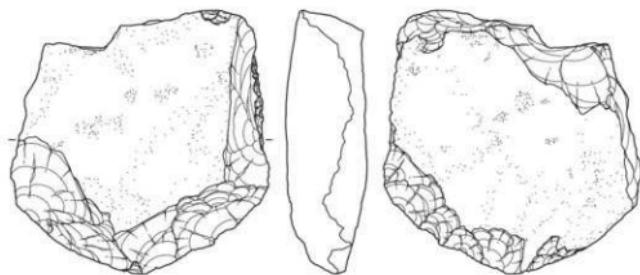
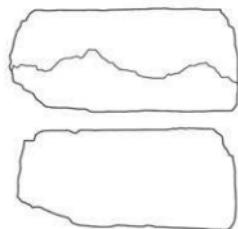
第108図 遺構外出土遺物39



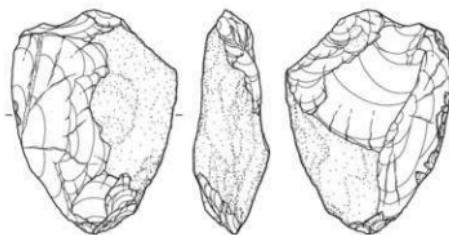
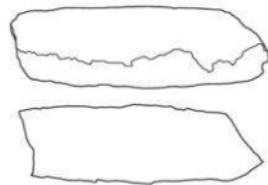
第109図 遺構外出土遺物40



749



750

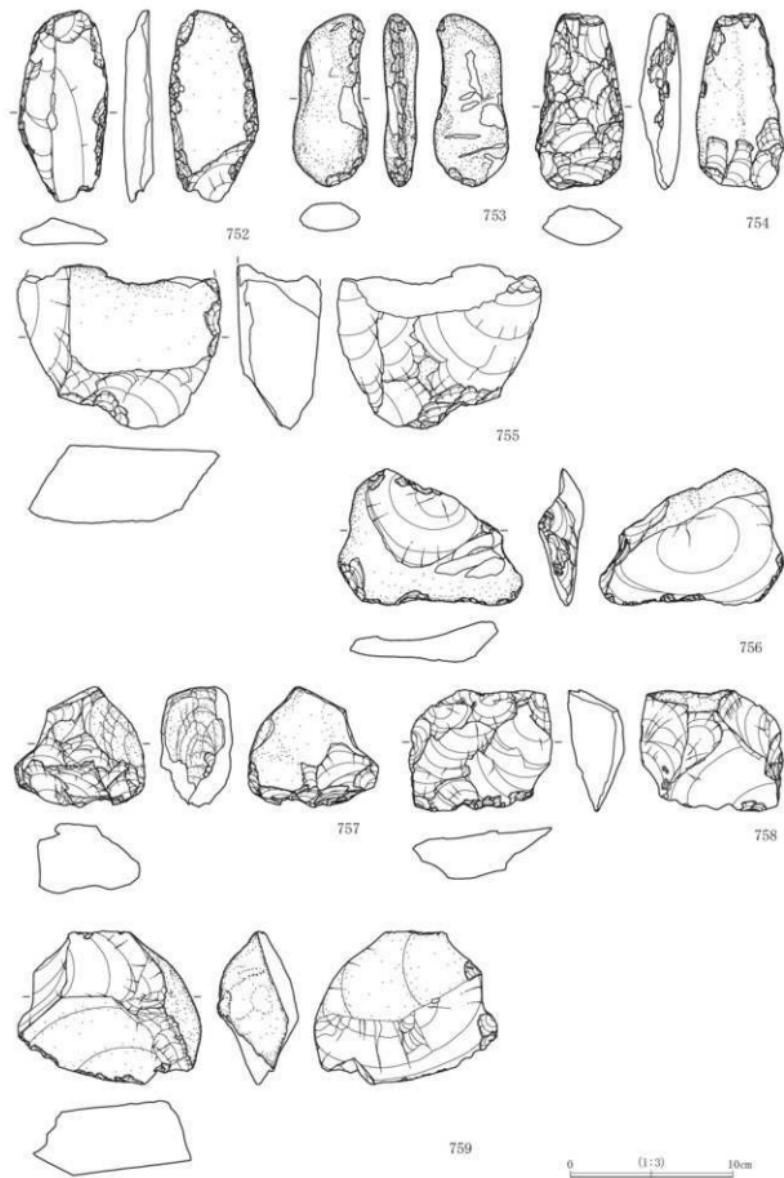


751

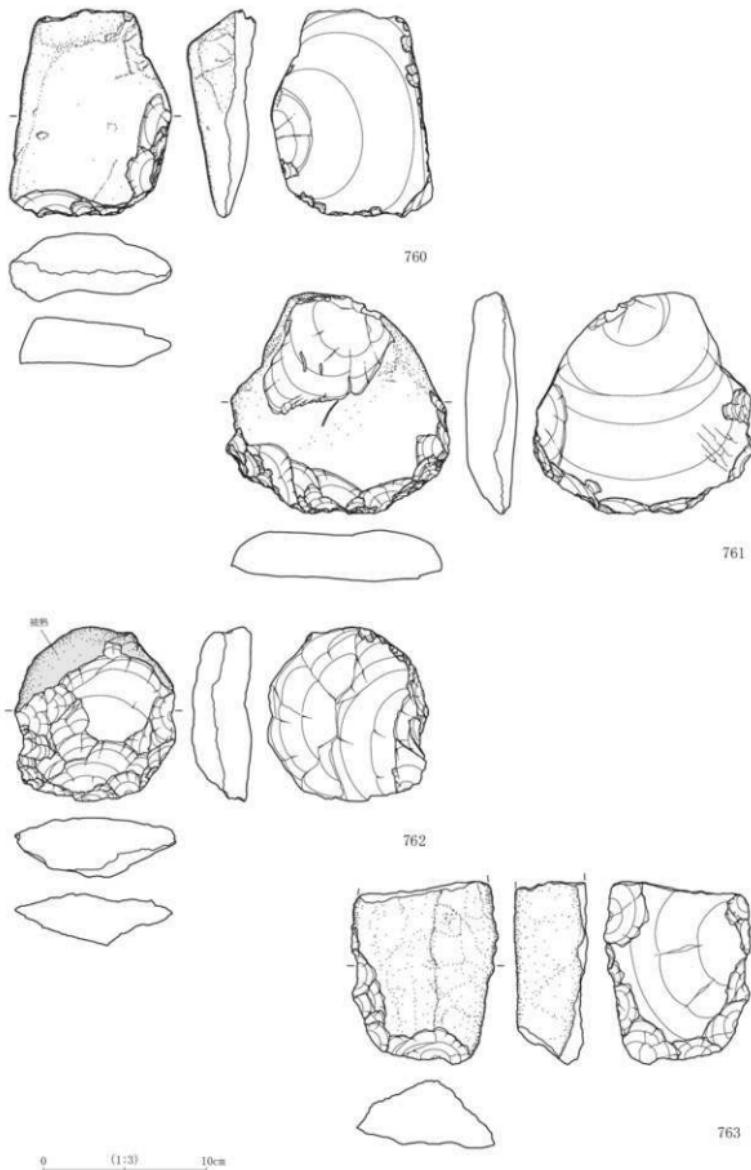


0 (1:3) 10cm

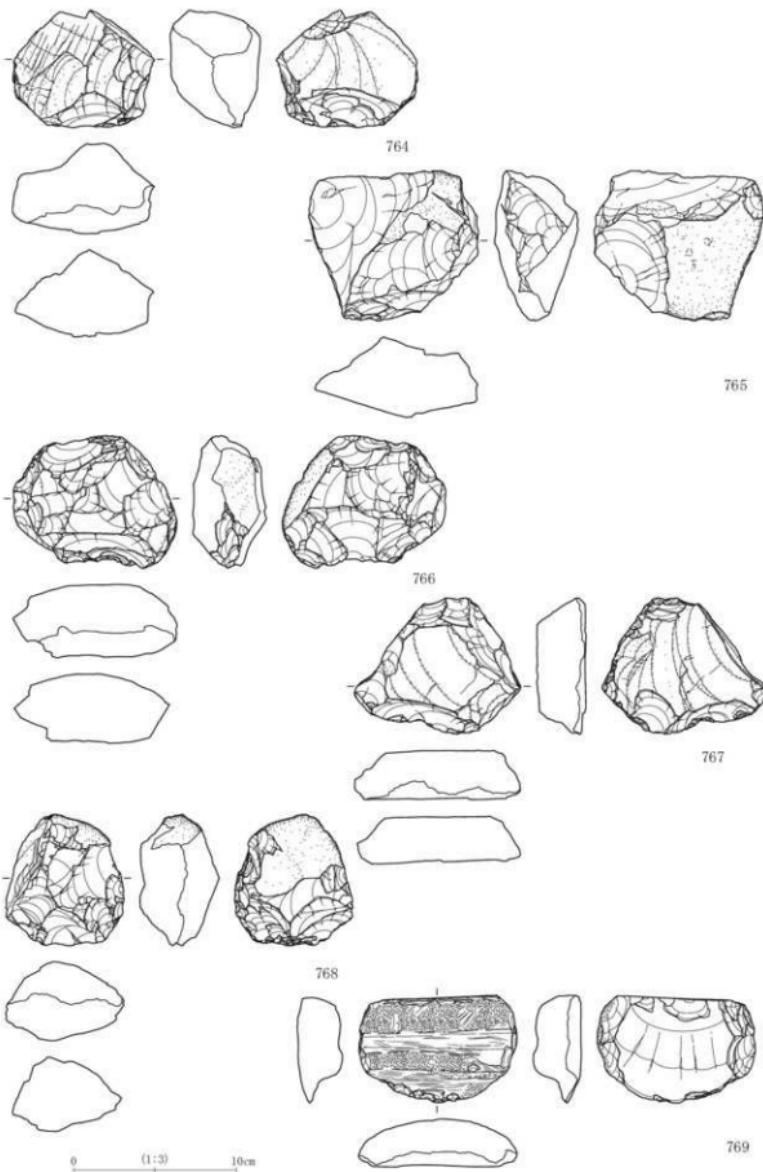
第110図 遺構外出土遺物41



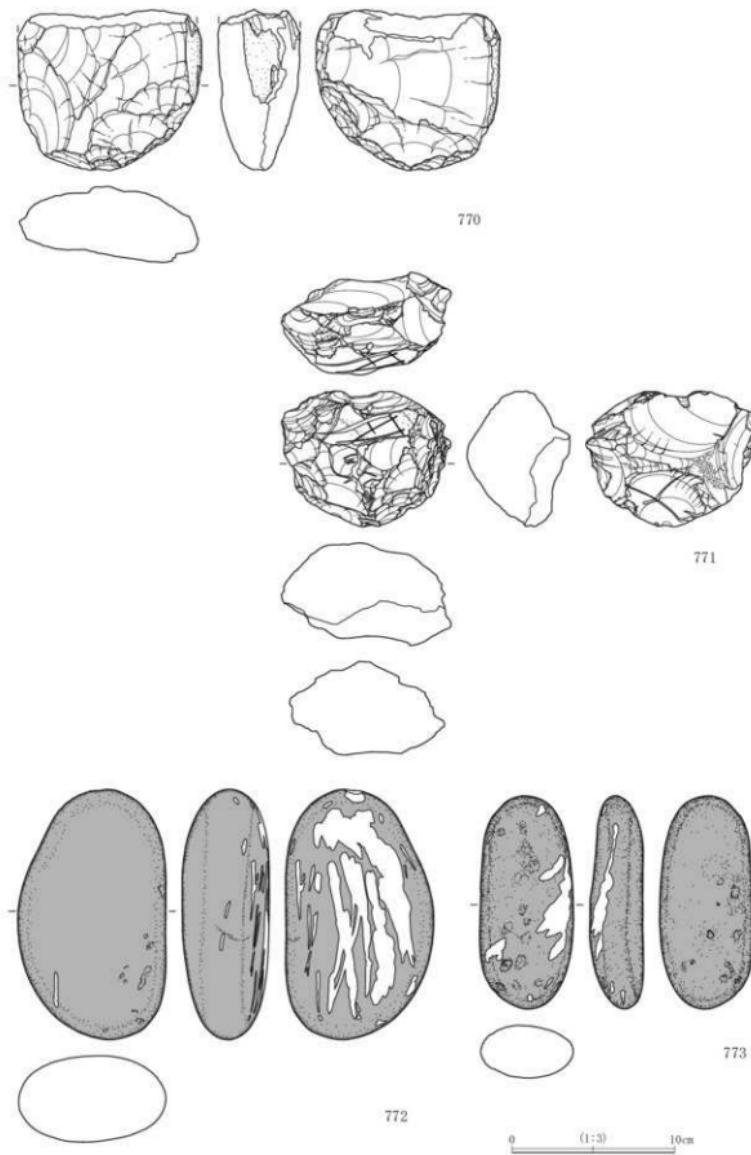
第111図 遺構外出土遺物42



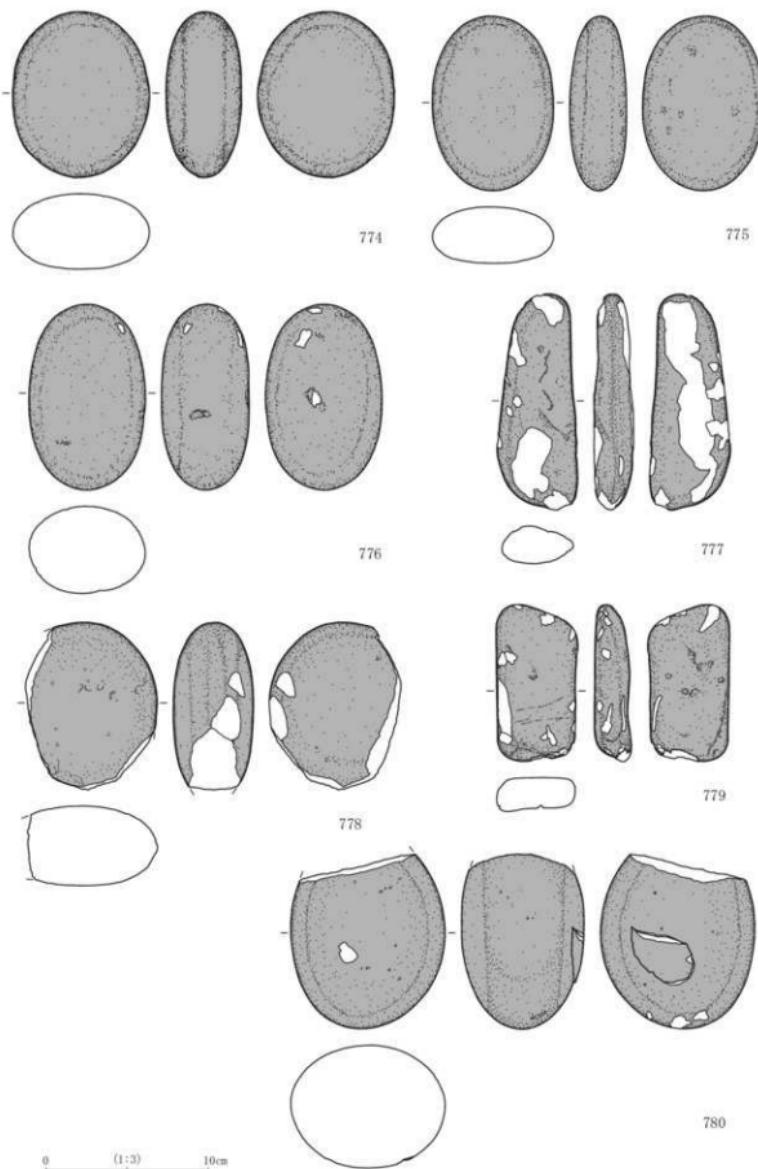
第112図 遺構外出土遺物43



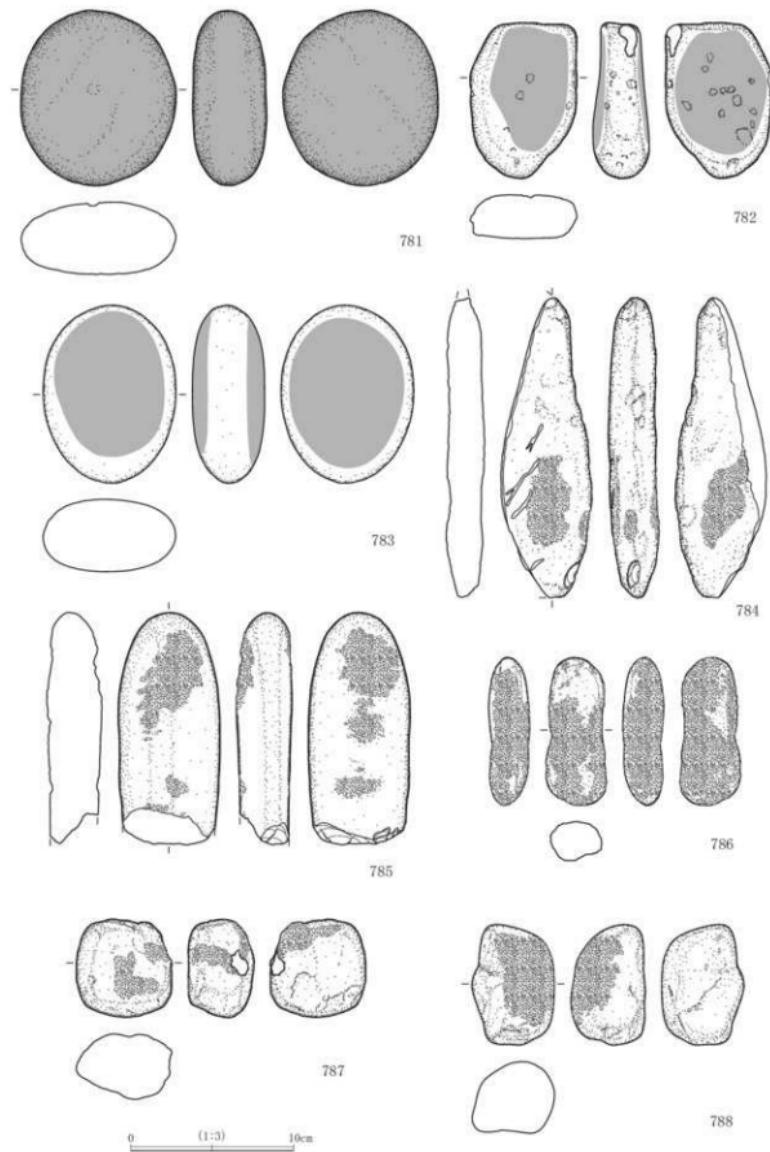
第113図 遺構外出土遺物44



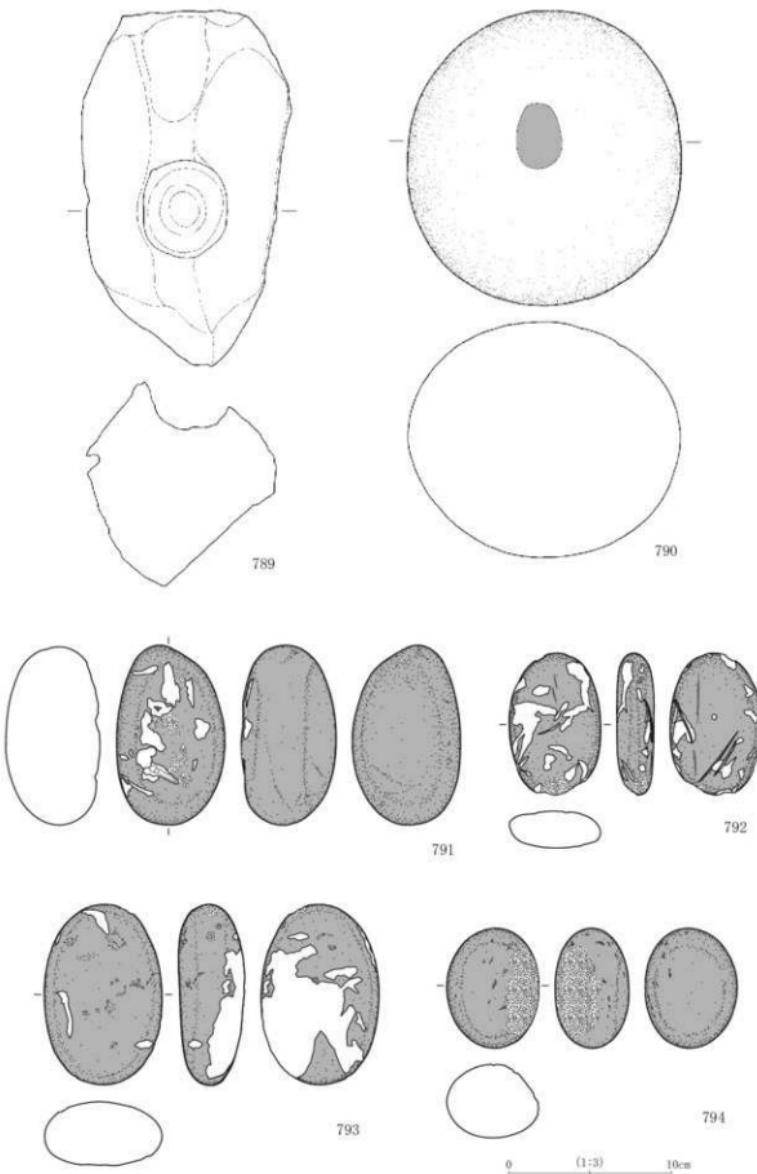
第114図 遺構外出土遺物45



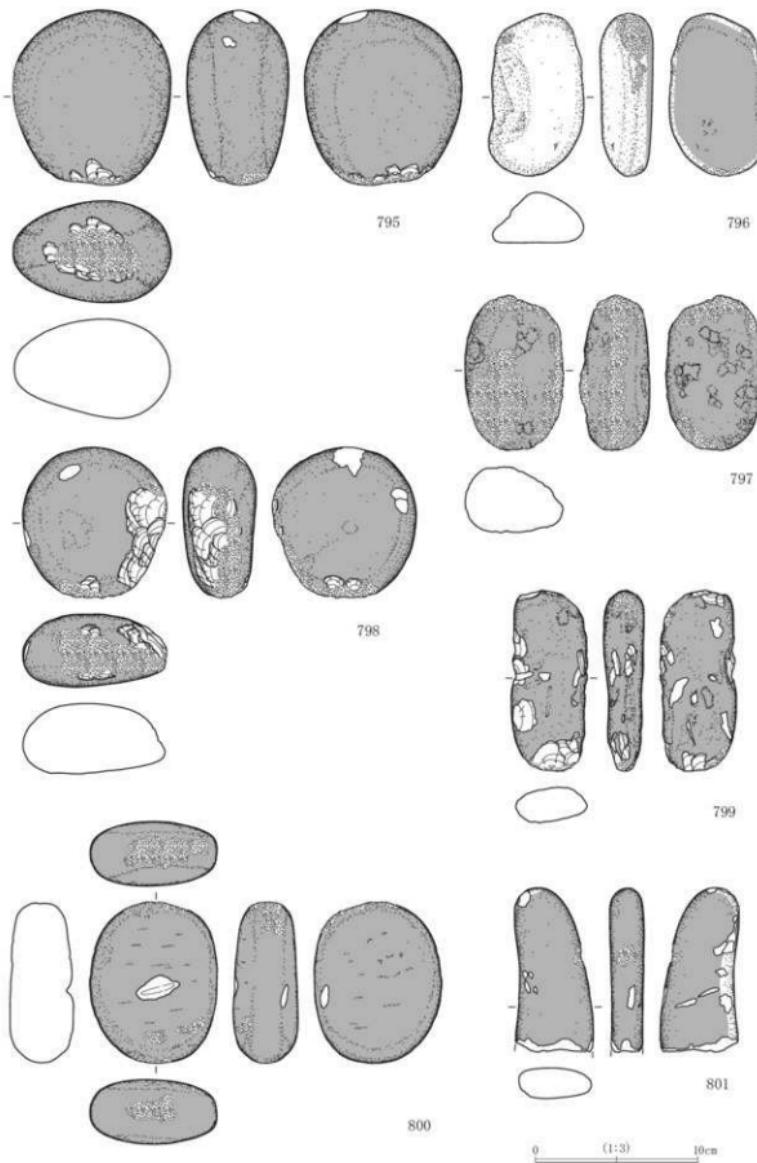
第115図 遺構外出土遺物46



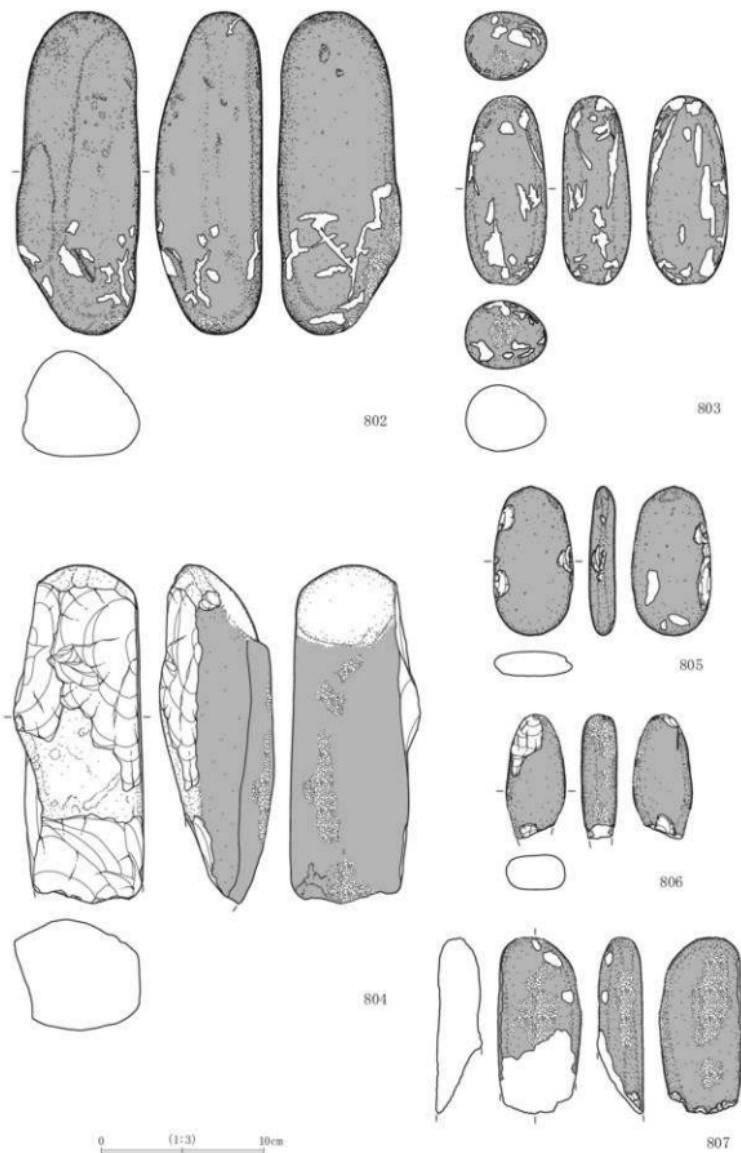
第116図 遺構外出土遺物47



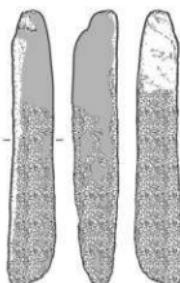
第117図 遺構外出土遺物48



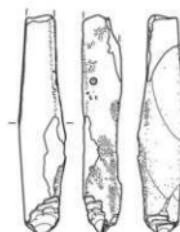
第118図 遺構外出土遺物49



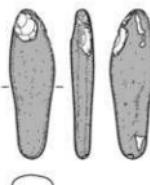
第119図 遺構外出土遺物50



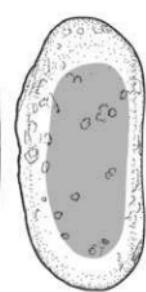
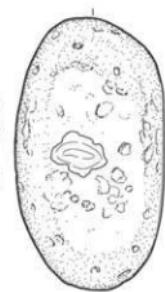
808



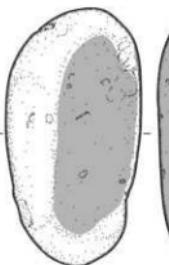
809



810



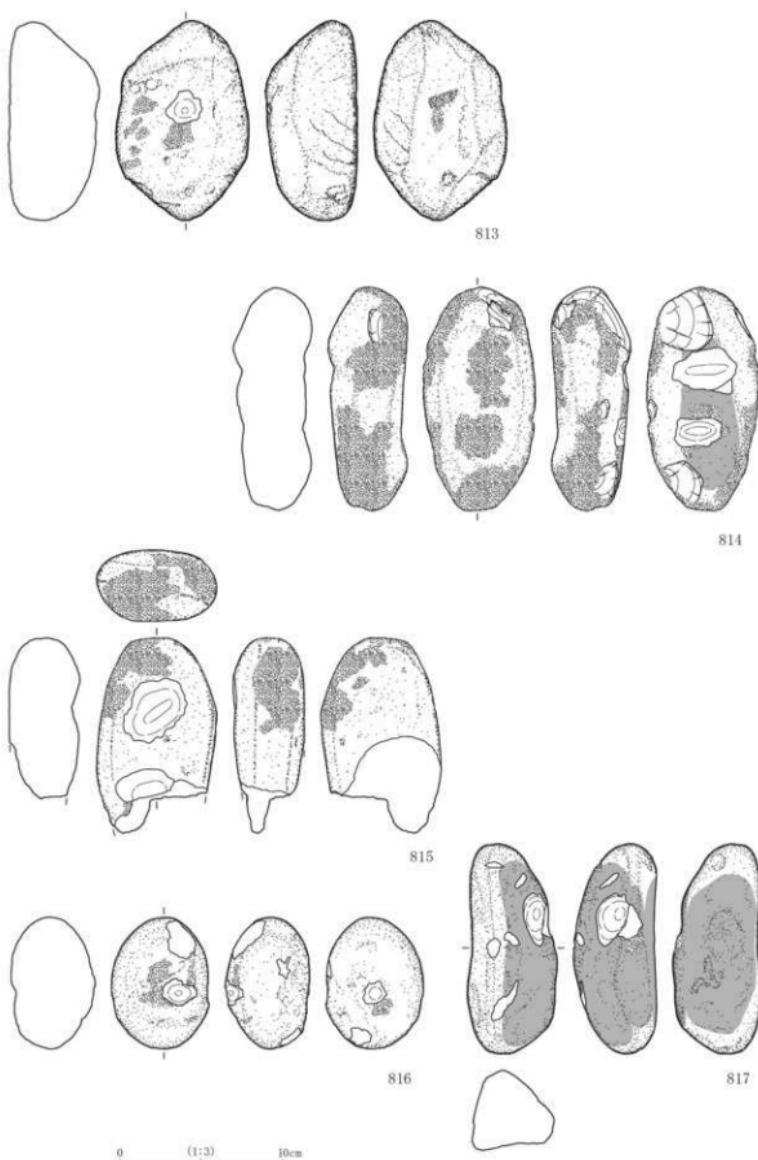
811



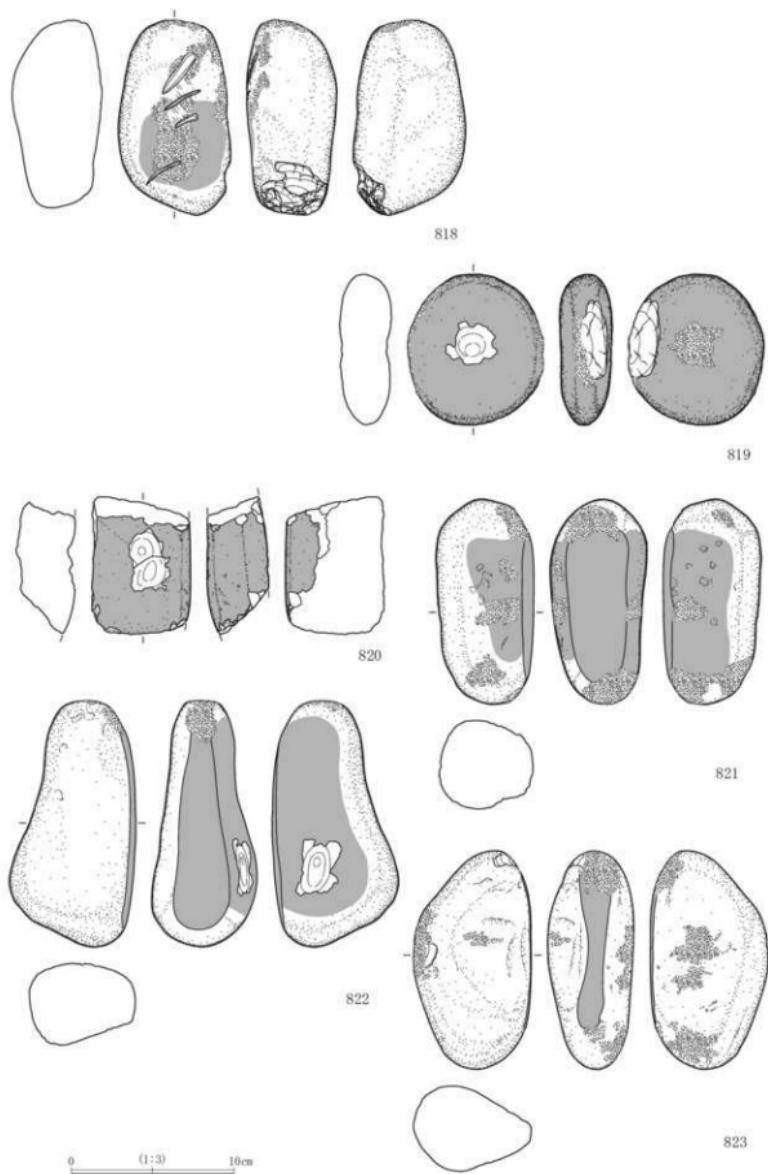
812

0 (1:3) 10cm

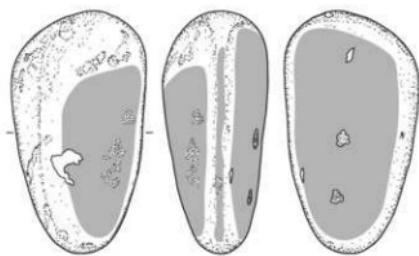
第120図 遺構外出土遺物51



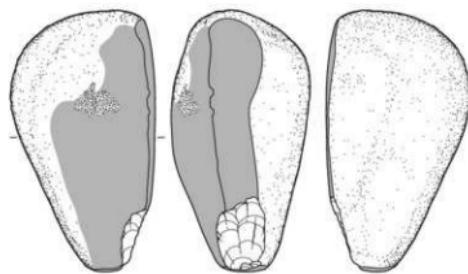
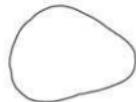
第121図 遺構外出土遺物52



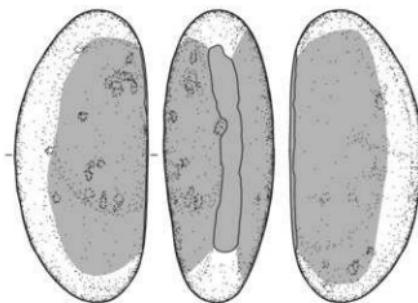
第122図 遺構外出土遺物53



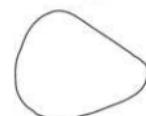
824



825

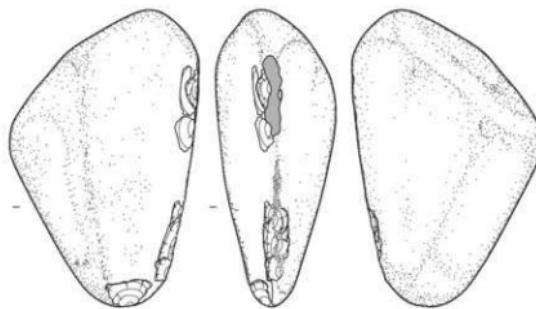


826

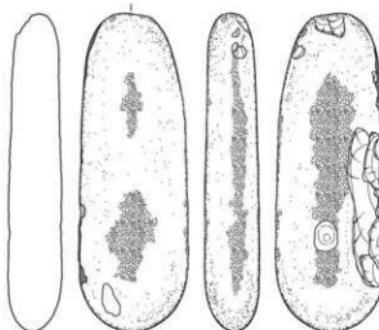


0 (1:3) 10cm

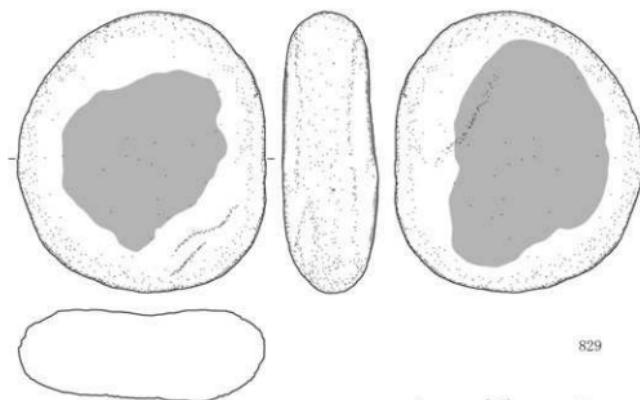
第123図 遺構外出土遺物54



827



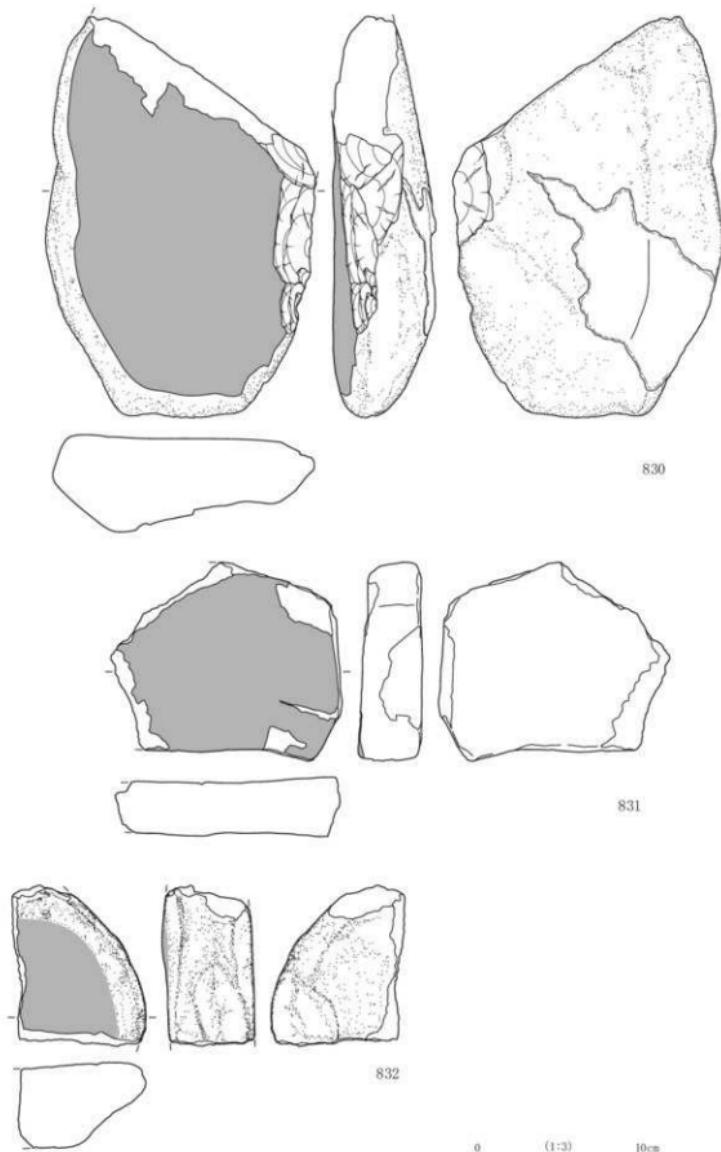
828



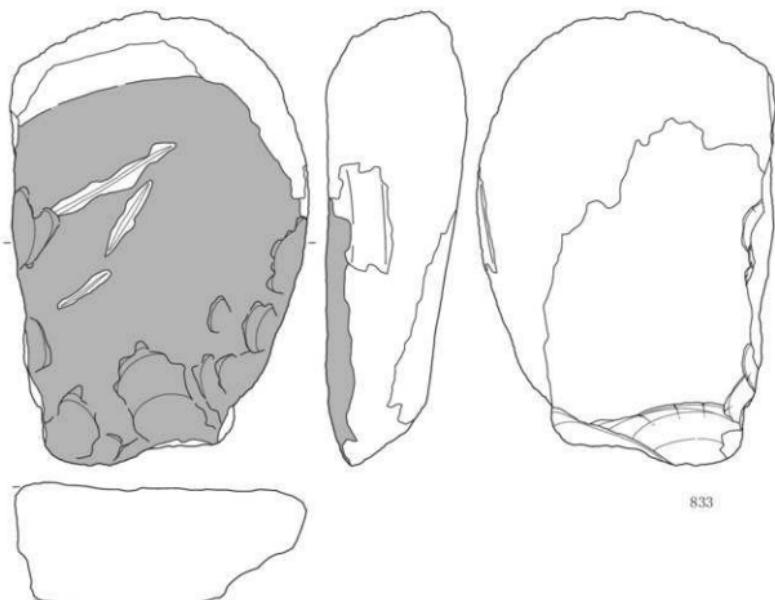
829

0 (1:2) 10cm

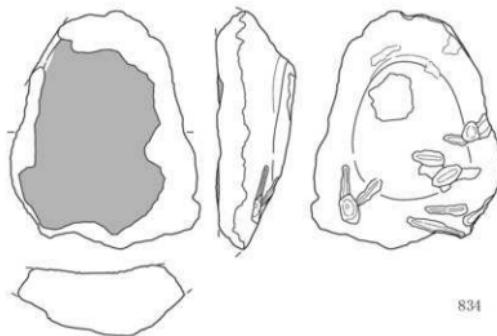
第124図 遺構外出土遺物55



第125図 遺構外出土遺物56



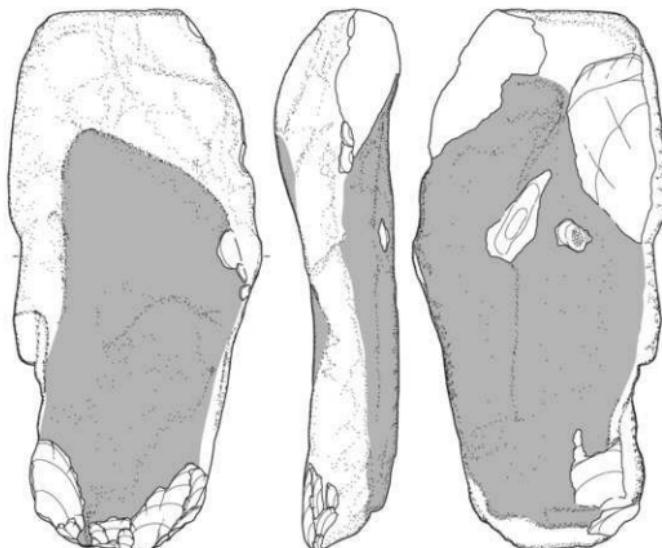
833



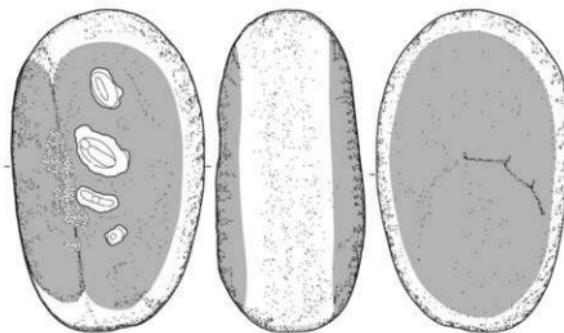
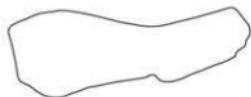
834

0 (1 : 3) 10cm

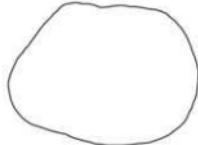
第126図 遺構外出土遺物57



835

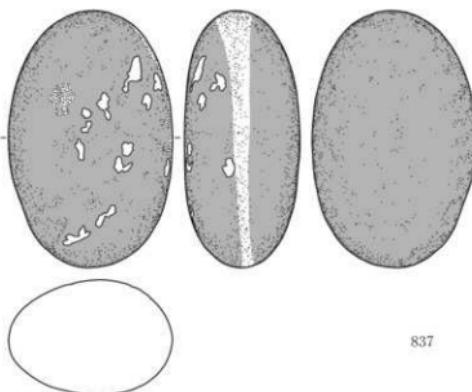


836

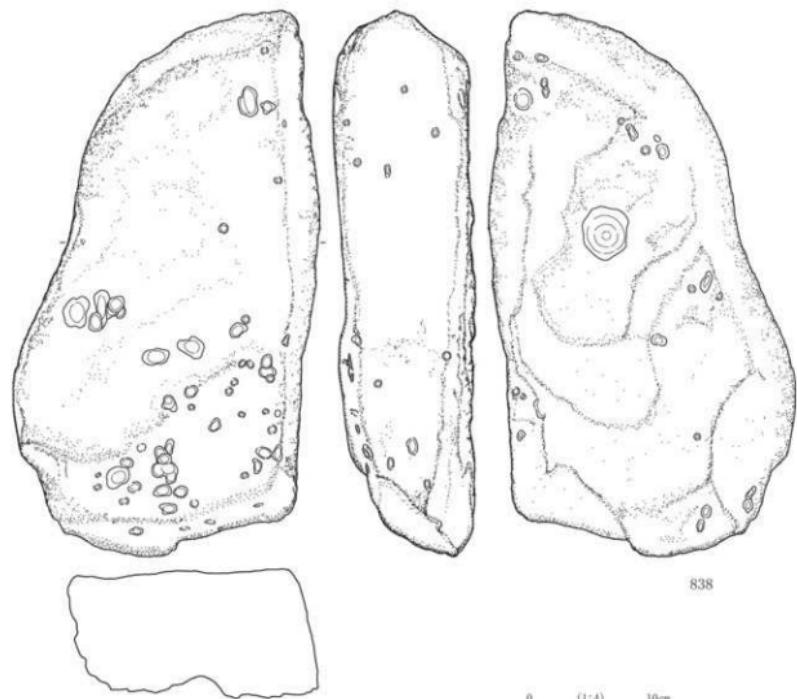


0 (1:4) 10cm

第127図 遺構外出土遺物58



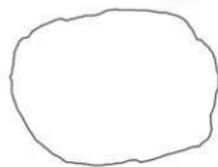
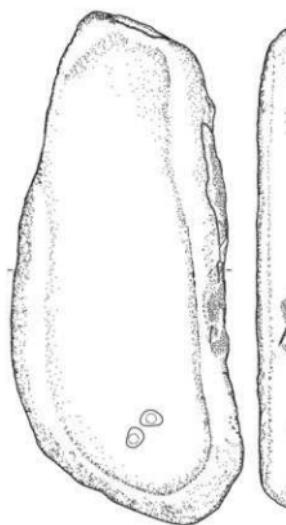
837



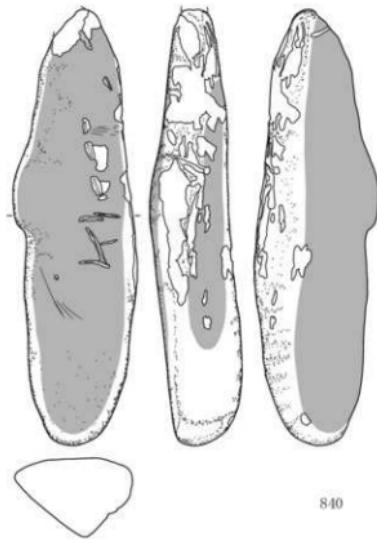
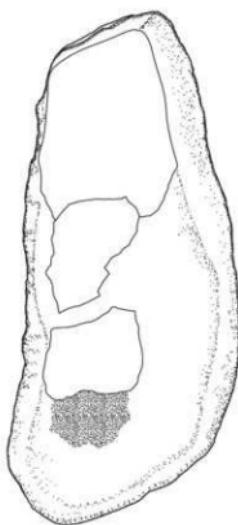
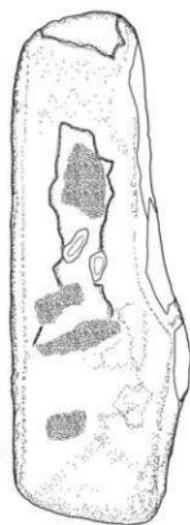
838

0 (1:4) 10cm

第128図 遺構外出土遺物59



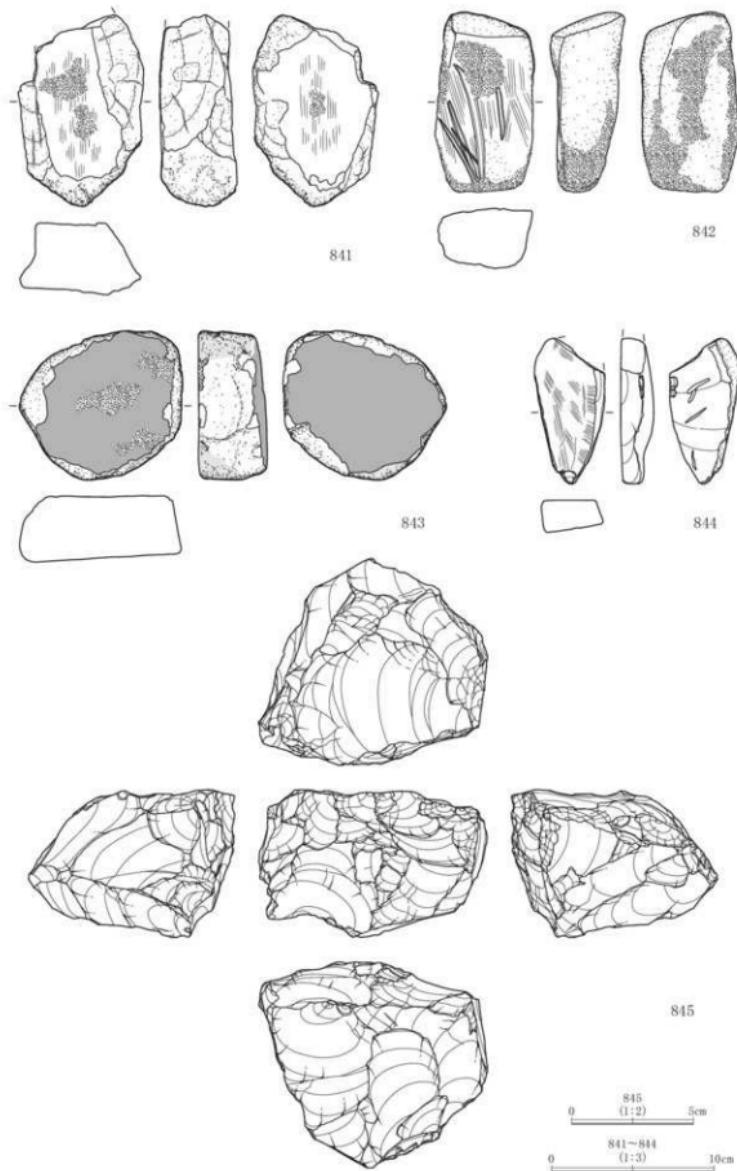
839



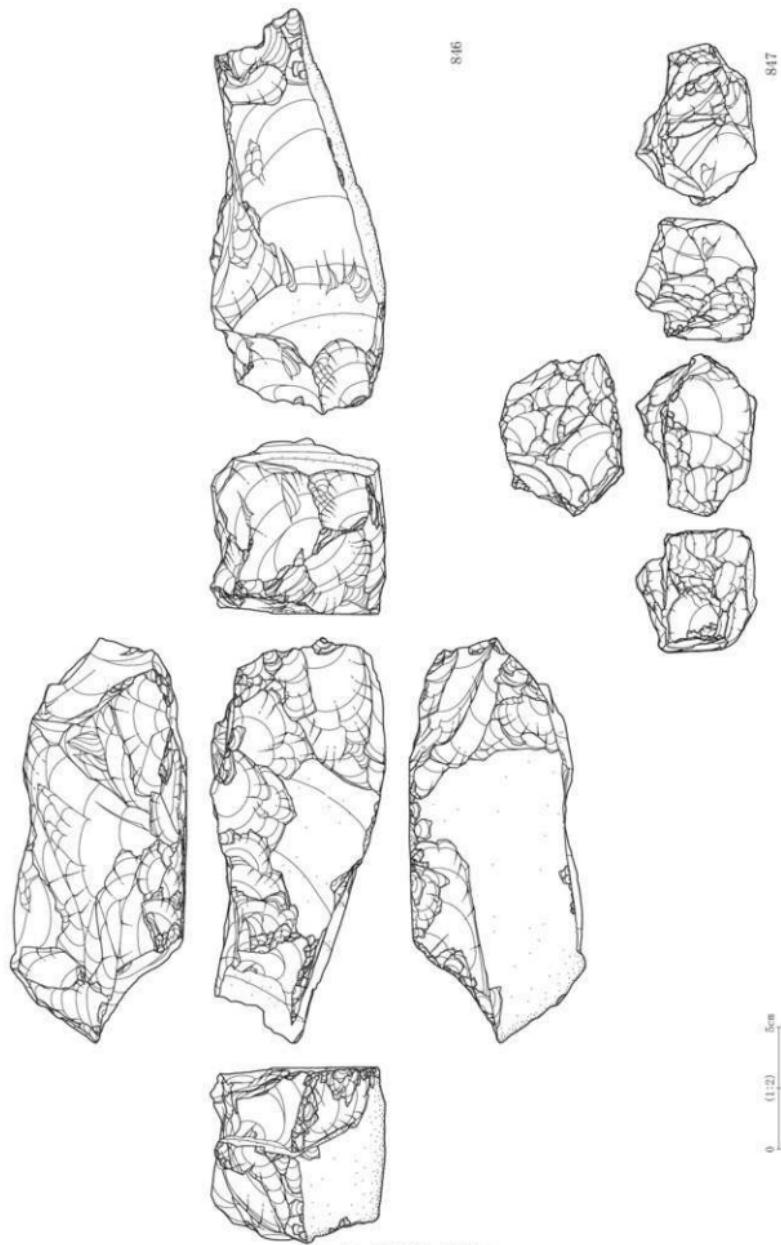
840

0 (1:4) 10cm

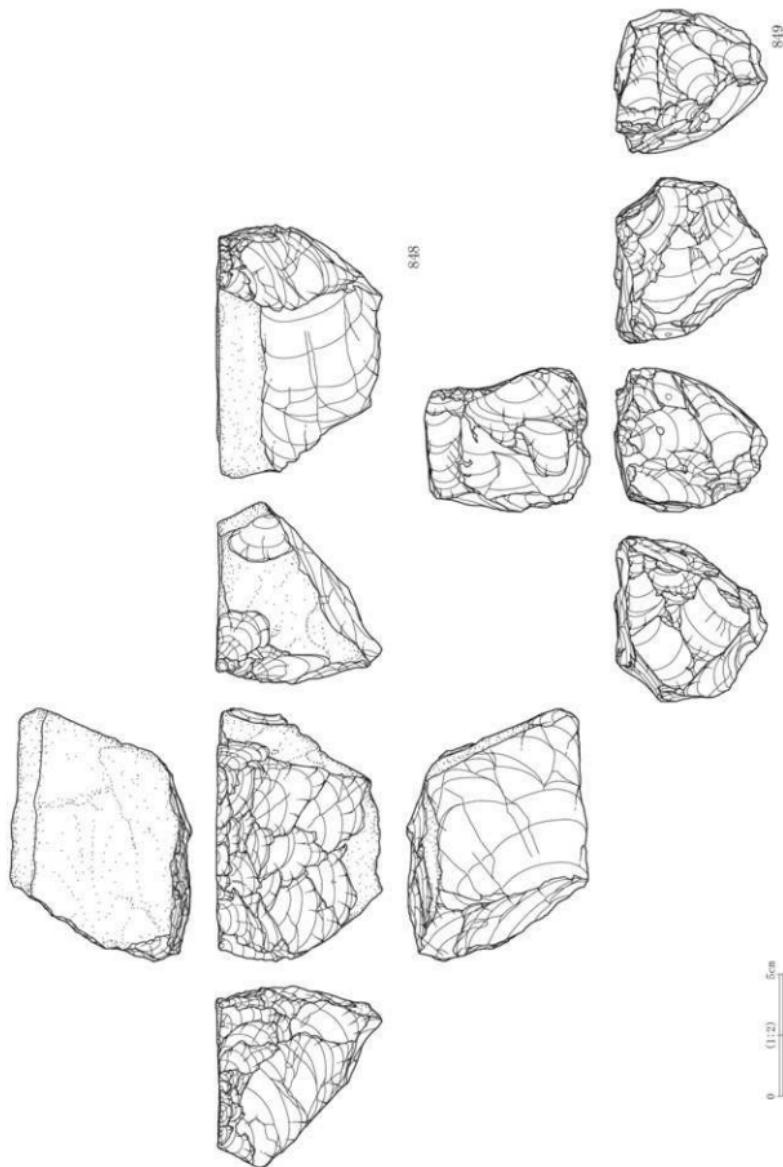
第129図 遺構外出土遺物60



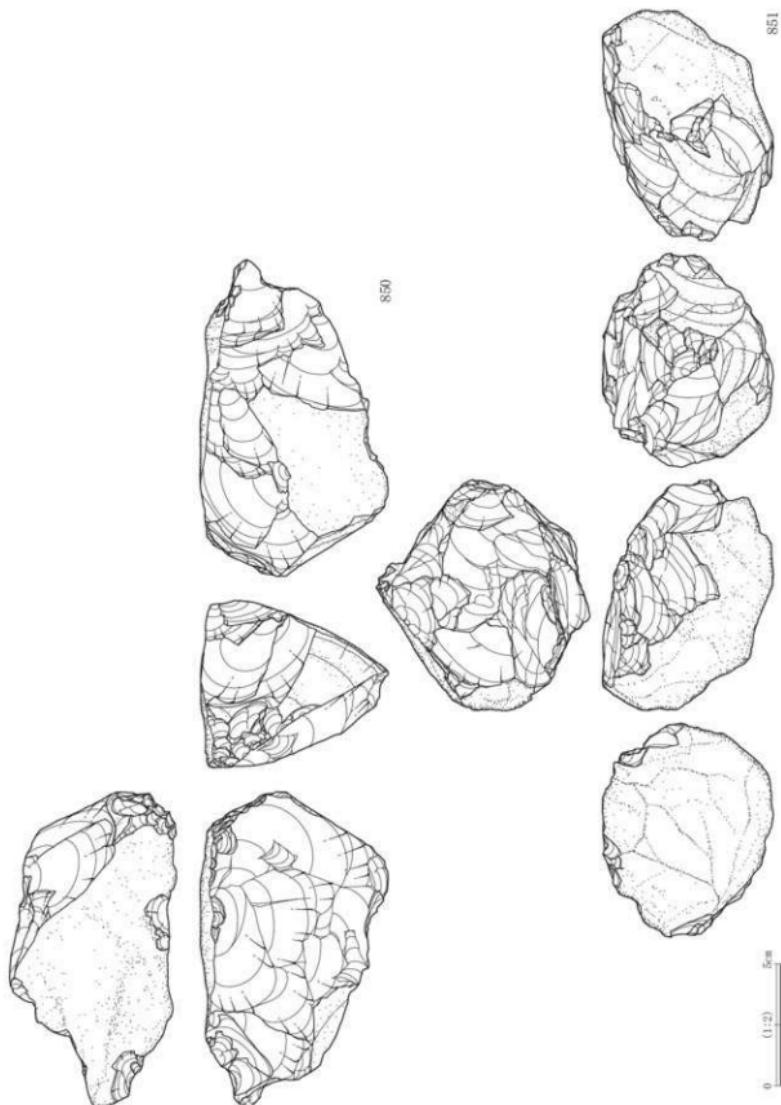
第130図 遺構外出土遺物61



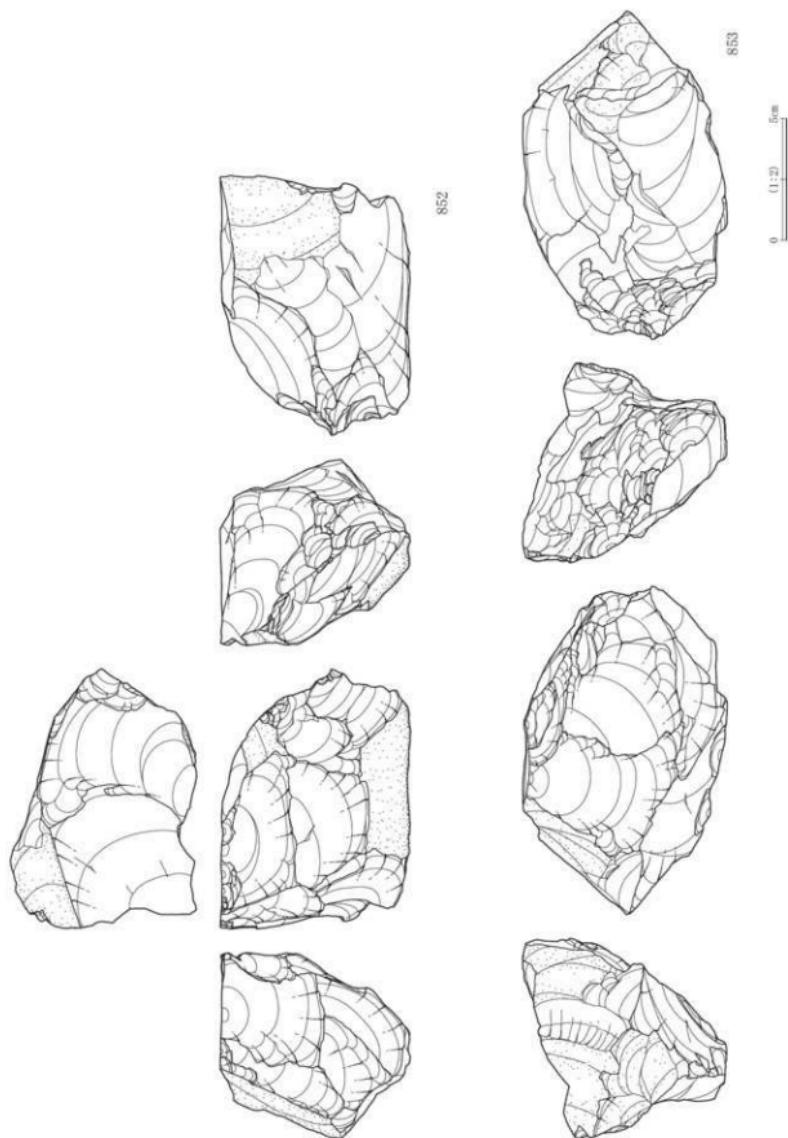
第131図 遺構外出土遺物62



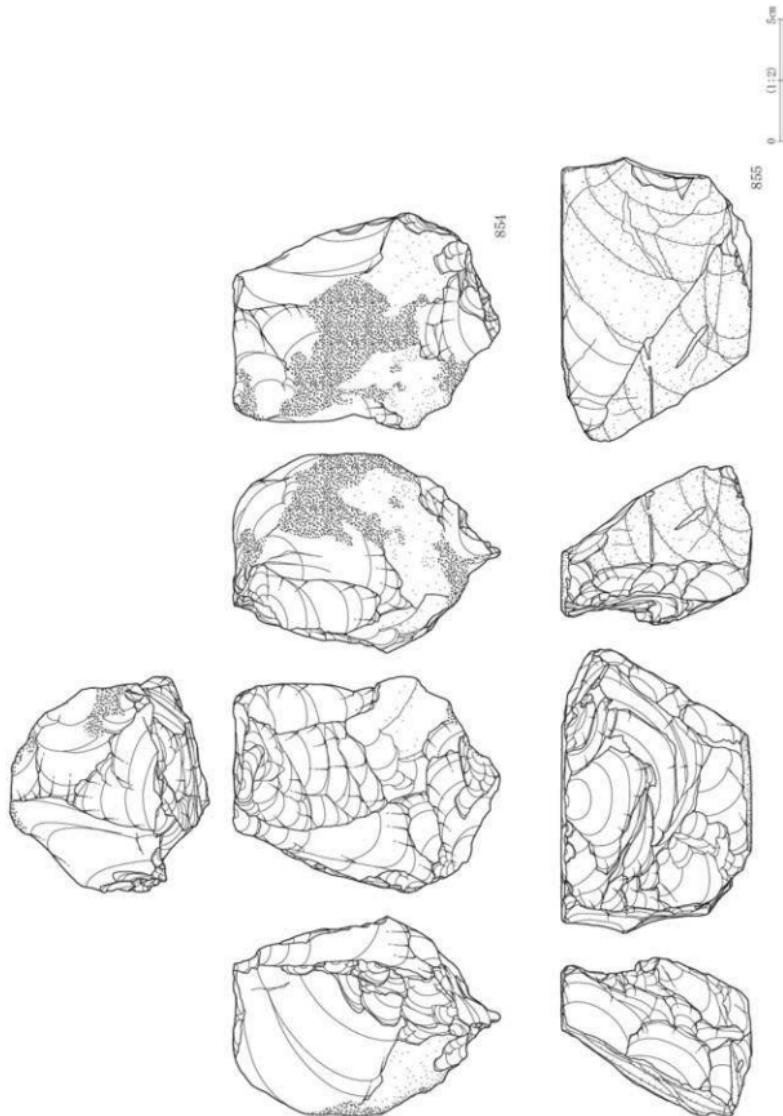
第132図 遺構外出土遺物63



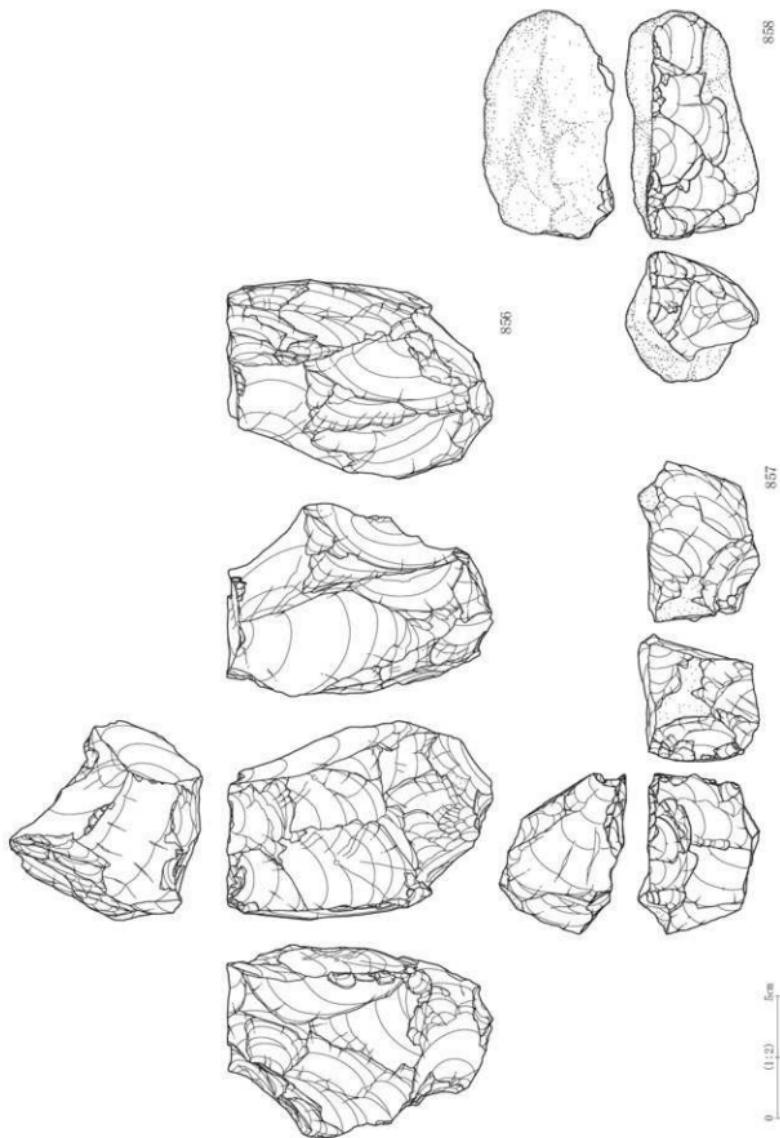
第133図 遺構外出土遺物64



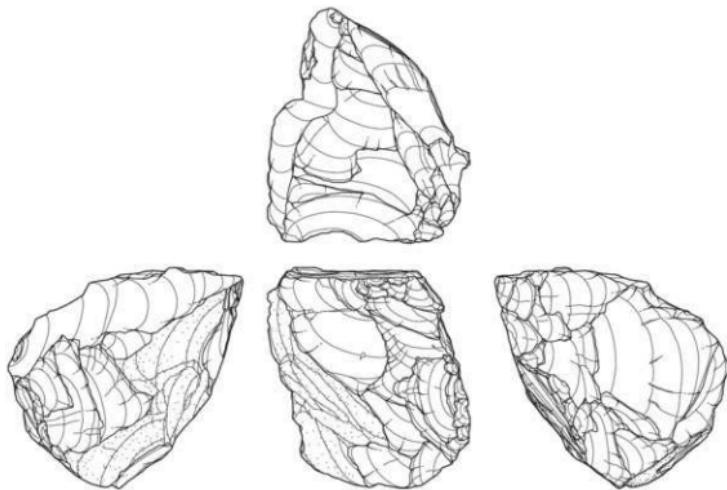
第134図 遺構外出土遺物65



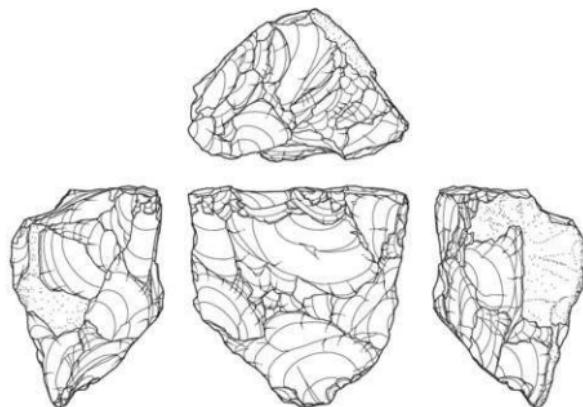
第135図 遺構外出土遺物66



第136図 遺構外出土遺物67



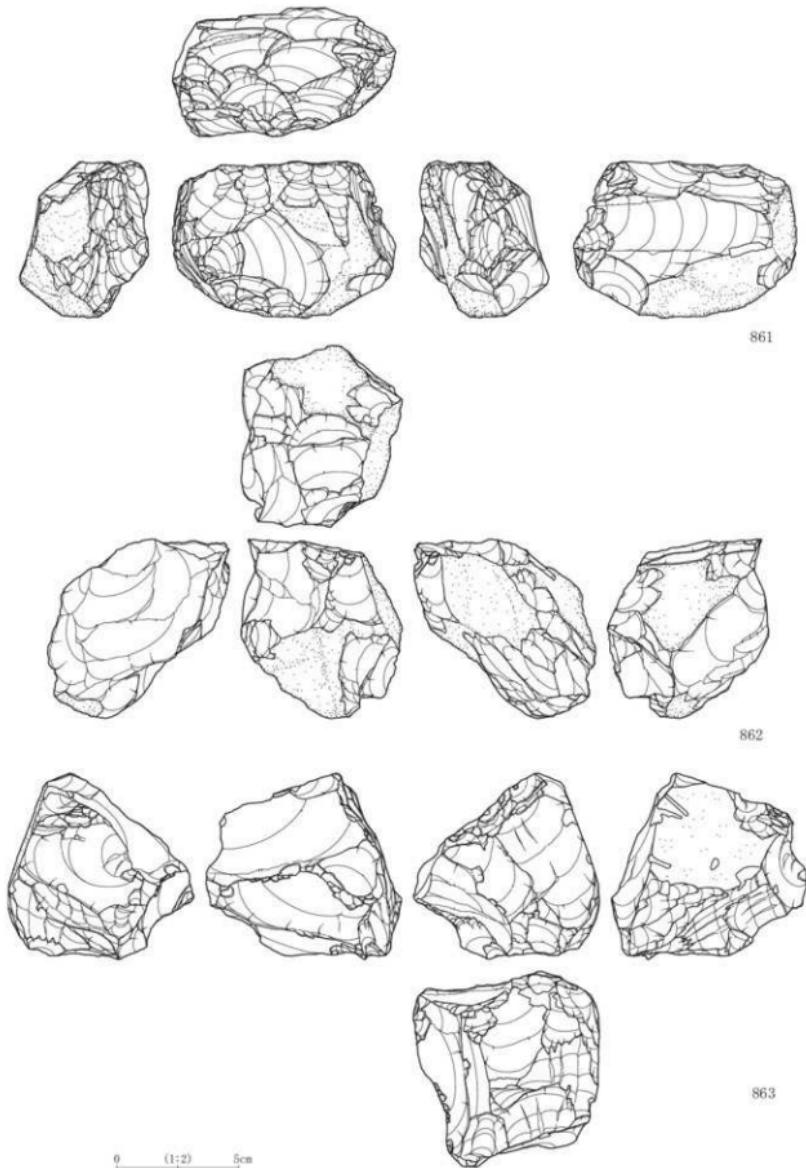
859



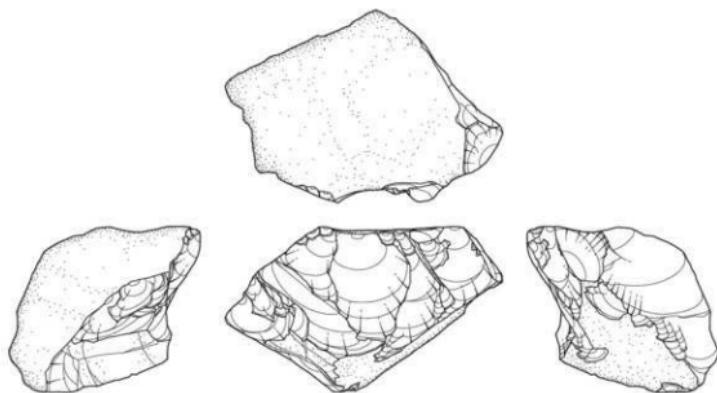
860

0 (1:2) 5cm

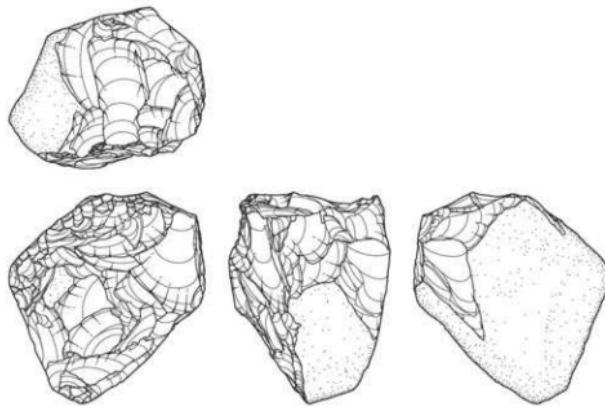
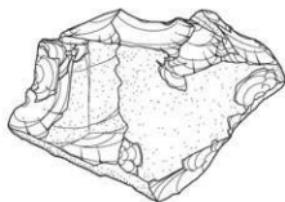
第137図 遺構外出土遺物68



第138図 遺構外出土遺物69



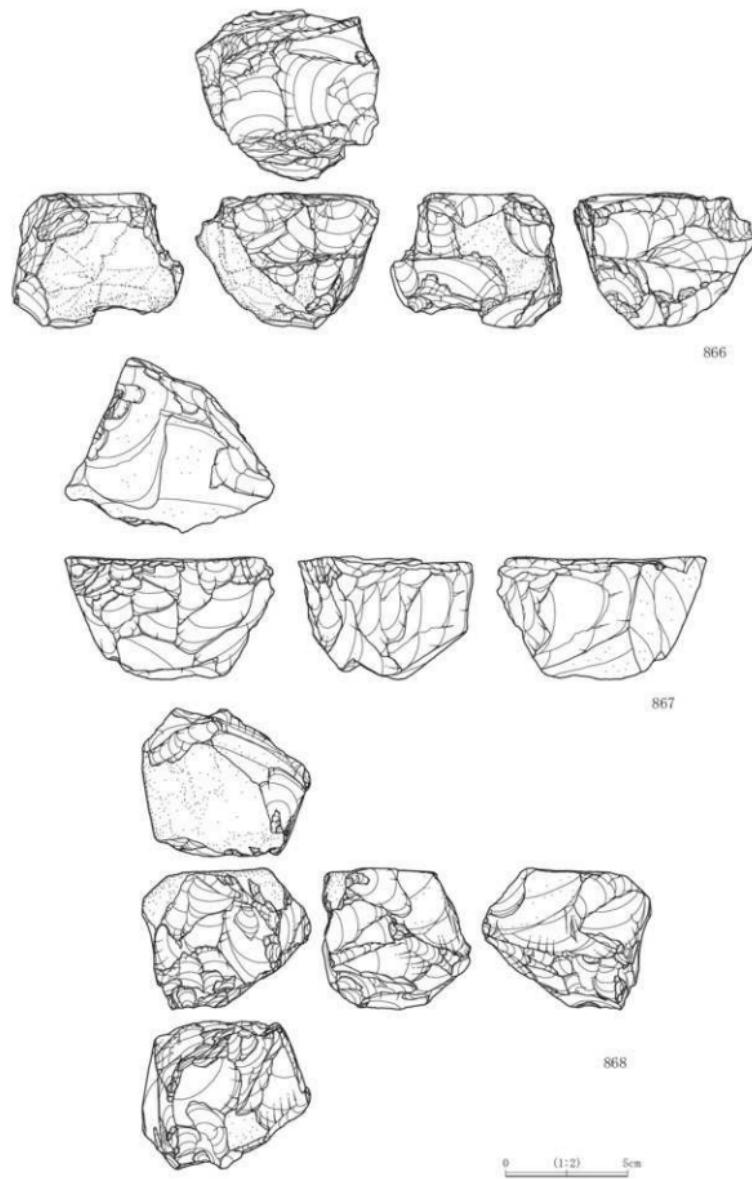
864



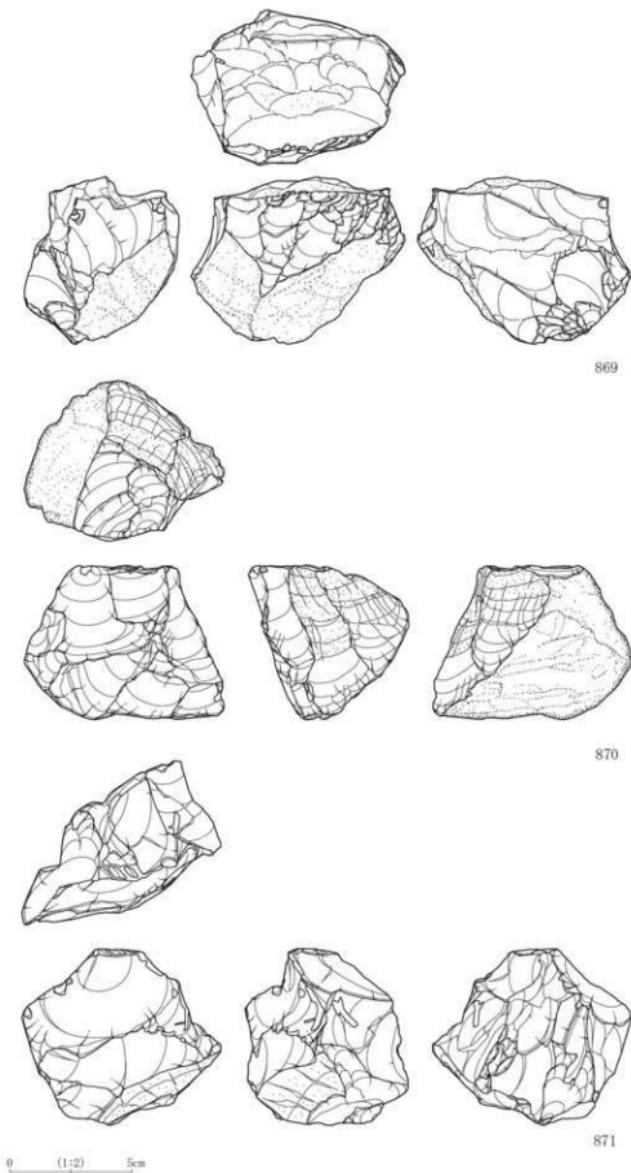
865

0 (1:2) 5cm

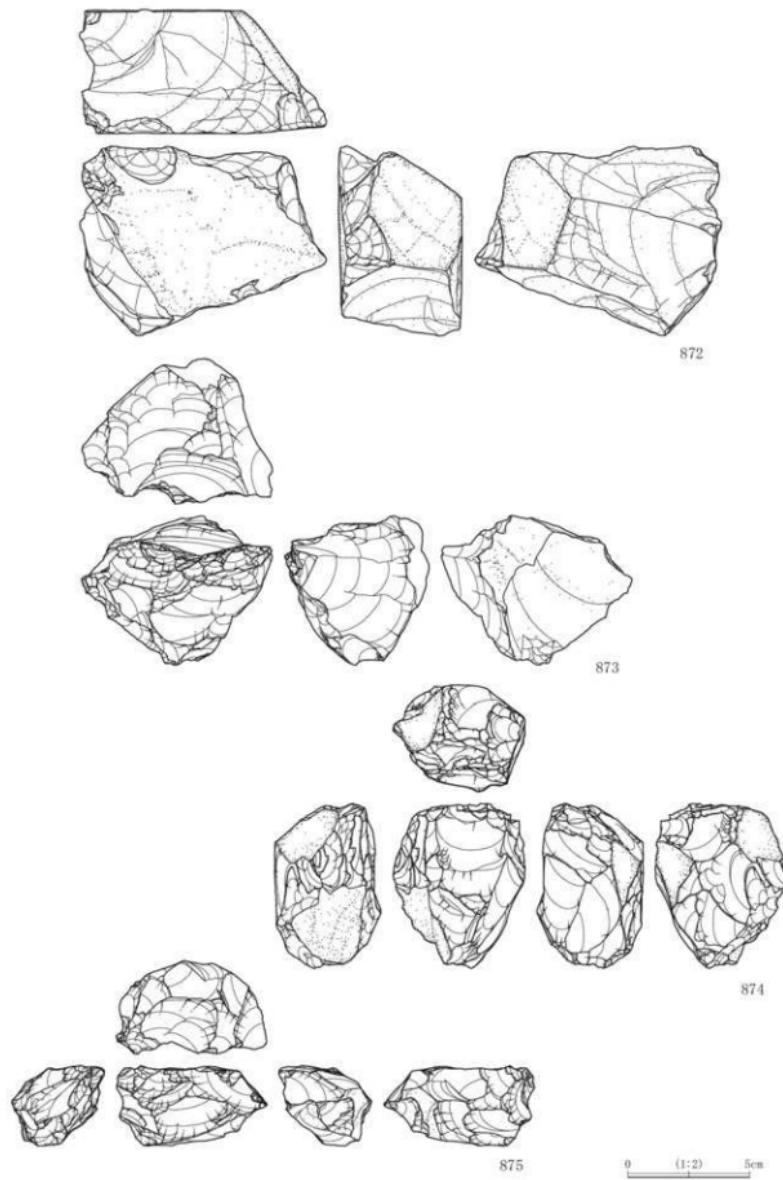
第139図 遺構外出土遺物70



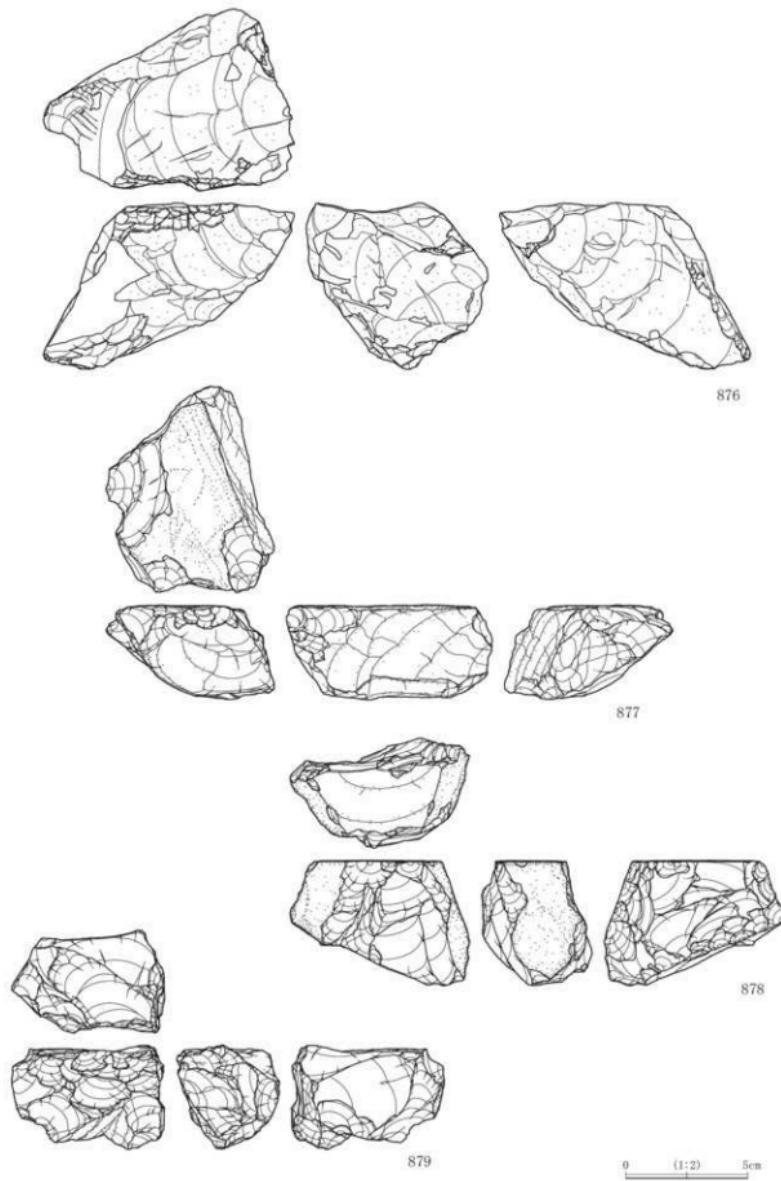
第140図 遺構外出土遺物71



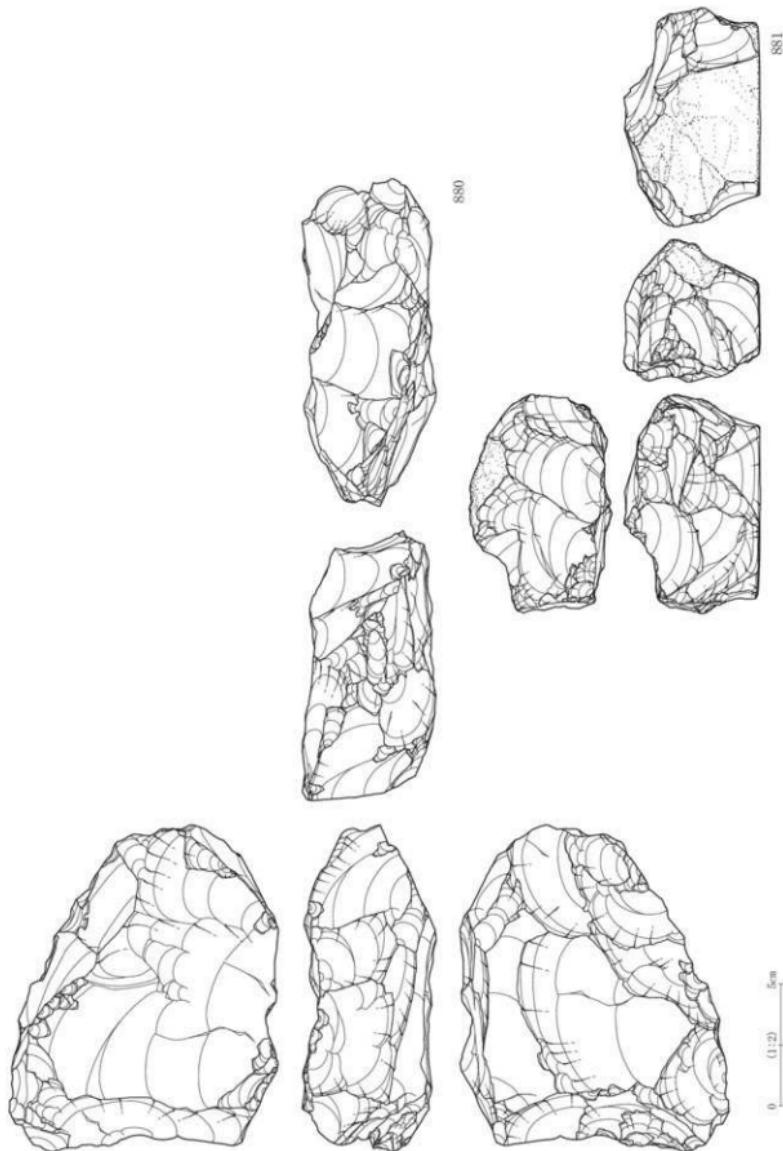
第141図 遺構外出土遺物72



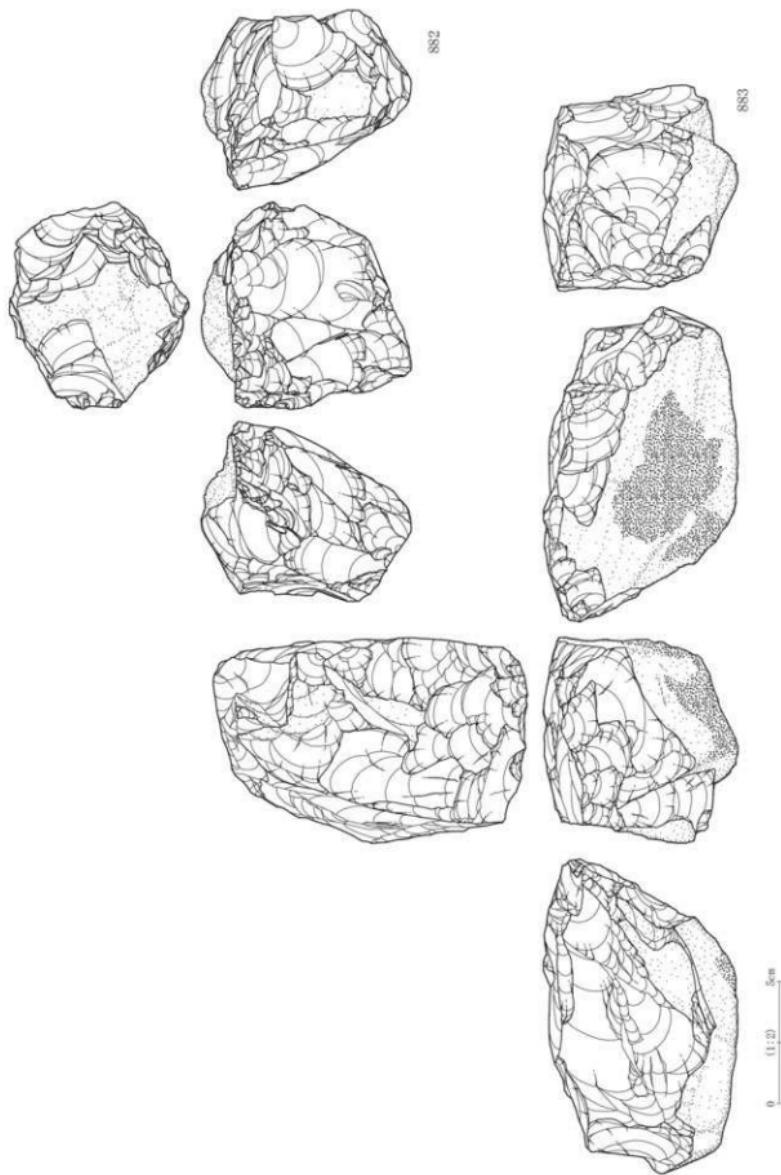
第142図 遺構外出土遺物73



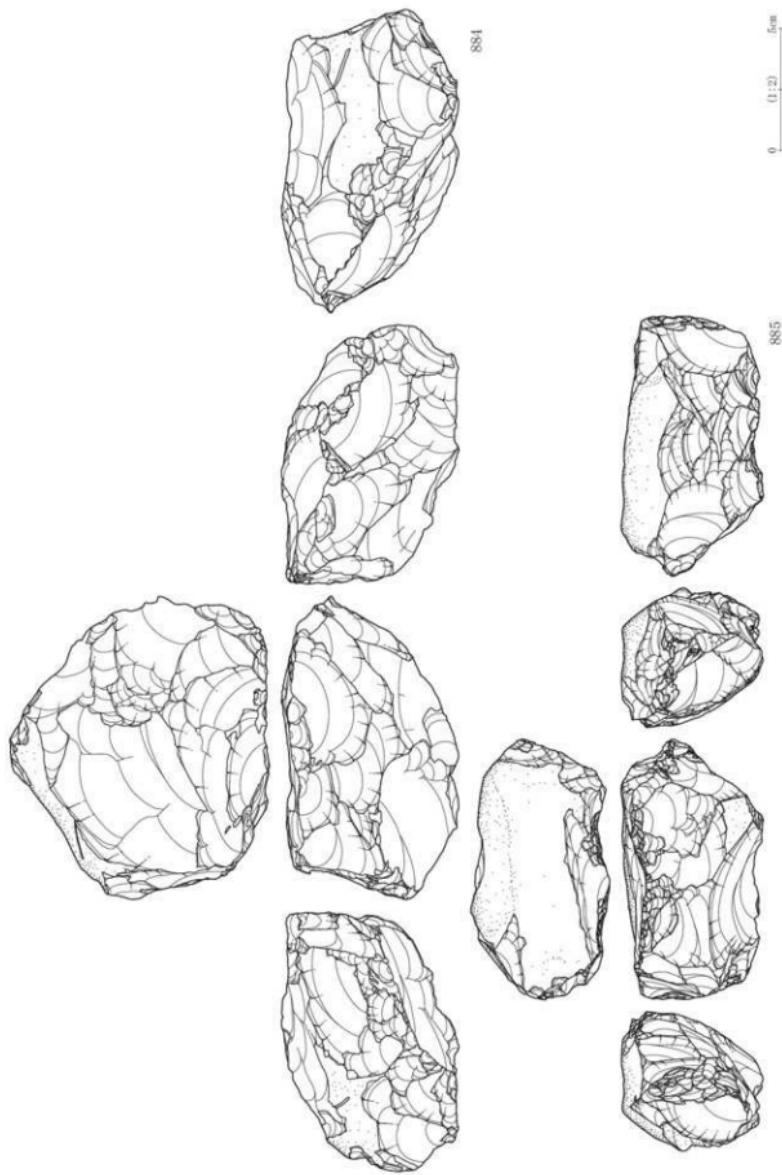
第143図 遺構外出土遺物74



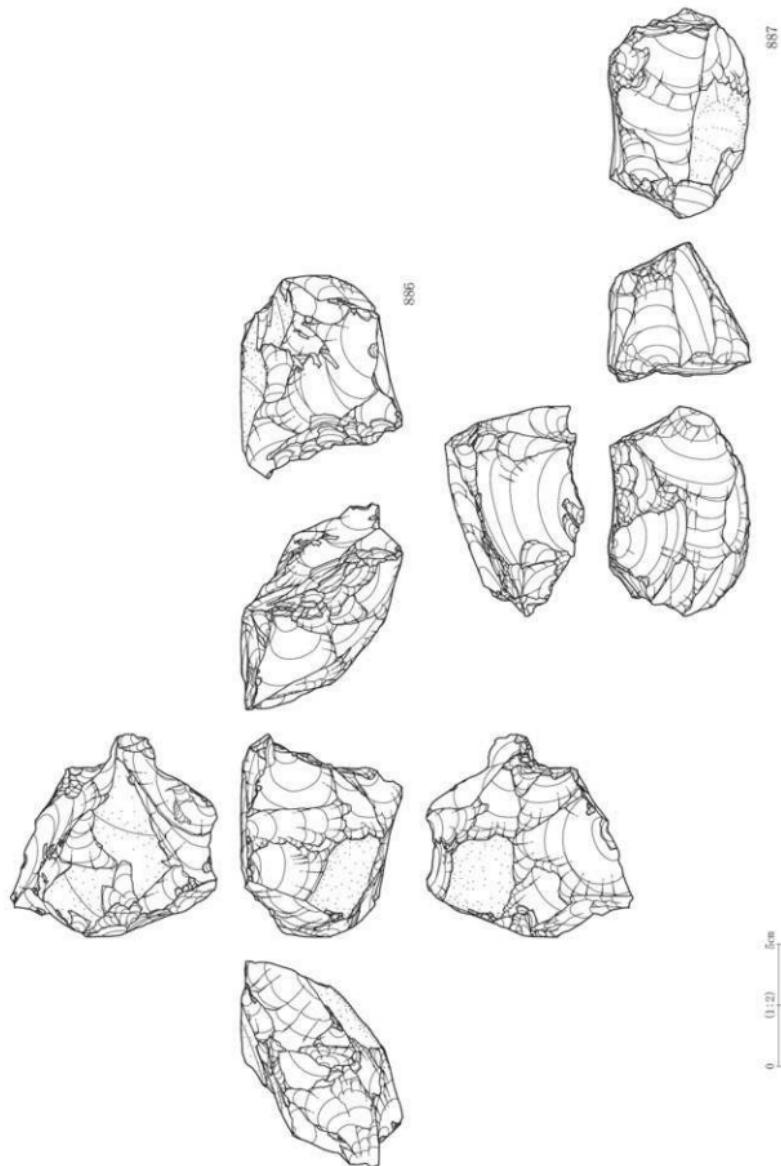
第144図 遺構外出土遺物75



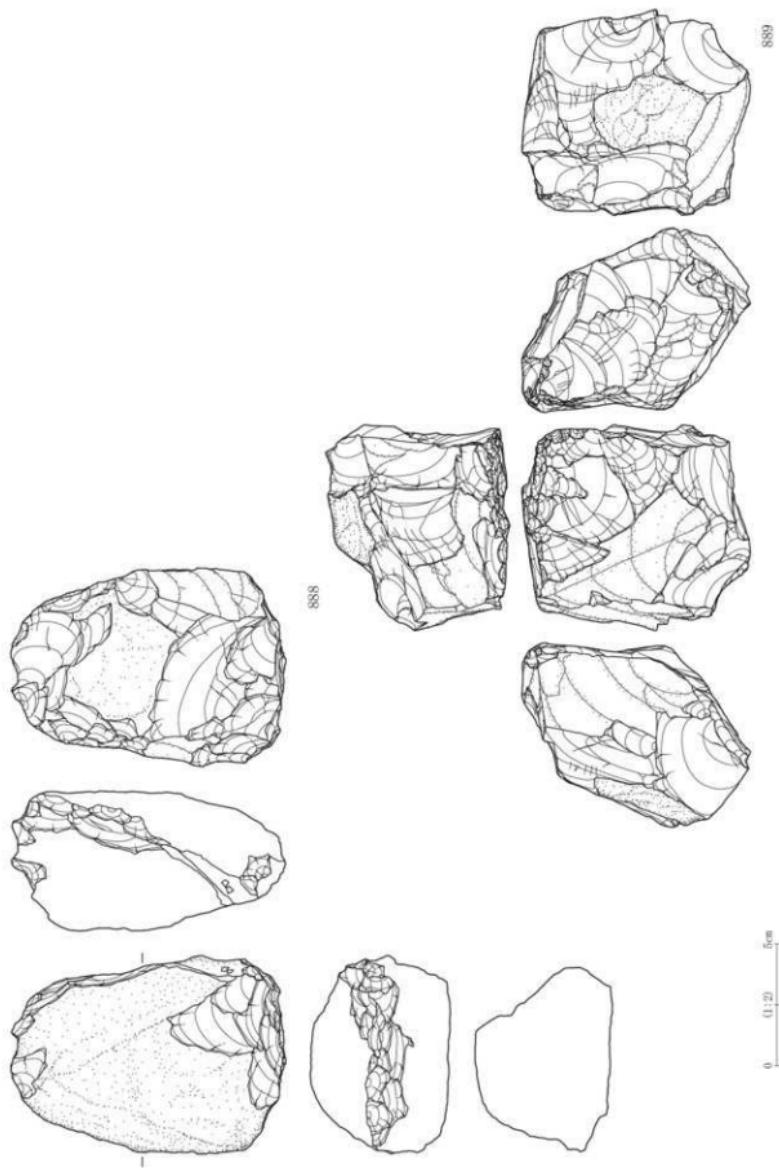
第145図 遺構外出土遺物76



第146図 遺構外出土遺物77

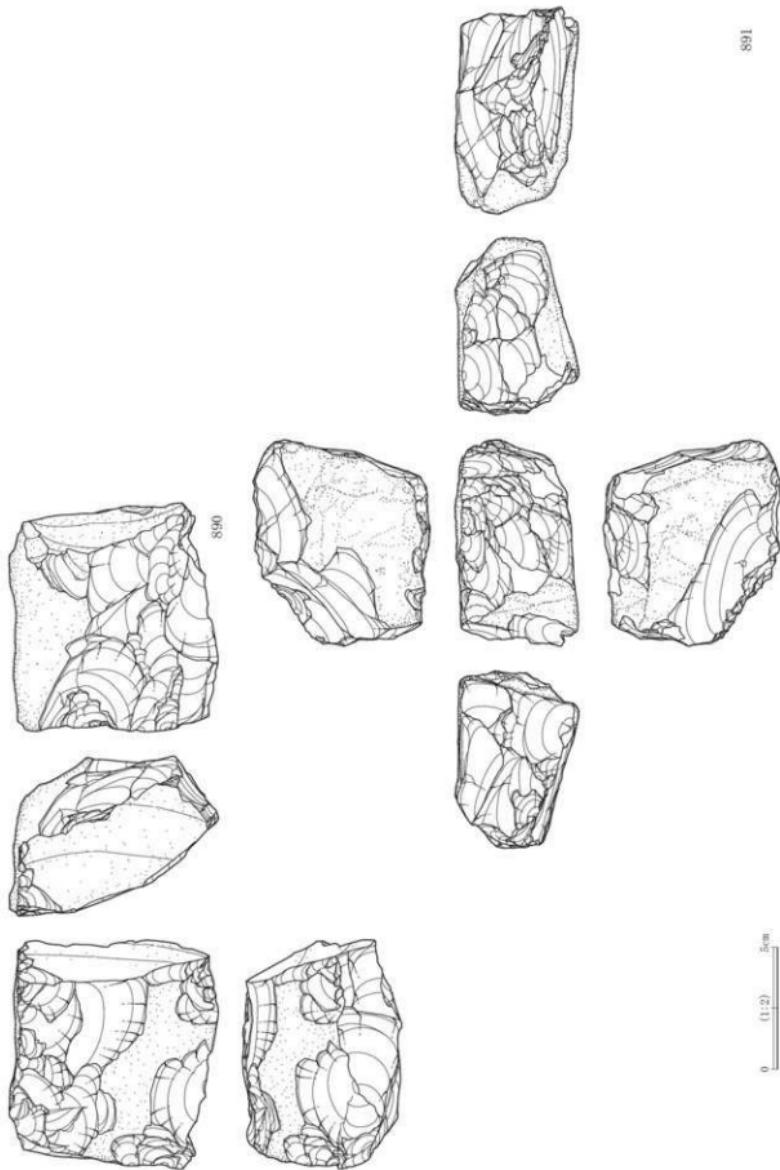


第147図 遺構外出土遺物78

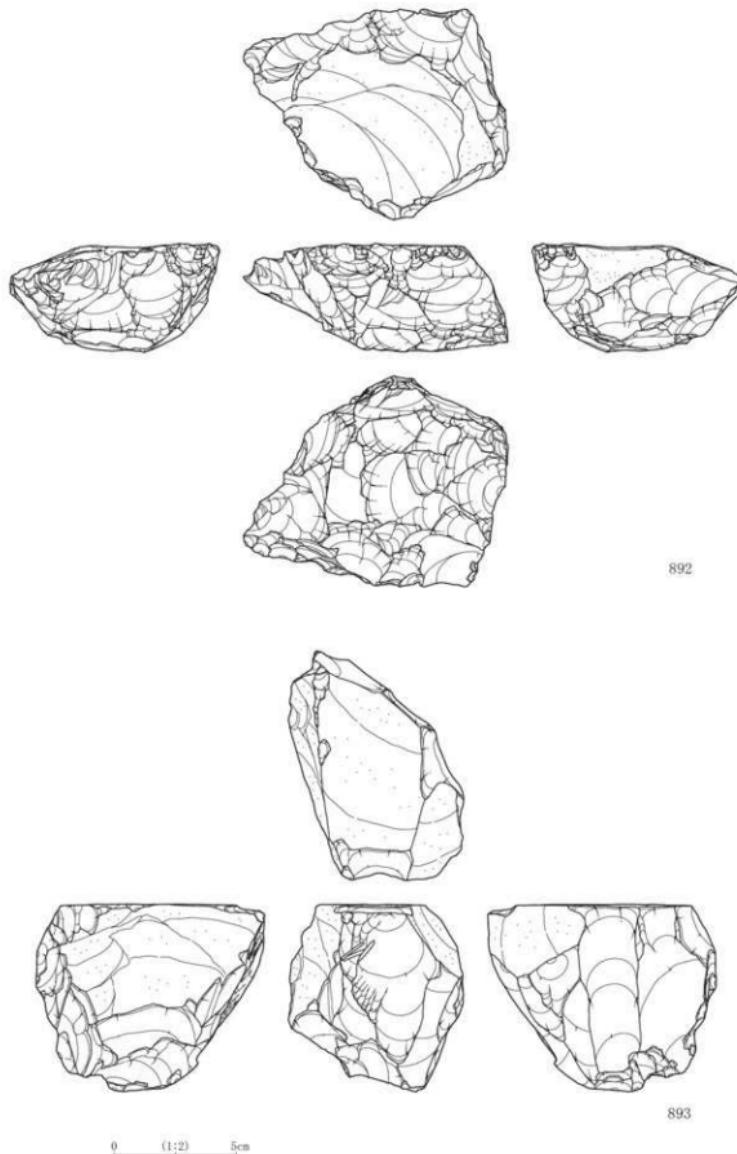


第148図 遺構外出土遺物79

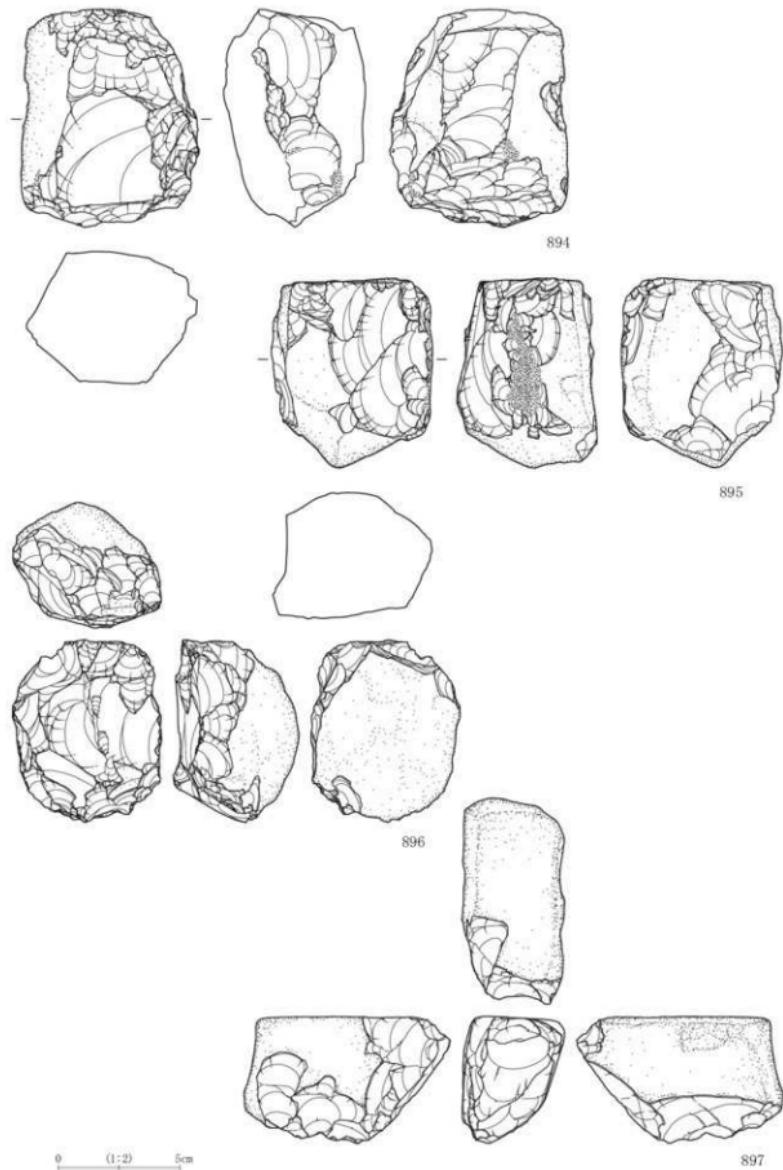
168



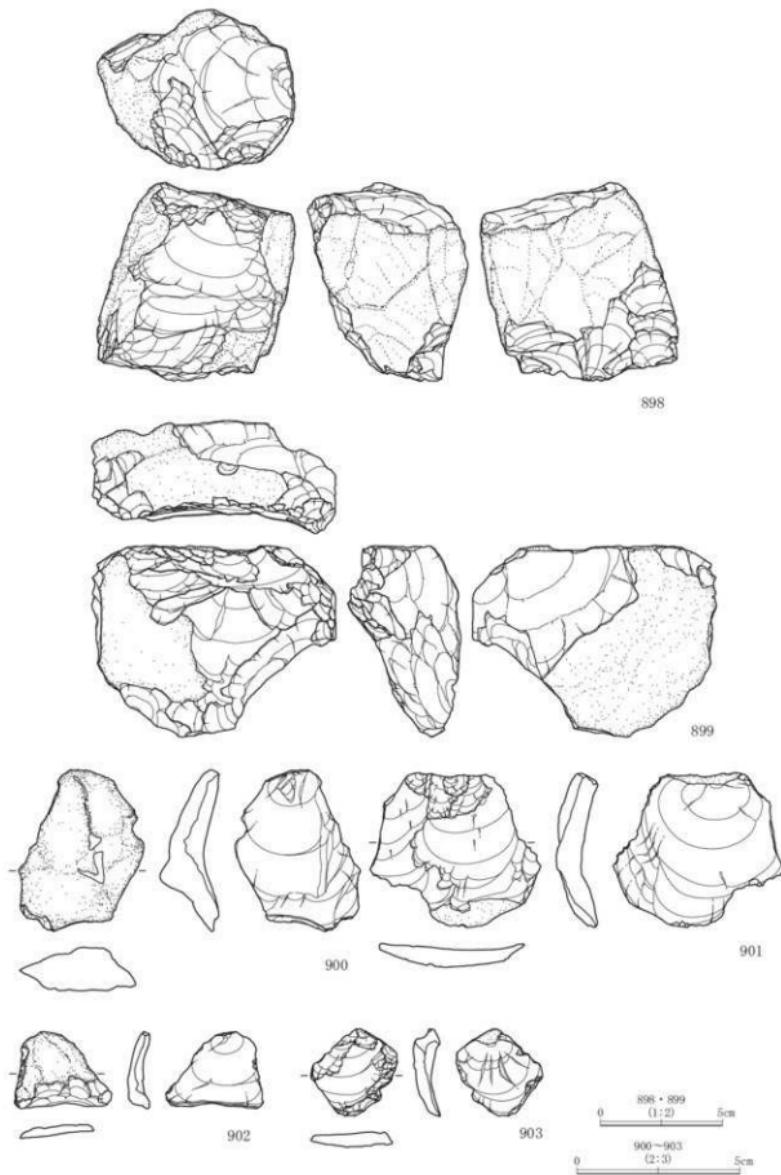
第149図 遺構外出土遺物80



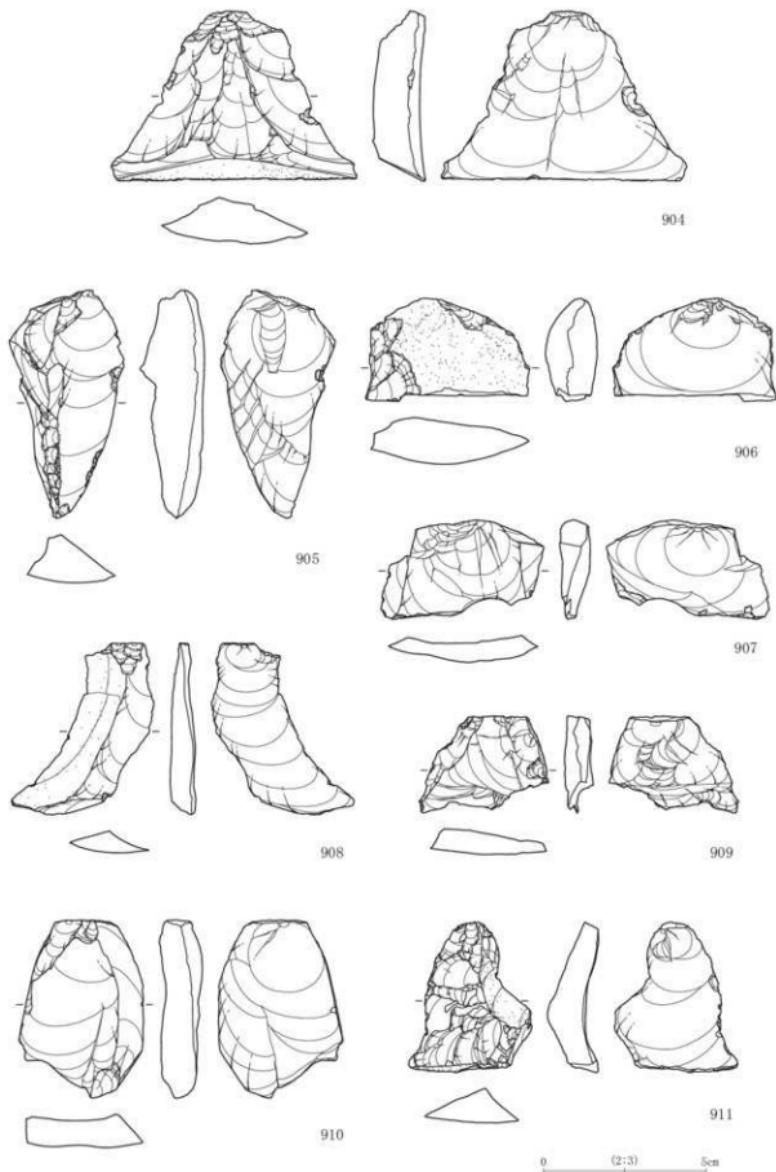
第150図 遺構外出土遺物81



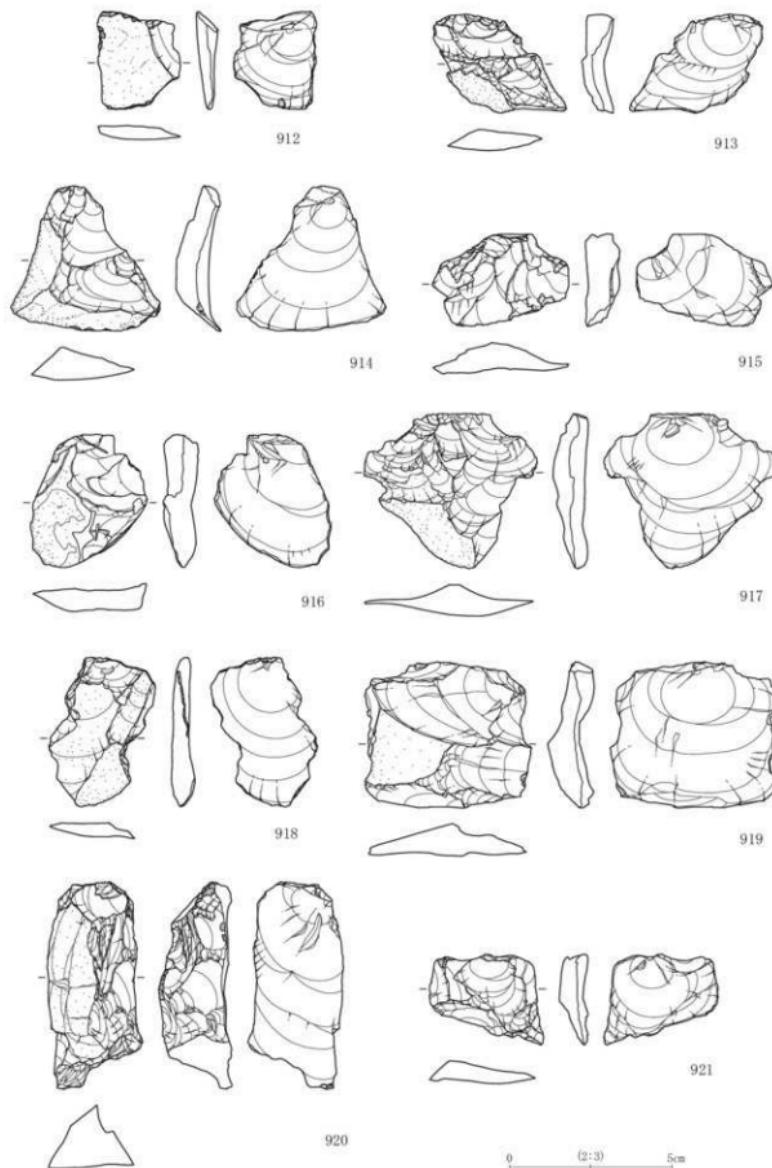
第151図 遺構外出土遺物82



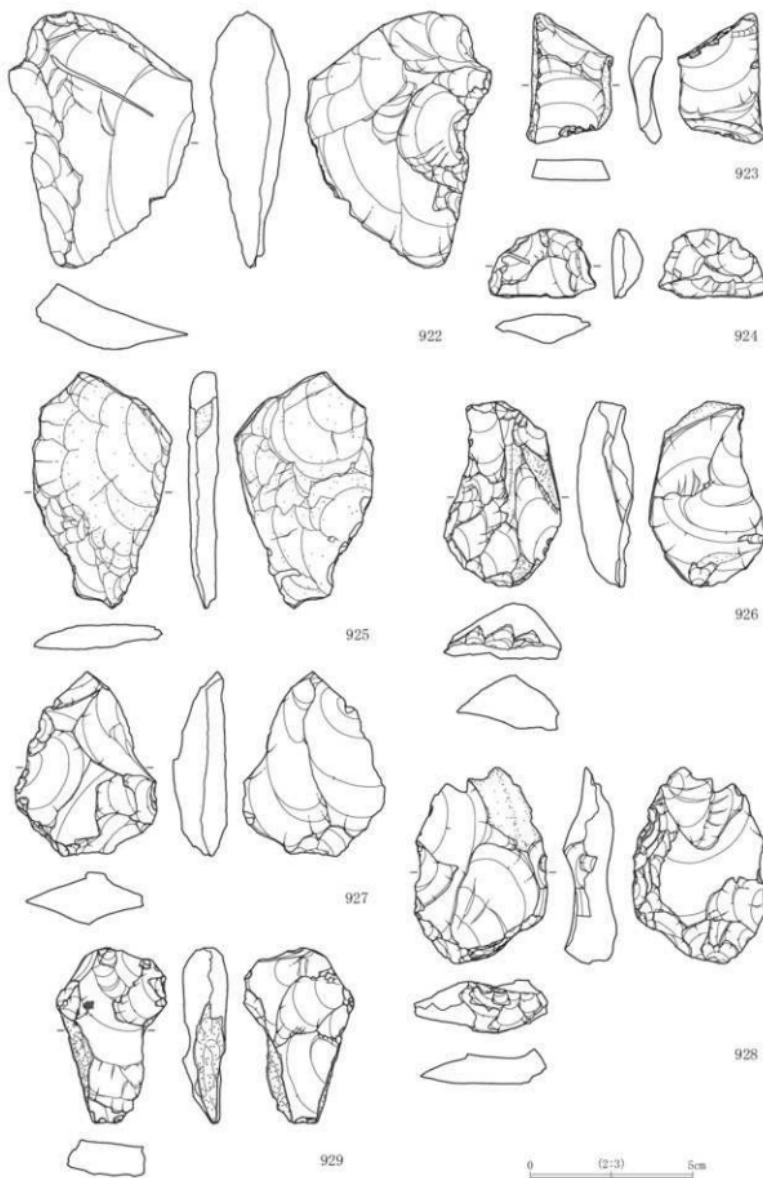
第152図 遺構外出土遺物83



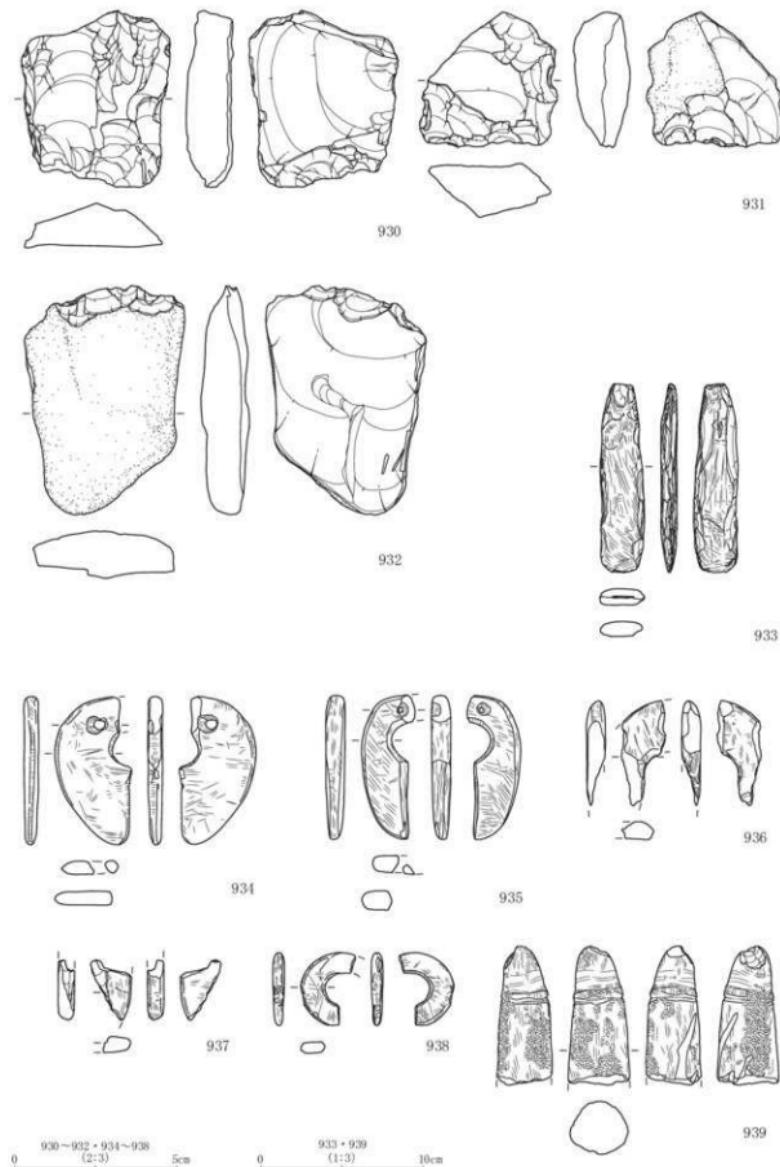
第153図 遺構外出土遺物84



第154図 遺構外出土遺物85



第155図 遺構外出土遺物86



第156図 遺構外出土遺物87

(4) 石 製 品

石製装飾品は1点出土した(933)。偏平な短冊状に整形されているが、側面は剥離が連続したままなので、未成品の可能性も多い。出土したのはこの1点のみである。

玦状耳飾りは出土した5点全点掲載した(934~938)。どれも滑石製で、片側1/2が欠損する。934・935は体部に1箇所の穿孔が見受けられる。位置的にみて欠損部の補修のためかもしれない。穿孔は両面から施される。936・937は体部破片である。938は他の玦状耳飾りと形態が異なり、円環状を呈し、切り込みの整形痕が見受けられる。

石棒は1点出土した(939)。先端部のみ残存する。敲打と研磨で全体を棒状に、また先端部を鋭利に整形している。先端部には線刻が1条巡る。時期的には「男根状石製品」の可能性も考えられるが、県内から出土している男根状石製品とは形態が異なるので、石棒とした。

(5) 動 物 遺 存 体

第Ⅳ章-1(3)にも記したが、貝層の堆積土が斜面下方に流れており、それに伴い、貝層内の動物遺存体(貝類、魚・獸骨)も、その外側へと流出している。これらの動物遺存体については、貝層から離れて、原位置をとどめていないので、遺構外出土遺物とし、簡単に触れておく。

貝層の堆積土が流出した範囲は、IB 6 c、IB 7 e、IB 7 f、IB 7 g、IB 8 g、IB 6 h、IB 8 h、IB 7 j、IC 7 aグリッドであり、概ね貝層の周辺である。動物遺存体は貝層の上面に堆積するⅢ a層から出土している。

貝類は、1,282.4g分出土している。出土状態は貝層の堆積層と同様で、細かい破碎貝が主体であるが、いくつかは種の分かれる貝もある。これらについては、厳密には分類、計測は行っていないが、貝層の堆積層を構成する貝類であり、貝層と同様に、巻貝(スガイ、イシダタミ、クボガイ、コシダカガニガラ、レイシガイ、チヂミボラなど)や二枚貝(イガイ、アサリ、オノガイ、イワガキなど)が多い。小さく割れたイワガキが目立っていた。

魚・獸骨は、どちらも比較的大きい骨が多く、Ⅲ a層を掘り下げるに、大きな骨が散乱した状態で出土している(巻頭カラー写真図版4下参照)。魚・獸骨については分類、集計し、第12表に示した。

魚骨は、スズキ(主上顎骨)、マダイ(主上顎骨、主鰓蓋骨)、タイ科(額骨、主上顎骨、椎骨)、カツオ(椎骨)、マグロ(椎骨)で、貝層から出土したものと同じである。なおマグロ属の椎骨では、比較的大きいものが目立つ傾向が見受けられる。

獸骨は、海棲哺乳類ではイルカ類の他、クジラ目(イルカ類?)の肋骨が出土している。陸棲哺乳類はニホンジカ、シカ(前頭骨、胸椎、腰椎、大腿骨、橈骨、距骨、中足骨、末節骨)やイノシシ(前頭骨、頸骨、上顎骨、下顎骨、歯、胸椎、肋骨、橈骨、尺骨、第3・5中手骨、大脛骨、第2・3中足骨、基節骨、中節骨、末節骨)で貝層と同様である。特に前頭骨、上顎骨、下顎骨や胸椎、腰椎など大きな骨が目立っているが、これらも貝層出土と同様に割られているものがほとんどである。なお出土した第5中手骨で、小動物による噛み痕が残るもののが見つかっている(写真図版89右下)。

鳥類は、種は不明であるが、手根中手骨が出土している。

第12表 遺構外出土魚・獸骨一覧

出土位置・層位	種類	残存部位	点数	内訳/特徴
I B 6c Ⅲa層	マグロ属	椎骨	2	尾椎2
I B 7e Ⅲa層	タイ科	胸骨	1	左
	マグロ属	椎骨	13	椎骨1、尾椎12
I B 7f Ⅲa層	ニホンジカ	前頭骨	1	左(角突起、角座、舌状あり)
	イノシシ	第3中手骨	1	
		未分類	80.2g	
	タイ科	胸骨	1	
		上三頭骨	1	左
	カツオ	椎骨	1	尾椎1
	マグロ属	椎骨	17	尾椎4、尾椎13
	ヒラメ	椎体	1	
	ニホンジカ	頭椎	2	
		前頭骨	1	
		椎骨	1	左(解体痕あり)
		上側骨	1	左(右、2本あり)
	イノシシ	上側骨	1	M3(右)
		下側骨	1	左(左あり)
		脚骨	1	
		尺骨	1	右
		第2中足骨	1	
		第3中足骨	1	
		中足骨	2	
		未分類	92.4g	
I B 8g Ⅲa層	シカ	尺骨	1	左
		未分類	13.8g	
	スマギ	上三頭骨	2	
	マグロ	上側骨	1	左
	タイ科	上三頭骨	1	左
	マグロ属	椎骨	6	尾椎2、尾椎4
I B 6h Ⅲa層	シカ	上胸骨	1	右
		距骨	1	左
		大脳骨	1	近位端
	イノシシ	大歯	1	
		肋骨	1	解体痕あり
		基節骨	1	
	鳥類	手根中手骨	1	
		未分類	361.2g	

出土位置・層位	種類	残存部位	点数	内訳/特徴
	マダイ	主椎骨	1	
	マグロ属	椎骨	10	腹椎1、尾椎9
	クジラ目	肋骨	4	
	シカ	中足骨	1	
		前頭骨	2	
		上側骨	1	右(M1あり)
		歯	1	I1, C1, M3(左) 1
I B 8h Ⅲa層	イノシシ	第3中手骨	2	解体痕あり
		第5中手骨	1	左(小動物の噛み痕あり)
		大脳骨	1	右位端
		中手骨	1	
		基節骨	1	
		中節骨	1	
	イノシシ(未洗浄)	第5中手骨	1	左
		未分類	135.4g	
	タイ科	椎骨	1	尾椎1
	マグロ属	椎骨	2	尾椎2
	シカ	椎骨	1	右
I B 7j Ⅲa層		上側骨	1	
		下側骨	1	
		脚椎	1	
		腕骨	1	
	イノシシ	第3中手骨	1	解体痕あり
		基節骨	1	
		中節骨	1	
		未分類	57.2g	
I C 7a Ⅲa層	イノシシ	大歯	1	

両: 切歯 (1), 大歯 (C), 前臼歯 (P1-P4), 後臼歯 (M1-M3)

(6) 古代以降の遺物

須恵器の甕の破片が1点出土している(940)。

また銭貨が1枚(熙寧元寶)出土している(941)。



第157図 遺構外出土遺物88

第13表 繩文土器観察表

測量番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外觀文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
1	1号住居 床面	深鉢	口～胴上 1/3	口：隆帶 周：刷・削：半裁竹管 状工具による平行 沈線	ナデ	橙 橙	砂・長	大木6 (26.4)	(154)	-	-	-	やや 良好	
2	1号住居 P16内	深鉢	口縁部片	口：隆帶(刻み)、 沈線	ナデ	黒褐 橙	砂・英	大木6	-	-	-	-	不良	
3	1号住居 P139内	深鉢	口縁部片	口：隆帶、沈線	ナデ	にふい黄橙 にふい黄橙	砂・く・長	大木6	-	-	-	外縁口 縁部	やや 不良	
4	1号住居 埋土中	深鉢	胴部片	脇：三角形印文、 沈線、貼付隆帶、 ホタシ状文	ナデ	にふい黄橙 黄橙	砂	大木6 ～7a	-	-	-	-	やや 不良	
5	1号住居 埋土中	深鉢	胴部片	脇：沈線、刺突文、 穂文(RL横)	ナデ	浅黄褐 灰黄褐	砂・く・英	大木6 ～7a	-	-	-	-	不良	
6	1号住居 埋土中	深鉢	胴部片	脇：竹管状工具に よる円形刺突文、 半裁竹管状工具に よる平行沈線	ナデ	橙 にふい黄橙	砂・く	大木6 ～7a	-	-	-	-	不良	
7	1号住居 埋土下位	深鉢	頭部片	口：無文？頭：押 庄文を加えた隆帶	ナデ	にふい黄橙 明黄褐	砂・長	大木6 ～7a	-	-	-	-	不良	
8	1号住居 P16内	深鉢	口縁部片	口：折り返し口縁、 貼付隆帶→穂文 (RL横)	折り返し口 縁、ナデ	黒褐 にふい褐	砂・長	大木7a 新	-	-	-	-	不良	
9	1号住居 埋土中	深鉢	口縁部片	脇：半裁竹管状工 具による刺突文 口：沈線、半裁竹 管状工具による刺 突文	ナデ	灰黄褐 灰黄褐	砂	大木4 ～5a	-	-	-	-	不良	
10	1号住居 埋土中	深鉢	口縁部片	口：半裁竹管状工 具による平行沈線	ナデ	明赤褐 明赤褐	砂・英	大木4 ～5a	-	-	-	-	良好	
11	1号住居 P81内	深鉢	口縁部片	口：半裁竹管状工 具による平行沈線	ナデ	浅黄褐 浅黄褐	く・長	大木4 ～5a	-	-	-	-	良好	
12	1号住居 埋土中	深鉢	口縁部片	口：円環状突起	ナデ	にふい褐 にふい黄橙	砂・く	大木4 ～5a	-	-	-	-	やや 不良	
38	6号土坑 埋土中	深鉢	口～胴上 1/4	脇：貼付隆帶によ る波状文、口：無 文(ナデ)、頭：穂 文(RL横)→貼付隆 帶による波状文	ナデ	にふい黄褐 にふい黄橙	砂	大木4 (16.6)(10.1)	-	-	-	-	不良	
39	6号土坑 埋土中	深鉢	口縁部片	脇：貼付隆帶によ る波状文、口：無 文(ナデ)	貼付隆帶によ る波状文、ナデ	にふい橙 灰黄褐	砂・英	大木4	-	-	-	-	やや 不良	
40	6号土坑 埋土中	深鉢	口～胴上 1/3	脇：貼付隆帶によ るS字状突起 口：無文(ナデ)、頭： 穂文(RL横)→貼付隆 帶	ナデ	にふい黄橙 にふい橙	砂・黒・英	大木4 (19.0)(8.3)	-	-	-	-	やや 不良	
41	6号土坑 埋土中	深鉢	胴部片	脇：穂文(RL横) →貼付隆帶による 円文、貼付隆帶によ る波状文	ナデ	浅黄褐 浅黄褐	砂	大木4	-	-	-	-	不良	
42	6号土坑 埋土中	深鉢	胴部片	脇：穂文(RL横) →貼付隆帶による 波状文、曲線状文	ナデ	にふい橙 橙	砂	大木4	-	-	-	-	良好	
43	6号土坑 埋土中	深鉢	胴部片	脇：穂文(RL横) →貼付隆帶による 波状文、円文	ナデ	灰黄褐 にふい黄橙	砂・英	大木4	-	-	-	-	やや 良好	
44	6号土坑 埋土中	深鉢 片	口～胴部 片	脇：貼付隆帶によ る波状文、口：無 文(ナデ)、頭：穂 文(RL横)→貼付隆 帶による波状文	ナデ	明黄褐 にふい黄橙	砂・英	大木4	-	-	-	-	やや 不良	
45	6号土坑 埋土中	深鉢	口～胴下 2/3	脇：貼付隆帶によ る波状文、口：無 文(ナデ)、頭：穂 文(RL横)→貼付隆 帶	ナデ	にふい黄橙 にふい黄橙	砂・英	大木4	21.0	(17.9)	-	-	やや 不良	

胎土混入物 丸削
砂岩・泥岩 長：長石 英：石英
黑：黑色光沢粒 ナ・チャート・質岩
ク：カリ岩

掲載番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考	
46	6号土坑 埋土中	深鉢	胴部片	胴：繩文（LR横） →貼付縦帶による矢羽根状文、梯子状文、波状文	ナデ	灰褐色	砂・英	大木4	-	-	-		不良		
47	6号土坑 埋土中	深鉢	口縁部片	口：繩文（RL縦） →刺突文を加えた丸足縫合帶	ナデ	灰褐色	砂	大木3 -4	-	-	-		不良		
48	6号土坑 埋土中	深鉢	口縁部片	口：平行沈線による圓錐状文	ナデ	にぶい黄褐色	砂・英	大木3 -4	-	-	-		良好		
49	6号土坑 埋土中	深鉢	胴部片	胴：繩文（RL横） →刺突文を加えた縦帶、貼付縦帶による曲線状文	ナデ	黒褐色	浅黃褐色	砂・英	大木4	-	-	-		不良	
50	6号土坑 埋土中	深鉢	胴部片	胴：平行沈線、中 タン状貼付文	ナデ	灰褐色	砂・く・英	大木6	-	-	-		やや 不良		
51	6号土坑 埋土中	深鉢	口～胴部 片	口：沈線を加えた 縦様の縦帶、平版 竹管状工具による 刺突文。沈線 頭：刺突文を加えた 縦帶、頭：繩文 (RL横)。結節部分 残る	ナデ	にぶい黄褐色	砂・黒・英	大木7a (青)	-	-	-		やや 不良		
52	6号土坑 埋土中	深鉢	口～胴上 1/2	口～胴：單輪踏 体1類（縦縫）	ナデ	にぶい赤褐色	砂	大木5a	(10.2)(17.1)	-	-	-		やや 良好	
53	6号土坑 埋土中	深鉢	口～胴部 片	口～胴：單輪踏 体1類（縦斜）	ナデ	にぶい赤褐色	砂・英	大木5a	-	-	-		やや 不良	補修孔？ 2箇所	
54	6号土坑 埋土中	深鉢	胴下～底	頭：無文（ケズリ →ナデ） 底：敷物压痕	ナデ	浅黃褐色	にぶい黄褐色	砂・く・英	-	-	(124) 100			不良	
55	6号土坑 埋土中	浅鉢	口～底 2/3	骨：突起（1單位） 口～胴上：繩文 (LR横) 胴下： 無文（ケズリ） 底：敷物压痕	ナデ	褐	にぶい褐	砂・英	大木 5a?	12.6	9.7	9.0		やや 良好	
56	6号土坑 埋土中	浅鉢	口～底 2/3	口～胴上：無文 (ナデ、貼付縫合 部残る) 胴下： 繩文による整形痕	ナデ	黒褐色	灰黃褐色	砂・英	大木4 ～5a	14.2	7.3	10.1		不良	
57	5号土坑 埋土中	深鉢	口縁部片	口：沈線、半裁竹 管状工具による刺 突文、押引文	ナデ	黒褐色	砂・英	大木7a	-	-	-		不良		
58	8号土坑 埋土中	深鉢	口縁部片	口：無文（ナデ） →貼付縦帶による波状文、頭：繩文 (LR横)	ナデ	にぶい橙褐色	砂・く・英	大木4	-	-	-		不良		
59	9号土坑 埋土中	深鉢	口～胴部 片	口：無文（脚部の横文） 一部、胴部の横文 頭：沈線を加えた 縦帶、頭：單輪踏 体1類（R縫）	指頭による 整形→ナデ	暗褐色		砂・長	中期	-	-	-		やや 不良	
60	9号土坑 埋土中	深鉢	口縁部片	口：S字状踏痕沈 文→押突文を加えた 縦帶、頭：繩文 (LR横) →押突 文を加えた縦帶	ナデ	褐	にぶい橙褐色	織維・砂・ く	大木2b	-	-	-		良好	
70	貝層 67層	深鉢	口～胴下 1/4	口：半裁竹管状工 具による押引文 頭：繩文（RL横）	ナデ	にぶい橙褐色	織維・砂・ 英	大木2b -3	(16.6)(22.8)	-	-	-		不良	
71	貝層 36層	深鉢	口～胴部 片	口～胴：繩文（RL 横）	ナデ	にぶい黄褐色	織維・砂・ 雲	大木2a	-	-	-		やや 不良		
72	貝層 22層	深鉢	口縁部片	口：結節回転文 (RL横)	ナデ	橙褐色	織維・砂・ 英	大木2a	-	-	-		やや 不良		
73	貝層 21層	深鉢	口縁部片	口：結節回転文 (LR横)	ナデ	暗褐色	明黄褐色	織維・砂・ 英	大木2a	-	-	-		やや 不良	
74	貝層 30層	深鉢	口縁部片	口：繩文（LR横） 結節部分残る	ナデ	灰褐色	灰黃褐色	砂・英	大木3	-	-	-		不良	

胎土斑人物 丸削
砂：砂岩・泥岩 長：長石 短：石英 黑：雲母
黑：黑色光沢質 手：チャート・頁岩 く：くさり輝

掲載番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考	
75	貝層 61層	深鉢	口縁部片	口：無文（ナデ） 脇：縦文（LR横）	ナデ	に赤い褐 橙	雲・長	大木3	-	-	-	-	不良		
76	貝層 5層	深鉢	口縁部片	口：押印文を加えた 縦帶、口～脇 横位のS字状進鎖 沈文？	ナデ	に赤い黄褐 橙	砂・英	大木2b	-	-	-	-	やや 良好		
77	貝層 28層	深鉢	口縁部片	口：押印文を加えた 縦帶	ケズリ→ ナデ	黒褐	砂	大木2b	-	-	-	-	不良		
78	貝層 41層	深鉢	口縁部片	口：縦文（LR横） →貼付縦帶→削み	ナデ	に赤い黄褐 橙	砂・英	大木2b	-	-	-	-	良好		
79	貝層 61層	深鉢	口縁部片	口：押印文を加えた 縦帶 脇：結節 回転文（縦文RL 横）	ナデ	暗褐 に赤い褐	織維？・英	大木2b	-	-	-	-	やや 不良		
80	貝層 41層	深鉢	胴部片	脇：縦文（LR斜 横）	ナデ	に赤い黄褐 橙	織維・砂 英	大木2b ~3	-	-	-	-	やや 不良		
81	貝層 上面	深鉢	胴部片	脇：結節回転文（ RL横）	ナデ	橙 明黄褐	砂・英	大木2b ~3	-	-	-	-	外側 胴部	やや 不良	
82	貝層 上面	深鉢	胴部片	脇：縦文（RL横、 結節部分残る）	ナデ	橙 に赤い黄褐	砂・英	大木2b ~3	-	-	-	-	良好		
83	貝層 61層	深鉢	胴部片	脇：縦文（RL横、 結節部分あり）	ナデ	黒褐 明黄褐	砂・英	大木2b ~3	-	-	-	-	不良		
84	貝層 62層	深鉢	胴部片	脇：縦文（RL横、 結節部分残る）	ナデ	に赤い黄褐 灰黄褐	砂・英	大木2b ~3	-	-	-	-	やや 不良		
85	貝層 67層	深鉢	口～胴部 片	口：押印文を加えた 縦帶 口～脇 横位のS字状進鎖 沈文？	ナデ	指頭による 整形→ナデ	橙 に赤い褐	織維、砂 雲	大木2b	-	-	-	-	良好	
86	貝層 36層	深鉢	胴部片	脇：押印文を加えた 縦帶、横位のS 字状進鎖沈文？	ナデ	に赤い褐 暗褐	織維・砂 雲	大木2b	-	-	-	-	やや 不良		
87	貝層 30層	深鉢	胴部片	脇：横位のS字状 進鎖沈文	ナデ	に赤い黄褐 褐灰	砂・黒	大木2b	-	-	-	-	やや 不良		
88	貝層 40層	深鉢	胴部片	脇：横位のS字状 進鎖沈文	ナデ	に赤い黄褐 に赤い黄褐	織維・長	大木2b	-	-	-	-	良好		
89	貝層 62層	深鉢	胴部片	脇：横位のS字状 進鎖沈文	ナデ	褐 に赤い黄褐	砂	大木2b	-	-	-	-	やや 不良		
90	貝層 38層	深鉢	口～胴部 片	口：無文（ナデ） 脇：押印文を加えた 縦帶 脇：縦文（ RL横）→押印文 を加えた縦帶	ナデ	黒褐 に赤い褐	砂・英	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
91	貝層 22層	深鉢	口縁部片 (口野部 欠損)	口：無文（ナデ） 脇：押印文を加えた 縦帶 脇：縦文（ RL横）→押印文 を加えた縦帶	ナデ	黒褐 暗赤褐	砂・英	大木3	-	-	-	-	やや 良好		
92	貝層 43層	深鉢	口～胴部 片	口：無文 脇：縦文 (RL横) → 削み を加えた貼付縦帶	ナデ	黒褐 黒褐	砂・英	大木3	-	-	-	-	不良		
93	貝層 22層 35層	深鉢	口～胴部 (部分的 に欠損)	口～胴：縦文（R 横）、多段化する 結節部分残る) 口：平行沈継、沈 継による円文	ナデ	黒褐 黒褐	砂・英	大木3	16.1	(20.2)	-	-	やや 不良		
94	貝層 41層 47層	深鉢	口～胴下 1/3	口～胴：縦文（LR 横）。結節部分が多 段化して残る) 口：平行沈継、沈 継による円文	ナデ	に赤い褐 に赤い黄褐	織維？・ 砂・英	大木3	(18.0)	(19.3)	-	-	外側口 縁部内 側胴部	やや 不良	
95	貝層 45層	深鉢	口～胴部 片	脇：押印文 口： 無文（ナデ） 脇： 縦文（LR横） → 平行沈継による山 形沈文	ナデ	暗褐 黒褐	砂・く・英	大木3	-	-	-	-	不良		
96	貝層 6層	深鉢	口縁部片	口：平行沈継によ る山形沈文	ナデ	浅黄褐 に赤い褐	砂・英	大木3	-	-	-	-	良好		
97	貝層 33層	深鉢	口～胴部 片	口～胴：縦文（RL 横） 口：平行沈 継による曲線沈文	ナデ	指頭による 整形→ナデ	黒褐 黒褐	砂・雲	大木3	-	-	-	-	不良	

胎土混入物 例
 砂岩・泥岩・長石・長石英・石英・雲母
 黑：黑色光沢質 ナ：チャート・頁岩
 ク：くさり輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考	
98	貝層 9層	深鉢	口縁部片	口：半裁竹管状工具による押引文、平行沈線による山形状文	ナデ	にぶい黄橙 浅黄橙	砂・英	大木3	-	-	-	-	-	良好	
99	貝層 6層	深鉢	口縁部片	口：縦文 (LR ? 横) →平行沈線	ナデ	黒褐 にぶい黄橙	黒・英	大木3	-	-	-	-	-	やや不良	
100	貝層 67層	深鉢	口縁部片	口：平行沈線による山形状文、刺突文	ナデ	明黄褐 にぶい黄橙	砂・雲	大木3	-	-	-	-	-	不良	
101	貝層 17層	深鉢	口縁部片	口：縦文 (RL.縦) →平行沈線による山形状文	ナデ	暗褐 灰黄褐	砂・英	大木3	-	-	-	-	-	不良	
102	貝層 30層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (RL横) →平行沈線による山形状文	ナデ	褐灰 にぶい黄橙	砂・英	大木3	-	-	-	-	-	やや不良	
103	貝層 36層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (RL横) →平行沈線による山形状文	ナデ	黒褐 にぶい褐	砂・雲	大木3	-	-	-	-	-	やや不良	
104	貝層 4層 6層	深鉢	口～胴上 2/3	脇：1箇所段差 口：縦位の短い沈線 脇：縦文 (RL横) →沈線による波状文	ナデ	褐灰 黒褐	砂・英	大木3	20.8 (15.9)	-	-	-	-	-	不良
105	貝層 1層 37層 60層	深鉢	口～胴上 2/3	口：疊帶、縦位の刺突文 脇：縦位の刺突文を加えた短い沈線 脇：横文 (L横)	ナデ	黒褐 灰褐	砂・英	大木3	23.1 (12.9)	-	-	-	-	-	不良
106	貝層 37層	深鉢	口～胴上 1/3	口～胴：縦文 (LR 横) 脇：刺突文	ナデ	黒褐 にぶい黄橙	織維?・ 砂・英	大木3	(21.8) (10.9)	-	-	-	-	-	不良
107	貝層 60層	深鉢	口～胴部 片	口：無文 (ナデ) 脇：縦文 (LR横) →沈線による山形状文	ミガキ	にぶい黄橙 にぶい黄褐	砂・く・英	大木3	-	-	-	-	-	-	良好
108	貝層 32層	深鉢	口縁部片	口：縦位の沈線	ナデ	黒褐 黒褐	砂・英	大木3	-	-	-	-	-	-	不良
109	貝層 23層	深鉢	口縁部片	口：縦文 (RL横) →縦位の沈線	ナデ	にぶい褐 黒褐	織維・英	大木3	-	-	-	-	-	-	不良
110	貝層 28層	深鉢	口縁部片	口：横位の沈線	ナデ	黒褐 にぶい黄橙	く・英	大木3	-	-	-	-	-	-	やや不良
111	貝層 1層	深鉢	胴部片	脇：沈線による格子状文	ナデ	浅黄 浅黄	黒・砂・長	大木3	-	-	-	-	-	-	やや良好
112	貝層 51層	深鉢	口縁部片	口：沈線による山形状文、円文	ナデ	黒褐 浅黄褐	砂	大木3	-	-	-	-	-	-	良好
113	貝層 22層	深鉢	口縁部片	口：縦文 (LR横) →沈線による渦巻書き文、円文	ナデ	黒褐 にぶい黄褐	砂・英	大木3	-	-	-	-	-	-	やや不良
114	貝層 13層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (LR横) →沈線による円文	ナデ	黒褐 にぶい黄橙	砂・長	大木3	-	-	-	-	-	-	やや不良
115	貝層 48層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (LR横) →沈線による円文	ナデ	黒褐 にぶい黄褐	砂・英	大木3	-	-	-	-	-	-	やや良好
116	貝層 21層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (LR横) →短引文を加えた短い沈線による渦巻書き文	ナデ	黒褐 にぶい黄褐	砂・英	大木3?	-	-	-	-	-	-	やや良好
117	貝層 41層	深鉢	胴部片	脇：横位のS字状連鎖沈文 →押引文を加えた疊帶	ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄褐	砂・雲	大木2b ～3	-	-	-	-	-	-	良好
118	貝層 11層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (RL ? 横) →短引文、刺突文を加える	ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄褐	砂・英	大木4?	-	-	-	-	-	-	やや不良
119	貝層 上面	深鉢	口～胴 1/3	脇：山形突起 口：無文 脇：縦文 (LR横) →貼付疊帶による格子状文、ミガキ	ナデ	貼付疊帶による格子状文、ミガキ	灰黄褐 にぶい黄褐	砂・英	大木4	-	-	-	-	-	不良 AMS 国定No.20

胎土混入物 例
 砂：砂質、泥質
 黒：黒色光沢質
 ナデ：ナデ質
 ミガキ：ミガキ質
 細：細粒質
 長：長石質
 石英：石英質
 石英：石英質
 黒：黒色光沢質
 ナデ：ナデ質
 ク：くさり輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
120	貝層 28層	深鉢	口～胴上 1/4	口：無文（ナデ） 頭：貼付縁帯による波状文、胴：貼付縁帯による曲線状文	貼付縁帯による曲線状文、波状文、ナデ	に赤い褐 浅黄橙	砂・英	大木4	—	—	—	—	良好	
121	貝層 45層 46層 48層	深鉢	口～胴下 1/3	口：無文（ナデ） 頭～胴：繩文（LR横）→貼付縁帯による波状文	貼付縁帯、ナデ	に赤い黄橙 浅黄橙	砂・英	大木4	(14.1)	(139)	—	—	やや 不良	
122	貝層 7層	深鉢	口～胴上 1/3	口：無文（ナデ） 胴～頭：繩文（LR横）→貼付縁帯による波状文、曲線状文	ナデ	に赤い黄橙 に赤い黄橙	砂・英	大木4	—	—	—	—	不良	補修孔 1箇所
123	貝層 45層	深鉢	口～胴上 1/4	唇：空起 口：無文（ナデ） 頭～胴：貼付縁帯による波状文、頭：繩文（LR横）	ナデ	に赤い褐 褐灰	砂	大木4	—	—	—	—	不良	
124	貝層 上面	深鉢	口～胴部 片	唇：円環状の貼付 縁帯 口：無文 (ナデ) 頭：貼付 縁帯による波状文 頭：繩文（LR横）	ナデ	に赤い黄橙 に赤い黄橙	砂・英	大木4	—	—	—	—	やや 不良	
125	貝層 上面	深鉢	口縁部片	口：貼付縁帯による 波状文	貼付縁帯、 ナデ	黒褐色 明褐色	黒	大木4	—	—	—	—	不良	
126	貝層 32層	深鉢	胴部片	頭：繩文（LR横） →貼付縁帯による 波状文、曲線状文	ナデ	褐 黑褐	砂・英	大木4	—	—	—	—	不良	
127	貝層 45層	深鉢	胴部片	頭：繩文（LR横） →貼付縁帯による 波状文、曲線状文	ナデ	浅黄橙 淡黃	砂・英	大木4	—	—	—	—	不良	
128	貝層 45層	深鉢	胴部片	頭：繩文（RL横） →貼付縁帯	ナデ	に赤い黄橙 に赤い黄橙	砂・英	大木4	—	—	—	—	不良	
129	貝層 30層	深鉢	胴部片	頭：繩文（LR縦） →貼付縁帯による 円文、曲線状文	ナデ	黒褐色 黒褐	砂・英	大木4	—	—	—	—	不良	
130	貝層 上面	深鉢	胴部片	頭：繩文（LR横） →貼付縁帯	ナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂・黒	大木4	—	—	—	—	不良	
131	貝層 12層	深鉢	胴部片	頭：繩文（RL縦） →貼付縁帯（部分的 に刻み加える）	ナデ	黒褐色 に赤い黄橙	砂・英	大木4	—	—	—	内部胴部	やや 不良	
132	貝層 上面	深鉢	口縁部片	唇：貼付縁帯による 波状文 口：繩文（LR横）・結節 部残る？	ナデ	灰黃褐色 に赤い黄橙	砂・黒・長	大木4	—	—	—	—	良好	
133	貝層 上面	深鉢	口～胴下 1/3	唇：貼付縁帯による 波状文 口～ 頭：繩文（LR縦） 口：貼付縁帯による 波状文	ナデ	に赤い黄橙 に赤い黄橙	砂・く・長	大木4	(29.5)	(227)	—	—	やや 良好	
134	貝層 23層	深鉢	胴部片	頭：繩文（LR横） →貼付縁帯	ナデ	淡黃 淡黃	砂・英	大木4	—	—	—	—	やや 良好	
135	貝層 上面	深鉢	口～胴部 片	口～頭：繩文（RL 縦・斜） 口：幅広 の貼付縁帯による 波状文	ナデ	に赤い黄橙 に赤い黄橙	黒・英	大木4	—	—	—	—	やや 不良	
136	貝層 上面	深鉢	口縁部片	口～頭：繩文（LR 横） 口：幅広の 貼付縁帯によるY 字状	ナデ	に赤い褐 褐	英	大木4	—	—	—	—	不良	
137	貝層 上面	深鉢	口～胴下 (部分的に欠損)	唇：満巻状突起、 波状突起 口：無 文(ナデ) 脊 頭部：繩文（LR縦・斜） 貼付縁帯による 波状文、梯子状 文、曲線状文	ナデ	に赤い黄橙 に赤い黄橙	砂・英	大木4	27.0	(26.4)	—	—	やや 不良	

胎土混入物 凡例

砂：砂岩・泥岩
長：長石
英：石英
基：葉基
黒：黑色光沢質
チ：チャート・質質
く：くさり織

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
138	貝層 上面	深鉢	口縁部片	口：繩文 (RL 横) → 貼付縁带による三角形文	ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄褐	砂	大木4	-	-	-		やや 不良	
139	貝層 上面	深鉢	胴部片	頭：繩文 (RL 横?) → 貼付縁带による格子状文	ナデ	黒褐 黒褐	砂・英	大木4	-	-	-		やや 不良	
140	貝層 30層 -40層	深鉢	口～胴下 1/3	唇：貼付縁带による波状文、曲線状文 口：縫合縫 頭：繩文 (LR 横) → 貼付縁带による梯子状文、曲線状文	ナデ	灰黄褐 にぶい黄褐	砂・英	大木4	(24.4)	(206)	-		補修孔 1箇所 AMS 測定No.19	不良
141	貝層 上面	深鉢	口縁部片	口：刺突文を充填した円形突起、口 ～頭：繩文 (RL 横) → 貼付縁带	ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐	砂・黒・英	大木4	-	-	-		やや 不良	
142	貝層 上面	深鉢	口縁部片	口：刺突文を充填した円形突起、沈 縫	ナデ	にぶい黄褐 浅黄褐	砂・英	大木4	-	-	-		やや 不良	
143	貝層 46層	深鉢	口～胴部 片	口：繩文 (ナデ) 頭：沈縫による锯 齒状文	ナデ	黒褐 灰黄褐	砂・英	大木5a	-	-	-		不良	AMS 測定No.18
144	貝層 32層	深鉢	口縁部片	口：無文 (ナデ) 頭：沈縫による锯 齒状文	ナデ	にぶい黄褐 にぶい褐	鐵錆・砂・ 雲	大木5a	-	-	-		良好	
145	貝層 5層	深鉢	口縁部片	口：繩文 (RL 横) → 沈縫による锯 齒状文	ナデ	褐灰 にぶい黄褐	砂・英	大木5a	-	-	-		やや 良好	
146	貝層 9層	深鉢	口縁部片 (口部欠損)	口：沈縫による锯 齒状文、繩文 (LR 横)	ナデ	黒褐 黒褐	砂・英	大木5a	-	-	-		不良	
147	貝層 上面	深鉢	口～胴部 片	唇：上面锯齒状突 起、口：無文 頭：單輪絆条体1 類 (L斜) → 沈縫 による锯齒状文	ケズリ→ ナデ	にぶい黄褐 にぶい褐	砂・英	大木5a	-	-	-		やや 不良	
148	貝層 上面	深鉢	口縁部片	唇：刺突文 口： 刺突文、繩文 (RL 横) → 沈縫による 锯齒状文、刺突文 を加えた縁帶	ナデ	にぶい褐 にぶい褐	砂・長	大木5a	-	-	-		良好	
149	貝層 上面	深鉢	胴部片	頭：繩文 (RL 横) → 沈縫による锯 齒状文	ナデ	明黄褐 にぶい黄褐	砂・英	大木5a	-	-	-		やや 不良	
150	貝層 37層	浅鉢 (鉢?)	口～胴下 1/2	唇：円形刺突文を加 えた突起、浅鉢 頭：口～頭：無文 (ケズリ→ナ デ)	ナデ	にぶい黄褐 黒褐	砂・英	大木4 ～5a	(14.3)	(119)	(110)		不良	
151	貝層 12層	深鉢	口縁部片	口：刺み 頭：沈縫	ナデ	褐 褐	砂・長	-	-	-	-	やや 不良		
152	貝層 上面	深鉢	口縁部片	口～胴：單輪絆条 体1類 (RL 横)	ナデ	灰褐 にぶい黄褐	砂・黒・長	大木5a	-	-	-		やや 良好	
153	貝層 上面	深鉢	口～胴部 片	唇：刺み 口～頭：繩文 (RL 横) → ナデ	ナデ	指頭による 整形→ナデ にぶい黄褐 灰黄褐	黒・英	大木5a	-	-	-		やや 不良	
154	貝層 上面	深鉢	胴部片	口～頭：單輪絆条 体1類 (R斜)	ナデ	褐 にぶい褐	砂・英	大木5a	-	-	-		やや 不良	
155	貝層 1層	深鉢	口縁部片	唇：縁帶による波 状文、口～頭：繩 文 (LR 横)	ナデ	暗褐 にぶい黄褐	砂・英	大木5a	-	-	-		やや 良好	
156	貝層 上面	深鉢	胴部片	頭：單輪絆条体1 類 (LR 横)	ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐	砂・長	大木5a	-	-	-		やや 不良	
157	貝層 上面	深鉢	胴部片	頭：單輪絆条体1 類 (LR 横)	ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐	く・長	大木5a	-	-	-		やや 不良	

出土品名：凡例
 種：神奈・泥岩・長石・石英・石英岩
 長：神奈・泥岩・長石・石英・石英岩
 黒：黑色光沢
 手：チャート・良質
 く：くさり輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	内面調査 (外側)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考	
158	貝層 67層	深鉢	口縁部片	口：ケズリ(擬) →沈線	ナデ	暗褐色 にぶい黄橙	砂・雪	大木5a	-	-	-	-	良好		
159	貝層 41層 49層 54層	深鉢	胴部片	脇：押圧文を加えた 縦帶。継位沈 線。ケズリ痕	ミガキ	にぶい黄橙 灰黃褐	黒・英	大木 5a?	-	-	-	-	不良		
160	貝層 35層	深鉢	口～胴部 片	口：沈線 脇：縦文 (LR? 橫)	ケズリ→ ナデ	黒褐色 にぶい黄橙	砂	大木 5a?	-	-	-	-	良好		
161	貝層 19層 5層 45層 48層 上面	深鉢	口～底 (部分的 に欠損)	口：沈線による弧 状文、波状文 脇：縦文 (RL横)	ナデ	にぶい褐色	砂・く・英	大木6	23.0	20.1	12.5	内面胴部	やや 不良		
162	貝層 30層	深鉢	口縁部片 (口唇部 欠損)	口：横位の押引文	ナデ	にぶい黄橙 灰黃褐	砂・チ・雪	大木6	-	-	-	-	やや 不良		
163	貝層 66層	深鉢	口縁部片	口：縦帶	ナデ	明黄褐 板	砂・長	-	-	-	-	-	やや 不良		
164	貝層 9層	深鉢	口縁部片	口：沈線	ナデ	暗褐色	砂・英	-	-	-	-	-	やや 不良		
165	貝層 5層	深鉢	口縁部片	口：縦文 (RL横)	ナデ	橙 橙	砂・英	-	-	-	-	-	良好	内外面 に朱?	
166	貝層 上面	深鉢	口縁部片	口：沈線による区 画文、報版の短辺文	ナデ	黒褐色 にぶい黄橙	砂・英・雪	大木7a (吉)	-	-	-	-	不良	AMS 测 定No.17	
167	貝層 46層	深鉢	口縁部片	口：無文 脇：縦 (LR横) →沈 線による曲線彎曲	ナデ	にぶい黄橙 浅黄橙	砂・く・英	大木7a (新)	-	-	-	-	良好		
168	貝層 上面	深鉢	胴部片	脇：縦文 (LR斜 傾)	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂・英	-	-	-	-	-	不良		
169	貝層 67層	深鉢	口～胴部 片	口：無文 脇：縦文 (RL横)	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	黒・英	-	(11.0)	(7.6)	-	-	不良		
170	貝層 32層	深鉢	胴1/2	脇：縦文 (LR傾 斜)	ナデ	橙 黑褐色	砂・英	-	-	(9.5)	-	-	やや 不良		
171	貝層 上面	深鉢	胴部片	脇：縦文 (RL傾 斜)	ナデ	褐 明褐	砂・英	-	-	-	-	-	不良		
172	貝層 上面	深鉢	胴下～底 1/4	脇：縦文 (RL斜 度：敷物仕底)	ナデ	橙 灰黃褐	砂・英	-	-	(9.5)	(16.4)	-	不良		
173	貝層 28層 36層	深鉢	胴下～底	脇下：縦文 (RL 横)	ナデ	にぶい黄褐色 黒褐色	砂・英	-	-	(10.6)	7.6	-	不良		
174	貝層 上面	深鉢	胴下～底 1/3	脇：縦文 (RL斜)	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄褐色	砂・英	-	-	(9.2)	(12.2)	内面胴 部～底	やや 良好		
268	I B7g Ⅲa層	深鉢	口～胴下 2/3	口～脇：縦文 (LR 横) 結節部分が多 段化して残る)	ナデ	にぶい褐色 橙	纖維・ 砂・英	大木2a	19.9	(18.9)	-	-	-	やや 不良	
269	I B8b Ⅰ層	深鉢	口縁部片	口：縦文 (LR横) 結節部分残る)	ナデ	灰褐色 にぶい褐色	纖維・ 砂・英・雪	大木2a	-	-	-	-	-	良好	
270	I B6f Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：2段の刺突文	ナデ	黒褐色 灰黃褐	砂・雪	大木2a ～2b	-	-	-	-	-	不良	
271	I B3a Ⅱ層	深鉢	口縁部片	口～脇：縦文 (LR 横) (口縁部の結節 部分残る) 脇：押 圧文を加えた縦帶	ナデ	にぶい黄褐色	纖維・ 砂・長・英	大木2a	-	-	-	-	-	やや 不良	
272	I B7g Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：縦帶、斜位の 刻込縦。半裁竹管 状工具による平行 刻込文?	ナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	纖維・ 黒・長・砂	大木2b	-	-	-	-	-	良好	
273	I B7i Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：押圧文を加え た縦帶。竹管状工 具による円形刻 込文? 脇：S字状 刻込縦北文?	ナデ	にぶい黄褐色 明褐	纖維・ 砂・長	大木2b	-	-	-	-	-	やや 良好	
274	I B7g Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：押引文を加え た縦帶。竹管状工 具による円形刻 込文? 脇：S字状 刻込縦北文?	ナデ	黒褐色 にぶい褐色	纖維・ 砂・く	大木2b	-	-	-	-	-	やや 不良	

胎土混入物：凡例
砂：砂質・泥質 長：長石 黒：石英 薄：雲母
黒：黑色光沢質 チャート：頁岩
く：くさり繊

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考	
275	I B5g III層	深鉢	口縁部片	口：平行沈線、S字連鎖沈文	ナデ	褐灰 にぶい黄褐色	砂・英	大木2b	-	-	-	-	不良	AMS測定No23	
276	I B7i III層	深鉢	胴部片	脛：横位のS字状 連鎖沈文	ナデ	橙 にぶい黄褐色	織維・砂・ 英	大木2b	-	-	-	-	やや 良好		
277	I B5g III層	深鉢	胴部片	脣：横位のS字状 連鎖沈文	ナデ	にぶい黄褐色 黒褐色	織維・砂・ 英	大木2b	-	-	-	胴部内 外側	不良		
278	I B7b III層	深鉢	胴部片	脣：横位のS字状 連鎖沈文	ナデ	灰褐色	織維・黑・ 雲	大木2b	-	-	-	-	やや 不良		
279	I B7g III層	深鉢	胴部片	脣：單軸筋条体6 類(?)	ナデ	にぶい黄褐色	砂	大木2b -3	-	-	-	-	やや 良好		
280	I B3a II層	深鉢	胴部片	脣：單軸筋条体5 類(R)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・く	大木2b -3	-	-	-	-	やや 良好		
281	I B7i III層	深鉢	口縁部片	口：沈線による山 形狀文	指頭による整形→ナデ	灰黃褐色	にぶい黄褐色	砂・英	大木3	-	-	-	-	不良	
282	I A4f II層	深鉢	口縁部片	口：織文(LR横) →平行沈線による山 形狀文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
283	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口：ナデ 脣：沈 線による山形狀文	ナデ	灰黃褐色 浅黃褐色	砂・英	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
284	I B7i III層	深鉢	口縁部片	口：平行沈線によ る山形狀文 脣： 織文(R横)	ナデ	黑褐色	織維・砂・ 英	大木3	-	-	-	-	不良		
285	I B7g III層	深鉢	胴部片	脣：半裁竹管状工 具による沈線、織文 (LR版)	指頭による整形→ナデ	灰黃褐色 檻	砂・雲	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
286	I C3f II層	深鉢	胴部片	脣：平行沈線によ る山形狀文、曲線 狀文	ナデ	にぶい指 檻	砂・長・雲	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
287	I B6f III層	深鉢	胴部片	脣：刻みを加えた 貼付隆帶、平行沈 線	ナデ	黑褐色 黒褐色	砂・英	大木3	-	-	-	-	不良		
288	I A6g III層	深鉢	口縁部片	口：平行沈線によ る断面状文 脣： 押引文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木3	-	-	-	-	不良		
289	I B8h I層	深鉢	胴部片	脣：押引文による 山形狀文	ミガキ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・く	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
290	I B7f III層	深鉢	胴部片	脣：織文(LR横) →平行沈線による 山形狀文	ナデ	灰黃褐色 黒褐色	砂・英	大木3	-	-	-	-	不良		
291	I B7g III層	深鉢	胴部片	脣：沈線	ナデ	にぶい、橙灰 黄褐色	砂・く	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
292	I B7g III層	深鉢	胴部片	脣：平行沈線によ る強状文	ナデ	にぶい橙 にぶい	砂・英	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
293	I B7j III層	深鉢	口縁部片	口：平行沈線によ る強状文 口 脣：刻みを加えた 貼付隆帶	ナデ	灰黃褐色 灰黃褐色	織維・砂・ 英	大木3	-	-	-	-	不良		
294	I B7g III層	深鉢	胴部片	沈線による円文	ナデ	黑褐色 にぶい黄褐色	砂・英・く	大木3	-	-	-	-	不良		
295	I B7f II層	深鉢	胴部片	脣：織文(LR横) →沈線による円 文、波状文	ナデ	浅黃褐色 浅黃褐色	砂・英	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
296	I B3a II層	深鉢	口縁部片	口→脣：織文(LR横) →沈線による圓 文、波状文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい橙	砂・長・英	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
297	I B7g III層	深鉢	胴部片	脣：織文(LR横・ 斜)→刻みを加えた 貼付隆帶	ナデ	黑褐色 灰黃褐色	砂・英	大木3	-	-	-	-	やや 不良		
298	I B7i III層	深鉢	口縁部片	口→脣：織文(LR横) →沈線による圓 文、波状文	ナデ	橙 黒褐色	砂・英	大木3	-	-	-	-	不良		
299	I B7f III層	深鉢	胴部片	脣：織文(LR横)、 脣位の短沈線、沈 線による波状文	ナデ	黑褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木3	-	-	-	-	不良		

胎土記載物 八角
砂・砂質・泥岩・長石・石英・石英
雲母・雲母
黒・黑色光沢物 チ・チャート・頁岩
く・くさり輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
300	I B7g III層	深鉢	胴部片	胴：縦文 (RL横) →沈線。腹位の短 沈線	ナデ	灰黃褐色 黒褐	砂・英	大木3	-	-	-		やや 不良	
301	I B7j III層	深鉢	胴部片	胴：縦文 (LR横) →沈線による曲線 状文	ナデ	褐灰 褐	砂・雲	大木3	-	-	-		不良	
302	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口：縦文 (RL横?) →沈線によるクラ ンク状文、円文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木3?	-	-	-		やや 不良	
303	I B8g I層	深鉢	口縁部片 (口唇部 欠損)	口：爪形文、胴： 縦文 (RL横)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂	大木3?	-	-	-		不良	
304	I D5a III層	深鉢	口縁部片	胴：貼付縦帯によ る波状文、口：無 文 (ナデ) 胴： 縦文 (LR横) → 貼付縦帯による波 状文、曲線状文	ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐色	砂・く・英	大木4	-	-	-		不良	
305	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口：無文、頭：刻 みを加えた貼付縦 帯 胴：縦文 (LR 横) → 貼付縦帯による波 状文	ナデ	明黄褐色 にぶい黄褐色	砂・長	大木4	-	-	-		やや 不良	
306	I B6f III層	深鉢	口縁部片	胴：貼付縦帯 (ほ ぼ欠損) 口：無 文 (ナデ) 頭： 押印文を加えた貼 付縦帯 胴：縦文 (LR横) → 貼付縦帯による波 状文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木4	-	-	-		良好	
307	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口～胴：縦文 (LR 横) →貼付縦帯	ナデ	にぶい黄褐色 黒褐	砂・英	大木4	-	-	-		不良	
308	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口：無文 (ナデ) 胴：縦文 (LR横) →貼付縦帯による波 状文、曲線状文	ナデ	明赤褐色 黒褐	砂・雲	大木4	-	-	-		やや 不良	
309	I B6f III層	深鉢	口縁部片	口：貼付縦帯によ る波状文 →縦文 (LR横) →貼付縦 帯による波状文、 曲線状文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	英	大木4	-	-	-		不良	
310	I B7g III層	深鉢	胴部片	胴：縦文 (LR横) →貼付縦帯による 波状文、曲線状文	ナデ	黒褐 にぶい黄褐色	砂・英	大木4	-	-	-		不良	
311	I B7h III層	深鉢	胴部片	胴：縦文 (LR横) →貼付縦帯による 波状文、曲線状文	ナデ	にぶい黄褐色	砂・く・英	大木4	-	-	-		やや 良好	
312	I B7e II層	深鉢	口縁部片	口：貼付縦帯によ る波状文、曲線状 文	ナデ	黄褐色 にぶい黄褐色	砂・く	大木4	-	-	-		やや 不良	
313	I B7g III層	深鉢	胴部片	胴：縦文 (RL横?) →沈線による波状 文、曲線状文	ナデ	黒褐 黒褐	砂・英	大木4	-	-	-		やや 良好	
314	I B8e II層	深鉢	胴部片	胴：縦文 (LR横) →貼付縦帯による 波状文	ナデ	にぶい褐 灰黃褐色	砂・英	大木4	-	-	-		やや 不良	
315	I B7g III層	深鉢	胴部片	胴：附加条縦文 (L 横) →貼付縦帯によ る波状文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木4	-	-	-		やや 不良	
316	I B7g III層	深鉢	口縁部片	胴：貼付縦帯によ る波状文、口：縦文 (RL横)、貼付 縦帯による波状文	ナデ	黒褐 にぶい黄褐色	砂・英	大木4	-	-	-		不良	
317	I B7g III層	深鉢	胴部片	胴：縦文 (RL横?) →貼付縦帯による 波状文、刺突文	ナデ	灰白 灰黃褐色	砂・長	大木4	-	-	-		やや 不良	
318	I B3a II層	深鉢	口縁部片	口：貼付縦帯によ る波状文	ナデ	黒褐 黒褐	砂・英	大木4 ~5a	-	-	-	内面胴 部	不良	

胎土混入物：凡例
 砂：砂質、泥質：長石、英、石英、雲母
 黒：黑色光沢質
 く：くさり輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
319	I A4g Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：肥厚口縁（縹文LR横）；脇：縹文（LR横）→貼付縦帯による波状文	ナデ	にぶい黄 灰黄褐	砂・く・長	大木4	—	—	—		やや 良好	
320	I B8h I層	深鉢	口縁部片	脇：円環状突起 口：無文（ケズリナメ）；脇：縹文（LR横）→貼付縦帯による波状文	ナデ	にぶい黄 にぶい黄	砂・英	大木4	—	—	—		やや 不良	
321	I B7g Ⅲ層	深鉢	口～胴部 片	口：無文（ナデ）；脇：縹文（LR横）→貼付縦帯による波状文	ナデ	灰黄褐 浅黄褐	砂・英	大木4	—	—	—		やや 不良	
322	I B8h I層	深鉢	胴部片	脇：縹文（RL横）→貼付縦帯による波状文、曲線状文	ナデ	灰褐 黒褐	砂・英	大木4	—	—	—		不良	
323	I C4c Ⅲ層	深鉢	口～胴部 片	口～脇：縹文（RL横）→貼付縦帯による波状文、曲線状文	ナデ	黒褐 黒褐	砂・英	大木4	—	—	—		不良	
324	I C3b II層	深鉢	口～胴部 片	口～脇：縹文（RL横）→貼付縦帯による曲線状文、波状文	ナデ	黒褐 にぶい黄褐	砂・英	大木4	—	—	—		不良	
325	I B7g Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口～脇：縹文（LR横）→沈泥による波状文、貼付縦帯	ナデ	灰黄褐 にぶい黄	砂・英	大木4	—	—	—		やや 不良	
326	I A4g II層	深鉢	口縁部片	脇：押庄文；口～脇：縹文（RL横）→貼付縦帯による波状文	ナデ	橙 橙	砂・英	大木4	—	—	—		やや 不良	
327	I C3a II層	深鉢	口縁部片	脇：上面円形の突起；貼付縦帯による波状文；口：縹文（LR横）→幅広の貼付縦帯	ナデ	にぶい黄 明黄褐	砂・く・英	大木4	—	—	—		やや 不良	
328	I C3e II層	深鉢	胴部片	脇：縹文（LR縦・斜）、幅広の貼付縦帯（菱形）	ナデ	橙 明黄褐	砂・英	大木4	—	—	—		やや 不良	
329	I B8h I層	深鉢	口縁部片	口：縹文（LR縦）→幅広の貼付縦帯（方形）	ナデ	黒褐 にぶい黄	砂・く・長	大木4	—	—	—		やや 不良	
330	I B7f Ⅲ層	深鉢	胴部片	脇：縹文（LR縦）→幅広の貼付縦帯による波状文	ナデ	灰黄褐 にぶい黄褐	砂・英	大木4	—	—	—		やや 良好	
331	I B7f Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：円環状突起（円形刺突文を充填）、縹文（LR横）→貼付縦帯	円形刺突 文、ナデ	にぶい黄 にぶい黄褐	砂・英	大木4	—	—	—		やや 不良	
332	I C3b Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：円環状突起（円形刺突文を充填）、側面にも円形刺突文、円形刺突文	ナデ	浅黄褐 浅黄褐	砂・長	大木4	—	—	—		良好	
333	I C5c Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：刺突文を充填した円環状突起	ナデ	にぶい黄 明黄褐	砂	大木4	—	—	—		やや 良好	
334	I B7f Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：刺突文を充填した円環状突起	ナデ	にぶい黄 にぶい黄	砂・英	大木4	—	—	—		やや 良好	
335	I B7e II層	深鉢	口縁部片	口：円形突起（刺突文を充填）、側面にも刺突文施文	不明	黒褐 不明	砂・長	大木4	—	—	—		やや 良好	
336	I B7g Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：円形刺突文を充填した円形突起	ナデ	明黄褐 明黄褐	黒・長・英	大木4	—	—	—		良好	
337	I A4g I A5g Ⅲ層	深鉢	口～胴下 1/3 (II 等分欠 損)	口：欠損；頭～脇：縹文（LR横）→貼付縦帯による梯子状文、曲線状文	指頭による 整形→ナデ	にぶい黄 にぶい黄褐	砂・英	大木4	—	(234)	—		やや 良好	

胎土混入物 九種
砂・砂質、泥質、長：長石、英：石英、石：石英
黒：黒泥、灰：灰岩
ナ：ナイトロ、炭：炭化

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
338	I A4b III層	深鉢	口縁部片	口：幅広の隆帯 脇：縦文 (LR横) →貼付隆帯による 梯子状文	ナデ	にぶい黄橙 浅黄橙	砂・長	大木4	-	-	-		やや 不良	
339	I B7g III層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (LR斜) →貼付隆帯による 梯子状文	ナデ	黒褐 浅黄橙	砂・英	大木4	-	-	-		やや 不良	
340	I B7e II層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (LR縦) →貼付隆帯による 梯子状文	ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄橙	砂・英	大木4	-	-	-		良好	
341	I B7g III層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (RL縦) →貼付隆帯による 梯子状文	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	英	大木4	-	-	-		不良	
342	I B8h I層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (RL縦) →貼付隆帯による 梯子状文	ナデ	黒褐 にぶい黄橙	砂・英	大木4	-	-	-		不良	
343	I B7g III層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (LR縦) →貼付隆帯による 梯子状文	ケズリ→ナ デ	黄褐 灰黄褐	砂・黒・英	大木4	-	-	-		不良	
344	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口～脇：縦文 (LR 横) →貼付隆帯によ る波状文	ナデ	灰黄褐 褐灰	砂・英	大木4	-	-	-		やや 不良	
345	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口～脇：斜位の單 輪條条体1類 (R) →沈線を加えた貼 付隆帯による網目状 文	ナデ	根 根	砂・英	大木4	-	-	-		良好	
346	I B3a II層	深鉢	口縁部片	口～脇：縦文 (LR 横) →貼付隆帯 による網目状文	ナデ	にぶい黄橙 にぶい橙	砂・英	大木4	-	-	-		良好	
347	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口～脇：縦文 (LR 横) →貼付隆帯	ナデ	黒褐 灰黄褐	砂・英	大木4	-	-	-		やや 良好	
348	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口～脇：縦文 (LR 横) →貼付隆帯	ナデ	黒褐 灰黄褐	砂・英	大木4	-	-	-		やや 不良	
349	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口：縦文 (LR横) →貼付隆帯	ナデ	灰黄褐 灰黄褐	砂・英	大木4	-	-	-		やや 不良	
350	I A4g III層	深鉢	胴部片	脇：單輪條条体1 類 (R斜) →沈線 を加えた貼付隆帯 による網目状文	ナデ	明黄褐 橙	砂・く・英	大木4	-	-	-		やや 不良	
351	I C5g IV層上面	深鉢	口～胴部 片	口：沈線を加えた 隆帯 脇：単輪 條条体1類 (R)	ナデ	にぶい褐 黒褐	砂・英	大木4	-	-	-	胴部 内面	不良	
352	I B7g III層	深鉢	胴部片	脇：縦文 (RL縦 斜) →貼付隆帯によ る曲線状文 (一 部鉛筆施す)	ケズリ→ ナデ	灰褐 橙	砂・英	大木4	-	-	-		やや 良好	
353	I C3b III層	深鉢	胴部片	脇：単輪條条体1 類 (R斜) →沈線 を加えた貼付隆帯	ナデ	黒褐 明褐	砂・長	大木4	-	-	-		やや 良好	
354	I C3e II層	深鉢	口縁部 片	口：隆帯による 周縁状文 (刺突文 充実) 脇：縦文 (RL横)	ナデ	黒褐 橙	砂・く・雲	大木4	-	-	-		やや 不良	
355	I B7g III層	深鉢	口縁部片	脇：幅広の隆帯に よる波状文 口：縦 文 (LR縦)	ナデ	灰褐 橙	砂・く・英	大木4	-	-	-		やや 良好	
356	I C7f II層	深鉢	口～胴部 片	脇：円形刺突文 口～脇：縦文 (RL 横?) →円形刺突 文を加えた隆帯に よる菱形文	ナデ	根 明赤褐	砂・チ・長	大木5a	-	-	-		やや 不良	
357	I B7d II層	深鉢	口～胴部 片	脇：貼付隆帯に よる波状文 口：縦 文草字押文 (LR 縦) 脇：縦文 (LR 横) →押文を加えた 隆帯	ナデ	灰黄褐 浅黄橙	砂・く・雲	大木5a	-	-	-	外面口 縁部	不良	

胎土混入物 丸削
砂岩・泥岩 長：長石 短：石英 黑：黑色光沢質 手：チャート・頁岩 く：くさり輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
358	I A4f III層	深鉢	口縁部片	唇：円形刺突文を 加えた貼付隆帯に よる波状文。口～ 脇：縄文（RL縦） →円形刺突文を 加えた貼付隆帯に よる波状文（縦位）	ナデ	灰褐色	砂・英	大木5a	—	—	—	内面剥 離部	不良	
359	I A4f II層	深鉢	口縁部片	唇：上面稍円形の 突起（大きな円形 刺突文を施文） 口～脇：縄文（LR縦） →円形刺突文を 加えた貼付隆帯	ナデ	明赤褐 明赤褐	砂	大木5a	—	—	—		良好	
360	I B8h I層	深鉢	口縁部片	唇：竹管状工具に よる円形刺突文 口：円形刺突文を 加えた隆帯 脇： 縄文（RL横）	ナデ	に赤い橙 に赤い黄褐	砂・英	大木5a	—	—	—		やや 不良	
361	I C5c III層	深鉢	口縁部片	唇：円形刺突文を 加えた波状隆帯 口～脇：縄文（LR 縦）	ナデ	に赤い橙 橙	砂・く・長	大木5a	—	—	—		やや 不良	
362	I B7g III層	深鉢	口縁部片	唇：刺突文 口： 2列の刺突文、沈 縫、縄文（LR？横） →沈縫による網目 状文	ナデ	灰黃褐 に赤い黄褐	砂・英・く	大木5a	—	—	—		不良	
363	I B3a II層	深鉢	口～脇部 片	口：円形刺突文を 充填した凹窓状突 起 口～脇：眼位の 單軸格子体1類（L） →沈縫による 網目状文	ケズリ→ ナデ	明赤褐 に赤い黄褐	砂・長	大木5a	—	—	—		不良	
364	I B8h I層	深鉢	口縁部片	口：縄文（RL斜） →沈縫による網目 状文	ナデ	に赤い黄褐 に赤い黄褐	砂・黒・英	大木5a	—	—	—		良好	
365	I A4e II層	深鉢	脇部片	脇：押圧文を加え た隆帯、單軸格子 体1類（L）→沈縫 による網目状文	ナデ	橙 橙	く・英	大木5a	—	—	—		良好	
366	I B3b II層	深鉢	脇部片	脇：縄文（RL横） →沈縫による 網目状文	ナデ	に赤い黄褐 明赤褐	砂・英	大木5a	—	—	—		やや 良好	
367	I B8h I層	深鉢	脇部片	脇：縦位の單軸格 子体1類（RL） →沈縫による網目状 文	ナデ	黑褐 に赤い黄褐	砂・チ・英	大木5a	—	—	—		不良	
368	I B7g III層	深鉢	脇部片	脇：縄文（RL縦） →沈縫による網目 状文	ナデ	橙 に赤い褐	砂・長	大木5a	—	—	—		やや 不良	
369	I B7f III層	深鉢	脇部片	脇：縄文（LR横） →沈縫による網目 状文	ナデ	に赤い黄褐 に赤い黄褐	砂・英	大木5a	—	—	—		やや 不良	
370	I B7e II層	深鉢	口縁部片	唇：押圧文 口： 沈縫による網目状 文 脇：縄文（LR 横） 結節部分のみ が残る	ナデ	黑褐 に赤い褐	砂・英	大木5a	—	—	—		不良	
371	I B8g I層	深鉢	脇部片	脇：縄文（R縦？） →沈縫による網目 状文	ナデ	浅黃褐 に赤い黄褐	砂・英	大木5a	—	—	—		やや 不良	
372	I B7f III層	深鉢	脇部片	脇：縄文（RL縦） →沈縫による網目 状文	ナデ	褐 に赤い褐	砂・英	大木5a	—	—	—		やや 不良	
373	I A4g III層	深鉢	脇部片	脇：單軸格子体1 類（L縦）→沈縫 による網目状文	ナデ	灰黃褐 明赤褐	砂・長	大木5a	—	—	—		やや 不良	

胎土混入物 凡例
 砂：砂岩・泥岩 長：長石 黑：石英 石：石英
 黑：黑色光沢岩 チ：チャート・貝殻 ク：くさり輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 有無	焼成	備考	
374	I C3b I C4b III層	深鉢	口～胴部 片	唇：上面波状突起 (刺突文を充填) 口～胴：縦文(RL 横)→貼付縫合による 縫合状文、梯子文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木5b	—	—	—	—	やや 良好		
375	I A4g III層	深鉢	口～胴部 片	口～胴：縦文(RL 横)→貼付縫合による 縫合状文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木5b	—	—	—	—	やや 不良		
376	I B7g III層	深鉢	口～胴部 片	唇：押圧文 口： 縦文(RL横)→貼 縦文(RL横)→貼 付縫合による縫 合状文	口：押圧文、ナデ	灰黃褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木5b	—	—	—	—	やや 不良		
377	I B4a II層	深鉢	口縁部片	口～胴：縦文(RL 横)→横位の貼付 縫合による縫合 状文	ナデ	灰黃褐色 明褐色	砂・長	大木5b	—	—	—	—	やや 良好		
378	I C3b III層	深鉢	口～胴部 片	口～胴：縦文(RL 横)→貼付縫合によ る縫合状文	ナデ	黒褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木5b	—	—	—	—	不良		
379	I C4b III層	深鉢	胴部片	脇：縦文(RL縦) →貼付縫合による縫 合状文、菱形文	ナデ	浅黄褐色 にぶい黄褐色	砂・く・英	大木5b	—	—	—	—	不良		
380	I C3a IV層上面	深鉢	口縁部片	口：無文(ナデ) 脇：貼付縫合によ る縫合状文、波状 文 脇：縦文(RL 横)→貼付縫合、 ガターン状貼付文	ナデ	にぶい黄褐色 明褐色	砂・長	大木5b	—	—	—	—	やや 不良		
381	I B7d II層	深鉢	口縁部片	脇：貼付縫合によ る波状文 口：無 文(ナデ)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木5	—	—	—	—	やや 不良		
382	I B7f III層	深鉢	口縁部片	脇：貼付縫合によ る波状文 口：縦 文(RL横)	ナデ	橙 浅黄褐色	砂・英	大木5	—	—	—	—	良好		
383	I B7f II層	深鉢	口縁部片	脇：貼付縫合によ る波状文 口～ 胴：縦文(RL横)	ナデ	灰褐色 明赤褐色	砂・長	大木5	—	—	—	—	やや 良好		
384	I B7f III層	深鉢	口縁部片	脇：貼付縫合によ る波状文 口：縦 文(RL横?)	ナデ	黒褐色 にぶい黄褐色	砂・長	大木5	—	—	—	—	不良		
385	I B7f III層	深鉢	口縁部片	脇：満塗状突起 口：縦文(RL横)	ナデ	黒褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木5	—	—	—	—	やや 良好		
386	I B7f III層	深鉢	口～胴部 片	脇：帶によるS 字状文 口：無文 脇：縦文(RL横)	ナデ	暗褐色 橙	砂・長	大木5	—	—	—	—	良好		
387	I C5c II層	深鉢	口縁部片	口：満塗状の突起	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・く・英	大木5	—	—	—	—	やや 良好		
388	I B7g III層	深鉢	口縁部片	脇：円環状突起 (中央に刺突文) 口：縦文	ナデ	にぶい黄褐色 明褐色	砂・英	大木5	—	—	—	—	やや 不良		
389	I B7f III層	深鉢	口縁部片	脇：縫合の貼付 縫合 口～胴：縦文 (RL横)	ナデ	黒褐色 にぶい黄褐色	砂・長	大木5	—	—	—	—	不良		
390	I B6f III層	深鉢	口縁部片	脇：縫合の貼付 縫合 口：無文	ナデ	明赤褐色 にぶい黄褐色	砂・長	大木5	—	—	—	—	やや 良好		
391	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口：環状の隆起	ナデ	褐色 にぶい黄褐色	砂・く・長	大木5	—	—	—	—	やや 良好		
392	I C3b I C4b III層	深鉢 1/2	口～胴上 1/2	脇：山形波頂部(2 単位)、方形の突 起(刺突文を描文) 口～胴：單軸絞 合1類(R縦)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂	大木5	19.7 (17.1)	—	—	—	—	不良	

胎土混入物：凡例
砂：砂岩、泥質 石：長石、石英、石墨
黑：黑色、光沢質 ナ：チャート、良石
レ：レシテル
C：クリア

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
393	I C5c II層	深鉢	口～胴部 片	口：無文 (ナデ?) 胴：縦位の單輪轍 条形 (L) →沈 縫による菱形文	指頭による 整形→ナデ	にぶい褐色	砂・長	大木5	—	—	—		やや 良好	
394	I A4g I A4b III層	深鉢	口～肩下 1/2	唇：鉢み 口～胴：縄文 (LR 縞)	指頭による 整形→ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂・長	大木5	(15.4)	(12.6)	—	内面胴 部	やや 不良	
395	I B7i III層	深鉢	口～胴部 片	唇：押文庄 口： 無文 胴：縄文 (LR縞)	ナデ	灰褐 にぶい橙	く・英	大木5	—	—	—		やや 良好	
396	I B7f III層	深鉢	口縁部片	唇：押文庄 口： 單輪轍条形 (L) (R縞・縫)	ナデ	灰黃褐 にぶい黄橙	く・英	大木5	—	—	—		良好	
397	I B7f III層	鉢	口縁部片	唇：立方状の突起 (刺突文を加え る) 内側斜突文 口：無文 (ナデ)	ナデ	明黄褐 黒褐	砂・英	大木5	—	—	—		不良	AMS測 定No22
398	I C3b III層	深鉢	口～底 1/3	唇：貼付陰帯によ るS字状文 (一部 欠損) 口～胴： 縄文 (RL横)	指頭による 整形→ナデ	明赤褐 にぶい黄橙	砂・く	大木5	(25.0)	323	(112)		やや 良好	
399	I A4g I A5g II層	深鉢	口～肩下 1/3	口：沈縫 脇：平行 沈縫による縦齒 狀文 脣上：平行 沈縫、縄文 (RL 縞・縫) 脣下： 無文 (ナデ)	ナデ	明赤褐 明赤褐	砂・長	大木6	—	—	—		不良	
400	I A4g I A4b II層	深鉢	口縁部片	口：幅広の沈縫を 加えた陰帯 脇： 平行沈縫による縦 齒狀文	ナデ	にぶい黄橙 梗	砂・長	大木6	—	—	—		やや 不良	
401	I A4g III層	深鉢	口縁部片	口：円文、疣縫を 加えた陰帯 脇： 平行沈縫による縦 齒狀文	ナデ	梗 梗	砂・く・長	大木6	—	—	—		やや 不良	
402	I D4n IV層上面	深鉢	口縁部片 (口脛部 欠損)	口：平行沈縫によ る縦齒狀文 (口脛 部欠損)	ナデ	梗 にぶい梗	砂・く	大木6	—	—	—		良好	
403	I B3a II層	深鉢	胴部片	脣：平行沈縫によ る縦齒狀文、縦位 の垂糸束羽状旋文 (LR・RL)	ナデ	明赤褐 梗	砂・長	大木6 ～7a	—	—	—			
404	I B7g III層	深鉢	胴部片	脣：平行沈縫によ る縦齒狀文	ナデ	にぶい黄褐 梗	砂・長	大木6	—	—	—		良好	
405	I B3a II層	深鉢	口縁部片	口：沈縫による曲 縫状文、波状文	ナデ	淡黄 浅黄	砂・黑	大木6 ～7a	—	—	—		良好	
406	I B7g III層	深鉢	胴部片	脣：縄文 (L2種) →平行沈縫による 縦齒狀文	ナデ	梗 梗	砂・青	大木6	—	—	—		不良	
407	I B7h III層	深鉢	胴部片	脣：緋い赤縫	ナデ	にぶい梗 にぶい黄褐	砂・く	大木6	—	—	—		良好	
408	I B7g III層	深鉢	胴部片	脣：押文庄を加え た陰帯、縄文 (LR 横) →平行沈縫に よる縦齒狀文	ナデ	明赤褐 梗	砂・く・英	大木6	—	—	—		不良	
409	I C3f II層	深鉢	胴部片	脣：縄文 (RL縞) →平行沈縫による 溝巻文	ナデ	にぶい梗 にぶい黄橙	砂・く・英	大木6	—	—	—		やや 不良	
410	I A4f II層	深鉢	口～胴部 片	口：円文、半裁竹 管状工具による刺 突文、沈縫文 脣：縄文 (LR縞) →半裁竹管状工 具による刺突文	ナデ	にぶい黄褐 梗	長・英	大木6	—	—	—		不良	
411	I C6d III層	深鉢	口縁部 片	口：陰帯、陰帯に よる円文、平行沈 縫、縄文 (LR縞)	ナデ	梗 明赤褐	砂・長	大木6	—	—	—		やや 不良	

胎土混入物 具例
 砂質：砂質、泥質 長：長石、石英
 黒：黑色光沢質 手：チャート、貝殻
 ク：くさり織

掘査 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
412	I A5g Ⅲ層	深鉢	口縁部片	口：縦線の押圧文 頭：平行沈線による範圍状文(横位) 胸：平行沈線による範圍状文(縱位)、押引文	ナデ	黒褐 橙	砂	大木6	-	-	-		不良	
413	I A4g Ⅲ層	深鉢	胴部片	頭：縦位の平行沈 頭による波状文	ナデ	橙 明黄褐	砂・長	大木6	-	-	-		不良	
414	I B8h I 層	深鉢	胴部片	頭：平行沈線による範圍状文	ナデ	に赤い黄褐 に赤い黄褐	砂・英	大木6	-	-	-		やや 不良	
415	I B3a Ⅱ層	深鉢	口縁部片	口：縦帶による円形斜交文(円形斜交文光沢)、縦位の 押引文、頭：平行 沈線による範圍状文 胸：平行沈線による波状文	ナデ	に赤い 明黄褐	砂・英	大木6	-	-	-		やや 不良	AMS 圖 定No24
416	I A4h Ⅲ層	深鉢	口～胴部 片	口：半裁竹管状工 具による刺突文 頭：縫文(RL斜)	ナデ	明赤褐 橙	砂・雲	大木6	-	-	-		やや 不良	
417	I C5e I C6e Ⅱ層	深鉢	口～胴上 1/2	口：沈線による円 文、沈線、頭：刺 突文、胸：沈線	ナデ	明褐 明褐	砂・長	大木6	(32.6)	(15.5)	-		良好	
418	I B7g Ⅲ層	深鉢	口～胴上 1/4	口：沈線(奈良文) 頭：詰み、刺突文 胸：無文(ナデ)	ナデ	に赤い黄褐 に赤い黄褐	砂・英	大木6	-	-	-		不良	
419	I A4h Ⅲ層	浅鉢 ?	口縁部片	唇：上面円形の突 起(詰み抜文)、 沈線による範圍状 文、三角形の刺突 口：縦帶、沈 線による斜位の斜 範圍状文、沈線によ る波状文	ナデ	に赤い黄褐 灰黄褐	砂	大木6	-	-	-		良好	
420	I A4g Ⅱ層	深鉢	口～胴部 片	口：無文(肥厚口 縁)、頭：平行沈 線、胸：平行沈 線、半裁竹管状工 具による刺突文、 ボタン状貼付文 頭下：縫文(LR 縫)	ケズリ→ ナデ	橙 明黄褐	砂・く・長	大木6	-	-	-	内面胴 部	やや 不良	
421	I C5c Ⅱ層	深鉢	胴部片	頭：縫文(LR横) →平行沈線	ナデ	闇 に赤い黄褐	砂・長	大木6	-	-	-		不良	
422	I B3a Ⅱ層	深鉢	胴部片	頭：平行沈線、縫 文(LR縫)	ナデ	に赤い 明黄褐	砂・長・雲	大木6	-	-	-		不良	
423	I A4f Ⅲ層	深鉢	胴部片	頭：平行沈線、ボ タン状貼付文	ナデ	明赤褐 明赤褐	砂・長	大木6	-	-	-		やや 不良	
424	I A5f Ⅲ層	深鉢	胴部片	頭：単輪絡条件1 (R縫) →平行 沈線、縦帶	ナデ	明黄褐 明黄褐	砂・英	大木6	-	-	-		不良	
425	I B3a Ⅱ層	深鉢	胴部片	頭：平行沈線によ る張抜文、刺突文	ナデ	に赤い 橙	砂・長	大木6	-	-	-		やや 不良	
426	I B3a Ⅱ層	深鉢	口縁部片	口：突起、平行沈 線による曲線状 文、平行沈線間に 刺突文充填	ナデ	に赤い 橙 灰黄褐	砂・雲	大木6	-	-	-		やや 不良	
427	I B7g Ⅲ層	深鉢	胴部片	頭：半裁竹管状工 具による刺突文を 加えた縦帶、半裁 竹管状工具による 縫引文	指頭による 整形→ナデ	に赤い 橙	砂・英	大木6	-	-	-		やや 不良	
428	I A5g Ⅲ層	深鉢	口縁部片	唇：貼付縦帶によ るS字状文、口： 肥厚口縁、貼付縦 帶	ナデ	に赤い 黄褐 に赤い黄褐	砂	大木6	-	-	-		不良	
429	I A5g Ⅲ層	深鉢	口縁部片	唇：押圧文、口： 沈線による波状 文、円形斜交文	ナデ	橙 浅黄褐	砂・く	大木6	-	-	-		良好	

胎土混入物 凡例
 砂：砂岩、泥岩 長：長石 黑：石英 石：石英
 黒：黑色光沢質 チ：チャート、質質
 く：カリセラ

掲載 番号	出土位置 ・層番	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
430	I D2b I層	深鉢	口縁部片	口：貼付縦帶による網目状文、半円文 肩：押引文、刷毛文、模文？(原体不明)	ナデ	橙 にぶい黄褐	砂・英	大木6	-	-	-	-	-	不良
431	I C3b II層	深鉢	口～肩下 (部分的に欠損)	唇：半円状突起(刷 みを施す) 口：半球状突起、横 筋の把手、斜刃文、 沈線 肩：単輪轍 条文(左肩)、平行 弦線による弧 状文、曲線状文	ナデ	橙 橙	砂・英	大木6	20.4	(25.5)	-	-	-	やや 不良
432	I B7e II層	深鉢	口縁部片	唇：刷みを加えた 陰型 口：單輪轍 条文1種(L斜) -沈線	ナデ	赤褐色 明赤褐	砂・く・英	大木6	-	-	-	-	-	良好
433	I B7h III層	深鉢	口縁部片	唇：上面円環状突 起(刷み) 口： 沈線	ナデ	黑褐 橙	砂・長・雲	大木6	-	-	-	-	-	やや 良好
434	I B7g III層	深鉢	口～胴部 片	唇：刷み 口：網 文(RL綴)→条 織文 肩：網文 (RL綴・斜)→刷 み・網文(RL) を加えた縦帶	指頭による 整形→ナデ	灰褐 灰褐	砂・英	大木6	-	-	-	-	-	やや 良好
435	I B7g III層	深鉢	口縁部片	唇：刷み 口：三 角形の穿孔、条織 文	ナデ	にぶい黄褐 橙	砂・英	大木6	-	-	-	-	-	やや 良好
436	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口：刷みを加えた 陰型、沈線による 格子状文、円形削 癸文	縦帶、ナデ	橙 にぶい褐	砂	大木6	-	-	-	-	-	やや 不良
437	I B7g III層	深鉢	胴部片	肩：沈線による格 子状文	ナデ	にぶい黄褐 黒褐	砂・英	大木6	-	-	-	-	-	不良
438	I B7g III層	深鉢	口縁部片	唇：円形の突起 (円孔、刷み) 口： 貼付縦帶 肩：刷 みを加えた貼付縦 帶 肩：網文(L 綴)	ナデ	黒褐 明赤褐	砂・長	大木6	-	-	-	-	-	やや 不良
439	I C3d II層	深鉢	口縁部片	口：押引文を加え た突起 口：押引 文を加えた縦帶、 押引文	ナデ	浅黄褐 浅黄褐	砂・英	大木6	-	-	-	-	-	やや 不良
440	I A5g III層	深鉢	口～肩下 1/4	口：稍突文、沈線 肩上：沈線による 波状文、刺突文 肩下：無文(ナデ)	ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄褐	砂	大木6	(17.4)	(13.8)	-	-	-	不良
441	I Ce II層	深鉢	口～胴部 片	口：刺突文、肩： 沈線、刺突文	ナデ	明黄褐 橙	砂・長	大木6	-	-	-	-	-	やや 良好
442	I C3e IIb層	深鉢	口縁部片	口：刺突文、沈線 による波状文	ナデ	にぶい褐 にぶい橙	砂・く・英	大木6	-	-	-	-	-	良好
443	I A4f III層	深鉢	口縁部片	唇：押文 口： 刺突文、沈線、貼 付縦帶 肩：押引 文 肩：平行沈線	ナデ	灰黄褐 にぶい黄褐	砂・チ・英	大木6	-	-	-	-	-	不良
444	I B3a IV層上面	深鉢	胴部片	口：平行沈線 肩：半截竹管状工 具による刺突文 肩：剥落により不 明	ナデ	にぶい黄褐 灰黄褐	砂・長	大木6	-	-	-	-	-	やや 良好
445	I A4f II層	深鉢	胴部片	肩：半截竹管状工 具による押引文 肩：網文 (LR綴) -半截竹管状工具 による平行沈線 肩：剥落による波 状文	ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄褐	砂・英	大木6	-	(11.1)	-	-	-	やや 不良

胎土混入物 凡例
砂：砂質、泥質 長：長石 短：石英 黑：黑鐵光沢質 子：チャート、貝岩 ク：くさり輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 泥入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
446	出土地點 不明	深鉢 片	口～胴部 片	唇：上面交叉の波 状 口：無文 (ナ デ) 頭：押圧文 を加えた隆 起；縦文 (LR 横)	ナデ	黒褐 灰褐	砂・長	大木6	—	—	—	—	不良	
447	I C5c II層	深鉢	口縁部片	口：無文 (ナデ) 頭：押圧文を加え た隆起；胴：縦文 (LR横？)	ナデ	橙 橙	砂・く・長	大木6	—	—	—	—	良好	
448	I C5c II層	深鉢	口縁部片	口：無文 (ナデ) 頭：押圧文を加え た單輪絞条体？	ナデ	にぶい褐 灰褐	砂・長	大木6	—	—	—	—	やや 良好	
449	I B3a II層	深鉢	口縁部片	口～胴：縦文 (RL 横) 口：押圧文を加え た隆起	ケズリ→ナ デ	にぶい褐 橙	砂・英	大木6	—	—	—	—	良好	
450	I C5c II層	深鉢	胴部片	頭：押圧文を加え た隆起；胴：継 縫の單輪絞条体IA 類 (L, R)	ナデ	にぶい黄褐 黄褐	砂・黒・雲	大木6	—	—	—	—	やや 良好	
451	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口：押圧文を加え た隆起	ナデ	橙 橙	砂・く・雲	大木6	—	—	—	—	不良	
452	I B3a II層	深鉢	口～胴上 1/3	口：肥厚口縁に沈 線；頭：縦文 (LR 横)	指頭による 整形→ナデ	橙 橙	砂・く	大木6	(22.8) (104)	—	—	—	良好	AMS測 定No.25
453	I C3j III層	深鉢	口～胴部 片	口：幅広の沈線に よる曲線状文 頭：集合沈線	ナデ	にぶい黄褐 橙	砂・英	大木6	—	—	—	—	やや 良好	
454	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口：沈線、刺突文	ナデ	黑褐 浅黄褐	砂・長	大木6	—	—	—	—	良好	
455	I A4f II層	深鉢	口縁部片	口：隆起？ (欠 損)、沈線による 区画、沈線による 跳躍状文 頭：刻 みを加えた隆起	ナデ	にぶい黄褐 明黄褐	砂・長	大木6	—	—	—	—	やや 不良	
456	I A4f III層	深鉢	口縁部片	口：沈線による区 画、沈線による跳 躍状文	ナデ	にぶい黄褐 橙	砂・く	大木6	—	—	—	—	やや 不良	
457	I A4g III層	深鉢	口縁部片	口：沈線による跳 躍状文	ナデ	浅黄褐 浅黄褐	砂・く・長	大木6	—	—	—	—	やや 不良	
458	I B3a II層	深鉢	口縁部片	口：沈線、沈線に よる波状文、突 起？ (欠損) 頭： 隆起？ (欠損) 頭：縦文 (RL横)	ナデ	にぶい黄褐 灰褐	砂・英	大木6	—	—	—	—	やや 不良	
459	I C4b III層	深鉢	口縁部片	唇：半円状突起、 刻み 口：ボタン 状貼付文、隆起に よる馬蹄形文、沈 線による跳躍状文	ナデ	にぶい褐 明黄褐	砂・英	大木6	—	—	—	—	やや 不良	
460	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口：隆起による馬 蹄形文、沈線	ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄褐	砂・黒	大木6	—	—	—	—	やや 不良	
461	I C5c II層	深鉢	口縁部片	口：三角形刺突 文、沈線、半球状 の突起、頭：縦文 (RL横)、結節部分 残る	ナデ	黒褐 にぶい黄褐	砂・長	大木6	—	—	—	—	やや 良好	
462	I C4b III層	深鉢	口縁部片	口：沈線による区 画、区画内に継 縫の集合沈線光瓶 頭：刺突文、頭： 平行沈線	ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐	砂・英	大木6	—	—	—	—	やや 不良	
463	I A4g II層	深鉢	口縁部片 (口唇部 欠損)	口：沈線による区 画、区画内に継 縫の集合沈線光瓶 頭：刺突文、頭： 平行沈線	ナデ	明黄褐 明黄褐	砂・く・英	大木6	—	—	—	—	やや 不良	

胎土泥入物 凡例
 砂：砂岩・泥岩 長：長石 英：石英 黑：雲母
 黑：黑色光沢岩 チ：チャート・頁岩 く：くさり輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
464	I B3a II層	深鉢	口縁部片	唇：突起 口：横 位の沈線、押引状 の刺突文	ミガキ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂・雲	大木6	—	—	—	—	良好	
465	I A4f II層	深鉢	口縁部片	口：沈線による区 画、平行沈線によ る波状文	ナデ	明赤褐 明赤褐	砂・チ・長	大木6	—	—	—	—	不良	
466	I B3a II層	深鉢	口縁部片	口：沈線による区 画、平行沈線による 波状文	ナデ	浅黄橙 にぶい橙	砂・長	大木6	—	—	—	—	やや 不良	
467	I C3b II層	深鉢	口～胴部 1/3	口：隆帯による曲 線状文、沈線によ る波状文、竹管狀 工具による円形刺 突文 脚：彫文 (LR模) → 隆帯	ナデ	橙 明黄褐	砂・長	大木6	(27.0)	(23.4)	—	—	やや 不良	
468	I C5c III層	深鉢	口縁部片	口：沈線による区 画、沈線による曲 線状文、竜位の規 則沈線充填 脚：竜 位の刺突文	ナデ	にぶい黄橙 褐色灰	砂・く	大木7a (古)	—	—	—	—	不良	
469	I B3a II層	深鉢	口縁部片	唇：沈線を加えた 突起、押引文 口：幅広の隆帶、 沈線 竜：刺突文 脚：沈線	ナデ	褐色灰 にぶい黄橙	砂・く・雲	大木7a (古)	—	—	—	—	不良	
470	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口：横文(0段多 条LR模) → 平裁 竹管状工具による 平行沈線と押引文	ナデ	黒褐 灰黃褐	砂・英	大木7a (古)	—	—	—	—	やや 不良	
471	I C3f II層	深鉢	口縁部片	口：沈線を加えた 隆帶によるU字状 文、沈線	ナデ	灰黃褐 にぶい黄橙	砂・英	大木7a (古)	—	—	—	—	やや 良好	
472	I C5e II層	深鉢	口縁部片	口：半裁竹管状工 具による半円状の 刺突文、平行沈線	ナデ?	橙 黑褐	砂・長	大木8a (古)	—	—	—	—	やや 不良	
473	I A4g II層	深鉢	口縁部片	口：平行沈線、 沈線による曲線状 文、短沈線	ナデ	にぶい黄橙 橙	砂・雲	大木7a (古)	—	—	—	—	やや 良好	
474	I B3a II層	深鉢	口縁部片	口：平行沈線	ナデ	黒褐 橙	砂・雲	大木7a (古)	—	—	—	—	やや 不良	
475	I B7d II層	深鉢	口～胴部 片	口：押引文、隆帶 刺突文：平行沈線、刺 突文	ナデ	にぶい橙 橙	砂・く・英	大木7a (古)	—	—	—	—	やや 良好	
476	I B8h I層	深鉢	口縁部片	口：平行沈線を交 差、半球状の突起 (欠損)、円形刺突 文	隆帶、ナデ	黒褐 明褐	砂・雲	大木7a (古)	—	—	—	—	不良	
477	I C4b III層	深鉢	口縁部片	口：隆帯によるV 字状文、円形の突起 (欠損)、隆帯、 沈線	ナデ	灰褐 にぶい黄褐	砂	大木7a (古)	—	—	—	—	不良	
478	I A4g II層	深鉢	口縁部片	口：貼付隆帶を加 えた浦鉢状の突 起、沈線、押引文	ナデ	橙 橙	砂・英	大木7a (古)	—	—	—	—	やや 不良	
479	I A4g III層	深鉢	口縁部片	唇：方形状の突起 口：沈線による区 画、竜位の粗比線	ナデ	黒褐 にぶい黄褐	砂・く・雲	大木7a (古)	—	—	—	—	やや 不良	
480	I C3b III層	深鉢	口縁部片	口：沈線、沈線間 に竜位の規則沈線充 填 竜：沈線を加 えた隆帶 脚：模文 (LR模)	隆帶、ナデ	褐色灰 褐色	砂・雲	大木7a (古)	—	—	—	—	不良	
481	I A4g III層	深鉢	口縁部片	口：集合沈線→三 角形刻文→平行 沈線	ナデ	橙 明赤褐	砂・く・英	大木7a (古)	—	—	—	—	やや 良好	
482	I B6f III層	深鉢	口縁部片	口：模文(RL模?) →沈線→刻みを加 えた貼付隆帶	ナデ	にぶい黄橙 橙	砂・英	大木7a (古)	—	—	—	—	やや 良好	

胎土混入物：凡例
 砂：砂質、泥質 長：長石、石英、雲母
 黑：黒色光沢質 手：チャート、貝岩
 く：くさり輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
483	I A4g III層	深鉢	胴部片	胴：集合沈線、平行沈線による網目状文、三角形印刷文	ナデ	橙 にぶい黄橙	砂・雲	大木7a (古)	-	-	-		良好	
484	I C3e IIb層	深鉢	口～胴下	口：繩文 (RL 横) →手握竹管状工具による平行沈線、 2段の半球状突起 頭：半握竹管状工具による平行沈線 腹：繩文 (RL 横、結節部分が多段化して残る)	指頭による 整形→ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂・黒・長	大木7a (古)	26.1	(39.1)	-		やや 良好	
485	I A4g II層	深鉢	口～胴上 1/3	口：沈線、刺突文 頭：刺突文を加えた隆帶 脇：繩文 (LR 横)	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂・長	大木7a (古)	(19.4)	(12.3)	-		やや 不良	
486	I A5g II層	深鉢	口縁部片	口：沈線、隆帶	隆帶、ナデ	灰黃褐 にぶい黄橙	砂・英	大木7a (古)	-	-	-		良好	
487	I A3e I A4n III層	深鉢	口縁部片	口：貼付隆帶を加えた横位の把手、 沈線を加えた隆帶、 沈線	ナデ	灰黃褐 にぶい黄橙	砂・英	大木7a (古)	-	-	-		やや 不良	
488	I C3b I C4b III層	深鉢	口～胴部 片	口：割みを加えた 隆帶、沈線、 沈線による巻き文、 纏模の弧状文 頭：三角形印刷文 腹：加えた隆帶 脇：繩文 (RL 横、 結節部分残る)	ナデ	にぶい黄褐 褐色	砂	大木7a (古)	-	-	-		やや 不良	
489	I B3a II層	深鉢	口～胴部 片	口：纏模の押印文、 沈線による網目状文、 頭：沈線による 網目状文、脇：繩文による 網目状文、頭：繩文 (RL 横、 結節部分残る)	ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄褐	砂・黒・雲	大木7a (古)	-	-	-		やや 不良	
490	I A5g III層	深鉢	口縁部片	口：三角形印刷文、 沈線、集合沈線文、 沈線、 頭：繩文 (RL 横、 結節部分残る)	隆帶、ナデ	にぶい橙 橙	砂・長	大木7a (古)	-	-	-		良好	
491	I A4f II層	深鉢	口縁部片	脇：円形突起 (割 みを施す) 口： 割みを加えた隆 帶、沈線、割みを 加えた横位の把 手、沈線による 筋文、頭：割みを 加えた隆帶	ナデ	にぶい褐 にぶい褐	砂・雲	大木7a (古)	-	-	-		やや 良好	
492	I A5g III層	深鉢	口縁部片	口：肥厚口縁、綱 文 (LR 横) → 沈線による波状文、 纏模の隆帶	ナデ	にぶい褐 明赤褐	砂・長	大木7a (古)	-	-	-		良好	
493	I A4h III層	深鉢	口縁部片	脇：割み 口：波 状面に凹凸、割み を加えた隆帶、沈 線、押引の割み	ナデ	明赤褐 明赤褐	砂・く・長	大木7a (古)	-	-	-		やや 不良	
494	I B7g III層	深鉢	口縁部片 (口唇部 欠損)	口：貼付隆帶、沈 線	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂・く	大木7a (古)	-	-	-		良好	
495	I B7f III層	深鉢	胴部片	胴：繩文 (LR 横) →綱文 (LR ?) 頭：刺突文を加えた貼付隆帶	ナデ	にぶい黄橙 橙	砂	大木7a (古)	-	-	-		不良	
496	I B8b I層	深鉢	口縁部片	口：貼付隆帶→繩 文 (RL 横) →手 握竹管状工具によ る平行沈線、押引 文 頭：刺突文を 加えた貼付隆帶、 方形状の突起	折り返し口 縁、ナデ	にぶい黄褐 褐色	砂・長・雲	大木7a (古)	-	-	-		やや 不良	

胎土混入物 先例
 砂：砂質、泥質 長：長石 短：石英 黑：黑鐵光沢質
 ナ：チャート、貝岩 ク：カリ輝

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
497	I B7g III層	深鉢	口～胴下 1/3	口：押圧文を加えた隆帯による円環状文、沈線 刃：糸みを加えた隆帯 刃：横文 (LR模)、結節部分残る	ナデ	にふい桜 桜	砂・雪	大木7a (古)	(27.4)	(19.7)	-		やや 良好	
498	I B7f III層	深鉢	胴部片	刃：押圧文を加えた隆帯 刃：横文 (RL模)、縦・結節部分が残る	ナデ	桜 明黄褐	砂・長	大木7a (古)	-	-	-		やや 不良	
499	I A4g II層	深鉢	胴1/2	刃：結束羽状螺旋文 (LR・RL模) → 平行沈線	ナデ	黄褐色 明黄褐	砂・雪	大木7a (新)	-	(9.4)	-		やや 不良	
500	I B3a II層	深鉢	口縁部片	刃：把手、横文 (LR模) 口：横文 (LR模) → 沈線、横位把手 (横線、横文LR模文)、沈線による波状文 刃：二股突起	ナデ	にふい桜 桜	砂・雪	大木7a (新)	-	-	-		やや 不良	
501	I B3a II層	深鉢	口縁部片	刃：山形突起 口：隆帯による曲線状文 横文 (LR模) → 沈線、横位把手 (横線LR、沈線を施す) 刃：二股突起 脇：横文 (LR模)	隆帯、ナデ	にふい桜 桜	砂・雪	大木7a (新)	-	-	-		やや 不良	
502	I C5c II層	深鉢	口縁部片	刃：円形突起、山形突起 口：突起に横文 (RL)、沈線 刃：把手 (横線RL、を施す)	突起に隆帯による渦巻き文、ナデ	にふい黄褐色 にふい黄桜	砂・く・長	大木7a (新)	-	-	-	外縁部	不良	
503	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口：純文原体押圧文 (LR) 口～胴：横文 (LR斜)、押圧文を加えた隆帯	ナデ	にふい黄褐色 にふい黄桜	砂・雪	大木7a (新) ?	-	-	-		不良	
504	I A4f II層	深鉢	口～胴部 片	口：横文 (LR模) → 剣 (LR) を加えた隆帯 刃：押圧文を加えた隆帯 刃：横文 (LR模)	ナデ	にふい黄桜 浅黄褐	砂	大木7a (新)	-	-	-		やや 不良	
505	I B8b I層	深鉢	口～胴部 片	口：横文 (0段多条LR模) → 剣 (0段多条LR模) → 平行沈線 → 貼付隆帯	ナデ	にふい桜 にふい黄桜	砂・雪	大木7a (新)	-	-	-		不良	
506	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口：横文 (RL模) → 貼付隆帯	ナデ	灰黃褐色 にふい黄桜	砂・雪	-	-	-	-		不良	
507	I B6f III層	深鉢	口縁部片	口～刃：横文 (LR模) → 縦位の平行沈線	ナデ	黒桜 黒・英	-	-	-	-	-		不良	
508	I A4f II層	深鉢	口～胴部 片	口：刺突文を加えた幅広の隆帯、平行竹管状工具による平行沈線、刺突文 刃：押引文に加えた隆帯 刃：横文 (LR模)	ナデ	にふい桜 赤桜	砂・英	大木7a (新)	-	-	-		やや 良好	
509	I A4f II層	深鉢	胴部片	刃：横文 (LR模)、横文 (RL) → 平行沈線、押圧文を加えた隆帯、貼付隆帯	ナデ	にふい黄褐色 にふい黄桜	砂・英	大木7a (新)	-	-	-		やや 不良	
510	I B7g III層	深鉢	口～胴部 片	口：横文 (LR模) → 隆帯による波状文 (横文LR) 刃：横文 (LR模) → 横文 (LR) を加えた隆帯	ナデ	にふい桜 桜	砂・く	大木7a (新)	-	-	-		やや 不良	

出土泥人形 八州
砂：砂質、泥岩：長石、石英、石英：雲母
黒：黒色光沢 ナ：ナット、ノ：貝冠

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
511	I C6c III層	深鉢	口縁部片	口：隆沈線による 区画、区画内に沈 線を加えた隆 脛：縦文 (RL横)	ナデ	明褐色 にぶい黄褐色	砂・長	大木8a (新)	—	—	—	—	やや 不良	
512	I A5g II層	深鉢	口縁部片	口：隆脣による凸 巻文、擬位の隠帶 脣	ナデ	にぶい黄褐色 明褐色	砂・長	大木8a (新)	—	—	—	—	やや 不良	
513	I A4g II層	深鉢	胴部片	脣：沈線による 隆脣によるS字状 文	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・英	大木8a (新)	—	—	—	—	やや 不良	
514	I C4c III層	深鉢	口～胴部 片	口～脣：沈線による 曲輪状区画、区 画内に磨消縦文 (RL横)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・く・チ	大木10 (古)	—	—	—	—	やや 不良	
515	I C3h III層	深鉢	口縁部片	口：肥厚口縁、隆 脣：脣：縦文 (LR 横)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・長	大木10 (古)	—	—	—	—	不良	
516	I C4b II層	深鉢	胴上～底 2/3	脣：縦文 (RL縦、 斜) →沈線による 曲輪状区画、区 画内に無文 (ナデ)	ナデ	にぶい橙 にぶい黄褐色	砂・黒	大木10 (新)	—	(25.4)	10.8	—	やや 不良	
517	I A4f II層	深鉢	口～胴上 1/2	口～脣：沈線による 曲輪状区画、区 画内に充填施文 (LR)	ナデ	にぶい橙 にぶい褐	砂	大木10 (新)	16.8	(8.8)	—	—	やや 良好	
518	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口：縦文原体押压 文 (LR) 脣：隆 脣：脣：縦文 (LR 斜)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂・雲	大木10?	—	—	—	—	不良	
519	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口～脣：單軸結条 体1類 (L縦)	ナデ	暗褐色	砂・英	—	—	—	—	—	やや 良好	
520	I B7g III層	深鉢	口～胴部 片	口～脣：單軸結条 体1類 (R縦)	ナデ	暗褐色	英	—	—	—	—	—	やや 不良	
521	I B3a II層	深鉢	口縁部片	口：單軸結条体1 類 (L縦)	ナデ	にぶい褐	砂・長	—	—	—	—	—	やや 不良	
522	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口～脣：擬位の單 軸結条体1類 (R R)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい褐	砂	—	—	—	—	—	やや 不良	
523	I A4g III層	深鉢	胴部片	脣：單軸結条体 LA類 (R縦)	ナデ	橙	砂・く・長	—	—	—	—	—	やや 不良	
524	I D2b I層	深鉢	胴部片	脣：單軸結条体5 類 (LR) ?原体が 重複する箇所多 い。	ナデ	指頭による 整形→ナデ	明褐色 黒褐色	砂・チ	—	—	—	—	やや 不良	
525	I B7f III層	深鉢	胴部片	脣：單軸結条体5 類 (L)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	チ・砂・英	—	—	—	—	—	やや 不良	
526	I B7g III層	深鉢	口縁部片	口～脣：縦文 (RL 横、結節部分残 る?)	ナデ	黒褐色 にぶい黄褐色	砂・英	—	—	—	—	—	やや 不良	
527	I A4g I A4b II層	深鉢	口～胴部 片	口：肥厚口縁による 縦文 (LR横) 脣： 縦文 (L縦) ?どちらも 結節部分が残る)	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	砂	—	—	—	—	—	不良	
528	I B7g III層	深鉢	胴部片	脣：縦文 (RL横) 結節部分残る)	ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐色	砂・く・雲	—	—	—	—	—	やや 不良	
529	I B3a II層	深鉢	口～胴部 片	口：無文 (折り返 し) 脣：縦文 (LR 横)	ナデ	橙	砂・にぶい黄褐色	砂・チ・雲	—	—	—	—	やや 不良	
530	I B7f III層	深鉢	口縁部片	口：沈線 脣：單 軸結条体1類 (R?・縦)	ナデ	暗褐色 にぶい黄褐色	砂・長	—	—	—	—	—	やや 不良	
531	I C6d III層	深鉢	口縁部片	口：無文 (文様剥 離?)	ナデ	浅黃褐色	砂・英	—	—	—	—	—	やや 不良	補修孔 1箇所
532	I B6f III層	深鉢	口縁部片	口：縦文 (LR横) →平行沈線	ナデ	灰黃褐色 にぶい黄褐色	砂・英	—	—	—	—	—	やや 良好	
533	I B6h I層	深鉢	口～脣 1/3	口～脣：縦文 (RL 横)	ナデ	にぶい黄褐色 灰黃褐色	砂・英	—	(11.2)	(8.1)	—	—	不良	

胎土混入物 全例
砂岩：泥岩 長石：長石 石英：石英 霧母岩：霧母岩
黒：黒色鉄鉱 ナ・チャート：白雲母 ク：カリ輝石

掲載 番号	出土位置・ 層位	器種	残存部位	外面文様	内面調整 (文様)	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	時期 (土器型式)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	コゲの 付着	焼成	備考
534	I B6f III層	深鉢	胴部下半	胴：無文（ケズリ 痕のみ）	ナデ	にぶい黄褐 にぶい黄褐	砂・英	-	-	-	-	-	-	不良
535	I D7a I層	台付	台部片	白：無文（ナデ）	ナデ	橙 橙	砂	-	-	(45)	-	-	-	良好
536	I B7f III層	深鉢	口～胴部 片	口～胴：無文（ナ デ）	ナデ	黒褐色黄褐	砂・長	-	-	-	-	-	-	不良
537	I A4e I A4f II層	深鉢	胴下～底	胴：繩文（LR縦 底：敷物圧痕（ご さき）	ナデ	橙 明褐	砂・英	-	-	(17.8)	13.1	-	-	やや 不良
538	I A4g III層	深鉢	胴下～底 1/2	胴：單輪跡条体1 類（LR縦）、指頭 による整形痕底：敷物 圧痕（木葉模）	指頭による 整形→ナデ	明赤褐 にぶい黄褐	砂・英	-	-	(13.3)	(10.8)	-	-	不良
539	I A4f II層	深鉢	胴下～底	胴：單輪跡条体1 類（LR縦・斜）、指頭 による整形痕底：敷物 圧痕（木葉模）	指頭による 整形→ナデ	明赤褐 黒褐	砂・英	-	-	(9.4)	10.8	-	-	やや 不良
540	I B7e II層	深鉢	胴下～底 1/2	胴：結節回転文 (LR横)、繩文(LR 縦・横)、網代痕	指頭による 整形→ナデ	橙 にぶい黄褐	砂・長	-	-	(59)	(9.4)	-	-	不良
541	I A4b III層	深鉢	胴下～底 1/4	胴：条縞文、底： 敷物圧痕？	ナデ	橙 橙	砂・長	-	-	(7.2)	(5.8)	-	-	良好 底面穿 孔？
542	I C3b IV層上面	深鉢	底面破片	底：敷物圧痕（網 代）	ナデ	にぶい黄褐 橙	砂・く・長	-	-	-	-	-	-	やや 良好

胎土混入物 丸削
砂：砂岩・泥岩 長：長石 短：石英 黄：雲母
黒：黑色光沢質 ナ：チャート・貝冠 く：くさり輝

第14表 土製品観察表

掲載 番号	出土位置・ 層位	器種	文様/特徴	色調	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)
175	貝層 33層	円盤形 土製品	深鉢の胴部片転用。沈線施文。	にぶい黄褐	直径3.06		(1.93)	(4.78)
176	貝層 30層	粘土塊	不整形成塊状で、小さい窪みが見受けられるが、意図的なものか不明。	橙	1.40	1.65	1.15	1.90
177	貝層 45層	粘土塊	台形状にも見えるが、意図的なものではないと推定する。指頭で捏ねたような痕跡が見受けられる。	にぶい橙	2.20	2.95	1.20	3.90
178	貝層 45層	粘土塊	棒状に整形しているが、意図的なものか不明。	橙	3.00	1.30	1.00	2.70
179	貝層 22層	粘土塊	不整形成塊状で、全体に指頭による整形が見受けられるが、意図的なものか不明。	橙	1.75	1.25	1.21	1.63
543	I C6 d III層	円盤形 土製品	深鉢の胴部片転用。繩文施文。	にぶい黄褐	4.14		3.40	14.15
544	I A4f III層	円盤形 土製品	深鉢の胴部片転用。沈線施文。	黒褐	3.42		3.38	17.37
545	I C8e II層	円盤形 土製品	深鉢の胴部片転用。無文。	にぶい黄褐	3.14		2.86	7.84
546	I C5 c II層	円盤形 土製品	深鉢の胴部片転用。無文。	にぶい黄褐	2.53		2.53	4.48
547	I B3a II層	円盤形 土製品	深鉢の胴部片転用。無文。	明褐	2.40		2.21	5.75
548	I B7 g III層	円盤形 土製品	深鉢の胴部片転用。無文。	にぶい黄褐	1.98		1.84	2.84
549	I B8e II層	粘土塊	丸いボル状を呈する。わずかに指頭による整形痕が見受けられる。	橙	2.45	2.30	2.00	10.40

第15表 石器観察表

測量番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (産地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
13	1号住居 埋土下位	石鏟	I	先端部欠損	頁岩 (北上山地)	(166)	14.1	4.2	(0.79)	
14	1号住居 埋土中	石鏟	I	完形	頁岩 (北上山地)	30.1	20.6	6.0	298	
15	1号住居 P166内	石鏟	I	基部欠損	頁岩 (北上山地)	(19.7)	(16.2)	4.3	(1.24)	
16	1号住居 P168内	石鏟	I	基部・先端 部欠損	頁岩 (北上山地)	(26.9)	(15.7)	5.2	(1.96)	
17	1号住居 埋土中	石鏟	I	基部欠損	礫灰岩 (北上山地)	(36.8)	15.8	5.2	(2.30)	
18	1号住居 P22内	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	30.6	27.2	8.7	6.80	
19	1号住居 埋土下位	石錐	I	完形	頁岩 (北上山地)	36.4	16.5	8.4	4.05	錐部が丸みを帯びている 異形石器?
20	1号住居 埋土下位	石匙	I	完形	頁岩 (北上山地)	47.0	15.9	7.2	4.87	
21	1号住居 埋土中	不定形 石器	II	完形	頁岩 (北上山地)	41.1	17.9	7.7	6.26	
22	1号住居 P177内	不定形 石器	IV	完形	閃綠岩 (北上山地)	84.6	45.5	18.6	82.59	
23	1号住居 埋土中	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	31.9	58.3	15.2	18.27	
24	1号住居 埋土下層	禮器	I a	完形	デイサイト (北上山地)	147.0	122.3	43.1	824.28	
25	1号住居 埋土下層	禮器	II b	完形	頁岩 (北上山地)	66.2	90.5	36.1	198.75	
26	I B3a II 層	禮器	I b	完形	デイサイト (北上山地)	129.7	77.2	43.1	606.07	敲打痕あり
27	1号住居 埋土中	敲磨器類	V	完形	礫灰岩 (北上山地)	116.2	54.7	38.1	246.99	磨痕の側縁に敲打痕(特殊 磨石に類似)
28	1号住居 P126内	敲磨器類	I	完形	礫灰岩 (北上山地)	97.4	78.9	70.0	760.39	
29	1号住居 埋土下層	敲磨器類	I	完形	花崗岩 (北上山地)	97.8	81.1	40.0	466.05	
30	1号住居 埋土中	敲磨器類	V	2/3残存	鈣岩 (北上山地)	141.4	76.4	59.2	742.36	磨痕、凹痕
31	1号住居 埋土中	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	35.9	56.8	45.0	101.33	縁辺の一部に階段状剥離 (敲打痕?)
32	1号住居 埋土中	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	57.5	81.9	54.4	291.28	鋭利な縁辺のみ剥離が激し い(敲打痕?)
33	1号住居 埋土中	石核	-	-	頁岩 (北上山地)	46.5	44.3	33.8	79.29	
34	1号住居 埋土中	フレイク	IV a	-	頁岩 (北上山地)	31.1	45.1	9.8	13.74	
35	1号住居 埋土中	フレイク	I b	-	頁岩 (北上山地)	30.2	30.9	5.5	3.44	
36	1号住居 P172内	フレイク	I b	-	頁岩 (北上山地)	52.8	60.5	19.1	70.23	
37	1号住居 埋土中	フレイク	III b	-	頁岩 (北上山地)	54.0	78.3	17.6	56.35	アスファルト(?)付着
61	1号土坑 埋土中	フレイク	I c	-	頁岩 (北上山地)	33.1	53.0	9.3	11.30	
62	1号土坑 埋土中	フレイク	II c	-	頁岩 (北上山地)	42.6	23.9	16.8	14.23	
63	1号土坑 埋土中	RF	I c	-	頁岩 (北上山地)	43.2	25.4	15.2	15.47	
64	6号土坑 埋土中	石鏟	I	完形	頁岩 (北上山地)	22.8	19.1	5.6	1.95	
65	6号土坑 埋土中	石鏟	I	完形	頁岩 (北上山地)	33.1	16.3	4.7	1.87	

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
66	6号土坑 埋土中	尖頭器	I	完形	頁岩 (北上山地)	89.2	28.7	14.4	41.29	先端の一方に両側縁から大きくなっている。
67	6号土坑 埋土中	不定形 石器	I	完形	赤色頁岩 (北上山地)	38.9	37.9	9.8	14.66	
68	6号土坑 埋土中	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	86.6	79.5	61.7	506.63	側縁の3/4が削除状態(敲打痕?)
180	貝層 30層	石鐵	I	完形	頁岩 (北上山地)	15.2	18.6	4.3	0.87	
181	貝層 10層	石鐵	I	完形	頁岩 (北上山地)	14.9	14.1	2.9	0.51	
182	貝層 4層	石鐵	I	先端部欠損	頁岩 (北上山地)	(16.4)	15.3	2.7	(0.54)	
183	貝層 23層	石鐵	I	完形	頁岩 (北上山地)	19.2	16.1	2.8	0.72	
184	貝層 上面	石鐵	I	完形	頁岩 (北上山地)	19.4	17.6	4.0	1.35	縁辺の一部に剥離。
185	貝層 12層	石鐵	II	完形	頁岩 (北上山地)	18.1	14.9	2.4	0.59	
186	貝層 7層	石鐵	I	完形	頁岩 (北上山地)	28.4	17.1	4.6	1.57	
187	貝層 3層	石鐵	I	基部欠損	頁岩 (北上山地)	(30.2)	(16.1)	3.9	(1.50)	
188	貝層 3層	石鐵	I	基部・先端 部欠損	頁岩 (北上山地)	(30.4)	(16.8)	7.5	(3.26)	
189	貝層 22層	石鐵	II	完形	頁岩 (北上山地)	26.1	14.1	4.7	1.45	
190	貝層 61層	石鐵	II	完形	頁岩 (北上山地)	28.4	14.8	3.5	1.53	
191	貝層 6層	石鐵	II	完形	頁岩 (北上山地)	34.0	14.3	5.1	1.85	
192	貝層 6層	石鐵	II	完形	頁岩 (北上山地)	36.1	17.9	5.4	2.61	
193	貝層 35層	石鐵	II	完形	頁岩 (北上山地)	43.6	16.0	4.8	2.51	形状がやや歪。失敗品か。
194	貝層 5層	石鐵 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	49.2	13.7	4.5	2.36	
195	貝層 1層	尖頭器	II	完形	赤色頁岩 (北上山地)	48.5	19.3	11.1	8.70	押出型ポイント
196	貝層 20層	尖頭器	II	完形	頁岩 (北上山地)	99.0	16.6	10.6	17.26	押出型ポイント
197	貝層 51層	不定形 石器	I	1/3残存	頁岩 (北上山地)	(30.1)	(28.4)	(6.9)	(6.39)	
198	貝層 2層	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	42.1	30.6	11.1	14.53	
199	貝層 51層	不定形 石器	I	1/2残存	頁岩 (北上山地)	33.6	37.1	10.6	15.57	
200	貝層 7層	UF	IV b	-	頁岩 (北上山地)	56.4	25.4	7.7	13.17	アスファルト(?)付着
201	貝層 61層	UF	II b	-	頁岩 (北上山地)	40.9	36.8	10.5	19.47	
202	貝層 63層	UF	IV d	-	頁岩 (北上山地)	23.8	22.2	4.4	2.06	
203	貝層 12層	磨製石斧 完成品	-	基部縁辺 のみ	頁岩 (北上山地)	(27.4)	(15.1)	(7.8)	(5.02)	
204	貝層 1層	敲磨器類	IV	縁辺欠損	花崗閃緑岩 (北上山地)	86.3	50.4	45.1	283.44	縁辺部は敲打によって破壊したと推測
205	貝層 30層	石核	-	-	頁岩 (北上山地)	77.2	95.5	86.3	991.79	二方向から剥離作業を行っている。
206	貝層 35層	フレイク	II b	-	頁岩 (北上山地)	58.2	40.0	10.3	27.63	
550	I C5c 貝層	石鐵	I	先端部欠損	頁岩 (北上山地)	(24.4)	16.8	6.0	(2.06)	

掘削番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
551	I A4g Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	234	157	34	1.11	
552	I A4g Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	328	222	43	253	
553	I C7d Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	246	191	47	1.94	
554	I A4d I層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	134	119	45	0.66	
555	I B7e Ⅱ層	石鏡	I	先端部欠損	頁岩 (北上山地)	(184)	173	47	(1.40)	
556	I C4d Ⅱ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	227	174	35	1.07	
557	I C4b Ⅱ層	石鏡	I	基部欠損	頁岩 (北上山地)	(295)	191	55	(2.46)	
558	I C6e Ⅲ層	石鏡	I	基部欠損	頁岩 (北上山地)	(208)	171	33	(1.18)	
559	I C7a Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	316	191	61	2.75	
560	I C5c Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	214	168	76	1.99	石鏡失敗品の可能性がある
561	I A5g Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	384	181	63	3.44	
562	I A4g Ⅲ層	石鏡	I	基部欠損	頁岩 (北上山地)	(204)	(145)	45	(1.28)	
563	I C5i IV層上面	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	311	164	55	2.41	
564	I B7f Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	231	17.7	55	1.61	
565	I A4g Ⅱ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	249	172	61	2.07	
566	I C3b Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	202	153	38	0.95	
567	I C7a Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	243	168	38	1.24	
568	I A4h Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	212	168	42	1.41	石鏡失敗品の可能性がある
569	I B7g Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	244	17.9	42	1.62	
570	I B8g I層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	226	185	54	2.00	
571	I B7g Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	261	18.2	42	2.04	
572	I B7g Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	298	17.3	50	2.21	
573	I B6b Ⅱ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	275	19.8	53	2.42	
574	I B7e Ⅱ層	石鏡	I	先端部欠損	頁岩 (北上山地)	(306)	16.3	6.6	(3.33)	
575	I C7e Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	39.0	19.5	5.3	3.60	
576	I B7h Ⅲ層	石鏡	I	完形	頁岩 (北上山地)	351	18.2	5.2	2.86	
577	I B7g Ⅲ層	石鏡	II	完形	頁岩 (北上山地)	248	15.9	3.0	1.06	
578	I C4a Ⅲ層	石鏡	II	完形	頁岩 (北上山地)	18.0	15.0	4.8	1.25	
579	I C5c Ⅲ層	石鏡	II	先端部欠損	頁岩 (北上山地)	(364)	25.4	(9.3)	(9.31)	石鏡失敗品の可能性がある
580	I C5c Ⅱ層	石鏡	II	完形	頁岩 (北上山地)	37.1	18.1	6.6	3.03	
581	I A3e Ⅱ層	石鏡	II	完形	頁岩 (北上山地)	243	17.1	3.9	1.27	

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
582	I B7f II層	石鏟	II	完形	頁岩 (北上山地)	335	181	3.8	1.76	
583	I B7g II層	石鏟	II	完形	頁岩 (北上山地)	29.1	16.9	5.4	2.23	
584	I B7e II層	石鏟	II	完形	頁岩 (北上山地)	24.6	16.9	4.5	1.62	
585	I B7d II層	石鏟	II	完形	頁岩 (北上山地)	22.4	13.7	4.2	1.15	
586	I B7e- II層	石鏟	II	完形	頁岩 (北上山地)	26.8	15.8	4.8	1.35	
587	I C5h II層	石鏟	II	完形?	赤色頁岩 (北上山地)	19.4	16.9	4.8	1.38	基部欠損か
588	I B7f II層	石鏟	III	茎部欠損	頁岩 (北上山地)	(26.4)	14.6	6.0	(1.72)	
589	I A4g II層	石鏟	III	完形	頁岩 (北上山地)	34.6	11.6	4.0	1.27	
590	I C8e II層	石鏟	III	茎部・先端 部欠損	頁岩 (北上山地)	(23.8)	11.2	(4.0)	(0.99)	
591	I C7c III層	石鏟	III	茎部・先端 部欠損	頁岩 (北上山地)	(19.6)	9.7	(4.9)	(0.99)	
592	出土地点 不明	石鏟	III	先端部欠損	頁岩 (北上山地)	(30.4)	10.3	5.8	(1.57)	
593	I B7g II層	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	32.4	20.6	8.0	5.30	
594	I C6e II層	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	32.4	22.2	9.8	6.30	
595	I A6c- IV層・上・面	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	26.9	20.5	7.6	4.09	
596	I C6e II層	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	37.2	29.8	8.1	5.96	
597	I A4f II層	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	26.4	15.7	6.5	2.39	
598	I C3a II層	石鏟 失敗品	-	-	礫灰岩 (北上山地)	33.5	20.4	6.8	4.53	
599	I C4b III層	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	34.1	21.5	7.5	4.66	
600	I B7g II層	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	31.9	15.4	8.7	3.67	
601	I C8f II層	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	23.3	17.2	7.7	3.05	
602	I B7j II層	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	28.5	11.8	3.5	1.30	
603	I C3a II層	石鏟 失敗品	-	-	頁岩 (北上山地)	17.4	12.2	2.8	0.63	
604	I B7e II層	尖頭器	II	先端部欠損	頁岩 (北上山地)	(77.2)	23.6	10.8	(20.70)	押出型ポイント
605	I B6e II層	尖頭器	I	完形	頁岩 (北上山地)	166.6	34.8	15.1	72.37	
606	I A4g II層	尖頭器	II?	完形	頁岩 (北上山地)	83.3	28.9	11.6	19.32	押出型ポイント?
607	I A6d I層	尖頭器	I	1/2残存	頁岩 (北上山地)	(53.2)	26.6	(11.1)	(16.29)	
608	I C7c III層	尖頭器	I	1/2残存	頁岩 (北上山地)	(76.8)	33.1	(13.3)	(39.70)	
609	I B7g II層	尖頭器	I	1/2残存	頁岩 (北上山地)	(69.2)	32.2	(16.1)	(29.67)	
610	I B7i II層	尖頭器	I	1/3残存	頁岩 (北上山地)	(48.7)	25.2	(10.3)	(12.01)	
611	I B7h II層	尖頭器	I	1/4残存	頁岩 (北上山地)	(60.4)	(36.4)	(15.1)	(30.71)	二次加工が至。製作途中 か。
612	I B7e II層	尖頭器	I	1/4残存	頁岩 (北上山地)	(42.4)	(31.9)	(12.9)	(15.19)	

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
613	I C5g II層	尖頭器	I	先端部のみ	頁岩 (北上山地)	(37.9)	(25.9)	(9.2)	(7.93)	
614	I D7a I層	尖頭器	I	体部のみ	頁岩 (北上山地)	(52.9)	(35.3)	(12.8)	(31.03)	
615	I A6j IV層	石錐	II	体部のみ	頁岩 (北上山地)	(24.9)	14.2	6.5	(2.99)	
616	I C4e II層	石錐	I	完形	凝灰岩 (北上山地)	30.4	12.1	4.3	1.70	
617	I A4e II層	石錐	II	完形	頁岩 (北上山地)	35.8	14.8	6.2	1.83	
618	I C4f II層	石錐	II	完形	頁岩 (北上山地)	40.5	21.8	9.2	6.35	
619	I C4e II層	石錐	II	完形	頁岩 (北上山地)	22.9	18.5	4.3	1.53	
620	I B7g III層	石匙	I	完形	頁岩 (北上山地)	54.3	15.8	7.0	6.46	
621	I B7f III層	石匙	I	完形	頁岩 (北上山地)	61.5	24.6	6.5	8.31	
622	I B8e II層	石匙	I	完形	頁岩 (北上山地)	61.0	19.9	7.7	6.70	刃部に大きな剥離がある
623	I B7f III層	石匙	I	完形	頁岩 (北上山地)	61.0	19.6	6.9	11.23	袖み部の折れが浅い
624	I C5e II層	石匙	II	完形	頁岩 (北上山地)	39.2	46.9	9.2	12.76	
625	I A5g III層	石匙	II	刃部欠損	凝灰岩 (北上山地)	48.0	(50.5)	(8.6)	(15.27)	
626	I B3i IV層上・面	石匙	III	完形	凝灰岩 (北上山地)	64.2	32.5	10.2	18.24	二次加工が歪。製作途中か。
627	I B7f III層	石匙	III	完形	頁岩 (北上山地)	33.0	13.4	5.1	2.29	欠損した刃部を再加工している可能性がある
628	I B7e II層	石匙	III	完形	赤色頁岩 (北上山地)	42.3	19.3	5.5	4.57	
629	I A4g II層	楔形石器	I	-	頁岩 (北上山地)	26.8	36.5	11.3	10.74	
630	I A5g III層	楔形石器	II	-	頁岩 (北上山地)	36.6	27.7	12.8	16.61	
631	I B7f III層	楔形石器	I	-	頁岩 (北上山地)	34.2	35.0	13.9	25.35	
632	I A5g III層	楔形石器	I	-	頁岩 (北上山地)	30.4	31.1	9.2	10.12	
633	I A4i III層	楔形石器	II	-	頁岩 (北上山地)	37.8	33.0	7.5	9.61	
634	I C3b II層	楔形石器	I	-	頁岩 (北上山地)	53.1	52.3	22.6	42.88	形状が著しく歪である
635	I B7g III層	不定形 石器	IV	完形	頁岩 (北上山地)	69.8	35.8	14.6	43.49	力持型スクレイバー
636	I A4g III層	不定形 石器	IV	完形	凝灰岩 (北上山地)	70.0	42.9	15.1	52.35	力持型スクレイバー
637	I A4f II層	不定形 石器	IV	完形	頁岩 (北上山地)	71.5	44.1	16.5	56.70	力持型スクレイバー(製作途中か)
638	I B6g III層	不定形 石器	II	完形	頁岩 (北上山地)	62.8	28.7	13.8	27.72	
639	I A5g II層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	58.1	23.6	9.7	12.86	
640	I B7h III層	不定形 石器	II	完形	頁岩 (北上山地)	42.6	24.4	11.5	12.13	
641	I A4g III層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	70.1	23.9	13.0	18.58	
642	I A4h III層	不定形 石器	II	完形	頁岩 (北上山地)	85.5	34.4	12.6	48.09	
643	I B7f III層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	58.7	36.5	10.3	13.99	

揭露 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
644	I B7f Ⅲ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	439	294	9.1	11.50	
645	I A4g Ⅲ層	不定形 石器	II	完形	頁灰岩 (北上山地)	492	321	9.9	16.09	
646	I C5c Ⅱ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	455	252	7.6	9.57	
647	I C6e I層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	459	44.4	11.5	21.20	
648	I C4b II b層	不定形 石器	I	2/3残存	頁岩 (北上山地)	(57.2)	(50.2)	15.5	(47.71)	
649	I A4g Ⅲ層	不定形 石器	II	完形	頁岩 (北上山地)	337	39.5	8.0	11.06	
650	I C3d Ⅱ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	258	30.9	11.1	7.16	
651	I C7b Ⅲ層	不定形 石器	II	完形	頁岩 (北上山地)	497	78.3	16.1	59.75	
652	I C7c Ⅲ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	40.8	23.4	5.8	4.84	石器か
653	I A4g Ⅲ層	不定形 石器	I	完形	頁灰岩 (北上山地)	69.3	39.1	13.1	43.84	
654	I C4b Ⅲ層	不定形 石器	II	完形	頁灰岩 (北上山地)	84.5	35.0	16.1	57.13	
655	I B7f Ⅲ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	45.9	49.1	9.8	19.28	
656	I B7j Ⅲ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	53.9	53.6	15.4	22.26	
657	I C7a Ⅲ層	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	76.2	26.6	16.7	28.87	
658	I A6c IV層上面	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	59.6	46.4	13.4	35.43	
659	I C5e Ⅱ層	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	52.4	69.6	17.6	56.61	
660	I C3g Ⅱ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	30.0	21.1	7.0	4.91	
661	I A4g Ⅱ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	51.6	50.0	9.1	23.67	
662	I C5c Ⅱ層	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	39.1	29.4	12.1	11.01	
663	I C5c Ⅱ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	39.6	37.1	9.7	14.47	
664	I C5e Ⅱ層	不定形 石器	I	2/3残存	頁岩 (北上山地)	(49.1)	42.0	(16.4)	(35.16)	
665	I A4g Ⅱ層	不定形 石器	I	完形	頁灰岩 (北上山地)	34.9	33.3	10.8	10.35	
666	I B7j Ⅲ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	45.7	31.9	9.0	14.15	
667	I A4d I層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	51.7	46.1	12.9	34.25	
668	I C4c Ⅲ層	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	50.5	42.2	19.4	44.18	
669	I B7d Ⅲ層	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	65.0	48.8	13.9	43.88	
670	I B7f Ⅲ層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	46.0	39.5	17.9	33.26	
671	I A4g 不定形 石器	II	完形	頁岩 (北上山地)	54.8	62.0	30.5	93.64		
672	I C4e Ⅱ層	不定形 石器	II	完形	頁岩 (北上山地)	56.0	49.6	18.1	48.89	
673	I B7f Ⅲ層	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	41.5	43.1	15.1	25.26	
674	I A5g Ⅲ層	不定形 石器	I	2/3残存	頁岩 (北上山地)	(50.1)	(27.7)	11.0	(12.04)	

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (産地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
675	I A4h II層	不定形 石器	I	完形	頁岩 (北上山地)	69.6	96.1	21.2	154.38	
676	I A5g II層	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	37.0	58.0	12.6	30.73	アスファルト(?)付着
677	I C6d II層	不定形 石器	III	完形	ディサイト (北上山地)	109.7	48.8	24.9	129.53	
678	I A4h II層	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	84.3	46.5	18.9	77.87	
679	I C4c II層	不定形 石器	III	完形	頁岩 (北上山地)	91.8	38.9	21.2	100.27	
680	I C4f I層	UF	III c	-	頁岩 (北上山地)	43.1	58.2	13.2	22.83	
681	I C4h II層	UF	IV a	-	頁岩 (北上山地)	48.1	23.4	8.7	8.92	
682	I B7g III層	UF	III b	-	頁岩 (北上山地)	56.2	56.0	11.7	27.43	
683	I C3b II層	UF	III b	-	頁岩 (北上山地)	34.9	27.1	11.0	9.57	
684	I C4e II層	UF	III c	-	頁岩 (北上山地)	50.6	43.2	13.3	24.37	
685	I B7e II層	UF	III c	-	頁岩 (北上山地)	43.2	31.6	8.7	9.89	
686	I B7g III層	UF	III c	-	頁岩 (北上山地)	32.5	46.0	12.6	16.83	
687	I B7e II層	UF	IV b	-	頁岩 (北上山地)	29.4	34.1	8.7	5.92	
688	I B7j III層	UF	I b	-	頁岩 (北上山地)	21.4	35.5	6.0	3.64	
689	I B7h III層	UF	II b	-	頁岩 (北上山地)	50.0	34.9	10.5	18.68	
690	I B7g III層	UF	IV c	-	砂岩 (北上山地)	49.2	67.8	13.8	49.12	
691	I C3g III層	UF	IV a	-	頁岩 (北上山地)	43.8	66.2	19.8	42.76	
692	I B7f II層	UF	IV a	-	頁岩 (北上山地)	64.4	58.5	18.8	57.31	
693	I A4f II層	UF	IV c	-	頁岩 (北上山地)	35.4	28.1	9.7	8.78	
694	I B7g III層	UF	I c	-	頁岩 (北上山地)	46.9	52.9	13.2	29.12	
695	I B7g III層	UF	I b	-	頁岩 (北上山地)	44.4	33.5	12.1	18.54	
696	I B7e II層	UF	I c	-	頁岩 (北上山地)	40.1	42.6	13.5	20.81	
697	I B7g III層	UF	IV a	-	頁岩 (北上山地)	23.9	36.5	15.9	12.23	
698	I A4h II層	UF	I c	-	頁岩 (北上山地)	48.3	66.2	21.1	56.63	
699	I C5c II層	UF	I b	-	頁岩 (北上山地)	38.6	59.9	16.1	28.28	
700	I B7f II層	UF	IV a	-	頁岩 (北上山地)	53.3	70.9	23.6	85.41	
701	I B7i II層	UF	II b	-	頁岩 (北上山地)	44.9	47.3	13.0	21.39	
702	I B3a II層	UF	IV c	-	頁岩 (北上山地)	50.0	41.2	17.4	34.62	
703	I B7h II層	UF	III c	-	頁岩 (北上山地)	42.5	55.2	13.1	26.85	
704	I B7j III層	UF	I c	-	頁岩 (北上山地)	30.6	35.9	10.0	11.07	
705	I B3a II層	RF	IV a	-	頁岩 (北上山地)	42.5	52.1	18.6	45.52	

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
706	I C3d II層	UF	II c	—	頁岩 (北上山地)	39.9	51.4	11.0	18.54	
707	I A5g II層	UF	I b	—	頁岩 (北上山地)	49.3	48.3	14.8	26.55	
708	I B7d II層	UF	I b	—	頁岩 (北上山地)	44.4	53.6	11.1	26.15	
709	I B7f II層	UF	II c	—	頁岩 (北上山地)	49.7	42.6	17.1	36.17	
710	I B7j II層	UF	I b	—	頁岩 (北上山地)	62.0	49.0	18.5	47.46	
711	I B7g II層	UF	I b	—	頁岩 (北上山地)	92.2	44.9	20.3	93.58	
712	I A5g II層	UF	IV a	—	凝灰岩 (北上山地)	58.0	32.4	20.9	24.86	
713	I B7i II層	UF	I b	—	頁岩 (北上山地)	73.2	41.9	10.2	36.53	
714	I C7a II層	RF	IV c	—	頁岩 (北上山地)	57.8	31.1	14.2	27.84	
715	I B7b I層	UF	III a	—	頁岩 (北上山地)	45.5	19.3	8.6	8.16	
716	I B7g II層	UF	I b	—	頁岩 (北上山地)	54.4	22.9	5.2	4.82	
717	I B7g II層	UF	IV c	—	頁岩 (北上山地)	60.2	31.6	10.7	20.31	
718	I A4h II層	UF	IV c	—	頁岩 (北上山地)	31.3	28.0	8.6	8.78	
719	I B3a II層	RF	IV c	—	頁岩 (北上山地)	74.1	67.2	17.9	55.43	
720	I A4f II層	RF	IV a	—	頁岩 (北上山地)	47.1	38.6	14.6	18.14	
721	I B8f II層	RF	III b	—	頁岩 (北上山地)	56.1	53.5	18.9	53.11	
722	I B7e II層	RF	IV a	—	頁岩 (北上山地)	47.5	41.0	19.4	36.79	
723	I C7a II層	RF	I b	—	頁岩 (北上山地)	52.0	36.9	15.8	19.75	
724	I B7g II層	RF	II c	—	頁岩 (北上山地)	47.0	33.9	9.1	13.30	
725	I A4h II層	RF	IV a	—	凝灰岩 (北上山地)	38.6	30.1	10.8	10.18	
726	I B7i II層	RF	II c	—	頁岩 (北上山地)	42.2	62.1	13.6	34.90	
727	I B7e II層	RF	I b	—	頁岩 (北上山地)	35.4	57.9	13.8	30.04	
728	I B7h II層	RF	III a	—	頁岩 (北上山地)	31.1	48.0	11.7	20.13	
729	I A4h II層	磨製石斧	完成品	刃部剥離 基部欠損	頁岩 (北上山地)	(99.4)	55.5	31.6	(282.98)	刃部は欠損か二次加工
730	I A4h II層	磨製石斧	完成品	1/2残存	細粒閃綠岩 (北上山地)	(81.8)	47.3	27.7	(201.13)	刃部削減。体部に敲打段階 の痕跡残る
731	I B7i II層	磨製石斧	完成品	基部・刃部 剥離	頁岩 (北上山地)	(87.4)	58.7	23.8	(192.06)	基部剥半分が熱で赤色に 還元
732	I B7i II層	磨製石斧	完成品	基部・刃部 剥離	蛇紋岩 (早池峰山周辺)	(106.5)	55.3	(32.3)	(287.82)	
733	I B7i II層	磨製石斧	完成品	完形	閃綠岩 (北上山地)	52.5	46.3	14.5	58.53	基部が短い。欠損品を再加工 した可能性がある
734	I C8f II層	磨製石斧	未成品	—	砂岩 (北上山地)	83.1	42.8	28.5	100.60	剥離→研磨段階
735	I B7i II層	磨製石斧	未成品	—	細粒閃綠岩 (北上山地)	80.4	46.6	24.6	156.14	敲打段階 基部欠損
736	I B8f II層	磨製石斧	未成品	—	細粒閃綠岩 (北上山地)	59.5	44.4	23.7	107.66	敲打段階 基部欠損

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
737	I B3a II層	禮器	I b	完形	凝灰質砂岩 (大船渡層群)	1824	1480	87.0	375190	
738	I A4h II層	禮器	I b	完形	細粒花崗閃綠岩 (北上山地)	1528	978	47.6	106353	敲打痕あり
739	I A4b II層	禮器	I b	完形	凝灰岩 (北上山地)	1178	1448	65.2	147814	
740	I C3e II層	禮器	I b	完形	凝灰岩 (北上山地)	1364	114.9	31.9	723.81	剥離(刃部)が粗雑
741	I B8g I 層	禮器	I b	完形	頁岩 (北上山地)	824	719	24.1	227.74	
742	I A4g III層	禮器	I a	完形	凝灰岩 (北上山地)	1180	1041	21.9	370.51	剥離(刃部)が粗雑
743	I A4g III層	禮器	I b	完形	凝灰岩 (北上山地)	1355	910	59.0	708.18	剥離面が敲打している
744	I C6e III層	禮器	I b	片面剥離	凝灰岩 (北上山地)	1115	652	34.1	303.05	
745	I A4c III層	禮器	I a	完形	頁岩 (北上山地)	1554	90.7	41.1	756.88	
746	I A4g II層	禮器	I b	完形	頁岩 (北上山地)	1460	510	27.1	268.42	
747	I C6e II層	禮器	I a	完形	頁岩 (北上山地)	1363	759	47.0	554.82	
748	I A4g III層	禮器	I a	完形	ひん岩 (北上山地)	1296	884	37.4	613.54	磨痕あり
749	I A4f III層	禮器	I b	完形	頁岩 (北上山地)	1510	1404	63.2	2198.49	敲打痕あり
750	I A4g III層	禮器	I b	完形	凝灰岩 (北上山地)	1546	158.9	49.2	1711.81	
751	I A5g III層	禮器	I a	完形	凝灰岩 (北上山地)	1377	101.6	46.6	584.68	
752	I A5g II層	禮器	II b	完形	砂岩 (北上山地)	1153	534	17.4	123.14	
753	I B8e II層	禮器	I a	完形	凝灰岩 (北上山地)	1026	454	20.8	122.94	
754	I B7f II層	禮器	II b	完形	頁岩 (北上山地)	1071	521	24.8	150.96	
755	I B7h II層	禮器	II b	完形	閃綠岩 (北上山地)	89.6	124.9	51.0	713.49	
756	I C7c III層	禮器	II b	完形	凝灰岩 (北上山地)	834	109.2	26.7	182.92	
757	I C5e III層	禮器	II b	完形	凝灰岩 (北上山地)	70.4	794	43.0	245.03	
758	I B7f II層	禮器	II a	完形	頁岩 (北上山地)	722	869	31.7	191.05	
759	I B7i III層	禮器	II a	完形	頁岩 (北上山地)	92.2	1126	48.6	439.86	
760	I C3b II層	禮器	II a	完形	凝灰岩 (北上山地)	1257	930	39.7	491.75	
761	I B3b II層	禮器	II b	完形	頁岩 (北上山地)	1355	1367	31.6	693.82	
762	I A5g III層	禮器	II b	完形	凝灰岩 (北上山地)	106.9	96.8	36.5	394.71	自然面が波然
763	I B7g III層	禮器	II b	完形	ひん岩 (北上山地)	1114	899	44.8	530.25	
764	I A3e III層	禮器	I b	完形	頁岩 (北上山地)	70.7	85.8	55.1	364.29	
765	I B7i III層	禮器	I a	完形	凝灰岩 (北上山地)	88.4	103.3	50.1	439.71	
766	I A8e III層	禮器	II b	完形	頁岩 (北上山地)	77.2	98.9	44.5	426.10	
767	I B8e II層	禮器	I b	完形	頁岩 (北上山地)	82.8	101.0	30.1	310.21	

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
768	I Bsg I 層	禮器	I b	完形	頁岩 (北上山地)	793	721	46.0	280.30	
769	I A4g II 層	禮器	II a	完形	頁岩 (北上山地)	64.1	96.8	29.2	230.56	石棒の欠損品か。広く敲打痕残る
770	I B7e II 層	禮器	II b	端部欠損	頁岩 (北上山地)	(94.7)	(112.9)	(50.2)	(708.43)	
771	I B8f I 層	禮器	II a	完形	頁岩 (北上山地)	82.3	102.2	62.2	509.20	敲打痕あり
772	I C8e III 層	敲磨器類	I	完形	ダイサイト (北上山地)	153.6	90.6	53.2	1129.13	
773	I B8d II 層	敲磨器類	I	完形	砂岩 (北上山地)	130.9	57.4	32.6	376.01	
774	I B7e II 層	敲磨器類	I	完形	花崗岩 (北上山地)	101.7	84.1	46.2	580.38	
775	I B7f III 層	敲磨器類	I	完形	繖状砂岩 (北上山地)	107.1	74.4	34.7	422.74	
776	I D8a II 層	敲磨器類	I	完形	ダイサイト (北上山地)	114.1	71.6	53.7	647.44	
777	I B8e II 層	敲磨器類	I	完形	繖状頁岩 (大船渡層群)	132.0	48.9	24.0	197.91	
778	I B8e II 層	敲磨器類	I	側縫欠損	ひん岩 (北上山地)	(102.7)	(79.9)	49.0	(628.61)	
779	I B4n II 層	敲磨器類	I	完形	ダイサイト (北上山地)	95.9	50.2	21.9	174.15	端部に敲打痕?
780	I C3j III 層	敲磨器類	I	4/5残存	ダイサイト (北上山地)	(101.2)	94.8	75.2	(1085.02)	
781	I C3h II 層	敲磨器類	I	完形	ひん岩 (北上山地)	107.6	95.5	45.5	717.16	
782	I B7g III 層	敲磨器類	I	完形	砂岩 (北上山地)	95.6	65.6	34.2	307.34	
783	I B7f II 層	敲磨器類	I	完形	砂岩 (北上山地)	109.2	81.6	44.5	599.18	
784	I B3a II 層	敲磨器類	II	縫隙欠損	砂岩 (北上山地)	(184.2)	(55.4)	29.3	(320.41)	
785	I A4f II 層	敲磨器類	II	端部欠損	砂岩 (北上山地)	(141.8)	62.4	34.0	(476.40)	
786	I B7f II 層	敲磨器類	II	完形	砂岩 (北上山地)	90.7	36.8	24.8	124.91	
787	I C3f II b 層	敲磨器類	II	完形	ダイサイト (北上山地)	59.6	58.7	40.3	219.22	
788	I B7f II 層	敲磨器類	II	完形	砂岩 (北上山地)	73.5	50.6	45.6	237.57	
789	I A5g II 層	台石	I	完形	繖状頁岩 (大船渡層群)	213.0	126.0	127.3	4057.30	凹痕あり
790	I A7d IV 層(上面)	台石	I	完形	ひん岩 (北上山地)	196.0	169.0	146.0	6000.00	磨面あり
791	I C4h I 層	敲磨器類	IV	完形	繖状四錐岩 (北上山地)	110.3	66.7	58.3	601.43	全体が被熱している。
792	I C6e II 層	敲磨器類	IV	完形	砂岩 (北上山地)	86.9	56.1	22.6	177.39	
793	I B8e II 層	敲磨器類	IV	完形	繖状花崗閃綠岩 (北上山地)	111.1	72.5	40.3	474.86	
794	I B7g III 層	敲磨器類	IV	完形	花崗岩 (北上山地)	73.7	56.6	45.4	257.25	
795	I A4h II 層	敲磨器類	IV	完形	繖状岩 (北上山地)	107.0	96.8	62.0	918.16	
796	I B7f II 層	敲磨器類	IV	完形	砂岩 (北上山地)	98.5	56.1	32.5	279.31	
797	I B3a II 層	敲磨器類	IV	完形	花崗岩 (北上山地)	95.1	60.3	42.8	339.70	全体が被熱している。
798	I C5e II 層	敲磨器類	IV	完形	ダイサイト (北上山地)	92.3	88.2	44.7	517.87	

査定 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
799	I C6e II層	敲磨器類	IV	完形	凝灰岩 (北上山地)	1103	458	245	180.56	
800	I B7e II層	敲磨器類	V	完形	砂岩 (北上山地)	98.7	78.1	39.6	468.97	
801	I B8d II層	敲磨器類	IV	端部欠損	砂岩 (北上山地)	(100.6)	(47.7)	(20.8)	(155.72)	
802	I B7g II層	敲磨器類	IV	完形	デイサイト (北上山地)	197.8	75.2	65.0	1375.73	
803	I B8e II層	敲磨器類	IV	完形	凝灰岩 (北上山地)	115.5	49.7	41.7	365.32	
804	I B7f III層	敲磨器類	IV	2/3残存	砂岩 (北上山地)	(206.8)	(77.4)	(68.6)	(1521.11)	
805	I B7g III層	敲磨器類	IV	端部欠損	ホンフェルス (北上山地)	(91.3)	48.4	15.9	(110.90)	
806	I B7e II層	敲磨器類	IV	端部欠損	砂岩 (北上山地)	(73.8)	36.1	21.5	(91.84)	
807	I B8e II層	敲磨器類	IV	2/3残存	砂岩 (北上山地)	(108.0)	51.0	(27.7)	(203.69)	
808	I B7j III層	敲磨器類	IV	完形	デイサイト (北上山地)	167.9	28.9	27.8	198.91	
809	I A6g III層	敲磨器類	IV	端部欠損	頁岩 (北上山地)	(134.6)	28.4	(24.0)	(136.50)	
810	I B7g III層	敲磨器類	IV	完形	頁岩 (北上山地)	91.1	27.5	13.9	41.58	
811	I B4a II層	敲磨器類	V	完形	砂岩 (北上山地)	167.0	91.6	78.2	1831.05	全体が被熱している。
812	I B3a II層	敲磨器類	V	完形	砂岩 (北上山地)	158.0	83.2	58.0	1100.20	
813	I C4b III層	敲磨器類	VI	完形	砂岩 (北上山地)	122.5	81.7	56.1	708.19	
814	I B7e II層	敲磨器類	V	完形	砂岩 (北上山地)	137.0	68.7	48.1	664.37	
815	I B7f III層	敲磨器類	VI	2/3残存	砂岩 (北上山地)	(116.5)	71.8	43.4	(499.09)	
816	I D8a II層	敲磨器類	VI	完形	砂岩 (北上山地)	80.9	59.3	51.6	301.74	
817	I B8e II層	敲磨器類	V	完形	繩紋四線岩 (北上山地)	128.9	53.9	49.9	394.56	
818	I B7g III層	敲磨器類	VI	完形	凝灰岩 (北上山地)	117.5	68.5	55.3	560.70	
819	I C4b II b層	敲磨器類	V	完形	デイサイト (北上山地)	92.5	83.3	32.2	336.15	
820	I C4e II層	敲磨器類	V	1/3残存	凝灰質砂岩 (大船渡層群)	(82.8)	(60.9)	(37.9)	(252.15)	
821	I C7a III層	敲磨器類	V	完形	ひん岩 (北上山地)	125.2	59.4	59.0	671.99	磨痕+敲打痕
822	I A4 g II層	敲磨器類	V	完形	ひん岩 (北上山地)	150.8	75.4	63.4	900.84	磨痕+敲打痕+凹痕 平坦面が被熱している
823	I B7g III層	敲磨器類	V	完形	砂岩 (北上山地)	132.9	72.6	53.0	674.97	磨痕+敲打痕
824	I B4j IV層上面	敲磨器類	V	完形	デイサイト (北上山地)	148.4	82.6	64.6	1018.57	磨痕+敲打痕
825	I B7h III層	敲磨器類	V	完形	花崗岩 (北上山地)	160.0	88.6	84.2	1436.76	磨痕+敲打痕 全体が淡く被熱している
826	I B7g III層	敲磨器類	V	完形	デイサイト (北上山地)	179.4	81.6	67.4	1406.92	磨痕のみ
827	I B7g III層	敲磨器類	V	完形	繩紋花崗閃綠岩 (北上山地)	179.4	113.2	73.0	1480.28	磨痕+敲打痕
828	I B8g I層	特殊磨石	-	完形	花崗岩 (北上山地)	195.2	67.3	33.6	676.17	側縁の片方は磨痕、もう片 方は敲打痕
829	I C4b II層	石皿	I	完形	花崗岩 (北上山地)	172.6	153.0	58.0	2186.46	両面が使用面(磨痕)

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
830	I A5g II層	石皿	I	4/5残存	凝灰岩 (北上山地)	(239.4)	1636	(628)	(2888.64)	片面のみ使用面(磨痕)
831	I A6g II層	石皿	I	側縁欠損	凝灰岩 (北上山地)	(115.2)	(139.8)	(38.2)	(779.39)	片面のみ使用面(磨痕)
832	I A4f II層	石皿	I	1/4残存	硅岩 (北上山地)	(95.4)	(78.6)	(55.2)	(611.67)	片面のみ使用面(磨痕)
833	I B8d II層	石皿	I	完形	花崗岩 (北上山地)	273.6	1822	86.4	5900.00	片面のみ使用面(磨痕+側 磨溝)
834	I A4f II層	石皿	II	側縁欠損	凝灰質砂岩 (大船渡層群)	(146.0)	(113.8)	(47.2)	598.08	脚あり。片面のみ使用面 (磨痕) 脚のある面に研溝 あるので欠損品を再利用
835	I A4e II層	石皿	I	完形	テイサイト (北上山地)	442.2	201.8	95.8	10000.00	片面のみ使用面(敲打痕) 端部が剥離している
836	I B7g II層	台石	I	完形	花崗岩 (北上山地)	263.4	157.6	121.4	6800.00	片面のみ使用面(敲打痕、 凹痕)
837	I B8d II層	台石	I	完形	花崗岩 (北上山地)	210.2	134.4	94.4	3937.50	全体に磨痕
838	I C3a II層	台石	I	完形	凝灰質砂岩 (大船渡層群)	419.4	236.6	111.8	17500.00	両面が使用面(凹痕)
839	I A4e II層	台石	II	完形	砂岩 (北上山地)	401.6	178.4	146.6	15500.00	3面が使用面(敲打痕、凹 痕)
840	I B8 i II層	台石	II	完形	凝灰岩 (北上山地)	356.0	96.6	64.6	2691.77	2面が使用面(磨痕)
841	I C4b II層	砾石	-	-	凝灰岩 (北上山地)	110.4	76.1	46.4	487.71	2面が使用面(敲打痕もあ る)
842	I A4g II層	砾石	-	-	凝灰岩 (北上山地)	110.3	59.8	43.3	399.86	研溝は1面のみで、3面には 敲打痕
843	I A4g II層	砾石	-	-	細粒花崗閃綠岩 (北上山地)	88.2	99.4	41.8	535.44	2面が使用面(敲打痕もあ る) また側縁が被熱
844	I C5c II層	砾石	-	-	凝灰岩 (北上山地)	84.2	43.0	19.9	92.66	1面が使用面(もう1面は欠 損か)
845	I B7g II層	石核	-	-	頁岩 (北上山地)	39.5	61.4	53.3	153.91	主に広い2面で剥離作業
846	I C3b II層	石核	-	-	頁岩 (北上山地)	47.3	107.6	47.8	292.17	1面で剥離作業か
847	I B7g II層	石核	-	-	頁岩 (北上山地)	49.1	65.8	49.3	168.14	5面で剥離作業か
848	I B8f II層	石核	-	-	頁岩 (北上山地)	44.9	67.6	49.1	162.66	自然面を打面と剥離作業
849	I C4b II層	石核	-	-	頁岩 (北上山地)	41.5	38.8	44.0	79.35	各面で剥離作業
850	I B7i II層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	51.0	82.8	45.1	169.67	縁辺の一部に二次加工が進 捗(刃部?)
851	I C4b II層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	65.4	92.1	86.9	619.05	片面で階段状剥離(敲打し たため?)
852	I B7i II層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	51.3	67.2	46.3	203.69	縁辺の一部に不連続な二次 加工(敲打したため?)
853	I C4d II層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	55.2	86.8	53.7	233.08	端部片方に階段状剥離(敲 打したため?)
854	I C3e II層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	72.8	58.8	53.0	230.06	一部に階段状剥離、また全 体に敲打痕
855	I B7e II層	石核	-	-	頁岩 (北上山地)	52.0	76.0	39.4	173.14	1面で剥離作業か
856	I B8h I層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	72.4	51.6	51.7	215.08	一部に階段状剥離
857	I B7g II層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	45.2	65.0	48.5	163.68	一部に階段状剥離
858	I B7f II層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	51.7	93.6	52.8	270.60	自然面に加筆か
859	出土地点 不明	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	59.3	49.7	58.0	190.58	鋭利な縁辺に集中的に剥離 (敲打したため?)

掘削番号	出土位置 層位	器種	分類	残存部位	石材 (産地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
860	I C7c Ⅲ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	599	599	406	151.89	鋭利な縁辺に集中的に剥離 また一部押圧剥離
861	I C5f Ⅰ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	426	606	330	107.31	鋭利な縁辺に集中的に剥離 (一部剥離作業している)
862	I B7f Ⅲ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	69.8	65.7	67.0	339.91	端部の一部に階段状剥離 (敲打したため?)
863	I B7g Ⅲ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	73.6	75.9	78.3	434.27	縁辺に集中的に剥離。また 階段状剥離もある
864	I B7f Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	44.3	68.3	43.1	131.59	縁辺に不連続な押圧剥離
865	I C7a Ⅲ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	55.7	53.3	43.5	136.53	階段状剥離3箇所(敲打し たため?)
866	I D5b Ⅰ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	54.9	71.9	68.4	327.89	階段状剥離3箇所(敲打し たため?)
867	I B7g Ⅲ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	32.8	55.8	46.8	86.00	階段状剥離2箇所(敲打し たため?)
868	I C4b Ⅱb層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	55.3	66.9	60.5	283.38	鋭利な縁辺に階段状剥離 (敲打したため?)
869	I C3e Ⅱb層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	66.7	79.7	58.6	364.10	縁辺の一部に階段状剥離 (敲打痕?)
870	I C3b Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	41.9	51.6	40.1	89.18	階段状剥離はないが一部に 加撃か?
871	I C5c Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	47.9	52.1	43.7	77.66	主に広い2面で剥離作業か
872	I C5e Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	76.6	98.5	50.7	464.47	端部に集中的に剥離(敲打 したため?)
873	I B7f Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	59.1	74.5	57.9	222.33	鋭利な縁辺に階段状剥離 (敲打したため?)
874	I B7e Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	66.7	53.9	42.7	176.12	縁辺に階段状剥離(敲打し たため?)
875	I B7g Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	31.9	58.8	35.0	72.53	鋭利な縁辺に集中的に剥離
876	I C6e Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	60.3	77.6	72.2	399.21	縁辺の一部に階段状剥離、ま た不連続な押圧剥離
877	I B7f Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	37.8	62.3	82.1	237.44	端部の一部に集中的な剥離 (敲打したため?)
878	I B8h Ⅰ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	50.7	70.8	42.3	178.95	広い2面で階段状剥離
879	I B7g Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	41.7	61.9	40.4	127.61	鋭利な縁辺に階段状剥離 (敲打したため?)
880	I B7g Ⅲ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	35.1	88.3	69.1	271.14	鋭利な縁辺に不連続な剥離 (肩部?)
881	I C7a Ⅲ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	55.6	87.8	56.9	355.34	鋭利な縁辺に不連続な剥離 (剥離作業か肩部か不明)
882	I C6d Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	82.8	83.8	70.4	511.92	片面に階段状剥離(敲打し たため?)
883	I B6f Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	79.0	81.0	117.6	1058.89	端部に階段状剥離(敲打し たため?)また敲打痕あり
884	出土地点 不明	石核状 石器	-	-	礫灰岩 (北上山地)	69.9	113.1	102.2	1030.54	広い縁辺に二次加工(敲打 したため?)
885	I B7e Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	57.2	105.8	55.1	428.85	縁辺に階段状剥離(敲打し たため?)
886	I B6j Ⅲ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	43.9	50.6	44.9	112.25	縁辺に階段状剥離(敲打し たため?)
887	I B7f Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	38.1	57.1	36.4	88.91	縁辺に階段状剥離(敲打し たため?)
888	I B7g Ⅲ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	74.9	54.1	37.9	177.83	縁辺を敲打し、階段状剥離 している
889	I C5c Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	91.0	81.5	73.7	667.37	縁辺を敲打し、階段状剥離 している
890	I B7f Ⅱ層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	55.6	61.5	40.5	185.82	縁辺に不連続な押圧剥離 (肩部が敲打したため)

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
891	I B8d II 層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	322	54.5	47.9	118.54	縁辺に押圧剥離が連続する (刃部か)
892	I B7f II 層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	29.1	66.8	54.9	126.31	広い縁辺に押圧剥離(刃部?)
893	I C4b II b層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	50.9	47.1	61.6	158.29	縁辺に無段状剥離(敲打し たため?)
894	I C3b II 層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	88.6	72.7	58.0	465.25	縁辺を敲打し、階段状剥離 している
895	I C6e II 層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	76.6	66.0	55.7	403.05	縁辺に敲打痕。その周辺に 無段状剥離
896	I C4b III 層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	74.6	60.7	48.9	259.94	縁辺に無段状剥離や不規則 な押圧剥離
897	I B7d II 層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	51.7	39.7	79.6	252.03	縁辺に無段状剥離(敲打し たため?)
898	I C4b II b層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	80.5	73.9	61.7	484.35	縁辺に無段状剥離(敲打し たため?)
899	I B8e II 層	石核状 石器	-	-	頁岩 (北上山地)	77.8	99.8	44.3	323.80	縁辺に無段状剥離(敲打し たため?)
900	I A4f II 層	フレイク	I a	-	頁岩 (北上山地)	47.4	35.9	14.8	30.12	
901	出土地点 不明	フレイク	I b	-	頁岩 (北上山地)	46.5	52.0	8.9	17.77	
902	I B7g II 層	フレイク	I a	-	頁岩 (北上山地)	22.8	29.5	5.6	2.89	
903	I B7d II 層	フレイク	I c	-	頁岩 (北上山地)	26.3	25.5	7.8	3.66	
904	I B7g II 層	フレイク	I b	-	頁岩 (北上山地)	51.6	74.5	14.7	42.57	
905	I B7i III 層	フレイク	I c	-	頁岩 (北上山地)	67.5	34.1	19.6	32.83	
906	I C3e II b層	フレイク	I b	-	頁岩 (北上山地)	29.6	49.4	15.7	25.28	
907	I B7f II 層	フレイク	II c	-	頁岩 (北上山地)	28.1	46.0	9.3	12.01	
908	I C4b II b層	フレイク	II b	-	頁岩 (北上山地)	46.8	29.1	7.3	9.29	
909	I A4f II 層	フレイク	II b	-	頁岩 (北上山地)	28.5	37.7	8.4	8.56	
910	I B7j III 層	フレイク	II c	-	礫灰岩 (北上山地)	54.6	38.0	12.2	27.29	
911	I A5g II 層	フレイク	II b	-	頁岩 (北上山地)	44.9	32.5	11.6	14.24	
912	I B7f II 層	フレイク	II b	-	頁岩 (北上山地)	29.8	25.2	6.3	4.22	
913	I A4f II 層	フレイク	III b	-	頁岩 (北上山地)	28.1	30.6	8.2	7.12	
914	I B3a II 層	フレイク	II b	-	頁岩 (北上山地)	44.0	45.8	10.1	14.36	
915	I B7h II 層	フレイク	IV c	-	頁岩 (北上山地)	26.9	42.0	10.3	10.77	
916	I B7e II 層	フレイク	III b	-	頁岩 (北上山地)	39.4	34.8	10.4	13.22	
917	I C3d II 層	フレイク	III b	-	頁岩 (北上山地)	47.5	52.7	9.7	14.76	
918	I B7f II 層	フレイク	III b	-	頁岩 (北上山地)	45.4	27.1	7.0	6.65	
919	I B7g II 層	フレイク	II b	-	頁岩 (北上山地)	44.5	50.0	10.1	21.98	
920	I B7g II 層	フレイク	III c	-	頁岩 (北上山地)	62.1	27.1	20.0	37.51	
921	I B7f II 層	フレイク	IV d	-	頁岩 (北上山地)	25.1	33.0	7.5	5.53	

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	分類	残存部位	石材 (产地)	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	備考
922	I B7d II層	フレイク	IV c	-	頁岩 (北上山地)	78.4	56.0	23.9	69.01	
923	I A4d I層	フレイク	IV b	-	頁岩 (北上山地)	39.7	24.6	9.7	9.51	
924	I B7h II層	フレイク	IV c	-	頁岩 (北上山地)	20.9	32.6	9.2	5.74	
925	I C4c II層	フレイク	IV b	-	頁岩 (北上山地)	69.3	42.0	9.4	27.78	
926	I B6f II層	フレイク	IV a	-	頁岩 (北上山地)	56.5	35.3	16.9	30.01	
927	I C7a III層	UF	IV c	-	頁岩 (北上山地)	55.6	43.1	16.1	29.85	
928	I B7g II層	UF	IV c	-	頁岩 (北上山地)	56.9	40.6	14.6	32.97	縁辺の一部に階段状剥離
929	I C3e II層	RF	II b	-	頁岩 (北上山地)	53.6	33.8	13.6	21.07	アスファルト(?)付着
930	I C3b IV層上面	RF	IV c	-	頁岩 (北上山地)	54.0	45.5	13.8	34.48	
931	I A4d II層	UF	IV a	-	頁岩 (北上山地)	39.9	41.5	16.9	28.28	
932	I C5c III層	UF	IV a	-	頁岩 (北上山地)	67.6	48.5	14.6	57.00	

第16表 石製品観察表

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	石材 (产地)	特徴	色調	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)
69	6号土坑 理土中	块状耳 飾り	1/2残存	滑石 (早池峰山周辺)	体部に研磨痕が明瞭に確認できる。また穿孔1箇所があるが、両面の穿孔場所がずれている。	暗オリーブ灰	(38.3)	(17.2)	6.5	(7.45)
207	貝層 4層	块状耳 飾り	体部のみ	滑石 (早池峰山周辺)	形状は円形か。研磨痕は明瞭ではない。	灰白	(25.2)	(25.9)	5.5	(5.23)
208	貝層 上面	块状耳 飾り	先端部のみ	滑石 (早池峰山周辺)	形状は円形か。穿孔は明瞭ではない。	灰白	(19.9)	(17.0)	5.0	(2.71)
209	貝層 41層	玉類	端部欠損?	滑石 (早池峰山周辺)	形状は深次状か。穿孔は2箇所ある。縫合部が欠損し、再度研削している。	淡黄	13.7	8.9	3.0	0.36
210	貝層 35層	玉類	完形	滑石 (早池峰山周辺)	形状は平整な円形。穿孔は1箇所であるが中心からややずれる。側面が歪で厚みが一様でない。	暗灰黄	10.5	9.7	3.5	0.32
211	貝層 22層	玉類	完形	滑石 (早池峰山周辺)	形状は円形。穿孔は中心に1箇所。側面が歪で厚みが一様でない。	淡黄	11.2	10.5	3.6	0.41
212	貝層 41層	玉類	完形	滑石 (早池峰山周辺)	形状は梢円形。穿孔は1箇所であるが中心からややずれる。側面が歪で厚みが一様でない。	灰白	8.4	7.0	3.1	0.26
213	貝層 44層	玉類	完形	滑石 (早池峰山周辺)	形状は梢円形。穿孔は中心に1箇所あるが中心からややずれる。側面が歪で厚みが一様でない。	明緑灰	7.6	10.3	5.1	0.51
214	貝層 44層	玉類	完形	滑石 (早池峰山周辺)	形状は円形。穿孔は中心に1箇所。側面が歪で厚みが一様でない。	灰白	8.9	8.2	3.1	0.34
215	貝層 41層	玉類	完形	滑石 (早池峰山周辺)	形状は円形。穿孔は中心に1箇所で、比較的大きい。側面が歪で厚みが一様でない。	淡黄	8.9	8.6	3.2	0.20
216	貝層 41層	玉類	1/2残存	滑石 (早池峰山周辺)	形状は不整な円形。穿孔は中心に1箇所で、比較的大きい。厚みはほぼ一様。	灰	(10.8)	(5.7)	(4.1)	(0.36)

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存部位	石材 (产地)	特徴	色調	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)
217	貝層 43層	蚌石 製品	完形	滑石 (十和田系)	形状は梢円形。ほば中央に1箇所穿孔(両面から穿孔作業している)	浅黄	484	373	23.8	743
933	I B8b I層	垂飾品	未成品	粘板岩 (北上山地)	剥離→研磨段階	-	115.7	26.6	9.8	47.16
934	I B9f II層	块状耳 飾り	1/2残存	滑石 (早池峰山周辺)	形状は梢円形。体部に穿孔が1箇所(本來は2箇所か)研磨痕はやや不明瞭。	暗灰	(45.2)	(29)	(4.5)	(734)
935	I B3a II層	块状耳 飾り	1/2残存	凝灰岩 (北上山地)	形状は梢円形。体部に穿孔が1箇所(本來は2箇所か)表面はやや軟質のため、研磨痕が確認。	明緑灰	(44.1)	(14.0)	(5.9)	(504)
936	I B6j III層	块状耳 飾り	体部破片	滑石 (早池峰山周辺)	形状不明。研磨痕不明瞭。937と同一個体か。	明緑灰	(28.4)	(12.7)	(5.8)	(286)
937	I B7j III層	块状耳 飾り	先端部破片	滑石 (早池峰山周辺)	形状不明。研磨痕不明瞭。936と同一個体か。	明緑灰	(14.7)	(11.2)	(5.0)	(121)
938	I B7j II層	块状耳 飾り	1/2残存	滑石 (早池峰山周辺)	形状は円環状。研磨痕は比較的明瞭。	明緑灰	(22.2)	(14.1)	(3.5)	(145)
939	I A4 g III層	石棒?	先端部のみ	凝灰岩 (北上山地)	男根状石製品か。先端を鋭利に作出。また先刻が円条溝。全体に敲打痕や研磨痕が見受けられる。製作途中か。	灰黄	(84.2)	(37.7)	(33.6)	(102.29)

第17表 骨角牙製品観察表

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存状態	特徴	材質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)
218	貝層 1層	釣針	完形	無鋒形。 材質は第Ⅲ章・4参照。	ニホンジカ? (鹿角)	52.50	23.10	8.00	4.65
219	貝層 60層	釣針	体部-先端残存	無鋒形。 材質は第Ⅲ章・4参照。	ニホンジカ? (鹿角)	(24.20)	(12.90)	(5.30)	(0.95)
220	貝層 36層	釣針	基部欠損	無鋒形で小型。	不明	(15.68)	(6.96)	3.06	(0.18)
221	貝層 上面	刺突具?	先端部破片	先端部は丸く、体部に穿孔。 材質は第Ⅲ章・4参照。	ニホンジカ? (鹿角)	(44.10)	(11.80)	(10.30)	(3.30)
222	貝層 60層	針	完形	端部に1箇所穿孔。 材質は第Ⅲ章・4参照。	ニホンジカ? (鹿角)	64.30	5.20	3.10	0.87
223	貝層 3層	刺突具?	1/2残存?	断面は丸く整形されている。	ニホンジカ? (鹿角)	(35.03)	(4.90)	(4.90)	(0.79)
224	貝層 3層	刺突具?	先端部破片	断面は梢円形に整形されてい る。	ニホンジカ? (鹿角)	(22.13)	(5.60)	(3.90)	(0.42)
225	貝層 30層	刺突具?	先端部欠損	失敗品か。	不明	(33.80)	8.20	3.30	(0.29)
226	貝層 46層	不明	先端部破片	断面は丸く整形されるが、先 端部は丸い。	ニホンジカ? (鹿角)	(34.90)	(10.70)	(10.10)	(3.18)
227	貝層 46層	兜	完形	先端部のみを加工。	ニホンジカ? (尺骨)	144.36	47.34	23.50	27.38
228	貝層 47層	刺突具?	完形	先端部のみを銛形に加工する が、やや丸い。	ニホンジカ? (鹿角)	60.80	22.69	11.63	8.04
229	貝層 45層	未成品	破片?	鹿角を割り、縫辺のみ研磨して いる。	ニホンジカ?	(88.40)	(23.60)	(12.00)	(10.05)
230	貝層 20層	鹿角製垂飾品	1/3残存	穿孔1箇所。	ニホンジカ? (鹿角)	(76.70)	(25.00)	(20.30)	(12.37)
231	貝層 63層	不明	体部破片?	用途不明。穿孔1箇所と縫辺。 (カットマーク?)	タリ科 (鶴骨)	(35.20)	(18.80)	(6.80)	(1.87)
232	貝層 51層	垂飾品?	体部破片	両端に縫辺が造り、カットマー ク2箇所あり。	ニホンジカ? (鹿角)	(11.70)	(6.20)	(5.30)	(0.29)
233	貝層 51層	垂飾品?	体部破片	片端に縫辺が造り、カットマー ク1箇所あり。	ニホンジカ? (鹿角)	(12.50)	(4.80)	(4.20)	(0.33)

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存状態	特徴	材質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)
234	貝層 45層	垂飾品?	1/3残存	先端鋭利で円環状を呈する。	ニホンジカ? (鹿角)	(14.60)	(660)	(2.20)	(0.12)
235	貝層 51層	垂飾品?	2/3残存	円環状で、体部に線刻(彫形時の刷み?)がある。	ニホンジカ? (鹿角)	(14.00)	6.70	1.99	(0.13)
236	貝層 38層	櫛	2/3残存	整形成残る。櫛歯の付け根に隆起を整形。	ニホンジカ?	(156.00)	(25.55)	(11.12)	(9.12)
237	貝層 12層	列立文 装飾品	1/3残存	块状耳飾りのような形状か。 縦辺に刷み、片面に未貫通の 円形刺突が並ぶ。	ニホンジカ? (鹿角)	(22.30)	(7.30)	(2.20)	(0.29)
238	貝層 22層	牙製垂飾品	完形	穿孔1箇所。	イヌ (左上顎第2切歎)	20.90	6.70	5.40	0.56
239	貝層 43層	牙製垂飾品	完形	穿孔1箇所。	キツネ (右下顎第1後臼歎)	14.93	13.01	5.36	0.62
240	貝層 12層	貝輪	両先端欠損	環状の貝輪が欠損したと推測。	ベンケイガイ	(53.40)	(79.50)	4.60	(9.27)
241	貝層 51層	貝輪	両先端欠損	環状の貝輪が欠損したと推測。	ベンケイガイ	(25.20)	(66.10)	4.80	(8.43)
242	貝層 32層	貝輪	両先端欠損	環状の貝輪が欠損したと推測。	ベンケイガイ	(27.10)	(59.40)	3.60	(3.56)
243	貝層 3層	貝輪	体部破片	形態は不明。	ベンケイガイ	(13.80)	(25.90)	(3.60)	(1.31)
244	貝層 5層	貝輪	先端部破片	形態は不明。	ベンケイガイ	(17.90)	(25.30)	3.90	(1.38)
245	貝層 4層	貝輪	体部破片	形態は不明。	ベンケイガイ	(13.00)	(38.50)	5.00	(2.30)
246	貝層 51層	貝輪?	一部剥離	弧状の貝輪か。 先端部に1箇所穿孔。	ベンケイガイ	31.84	14.23	(3.98)	(1.15)
247	貝層 46層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	26.01	4.18	4.15	0.26
248	貝層 46層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	24.21	4.33	4.18	0.23
249	貝層 61層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	16.15	4.12	4.08	0.18
250	貝層 63層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	15.55	4.63	4.49	0.21
251	貝層 43層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	端部欠損	-	ヤカドツノガイ	(14.23)	3.92	3.70	(0.14)
252	貝層 41層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	13.94	3.50	3.54	0.18
253	貝層 67層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	10.12	3.52	3.41	0.10
254	貝層 12層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	(16.11)	(4.31)	(4.03)	(0.13)
255	貝層 41層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	端部欠損	-	ヤカドツノガイ	(9.71)	(3.32)	(3.09)	(0.07)
256	貝層 6層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	9.66	3.18	3.10	0.07
257	貝層 41層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	8.32	3.32	3.38	0.05
258	貝層 45層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	1/3残存?	-	ヤカドツノガイ	(7.98)	(3.31)	(3.34)	(0.06)
259	貝層 51層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	両先端欠損	-	ヤカドツノガイ	(11.02)	(3.94)	(3.81)	(0.06)
260	貝層 46層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	6.53	2.97	2.91	0.01
261	貝層 47層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	両先端欠損	-	ヤカドツノガイ	(12.26)	(4.82)	(4.77)	(0.11)
262	貝層 55層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	完形	-	ヤカドツノガイ	(11.14)	(4.11)	(4.10)	(0.11)
263	貝層 1/2残存?	ツノガイ製品 (管状装飾品)	1/2残存?	-	ヤカドツノガイ	(9.08)	(4.38)	(4.33)	(0.10)

掲載 番号	出土位置 ・層位	器種	残存状態	特徴	材質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)
263	貝層 43層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	1/2残存?	-	ヤカドツノガイ	(7.24)	(4.23)	(3.97)	(0.07)
264	貝層 7層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	1/2残存?	-	ヤカドツノガイ	(7.75)	(3.63)	(3.43)	(0.08)
265	貝層 46層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	1/3残存?	-	ヤカドツノガイ	(4.11)	(3.01)	(3.01)	(0.01)
266	貝層 6層	ツノガイ製品 (管状装飾品)	先端部のみ	-	ヤカドツノガイ	(4.48)	(1.89)	(1.89)	(0.01)
267	貝層 44層	タカラガイ製品 (装飾品?)	完形?	体部を大きく切り取られて いる。	メダカラガイ	21.02	13.72	6.73	0.51

第18表 須恵器観察表

掲載 番号	出土地点・ 層位	器種	残存部位	外面整形	内面整形	色調(外面) 色調(内面)	胎土 混入物	年代	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	焼成	備考
940	出土地点不明	須恵器甕	頭部破片	ナデ	タタキメ	黒 黒	砂・長	不明 (10世紀?)	-	-	-	良好	

第19表 錢貨観察表

掲載 番号	出土位置・ 層位	銭貨名	初鑄年 (铸造年)	材質	残存 状態	直径 (mm)	孔径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
941	I C7b II層	熙寧元寶	1068~1077	銅	完形	23.7	7.7	1.11	2.13	

VIII 自然科学分析

1 放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

内田貝塚は、岩手県大船渡市末崎町字内田54番地6ほか（北緯39°1'5"、東経141°42'38")に所在する。大船渡湾の南西岸から約200mに位置し、丘陵末端の斜面地に立地する。測定対象試料は、縄文時代の土坑や貝層から出土した炭化物と土器付着炭化物の合計30点である（表1）。土器付着炭化物の採取部位は表1に記した。

(2) 測定の意義

遺構の時期や貝層の形成期間を明らかにする。

(3) 化学処理工程

- ①メス・ピンセットを使い、土等の付着物、混入物を取り除く。
- ②酸・アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1 mol/ℓ (1 M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、1 M 未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- ③試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- ④真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- ⑤精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- ⑥グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(4) 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

- ① $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- ② ¹⁴C年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。

補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- ③pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- ④暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.3較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

(6) 測定結果

測定結果を表1～2に示す。

合計30点の炭化物と土器付着炭化物のうち、炭化物No.3、6を除く28点の ^{14}C 年代は、 $5360 \pm 30\text{yrBP}$ (土器付着炭化物No.23) から $4780 \pm 30\text{yrBP}$ (土器付着炭化物No.24) の間にまとまる。暦年較正年代 (1σ) は、最も古いNo.23が $6269 \sim 6029\text{cal BP}$ の間に5つの範囲、最も新しいNo.24が $5585 \sim 5480\text{cal BP}$ の間に2つの範囲で示され、縄文時代前期前葉から末葉頃に相当する (小林編 2008)。 $6000 \sim 5600\text{cal BP}$ 頃の年代値を示した試料が多く、周辺地域の測定例を参照すると、おおむね大木3式から大木4式頃に相当すると考えられる。また、 $5600 \sim 5500\text{cal BP}$ 頃の試料 (No.24) は大木6式頃に相当する値となっている。 $6200 \sim 6000\text{cal BP}$ 頃の試料 (No.18~20, 22, 23) は大木2a式から大木2b式頃の値であるが、次に述べる海洋リザーバー効果の影響で本来より古い値となっている可能性がある (早瀬2010、七ヶ浜町教育委員会2013)。

土器付着炭化物の $\delta^{13}\text{C}$ は、 $-23.86 \pm 0.42\%$ (No.24) から $-21.84 \pm 0.48\%$ (No.17) で、低い試料はC3植物やそれを食べる哺乳類の範囲の高い方に重なり、高い試料は海生生物に近い値となっている (赤澤ほか1993)。全体的にC3植物の主要な範囲より高い傾向があり、海産物を利用している可能性がある。その場合、海洋リザーバー効果によって本来よりも古い年代値が示されている可能性がある。同じ層で出土した試料を比較すると、貝層の46層から出土した炭化物No.12 (^{14}C 年代が $5020 \pm 30\text{yrBP}$) と土器付着炭化物No.18 (^{14}C 年代が $5340 \pm 30\text{yrBP}$) の間では、土器付着炭化物が明らかに古い値を示していることなども注意される。なお、AMSによる $\delta^{13}\text{C}$ はあまり正確でないため、参考値として扱う必要がある。

上記以外の炭化物2点は大幅に新しい年代を示した。 ^{14}C 年代はNo.3が $20 \pm 20\text{yrBP}$ 、No.6が $190 \pm$

20yrBP、暦年較正年代（ 1σ ）はNo.3が57~46cal BP（1893~1904cal AD）の範囲、No.6が284~148cal BPの間に4つの範囲と13cal BP以降（1666~1802cal ADの間に4つの範囲と1937cal AD以降）で示される。なお、これらの較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する（表2下の警告参照）。縄文時代の貝層から出土しているが、新しい炭化物が混入した可能性がある。

試料の炭素含有率は36%（No.24）~70%（No.1）で、やや低い試料も数点見られるが、おむね適正な値を示したものが多く、化学処理、測定上の問題は特に認められない。

（7）調査員のコメント

貝層中からは大木2b式から大木5a式までの縄文土器が出土しており、特に出土量が多い大木3~4式期が貝層の形成時期であると推測する。その上で、各堆積層の年代に時期差が見受けられるかを知るために、堆積層68枚（層）のうち19枚（層）を選び、その層中から出土した炭化物を試料として年代測定を試みた。

また貝層周辺に分布する土坑は共伴遺物が乏しく、時期判断が難しい。そこで6号土坑を対象とし、埋土中から採集した炭化物で年代測定し、土坑群の時期判断の手がかりを得ようと考えた。

分析結果から、貝層は最下層に相当する67層中の炭化物が、 $5,220 \pm 30$ という数値が、また上層に相当する10層中の炭化物は $5,060 \pm 30$ という数値が得られ、土器から考えられる年代観と一致する。また他の層は概ね近似した年代の値を示すことが分かった。また6号土坑埋土中の炭化物（No.1）は貝層の年代とほぼ同じ値を示しており、土坑群と貝層が同時期に存在していたものと推測する。

他に縄文土器に付着した炭化物（8点 No.17~25）を対象に年代測定を試みた。これは海洋リザーバーの影響の有無を確認するのが目的である。結果、全て海洋リザーバーの影響を受けており、文様から考えられる土器自体の年代よりも古い値が得られた。この点から貝層およびその周辺の構造外から出土した縄文土器は海産物の煮炊きに使用された可能性が高いことが分かった。

文 献

- 赤澤 威 米田 穣 吉田邦夫1993「北村縄文人骨の同位体食性分析」
『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11 一明科町内一 北村遺跡 本文編』
- （財）長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書14、長野県教育委員会、（財）長野県埋蔵文化財センター、445-468
- Bronk Ramsey. C. 2009 「Bayesian analysis of radiocarbon dates」『Radiocarbon 51』（1）、337-360
- 早瀬亮介2010「東北地方縄文時代の ^{14}C 年代 一南半部の事例集成を中心に―」
『平成22年度日本学术振興会科学研究費補助金・基盤研究（B）公開シンポジウム予稿集 河川流域の縄文景観』79-90
- 小林達雄編2008『総覧縄文土器』（総覧縄文土器刊行委員会、アム・プロモーション）
- Reimer, P.J. et al. 2013 「IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP」
『Radiocarbon 55』（4）、1869-1887
- 七ヶ浜町教育委員会2013「大木圓貝塚 災害復旧に伴う東貝層発掘調査報告書」（七ヶ浜町文化財調査報告書第10集）
- Suiver, M. and Polach, H.A. 1977 「Discussion: Reporting of ^{14}C data」『Radiocarbon 19』（3）、355-363

表1 放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (%) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-171911	No. 1	6号土坑 3層	炭化物	AAA	-25.41 ± 0.38	5,080 ± 30	53.10 ± 0.18
IAAA-171912	No. 2	貝層 63層	炭化物	AAA	-26.69 ± 0.34	5,110 ± 30	52.94 ± 0.18
IAAA-171913	No. 3	貝層 60層	炭化物	AAA	-28.28 ± 0.41	20 ± 20	99.77 ± 0.25
IAAA-171914	No. 4	貝層 52層	炭化物	AaA	-24.52 ± 0.43	5,000 ± 20	53.68 ± 0.16
IAAA-172351	No. 5	貝層 10層	炭化物	AaA	-25.25 ± 0.39	5,060 ± 30	53.30 ± 0.19
IAAA-172352	No. 6	貝層 15層	炭化物	AaA	-27.81 ± 0.42	190 ± 20	97.69 ± 0.28
IAAA-172353	No. 7	貝層 18層	炭化物	AaA	-25.82 ± 0.45	5,010 ± 30	53.58 ± 0.19
IAAA-172354	No. 8	貝層 36層	炭化物	AaA	-26.07 ± 0.41	5,060 ± 30	53.26 ± 0.18
IAAA-172355	No. 9	貝層 40層	炭化物	AaA	-26.6 ± 0.44	5,140 ± 30	52.71 ± 0.18
IAAA-172356	No.10	貝層 43層	炭化物	AaA	-26.94 ± 0.38	5,100 ± 30	53.03 ± 0.18
IAAA-172357	No.11	貝層 45層	炭化物	AAA	-25.27 ± 0.36	5,030 ± 30	53.46 ± 0.18
IAAA-172358	No.12	貝層 46層	炭化物	AaA	-25.78 ± 0.35	5,020 ± 30	53.52 ± 0.18
IAAA-172359	No.13	貝層 50層	炭化物	AAA	-23.96 ± 0.35	5,140 ± 30	52.74 ± 0.18
IAAA-172360	No.14	貝層 51層	炭化物	AAA	-25.64 ± 0.50	5,080 ± 30	53.13 ± 0.18
IAAA-172361	No.15	貝層 57層	炭化物	AAA	-25.37 ± 0.48	5,090 ± 30	53.10 ± 0.18
IAAA-172362	No.16	貝層 67層	炭化物	AAA	-25.67 ± 0.38	5,220 ± 30	52.23 ± 0.18
IAAA-172363	No.17	貝層 P-31 (深鉢 口縁部外面沈線内)	土器付着 炭化物	AaA	-21.84 ± 0.48	4,980 ± 30	53.82 ± 0.18
IAAA-172364	No.18	貝層 46層 (深鉢 脚部上位外面沈線内)	土器付着 炭化物	AaA	-23.08 ± 0.43	5,340 ± 30	51.43 ± 0.18
IAAA-172365	No.19	貝層 30層・40層 (深鉢 口縁～脚部上位外面貼付文間)	土器付着 炭化物	AaA	-23.45 ± 0.43	5,310 ± 30	51.64 ± 0.18
IAAA-172366	No.20	貝層 貝層上面 (深鉢 口縁部内面貼付文間)	土器付着 炭化物	AaA	-22.89 ± 0.33	5,350 ± 30	51.39 ± 0.17
IAAA-172367	No.21	貝層 17層	炭化物	AaA	-26.27 ± 0.43	4,980 ± 30	53.79 ± 0.18
IAAA-172368	No.22	I B7f 貝層上面 (深鉢 口縫部内面貼付文間)	土器付着 炭化物	AaA	-22.76 ± 0.36	5,260 ± 30	51.96 ± 0.18
IAAA-172369	No.23	I B7g Ⅲ層 (深鉢 口縫部外面沈線内)	土器付着 炭化物	AaA	-22.28 ± 0.43	5,360 ± 30	51.29 ± 0.18
IAAA-172370	No.24	I B3e Ⅱ層 (深鉢 口縫部外面沈線・縦文内)	土器付着 炭化物	AaA	-23.86 ± 0.42	4,780 ± 30	55.14 ± 0.19
IAAA-172371	No.25	I B3e Ⅱ層 (深鉢 口縫部外面沈線内)	土器付着 炭化物	AaA	-23.49 ± 0.47	4,980 ± 30	53.79 ± 0.18
IAAA-172528	No.26	貝層 54層	炭化物	AaA	-25.91 ± 0.25	5,090 ± 30	53.04 ± 0.18
IAAA-172529	No.27	貝層 61層	炭化物	AAA	-24.65 ± 0.23	5,180 ± 30	52.47 ± 0.17
IAAA-172530	No.28	貝層 62層	炭化物	AaA	-24.60 ± 0.21	5,080 ± 30	53.12 ± 0.18
IAAA-172531	No.29	貝層 64層	炭化物	AAA	-25.06 ± 0.23	5,160 ± 30	52.64 ± 0.18
IAAA-172532	No.30	貝層 66層	炭化物	AaA	-26.11 ± 0.20	5,070 ± 30	53.20 ± 0.19

[IAA登録番号 : #8858, 8935, 8956]

表2 放射性炭素年代測定結果（ $\delta^{13}\text{C}$ 未補正値、曆年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）(1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用 (yrBP)	1 σ 曆年年代範囲	2 σ 曆年年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-171911	5,090 ± 30	53.06 ± 0.18	5,084 ± 27	5902calBP - 5881calBP (14.8%) 5825calBP - 5735calBP (53.4%)	5909calBP - 5843calBP (34.5%) 5831calBP - 5748calBP (60.9%)
IAAA-171912	5,140 ± 30	52.75 ± 0.17	5,109 ± 26	5913calBP - 5889calBP (27.7%) 5808calBP - 5764calBP (40.5%)	5920calBP - 5859calBP (40.1%) 5828calBP - 5732calBP (55.3%)
IAAA-171913	70 ± 20	99.1 ± 0.23	18 ± 20	57calBP - 46calBP (68.2%)*	242calBP - 231calBP (3.3%)* 124calBP - 117calBP (17%)* 63calBP - 39calBP (90.4%)*
IAAA-171914	4,990 ± 20	53.73 ± 0.16	4,997 ± 24	5745calBP - 5662calBP (68.2%)	5876calBP - 5827calBP (13.6%) 5753calBP - 5655calBP (81.8%)
IAAA-172351	5,060 ± 30	53.27 ± 0.18	5,055 ± 27	5890calBP - 5806calBP (54.2%) 5768calBP - 5747calBP (14.0%)	5900calBP - 5737calBP (95.4%)
IAAA-172352	230 ± 20	97.13 ± 0.26	187 ± 22	284calBP - 269calBP (14.7%)* 212calBP - 199calBP (9.1%)* 188calBP - 166calBP (21.2%)* 155calBP - 148calBP (5.6%)* 13calBP - ... (17.6%)*	290calBP - 265calBP (18.9%)* 219calBP - 142calBP (54.4%)* 24calBP - ... (22.1%)*
IAAA-172353	5,030 ± 30	53.49 ± 0.18	5,012 ± 27	5860calBP - 5827calBP (22.0%) 5752calBP - 5710calBP (34.6%) 5690calBP - 5664calBP (11.6%)	5889calBP - 5809calBP (35.6%) 5763calBP - 5657calBP (59.8%)
IAAA-172354	5,080 ± 30	53.14 ± 0.18	5,061 ± 27	5891calBP - 5845calBP (30.3%) 5830calBP - 5804calBP (18.0%) 5793calBP - 5784calBP (5.5%) 5770calBP - 5749calBP (14.4%)	5900calBP - 5742calBP (95.4%)
IAAA-172355	5,170 ± 30	52.54 ± 0.18	5,143 ± 27	5934calBP - 5893calBP (68.2%)	5985calBP - 5970calBP (2.9%) 5944calBP - 5884calBP (75.1%) 5821calBP - 5760calBP (17.4%)
IAAA-172356	5,130 ± 30	52.82 ± 0.18	5,095 ± 27	5906calBP - 5886calBP (17.4%) 5820calBP - 5761calBP (50.8%)	5914calBP - 5853calBP (34.1%) 5847calBP - 5845calBP (0.5%) 5830calBP - 5749calBP (60.7%)
IAAA-172357	5,030 ± 30	53.43 ± 0.18	5,030 ± 27	5885calBP - 5822calBP (45.5%) 5759calBP - 5725calBP (22.7%)	5894calBP - 5710calBP (91.2%) 5690calBP - 5663calBP (4.2%)
IAAA-172358	5,040 ± 30	53.43 ± 0.18	5,022 ± 27	5881calBP - 5825calBP (40.3%) 5756calBP - 5719calBP (27.9%)	5892calBP - 5806calBP (47.5%) 5791calBP - 5784calBP (1.0%) 5771calBP - 5660calBP (46.9%)
IAAA-172359	5,120 ± 30	52.85 ± 0.17	5,140 ± 26	5931calBP - 5893calBP (68.2%)	5982calBP - 5975calBP (1.1%) 5941calBP - 5884calBP (74.6%) 5821calBP - 5760calBP (19.7%)
IAAA-172360	5,090 ± 30	53.06 ± 0.17	5,080 ± 27	5900calBP - 5880calBP (13.7%) 5825calBP - 5755calBP (54.5%)	5908calBP - 5842calBP (34.8%) 5832calBP - 5748calBP (60.6%)
IAAA-172361	5,090 ± 30	53.06 ± 0.18	5,085 ± 27	5902calBP - 5882calBP (14.8%) 5824calBP - 5756calBP (53.4%)	5909calBP - 5843calBP (34.1%) 5831calBP - 5748calBP (61.0%)
IAAA-172362	5,230 ± 30	52.15 ± 0.17	5,218 ± 27	5990calBP - 5960calBP (40.3%) 5954calBP - 5933calBP (27.9%)	6096calBP - 6085calBP (1.3%) 6005calBP - 5914calBP (94.1%)
IAAA-172363	4,930 ± 30	54.16 ± 0.18	4,977 ± 27	5723calBP - 5660calBP (68.2%)	5852calBP - 5829calBP (3.0%) 5750calBP - 5642calBP (90.4%) 5630calBP - 5614calBP (2.0%)
IAAA-172364	5,310 ± 30	51.63 ± 0.17	5,341 ± 27	6193calBP - 6173calBP (11.0%) 6155calBP - 6111calBP (27.6%) 6079calBP - 6021calBP (29.6%)	6262calBP - 6250calBP (2.1%) 6210calBP - 6002calBP (93.3%)
IAAA-172365	5,280 ± 30	51.80 ± 0.17	5,309 ± 27	6177calBP - 6168calBP (5.2%) 6163calBP - 6147calBP (8.6%) 6121calBP - 6100calBP (11.4%) 6083calBP - 6007calBP (43.0%)	6182calBP - 5998calBP (95.4%)
IAAA-172366	5,310 ± 30	51.62 ± 0.17	5,347 ± 27	6206calBP - 6174calBP (18.2%) 6154calBP - 6126calBP (27.3%) 6079calBP - 6061calBP (8.5%) 6050calBP - 6022calBP (14.3%)	6268calBP - 6244calBP (5.3%) 6213calBP - 6096calBP (56.7%) 6084calBP - 6003calBP (33.4%)

表2 放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、曆年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)(2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用 (yrBP)	1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-172367	5,000 ± 30	53.65 ± 0.17	4,981 ± 26	5726calBP - 5661calBP (68.2%)	5857calBP - 5828calBP (4.5%) 5730calBP - 5644calBP (90.9%)
IAAA-172368	5,220 ± 30	52.20 ± 0.17	5,259 ± 27	6172calBP - 6157calBP (8.3%) 6107calBP - 6081calBP (16.4%) 6018calBP - 5985calBP (23.0%) 5972calBP - 5943calBP (20.5%)	6178calBP - 6149calBP (12.1%) 6119calBP - 6076calBP (21.5%) 6070calBP - 6040calBP (7.4%) 6031calBP - 5934calBP (54.4%)
IAAA-172369	5,320 ± 30	51.57 ± 0.18	5,364 ± 28	6269calBP - 6242calBP (14.4%) 6214calBP - 6176calBP (29.0%) 6150calBP - 6118calBP (19.1%) 6075calBP - 6072calBP (1.2%) 6040calBP - 6029calBP (4.5%)	6276calBP - 6232calBP (18.8%) 6220calBP - 6171calBP (32.5%) 6158calBP - 6103calBP (24.9%) 6081calBP - 6010calBP (19.2%)
IAAA-172370	4,760 ± 30	55.27 ± 0.18	4,781 ± 27	5585calBP - 5578calBP (7.6%) 5534calBP - 5480calBP (60.6%)	5590calBP - 5567calBP (15.0%) 5560calBP - 5470calBP (80.4%)
IAAA-172371	4,960 ± 30	53.95 ± 0.18	4,981 ± 27	5727calBP - 5661calBP (68.2%)	5857calBP - 5828calBP (5.0%) 5730calBP - 5644calBP (90.4%)
IAAA-172528	5,110 ± 30	52.94 ± 0.17	5,093 ± 26	5906calBP - 5886calBP (16.4%) 5821calBP - 5761calBP (51.8%)	5913calBP - 5855calBP (33.3%) 5830calBP - 5749calBP (62.1%)
IAAA-172529	5,180 ± 30	52.51 ± 0.17	5,180 ± 26	5983calBP - 5974calBP (12.8%) 5942calBP - 5913calBP (55.4%)	5990calBP - 5906calBP (95.4%)
IAAA-172530	5,080 ± 30	53.16 ± 0.18	5,082 ± 27	5901calBP - 5881calBP (13.9%) 5825calBP - 5755calBP (54.3%)	5908calBP - 5842calBP (34.6%) 5832calBP - 5748calBP (60.8%)
IAAA-172531	5,160 ± 30	52.63 ± 0.18	5,155 ± 27	5936calBP - 5901calBP (68.2%)	5989calBP - 5963calBP (9.3%) 5950calBP - 5890calBP (80.7%) 5805calBP - 5767calBP (5.4%)
IAAA-172532	5,090 ± 30	53.07 ± 0.19	5,070 ± 28	5893calBP - 5864calBP (17.0%) 5827calBP - 5753calBP (51.2%)	5904calBP - 5745calBP (95.4%)

[参考値]

*Warning! Date may extend out of range

Warning! Date probably out of range

**Warning! Date probably out of range

(これらの警告は較正プログラム OxCalが発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該曆年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。*, **の順にその可能性が高くなる。)

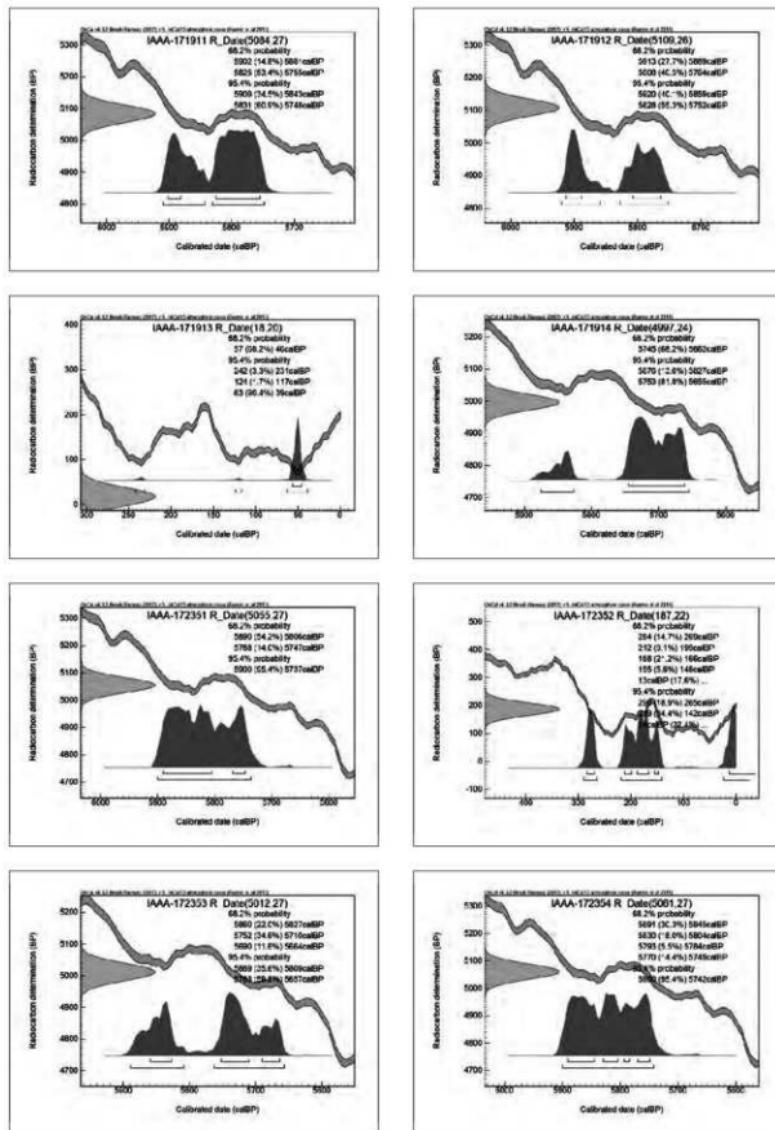


図1 历年校正年代グラフ（参考）

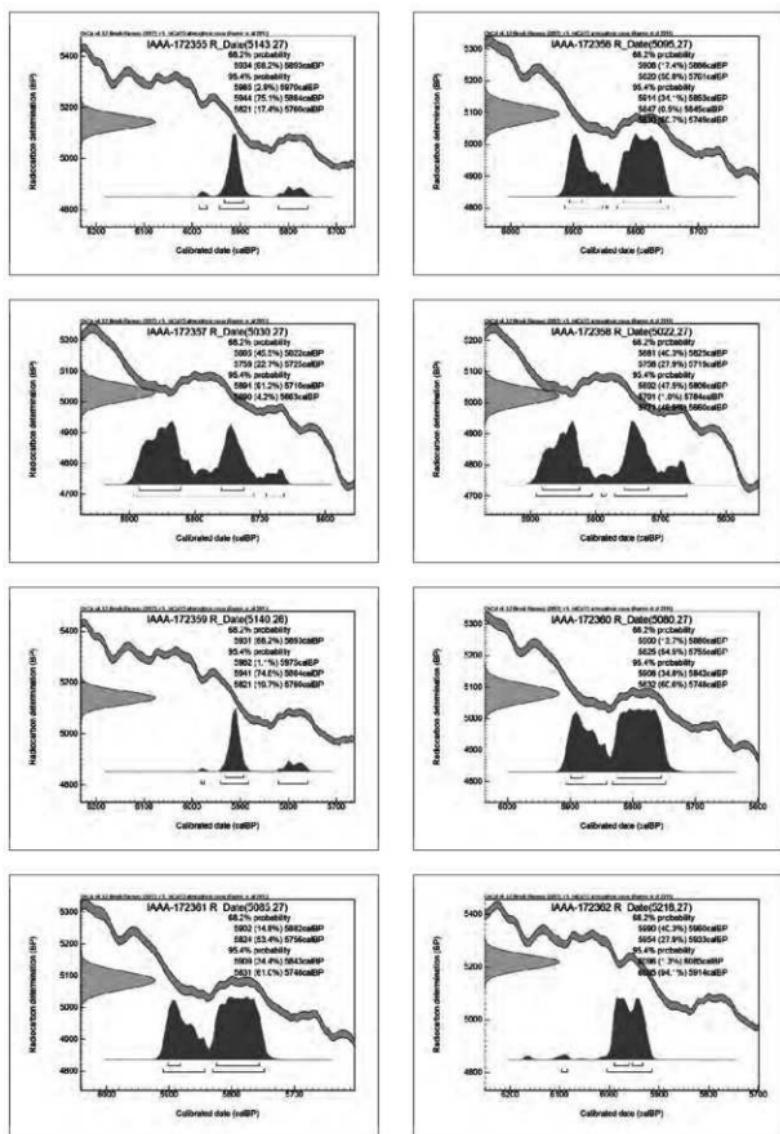


図1 历年校正年代グラフ（参考）

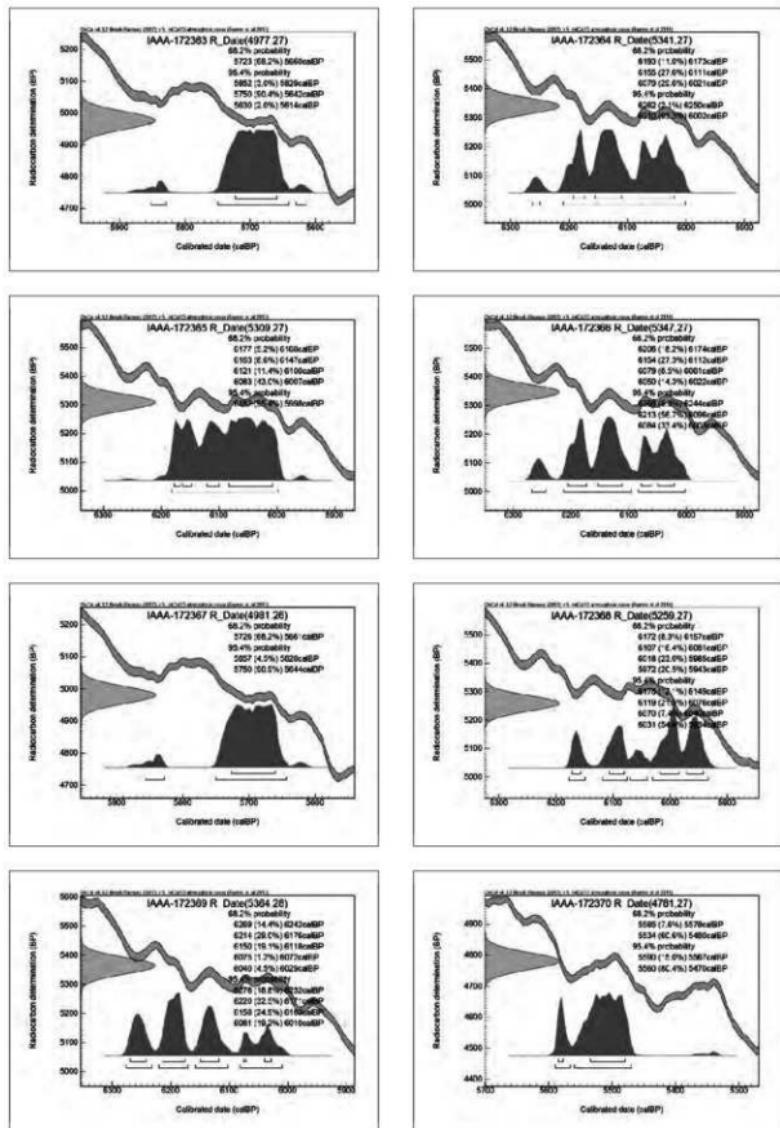


図1 历年校正年代グラフ（参考）

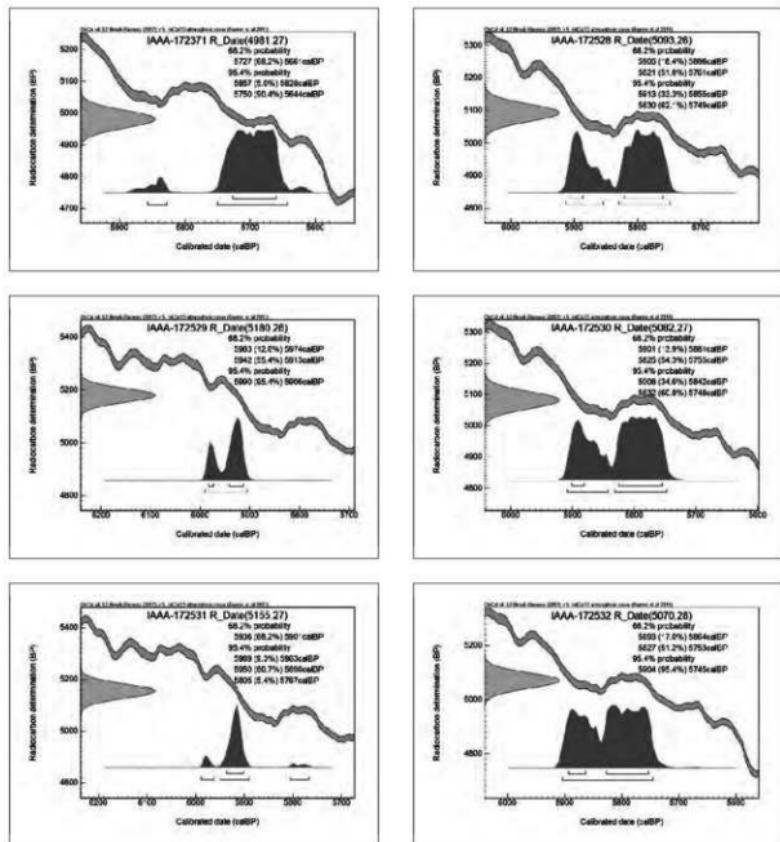


図1 历年較正年代グラフ（参考）

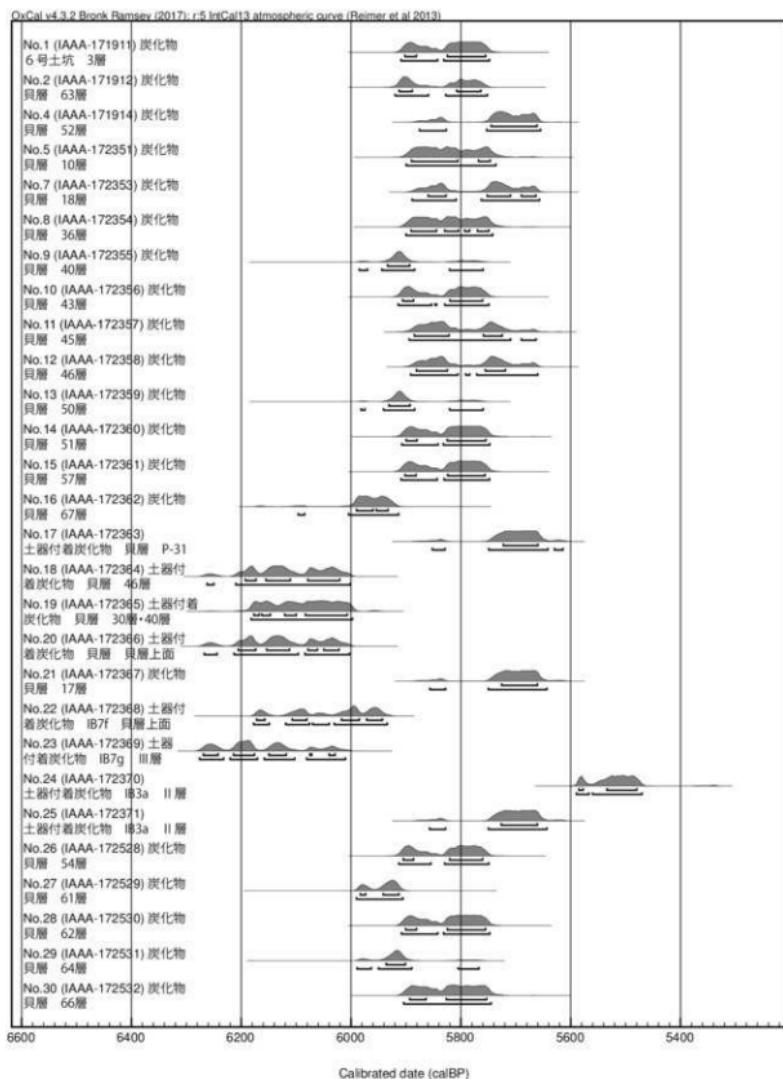


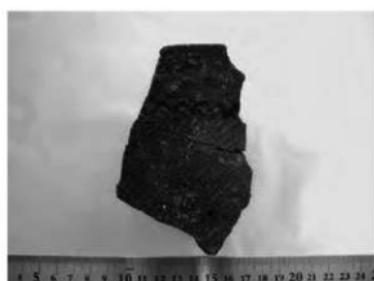
図2 历年較正年代グラフ（マルチプロット図、参考）
特に新しい年代値を示したNo. 3、6を除く28点を表示。



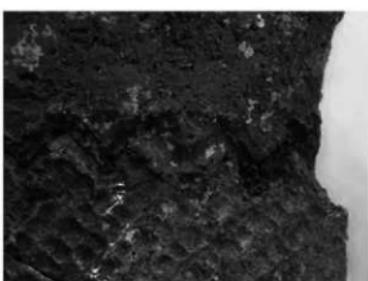
No.17 (掲載番号166)



No.17 細部



No.18 (掲載番号143)



No.18 細部



No.19 (掲載番号140)



No.19 細部

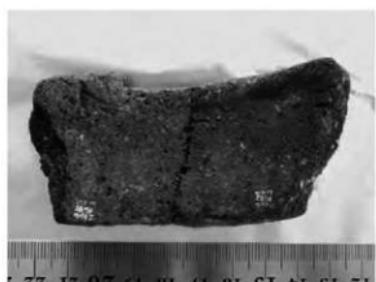
図3 土器付着炭化物試料写真1



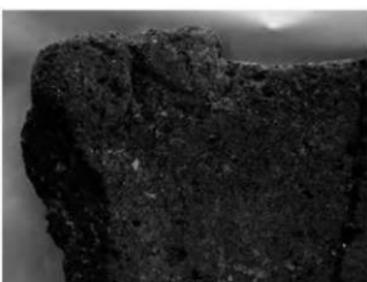
No.20 (掲載番号119)



No.20 細部



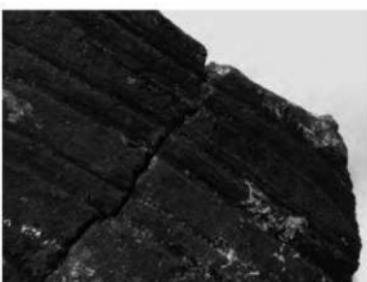
No.22 (掲載番号397)



No.22 細部



No.23 (掲載番号275)



No.23 細部

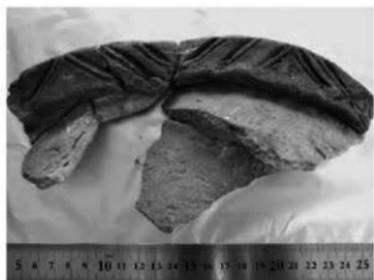
図4 土器付着炭化物試料写真2



No.24 (掲載番号415)



No.24 細部



No.25 (掲載番号452)



No.25 細部

図5 土器付着炭化物試料写真3

2 貝層から検出した火山灰の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

(1) はじめに

岩手県大船渡市末崎町字内田に所在する内田貝塚は、大船渡湾南東岸を構成する丘陵上に位置する。発掘調査では、縄文時代前期中葉とされる貝層が確認された他、縄文時代前期末葉とされる堅穴住居跡や遺物包含層が検出されている。本報告では、調査区内の土層から検出された、火山灰（テフラ）とされる堆積物を構成する碎屑物の性状を明らかにし、テフラである場合には既知のテフラとの対比を行い、土層の年代に係る資料を作成する。

(2) 試 料

試料は、「1 貝層 28層下 火山灰」および「2 貝層 18層下 火山灰」とされた2点の堆積物である。以下文中では前者を試料番号1、後者を試料番号2とする。2点ともに外観はにぶい黄橙色を呈する、砂混じりのシルト質土壤である。

(3) 分析方法

①テフラの検出同定

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

②重鉱物・火山ガラス比分析・屈折率測定

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をボリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

火山ガラス比は重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスはその形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。また、火山ガラス比における「その他」は、主に石英および長石などの鉱物粒と変質等で同定の不可能な粒子を含む。

さらに火山ガラスおよび重鉱物の斜方輝石については、その屈折率を測定することによりテフラを

特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤(1995)のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

(4) 結 果

①テフラの検出同定

結果を表1に示す。2点の試料ともに、微量の火山ガラスが認められた。火山ガラスは、無色透明のスponジ状に細かく発泡した軽石型である。

なお、砂分のほとんどは、無色透明～白色を呈する石英や長石類の鉱物片であり、これに暗灰色や赤褐色を呈する岩石片が混在する。

表2 重鉱物・火山ガラス比分析結果

試料名	カシラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑レンン石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
1 貝層 28層下 火山灰	0	135	53	2	0	0	60	0	250	0	0	24	226	250
2 貝層 18層下 火山灰	0	163	32	14	0	1	38	2	250	0	2	20	228	250

②重鉱物・火山ガラス比分析・屈折率測定

結果を表2、図1に示す。重鉱物組成は、2点の試料ともに斜方輝石が最も多く、少量の単斜輝石と不透明鉱物を伴い、微量の角閃石を含む。試料番号2は、試料番号1に比べて、斜方輝石と角閃石の量比が高く、単斜輝石と不透明鉱物の量比の低いことが指摘される。

火山ガラス比は、2点の試料ともに少量の軽石型火山ガラスを含む。さらに試料番号2には極めて微量の中間型火山ガラスも含まれる。

火山ガラスの屈折率測定結果を図2に示す。試料番号1は、n1.510-1.513のレンジを示し、モードはn1.512付近である。試料番号2では、主体となる火山ガラスの屈折率は、n1.511-1.514のレンジでn1.513付近のモードを示すが、少量の低屈折率を示す火山ガラスも混在する。低屈折率の火山ガラスのレンジは、n1.498-1.506に及ぶ。

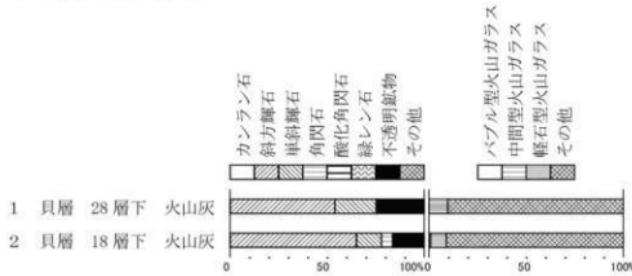


図1 重鉱物組成および火山ガラス比

斜方輝石の屈折率測定結果を図3に示す。試料番号1は、 γ 1.702–1.719という非常に広いレンジを示すが、 γ 1.702–1.705という低屈折率のレンジ、 γ 1.707–1.713という中屈折率のレンジ、 γ 1.714–1.719という高屈折率のレンジが重なっている様子が読み取れる。試料番号2は、 γ 1.702–1.711のレンジを示すが、 γ 1.702–1.706の低屈折率のレンジと γ 1.708–1.711の高屈折率のレンジの複数のレンジが認められる。

(5) 考 察

試料番号1の火山ガラスおよび試料番号2の主体をなす火山ガラスは、その形態的特徴と屈折率の値(町田・新井, 2003)および内田貝塚の地理的位置から、縄文時代に十和田カルデラから噴出した十和田中擴テフラ(To–Cu; 早川, 1983)に由来すると考えられる。ただし、両試料ともに斜方輝石の屈折率測定結果からは、複数のテフラが混在していることが推定される。すなわち、To–Cuの噴出年代に近く、To–Cuとほぼ同様の火山ガラスの屈折率を有しながらも、斜方輝石の屈折率はTo–Cuとは有意に異なるという特性を持つテフラの混在が疑われる。上述した町田・新井(2003)の記載を参照すれば、それに該当するテフラとして十和田南部テフラ(To–Nb; Hayakawa, 1985)があげられる。試料番号1と2の低屈折率の斜方輝石はTo–Cuに由来し、試料番号1の中屈折率の斜方輝石と試料番号2の高屈折率の斜方輝石とがTo–Nbに由来すると考えることができる。

一方、試料番号1の高屈折率の斜方輝石はその値から、焼石缶を給源とするテフラに由来する可能性があると考えられる。また、試料番号2の少量混在する低屈折率の火山ガラスについては、重鉱物組成中に角閃石が含まれることなどから、地山の土壤中に含まれる十和田八戸テフラ(To–H; Hayakawa, 1985)に由来する可能性があると考えられる。

なお、十和田カルデラを給源とするテフラの噴出年代については、工藤(2008)により、いずれも曆年で、To–Hは1万5,500年前、To–Nbは9,200年前、To–Cuは6,100年前とされている。各試料が採取された層位は、検出されたテフラの中で最も新しいTo–Cuの降下堆積以降に形成されたと考えられる。

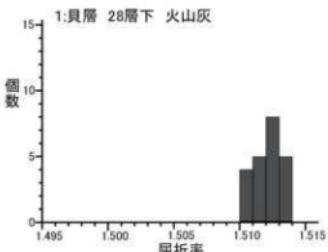


図2 火山ガラスの屈折率測定結果

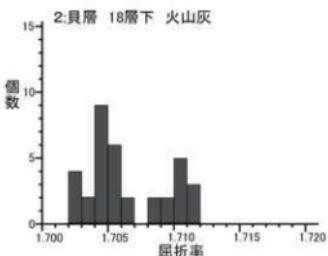
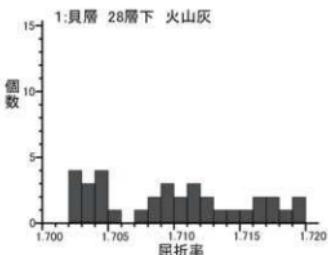


図3 斜方輝石の屈折率測定結果

(6) 調査員のコメント

貝層下のⅢ b 層に、にぶい黄橙色を呈するテフラがブロックで少量混じるのを確認した。テフラブロックの混入はⅢ b 層全体ではなく、貝層の下とその周辺のみであった。

試料は、貝層の最下層に相当する堆積層のうち、28層（試料 1）と18層（試料 2）、それぞれの層下に堆積するⅢ b 層中から採取した。

分析により、どちらも十和田中振テフラ（To - Cu、噴出年代6,100年前）との結果を得た。貝層から大木 2 b 式以降の縄文土器が出土していることから、貝層との層位関係に矛盾はない。またこれによって、貝層の形成開始時期が、中振テフラ降下期以降、具体的には大木 2 b 式期以降であるということが裏付けられた。

また試料 1 には十和田南部テフラ（To - Nb、噴出年代9,200年前）と焼石岳を給源とするテフラが、試料 2 には同じく十和田南部テフラと十和田八戸テフラ（To - H、噴出年代15,500年前）が混在している可能性が高いことが示唆されている。焼石岳を給源とするテフラは噴出年代が不明であるが、他の 2 つのテフラについては、噴出年代と貝層形成時期とを比べても層位的に矛盾はない。Ⅲ b 層やその下のⅣ層中には、破碎した礫の粒のような混入物が見受けられる。どちらも自然堆積土ではあるが、遺跡の立地場所が斜面地であることからみて、斜面を流れてきたものが混入しながら堆積した可能性もあるかもしれない。そういうなかで、古い年代の火山灰が混在することもあるかもしれない。あくまで可能性であり、今後、このような事例が増えることを望む。

引 用 文 献

- 古澤 明1995「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」
『地質学雑誌』101, 123-133.
- 早川由紀夫1983「十和田火山中振テフラ層の分布、粒度組成、年代」『火山第 2 集』28, 263-273.
Hayakawa, Y.1985 「Pyroclastic Geology of Towada Volcano」
『Bulletin of The Earthquake Reserch Institute University of Tokyo』 vol.60, 507-592.
- 工藤 崇2008「十和田火山エピソード E 及び G 噴出物の放射性炭素年代」『火山』53, 193-199.
- 町田 洋・新井房夫2003「新編 火山灰アトラス」（東京大学出版会）336p.

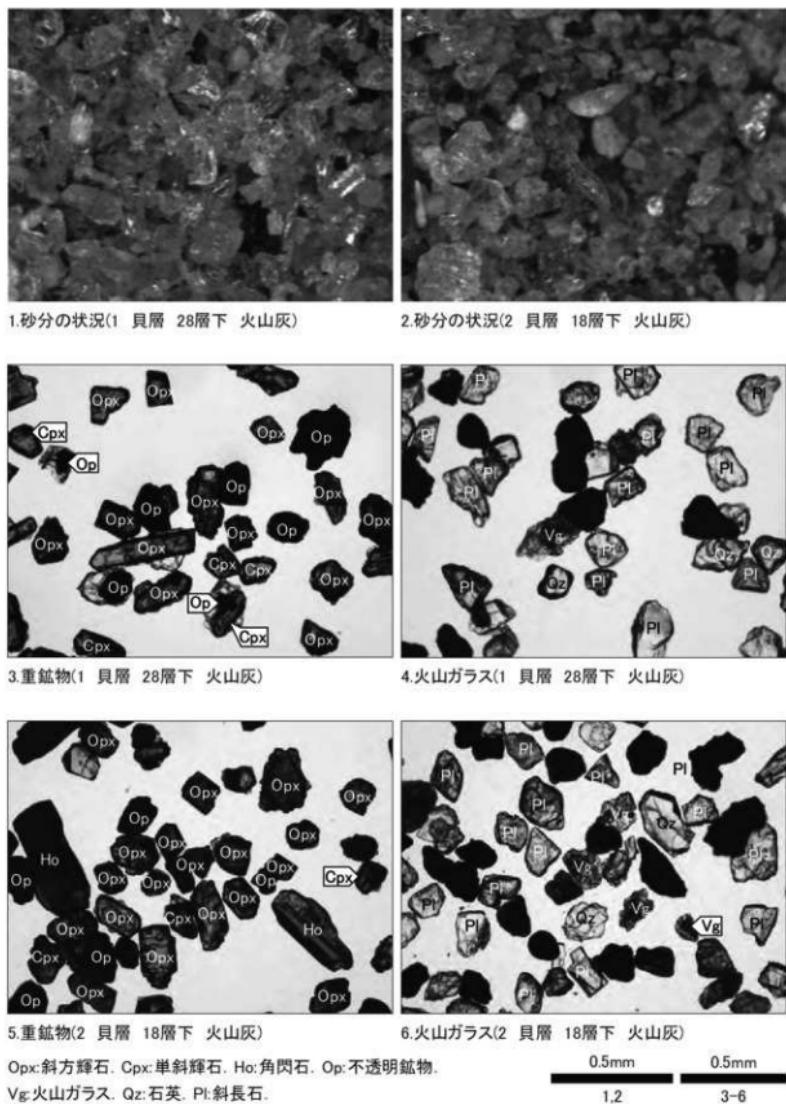


図4 砂分の状況・重鉱物・火山ガラス

3 黒曜石分析

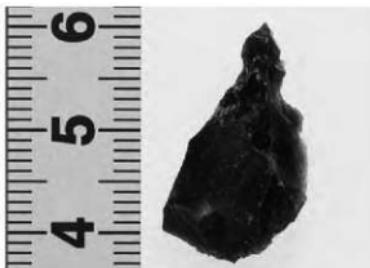
株式会社 古環境研究所

(1) はじめに

本報告では、大船渡市末崎町字内田に所在する内田貝塚から出土した縄文時代の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。



No. 1



No. 2

(2) 試料と方法

分析対象は、2点の黒曜石製石器である(表1)。

時期は、縄文時代とみられている。

測定にあたっては、試料のなるべく平滑な面を選び、メラミンフォーム製スponジで表面を洗浄後、蛍光X線分析を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空中に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、

表1 分析対象

試料番号	器種	出土地点	出土層
1	フレイク (IV'b)	I B7d	II層
2	Uフレイク (IV'c)	I A6c	IV層上面



カリウム (K)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の合計 7 元素の X 線強度 (cps : count per second) について、以下に示す指標値を計算する。

1) Rb 分率 = Rb 強度 × 100 / (Rb 強度 + Sr 強度 + Y 強度 + Zr 強度)

2) Sr 分率 = Sr 強度 × 100 / (Rb 強度 + Sr 強度 + Y 強度 + Zr 強度)

3) Mn 強度 × 100 / Fe 強度

4) log (Fe 強度 / K 強度)

そして、これらの指標値を用いた 2 つの判別図 (横軸 Rb 分率 - 縦軸 Mn 強度 × 100 / Fe 強度 の判別図と横軸 Sr 分率 - 縦軸 log (Fe 強度 / K 強度) の判別図) を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光 X 線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合には、log (Fe 強度 / K 強度) の値が減少する (望月, 1999)。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表 2 に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図 1 に各原石の採取地の分布図を示す。

(3) 分析結果

表 3 に石器の測定値および算出した指標値を、図 2 と図 3 に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするために、図では各判別群を枠

表 2 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白樺	白樺 1 赤石山脈 (43), 八号沢源頭 (15)	赤石山脈頂, 八号沢露頭, 八号沢, 黒曜石 (36)
		白樺 2 十勝石沢源頭直下河床 (11), サイズの島源頭 (10)	八号沢, 黒曜石 (32)
	串木野	串木野 (24)	
	上士幌	十勝三牧 (4), タウシュベツ用石岸 (42), タウシュベツ川左岸 (10), 十三ノ沢 (32)	
	留萌	留萌山 (5)	
	函館	函山 (5)	
	豊浦	豊浦 (10)	
	旭川	旭川 (8), 周辺台 (2)	
	名寄	忠慈春田 (19)	
	秩父原 1		
青森	秩父原 2		
	秩父原 3		
	雄勝	雄勝 (2)	
	生田原	生田原 (10)	
	留辺蘂 1	留辺蘂 (9)	
	留辺蘂 2	ケショマッハツ河床 (9)	
	御崎	御崎 (6)	
	田舎	田舎 (2)	
	由利本荘	由利本荘 (10)	
	八戸	八戸 (10)	
岩手	八戸	八戸山 (7), 八戸山公園 (8)	
	青森	青森 (6)	
	男鹿	金ヶ崎温泉 (10)	
	仙台	仙台 (4)	
	北上川	北上川 (1)	
	北上川	北上川 (9), 真城 (33)	
	北上川	北上川 (3)	
	百崎	南ノ谷 (40)	
	色麻	根岸 (40)	
	山内	秋保 (18)	
福島	山内	秋保 2 (18)	
	白石	白石 (10)	
	郡山	郡山 (10)	
	猪苗代	猪苗代 (10)	
	耶麻	耶麻 (10)	
	喜多方	喜多方 (24), 大越沢 (10)	
	南津	南津 (7)	
	猪苗代	猪苗代 (22)	
	郡山	郡山 (3)	
	喜多方	喜多方 (3)	
長野	西御所	西御所 (30)	
	鷹巣	鷹巣 (54)	
	小諸	小諸 (42)	
	土居橋 1	土居橋 (10)	
	土居橋 2	新田村 (1) + 小諸 (20), 土居橋北 (58), 土居橋西 (1)	
	吉峰	吉峰 (28)	
	和田	和田村 (1) + 小諸 (28), 吉峰 (38), 和田村スキー場 (28)	
	ブドウ沢	ブドウ沢 (20)	
	牧ヶ沢	牧ヶ沢 (20)	
	高松沢	高松沢 (19)	
群馬	御詔	星ヶ台 (35), 星ヶ塔 (20)	
	伊勢	伊勢 (20)	
	芦ノ湖	芦ノ湖 (20)	
	箱根	箱根 (51)	
	諏訪屋	諏訪屋 (20)	
	上多賀	上多賀 (20)	
	天城	天城 (20)	
	久見	久見バーライト (6), 久見探査現場 (5)	
	高根	高根 (3)	

表 3 測定値および産地推定結果

試料番号	K 強度 (cps)	Mn 強度 (cps)	Fe 強度 (cps)	Rb 強度 (cps)	Sr 強度 (cps)	Y 強度 (cps)	Zr 強度 (cps)	Rb 分率	Mn/Rb	Fe/Rb	Sr 分率	log E _R /K	判別群	エリア	試料番号
1	998	52.6	1281.3	207.9	283.0	194.7	601.1	16.12	4.11	21.94	1.11	北上折居 1	北上川	1	
2	152.9	83.6	1829.6	332.7	366.5	308.0	854.1	17.87	4.57	19.69	1.08	北上折居 2	北上川	2	

円で取り囲んである。

分析の結果、試料番号1が北上折居1群（岩手県、北上川エリア）、試料番号2が北上折居2群（岩手県、北上川エリア）にプロットされた。表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

(4) まとめ

内田貝塚より出土した縄文時代の黒曜石製石器2点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、いずれも北上川エリヤ産と推定された。

(5) 調査員のコメント

今回の調査で5点の黒曜石が出土した。器種はいずれもフレイク、Uフレイクである。小片なので、図示していないが、これらの黒曜石の産地を知ることで、内田貝塚における縄文人の交易について知ることができるかと思い、5点中、2点について産地同定を試みた。

分析から、2点とも北上川エリア産と推定された。沿岸地域における縄文時代の遺跡では、出土する黒曜石の产地は、概ね北上川エリアであるので、今回の結果もそれらと同様といえる。しかし大船渡海岸から北上川まではかなりの距離があり、わずかな石材のためにその距離を移動する縄文人の行動力には驚かされる。

なお分析を行わなかった他の3点についても同じ産地であろうと推測する。

引用文献

望月明彦1999「上和田城山遺跡出土の黒曜石產地推定」

『大和市教育委員会編 埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇—』

大和市教育委員会 172-179.

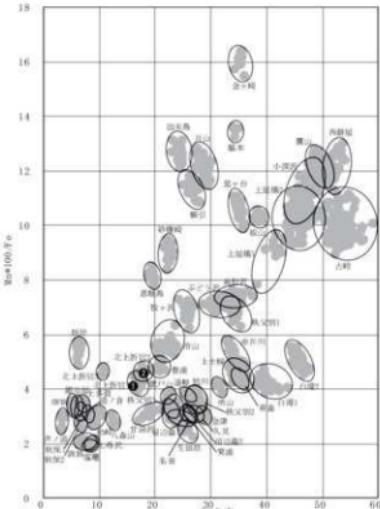


図2 黒曜石産地推定判別図(1)

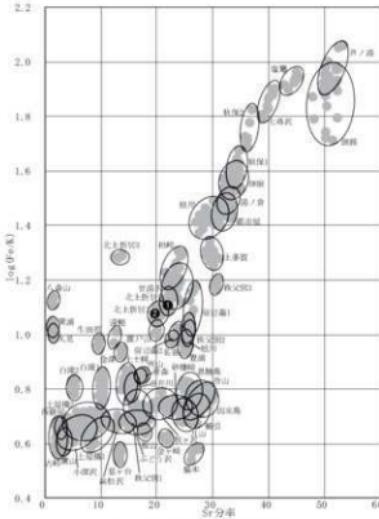


図3 黒曜石産地推定判別図(2)

4 貝層から出土した貝輪・骨角牙製品の同定分析

株式会社 古環境研究所

(1) はじめに

一般に日本の国土は、火山灰性の酸性土壌に広く覆われ、動物遺存体の保存状態には恵まれていない。そのため、遺跡で動物遺存体が出土するのは、貝塚、石灰岩地帯の洞穴や岩陰が代表的で、近年では湿地環境の遺跡や遺構から多くの動物遺存体が報告されつつある。特に大部分が無機塩類（おもに炭酸カルシウム）からなる殻をもつ貝類は集積すれば腐食に強く、土中でも残りやすい。そこで、それらの種類を同定し、その生態的情報を接用することにより、当時の動物相や主に水環境の復原、種によっては水深を知ることができる。また、過去の人々の生業や食生活に関する情報を得ることも可能である。

(2) 試料と方法

試料は、貝層より出土した貝輪、釣針、骨針、刺突具？などの13点である。

同定は、試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本と対比して行った。

(3) 結 果

分析の結果、以下の2分類群が同定された。結果一覧を表1に示し、各試料の写真を示す。

表1 動物遺存体同定結果

掲載番号	器種	層	層位	結果(学名/和名)		部位	左右
239	貝輪	貝層	12層	Glycimerididae	タマキガイ科		-
240	貝輪	貝層	51層	Glycimerididae	タマキガイ科?		-
244	貝輪	貝層	4層	Glycimerididae	タマキガイ科?		-
241	貝輪	貝層	32層	Glycimerididae	タマキガイ科?		-
218	釣針	貝層	1層	Cervus nippon	ニホンジカ	鹿角	-
222	骨針	貝層	60層	Cervus nippon	ニホンジカ	鹿角	-
219	釣針	貝層	60層	Cervus nippon	ニホンジカ	鹿角	-
221	刺突具?	IB6f	貝層上面	Cervus nippon	ニホンジカ	鹿角(先端部)	-
223	刺突具?	貝層	3層	Cervus nippon	ニホンジカ	鹿角	-
226	不明	貝層	46層	Cervus nippon	ニホンジカ	鹿角(先端部)	-
228	刺突具?	貝層	47層	Cervus nippon	ニホンジカ	鹿角(先端部)	-
224	刺突具?	貝層	3層	Unknown	不明		-
227	ヘラ?	貝層	46層	Cervus nippon	ニホンジカ	尺骨	右

[斧足類]

タマキガイ科 Glycimerididae

試料の摩耗劣化が著しく、腹縁のみが残存している。なお、その腹縁に放射肋が特徴的に観察されるが、摩耗が著しいことからタマキガイ科までの同定に留める。

タマキガイ科? Glycimerididae?

試料の摩耗劣化が著しく、腹縁のみが残存している。その腹縁に放射肋が観察されタマキガイ科に

似るが、摩耗が著しく破片が小さく、種の特定には至らなかった。

〔脊椎動物門〕

ニホンジカ *Cervus nippone* 哺乳綱 鯨偶蹄目 シカ科

尺骨（右）1点、鹿角7点が同定された。

（4）所見および考察

同定の結果、貝輪はタマキガイ科1点、タマキガイ科？3点であり、骨角器はニホンジカ尺骨1点、ニホンジカ鹿角7点、不明1点であった。

貝輪はタマキガイ科としたが、ベンケイガイなどが貝輪の素材として利用された例がある。なお、ベンケイガイは縄文時代を中心に貝輪として利用されたが、生貝を採取したのではなく、海岸に打ち上がる貝殻を利用したことが報告されている（忍澤2006）。また、タマキガイの名称は縄文時代からタマキガイ科の中にベンケイガイなどの貝輪の素材となるものがあることから環貝（たまきがい）と呼ばれるようになったとも言われている。

骨角器はニホンジカの尺骨および角であった。いずれの骨角器も骨と鹿角の強度の高い緻密質を利用して製作されている。218（釣針）では明瞭な加工痕が観察され、今後の加工工具の推定に有用であろう。また226（不明）では一部に鈍い刃物を想定できる傷痕が観察され、その反対側で折れているため、刃部を持つ重みのある道具で叩き割ったと考えられる。なお、221（刺突具？）、226（不明）、228（刺突具？）の3点は、鹿角の先端部でありいずれも加工痕が観察されないため、骨角器の製作過程で生じた廃材の可能性もある。

（5）調査員のコメント

貝層から出土した骨角牙製品、貝製品は、当センターにおける過去の発掘調査を概観しても、出土事例が極端に少なく、参考となるものが皆無である。またこれらの遺物は共伴する縄文土器の年代から縄文時代中葉（大木3～4式期）に比定され、県内出土資料のうちでも、最古に相当するものであり、貴重である。したがって、これら遺物の素材を同定することは、その属性を明らかにする点で重要と考え、同定分析を試みた。本来であれば出土した骨角牙製品、貝製品全てについて、同定分析を行いたかったが、委託期間等の関係のため、13点に厳選し、同定を委託した。

貝輪については、全てタマキガイ科およびタマキガイ科？という結果を得た。大船渡湾岸に点在する貝塚群から出土した貝輪のうち、タマキガイ科の貝類では、ベンケイガイ製が多いので、内田貝塚の貝輪もベンケイガイ製である可能性が高い。

骨角牙製品は224を除き、全てニホンジカとの結果を得た。また227が尺骨製である他は、全て鹿角製であるという。鹿角やシカの手足の骨自体は貝層から出土している。また踵骨などにカットマークが見受けられる。シカは食用のみならず、製品製作のために、搬入されたのかもしれない。そういう点でも、内田貝塚において、シカは欠かせない動物であったと考える。

参考文献

忍澤成視2006「縄文時代におけるベンケイガイ製貝輪生産－現生打ち上げ貝調査を基礎とした成果－」

『動物考古学第23号』（動物考古学研究会）p.137.

波部忠重1967『標準原色図鑑全集』第3巻（保育社）

239
フネガイ科-タマキガイ科 貝輪240
フネガイ科-タマキガイ科 貝輪

218 哺乳綱 釣針



219 不明 釣針



— 1.0 cm —

226 ニホンジカ



— 1.0 cm —

222
不明 骨針228
ニホンジカ 刺突具?

— 1.0 cm —



図1 内田貝塚の動物遺存体

5 貝層から出土した貝類、魚・獸骨類の同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

(1) はじめに

内田貝塚（岩手県大船渡市末崎町字内田に所在）は、大船渡湾沿岸に位置する。これまでの発掘調査により、縄文時代の竪穴住居跡、土坑等の他、縄文時代に帰属する貝層が確認されている。本分析調査では貝層を構成する各層から採取した試料の骨・貝類同定を実施し、当時の動物質食物等に関する資料を得ることにした。

(2) 試 料

試料は、縄文時代に形成されたと考えられている貝層を構成する各層から採取された25試料（9層、10層、15層、21層、22層、28層、32層、33層、37層、40層、41層、45層～47層、51層～54層、57層、58層、61層、62層、64層、66層、67層）である。いずれも洗い出された状態であり、今回は微細な骨貝類を約300～400g程度を同定対象試料とされた。なお、試料の詳細は、同定結果を示した表2に併記する。

(3) 分析方法

微細な破片が多いことから、便宜的に2mmのフリイを用いてふるい分けを行ったが、最終的には一括して取り扱うこととした。砂・泥分が付着し、観察が難しい試料については、乾いた筆・竹串等を用いて、砂・泥分を除去する。試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、形態的特徴から種・部位を同定する。なお、貝類の生態等については、奥谷ほか（2000）、奥谷編著（2004）を参考とする。

(4) 結 果

検出された種類は、ウニ綱、多板綱（ヒザラガイ類）、腹足綱11種類（ヨメガカサ・ヒメコザラ・サラサシロガイ・キクコザラ・スガイ・タマキビ・キセルガイ科・オカチヨウジガイ・バツラマイマイ・コハクガイ科・マイマイ類）、掘足綱（ヤカドツノガイ）、二枚貝綱5種類（フネガイ・ムラサキインコ・マテガイ科・ウネナシトマヤガイ・アサリ）、頸脚綱2種類（チシマフジツボ・アカフジツボ）、硬骨魚綱22種類（クロアナゴ亜科・ウルメイワシ亜科・ニシン亜科・カタクチイワシ科・アユ属・サケ属・タラ科・サヨリ属・メバル亜科・コチ科・アイナメ属・ブリ属・アジ科・タイ科・ウミタナゴ科・ハゼ科?・カマス属・サバ属・ソウダガツオ属・カツオ・カワハギ科・フグ科）、両生綱（カエル類）、鳥綱?、哺乳綱2種類（ハタネズミ亜科・イス科）が確認された。検出された分類群を表1に、同定結果を表2に示す。以下、層位ごとに結果を記す。

9層

ウニ類、タマキビ、バツラマイマイ、イガイ科、チシマフジツボ、ニシン亜科、ニシン科、メバル亜科、コチ科?、アイナメ属、タイ科、サバ属、イス科などが確認される。サバ属は腹椎がみられるが、焼けている。イス科は、左下顎第3後白歯が1点のみ検出される。これらの中では、ウニ類が特徴的に検出される。

10層

ウニ類、バツラマイマイ、イガイ科、チシマフジツボ、クロアナゴ亜科、ウルメイワシ亜科、ニシ

ン亞科、ニシン科、メバル亞科、アイナメ属、タイ科、カワハギ科、ネズミ科、ハタネズミ亞科などが検出される。なお、魚類の歯牙には、焼けているものが含まれる。これらの中では、チシマフジツボが特徴的に検出される。

15層

ウニ類、スガイ、バツラマイマイ、イガイ科、アサリ、マルスダレガイ科、チシマフジツボ、クロアナゴ亞科?、ウルメイワシ亞科、ニシン亞科、ニシン科、タラ科、アイナメ属、アジ科、タイ科、サバ属?、イス科などが確認される。なお、魚類の中には、部位不明であるが、焼けているものが含まれる。

21層

ウニ類、サラサシロガイ、イガイ科、チシマフジツボ、アカフジツボ、ウルメイワシ亞科、ニシン亞科、ニシン科、カタクチイワシ科、タラ科、メバル亞科、アイナメ属、ブリ属、アジ科、タイ科、サバ属などが確認される。これらの中では、ウニ類、アイナメ属が特徴的に検出される。

22層

ウニ類、スガイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、クロアナゴ亞科?、アイナメ属、ブリ属?、アジ科、タイ科、ウミタナゴ科、サバ属、カワハギ科などが確認される。これらの中では、アイナメ属が特徴的に検出される。

28層

ウニ類、ヒメコザラ、バツラマイマイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、ウルメイワシ亞科、ニシン亞科、ニシン科、アユ属、タラ科、サヨリ属、メバル亞科、アイナメ属、ブリ属、アジ科、タイ科、ウミタナゴ科、サバ属、カワハギ科などが確認される。これらの中では、ウニ類、アイナメ属、アジ科、サバ属が特徴的に検出される。

32層

ウニ類、イガイ科、チシマフジツボ、ニシン亞科、ニシン科、ウルメイワシ亞科、サケ属、アユ属、タラ科、アイナメ属、アジ科、タイ科、ウミタナゴ科、サバ属、カワハギ科、フグ科などが確認される。これらの中では、ニシン科、アイナメ属が特徴的に検出される。

33層

ウニ類、ヒザラガイ類、サラサシロガイ、バツラマイマイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、ウネナシトマヤガイ、ニシン亞科、ニシン科、ウルメイワシ亞科、サヨリ属、メバル亞科?、アイナメ属、ブリ属、アジ科、タイ科、カマス属?、サバ属?などが確認される。なお、腹足綱の破片の一部、およびウネナシトマヤガイは焼けている。これらの中では、アイナメ属、アジ科が特徴的に検出される。

37層

ウニ類、スガイ、イガイ科、チシマフジツボ、クロアナゴ亞科、ウルメイワシ亞科、ニシン亞科、ニシン科、アユ属、メバル亞科、アイナメ属、ブリ属、アジ科、タイ科、ウミタナゴ科、サバ属、カワハギ科、フグ科、カエル類などが確認される。これらの中では、ニシン科、アイナメ属が特徴的に検出される。

40層

ウニ類、ヒメコザラ、バツラマイマイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、ウルメイワシ亞科、ニシン科、カタクチイワシ科、アユ属、サヨリ属、メバル亞科、ワサカサゴ科、アイナメ属、ブリ属、アジ科、ハゼ科?、サバ属、ソウダカツオ属などが確認される。なお、魚類の鱗棘の中には、焼けたものが含まれる。これらの中では、チシマフジツボが特徴的に検出される。

41層

ウニ類、ヒメコザラ、スガイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、クロアナゴ亜科?、ウルメイワシ亜科、ニシン亜科、ニシン科、タラ科、アイナメ属、アジ科?、タイ科、ウミタナゴ科、サバ属、小型獸類などが確認される。これらの中では、ウニ類、チシマフジツボが特徴的に検出される。

45層

ウニ類、バツラマイマイ、イガイ科、チシマフジツボ、クロアナゴ亜科、ウルメイワシ亜科、ニシン亜科、ニシン科、タラ科?、メバル亜科?、アイナメ属、ブリ属、アジ科、タイ科、カマス属、サバ属、カワハギ科、ネズミ科?などが確認される。これらの中では、ウニ類、アイナメ属が特徴的に検出される。

46層

ウニ類、バツラマイマイ、イガイ科、チシマフジツボ、ニシン亜科、ニシン科、アユ属?、タラ科、コチ科、メバル亜科、アイナメ属、ブリ属、アジ科、タイ科、ウミタナゴ科、サバ属、カツオ?、カエル類、小型獸類などが確認される。なお、魚類の鱗棘の中には、焼けたものが含まれる。これらの中では、ウニ類、チシマフジツボ、アイナメ属、ブナ属が特徴的に検出される。

47層

ウニ類、ヒメコザラ?、スガイ、サラサシロガイ、オカチョウジガイ、バツラマイマイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、クロアナゴ亜科、ウルメイワシ亜科、ニシン科、メバル亜科?、アイナメ属、アジ科、タイ科、サバ属、ネズミ科などが確認される。なお、チシマフジツボの中には、焼けたものが含まれる。これらの中では、チシマフジツボが特徴的に検出される。

51層

ウニ類、スガイ、タマキビ、オカチョウジガイ、バツラマイマイ、イガイ科、アサリ、マテガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、ウルメイワシ亜科、ニシン亜科、ニシン科、アユ属、アイナメ属、ウミタナゴ科、ブリ属、アジ科、タイ科、サバ属、小型獸類などが確認される。なお、魚類の鱗棘の中には、焼けたものが含まれる。これらの中では、ウニ類、チシマフジツボが特徴的に検出される。

52層

ウニ類、スガイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、クロアナゴ亜科、ウルメイワシ亜科、ニシン亜科、ニシン科、アユ属?、タラ科、アイナメ属、ブリ属?、アジ科、タイ科、カマス属、サバ属、カツオ、カワハギ科、鳥類?などが確認される。これらの中では、ウニ類、ニシン科などが特徴的に検出される。

53層

ウニ類、キクコザラ、スガイ、コハクガイ科、バツラマイマイ、イガイ科、アサリ、アカフジツボ、チシマフジツボ、ニシン亜科、ニシン科、カタクチイワシ科、アイナメ属、アジ科、タイ科、ウミタナゴ科、サバ属?などが確認される。これらの中では、ウニ類、チシマフジツボが特徴的に検出される。

54層

ウニ類、オカチョウジガイ、イガイ科、ムラサキインコ、アカフジツボ、チシマフジツボ、クロアナゴ亜科、ウルメイワシ亜科、ニシン亜科、ニシン科、アユ属、アイナメ属、アジ科、タイ科、ウミタナゴ科、カマス属、サバ属?などが確認される。これらの中では、ウニ類、チシマフジツボが特徴的に検出される。

57層

ウニ類、オカチョウジガイ、サラサシロガイ、マイマイ類、フネガイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、クロアナゴ亜科、ニシン亜科、ニシン科、アジ科、アイナメ属などが確認される。

これらの中では、ウニ類、チシマフジツボが特徴的に検出される。

58層

ウニ類、キセルガイ科、バツラマイマイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、ウルメイワシ亞科、ニシン亞科、ニシン科、カタクチイワシ科、メバル亞科、アイナメ属、タイ科、サバ属、ハゼ科?、カワハギ科、ネズミ科などが確認される。これらの中では、ウニ類、チシマフジツボ、ニシン科が特徴的に検出される。

61層

ウニ類、スガイ、サラサシロガイ?、オカチョウジガイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、ウルメイワシ亞科、ニシン亞科、ニシン科、カタクチイワシ科、アイナメ属、ブリ属、タイ科、カマス属、サバ属、カワハギ科、鳥類?などが確認される。これらの中では、ウニ類、チシマフジツボ、ニシン科が特徴的に検出される。

62層

ウニ類、スガイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、ニシン科、フサカサゴ科?、アイナメ属?、ウミタナゴ科?などが確認される。これらの中では、ウニ類、チシマフジツボが特徴的に検出される。

64層

ウニ類、キクゴザラ、ヒメコザラ?、スガイ、サラサシロガイ、ヨメガカサ、ヤカドツノガイ、オカチョウジガイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、クロアナゴ亞科?、ウルメイワシ亞科、ニシン亞科、ニシン科、カタクチイワシ科、アユ属、アイナメ属、アジ科、ウミタナゴ科、サバ属、小型獸類などが確認される。これらの中では、ウニ類、チシマフジツボが特徴的に検出される。

66層

ウニ類、スガイ、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、ウルメイワシ亞科、ニシン亞科、ニシン科、アイナメ属、タイ科、ウミタナゴ科、サバ属、カワハギ科、小型獸類などが確認される。これらの中では、ウニ類が特徴的に検出される。

67層

ウニ類、ヒメコザラ?、タマキビ?、サラサシロガイ、マイマイ類、イガイ科、アカフジツボ、チシマフジツボ、サヨリ属、タイ科、ウミタナゴ科、サバ属、ハタネズミ亞科などが確認される。これらの中では、ウニ類、チシマフジツボが特徴的に検出される。

(5) 考察

今回、検出された中で、キセルガイ科、オカチョウジガイ、バツラマイマイ、コハクガイ科、マイマイ類は、陸産貝類である。おそらくは、付近に棲息していたものが死後埋まったと考えられる。また、カエル類、ハタネズミ亞科、イヌ科も周辺に棲息していたと考えられる。それ以外の貝類、魚類は、基本的には海産種である。

貝類等でみると、ウニ類、ヨメガカサ・ヒメコザラ・サラサシロガイ・キクゴザラ・スガイ・タマキビ・フネガイ・ムラサキインコ・ウネナシトマヤガイ・チシマフジツボ・アカフジツボが岩礁域に、ヤカドツノガイ・マテガイ科・アサリが砂底に棲息するとされている。

魚類では、ウルメイワシ亞科、ニシン亞科、カタクチイワシ科・サヨリ属・タイ科・サバ属・ソウダガツオ属・カツオなどが沿岸から沖合の表層、アジ科が沿岸から沖合の中層、ブリ属がやや沖合、タラ科・ウミタナゴ科・カワハギ科・フグ科などが沿岸の浅場、クロアナゴ亞科・コチ科などが砂底、メバル亞科・アイナメ属・カマス属などが岩礁域などに棲息することから、大船渡湾内の岩礁地、沿

岸部、さらには沖合などの様々な場所で捕獲されていたことが推定される。捕獲に際しては、釣針などによる漁法の他、ウルメイワシ科・ニシン科・カタクチイワシ科など、プランクトンを食性とする小型種については、網などで漁獲されていた可能性がある。また、アユ属・サケ属など河川に棲息、あるいは河川を週上する種類もみられることから、付近の河川でも漁がおこなわれていた可能性もある。なお、今回同定対象となった試料は、全体量の一部である。その故、層位的な変化や種類構成など詳細な検討は、今後の資料の蓄積を待って検討を行うことが望まれる。

(6) 調査員のコメント

第IV章-3に記した通り、貝層内の動物遺存体については、貝層の土壤を4mmと2mm（層によっては1mm）の篩を用いて、水洗、抽出を行った。

4mm篩で抽出した貝類、魚・獣骨については、担当調査員、室内作業員などで分担、肉眼による同定を試みており、そして同定した種類ごとの点数を集計している（第9・10・12表）。一方、2mmないし、1mmの篩で抽出した貝類、魚・獣骨については、微小か破片であり、肉眼による同定が困難であった。とは言え、4mmの篩では抽出できなかったものにも動物遺存体が含まれており、これらについては同定分析を委託した。

全ての堆積層を対象に分析が行えれば良かったが、予算の都合等もあり、比較的動物遺存体の残りが良好な25層分について、その土壤、各300cc（200～300gに相当）を任意に採集し、試料とした。

分析結果を概観すると、まず貝類では陸産貝類が含まれることが判明した点は肉眼による同定では得られなかつた成果であった。また岩礁域に生息する貝類（スガイなど）が多いことは肉眼による同定の際でも判明していたことであるが、これにチシマフジツボやアカフジツボなどが加わり、さらに貝類の種類が豊富であることが分かった。

骨類は主に魚骨で、こちらも肉眼による同定である程度、種類は判明していたが、分析でも、岩礁地、沿岸、沖合、また河川のそれぞれに生息する魚類の骨が見つかっている。特にウルメイワシ科やカタクチイワシ科のような小さな魚やアユ属、サケ属のような河川を週上する魚が多く見つかった点は、貝層を形成した縄文人の漁労の在り方を知る上で貴重な結果となった。

引用文献

- 奥谷喬司・窟寺恒己・黒住耐二・斎藤 寛・
佐々木猛智・土田英治・土屋光太郎・長谷川和範・
濱谷 嶽・蓬木 格・鰐 成夫・松澤明彦 2000『日本近海産貝類図鑑』（東海大学出版会）1173p.
奥谷喬司編著2004『改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類』（株式会社世界文化社）399p.

表1 検出分類群一覧

棘皮動物門	Phylum Echinodermata	脊椎動物門	Phylum Vertebrata
ウニ綱	Class Echinoidea	硬骨魚綱	Class Osteichthys
ウニ目	Order et. fam. indet.	柔骨魚綱	Subclass Actinopterygii
執拗動物門	Phylum Molusca	ウナギ目	Order Anguilliformes
多板綱	Class Polyplacophora	ウナギ亞目	Suborder Anguillidæ
ヒザガライ目	Ord. et. fam. indet.	アゴ科	Family Congridæ
腹足綱	Class Gastropoda	クロアゴサメ科	Subfamily Congrinæ
直螺章綱	Subclass Prosobranchia	クロアゴサメ科	Gen. et. sp. indet.
カサガイ目	Order Patellogastropoda	シソ目	Order Cephalopores
ヨメガカサガイ目	Suborder Nacellidae	ニシン科	Family Chapedæ
ヨメガカサガイ科	Family Nacellidae	ウルミワタリ目	Subfamily Dusumieriæ
ヨメガカサガイ	<i>Cassis terebrum</i>	ニシナミタリ科	Subfamily Clupeinae
エヌスノカサガイ目	Order Acanthoconcha	カクチナリ科	Family Engraulidae
ユカツノカサガイ科	Suborder Lottiidae	カクチナリワニ科	Gen. et. sp. indet.
ヒメコガウ	Patellogastra pygmaea	サケ目	Order Salmoniformes
サラサロイ	<i>Lottia sp.</i>	アユ科	Family Plecoglossidae?
キクコガウ	<i>Lottia langfordi</i>	アユ属	Genus <i>Plecoglossus</i>
古腹足目	Order Vetigastropoda	サケ科	Family Salmonidae
サザエ科	Family Turbinidae	サケ属	Genus <i>Oncorhynchus</i>
スガイ	<i>Turbo (Linella) cornutus coreensis</i>	テラ科	Order Gadiformes
腹足目	Order Discospoda	テラ科	Family Gadidae
タマキビ科	Family Littorinidae	タラ科	Gen. et. sp. indet.
タマキビ	<i>Littorina (Littorina) brevicula</i>	ゲツヅ目	Order Beloniformes
有肺目	Subclass Palmonata	トヨウズ目	Suborder Eucoctoidei
柄眼目	Order Syconematophora	サヨコリ科	Family Hemiramphidae
キセラガ科	Family Ciliostomidae	カツラ属	Genus <i>Hemiramphus</i>
キセラガ	<i>Ciliostoma ciliatum</i>	カサゴ目	Order Scorpaeniformes
オカラタケレガ科	Family Subulidae	カサゴ属	Suborder Scorpaenoidei
オカラタケレガ	<i>Alpheus cinctulus kyotoense</i>	フサカガ科	Family Scorpisidae
ナタネキ科	Family Punctidae	メバル属	Subfamily Sebastianinae
ナタネキ	<i>Dicosa punctata</i>	コチ科	Family Platyceratidae
ハクタナ科	Family Zonitidae	コチ属	Gen. et. sp. indet.
コハクタナ	<i>Dicosa panzeri</i>	カジカ目	Suborder Cotioidei
マグマタナ	<i>Dicosa panzeri</i>	カジカ科	Family Hexagrammidae
カサゴ科	Scaphopoda	カジカ属	Genus <i>Hexagrammos</i>
カサゴ目	Order Dentalida	スズキ目	Order Perciformes
スクダツノイ科	Family Dentalidae	スズキモ科	Suborder Percoidæ
カサドツノイ	<i>Dentalium octangulatum</i>	アジ科	Family Carangidae
二枚貝綱	Class Bivalvia	アリ属	Genus <i>Seris</i>
翼足目	Subclass Pteriomorphia	タイ科	Family Sparidae
フネガノ目	Order Arcoida	タイ属	Gen. et. sp. indet.
フネガノ	Family Arcidae	ウミタガ科	Family Embiotocidae
フネガノ	<i>Arca avellana</i>	ウミタガ属	Gen. et. sp. indet.
イガイ目	Order Mytilida	ハゼ目	Suborder Gobioidei?
イガイ科	Family Mytilidae	ハゼ科	Family Gobiidae?
ムラサキシコ	<i>Septifer virgatus</i>	ハゼ科	Gen. et. sp. indet.
異歯類綱	Subclass Heterodontia	サバ目	Suborder Sombradiæ
マルヌレガノ目	Order Venustida	カマス科	Family Sphyraenidae
マルヌレガノ	Family Venustidae	カマス属	Genus <i>Sphyraena</i>
マルヌレガノ	<i>Gen. et. sp. indet.</i>	サバ科	Family Scombridae
フナガノ科	Trapezidae	サバ属	Genus <i>Scomber</i>
フナガノ	<i>Trapezia linstum</i>	ソウダガオサ科	Family Ausiidae
マルヌレガノ目	Family Veneridae	カツオ	Genus <i>Ausius</i>
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	ツブリ目	Order Tetradontiformes
節足動物門	Phylum Arthropoda	ツブリ科	Tetraodontidae
甲殻東門	Subphylum Crustacea	カワハギ科	Family Monacanthidae
顎脚綱	Class Maxillopoda	カワハギ属	Gen. et. sp. indet.
簡單綱	Subclass Thecostraca	フグ科	Family Tetroniidæ
無精目	Order Sessilia	フグ属	Gen. et. sp. indet.
ツノボリガノ目	Suborder Balanina	両生綱	Class Amphibia
ムカシツノボリ	Family Archaeobalanidae	無尾目	Order Anura
チシマツノボリ	Subfamily Semibalanidae	カエル科	Family Anuridae
チシマツノボリ	<i>Balanus carous</i>	カエル属	Gen. et. sp. indet.
ツノボリ目	Family Balanidae	鳥綱	Class Aves?
ツノボリ	<i>Megabalanus rosa</i>	鳥類	Ord. et. fam. indet.

表2 骨貝類同定結果（1）

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
9層	泥質土層	418.96	ウニ殻	殻		破片	2		
			輪			破片	85		
			タマカビ	殻		略完	1		
			パラママイマイ	殻		破片	2		
			腹足綱	殻		破片	0.19 g		
			イガイ科	殻	左	破片	1		
			イガイ科	殻	右	破片	2		
			シシマフジワボ	殻		破片	51		
			フジツボ類	殻		破片	14		
			ニシン科	腹椎		破片	2		
			ニシン科	尾椎		破片	5		
			メバル科	尾椎		破片	1		
			コチ科?	第1椎骨		破片	1		
			アイナメ属	腹椎		破片	2		
			アイナメ属	尾椎		破片	3		
			タイ科	歯牙		破片	11		
			サバ属	腹椎		破片	1	○	
			魚類	前上顎骨	右	破片	1		
				歯牙		破片	3		
				椎骨		破片	3		
				鰓縫等		破片	多數		1.14g
				鰓		破片	1		
				不明		破片	1.12 g		
			イヌ科	下顎第3後臼歛	左	略完	1		
			脊椎動物門	不明		破片	0.42 g		
			残渣				411.59 g	貝主体	
10層	土層	405.8	ウニ殻	中間骨		破片	1		
				殻		破片	7		
				輪		破片	32		
			パラママイマイ	殻		破片	2		
			腹足綱	殻		破片	1.02 g		
			イガイ科	殻	左	破片	3		
					右	破片	11		
			シシマフジワボ	殻		破片	66		
			フジツボ類	殻		破片	27		
			クロアナゴ科	尾椎		破片	1		
			ウルメイワシ科	腹椎		破片	1		
			ニシン科	胸骨	右	破片	1		
			ニシン科	頭骨		破片	2		
			メバル科	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	主上顎骨	右	破片	1		
			タイ科	歯牙		破片	7		
			カワハギ科	背鰭第1棘		破片	2		
			魚類	前上顎骨		破片	1		
				歯牙		破片	1	○	
				頭鰭骨		破片	1		
				主鰓骨		破片	1		
				尾椎		破片	2		
				終尾椎		破片	1		
				椎骨		破片	13		
				鰓縫等		破片	多數		1.00g
				鰓		破片	22		
				不明		破片	0.58 g		
			ハナネズミ科	下顎第1後臼歛	左	破片	1		
			ネズミ科	上顎第1門歛	左	破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	21 g		
			残渣				397.23 g	貝主体	
15層	泥質土層	386.8	ウニ殻	殻		破片	7		
				輪		破片	23		
			スガイ	蓋		略完	1		
			パラママイマイ	殻		破片	1		
			腹足綱	殻		破片	0.31 g		
			イガイ科	殻	左	破片	3		
			アサリ	殻	右	破片	3		
					左	破片	1		

表2 骨貝類同定結果（2）

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
15号	混貝土層	386.8	マルスダリガイ科	殻	右	破片	1		
			サシマフジツボ	殻		破片	22		
			フジツボ類	殻		破片	7		
			クロアナゴ科	腹椎		破片	1		
			ウルメイワシ科	腹椎		破片	2		
			ニシン科	腹椎		破片	2		
			ニシン科	尾椎		破片	3		
			タラ科	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	腹椎		破片	1		
			アイナメ属	尾椎		破片	1		
			アシカ属	主上顎骨	左	破片	1		
			アシカ属	尾椎		破片	2		
			アシカ属	尾椎		破片	3		
			鰐鱗			破片	1		
			タイ科	歯牙		破片	4		
			タイ科	主上顎骨	右	破片	1		
			サバ属	尾椎		破片	1		
			魚類	歯牙		破片	1		
			魚類	腹椎		破片	1		
			魚類	尾椎		破片	3		
			魚類	椎骨		破片	12		
			鰐鱗等			破片	多數	0.67g	
			鰐鱗			破片	1		
			不明			破片	1.01 g		
						破片	1	○	
			イヌ科	下顎前臼歯	右	破片	1		
			食草類	尾椎		破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	0.36 g		
			鳥類				378.95 g		貝主体
21号	混貝土層	374.4	ウニ類	中間骨		破片	2		
			ウニ類	殻		破片	43		
			ウニ類	殻		破片	多數	1.32g	
			サラサシロガイ	殻		略定	2		
			貝足綱	殻		破片	0.78 g		
			イガ科	殻	左	破片	11		
			イガ科		右	破片	13		
			サシマフジツボ	殻		破片	57		
			アカフジツボ	殻		破片	1		
			フジツボ類	殻		破片	15		
			ウルメイワシ科	腹椎		破片	2		
			ニシン科	腹椎		破片	3		
			ニシン科	頭骨		破片	1		
			ニシン科	尾椎		破片	8		
			カタクチイワシ科	腹椎		破片	1		
			タラ科	腹椎		破片	1		
			メハリサ科	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	主上顎骨	左	破片	2		
			アイナメ属	歯骨	左	破片	1		
			アイナメ属	方骨	右	破片	1		
			アイナメ属	第1椎骨		破片	1		
			アイナメ属	腹椎		破片	3		
			アイナメ属	尾椎		破片	9		
			アイナメ属	歯骨		破片	1		
			アイナメ属	方骨	左	破片	1		
			アイナメ属	上舌骨	右	破片	1		
			ブリ属	尾椎		破片	1		
			アシカ属	腹椎		破片	4		
			アシカ属	尾椎		破片	2		
			アシカ属	鰐鱗		破片	1		
			アシカ属	第1椎骨		破片	1		
			タイ科	歯牙		破片	2		
			サバ属	尾椎		破片	1		
			サバ属	腹椎		破片	1		
			魚類	前上顎骨	左	破片	1		

表2 骨貝類同定結果（3）

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
21号	混貝土層	374.4	魚類	歯牙		破片	1		
				尾椎		破片	3		
				脛尾椎		破片	2		
				椎骨		破片	11		
				鰓蓋等		破片	多數	1.55g	
				鰓		破片	32		
				不明		破片	28 g		
			脊椎動物門	不明		破片	11 g		
			炭化物				8		
			残糞				362.18 g		貝主体
22号	混貝土層	362.1	ウニ類	中間骨		破片	1		
				股		破片	5		
				鰓		破片	12		
			スガイ	蓋		略完	5		
			腹足綱	股		破片	0.56 g		
			イガイ科	股	左	破片	7		
					右	破片	8		
			チシマフジワボ	股		破片	30		
			アカフジワボ	股		破片	1		
			フジワボ類	股		破片	4		
			クロアナゴ科?	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	主上顎骨	左	破片	1		
				股椎		破片	3		
				尾椎		破片	4		
			アイナメ属?	腹椎		破片	1		
			ブリ属?	尾椎		破片	1		
			アジ科	尾椎		破片	1		
			アジ科?	腹椎		破片	1		
			ダイ科	歯牙		破片	5		
			ウミタナゴ科	前上顎骨	右	破片	1		
			サバ属	歯骨	左	破片	1		
			カワハギ科	背鰭第1棘		破片	1		
			魚類	前上顎骨		破片	1		
				歯牙		破片	1		
				腹椎		破片	3		
				尾椎		破片	6		
				脣尾椎		破片	1		
				椎骨		破片	3		
				鰓蓋等		破片	多數	1.55g	
				不明		破片	0.82 g		
			小型底栖	鰓骨		破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	0.56 g		
			残糞				353.73 g		貝主体
23号	混貝土層	361.61	ウニ類	中間骨		破片	2		
				股		破片	51		
				鰓		破片	86		
			ヒココザワ	股		破片	1		
			パラウマツマイ	股		破片	1 +		
			腹足綱	股		破片	0.36 g		
			イガイ科	股	左	破片	30		
					右	破片	19		
			チシマフジワボ	股		破片	229		
			アカフジワボ	股		破片	15		
			フジワボ類	股		破片	69		
			ウルメイワシ科?	腹椎		破片	1		
			ニシン亜科	腹椎		破片	3		
			ニシン科	頭骨		破片	1		
				尾椎		破片	3		
			アユ属	尾椎		破片	1		
			タラ科	尾椎		破片	3		
			サヨリ属	腹椎		破片	2		
			メバル科	尾椎		破片	2		
			アイナメ属	主上顎骨	右	破片	1		
				口蓋骨	左	破片	1		
					右	破片	1		

表2 骨貝類同定結果（4）

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
28号	混じ土層	361.61	アイナメ属	第2椎骨		破片	2		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	6		
				角骨	左	破片	1		
				ブリ属		破片	5		
				アジ科	主上顎骨	左	破片	1	
					右	破片	1		
				腹椎		破片	4		
				尾椎		破片	10		
				頸鱗		破片	1		
				アジ科?		破片	2		
				タイ科		破片	2		
				ウミタガ科	歯骨		1		
				上顎骨	右	破片	1		
				上顎骨	左	破片	1		
				サバ属		破片	3		
				尾椎		破片	3		
				カワハギ科	腹椎		1		
				背鰭第1棘		破片	1		
				魚類		破片	1		
				胸骨		破片	1		
				胸骨	右	破片	1		
				歯牙		破片	1		
				後頭側骨	左	破片	1		
				腹椎		破片	1		
				ウツボ属		破片	6		
				椎骨		破片	10		
				椎骨		破片	8		
				鰓蓋等		破片	多數		219g
				不明		破片	0.84 g		
				脊椎動物門	不明	破片	1.02 g		
				残骸			345.74 g	貝主体	
32号	土層	330.71	アイニギ	殻		破片	4		
				鰓		破片	7		
				腹足鋼		破片	0.15 g		
				イガイ特	殻	破片	4		
				オシマフジツボ		破片	7		
				フジツボ類	殻	破片	1		
				ウルメイワシ海科	腹椎	破片	9		
				ニシン亜科	角骨	左	破片	1	
				第2椎骨		破片	1		
				腹椎		破片	2		
				ニシン亜科?	腹椎	破片	1		
				ニシン科	頭骨	破片	13		
				ニシン科	尾椎	破片	13		
				ニシン科?	腹椎	破片	1		
				アコ属	尾椎	破片	3		
				サケ属	椎骨	破片	1		
				タラ科	尾椎	破片	3		
				アイナメ属	角骨	右	破片	1	
				上舌骨	右	破片	1		
				後頭側骨	右	破片	1		
				腹椎		破片	3		
				尾椎		破片	5		
				アイナメ属?	尾椎	破片	1		
				アジ科	尾椎	破片	1		
				タイ科	歯骨	破片	14		
				ウミタガ科	腹椎	破片	1		
				サバ属	尾椎	破片	3		
				フグ科	前上顎骨	左	破片	1	
				カワハギ科	背鰭第1棘	破片	1		
				カワハギ科?	尾椎	破片	1		
				魚類	頭蓋骨	破片	3		
				前頭骨/歯骨		破片	2		
				歯牙		破片	3		
				前頭骨		破片	1		
				腹椎		破片	4		

表2 骨貝類同定結果（5）

属名	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
32号 土層	33071	魚類	尾椎			破片	9		
			終尾椎			破片	1		
			椎管			破片	9		
			鰓蓋等			破片	多數	4.90g	
			頭			破片	14		
			不明			破片	3.64 g		
			歯型?	歯牙		破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	1.2 g		
			残渣				315.36 g		貝主体
33号 混貝土層	37274	ウニ類	中間骨			破片	1		
			殻			破片	36		
			鰓			破片	44		
			ヒザウガイ類	殻		破片	1		
			サザシロガイ	殻		吻突	1		
			バツラマミマイ	殻		破片	4		
			腹足類	殻		破片	1.09 g		
						破片	1	○	
			イガイ科	殻	左	破片	12		
					右	破片	3		
			ウネナシトマヤガイ	殻	右	破片	1	○	
			ナシマフジワボ	殻		破片	92		
			アカワジワボ	殻		破片	7		
			フジツボ類	殻		破片	4		
			ウルメイクシナホ	腹足		破片	3		
			ニシン座科	腹足		破片	2		
			ニシン科	頭骨		破片	1		
			ニシン科?	尾椎		破片	2		
			サヨリ属	尾椎		破片	1		
			メバル座科?	胸骨	右	破片	1		
			アイナメ属	前上顎骨	左	破片	1		
				後頭側骨	右	破片	1		
			腹足			破片	2		
			尾椎			破片	4		
			アイナメ属?	角骨	左	破片	1		
			ブリ属	尾椎		破片	8		
			アジ科	主上顎骨	右	破片	1		
				第1椎骨		破片	1		
			アジ科?	尾椎		破片	3		
			タイ科	尾椎		破片	1		
			カマス属?	尾椎		破片	2		
			サバ属?	尾椎		破片	2		
			魚類	歯牙		破片	1		
				前甲骨		破片	1		
			腹足			破片	1		
			尾椎			破片	2		
			椎骨			破片	9		
			鰓蓋等			破片	多數	1.44g	
			頭			破片	1		
			不明			破片	1.28 g		
			脊椎動物門	不明		破片	0.53 g		
			残渣				363.66 g		貝主体
37号 土層	34162	ウニ類	殻			破片	3		
			鰓			破片	2		
			スガイ	血		吻突	1		
			腹足類	殻		破片	0.05 g		
			イガイ科	殻	左	破片	5		
					右	破片	16		
			ナシマフジワボ	殻		破片	1		
			フジツボ類	殻		破片	1		
			クロアナゴ座科	尾椎		破片	1		
			クロアナゴ座科?	尾椎		破片	1		

表2 骨貝類同定結果（6）

番号	属の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
37号	土著	344.62	ウルメイワシ亜科?	腹椎		破片	4		
			ウルメイワシ亜科?	尾椎		破片	1		
			ニシン亜科	角骨	右	破片	1		
				第1椎骨		破片	1		
				腹椎		破片	2		
			ニシン科	頭骨		破片	4		
				尾椎		破片	8		
			アユ属	尾椎		破片	1		
			アユ属?	尾椎		破片	1		
			メバル亜科	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	口蓋骨	左	破片	1		
				方骨	右	破片	1		
				舌顎骨	右	破片	1		
				後頭側骨	左	破片	1		
				腹椎		破片	2		
				尾椎		破片	2		
			アイナメ属?	主上顎骨	左	破片	1		
				尾椎		破片	3		
			ブリ属	尾椎		破片	1		
			アジ科	腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	2		
			アジ科?	腹椎		破片	1		
			タイ科	歯牙		破片	1		
			タイ科?	角骨	右	破片	1		
			ウミタナゴ科	腹椎		破片	1		
			ウミタナゴ科?	尾椎		破片	1		
			サバ属	主上顎骨	右	破片	1		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	2		
			サバ属?	尾椎		破片	3		
			カワハギ科	前上顎骨	左	破片	1		
				第1椎骨		破片	1		
				背鰭第1棘		破片	2		
			フグ科	尾椎		破片	1		
			魚類	前上顎骨		破片	2		
				歯牙		破片	2		
				角呑骨?		破片	1		
				腹椎		破片	2		
				尾椎		破片	5		
				終尾椎		破片	3		
				椎骨		破片	14		
				鰓鰭等		破片	多數	3.25g	
				鰓		破片	4		
			不明			破片	1.61 g		
			カエル類	椎骨・尺骨	右	略定	1		
			小型紙類	系鉗骨?		近位端欠	1		
			脊椎動物門	不明		破片	0.88 g		
			昆蟲				331.89 g		貝主体
40号	混生土層	37901	ウニ類	中間骨		破片	2		
				殻		破片	17		
				繩		破片	19		
			ヒメコザラ	殻		破片	1		
			パラクママイマイ	殻		破片	2		
			複足綱	殻		破片	0.21 g		
			イガイ科	殻	左	破片	2		
					右	破片	3		
			チジマフジツボ	殻		破片	60		
			アガフジツボ	殻		破片	5		
			ウルメイワシ亜科	腹椎		破片	2		
			ニシン科	尾椎		破片	1		
			カタクチイワシ科	尾椎		破片	1		
			アユ属	尾椎		破片	1		
			サヨリ属	腹椎		破片	2		
			メバル亜科	腹椎		破片	1		
			メバル亜科?	後頭側骨	右	破片	1		

表2 骨貝類同定結果（7）

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
40層	混貝土層	379.01	フサカサゴ科	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	3		
			ブリ属	尾椎		破片	1		
			ブリ属?	腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	1		
			アジ科	尾椎		破片	2		
			ハゼ科?	角骨	右	破片	1		
			サバ属	尾椎		破片	2		
			ソウダカツオ属	主上顎骨	右	破片	1		
			魚類	副歯形骨		破片	1		
				歯牙		破片	1		
				椎骨		破片	3		
				鰓鰓等		破片	多數	0.31g	
				鰓鰓等		破片	1	○	
				不明		破片	0.61 g		
			脊椎動物門	不明		破片	0.27 g		
				残渣			373.65 g		貝主体
41層	混貝土層	374.73	ウニ類	殻		破片	38		
				腕		破片	40		
			ヒメコザワ	殻		破片	1		
			スガイ	蓋		略完	1		
			獲足綱	殻		破片	0.58 g		
			イガイ科	殻	左	破片	4		
					右	破片	3		
			チシマフジワボ	殻		破片	82		
			アカフジワボ	殻		破片	2		
			フジワボ属	殻		破片	21		
			クロアナゴ東洋?	尾椎		破片	1		
			ウルメイシシ東洋	腹椎		破片	2		
			ニシシモ科	尾椎		破片	1		
			ニシシモ科	尾椎		破片	1		
			タラ科	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	上舌骨	左	破片	1		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	2		
			アイナメ属?	腹椎		破片	1		
				上継骨	右	破片	1		
			アジ科?	前椎骨		破片	1		
			タイ科	歯牙		破片	4		
			タイ科?	後頭側管	左	破片	1		
			ウミタナゴ科	主上顎骨	左	破片	1		
				角骨	左	破片	1		
				上継骨	左	破片	1		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	1		
			サバ属	尾椎		破片	2		
			魚類	副歯形骨		破片	1		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	2		
				群尾椎		破片	1		
				椎骨		破片	3		
				鰓鰓等		破片	多數	2.62g	
				不明		破片	0.37 g		
			小型紙類	腹椎		破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	0.27 g		
			昆蟲			破片	1		
				残渣			365.9 g		貝主体
45層	混貝土層	394.49	ウニ類	中間骨		破片	4		
				殻		破片	35		
				腕		破片	55		
			パラママイマイ	殻		破片	2		
			獲足綱	殻		破片	1.38 g		
			イガイ科	殻	左	破片	2		
					右	破片	2		

表2 骨貝類同定結果（8）

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
45層	混貝土層	394.49	ナシマフジワボ	殻		破片	14		
			クロアノゴ東科	尾椎		破片	2		
			ウミメイワシ科	腹椎		破片	2		
			ニシン科	腹椎		破片	3		
			ニシン科?	角骨	右	破片	1		
			ニシン科?	頭骨		破片	1		
			ニシン科?	尾椎		破片	3		
			タラ科?	腹椎		破片	1		
			メバル科?	方骨	右	破片	1		
			アイナメ属	腹椎		破片	2		
			ブリ属	尾椎		破片	10		
			アジ科	腹椎		破片	1		
			アジ科?	尾椎		破片	1		
			タイ科	歯骨		破片	2		
			カマス属	腹椎		破片	1		
			サバ属	方骨	左	破片	1		
			サバ属	腹椎		破片	1		
			サバ属?	尾椎		破片	1		
			カワハギ科	背椎第1椎		破片	1		
			魚類	前上顎骨/歯骨		破片	1		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	6		
				終尾椎		破片	3		
				椎骨		破片	17		
				椎棘等		破片	多數	1.48g	
				鰓		破片	1	○	
				不明		破片	9		
			ネズミ科?	上顎第1門歯?		破片	2.47 g		
			小型帆類	四肢骨		破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	1		
			不明			破片	0.72 g		
			炭化物			破片	2	○	
			残渣			破片	8		
							385.33 g		貝主体
46層	混貝土層	403.38	ニシギ	中間骨		破片	3		
				殻		破片	56		
				範		破片	62		
			バツラマダイマイ	殻		破片	1		
			腹足綱	殻		破片	11 g		
			イガイ科	殻	左	破片	16		
					右	破片	18		
			ナシマフジワボ	殻		破片	169		
			アジ科?	殻		破片	93		
			タラ科	腹椎		破片	3		
			メバル科?	尾椎		破片	1		
			コチ科	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	方骨	左	破片	1		
				腹椎		破片	3		
				尾椎		破片	6		
			アイナメ属?	角骨	右	破片	1		
			ブリ属	尾椎		破片	4		
			アジ科	稚鰈		破片	2		
			タイ科	歯骨		破片	1		
			ウミタナゴ科	方骨	右	破片	1		
			サバ属	第1椎骨		破片	1		
			サバ科?	前上顎骨/歯骨		破片	1		
			カワオ?	尾椎		破片	1		

表2 骨貝類同定結果（9）

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
46号	混貝土層	403.38	魚類	頭頂骨?		破片	1		
				肩甲骨		破片	1		
				腹椎		破片	2		
				尾椎		破片	2		
				椎骨		破片	5		
				結節等		破片	多數	0.99g	
				鱗		破片	2	○	
				不明		破片	4		
			カエル類	椎骨・尺骨	右	略完	1		
			小型爬虫類	椎骨		破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	0.21 g		
							294.4 g		貝主体
47号	混貝土層	397.45	ウニ類	殻		破片	19		
				鰓		破片	19		
			ヒメコザラ?	殻		破片	1		
			サラサシロガイ	殻		破片	1		
			スガイ	蓋		略完	1		
			オカニヨウジガイ	殻		略完	1		
			パラママイマイ	殻		破片	2		
			腹足綱	殻		破片	0.66 g		
			イガイ科	殻	左	破片	16		
					右	破片	13		
			ナシマフジワボ	殻		破片	128		
						破片	1	○	
			アカフジワボ	殻		破片	7		
			フジツボ類	殻		破片	1		
			クロアナゴ亜科	腹椎		破片	1		
			ニシン科?	頭骨		破片	1		
			ニシン科?	尾椎		破片	1		
			ウルメイワシニア科	腹椎		破片	1		
			メバル亜科?	方骨	右	破片	1		
			アイナメ属	上舌骨	左	破片	1		
				上眼鏡骨	左	破片	1		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	1		
			アジ科	頸鱗		破片	1		
			タイ科	歯牙		破片	2		
			サバ属	尾椎		破片	1		
			魚類	歯牙		破片	1		
				尾椎		破片	1		
				椎骨		破片	6		
				結節等		破片	多數	0.71g	
				鱗		破片	1		
			不明			破片	0.66 g		
			ネズミ科	下顎骨	左	破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	0.91 g		
				尾椎			390.39 g		貝主体
51号	混貝土層	406.94	ウニ類	殻		破片	34		
				鰓		破片	57		
			スガイ	蓋		略完	1		
			タマキビ	殻		破片	2		
			オカニヨウジガイ	殻		略完	1		
			パラママイマイ	殻		破片	1		
			腹足綱	殻		破片	1.04 g		
			イガイ科	殻	左	破片	5		
					右	破片	3		
			マテガイ科	殻		破片	1		
			アサリ	殻		破片	1		
			ナシマフジワボ	殻		破片	337		
			アカフジワボ	殻		破片	13		
			フジツボ類	殻		破片	162		

表2 骨貝類同定結果（10）

番号	属の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
51号	混貝土層	406.94	ウルメイワシ亜科	腹椎		破片	1		
			ニシン亜科	第2椎骨		破片	1		
			ニシン科?	頭骨		破片	1		
			ニシン科?	尾椎		破片	1		
			アユ属	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	腹椎		破片	2		
			アイナメ属?	尾椎		破片	4		
			アイナメ属?	頭骨	右	破片	1		
			ウミタナゴ科	上舌骨	左	破片	1		
			腹椎			破片	1		
			ブリ属	尾椎		破片	1		
			アジ科	頭鰓		破片	1		
			アジ科?	角骨	左	破片	1		
			タイ科	尾椎		破片	1		
			タイ科	歯牙		破片	2		
			サバ属	角骨	左	破片	1		
			腹椎			破片	1		
			尾椎			破片	1		
			魚類	前上顎骨/歯骨		破片	1		
				後側頸骨?		破片	1		
				椎骨		破片	12		
				鱗鱗等		破片	多數		0.60g
				鱗		破片	1	○	
				不明		破片	3		
			小型軟類	指骨		破片	0.56 g		
			脊椎動物門	不明		破片	1		
			昆蟲				0.29 g		
							395.52 g		貝主体
52号	土層	355	ウニ類	中間骨		破片	3		
			殻			破片	155		
			腕			破片	多數		1.55g
			スガイ	蓋					
			鰐足綱	殻					
			イガイ科	殻	左	破片	12		
			ナシマフジワボ	殻	右	破片	10		
			アカフジワボ	殻		破片	8		
			フジワボ類	殻		破片	3		
			クロアナゴ亜科	尾椎		破片	1		
			クロアナゴ亜科?	尾椎		破片	1		
			ウルメイワシ亜科	腹椎		破片	18		
			ニシン亜科	第1椎骨		破片	1		
			ニシン科	腹椎		破片	22		
			ニシン科?	頭骨		破片	6		
			アユ属	尾椎		破片	25		
			タラ科	尾椎		破片	7		
			アイナメ属	主上顎骨	左	破片	4		
				方骨	左	破片	1		
				第2椎骨		破片	2		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	3		
				尾椎		破片	5		
			アイナメ属?	主上顎骨	左	破片	1		
				尾椎		破片	3		
			ブリ属?	尾椎		破片	1		
			アジ科	頭鰓		破片	1		
			アジ科?	腹椎		破片	2		
			タイ科	歯牙		破片	8		
			カマス属	腹椎		破片	1		
			サバ属	前上顎骨	左	破片	1		
				未上顎骨	右	破片	1		
				未上顎骨	左	破片	1		

表2 骨貝類同定結果(11)

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
52号 土層	355		サバ属	腹椎		破片	2		
				尾椎		破片	4		
			サバ属?	腹椎		破片	1		
			カツオ	尾椎		破片	1		
			カワハギ科	歯牙		破片	1		
				脊椎第1節		破片	4		
			カワハギ科?	尾椎		破片	1		
			魚類	副蝶形骨		破片	2		
				前上顎骨/歯骨		破片	3		
			鰐	歯骨		破片	2		
			角舌骨	歯骨		破片	1		
			咽頭骨	歯骨		破片	3		
			腹椎	歯骨		破片	5		
			尾椎	歯骨		破片	8		
			終尾椎	歯骨		破片	1		
			椎骨	歯骨		破片	37		
			棘輪等	歯骨		破片	多數	6.11g	
			鰓	歯骨		破片	34		
			不明	歯骨		破片	9.32 g		
			鳥類?	四肢骨?		破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	15.3 g		
			昆蟲				329.05 g	貝主体	
53号 泥質土層	40154		ウニ類	中間骨		破片	2		
				殻		破片	75		
				棘		破片	42		
			キクコザワ	殻		破片	1		
			スガイ	殻		破片	1		
			パラママイマイ	殻		破片	4		
			コハクガイ科	殻		破片	1		
			腹足類	殻		破片	0.92 g		
			イガイ科	殻	左	破片	10		
					右	破片	3		
			アホリ	殻		破片	1		
			サンマフジワボ	殻		破片	294		
			アカワジワボ	殻		破片	9		
			フジツボ類	殻		破片	125		
			ニシン科	腹椎		破片	3		
			ニシン特	頭骨		破片	1		
				尾椎		破片	4		
			カタクチイワシ科	腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	5		
			アイナメ属	尾椎		破片	1		
			アイナメ属?	尾椎		破片	1		
			アジ科	第1椎骨		破片	1		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	7		
			タイ科	歯牙		破片	4		
			ウミタナゴ科	角骨	左	破片	1		
			サバ属?	腹椎		破片	1		
			魚類	腹椎		破片	2		
				尾椎		破片	3		
				終尾椎		破片	1		
				椎骨		破片	8		
				棘輪等		破片	多數	0.50g	
			脊椎動物門	不明		破片	0.21 g		
			昆蟲				393.18 g	貝主体	
54号 泥質土層	39664		ウニ類	中間骨		破片	2		
				殻		破片	92		
				棘		破片	48		
			オカヒヨウジガレイ	殻		破片	1		
			オカヒヨウジガレイ?	殻		破片	1		
			腹足類	殻		破片	0.91 g		
			ムラサキインコ	殻	左	略完	1		

表2 骨貝類同定結果(12)

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
54号	混じ土層	396.64	イガイ科	殻	左	破片	10		
					右	破片	2		
			チシマフジツボ	殻		破片	143		
			アカフジツボ	殻		破片	5		
			フジツボ類	殻		破片	43		
			クロアナゴ東科	尾椎		破片	1		
			ウルメイワシ東科	腹椎		破片	4		
			ニシン東科	第1椎骨		破片	1		
				腹椎		破片	1		
			ニシン科	頭骨		破片	1		
				尾椎		破片	3		
			ニシン科?	尾椎		破片	1		
			アコ属	尾椎		破片	2		
			アイナメ属	主上顎骨	左	破片	1		
				上舌骨	左	破片	1		
				第1椎骨		破片	1		
				尾椎		破片	2		
			アジ科	腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	4		
			タイ科	歯牙		破片	3		
			ウミタナゴ科	腹椎		破片	4		
			カマス属	腹椎		破片	1		
			サバ属?	尾椎		破片	1		
			魚類	腹椎		破片	3		
				尾椎		破片	3		
				椎骨		破片	1		
				鰓鰓等		破片	多數	0.85g	
				不明		破片	0.24 g		
			脊椎動物門	不明		破片	0.29 g		
			昆蟲				388.22 g		貝主体
57号	混じ土層	412.07	ウニ類	殻		破片	37		
				輪		破片	51		
			サラサシロガイ	殻		略完	1		
			オカヒヨウジガイ	殻		略完	1		
			マイマイ類	殻		破片	2		
			腹足綱	殻		破片	1.04 g		
			ホネガイ	殻	右	略完	1		
			イガイ科	殻	左	破片	4		
			チシマフジツボ	殻		破片	311		
			アカフジツボ	殻		破片	14		
			フジツボ類	殻		破片	402		
			クロアナゴ東科	尾椎		破片	1		
			ニシン東科	腹椎		破片	1		
			ニシン科	尾椎		破片	2		
			アイナメ属	角骨	右	破片	1		
				尾椎		破片	1		
			アシ科	頸鱗		破片	1		
			魚類	角舌骨	左	破片	1		
				肩甲骨		破片	1		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	1		
				椎骨		破片	1		
				鰓鰓等		破片	多數	0.35g	
				不明		破片	0.15 g		
			脊椎動物門	不明		破片	0.39 g		
			昆蟲				400.72 g		貝主体
58号	混じ土層	372.3	ウニ類	中間骨		破片	8		
				殻		破片	144		
				輪		破片	115		
			キセルガイ科	殻		破片	1		
			パラママイマイ	殻		破片	3		
			腹足綱	殻	左	破片	0.88 g		
			イガイ科	殻	右	破片	15		
			二枚貝綱	殻	左	破片	24		

表2 骨貝類同定結果 (13)

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
58号	混貝土層	372.3	シマフジツボ	殻		破片	67		
			アカフジツボ	殻		破片	5		
			フジツボ類	殻		破片	58		
			ウルメイシナホ	腹椎		破片	7		
			ニシン亜科	第1椎骨		破片	1		
				腹椎		破片	9		
			ニシン科	頭骨		破片	2		
				尾椎		破片	23		
			ニシン科?	尾椎		破片	3		
			カタクチイワシ科	腹椎		破片	3		
				尾椎		破片	3		
			メバル亜科	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	頭上椎骨	左	破片	1		
				尾椎		破片	2		
			アイナメ属?	腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	2		
			タイ科	歯牙		破片	5+		
			ハゼ科?	歯骨	左	破片	1		
			サバ属	頭上椎骨	左	破片	1		
				腹椎		破片	1		
			サバ属?	尾椎		破片	1		
			カワハギ科	背椎第1輪		破片	1		
			魚類	歯牙		破片	1		
				頭頸骨		破片	2		
				腹椎		破片	2		
				尾椎		破片	1		
				椎骨		破片	12		
				鱗鱗等		破片	153		
				鰓		破片	2		
				不明		破片	0.73 g		
			ネズミ科	胸椎		破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	1.09 g		
			残度				361.86 g	貝主体	
61号	混貝土層	40654	ニニ類	中間骨		破片	10		
				殻		破片	150		
				鰓		破片	多枚	3.96g	
			カラシロガイ?	殻		破片	3		
			スガイ	蓋		略完	2		
			オガチョウジガガイ	殻		略完	1		
			腹足綱	蓋		破片	14 g		
			イガイ科	殻	左	破片	22		
					右	破片	19		
			シマフジツボ	殻		破片	78		
			アカフジツボ	殻		破片	1		
			フジツボ類	殻		破片	5		
			ウルメイシナホ	腹椎		破片	16		
			ニシン亜科	第1椎骨		破片	3		
				第1椎骨		破片	2		
				腹椎		破片	23		
			ニシン科?	第1椎骨		破片	1		
			ニシン科	尾椎		破片	23		
			ニシン科?	角骨	右	破片	1		
			カタクチイワシ科	腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	1		
			カタクチイワシ科?	腹椎		破片	1		
			アイナメ属	尾椎		破片	1		
			ブリ属	尾椎		破片	1		
			タイ科	歯牙		破片	1		
			カワス属	腹椎		破片	1		
			サバ属	腹椎		破片	5		
				尾椎		破片	5		
			サバ属?	腹椎		破片	2		
			カワハギ科	歯牙		破片	1		
			魚類	歯牙		破片	5		
				頭頸骨		破片	1		

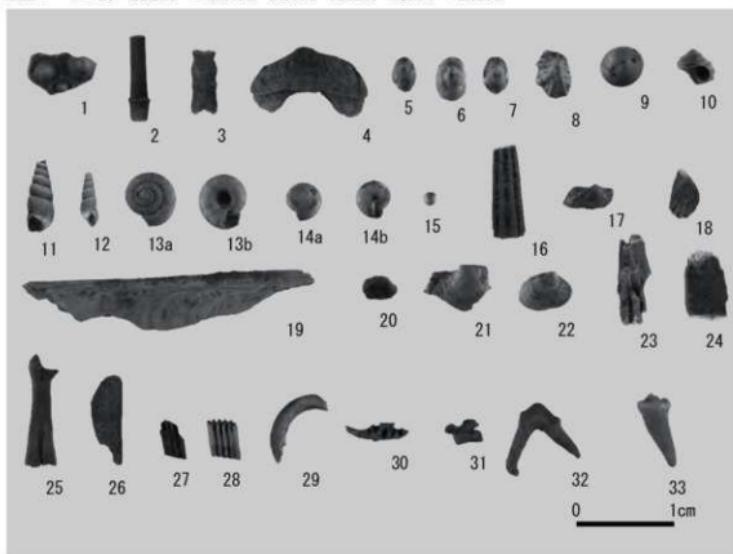
表2 骨貝類同定結果(14)

番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
61号	混じ土層	40654	魚類	腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	17		
				終尾椎		破片	4		
				椎骨		破片	12		
				鰓蓋等		破片	多數	118g	
				脳		破片	9		
				不明		破片	0.49 g		
			鳥類?	不明		破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	1.00 g		
			炭化材				4		
			残渣				392.66 g		貝主体
62号	混じ土層	26165	ウニ類	殻		破片	202		
				鰓		破片	51		
			スガイ	殻		破片	1		
			腹足綱	殻		破片	0.62 g		
			イガイ科	殻	左	破片	5		
					右	破片	3		
			チシマフジツボ	殻		破片	121		
			アカワジツボ	殻		破片	5		
			フジツボ類	殻		破片	170		
			ニシン科	尾椎		破片	2		
			フサカサゴ科?	尾椎		破片	1		
			アイナメ属?	腹椎		破片	1		
			ウミタナゴ科?	方骨	右	破片	1		
			魚類	椎骨		破片	7		
				鰓蓋等		破片	11		
			不明			破片	0.34 g		
			脊椎動物門	不明		破片	0.34 g		
			残渣				254.73 g		貝主体
64号	混じ土層	37104	ウニ類	中間骨		破片	2		
				殻		破片	137		
				鰓		破片	140		
			ヨメガカサ	殻		破片	1		
			ヒメコザウ?	殻		破片	1		
			サラサシロガイ	殻		破片	1		
			キクコザウ	殻		破片	1		
			スガイ	殻		略完	1		
			オカチヨウジガガイ	殻		略完	2		
			ヤカドリノガイ	殻		破片	1		
			腹足綱	殻		破片	1.32 g		
			イガイ科	殻	左	破片	12		
					右	破片	11		
			チシマフジツボ	殻		破片	300		
			アカワジツボ	殻		破片	11		
			フジツボ類	殻		破片	149		
			クロアナゴ科?	尾椎		破片	1		
			ウルメイワシ牽特	腹椎		破片	2		
			ニシン牽特	角骨	右	破片	1		
			ニシン牽特?	腹椎		破片	6		
			ニシン科	角骨	右	破片	1		
			カクチワイシ科	腹椎		破片	2		
			アユ属	尾椎		破片	1		
			アイナメ属	上主顎骨	右	破片	1		
				上舌骨	右	破片	1		
				尾椎		破片	3		
			アジ科	胸骨	右	破片	1		
				鰓鰓		破片	2		
			アジ科?	角舌骨	右	破片	1		
			ウミタナゴ科?	上擬鰓骨	左	破片	1		
			サバ属	尾椎		破片	1		
			魚類	終尾椎		破片	1		
				椎骨		破片	10		
				鰓蓋等		破片	157		
			不明			破片	0.53 g		

表2 骨貝類同定結果(15)

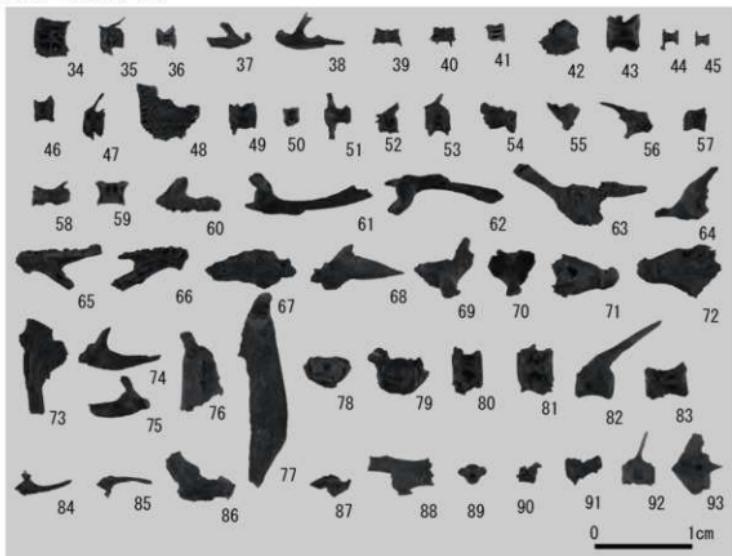
番号	層の状態	重量(g)	種類	部位	左右	部分	数量	被熱	備考
64号	混貝土層	371.04	小型殻類	脛椎		破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	0.72 g		
			残渣				357.99 g		貝主体
66号	混貝土層	308.6	ウニ類	中間骨		破片	2		
			股			破片	67		
			輪			破片	34		
			スザイ	蓋		確定	1		
			腹足類	股		破片	0.49 g		
			イガイ科	股	左	破片	17		
					右	破片	10		
						破片	2		
			ナシマフジツボ	股		破片	20		
			アカフジツボ	股		破片	4		
			ウルメイワシ牽科	腹椎		破片	4		
			ニシン牽科	角骨	右	破片	1		
				腹椎		破片	1		
			ニシン科	頭骨		破片	2		
				尾椎		破片	1		
			アイナメ属	方骨	右	破片	1		
				尾椎		破片	1		
			タケ科	歯牙		破片	1		
			ウミタナゴ科	腹椎		破片	1		
			サバ属	腹椎		破片	1		
			サハニ属	方骨	右	破片	1		
			カワハギ科	背鰭第1棘		破片	1		
			魚類	副離形骨		破片	2		
				咽頭骨?		破片	2		
				腹椎		破片	1		
				尾椎		破片	1		
				椎管		破片	4		
				椎棘等		破片	64		
				鰓		破片	6		
				不明		破片	0.33 g		
			小型殻類	脛椎		破片			
			脊椎動物門	不明		破片	1.85 g		
			炭化材				6		
			植物遺体				1		
			残渣				300.6 g		貝主体
67号	混貝土層	374.7	ウニ類	中間骨		破片	1		
			股			破片	60		
			輪			破片	34		
			ヒメコザワ?	股		破片	1		
			カラサシロガイ	股		破片	2		
			タマキビ?	股		破片	1		
			マイマイ類	股		破片	1		
			腹足類	股		破片	0.48 g		
			イガイ科	股	左	破片	8		
					右	破片	7		
			ナシマフジツボ	股		破片	101		
			アカフジツボ	股		破片	2		
			フジツボ類	股		破片	28		
			サヨリ属	腹椎		破片	1		
			タケ科	歯牙		破片	1		
			タケ科	歯牙		破片	1		
			ウミタナゴ科	角舌骨	右	破片	1		
			サバ属	方骨	左	破片	1		
				腹椎		破片	1		
			魚類	歯牙		破片	3		
				尾椎		破片	2		
				椎管		破片	3		
				椎棘等		破片	15		
				不明		破片	0.05 g		
			ハタネズミ牽科	上顎第1後臼歯	右	破片	1		
			脊椎動物門	不明		破片	0.7 g		
			残渣				368.08 g		貝主体

図版1 ウニ綱・腹足綱・二枚貝綱・頸脚綱・両生綱・鳥綱?・哺乳綱



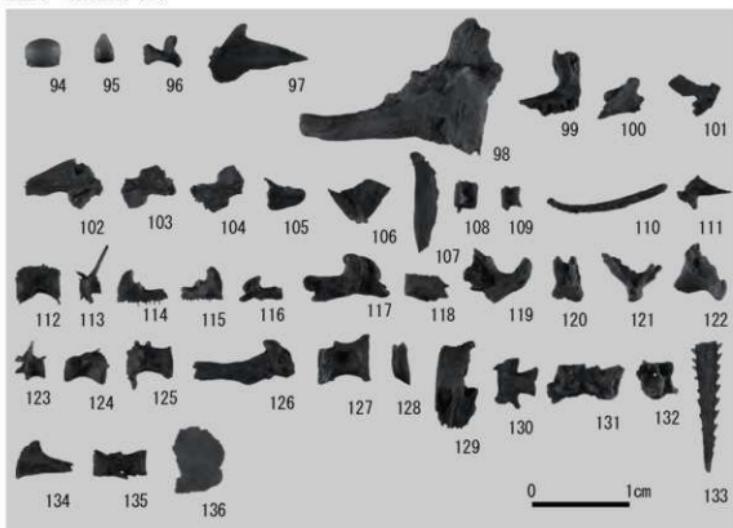
1. ウニ類殻(22層)
 3. ウニ類中間骨(22層)
 5. ヨメガカサ殻(64層)
 7. サラサシロガイ殻(21層)
 9. スガイ蓋(22層)
 11. キセルガイ科殻(58層)
 13. バツラマイマイ殻(40層)
 15. マイマイ類殻(57層)
 17. フネガイ右殻(57層)
 19. マテガイ科殻(51層)
 21. アサリ左殻(15層)
 23. チシマフジツボ殻(40層)
 25. カエル類右椎骨・尺骨(46層)
 27. ハタネズミ垂科右上顎第1後臼歯(67層)
 29. ネズミ科左上顎第1門歯(10層)
 31. ネズミ科胸椎(58層)
 33. イヌ科左下顎第3後臼歯(9層)
2. ウニ類棘(22層)
 4. ヒザラガイ類殻(33層)
 6. ヒメコザラ殻(41層)
 8. キクコザラ殻(64層)
 10. タマキビ殻(9層)
 12. オカチヨウジガイ殻(64層)
 14. コハクガイ科殻(53層)
 16. ヤカドツノガイ殻(64層)
 18. ムラサキインコ左殻(54層)
 20. ウネナシトマヤガイ右殻(33層)
 22. アサリ右殻(53層)
 24. アカフジツボ殻(40層)
 26. 鳥類?四肢骨?(52層)
 28. ハタネズミ垂科左下顎第1後臼歯(10層)
 30. ネズミ科左下顎骨(47層)
 32. イヌ科右下顎前臼歯(15層)

図版2 硬骨魚綱(1)



34. クロアナゴ亜科腹椎(47層)
 36. ウルメイワシ亜科腹椎(52層)
 38. ニシン亜科右角骨(37層)
 40. ニシン亜科第2椎骨(32層)
 42. ニシン科頭骨(52層)
 44. カタクチイワシ科腹椎(58層)
 46. アユ属?腹椎(46層)
 48. サケ属椎骨(32層)
 50. タラ科尾椎(52層)
 52. メバル亜科腹椎(40層)
 54. メバル亜科?右歯骨(33層)
 56. メバル亜科?右後頭側骨(40層)
 58. コチ科尾椎(46層)
 60. アイナメ属左上頭骨(33層)
 62. アイナメ属右上頭骨(28層)
 64. アイナメ属右口蓋骨(28層)
 66. アイナメ属?右歯骨(51層)
 68. アイナメ属右角骨(57層)
 70. アイナメ属右方骨(37層)
 72. アイナメ属右上舌骨(64層)
 74. アイナメ属右後頭側骨(32層)
 76. アイナメ属左上擬頸骨(47層)
 78. アイナメ属第1椎骨(21層)
 80. アイナメ属腹椎(22層)
 82. ブリ属腹椎(45層)
 84. アジ科左主上顎骨(28層)
 86. アジ科右歯骨(64層)
 88. アジ科?右角舌骨(64層)
 90. アジ科第2椎骨(33層)
 92. アジ科尾椎(28層)
35. クロアナゴ亜科尾椎(45層)
 37. ニシン亜科左角骨(32層)
 39. ニシン亜科第1椎骨(61層)
 41. ニシン亜科腹椎(52層)
 43. ニシン科尾椎(37層)
 45. カタクチイワシ科尾椎(53層)
 47. アユ属尾椎(54層)
 49. タラ科腹椎(46層)
 51. サヨリ属腹椎(28層)
 53. メバル亜科尾椎(28層)
 55. メバル亜科?右方骨(45層)
 57. フサカサゴ科尾椎(40層)
 59. コチ科第1椎骨(9層)
 61. アイナメ属左主上頸骨(52層)
 63. アイナメ属左口蓋骨(28層)
 65. アイナメ属左歯骨(21層)
 67. アイナメ属?左角骨(33層)
 69. アイナメ属左方骨(52層)
 71. アイナメ属左上舌骨(47層)
 73. アイナメ属右舌頸骨(37層)
 75. アイナメ属左後頭側骨(37層)
 77. アイナメ属?右上擬頸骨(41層)
 79. アイナメ属第2椎骨(28層)
 81. アイナメ属尾椎(33層)
 83. ブリ属尾椎(33層)
 85. アジ科右主上顎骨(33層)
 87. アジ科?左角骨(51層)
 89. アジ科第1椎骨(53層)
 91. アジ科腹椎(26層)
 93. アジ科椎臍(46層)

図版3 硬骨魚綱(2)



94. タイ科歯牙(32層)
 95. タイ科?右主上顎骨(15層)
 96. タイ科?左主上顎骨(37層)
 97. タイ科?右後頭側骨(41層)
 100. ウミタナゴ科左主上顎骨(41層)
 102. ウミタナゴ科左角骨(53層)
 104. ウミタナゴ科右角舌骨(67層)
 106. ウミタナゴ科右方骨(46層)
 108. ウミタナゴ科腹椎(51層)
 110. ハゼ科?左歯骨(58層)
 112. カマス属腹椎(52層)
 114. サバ属左前上顎骨(52層)
 116. サバ属左主上顎骨(52層)
 118. サバ属左歯骨(22層)
 120. サバ属?左方骨(67層)
 122. サバ属?右方骨(66層)
 124. サバ属?腹椎(61層)
 126. ソウダカツオ属右主上顎骨(40層)
 128. カワハギ科歯牙(61層)
 130. カワハギ科腹椎(28層)
 132. カワハギ科第1椎骨(37層)
 134. フグ科左前上顎骨(32層)
 136. 魚類鱗(9層)

95. タイ科歯牙(32層)
 97. タイ科?右角骨(22層)
 99. ウミタナゴ科右前上顎骨(28層)
 101. ウミタナゴ科右舌骨(67層)
 103. ウミタナゴ科右角舌骨(67層)
 105. ウミタナゴ科左上舌骨(51層)
 107. ウミタナゴ科左上擬鎖骨(26層)
 109. ウミタナゴ科尾椎(41層)
 111. ハゼ科?右角骨(40層)
 113. カマス属?尾椎(33層)
 115. サバ属右前上顎骨(52層)
 117. サバ属右主上顎骨(37層)
 119. サバ属左角骨(51層)
 121. サバ属左方骨(45層)
 123. サバ属第1椎骨(46層)
 125. サバ属尾椎(61層)
 127. カツオ属尾椎(52層)
 129. カワハギ科左前上顎骨(37層)
 131. カワハギ科?尾椎(32層)
 133. カワハギ科背鰭第1棘(10層)
 135. フグ科尾椎(37層)

IX 総括

1 出土遺物の検討

(1) 繩文土器

今回の発掘調査で、縩文土器は大コンテナ(40ℓ)32箱分出土した(土製品も含む)。このうち、約8割は遺構外のⅡ層とⅢ層から出土し、残りの2割は主に貝層から出土している。堅穴住居跡や土坑からも出土しているが、遺構の残りが悪いこともあり、出土量は少ない。

出土した土器の時期は、前期前葉(大木2a式)から中期末葉(大木10式)であり、そのうち、遺構外出土では前期中葉(大木3式)から中期初頭(大木7a式)が、また貝層出土では前期前葉(大木2b式)から前期中葉(大木4式)が多い。

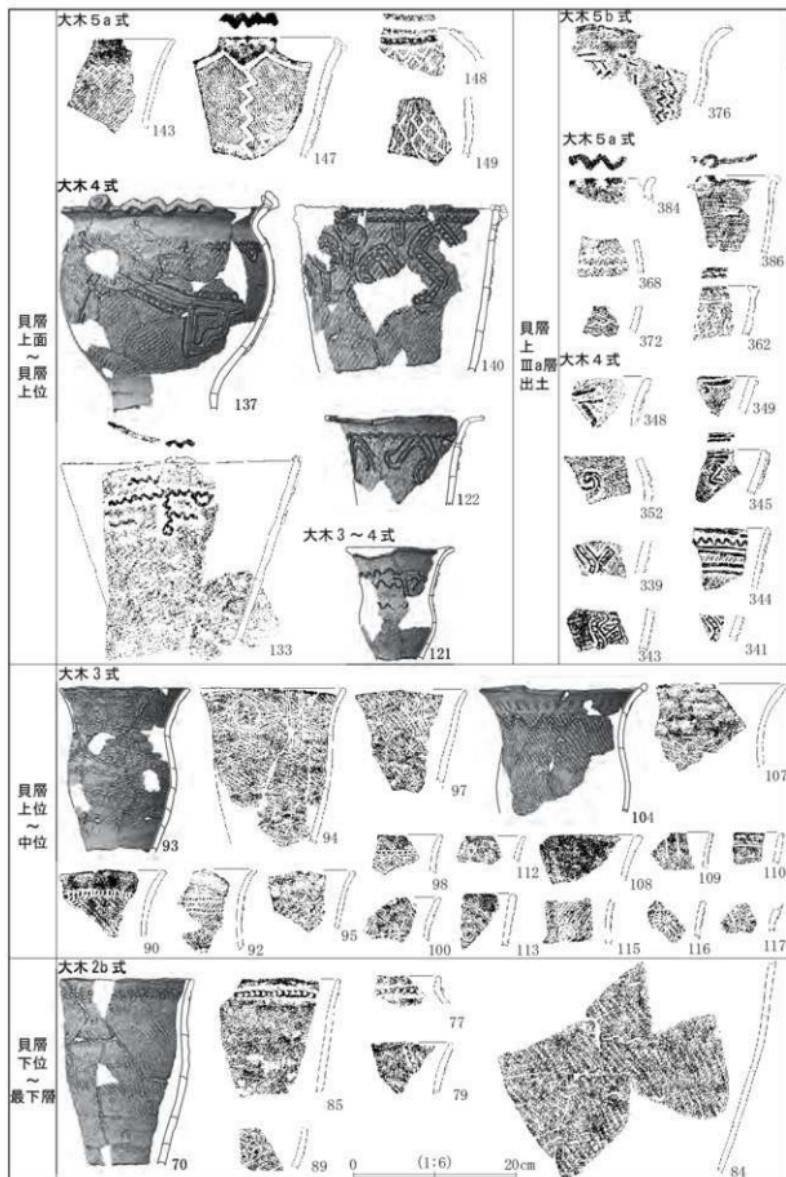
土器の出土状況をみると、まずⅡ層、Ⅲ層とともに、比較的急な斜面地に堆積しており、そのため遺物も斜面下方へと流出し溜まっているように見受けられた。したがって出土した土器は原位置をとどめていない可能性があり、そのためか、基本的にはⅢ層は前期中葉以降、Ⅱ層は中期以降の土器が含まれるもの、時期の異なる土器が多く見受けられた。

貝層は、最下層下のⅢb層中で十和田中振テフラ(To-Cu)を確認しており(第Ⅷ章-2)、その降下期以降が貝層形成の始まりと考える。また貝層の上面からは、大木4式と考える土器が多く出土しており(第53図)、したがって貝層の終わりは大木4式期頃であろうと推測する。このことから貝層は前期前葉から中葉の比較的短い期間に形成されたものであり、したがって貝層中に含まれる土器群に時期的なまとまりがあるものと考える。

第158図に、貝層から出土した土器について、層位を3段階(貝層上面～貝層上位、貝層上位～中位、貝層下位～最下層)に分け、各段階から時期的なまとまりと捉えられる土器を集成した。なお、堆積層の層上位、層下位の区分については、第29図に示した堆積層の新旧関係から推測した。

貝層下位～最下層からは、口縁部から胴部に施されるS字状連鎖沈文を特徴とする、大木2b式が出土している。ただし出土量は少ない。文様の特徴はS字状連鎖沈文の他に、口縁部に押引文や押圧文を加えた隆帯が付されるものが多い。また84は結節部の残る単節縄文を横位に転がし、多段化する文様である。口縁部が残存していないため、時期決定が難しい。87も同様である。これらは出土層位から大木2b式に含めたが、大木3式以降に下る可能性もある。70も同様で、S字状連鎖沈文が施文されず、口縁部に2段の押引文が巡る土器で、大木3式の可能性がある。

貝層上位～中位からは、平行沈線による文様を特徴とする、大木3式が多く出土している。ほとんどは破片であるが、器形が推測できるものも少なくない。いずれも深鉢で、器形は胴部上半が括れ、口縁部が外反するものが多い。地文(単節縄文)を施し、主に口縁部に平行沈線や鋸歯状文などを描いている。同じ器形で、無文の口縁部に継ぎの短沈線が巡るもの(104・108・109)も見受けられる。平行沈線は施文されないが、器形が共通するので、大木3式の一つと考える。また細かい刻みを加えた貼付隆帯が付く文様がある(90・92・116・117)。貼付隆帯は次時期である大木4式の特徴であるが、大木4式には、このような貼付隆帯に細かい刻みを施すものは見受けられない。層位によるまとまりからも、大木3式の範疇であろうと推測する。一方で、大木3式の特徴としてよく挙げられる、沈線による円文(112・115)は、平行沈線と比べて少ない。



第158図 繩文土器集成

なお、6号土坑から大木3式の特徴（沈線による円文）と大木4式の特徴（貼付隆帯による波状文）、両方が見受けられる土器（第25図41）が出土している。同様な文様を有する土器は隣接する峰岸遺跡にもあり（岩垣文2015）、大木3式から大木4式への移行期を考える上で貴重な資料と言える。

貝層上面—貝層上位からは、貼付隆帯による文様を特徴とする大木4式が多く出土しており、またさらに貝層上面からは、沈線による鋸歯状文を特徴とする大木5a式が出土している。なお貝層上位では、大木3式と大木4式とが混在しており、また器形は大木3式の特徴を有するものの、文様は貼付隆帯を施す、大木3式から大木4式への移行期に位置づけられる土器（121）も見受けられる。大木4式は深鉢のみであるが、器形は直線的に立ち上がるもの（133・140）、口縁部が大きく外へと屈曲するもの（122）、所謂「球胴形」のもの（137）が見受けられる。貼付隆帯は主に胴部上半に施文され、波状文、梯子繩文やハート形の曲線状文など様々な意匠の文様が描かれる。また細い貼付隆帯が主体であるが、幅広の貼付隆帯を追加する文様も見受けられる。137や140は貼付隆帯の他、口唇部に突起が付くが、これらの突起は大木5a式にも見受けられる（147）。本報告では貼付隆帯が付く土器は大木4式としたが、貼付隆帯は大木5a式にも残るという指摘もあり（早瀬2008）、したがって137・140は、大木5a式への移行期か、あるいは大木5a式の範疇の可能性もある。その大木5a式自体は、出土量は多くない。口縁部から胴部へと太い沈線による鋸歯状文を横位に1条（143）、または縦位に数条垂下させる文様（147～149）がある。そして口唇部に突起や刺突文が巡るもの（148）がある。

第158図右上には、貝層上に堆積するⅢa層から土土した土器を集成している。貝層の堆積土は一部、周辺のⅢa層に流出、混入したと考えるが、そのためか大木4式の破片が多い。これらの土器は本来、貝層に包含された土器であった可能性がある。またわずかだが、大木5b式（376）も見受けられるので、貝層の形成した後、続縦的にⅢa層が堆積したことが窺える。

以上、貝層から出土した土器について、層位ごとの土器群の特徴を概観した。ここで再度、貝層の時期について触れる。最下層から出土した大木2b式を根拠とすれば、この時期から貝層形成が始まった可能性もあるが、出土量が少なく、また大木3式への移行期に位置づけられる土器も少なくない。出土量が多いことから考えれば、貝層は、次時期の大木3式期から始まり、大木4式期まで続いたと推測する方が妥当と判断した。

（2）石器・石製品

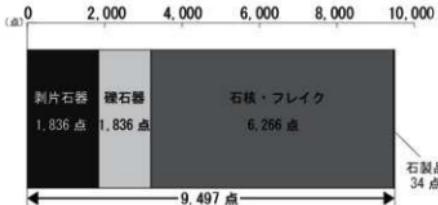
今回の発掘調査で、石器、石製品あわせて9497点出土している。これらは繩文土器と共に併せて出土しており、したがって時期は前期前葉から中期末葉までである。ただし層位ごとの出土点数は、I層466点（全体量の4.9%）、II層2,670点（28.2%）、III層2,465点（26.0%）、貝層2,956点（31.2%）、1号住居321点（3.4%）、土坑全体179点（1.9%）出土地点不明94点（1.0%）で、III層と貝層とで5割を超えており、出土量の半分以上は前期中葉から後葉頃に帰属すると推測する。

第159図には器種組成や石材組成、器種毎の分類などの属性をグラフや表で示している。なお、あくまで傾向を捉えることを目的としており、層位ごとではなく、全件数から算出している。

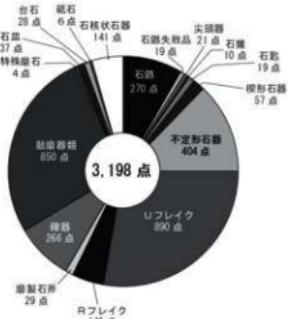
まず剥片石器、礫石器、石核・フレイク、石製品に分けた場合の内訳では、石核・フレイクが圧倒的に多く、全体の65%を超えている。これは遺跡内あるいはその周辺で、石器製作を行っていたことを裏付けると推測するが、県内における繩文時代の遺跡では、よく見られる傾向である。むしろ剥片石器と礫石器の点数が拮抗しているのが特徴である。石製品は少なく、主に貝層から出土している。

器種組成では、剥片石器は石錐、不定形石器、Uフレイクが多い。また礫石器は敲磨器類が最も多

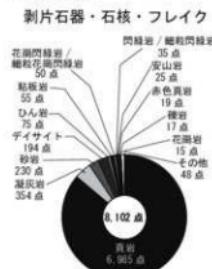
【出土点数の内訳】



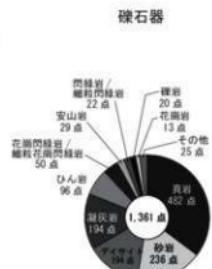
【剥片石器・砾石器の器種組成】



【石材組成】



※その他：斜長質砂岩 11 点・斑状花崗岩 8 点・斑状花崗岩 6 点・花崗岩 6 点・花崗斑岩 3 点・黑曜岩 3 点・3 鮫 2 点



※その他：斑紋岩 11 点・ホルンフェルス 6 点・斑状花崗岩 3 点・粘板岩 2 点・斑状花崗岩 1 点・斑岩 1 点・纈質砂岩 1 点

【器種別 分類点数】

石器					
分類	I 類	II 類	III 類	不明	失敗品
点数	50	92	59	69	19
尖頭器					
分類	I 類	II 類	III 類	不明	合計
点数	16	5	21		
石核					
分類	I 類	II 類	III 類	不明	合計
点数	8	3	6	2	19
楔形石器					
分類	I 類	II 類	III 類	不明	合計
点数	42	15	57		
不定形石器					
分類	I 類	II 類	III 類	IV 類	合計
点数	181	84	134	5	404

ユーズドフレイク（U フレイク）

分類	Ia 類	Ib 類	Ic 類	IIa 類	IIb 類	IIc 類	IIia 類	IIib 類	IIic 類	IVa 類	IVb 類	IVc 類	IVd 類	合計
点数	2	46	33	1	33	95	1	28	70	185	66	209	121	890

リタッched フレイク（R フレイク）

分類	Ia 類	Ib 類	Ic 類	IIa 類	IIb 類	IIc 類	IIia 類	IIib 類	IIic 類	IVa 類	IVb 類	IVc 類	IVd 類	合計
点数	6	21	17	1	17	34	2	11	33	1	0	3	0	146

礫器・石核状石器

分類	Ia 類	Ib 類	IIa 類	IIb 類	石核状石器	合計
点数	78	81	72	35	141	407

石皿・台石

分類	I 類	II 類	I 類	II 類	合計
点数	31	6	19	9	65

磨擦器・特殊磨石

分類	I 類	II 類	III 類	IV 類	V 類	VI 類	VII 類	VIII 類	特殊磨石	合計
点数	452	218	19	109	4	17	5	26	4	890

フレイク

分類	Ia 類	Ib 類	Ic 類	IIa 類	IIb 類	IIc 類	IIia 類	IIib 類	IIic 類	石核	合計
点数	42	293	344	27	273	827	21	220	555		
分類	Wa 類	Wb 類	Wc 類	Wd 類	合計					石核	
点数	494	457	671	1273	5764					98	

点数	0 ~ 2.25cm	2.26 ~ 4.00cm	4.01 ~ 6.25cm	6.26 ~ 9.00cm	9.01 ~ 12.50cm	12.51 ~ 16.00cm	16.01 ~ 20.25cm	20.26 ~ 25.00cm	25.01cm 以上	総計
Ia	6	8	35	33	35	64	36	90	304	
Ib	16	30	174	210	222	176	243	734	2062	
IIa	36	62	217	220	294	30	13	22	333	
IIb	6	16	12	15	16	16	16	16	54	177
IIc	4	33	54	190	216	268	278	641	1981	
IIia	162	260	468	655	540	644	576	324	770	4519
IIib	2	6	16	15	7	16	45	30	137	
IIic	20	84	155	162	203	144	270	587	1604	
IIid	112	141	369	457	496	319	318	216	1046	13181
IIie	16	32	120	119	36	41	53	141	303	
IIif	94	216	428	440	384	252	267	72	123	2234
IIig	114	186	344	440	576	546	592	531	735	4064
IIih	494	855	1727	995	732	427	208	72	90	5145
IIid	1062	2004	3604	4155	4014	3822	3352	2871	6240	31125

第159図 石器の分析

いが、一方で磨製石斧が極端に少ない。礫石器には、石核に類似するものの、剥離の状態などから石核とは考えられない石器があり、これを便宜的に「石核状石器」として一括した。そしてこの石核状石器の出土点数は141点を数え、決して少なくない。この石器の用途については不明であるが、縁辺に階段状剥離や敲打痕が見受けられることから、何等かに加撃するための石器ではないかと考える。

石材組成では、剥片石器・石核・フレイクは80%以上が頁岩である。花崗岩研究会の鑑定で、全て北上山地産の頁岩との結果を得ており、遠方ではなく遺跡の周辺の石材を利用していると推定する。ただし頁岩も細かく見ると、光沢のあるものと無いものがあり、採集場所は複数あったことが推測される。他に点数は少ないが砂岩や安山岩など、あまり剥片石器に適さない石材も利用されているのが特徴である。また黒曜石が5点出土しているが、北上川流域産であり（第Ⅶ章－3）、遠方から搬入されたものではなかった。礫石器では、頁岩が最も多いが、これは石核状石器（全て頁岩）が含まれるためと、礫器などにも多く利用されているためと考える。他は砂岩、ディサイト、凝灰岩などで、剥片石器同様に、遺跡周辺で採取される石材が利用されている。石製品では、玦状耳飾りは滑石に限定される。また軽石製品は十和田系の軽石であるが、これは三陸沿岸に漂着したものを利用したと推測する。

細分可能な器種について、各細分の出土点数を表で示した。石鏃は、本報告書に掲載したものはI類が多いが、全体でみると、最も少ない。掲載には欠損品をなるべく除いており、II・III類には欠損品が多かった。また失敗品は全体の7%に満たない。尖頭器は押出型ポイント（II類）が5点出土している。石匙はI類（縦型）が多く、またIII類にもI類に類似するものが多い。楔形石器はI類が多いのが特徴である。不定形石器はI類（削器に相当）が最も多く、またIII類とした、刃部の作出が粗いものも多い点が特徴である。また力持型スクレイパー（IV点）が5点出土している。Uフレイクは素材のフレイクを分類し、集計している。打面や正面の不明なIVa～IVd類に集中するのも、素材を加工した結果であり、妥当と言える。Rフレイクは剥離作業の進んだフレイク（II類・III類）が多い。礫器はIIb類を除いた3細分に大きな差がない。素材には自然礫かどうかではなく、大きさなどで選定されている可能性もある。敲磨器類はI類が多いが、これはよく見られる傾向である。それよりも敲打痕の残るII類やIV類が多いのが特徴であり、これらの敲磨器類や石核状石器、また礫器など加撃を目的とする石器が多い傾向がある。石皿・台石はどちらもI類が多く、手ごろな自然礫を、整形せず利用している。なお台石II類は9点を数える。棒状の形態で、おおよそ台石とは考えられないが、部分的に利用された痕跡があり、便宜的に台石としたが、一定量出土しているので、本遺跡では、定形化した台石と捉えるべきかもしれない。

159図下には、最も点数が多いフレイクについて、細分類ごとの点数と表面積ごとの点数を表で示した。分類基準となる打面や正面の残るものでは、IIc、IIIc、Ic類の順で多く、ある程度剥離作業の進んだフレイクが多いことが分かる。出土量の傾向は、IV類も含め、他の遺跡から出土したフレイクの出土量と比べても、大きな違いはない。表面積では6.26～9.0cm²（25cm四方）であり、それよりも大きくなると少しづつ数が減る傾向が見受けられるが、最も多いのが、25.01cm²（5.0cm四方）以上のもので、フレイクでもかなり大きいものが残存している。

（3）骨角牙製品・貝製品

貝層から骨角牙製品29点、貝製品29点が出土している。時期は貝層と同じ大木3～4式期に帰属する。大船渡湾岸には大洞貝塚や蛸の浦貝塚など大規模な貝塚遺跡が多く、それらの遺跡では数百点に及ぶ骨角牙製品が出土している。また大船渡湾岸ではないが、大船渡市宮野貝塚でも、表探まで含め

ると200点を超える骨角牙製品が見つかっている。したがってこれらの遺跡と比べると、内田貝塚の骨角牙製品の点数は比較的小少な方と言える。

骨角牙製品のうち、漁労具は釣針が見受けられ、ヤス状刺突具や鉛は出土していない。釣針は、形態の分かれる3点を図示したが、いずれも「し」状を呈す無銳釣針である。ただし大きさはそれぞれ異なるので、釣る対象となる魚類が違うのかもしれない。利器では骨針、骨箆と刺突具がある。いずれもシカの角や尺骨を素材として製作されている。骨針は基部に穿孔が見受けられる。装身具では、鹿角製垂飾品、櫛、牙製垂飾品がある。櫛は体部の一部と歯齒の一部以外は残存しており、他の遺跡から出土している同遺物と比べて、残りが良い方と言える。体部は、端部には玉状の整形と浅い沈線を、また歯齒との境には隆帯を模した整形を施している。歯齒は5本で、3本が残存、残りは先端部のみである。裏側には2箇所の円孔（未貫通）があるが実用か装飾かは不明である。素材はおそらくシカの中手骨か中足骨ではないかと考えている。類似する資料は宮城県大木開貝塚西貝層で、大木1~3式の櫛がある。県内出土の櫛のなかでは、最も古いものの一つで、貴重な資料と言える。牙製垂飾品は、1点はイスの犬歯、もう1点はキツネの後臼歯を素材とし、付け根側に1箇所ずつ穿孔されている。宮野貝塚で前期後葉に帰属する、イノシシの犬歯の垂飾品が壮年女性の人骨に伴い出土したことは有名であるが、今回出土した2点が同様なものかは不明である。

用途不明な装身具（？）として「列点文装飾品」としたものがある。形態などが類似する事例は、県内では見受けられないが、表面に細かい列点を施すものは、北海道虎丈浜遺跡の前期後葉の骨角牙製品など、他県にいくつか類例がある。

貝製品は、装身具は、貝輪7点、管状のツノガイ製品21点で、また用途は不明だが、タカラガイ製品1点がある。貝輪はベンケイガイ、管状のツノガイ製品はヤカドツノガイ、タカラガイ製品はメダカラガイを素材とする。いずれも三陸海岸や青森県沿岸で採取できるようであるが、貴重種であることに変わりない。

(4) 動物遺存体

貝類

貝層から出土した貝類のうち、4mmないし2mmの篩で採集したものは、肉眼で可能な限り種類を同定し、その数を集計した。その結果、堆積層68層分で、総計86,417点の貝類を分類、集計した。

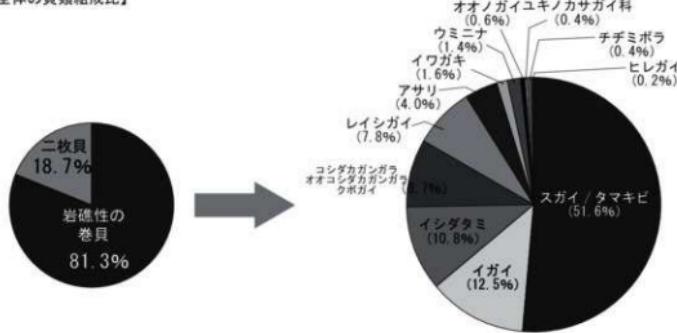
第160図上には、分類した貝類の組成を円グラフで示している。まず岩礁性の巻貝がそのほとんどであり、二枚貝は非常に少ない（第160図左上）。種類別にみると（第160右上）、スガイ・タマキビ（ほとんどがスガイ）が全体の半数以上を占めている。その次に多いのはイガイで、イシダタミ、クボガイ・コシダカガンガラ・オオコシダカガンガラが次ぐ。

混貝土層と判断した層について、層ごとの貝類組成を棒グラフで示した（第160・161図）。なおグラフの左に集計した貝類の点数を記したが、層によっては100点以下もある。これは混貝土層と判断した層には、細かい破碎貝が主体となる層もあり（特に下位から最下層に多い）、そのような層は同定できた貝類の点数が少なくなっている。

層別の貝類組成では、ほとんどの層でスガイが30~50%、あるいはそれ以上を占めており、貝類全体の組成を裏付けている。またスガイが少ないとところはイガイが多い（22・27・34層）。イシダタミやクボガイ、レイシガイは62層で多いが、その他の層では突出せず、ほぼ10%前後見受けられる。アサリは全体的に少ないが、層上位の方が、わずかであるが多い傾向が見受けられる。

松崎哲也氏は、松島湾沿岸から三陸沿岸に立地する前期貝塚では、スガイやイガイなどの岩礁性

【貝層全体の貝類組成比】



【堆積層（混貝土層）別 貝類組成比 1】

2層 (360点)	スガイ 77%	レイシガイ	アサリ	その他
3層 (100点)	スガイ 91%			アサリ(2.7%)
5層 (1396点)	スガイ 32%	イシダタミ	アサリ 37%	その他 13%
6層 (901点)	スガイ 57%	レイシガイ	アサリ 24%	その他
8層 (558点)	スガイ 70%	レイシガイ	イシダタミ	その他 10%
9層 (625点)	スガイ 30%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ
10層 (561点)	スガイ 47%	イシダタミ	クボガイ	アサリ 18%
11層 (67点)	スガイ 72%			レイシガイ
15層 (95点)	スガイ 25%	アサリ 16%		その他 59%
17層 (56点)	スガイ 59%		イシダタミ	イカガイ
18層 (45点)	スガイ 56%	レイシガイ	アサリ	その他 13%
19層 (66点)	スガイ 48%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ
20層 (110点)	スガイ 69%		クボガイ	レイシガイ
21層 (448点)	スガイ 24%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ 16%
22層 (3157点)	スガイ 19%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ
24層 (162点)	スガイ 21%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ 14%
27層 (601点)	スガイ 29%			イガイ 63%
28層 (1165点)	スガイ 31%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ 27%
33層 (1909点)	スガイ 47%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ 22%
34層 (44点)	スガイ 39%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ
36層 (1070点)	スガイ 63%		クボガイ	レイシガイ
38層 (644点)	スガイ 31%		クボガイ	レイシガイ 27%
39層 (124点)	スガイ 59%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ 22%
40層 (1572点)	スガイ 35%		クボガイ	レイシガイ
41層 (3933点)	スガイ 30%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ 29%
42層 (540点)	スガイ 30%	イシダタミ 16%	クボガイ	レイシガイ 16%
43層 (2251点)	スガイ 67%		クボガイ	レイシガイ 20%
45層 (1387点)	スガイ 82%			アサリ 14%
46層 (3834点)	スガイ 60%			アサリ 14%
47層 (2646点)	スガイ 56%		クボガイ 15%	アサリ 14%
49層 (949点)	スガイ 32%	イシダタミ	クボガイ	レイシガイ 32%
50層 (1424点)	スガイ 80%			アサリ 14%

第160図 貝類の分析1

【堆積層（混貝土層）別 貝類組成比 2】

51層 (3254点)	スガイ 55%	イシダタミ 17%	クボガイ レイシガイ 7.8-7.9% イシダタミ 1.6%
53層 (1606点)	スガイ 47%	イシダタミ 16%	クボガイ レイシガイ 7.8-7.9% イシダタミ 1.6%
54層 (1269点)	スガイ 45%	イシダタミ 16%	クボガイ レイシガイ 7.8-7.9% イシダタミ 1.6%
55層 (285点)	スガイ 53%	イシダタミ 16%	クボガイ レイシガイ 7.8-7.9% イシダタミ 1.6%
58層 (1643点)	スガイ 49%	イシダタミ 17%	クボガイ レイシガイ 7.8-7.9% イシダタミ 1.6%
59層 (2409点)	スガイ 53%	イシダタミ 17%	クボガイ 18% イシダタミ 1.6%
61層 (2814点)	スガイ 71%	イシダタミ 17%	クボガイ 18% イシダタミ 1.6%
62層 (263点)	スガイ 30%	クボガイ 23%	レイシガイ 26% イシダタミ 1.6%
64層 (585点)	スガイ 43%	イシダタミ 19%	クボガイ 17% イシダタミ 1.6%
65層 (1446点)	スガイ 50%	イシダタミ 20%	クボガイ レイシガイ 7.8-7.9% イシダタミ 1.6%
66層 (670点)	スガイ 52%	イシダタミ 17%	クボガイ イガイ 23% イシダタミ 1.6%
67層 (2134点)	スガイ 34%	イシダタミ 28%	クボガイ イガイ 22% イシダタミ 1.6%
68層 (39点)	スガイ 74%		イシダタミ イガイ クボガイ イシダタミ 1.6% 1.6% 1.6%

第161図 貝類の分析2

の貝類が、貝組成の主体となる傾向が強く見られ、それが中期中葉まで続くと指摘している（松崎2016）。内田貝塚における貝類の組成は、その指摘に合致する。

魚・獸骨

貝層およびその周辺から出土した魚・獸骨で、4mmないし2mmの範で採集できたものを、肉眼で可能な限り種類を同定した。第10表、第12表にはその結果を点数とともに記しているが、点数はあくまで骨の点数であり、個体数は算出していない。以下、同定できた種類について記す。

魚類

魚・獸骨の出土量からは、魚類の占める割合は非常に大きく、見つかった魚類の種類も豊富である。大型の回遊性魚類（マグロ属、カツオ、ブリ）、回遊性魚類（アジ、タイ科、ソウダガツオ属、サバ属、ウルメイワシ科、カタクチイワシ科、ニシン亞科、タラ、フグ科、ウマヅラハギ、板鰓亜綱）、定住性魚類（スズキ、アイナメ、カワハギ科、フサカサゴ科、ウミタナゴ科、メバル、カマス、クロアナゴ亞科、ヒラメ、コチ科）、河川を遡上する魚類（ボラ科、サケ属、アユ属）、淡水魚（コイ科）を確認した。出土量を椎骨の数で比べてみると、マグロ属が最も多く、例えば堆積層1層からは114個の椎骨が出土している。これにタイ科、カツオが続き、またスズキ、アイナメも少なくない。同じ大船渡湾岸に立地する清水貝塚は、内田貝塚と同時期の貝塚遺跡であるが、出土した魚類の組成は内田貝塚と共に通じており（松崎2017）、これらの魚類は前期における大船渡湾の特徴といえる。

海棲哺乳類

イルカ、アシカ、またクジラ目を確認した。イルカは椎骨が1・9・32層で多く出土しており、また32層からは前頭骨の大きな破片も見つかった。大船渡湾は近年までイルカ漁が盛んであり、湾内に来遊したイルカを追い込み漁で捕っていた（中村2017）。縄文時代でも同様な漁法で、盛んに捕られていたのではないかと推測する。アシカの骨は、量は多くないが、1層から椎骨が出土している。椎骨は青森県田小屋野貝塚などでも出土しているが、食用ではなく、別の用途があるのでないかと推測する。

陸棲哺乳類

魚類と比べると少なく、また種類も、シカ（ニホンジカ含む）、イノシシ、イヌ、それにタヌキ・イタチ・

ノウサギなどの小型哺乳類が確認できたのみである。そのなかでシカ、イノシシの骨が多く、特に頭骨や手足の骨が多い傾向が見受けられた。またそれらのほとんどは5~10cm程度の破片であり、骨には解体痕が残るものが目立つ（写真図版89）ので、人為的に割られたものと推測する。当然、食用と考えられるが、今回出土した骨角牙製品のほとんどは、素材がシカの骨、角であり、道具製作のためにも捕獲されて解体されたことが考えられる。イヌや小型哺乳類については、出土した骨もわずかであり、食用か別の用途があるか、定かではない。

鳥類

陸棲哺乳類よりも少なく、種類はキジ科とウのみ確認した。骨の部位では手根中手骨が多い。食用を考えるが、魚類や陸棲哺乳類と比べると、積極的に捕らえられていなかったと推測する。

2 貝層からの検討

（1）貝層の季節性

第162図は、貝層から出土した貝・骨から、利用された貝類、動物について、主要なものを列挙し、またそれらの大船渡湾岸での出現時期を推測した。出現時期については、根拠は第162図下に記したが、あくまでもこれらを参考に担当調査員が推測したものである。

貝類では、最も多かった岩礁性の巻貝（スガイ・イシダタミ・クボガイなど）や二枚貝（イガイ・アサリ）などは年間通じて採取できることが想定される。一方、エゾアワビ・イワガキは冬にピークがあり、またウニ類は夏が多い。

魚類では、回遊魚の多くは、春（4~5月）に来遊し、冬が訪れる（10月）と湾を離れるものが多い。定住性の魚類は、年間通して生息するが、松島湾などの出現時期を参考にすると、5月以降に増ええる魚類が多いと推測する。

イルカについては、旧赤崎村に残る江戸時代の記録（『蛸ノ浦・志田良子文書』）から出現時期を推測した。また特に現在の暦で6月にイルカの来遊が多いという指摘がある（中村2017）。

陸棲哺乳類や鳥類については、ツキノワグマ以外は冬眠しない動物であり、したがって年間通して生息することが考えられる。

以上のようにみていくと、陸棲哺乳類や鳥類は一年通して、本遺跡周辺で捕獲できるものの、魚類、特に回遊魚には出現する時期があり、それは5月から9月頃が多い。したがってこの時期が内田貝塚の貝層が最も利用された時期（第162図 太枠）ではないかと推測する。ただし、定住性魚類では秋から春先にかけて盛んに漁獲されるものがあり、またイワガキやエゾアワビのように冬にシーズンを迎えるものもあるので、必ずしもこの時期のみとは限らないと考える。

なお多く出土しているスガイなどの小型の巻貝は、主食とするには小さい。この点については、貝層と遺構外から出土した縄文土器8点を対象に、表面に付着した炭化物で年代測定を行った結果、貝層出土と遺構外Ⅲ層出土の土器は全て海洋リザーブ効果が見受けられた（第7章-1）。したがって前期前葉から中葉の土器については、魚介類を煮込むための道具（鍋）として使われたと推測でき、巻貝は魚類とともに煮込まれ食されたのではないかと推測する。

（2）貝層の位置づけ

貝層の周辺からは、用途の不明な土坑のみが分布し、竪穴住居跡は見つかなかった。したがって貝層と、それを利用した縄文人が営んだ集落との関係性は不明である。強いて住居群の位置を推測す

るならば、貝層周辺の地形からみて（第10図）、調査区の西側の緩斜面地は可能性がある。あるいは、貝層の形成する時期が比較的短い点、また同じ丘陵でいまだ住居群や他に集落が確認されていない点から、貝層周辺に集落ではなく、内田貝塚には貝層のみを利用するために縄文人が訪れていた可能性も考えるべきかもしれない。

貝類		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スガイ		岩礁域											③
イシダタミ		岩礁域											③
クボガイ / コシカガニガラ		岩礁域											③
イガイ		岩礁域											③
アサリ		砂底											③
イワガキ / マガキ		岩礁域											①
エゾアワビ		岩礁域											①
ウニ類		砂底											①
魚類		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
マグロ属		外洋～沿岸											①
カツオ		外洋～沿岸											①
ブリ		外洋～沿岸											①
板鰓亜綱		外洋～沿岸											③
アジ		外洋～沿岸											④
マダイ / タイ科		外洋～岩礁											③
ソウダガツオ属		外洋～沿岸											④
サバ属		外洋～沿岸											①
ウルメイワシ科		外洋～沿岸											①
カタクチイワシ科		外洋～沿岸											③
ニシン亜科		外洋～沿岸											②
タラ		沿岸											②
マフグ / フグ科		沿岸											③
ウマヅラハギ		沿岸											③
スズキ		沿岸（岩礁）											③
アイナメ		沿岸（岩礁）											①
カワハギ科		沿岸（岩礁）											④
フサカサゴ科		沿岸（岩礁）											③
ウミタナゴ科		沿岸（岩礁）											④
メバル		沿岸（岩礁）											④
カマス		沿岸（岩礁）											④
クロアナゴ亜科		沿岸（砂底）											②
ヒラメ		沿岸（砂底）											④
コチ科		沿岸（砂底）											③
ボラ科		外洋～河川											③
サケ属		外洋～河川											②
アユ属		外洋～河川											④
コイ科		河川（湖畔）											④
海棲哺乳類		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
イルカ類		外洋											⑤
アシカ		沿岸（岩礁）											
陸棲哺乳類		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シカ / ニホンジカ		山間部											
イノシシ		山間部											
鳥類		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キジ科		山間部											
ウ?		山間部											

①—大船渡市役所HPに掲載されている。大船渡市の魚の水揚げ時期を基に推測した。

②—気仙沼市 1992『『魚の水揚げ時期』、気仙沼市魚市場にて水揚げされる魚類』を基に推測した。

③—東北歴史資料館 1982『『東北魚類図鑑』』を基に推測した。

④—田中亮・落合明 1996『新編魚類学(下)』を基に推測した。

⑤—中村幸一郎 2010『イルカと日本人』を基に推測した。

第162図 各種動物の季節性

参考文献

- 会田容弘2007『松島湾の縄文カレンダー』(シリーズ「遺跡を学ぶ」)
- 相原淳一1990「東北地方における縄文時代早期後葉から前期前葉にかけての土器編年」(『考古学雑誌』第76巻1号)
- 阿部芳郎編2018『霞ヶ浦の貝塚と社会』(雄山閣)
- 一戸町教育委員会2015『御所野遺跡V』(一戸町文化財調査報告書70集)
- 岩手県教育委員会1998『岩手の貝塚』(岩手県文化財調査報告書第102集)
- 岩手県文化財愛護協会1979『大船渡市清水貝塚発掘調査概報』
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 2004『長谷堂貝塚発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第434集)
 - 2008『力持遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第510集)
 - 2015『峰岸遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第637集)
 - 2017『クケ井遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第667集)
 - 2018『浜川田沢田I遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第689集)
- 大船渡市教育委員会1958『岩手県大船渡市清水貝塚』
- 2000『大洞貝塚』
- 大船渡市立博物館1987『岩手県大船渡市境の浦貝塚』
- 1991『気仙の遺跡－大船渡市・三陸町の各遺跡の出土品』
- 奥谷喬司2006『日本の貝』1・『日本の貝』2(学研)
- 奥谷喬司編2000『日本近海産貝類図鑑』(東海大学出版会)
- 忍澤成視2011『貝の考古学』(同文社)
- 落合 明・田中 克1986『新版 魚類学(下)』(恒星社厚生閣)
- 鎌田祐二1994『三陸北部の骨角器』(『考古学ジャーナル』No.383)
- 興野義一1967・1968・1969・1970『大木式土器理解のために(I)～(IV)』
〔考古学ジャーナル〕No.13・16・18・24・32・48
- 佐藤孝雄・吉田彩乃2015『縄文時代におけるマグロ属の利用』(『史学』第85巻 第1・3号)
- 佐藤正彦・熊谷 賢1994『岩手県南部の骨角器』(『考古学ジャーナル』No.383)
- 鈴木道之助1991『石器入門事典－縄文』(柏書房)
- 東北歴史資料館1982・1983・1984『里浜貝塚I・II・III』(東北歴史資料館資料集5・7・9)
- 戸羽親雄2009『岩手の海産貝類』
- 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所2014『小竹貝塚発掘調査報告』
〔富山県文化振興財团 埋蔵文化財発掘調査報告第60集〕
- 中村洋一郎2017『イルカと日本人 追い込み漁の歴史と民俗』(吉川弘文館)
- 日本考古学協会2016『第一分科会 津軽海峡圏の縄文文化研究報告資料集』
- 松崎哲也2016「東北地方における縄文時代前半期の貝類組成とその変遷」『動物考古学』第33号(日本動物考古学会)
- 2017『動物資源利用からみた三陸地方南部の縄文時代前・中期の生業形態』『宮城考古学』第19号
- 宮城県教育委員会1986『田柄貝塚』(宮城県文化財調査報告書第111集)
- 早瀬亮介2008『前期大木式土器』[『奈良縄文文土器』]
- 早瀬亮介2009『前期大木式土器の変遷と地域性－編年研究の現状と課題－』[『日本考古学協会2009年度山形大会研究発表資料集』]
- 早瀬亮介・菅野智則・須藤隆2006『東北大文学研究科考古学陳列館所蔵大木貝塚出土基準資料－山内清男編年基準資料－』
〔Bullentin of Tohoku University Museum〕5)
- 福田友之1999「北の道・南の道」「海を渡った縄文人 縄文時代の交流と交易」
- 町田賢一2018「日本海側最大級の縄文貝塚 小竹貝塚」(シリーズ「遺跡を学ぶ」)
- 山内清男1979『日本先史土器の縄文』
- 山形県教育委員会1990『押出遺跡発掘調査報告書』(山形県埋蔵文化財調査報告書第150集)
- 陸前高田市教育委員会1999『中沢浜貝塚1997』(陸前高田市文化財調査報告書第20集)
- 陸前高田市教育委員会2001『中沢浜貝塚発掘調査報告書・瀬賀貝塚発掘調査報告書』(陸前高田市文化財調査報告書第23集)

写 真 図 版



調査区全景 1（北側斜面未調査・東から）



調査区全景 2（南側一部埋め戻し済み・東から）

写真図版 1 調査区全景



調査区北側全景（東から）



調査区南側全景（南東から）

写真図版2 調査区全景



基本土層③・④（東から）



基本土層①（南東から）



基本土層⑤（西から）

写真図版3 基本土層



1号住居跡
全景（南東から）



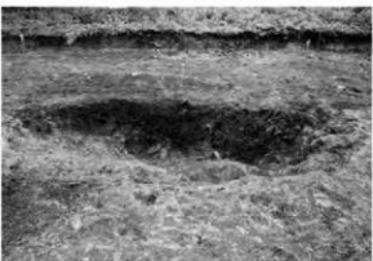
1号住居跡
断面A-A' (東から)



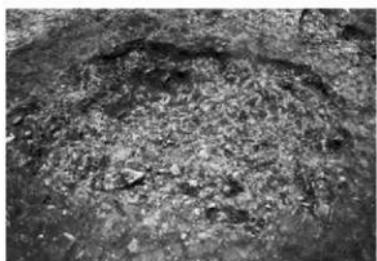
1号住居跡
土器出土状況（北東から）



1号土坑 全景（北から）



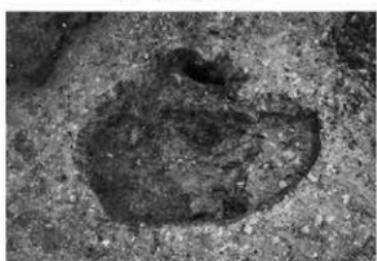
1号土坑 断面（東から）



2号土坑 全景（西から）



2号土坑 断面（東から）



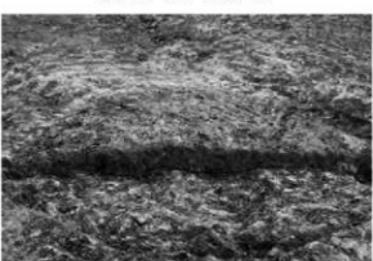
3号土坑 全景（東から）



3号土坑 断面（北東から）

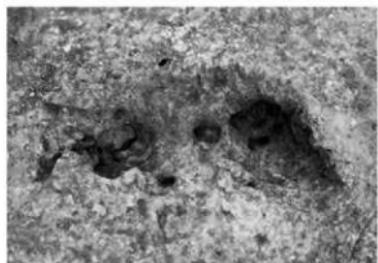


4号土坑 全景（南西から）



4号土坑 断面（北東から）

写真図版5 1～4号土坑



5号土坑 全景（南東から）



5号土坑 断面（南から）



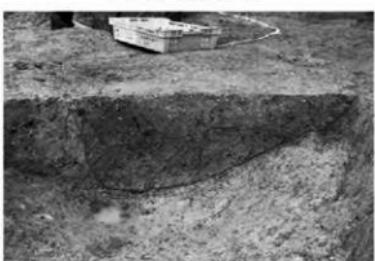
6号土坑 全景（東から）



6号土坑 断面（東から）



7号土坑 全景（南東から）



7号土坑 断面（北東から）



8号土坑 全景（南から）



8号土坑 断面（南から）

写真図版6 5～8号土坑



9号土坑 全景（東から）



9号土坑 断面（東から）



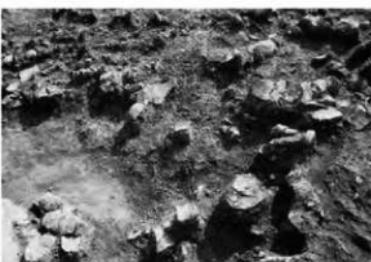
IC3eグリッド IIb層 繩文土器



IB7gグリッド IIIa層 繩文土器



貝層上面 繩文土器 1



貝層上面 繩文土器 2

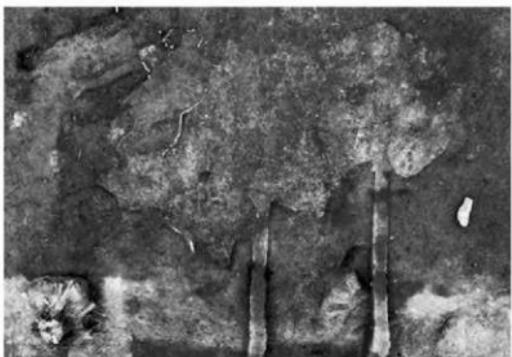


貝層上面 魚骨



IB7hグリッド IIIa層 獣骨

写真図版 7 9号土坑・遺構外出土遺物



貝層全景（直上　写真下が東）



貝層上面
遺物出土状況（北東から）



貝層全景（北から）



貝層断面A-A' (南から)



貝層断面B-B' (南から)



貝層断面B-B'
49・52・57層出土アップ (南から)

写真図版9 貝層2



1層 検出状況（東から）



1層 貝殻・魚骨出土状況（北から）



1層 アシカ上腕骨出土状況（東から）



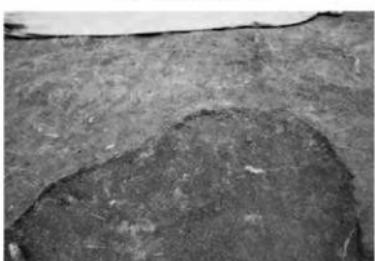
2層 検出状況（東から）



3層 検出状況（東から）



4層 検出状況（東から）



5層 検出状況（東から）



5層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



6層 検出状況（東から）



6層 土器出土状況（東から）



7層 検出状況（東から）



8層 検出状況（東から）



9層 検出状況（東から）



10層 検出状況（東から）

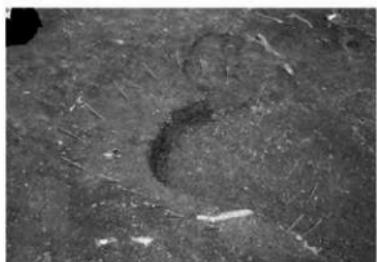


11層 検出状況（東から）

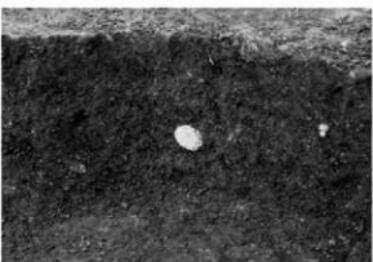


12層 検出状況（東から）

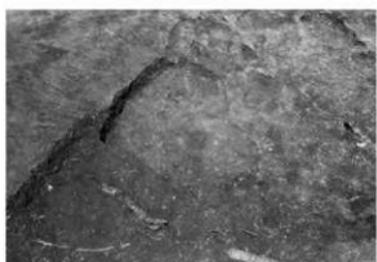
写真図版11 貝層4



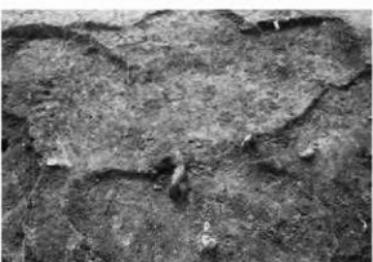
13層 検出状況（東から）



13層 貝出土状況（北西から）



14層 検出状況（東から）



15層 検出状況（東から）



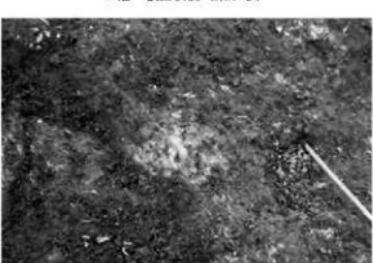
16層 検出状況（東から）



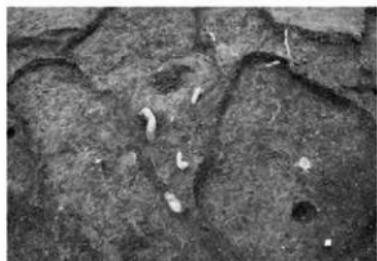
17層 検出状況（東から）



18層 検出状況（東から）



18層 層下 火山灰状況（南から）



19層 検出状況（東から）



20層 検出状況（東から）



21層 検出状況（東から）



21層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



22層 検出状況（東から）



22層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



23層 検出状況（東から）

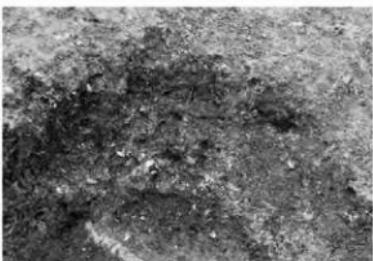


23層 貝（破碎貝）出土状況（東から）

写真図版13 貝層6



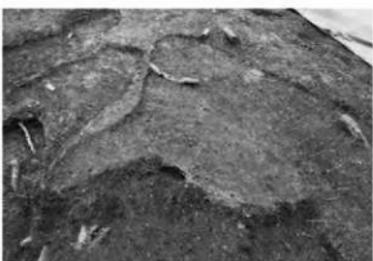
24層 検出状況（東から）



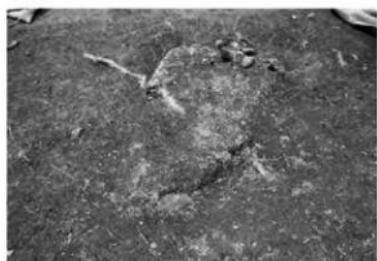
24層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



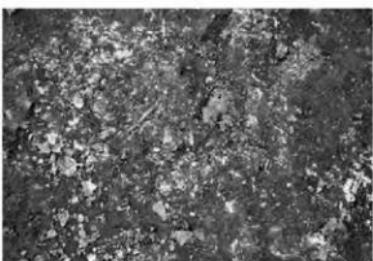
25層 検出状況（東から）



26層 検出状況（東から）



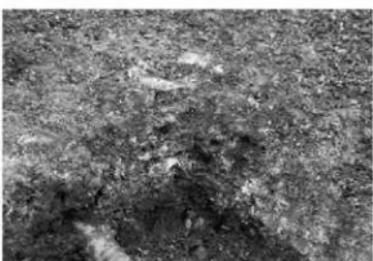
27層 検出状況（東から）



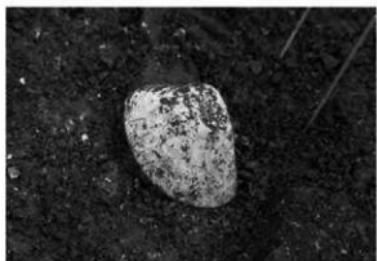
27層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



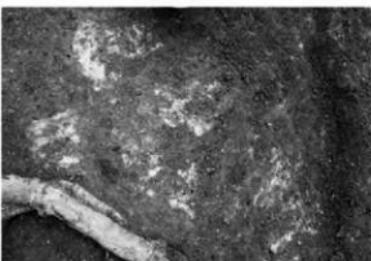
28層 検出状況（東から）



28層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



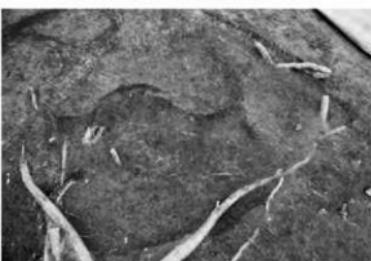
28層 貝出土状況（南東から）



28層 層下 火山灰棲出状況（南東から）



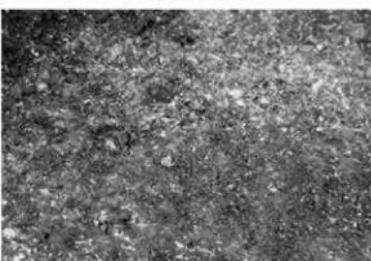
29層 検出状況（東から）



30層 検出状況（東から）



31層 検出状況（東から）



31層 貝（破砕貝）出土状況（南から）



32層 検出状況（東から）

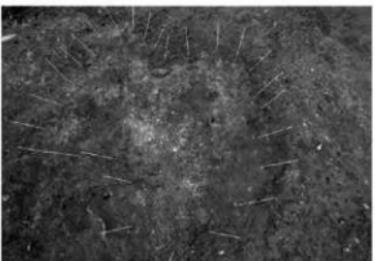


32層 魚骨・獸骨出土状況（東から）

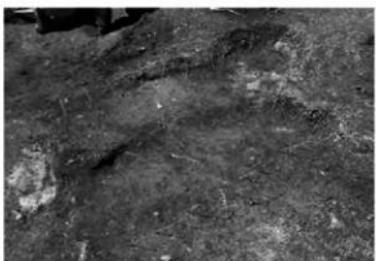
写真図版15 貝層8



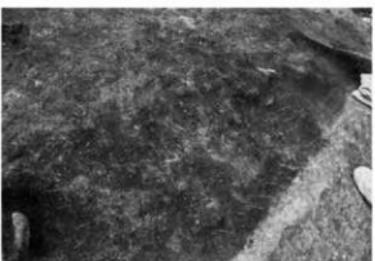
33層 検出状況（東から）



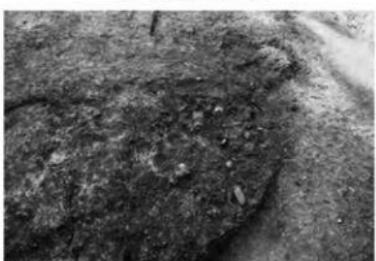
34層 検出状況（東から）



35層 検出状況（東から）



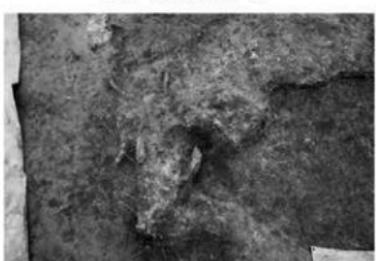
36層 検出状況（東から）



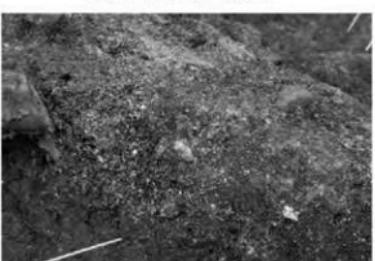
37層 検出状況（東から）



38層 土器出土状況（東から）



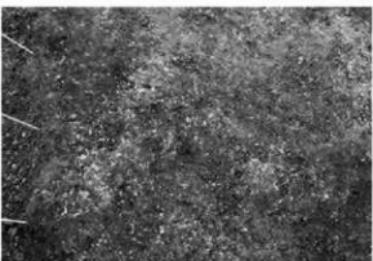
38層 検出状況（東から）



38層 貝（破碎貝）出土状況（南から）



39層 検出状況（北東から）



39層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



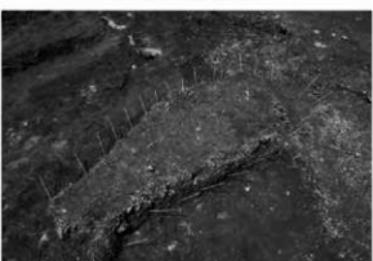
40層 検出状況（東から）



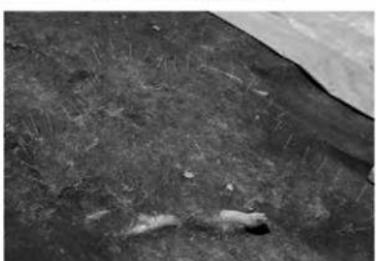
41層 検出状況（東から）



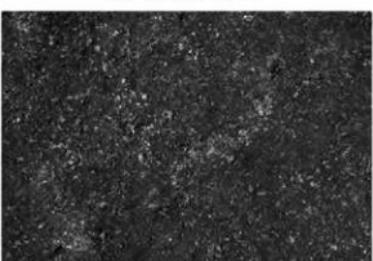
41層 アワビ出土状況（南から）



42層 検出状況（東から）



43層 検出状況（南東から）



43層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



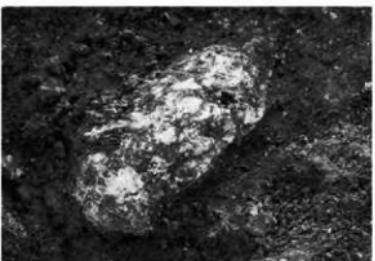
44層 検出状況（南東から）



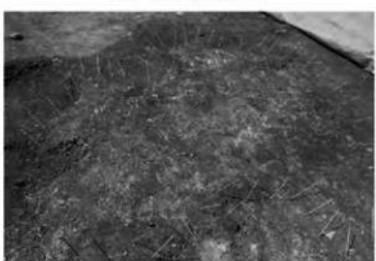
44層 シカ骨出土状況（東から）



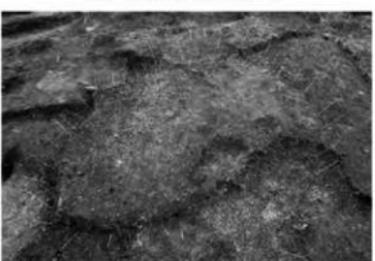
45層 検出状況（東から）



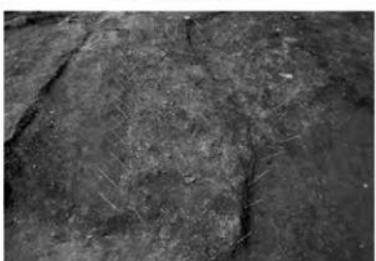
45層 カキ類出土状況（北から）



46層 検出状況（東から）



47層 検出状況（東から）



48層 検出状況（東から）



48層 獣骨出土状況（東から）



49層 検出状況（東から）



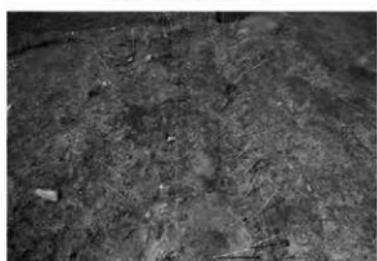
49層 アカニシ出土状況（東から）



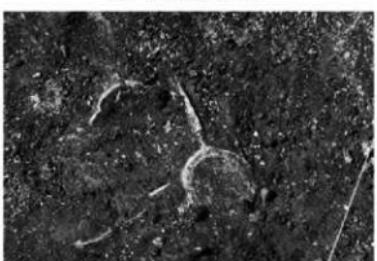
50層 検出状況（東から）



51層 検出状況（東から）



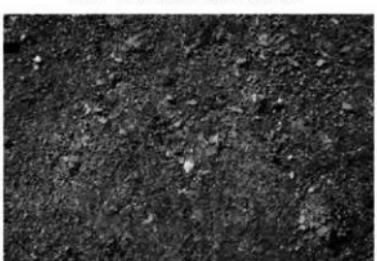
52層 検出状況（東から）



52層 イルカ椎体出土状況（東から）

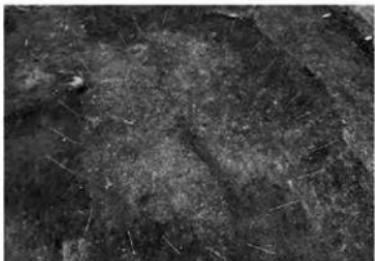


53層 検出状況（東から）



53層 貝（破碎貝）出土状況（東から）

写真図版19 貝層12



54層 検出状況（東から）



55層 検出状況（東から）



56層 検出状況（東から）



57層 検出状況（東から）



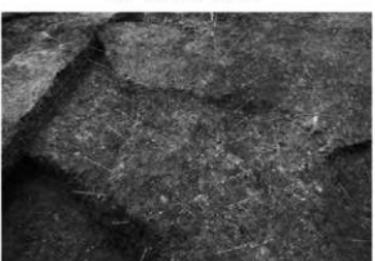
57層 イノシシ肩甲骨出土状況（南西から）



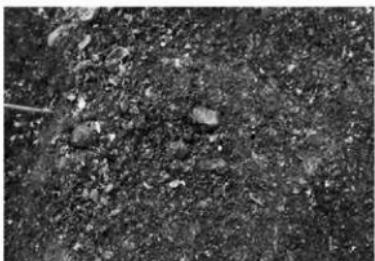
58層 検出状況（東から）



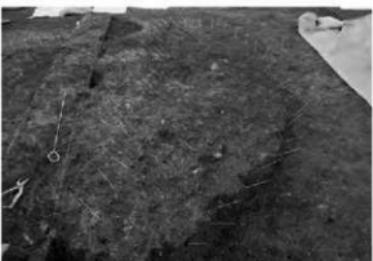
58層 鹿角出土状況（東から）



59層 貝出土状況（東から）



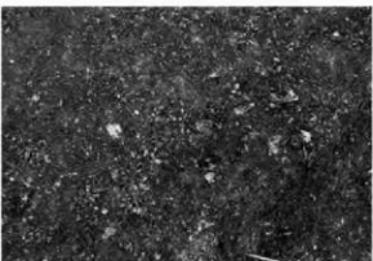
59層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



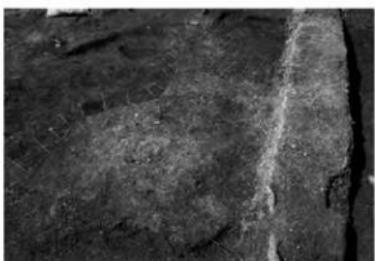
60層 検出状況（東から）



61層 検出状況（東から）



61層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



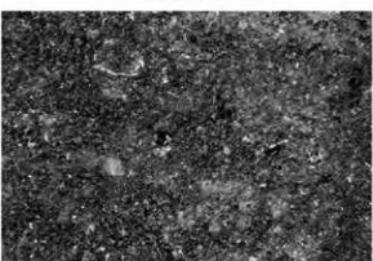
62層 検出状況（東から）



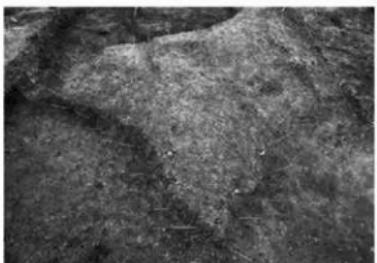
63層 検出状況（東から）



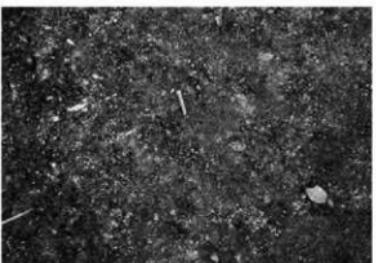
64層 検出状況（東から）



64層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



65層 検出状況（東から）



65層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



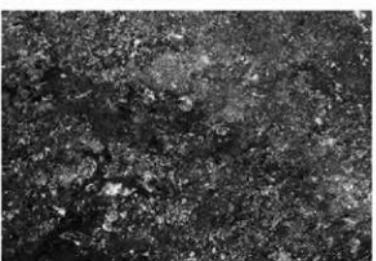
66層 検出状況（東から）



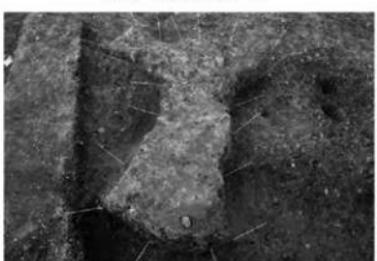
66層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



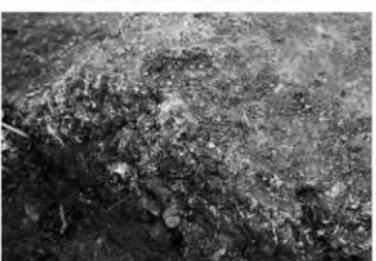
67層 検出状況（東から）



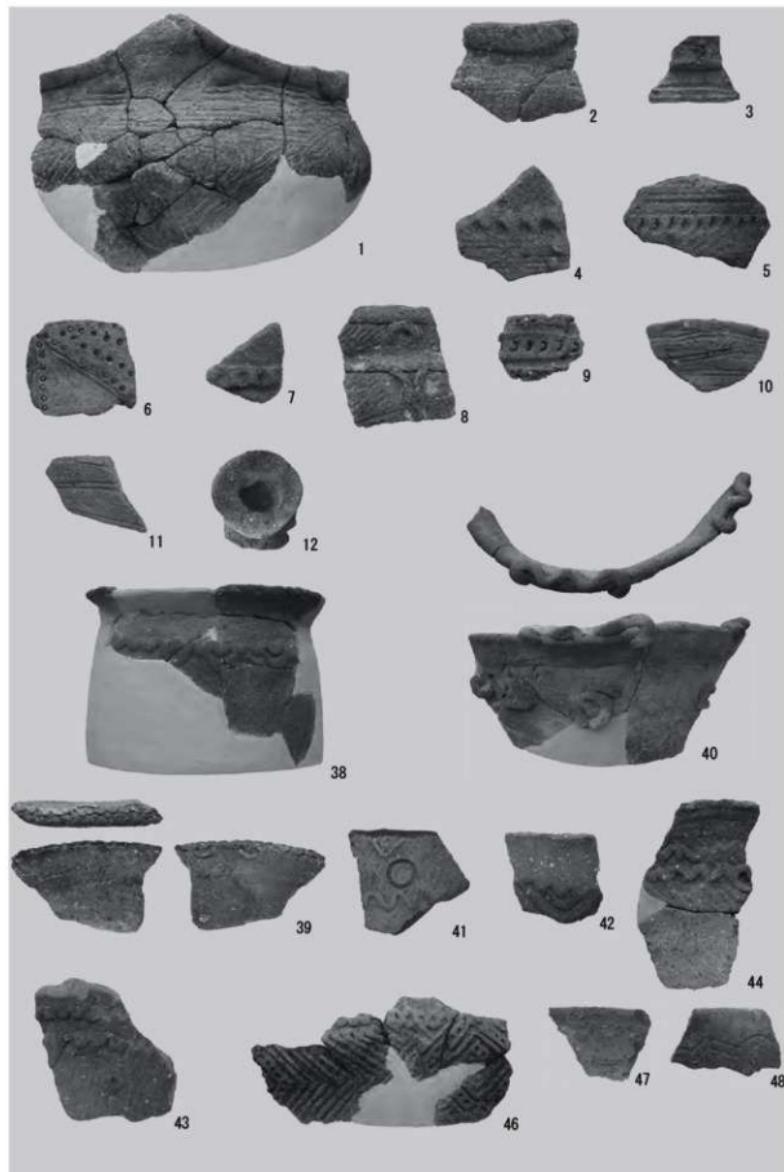
67層 貝（破碎貝）出土状況（東から）



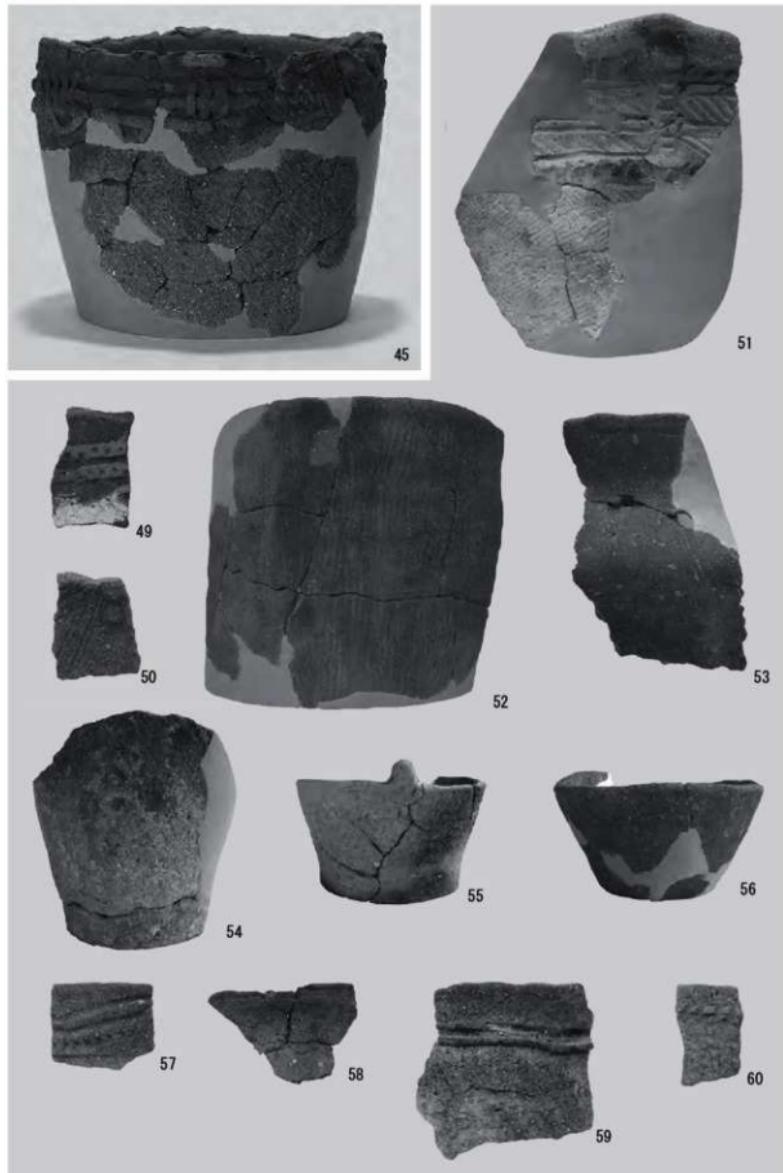
68層 検出状況（東から）



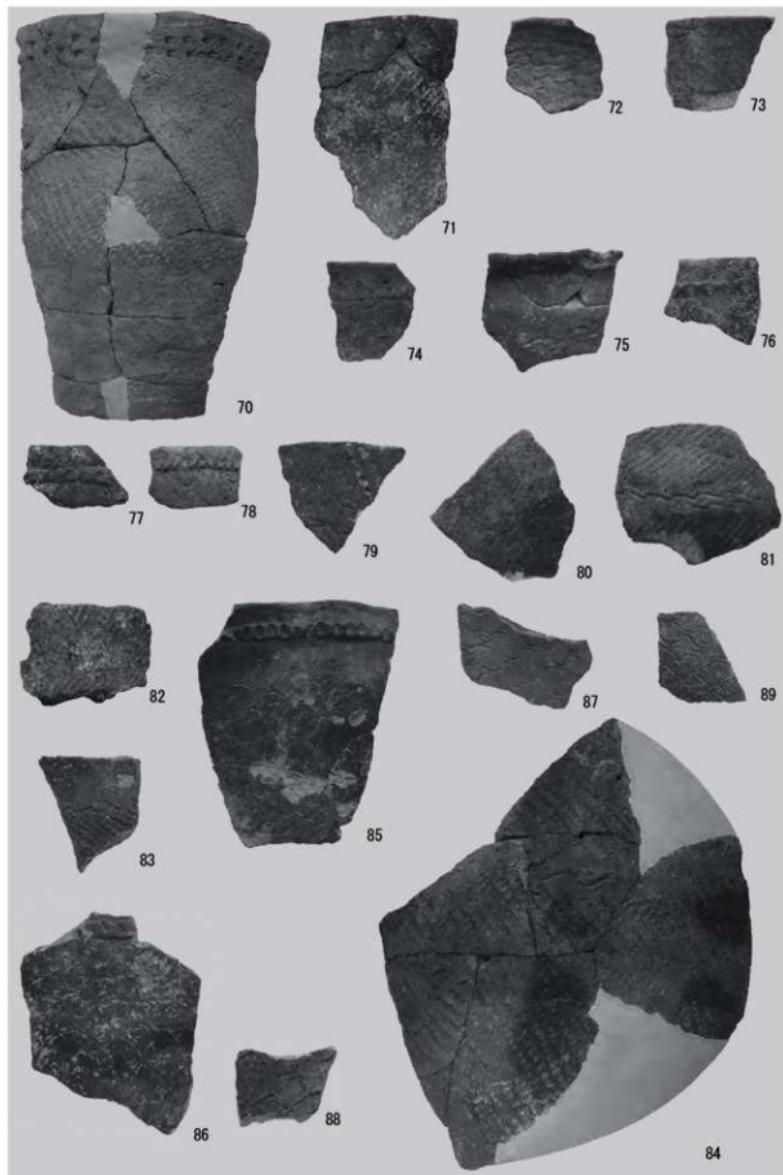
68層 貝（破碎貝）出土状況（南東から）



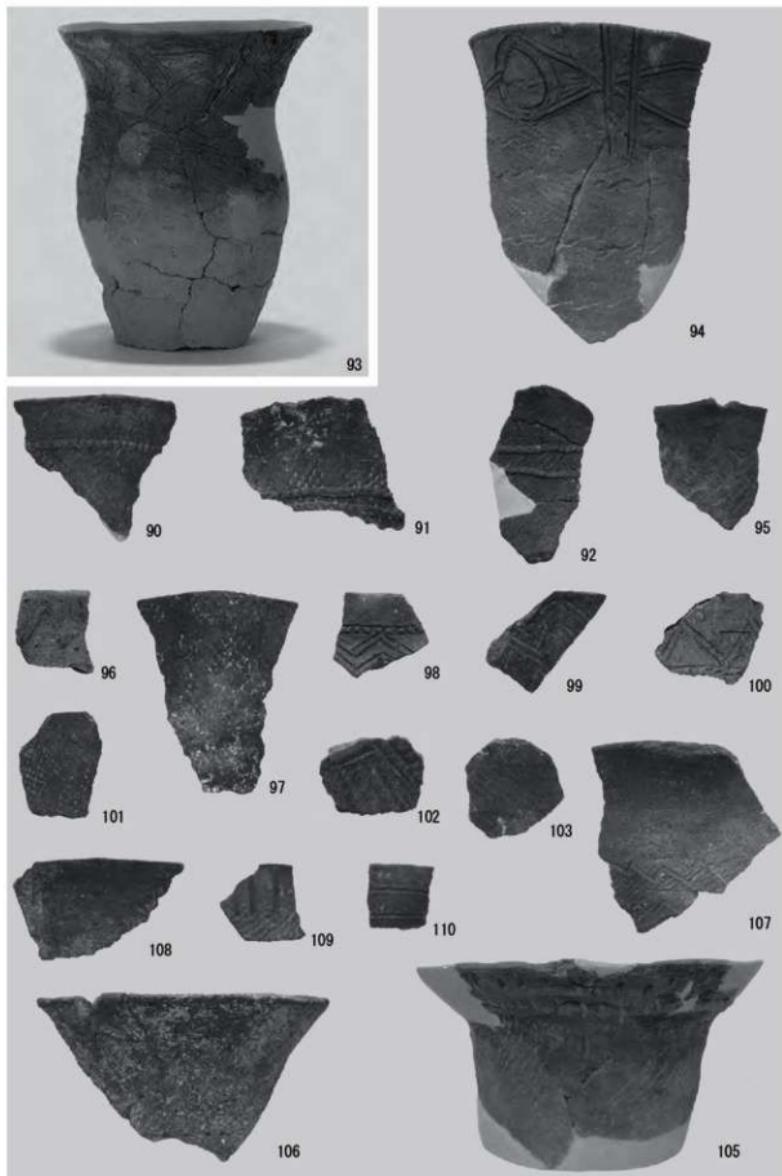
写真図版23 縄文土器 1



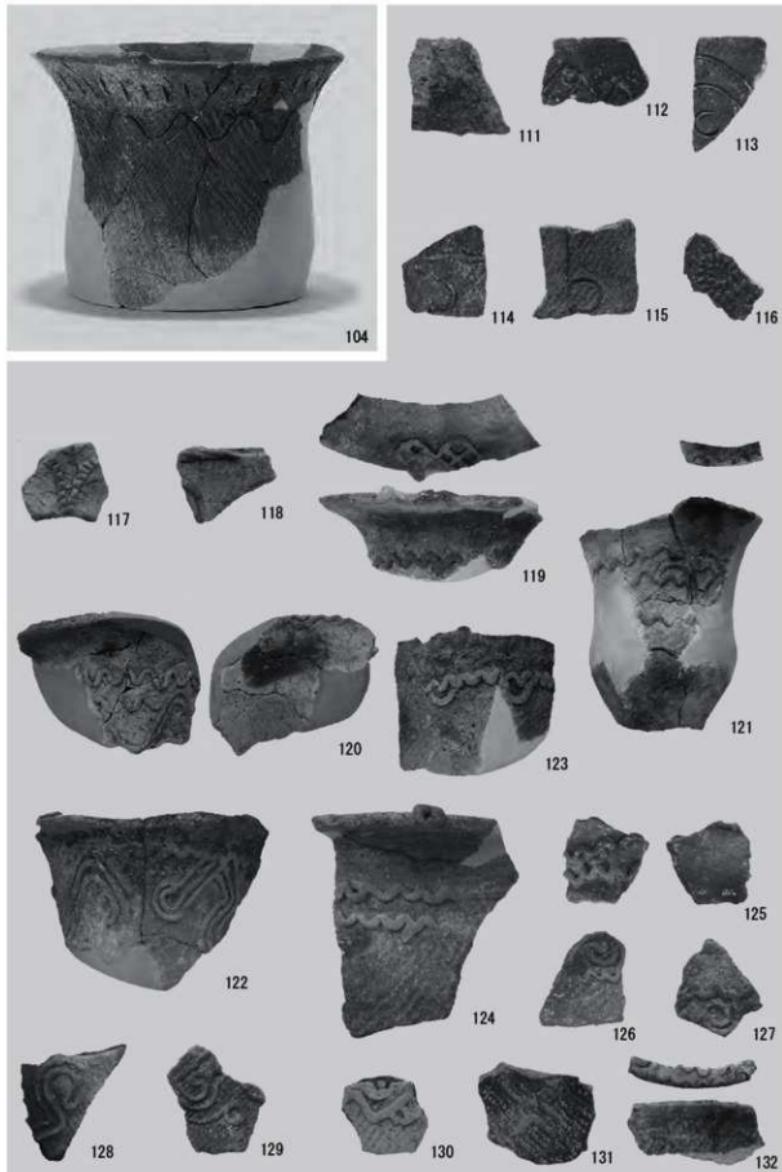
写真図版24 繩文土器2



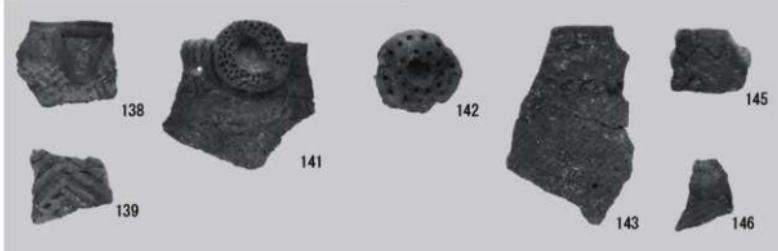
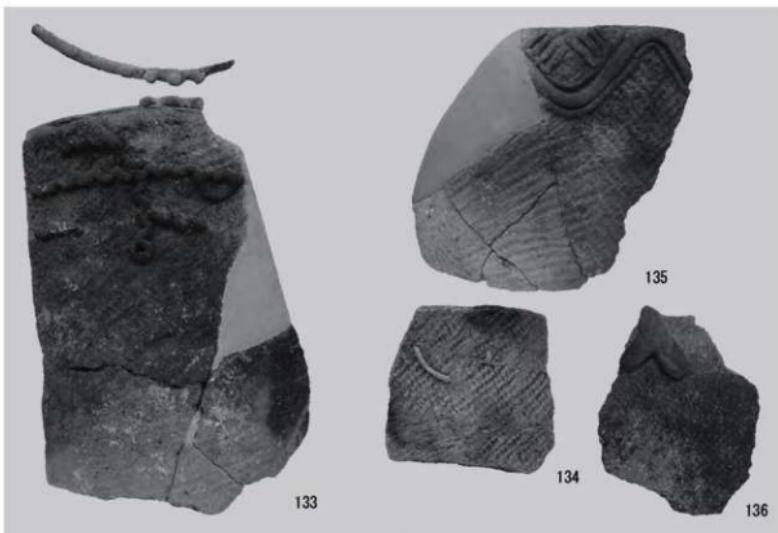
写真図版25 繩文土器 3



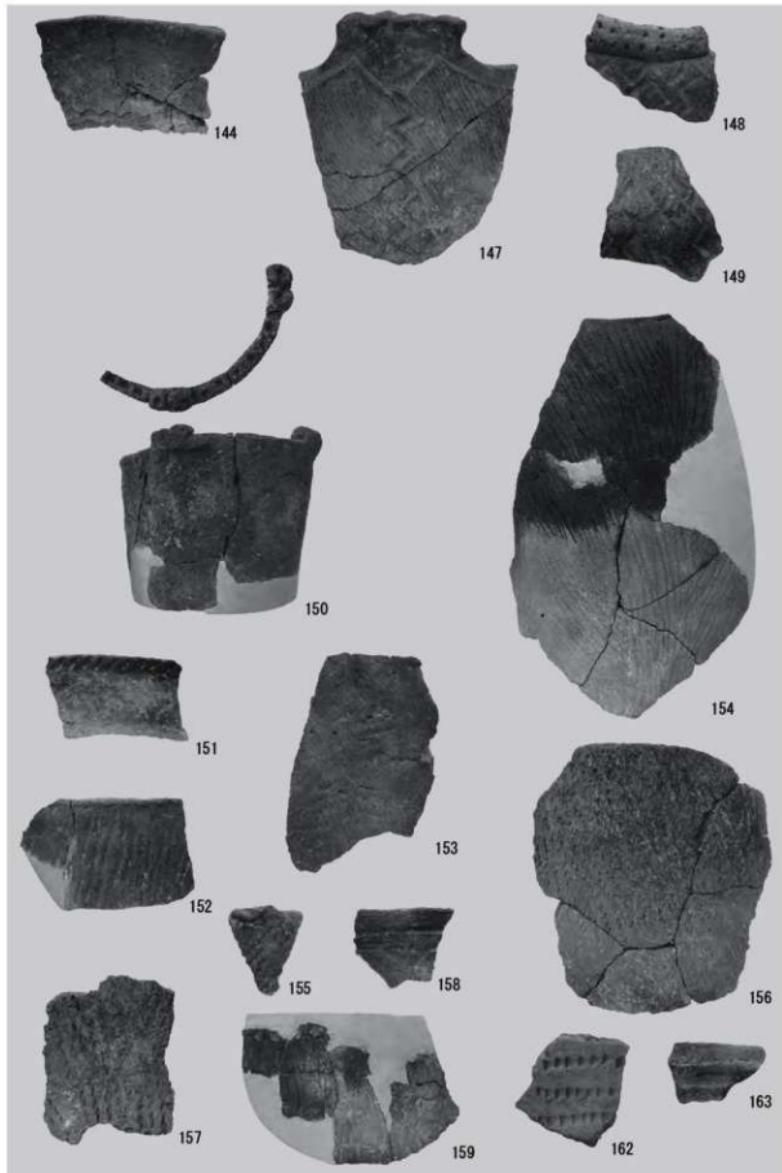
写真図版26 繩文土器 4



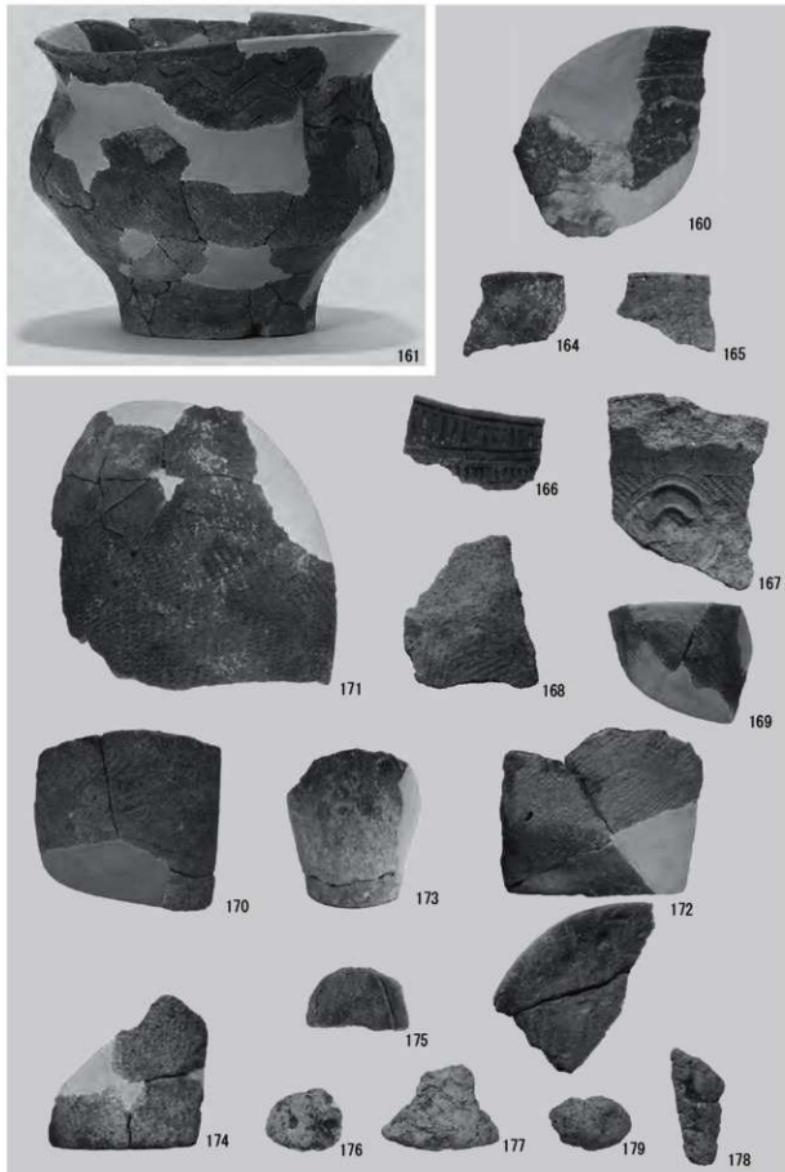
写真図版27 繩文土器 5



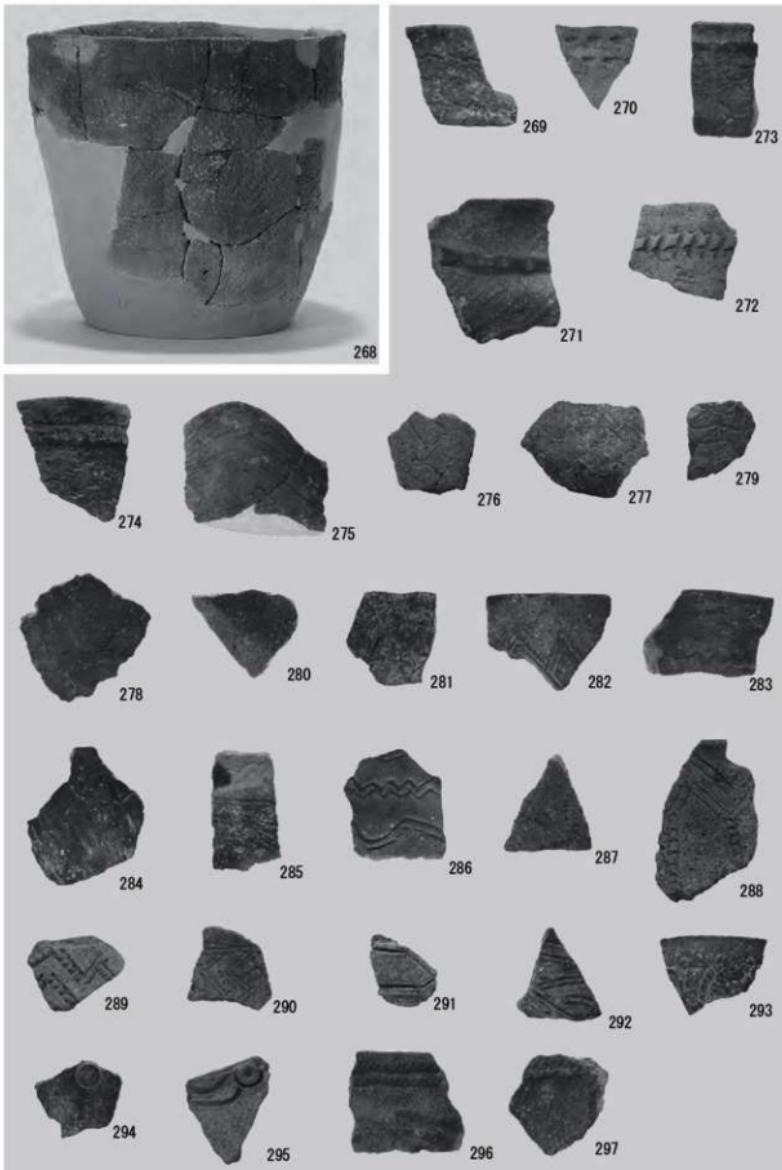
写真図版28 繩文土器 6



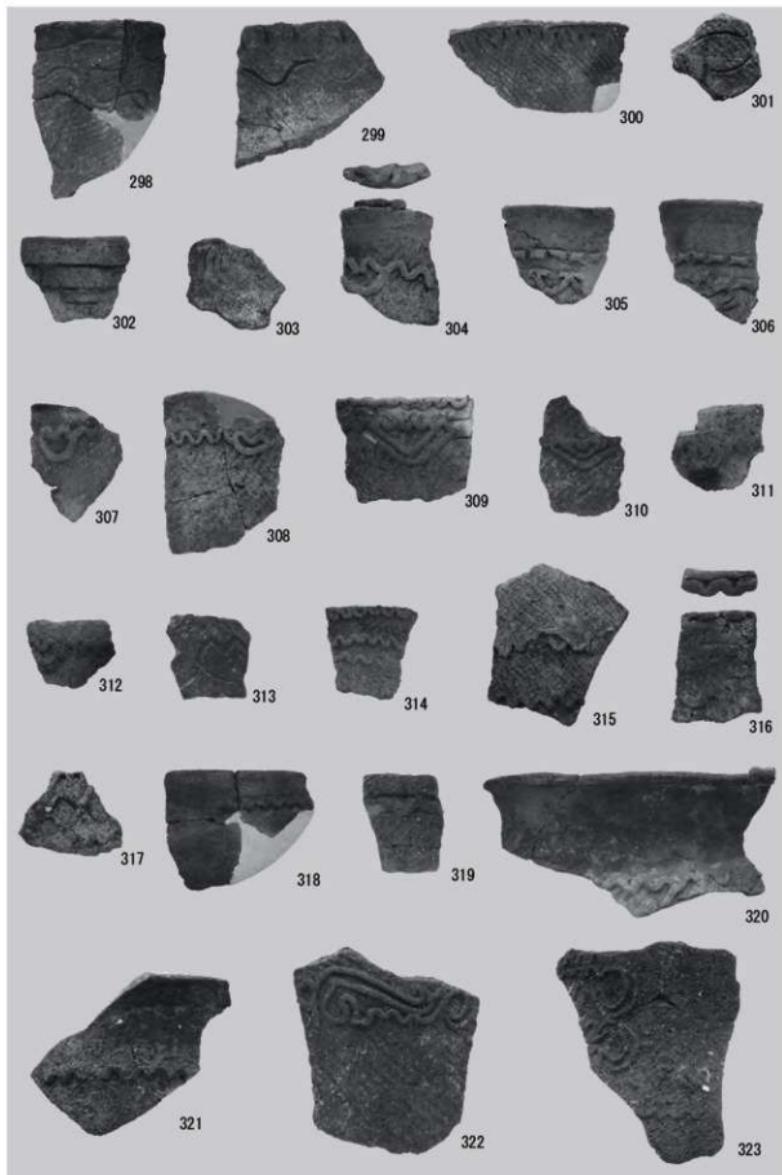
写真図版29 繩文土器 7



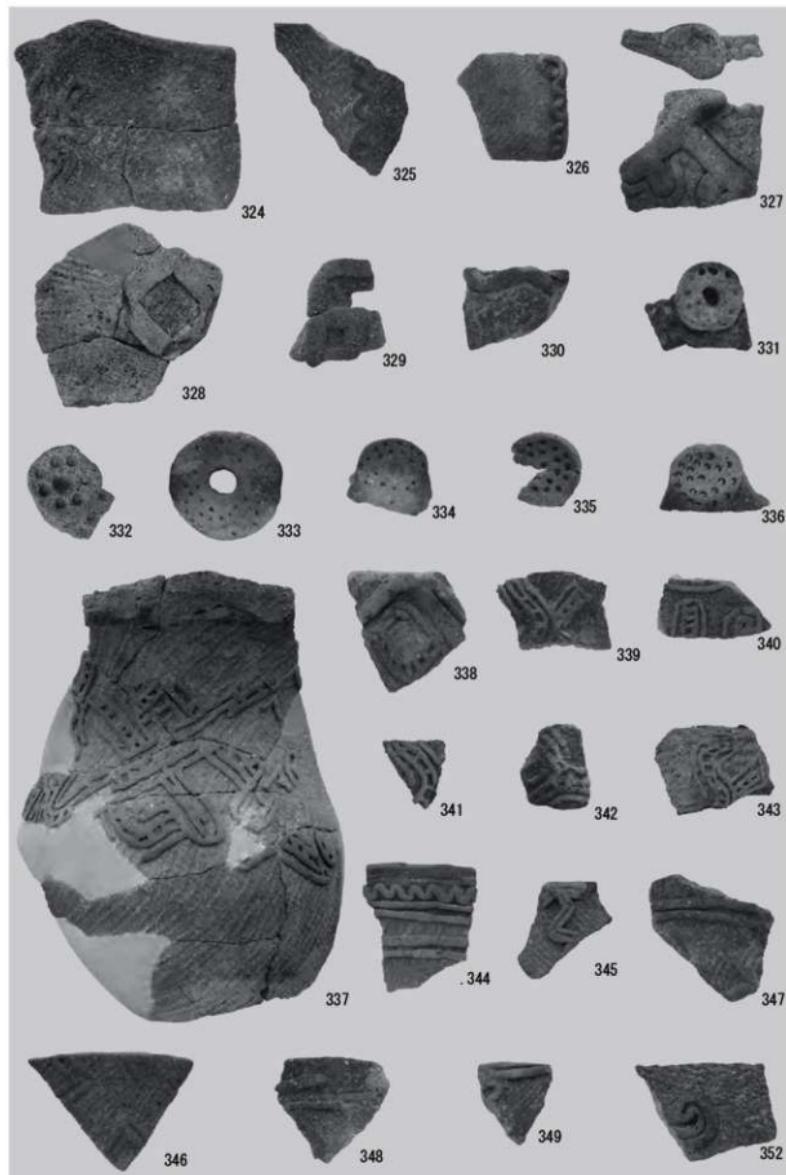
写真図版30 縄文土器8・土製品1



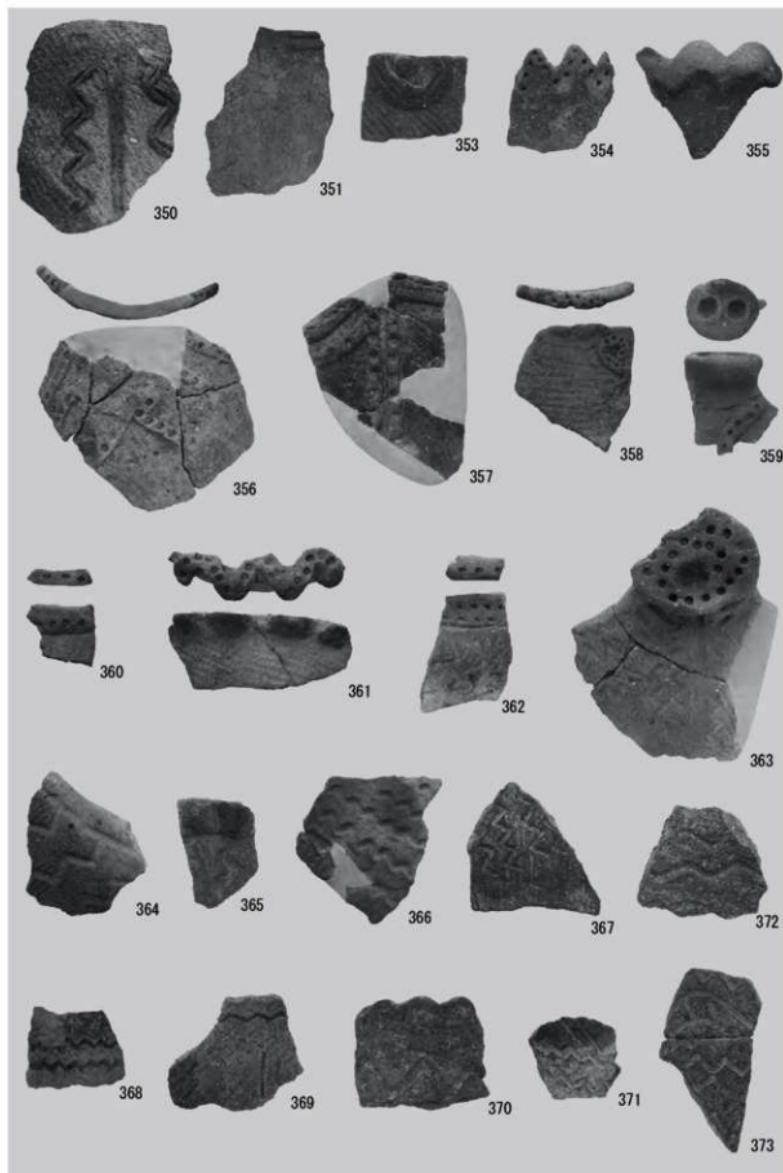
写真図版31 縄文土器 9



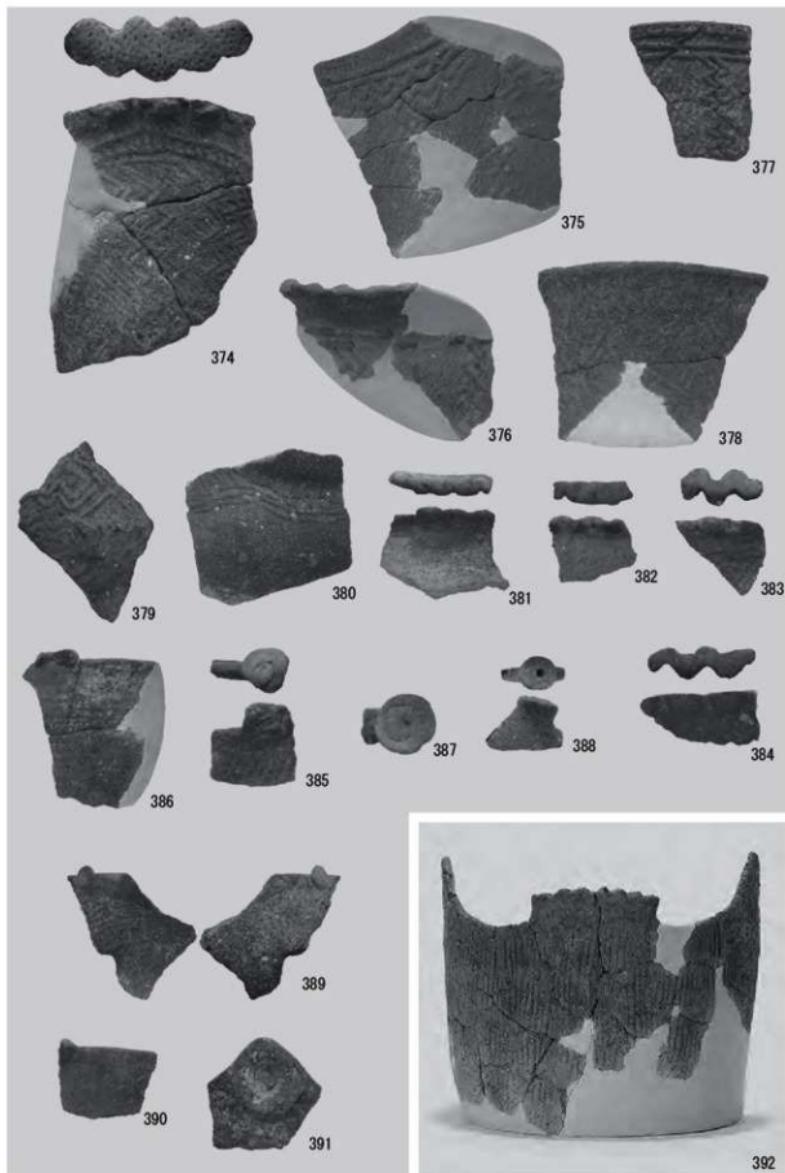
写真図版32 繩文土器10



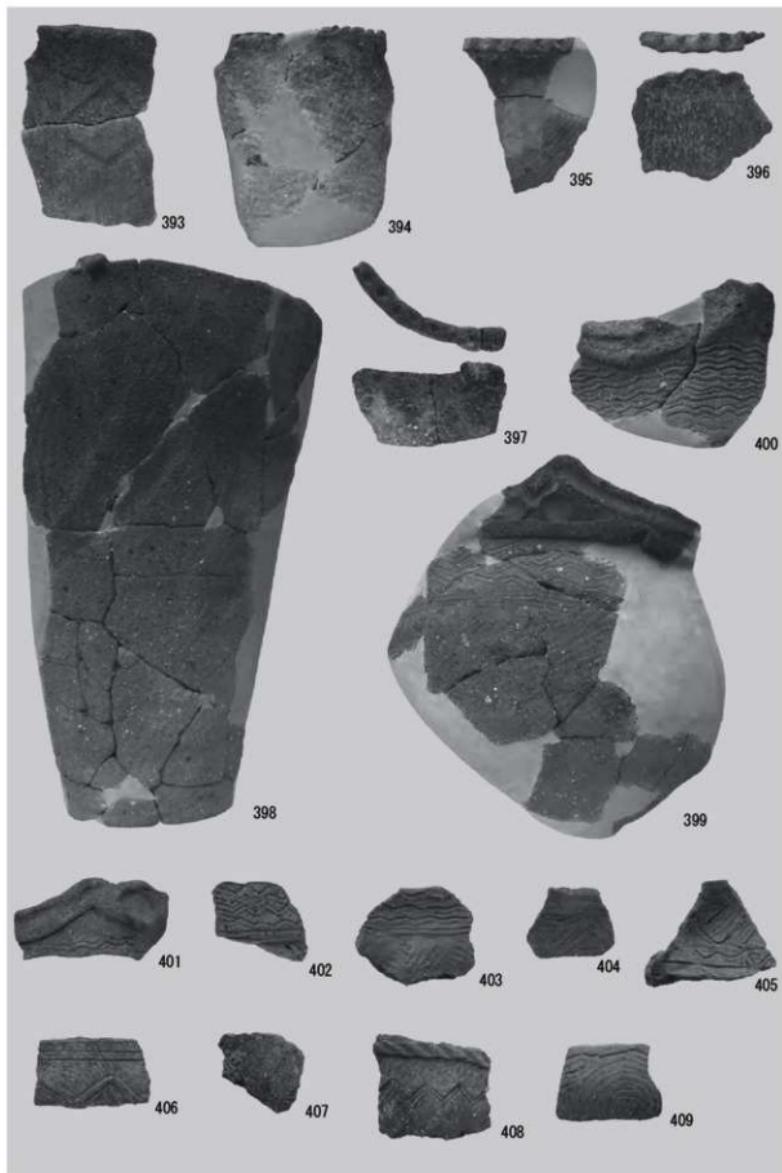
写真図版33 繩文土器11



写真図版34 繩文土器12



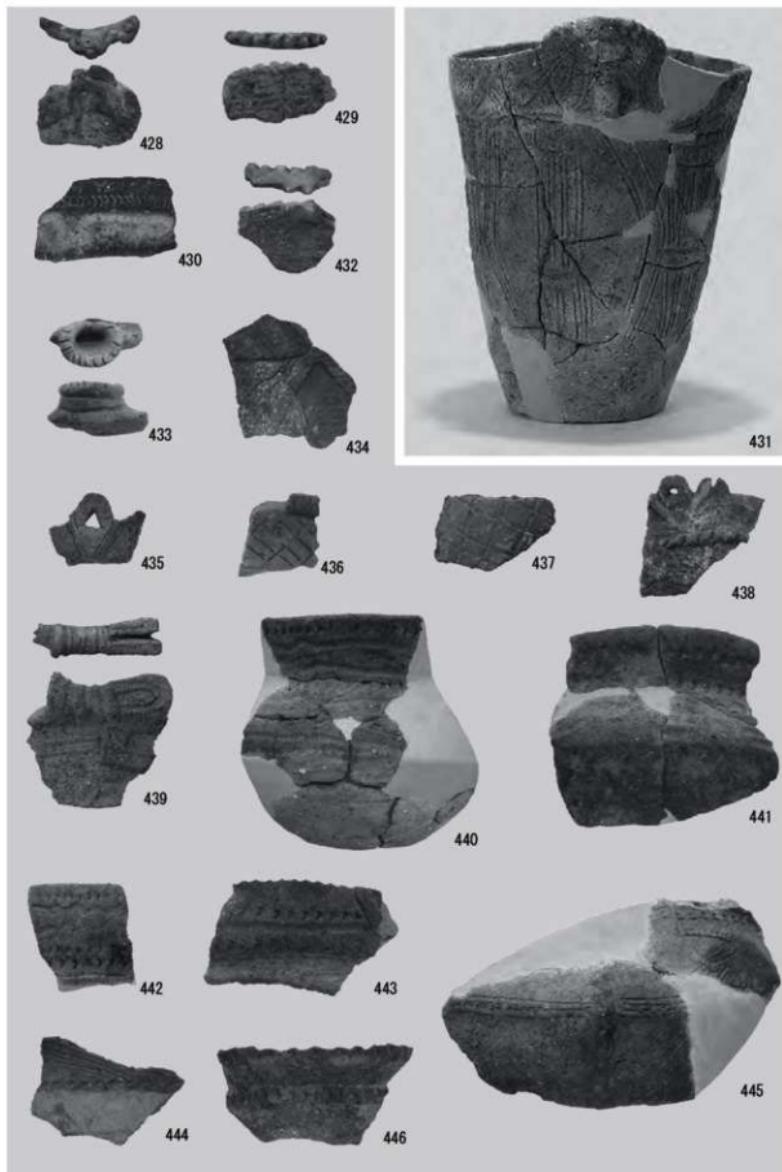
写真図版35 繩文土器13



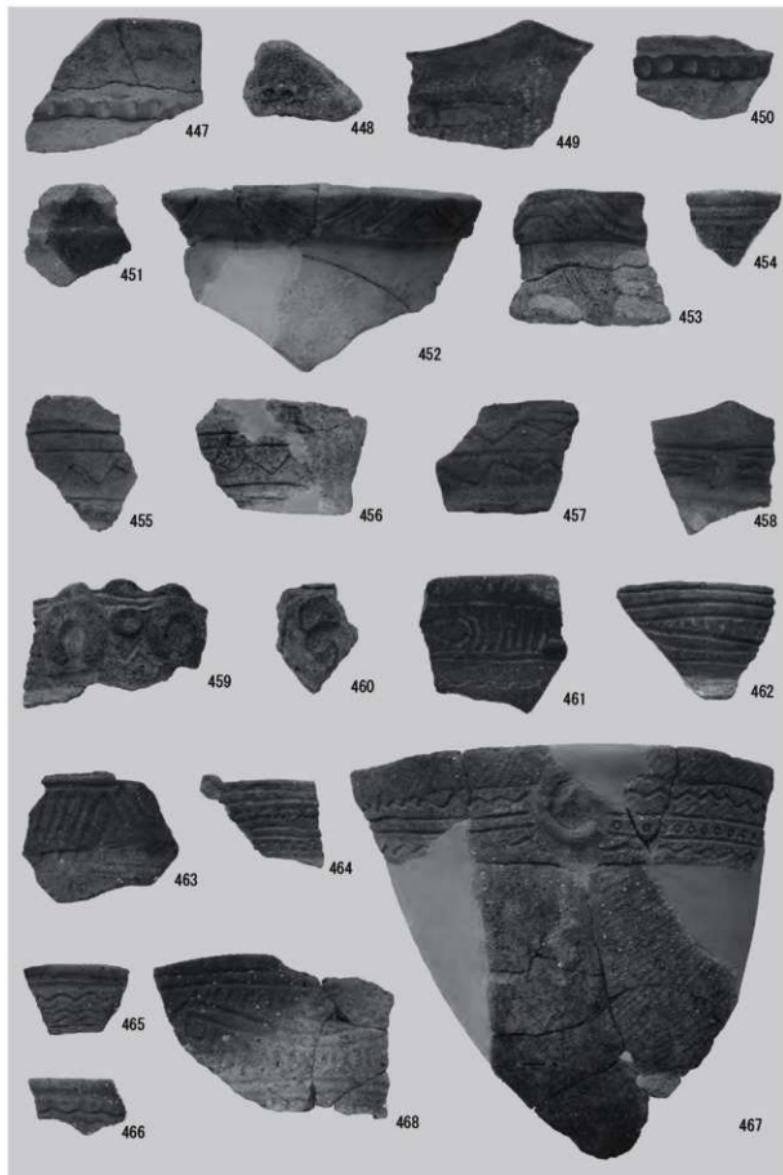
写真図版36 繩文土器14



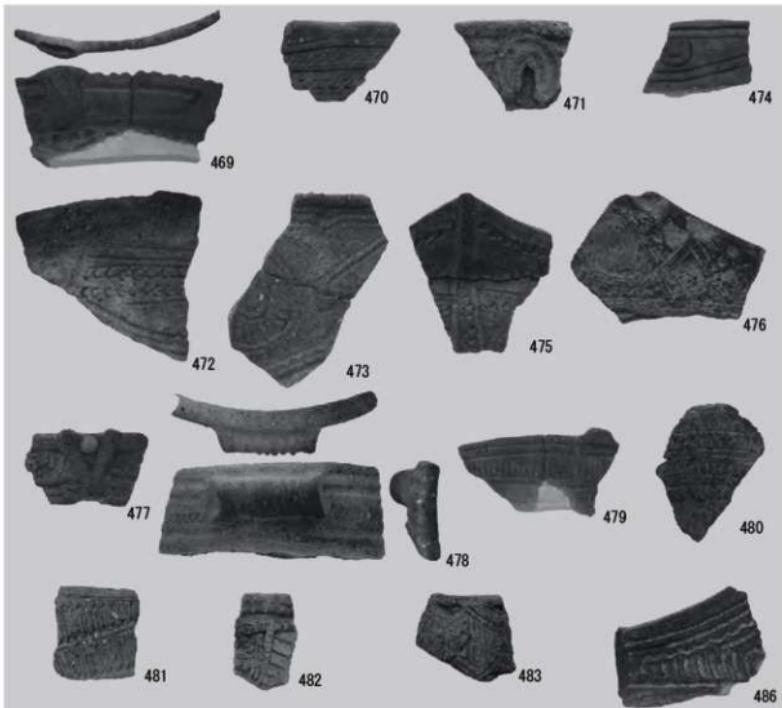
写真図版37 繩文土器15



写真図版38 繩文土器16



写真図版39 繩文土器17

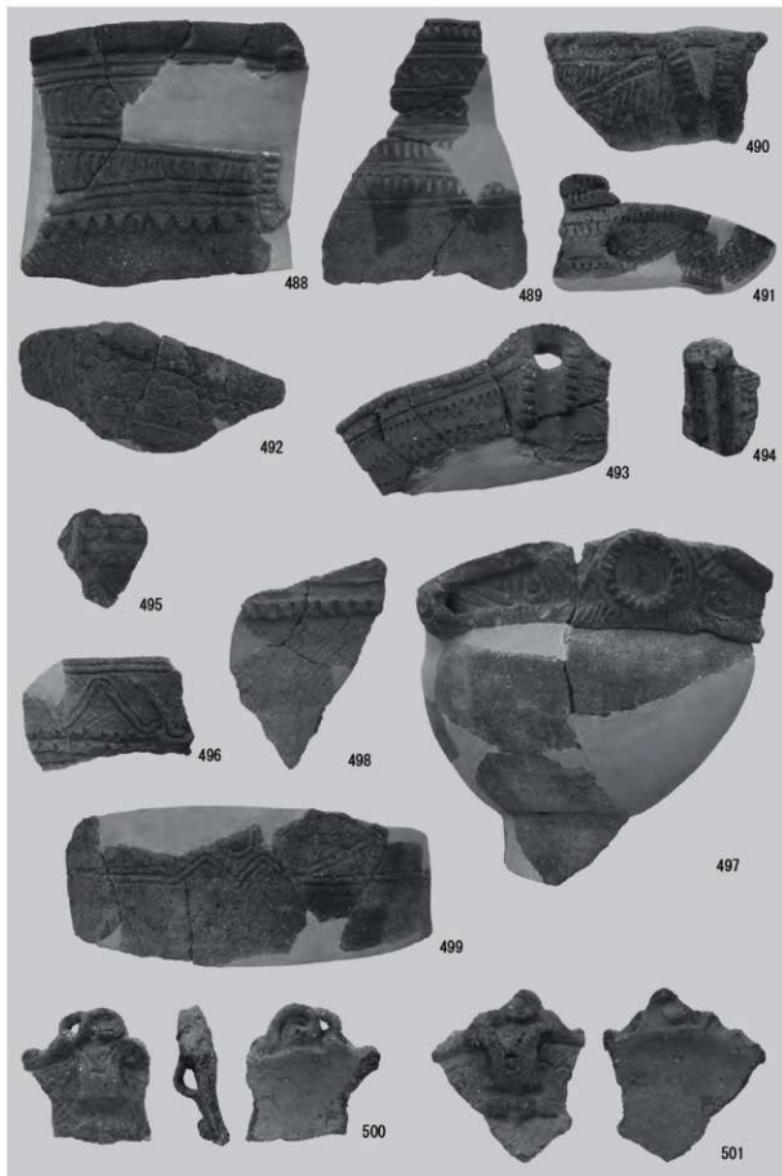


485

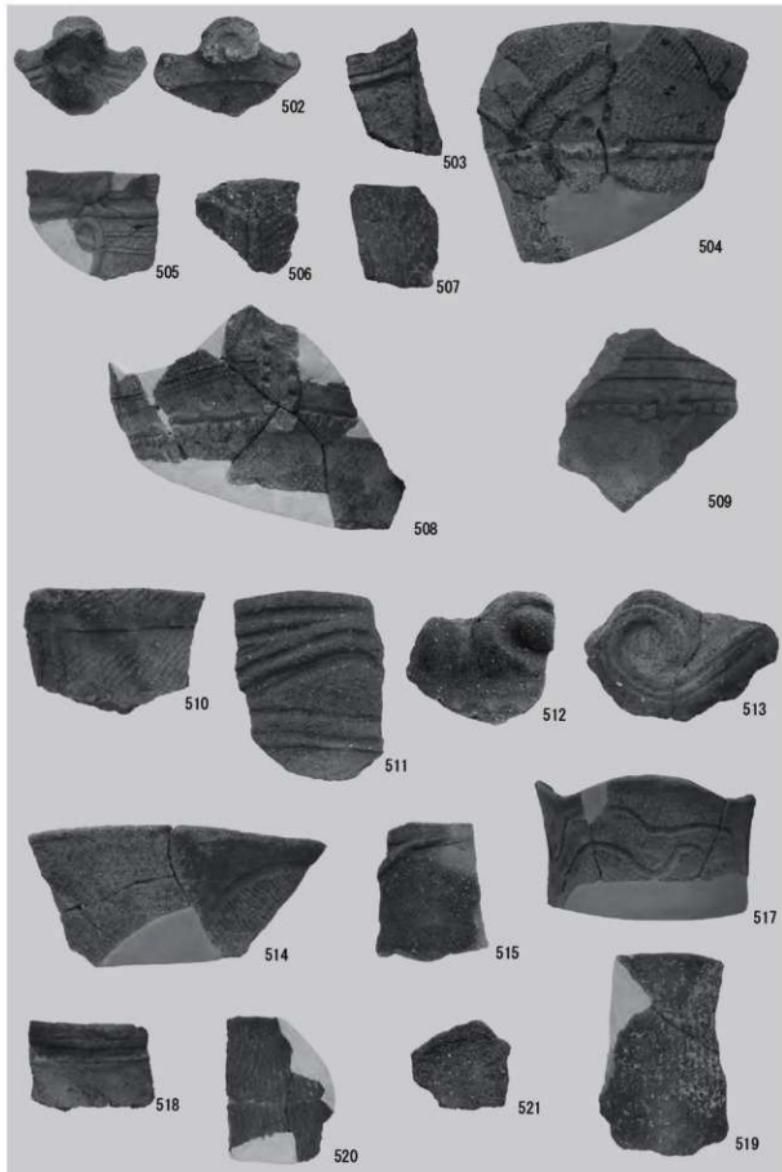
487



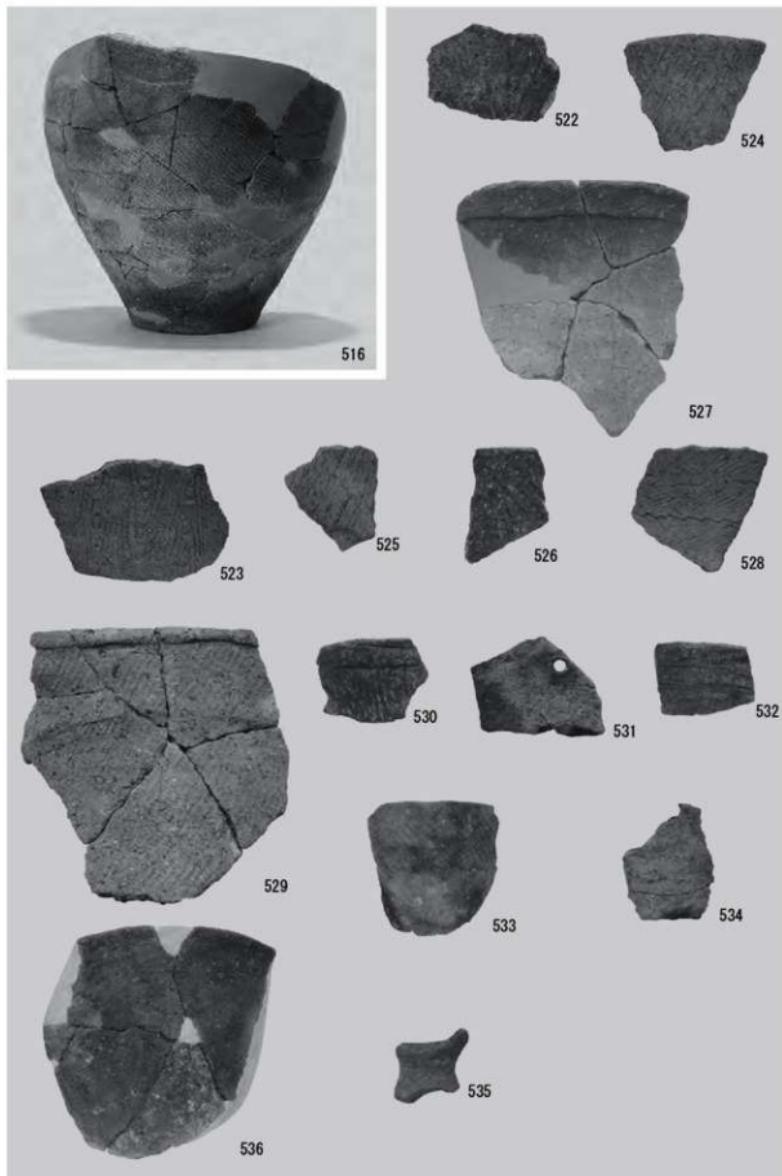
写真図版40 繩文土器18



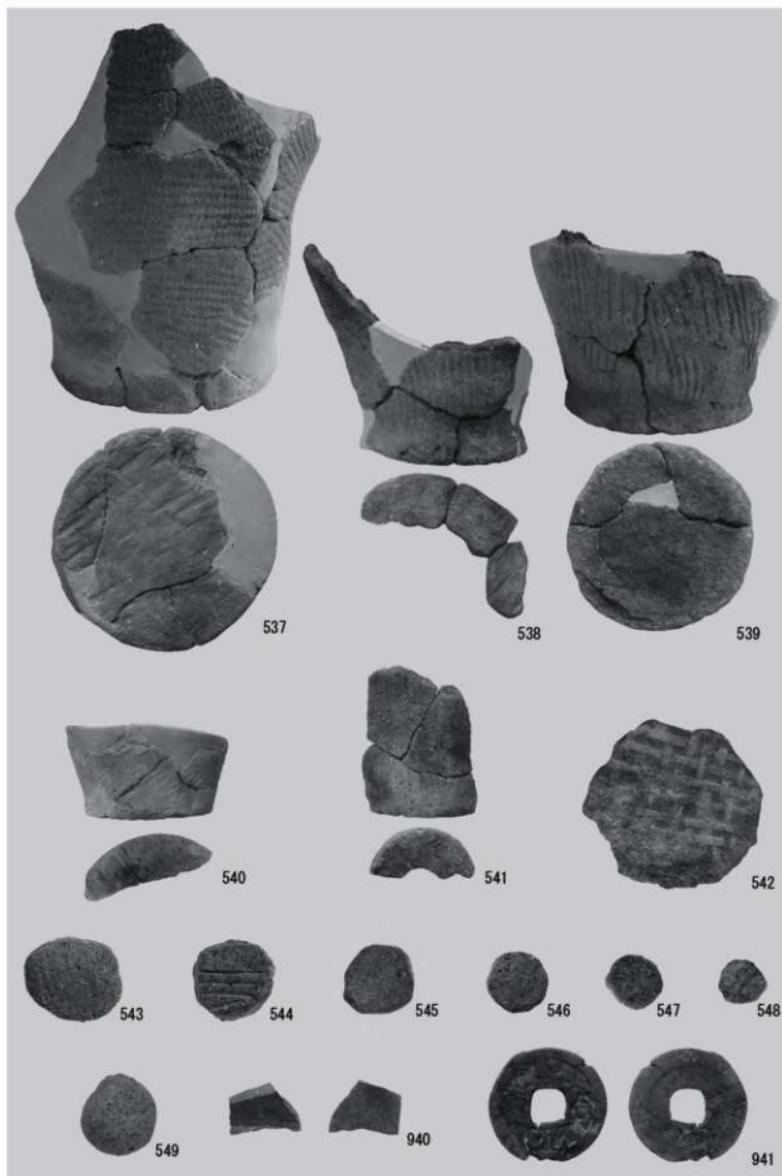
写真図版41 繩文土器19



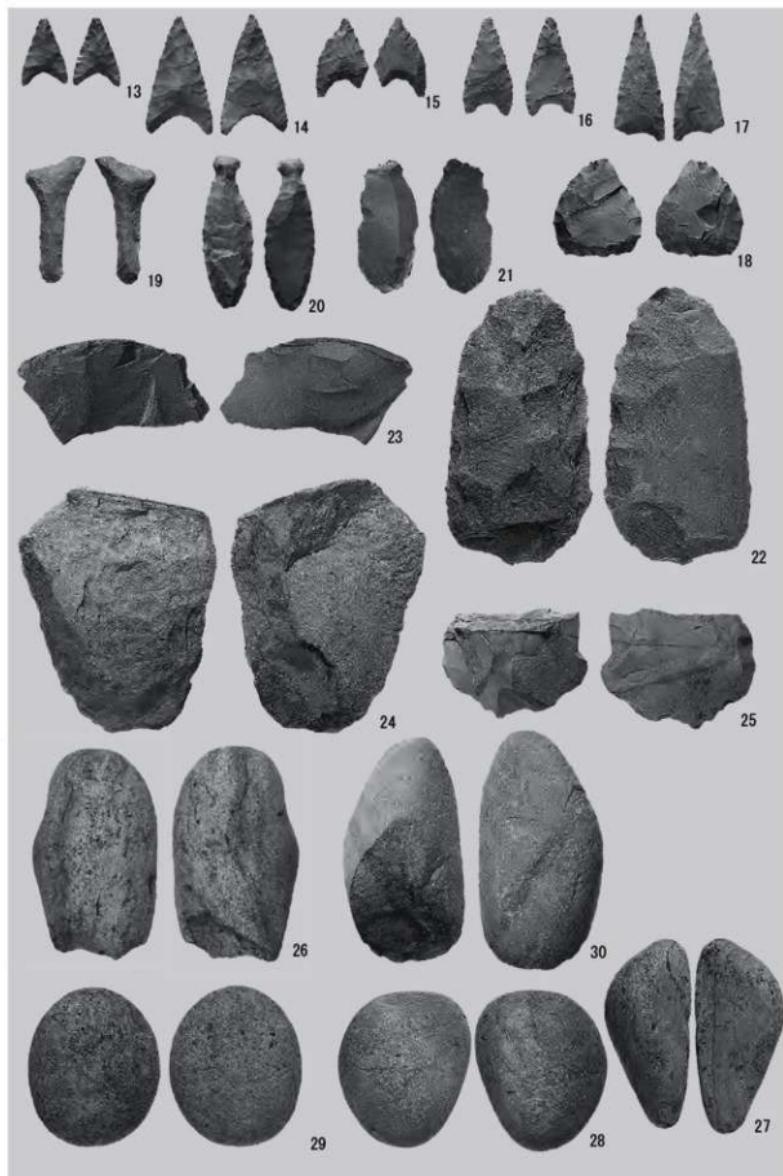
写真図版42 繩文土器20



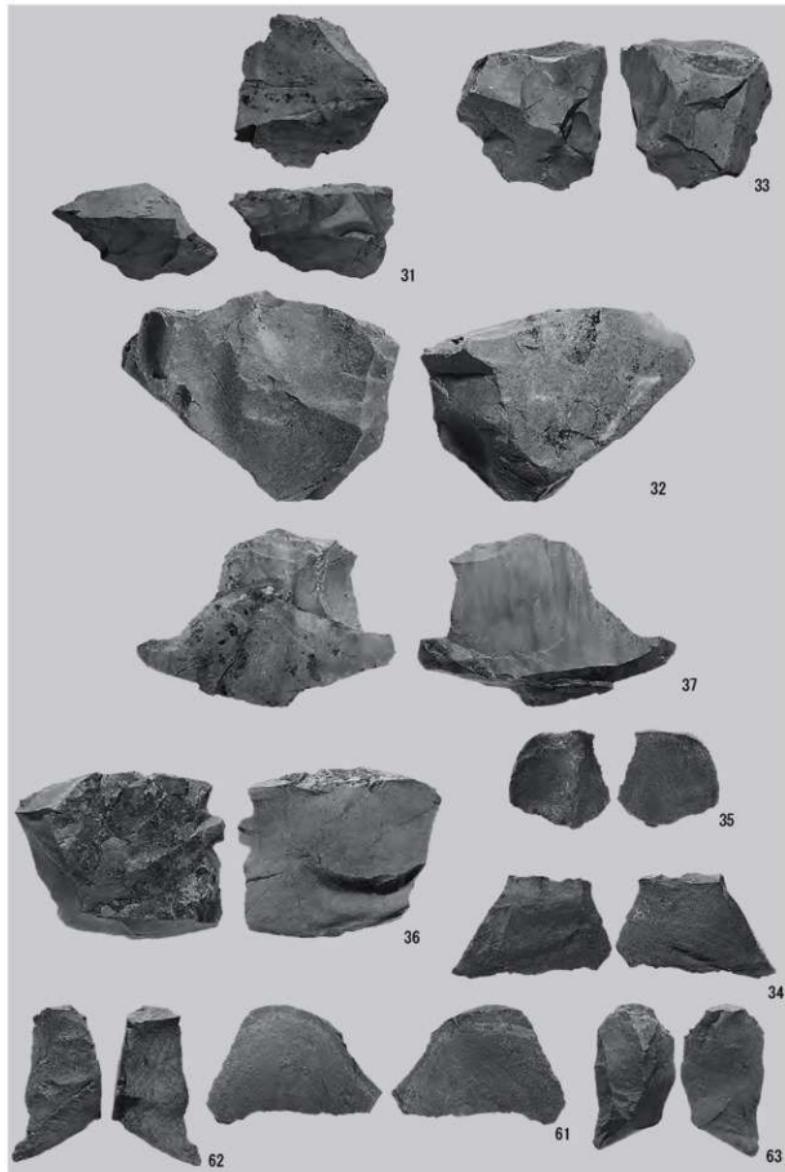
写真図版43 繩文土器21



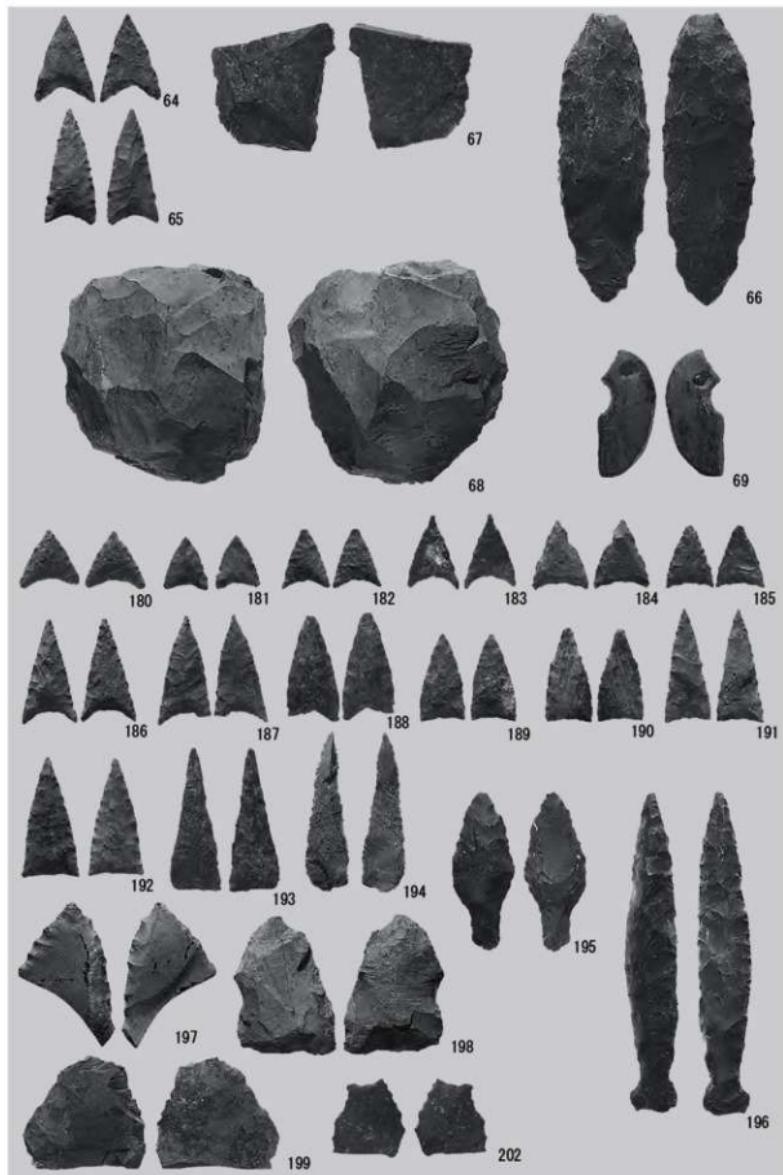
写真図版44 繩文土器22・土製品2・須恵器・錢貨



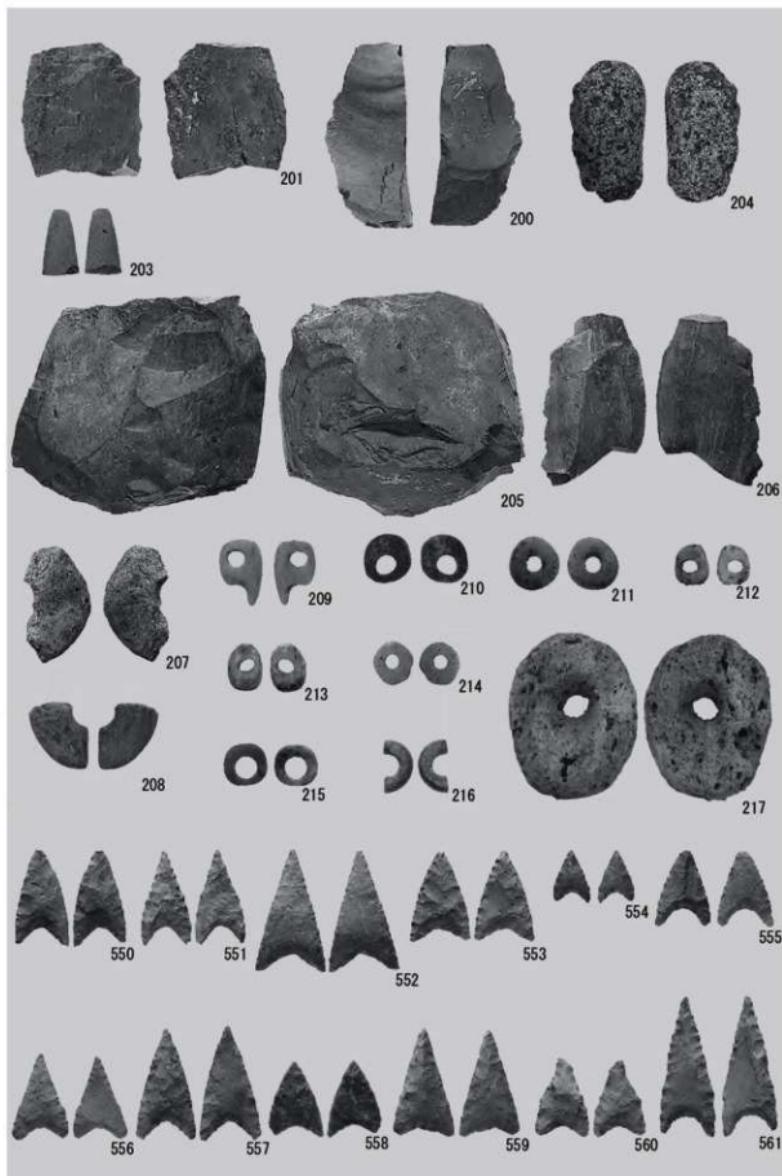
写真図版45 石器 1



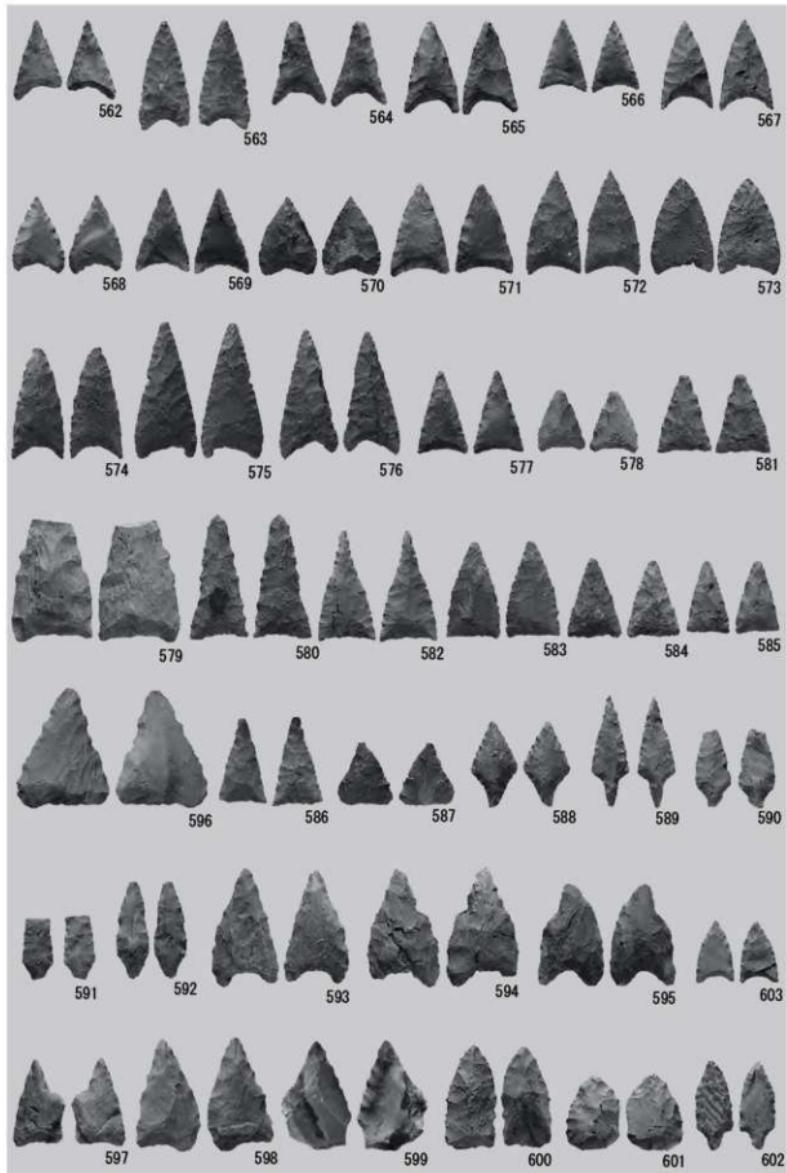
写真図版46 石器2



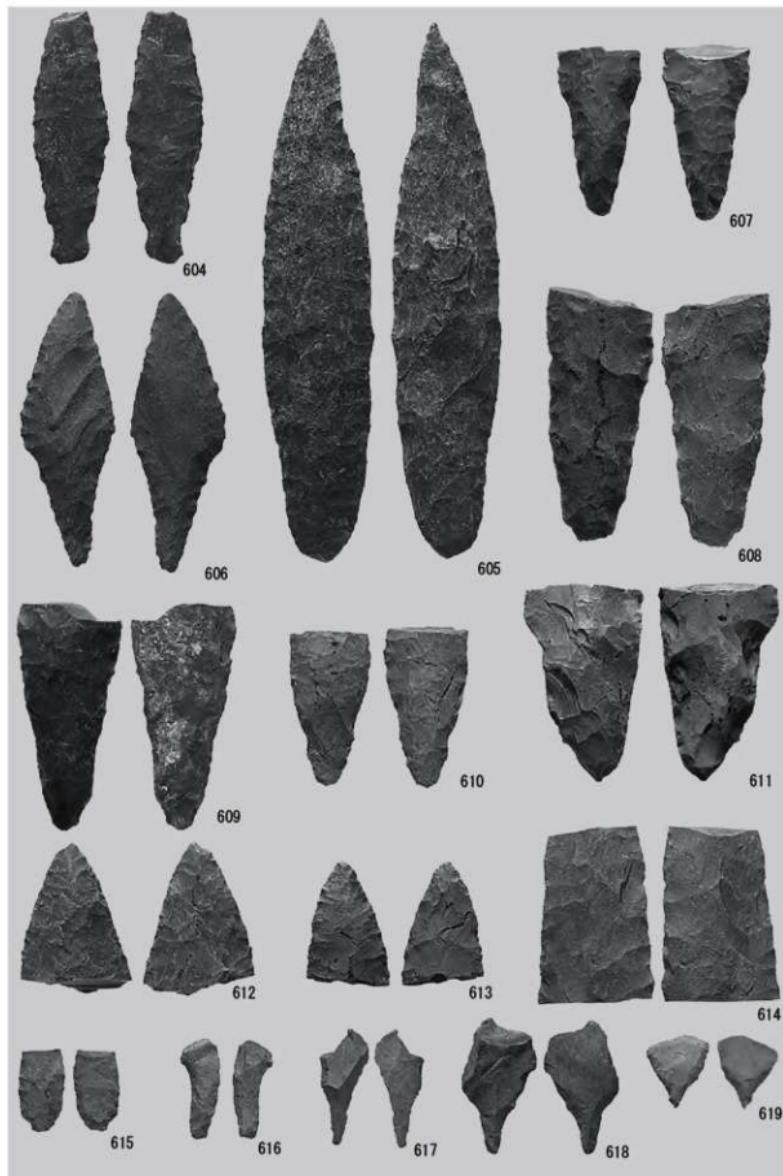
写真図版47 石器3・石製品1



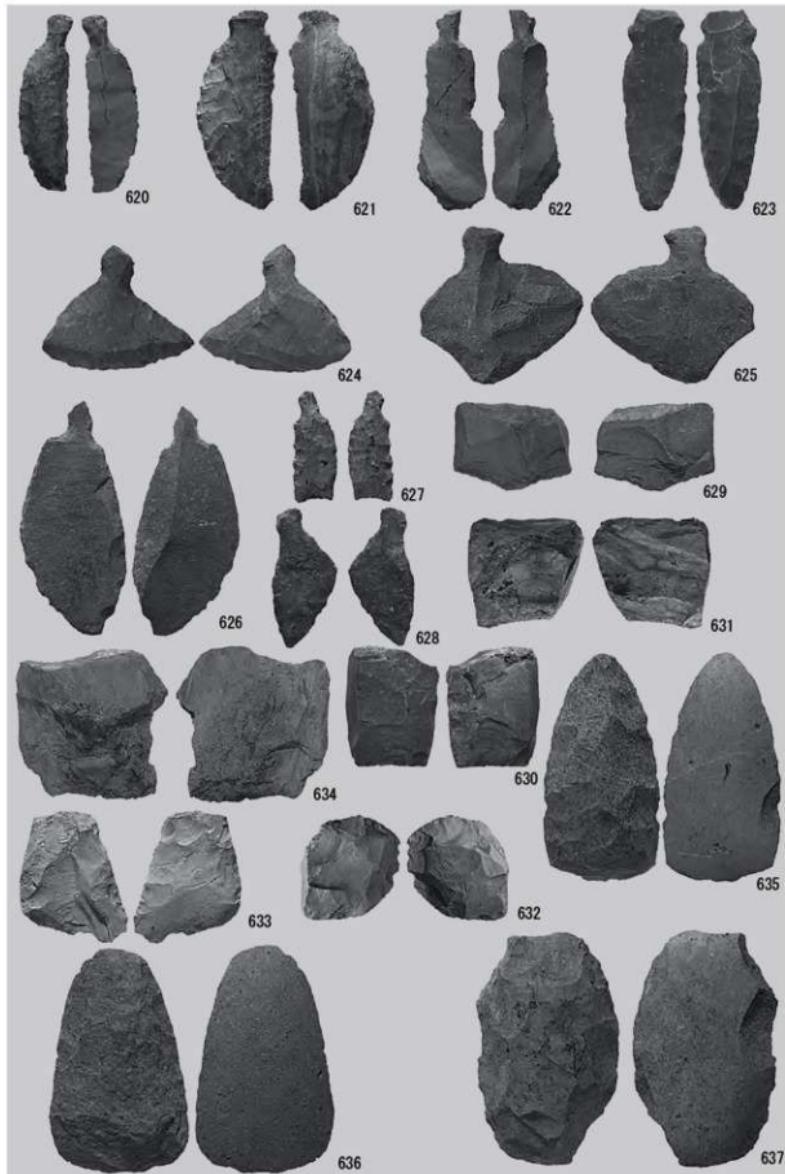
写真図版48 石器4・石製品2



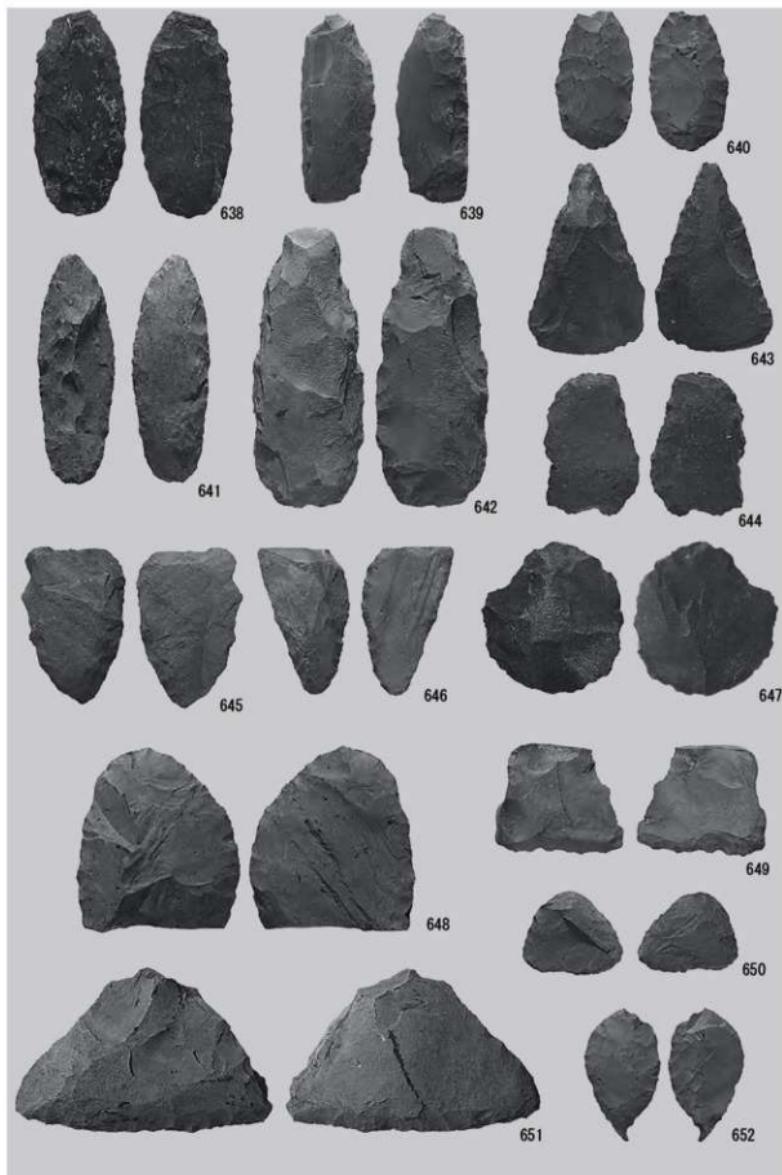
写真図版49 石器 5



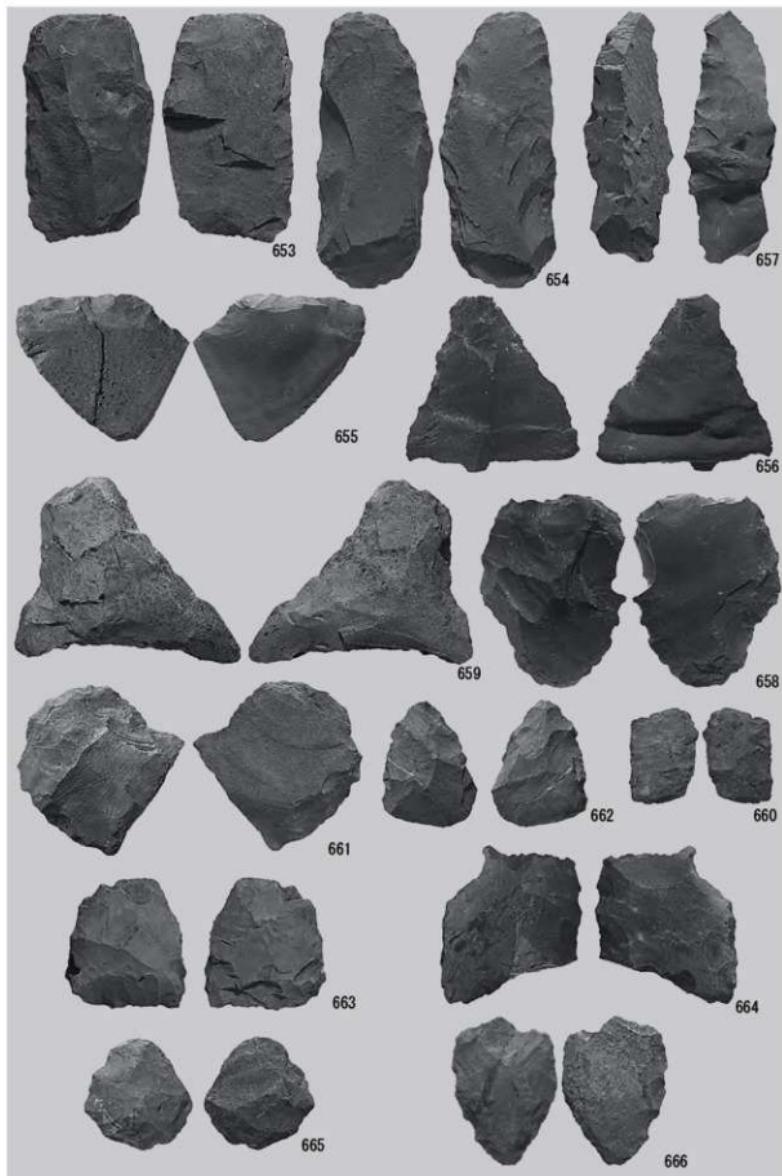
写真図版50 石器 6



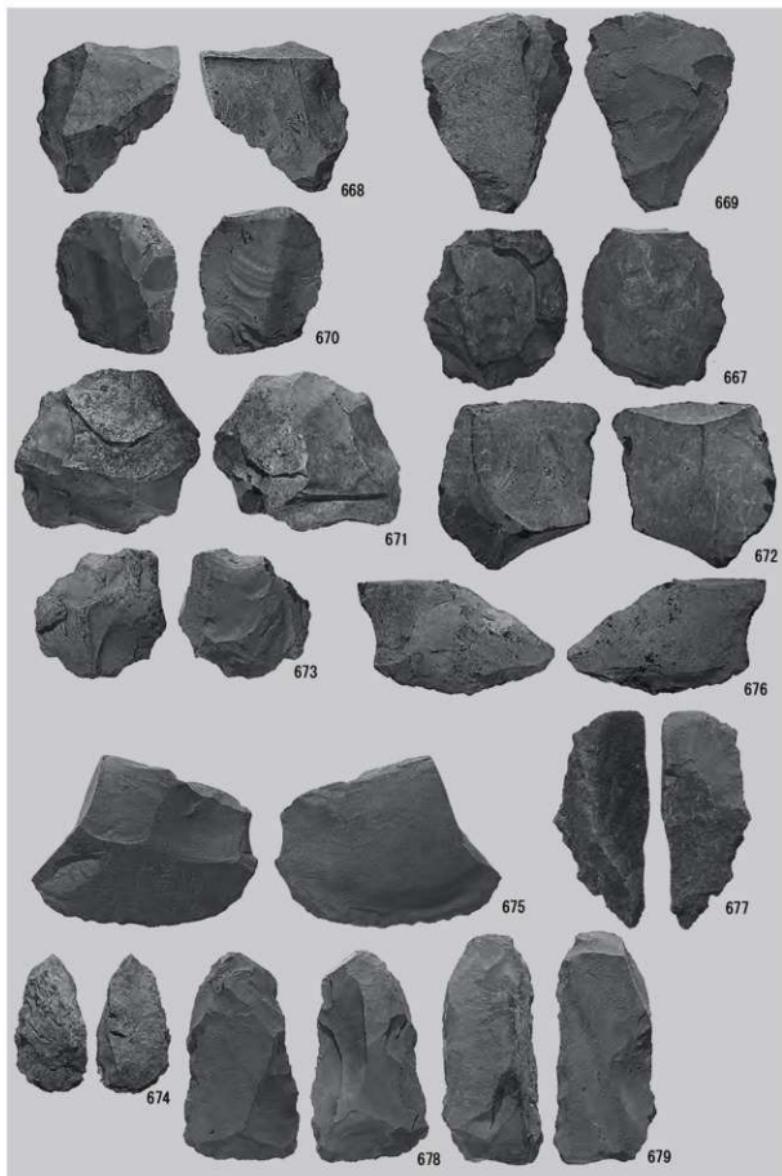
写真図版51 石器 7



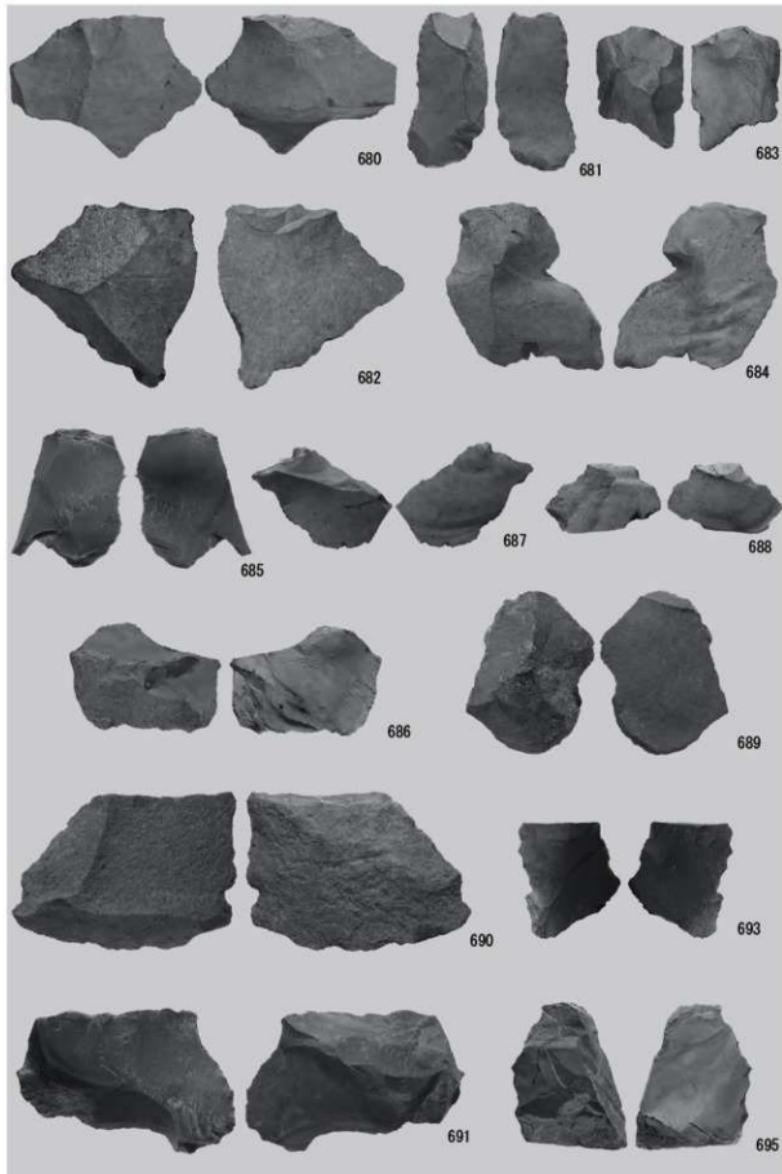
写真図版52 石器 8



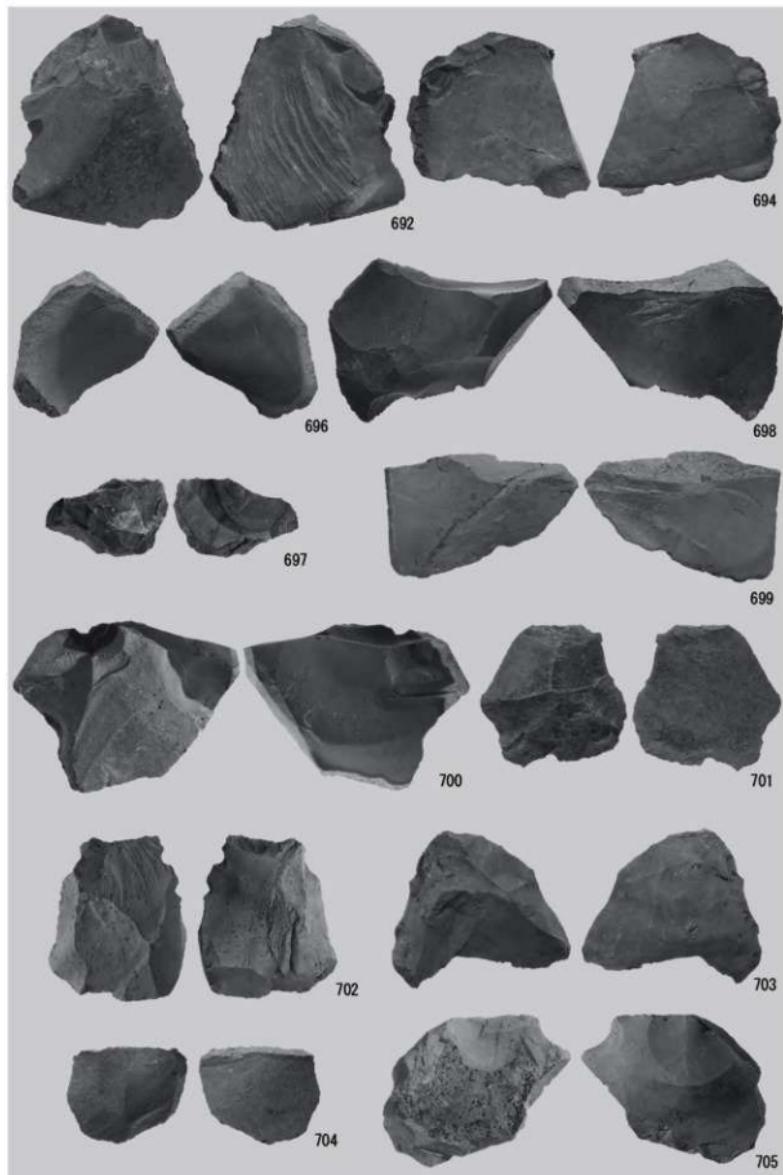
写真図版53 石器 9



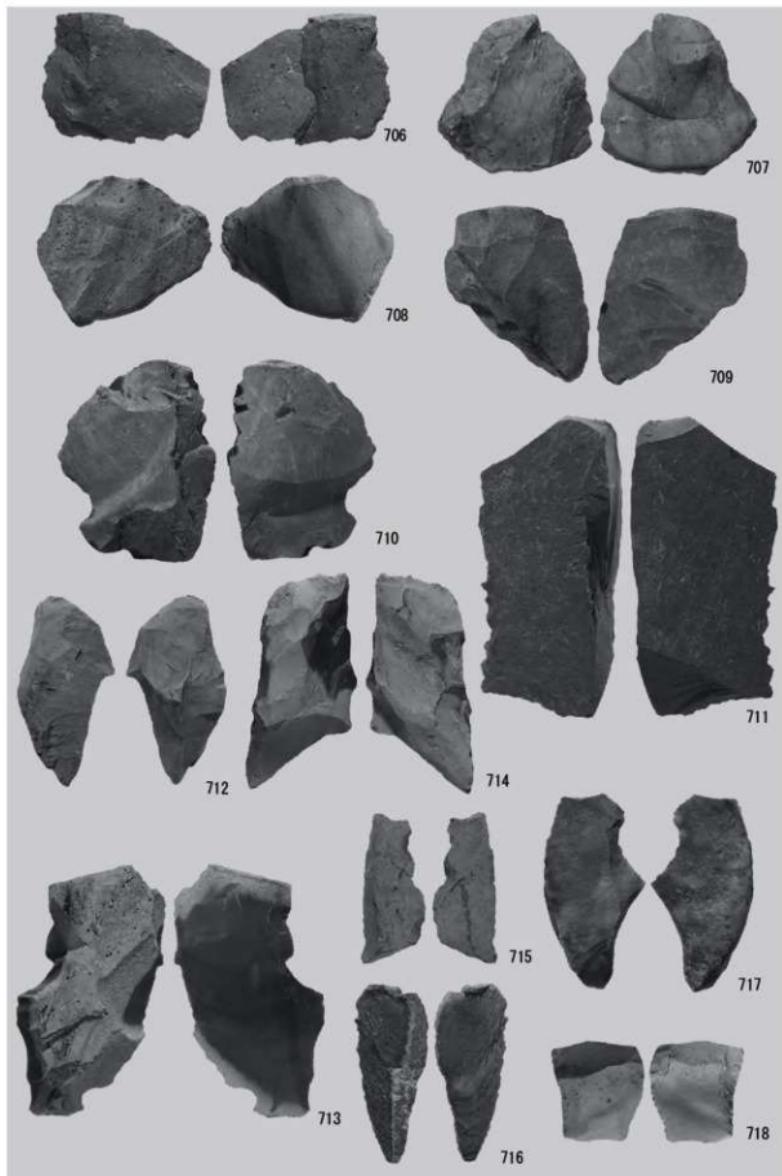
写真図版54 石器10



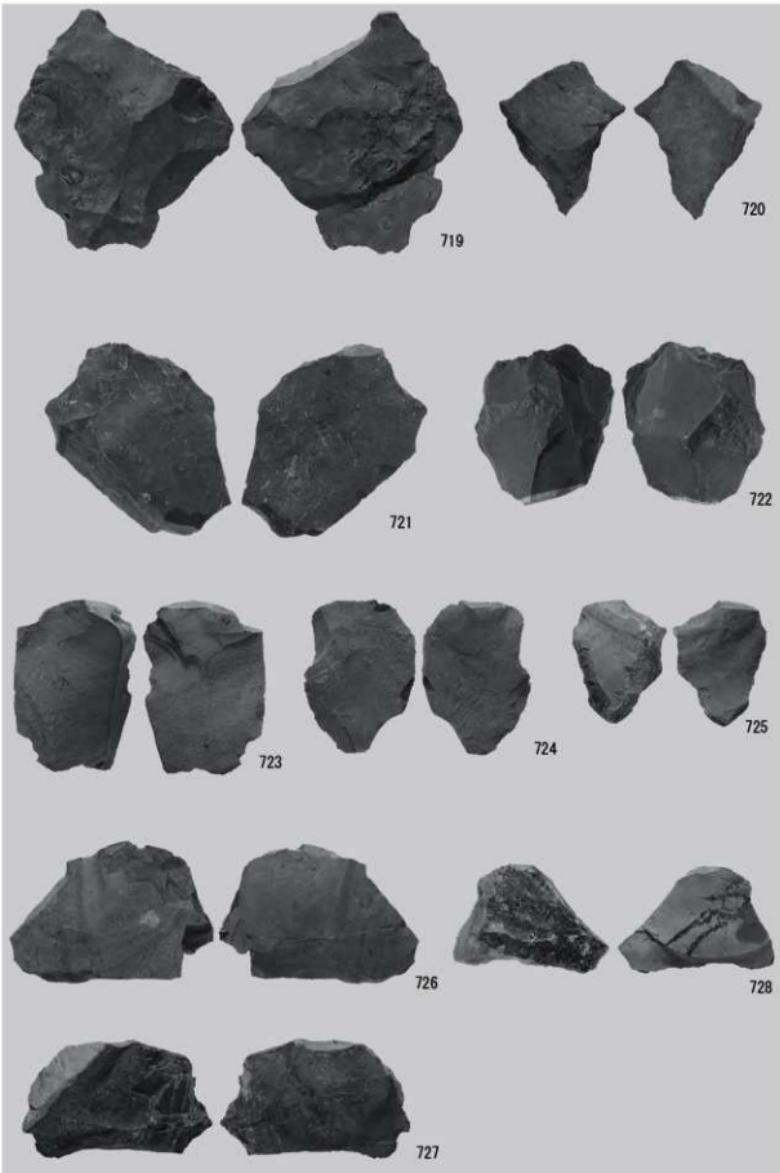
写真図版55 石器11



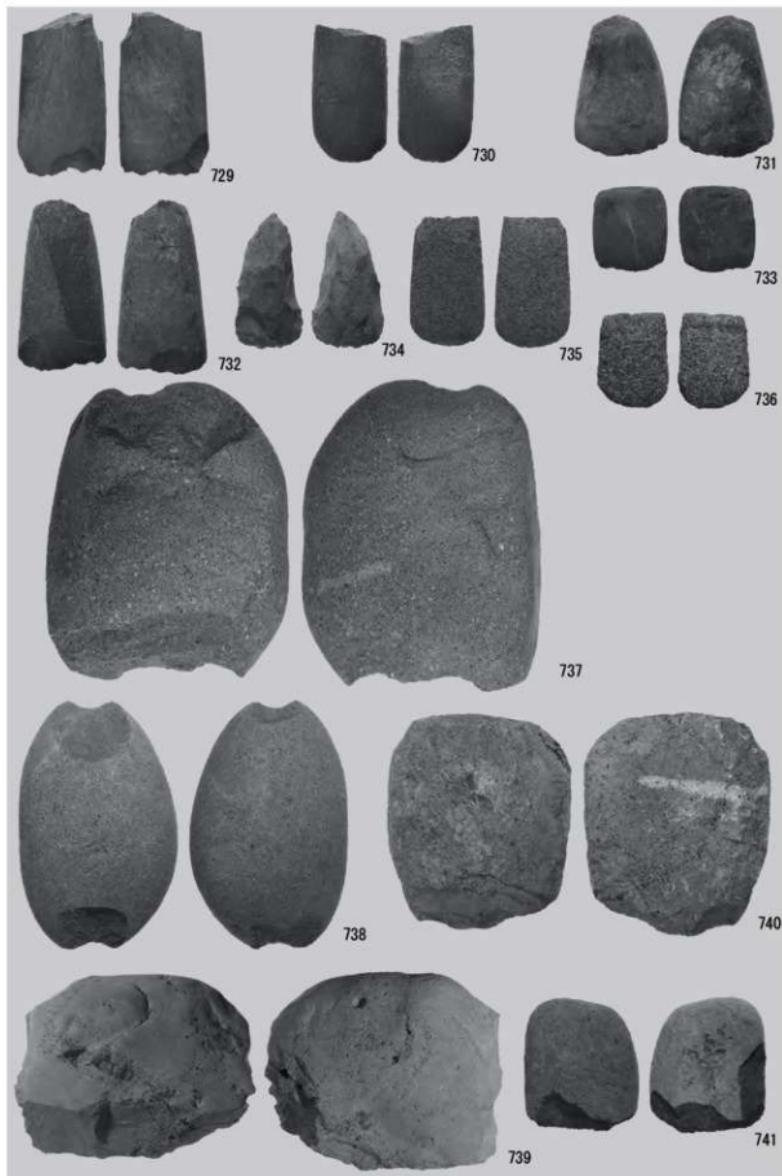
写真図版56 石器12



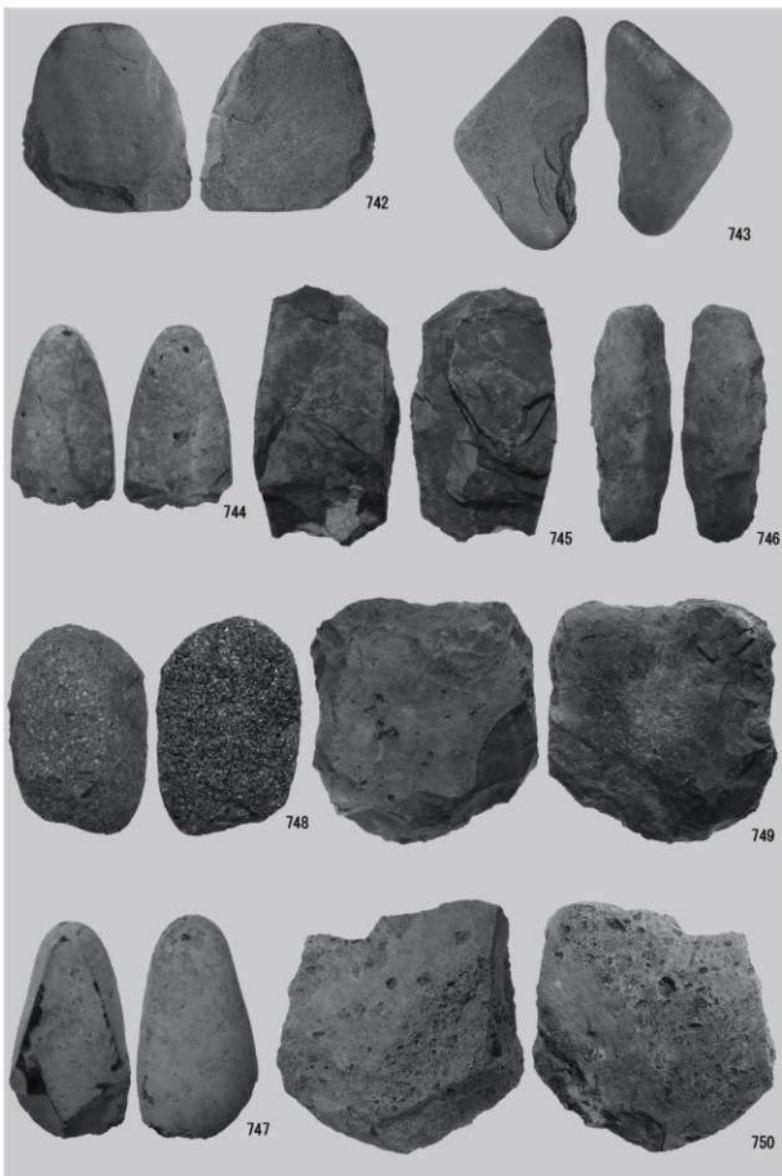
写真図版57 石器13



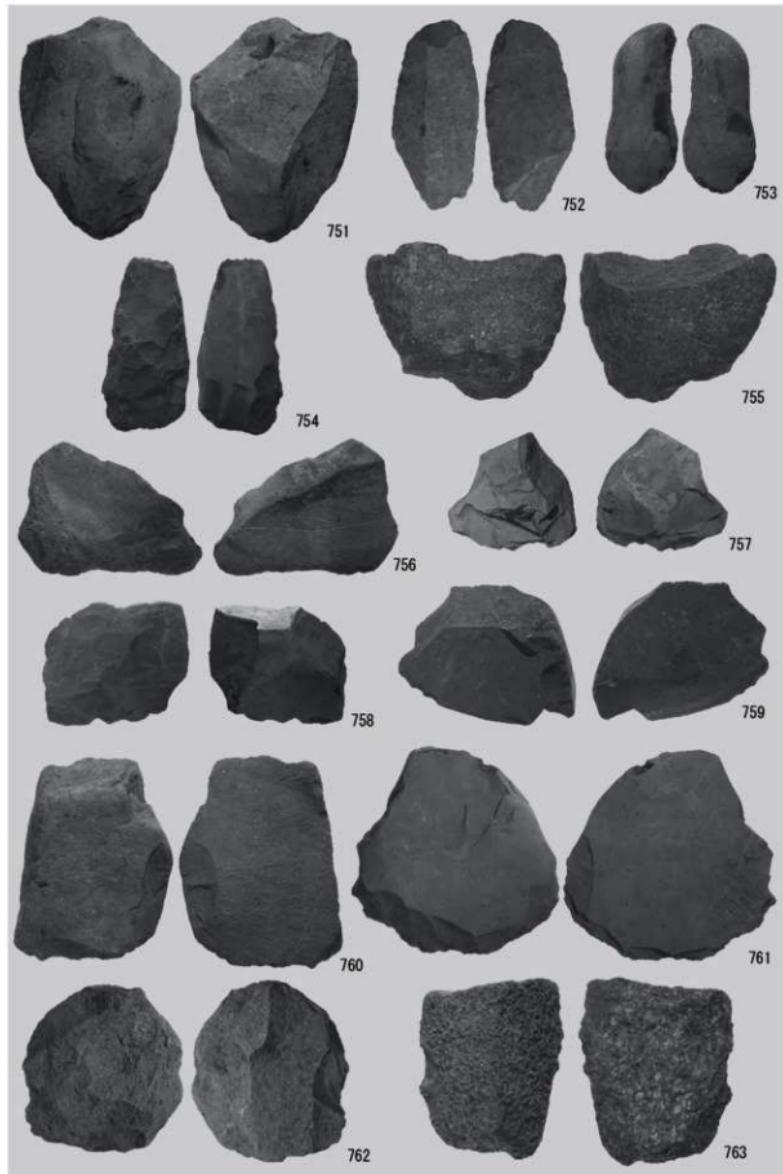
写真図版58 石器14



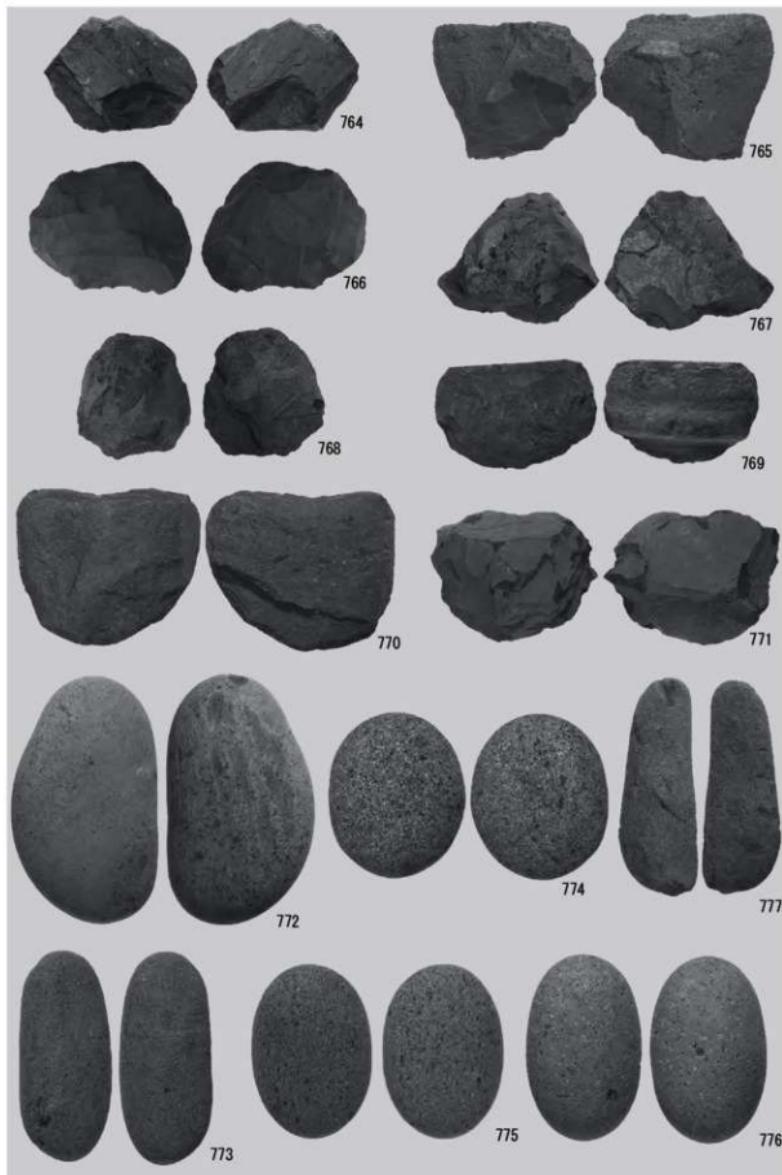
写真図版59 石器15



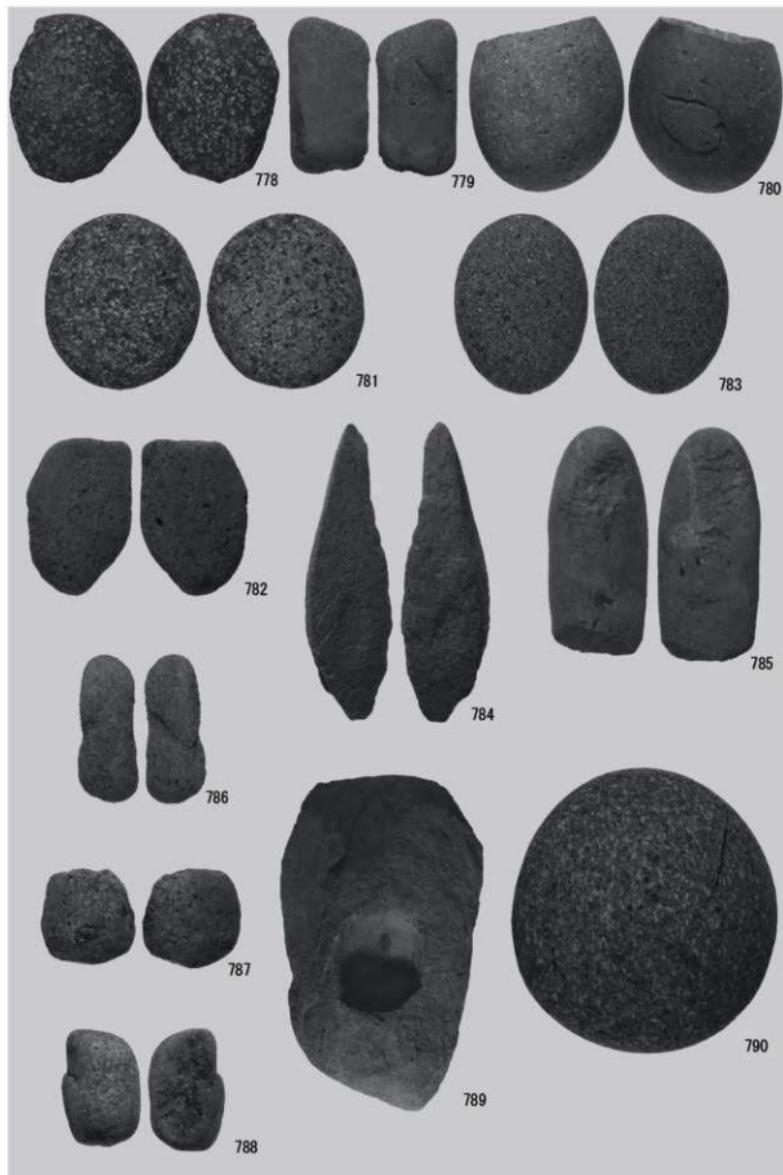
写真図版60 石器16



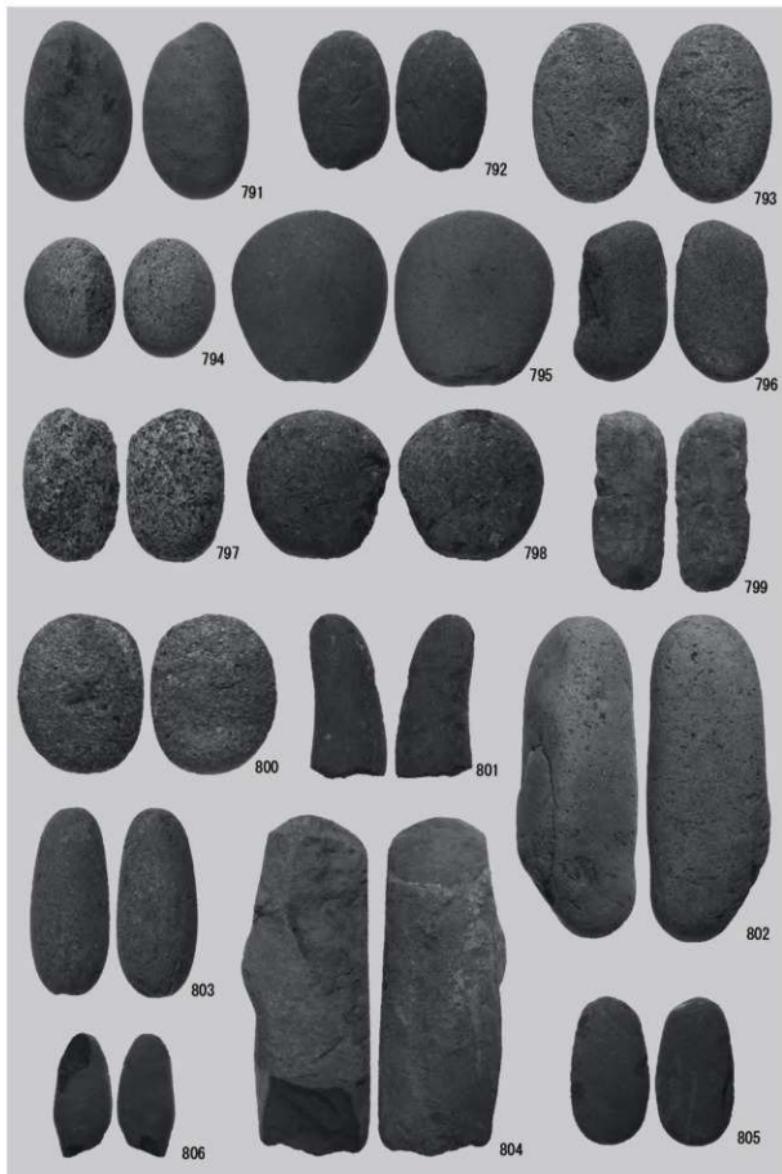
写真図版61 石器17



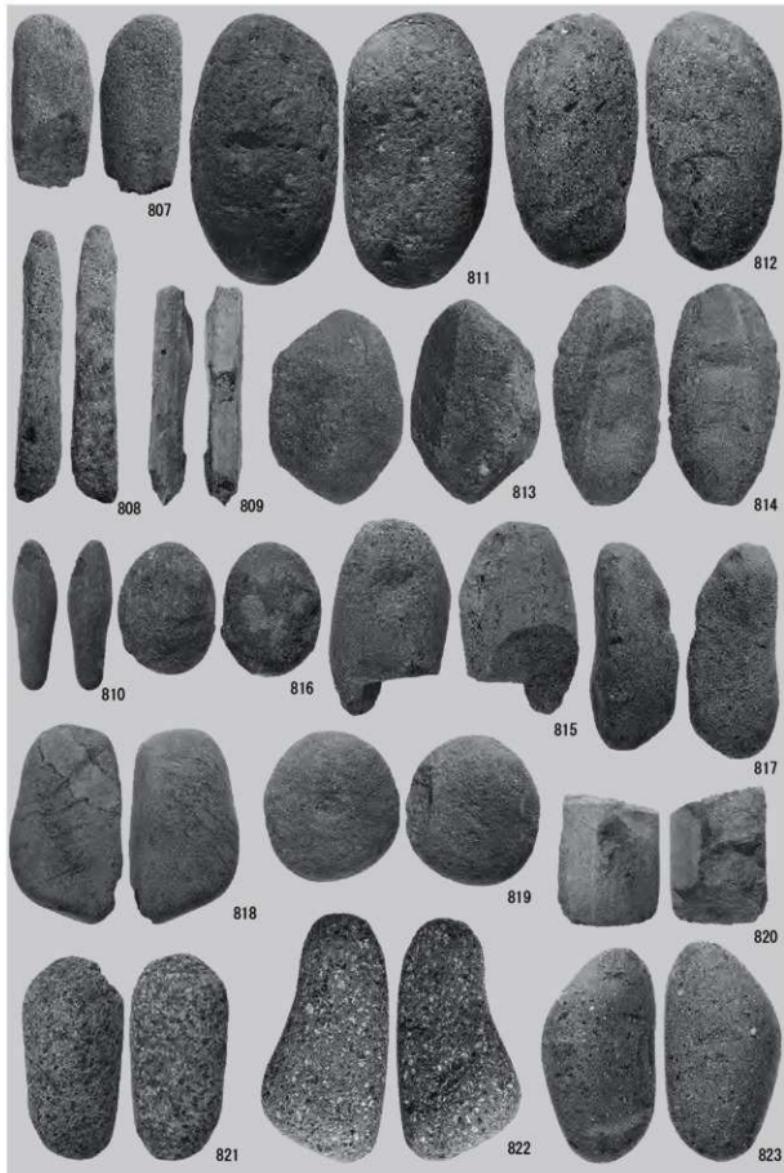
写真図版62 石器18



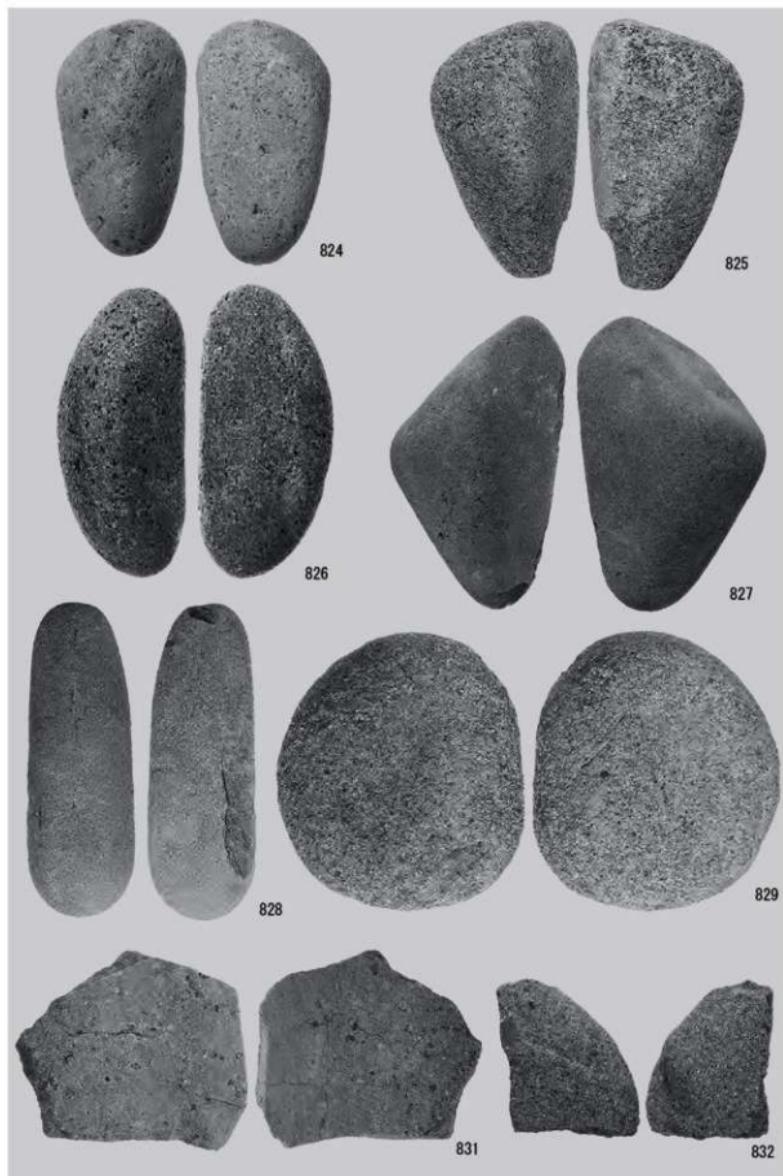
写真図版63 石器19



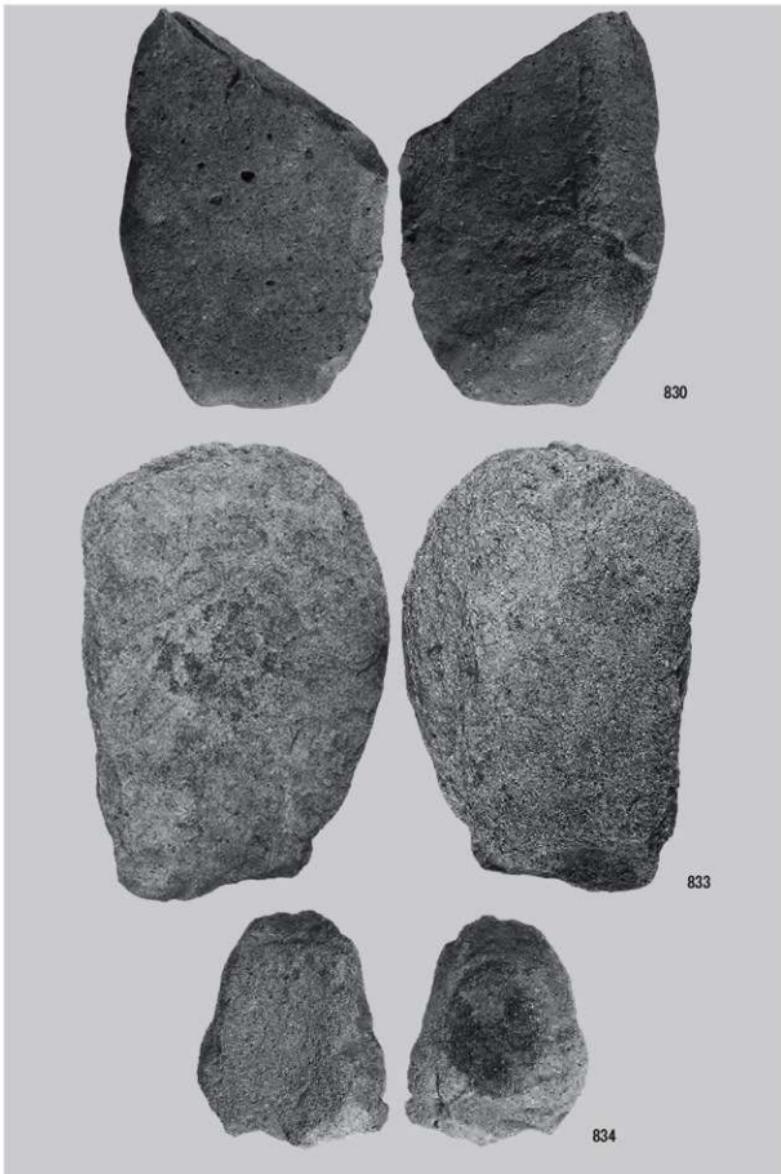
写真図版64 石器20



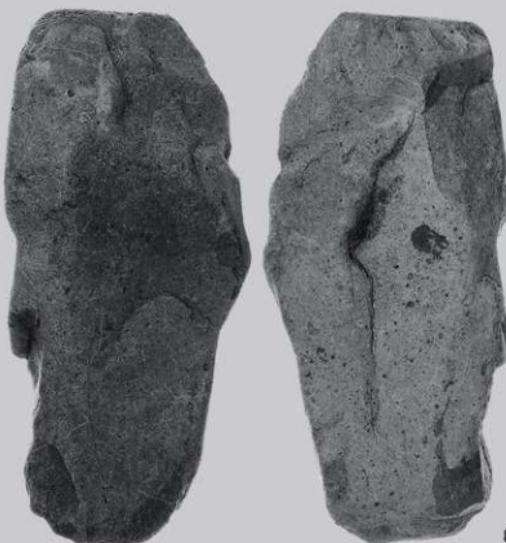
写真図版65 石器21



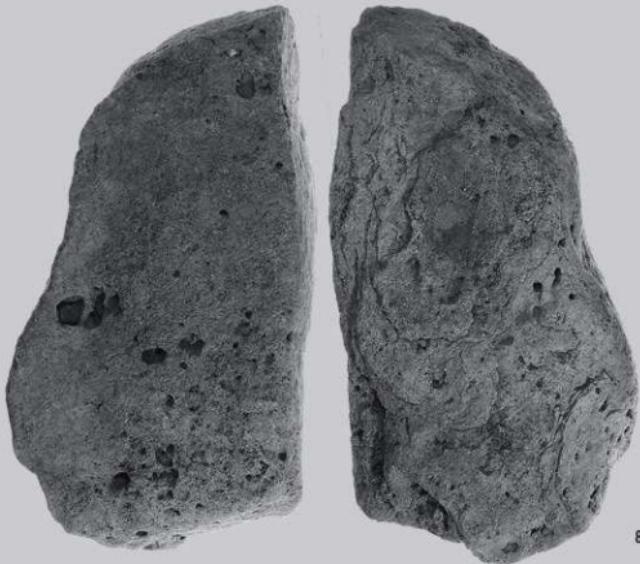
写真図版66 石器22



写真図版67 石器23

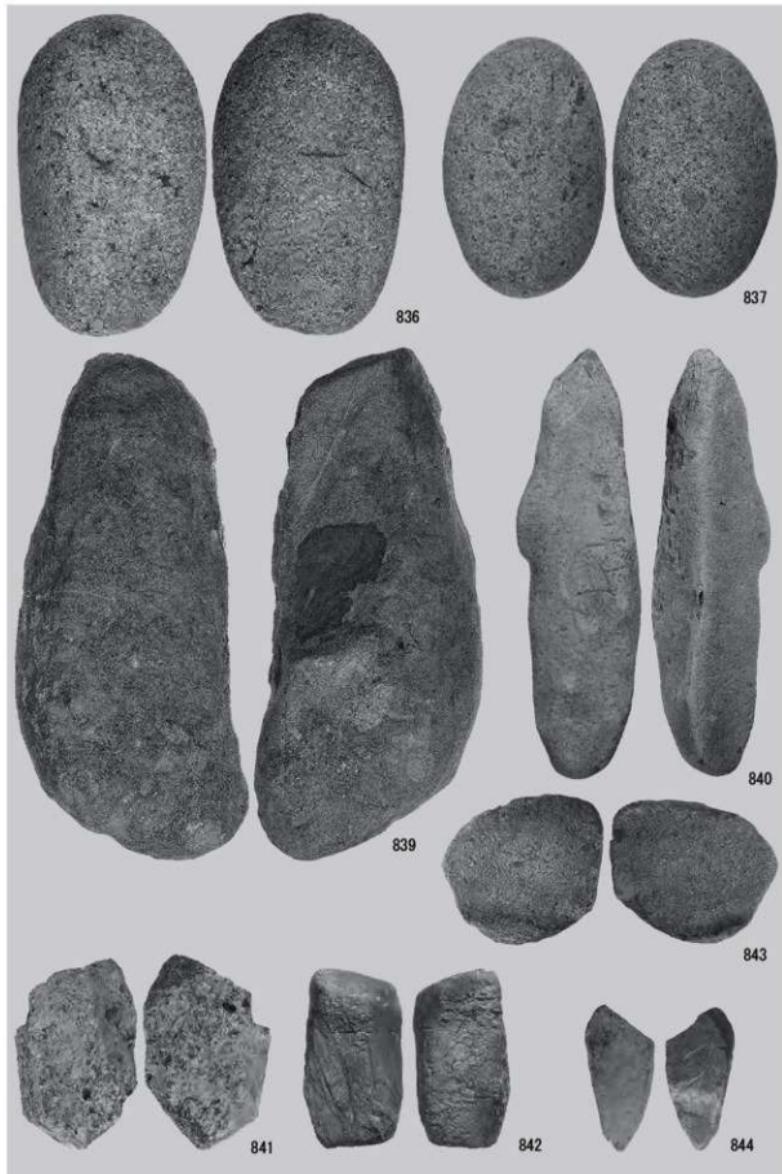


835

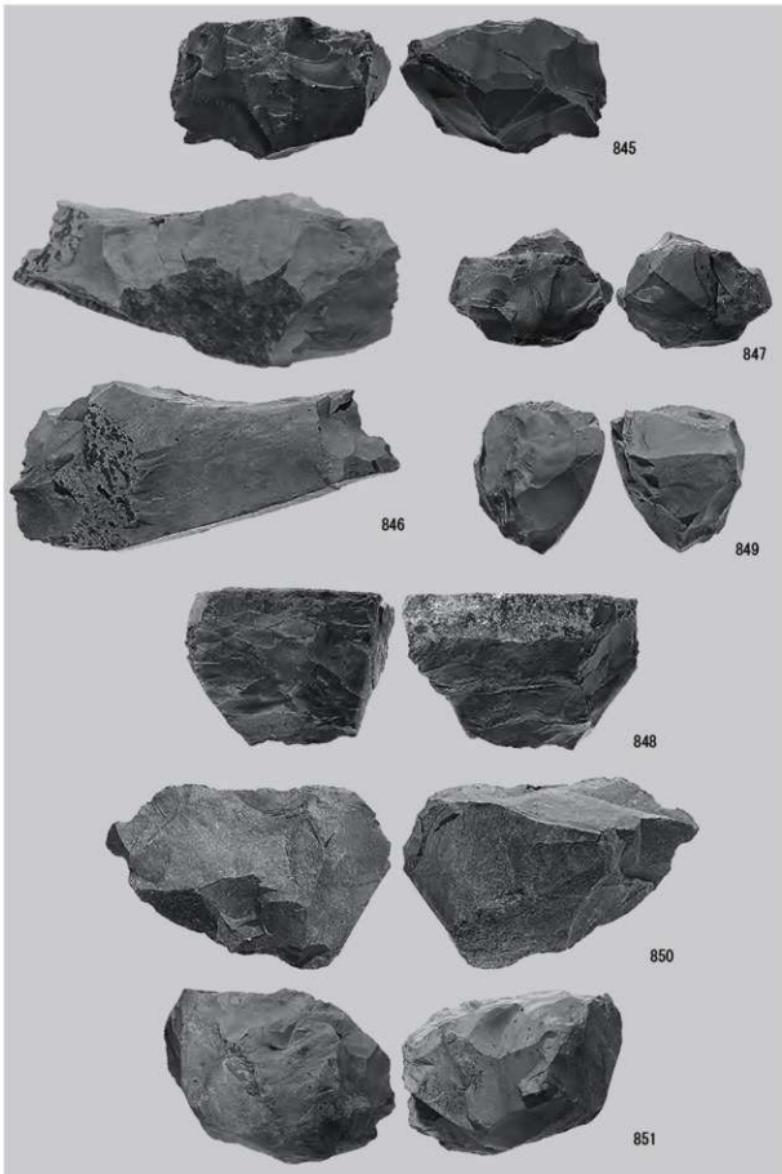


838

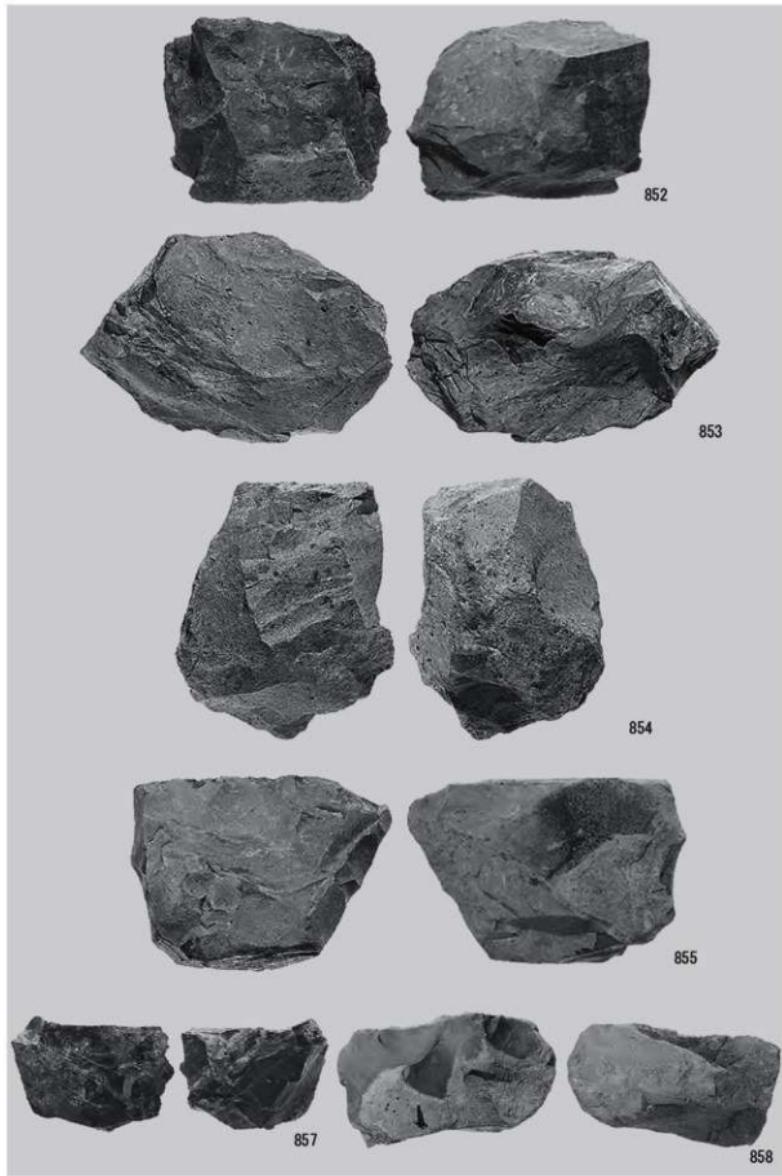
写真図版68 石器24



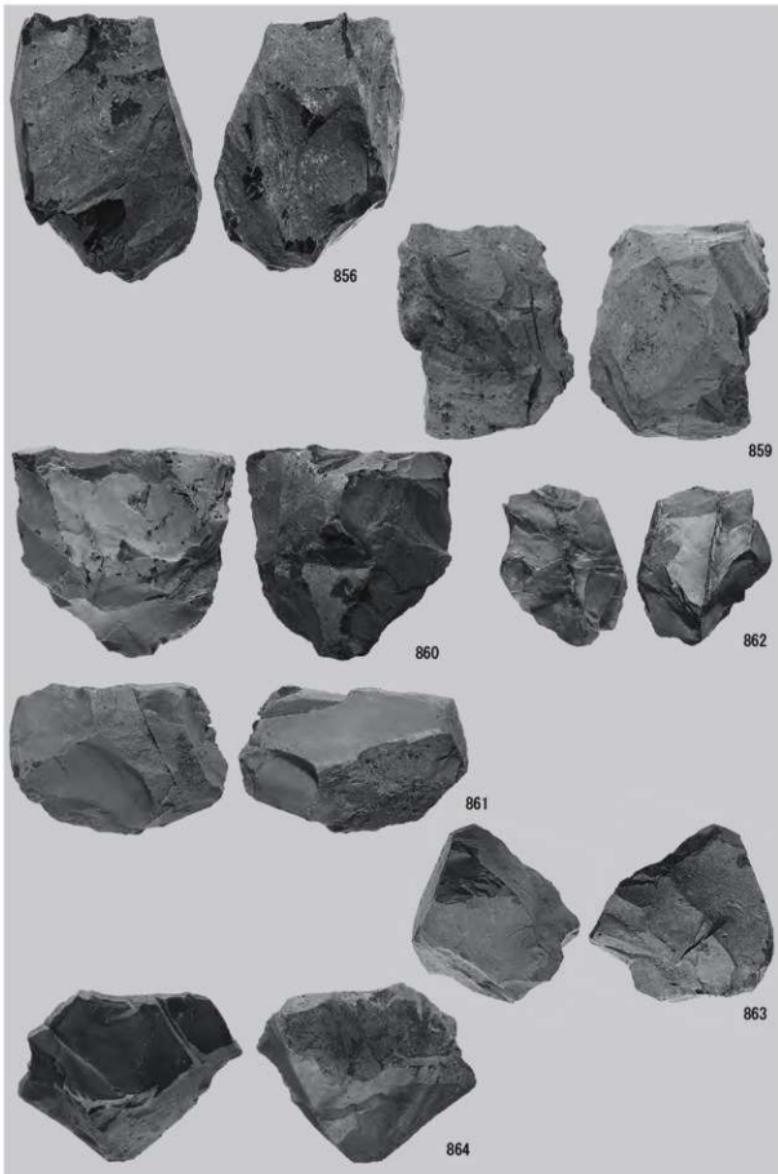
写真図版69 石器25



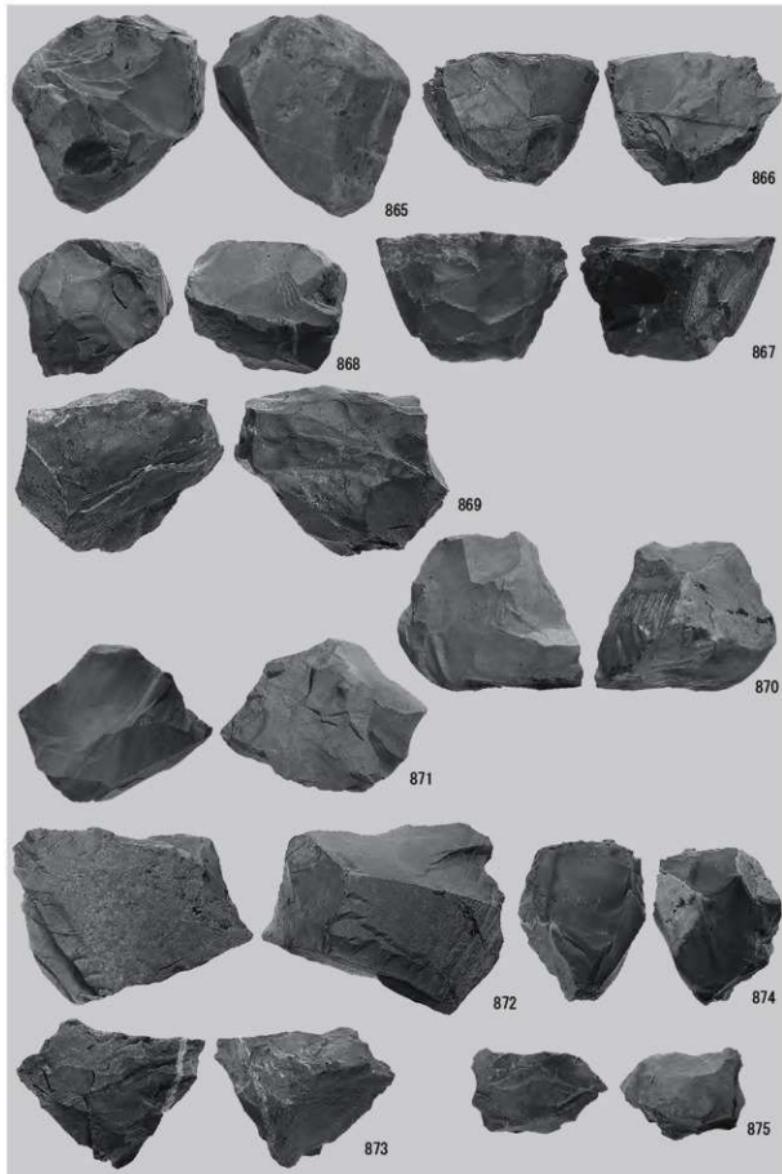
写真図版70 石器26



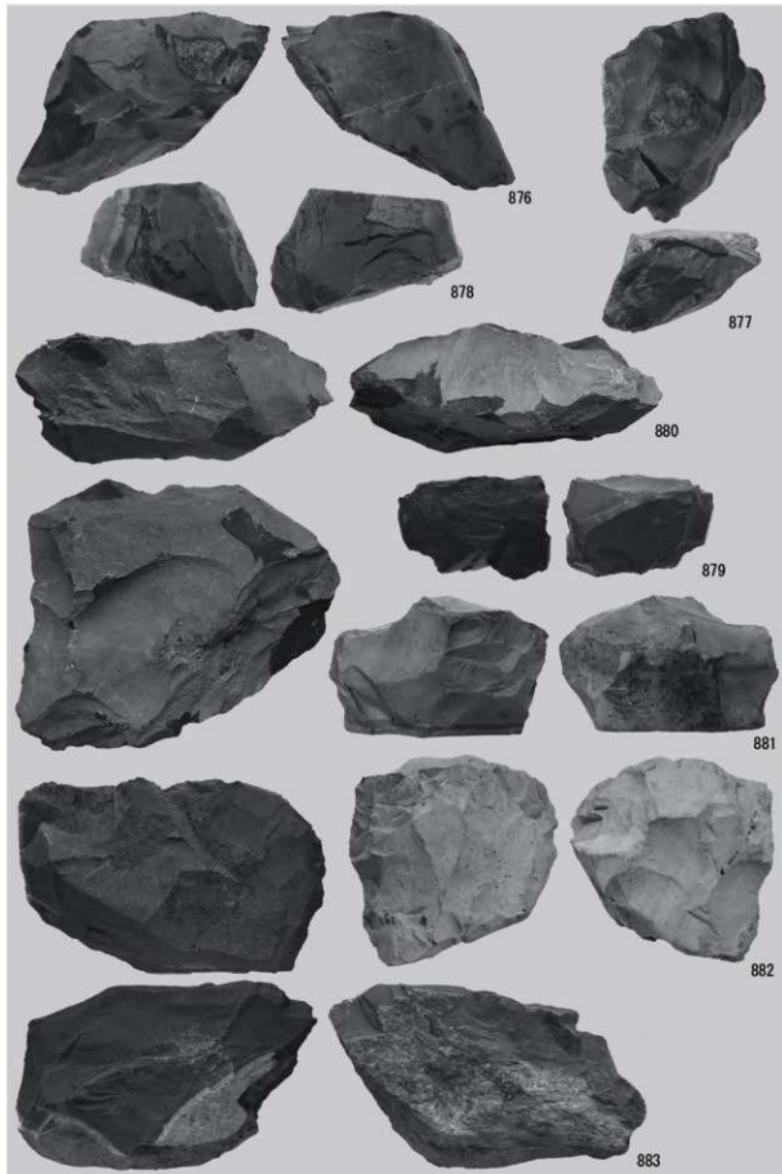
写真図版71 石器27



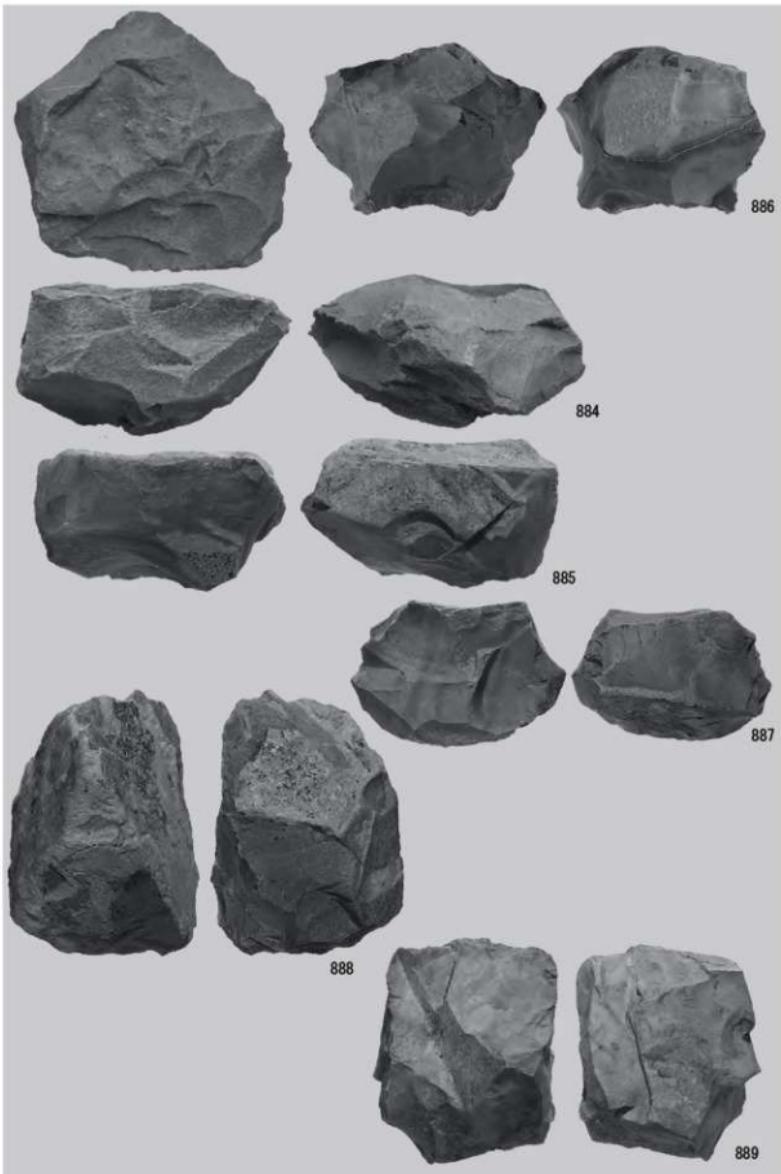
写真図版72 石器28



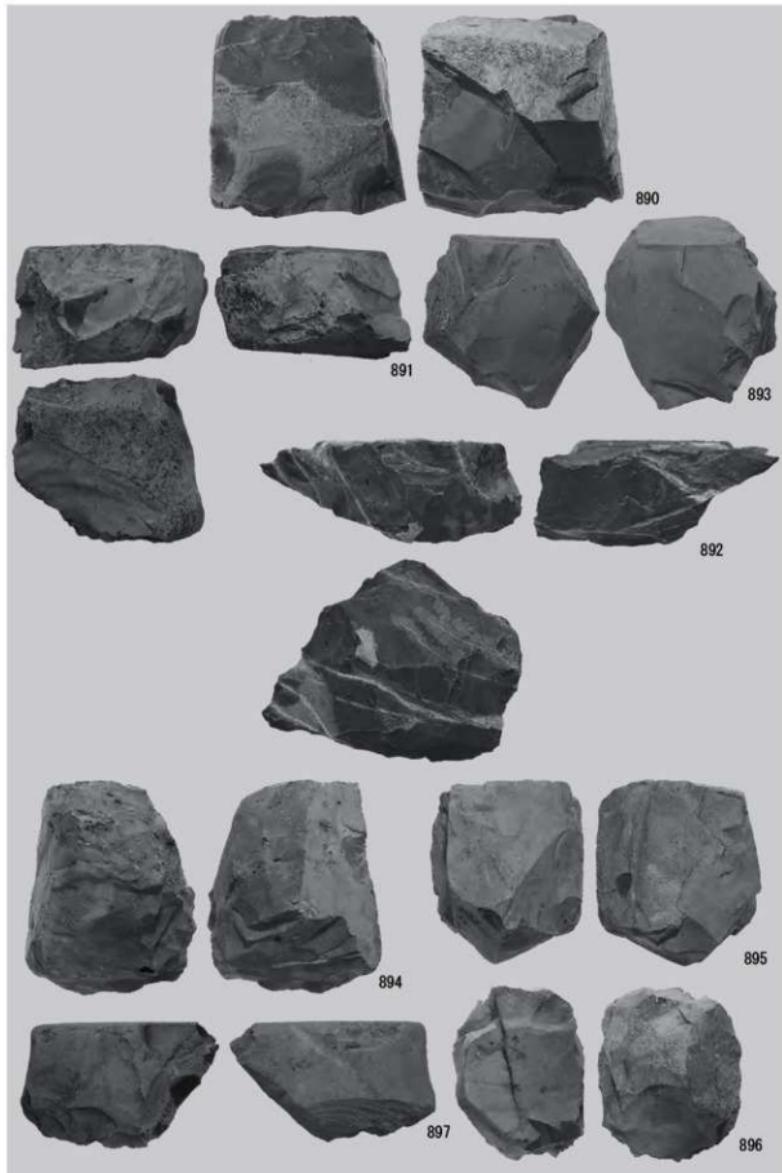
写真図版73 石器29



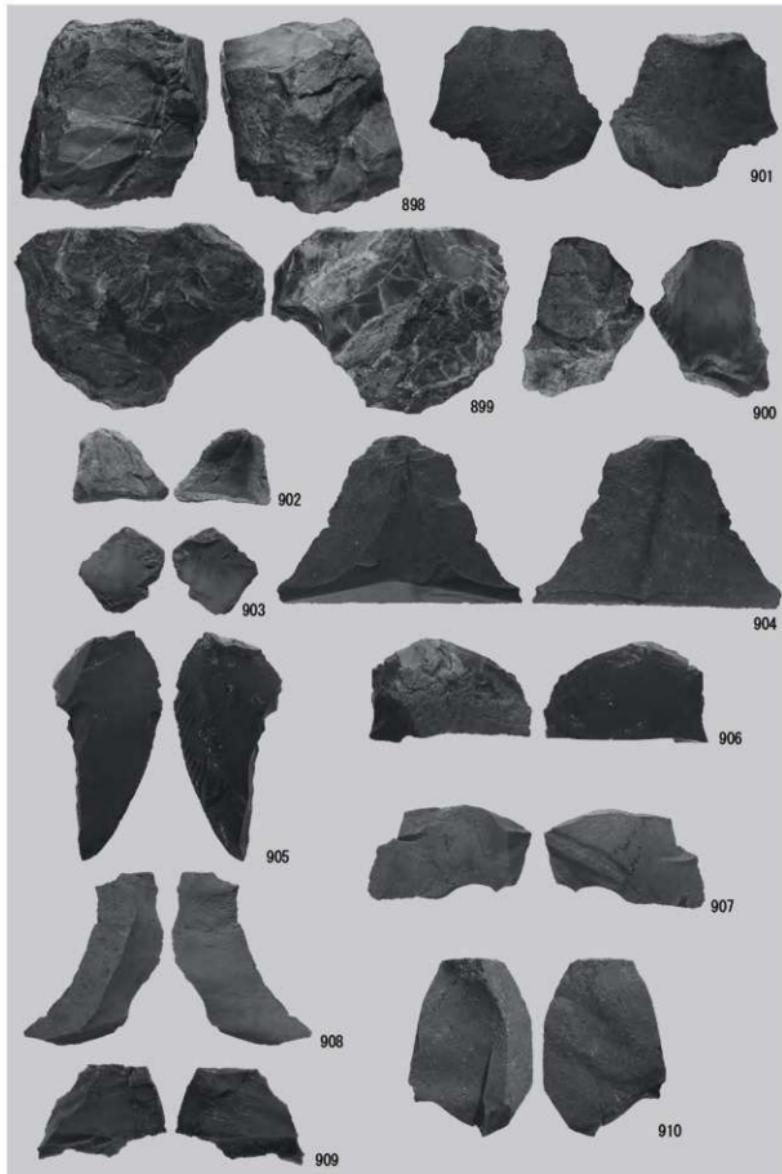
写真図版74 石器30



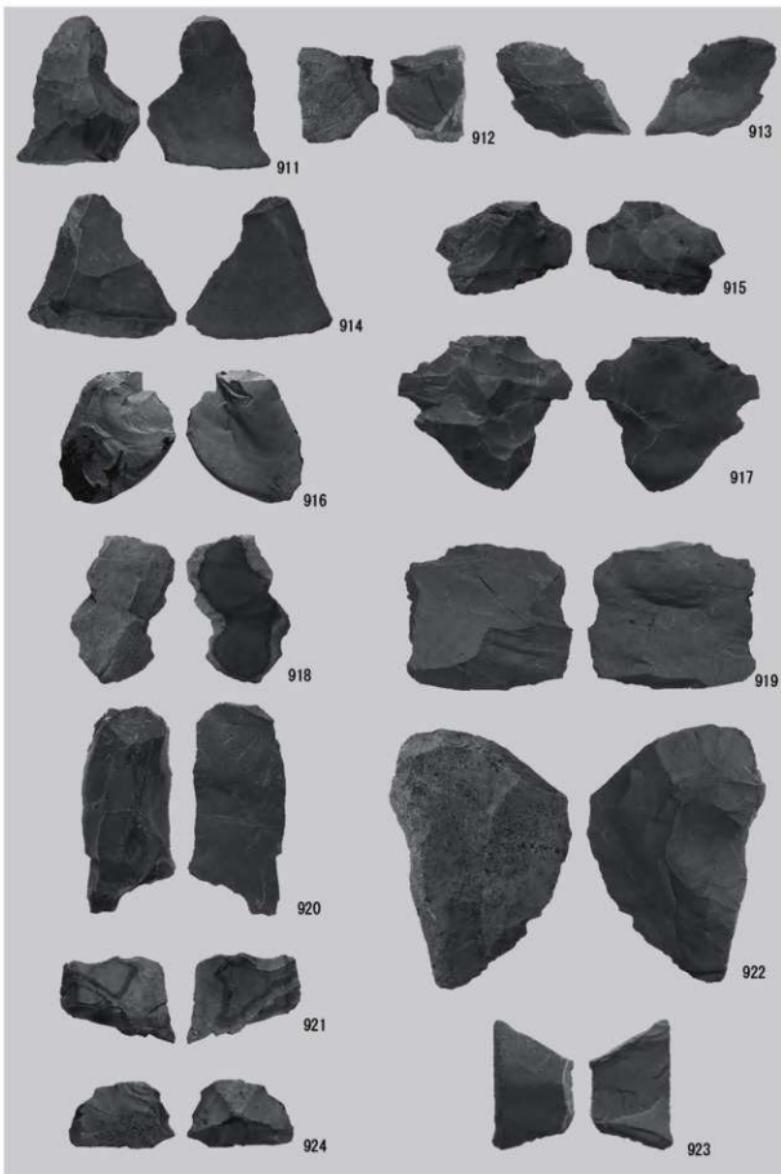
写真図版75 石器31



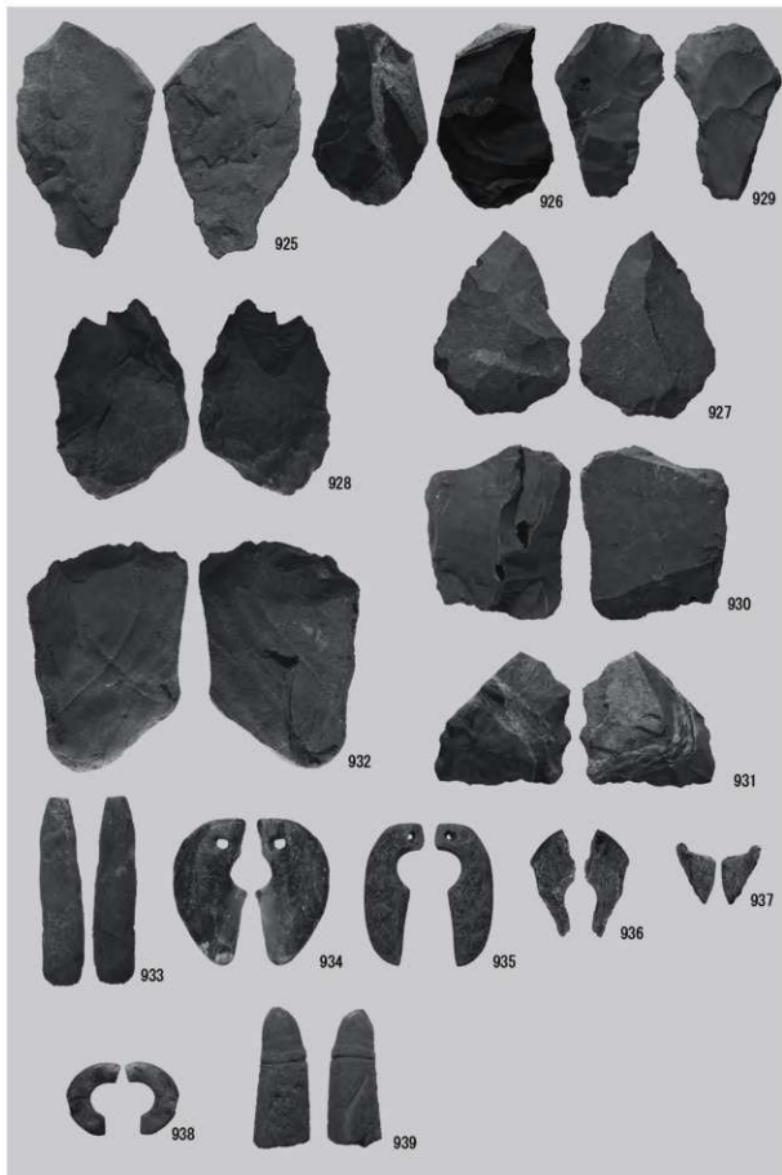
写真図版76 石器32



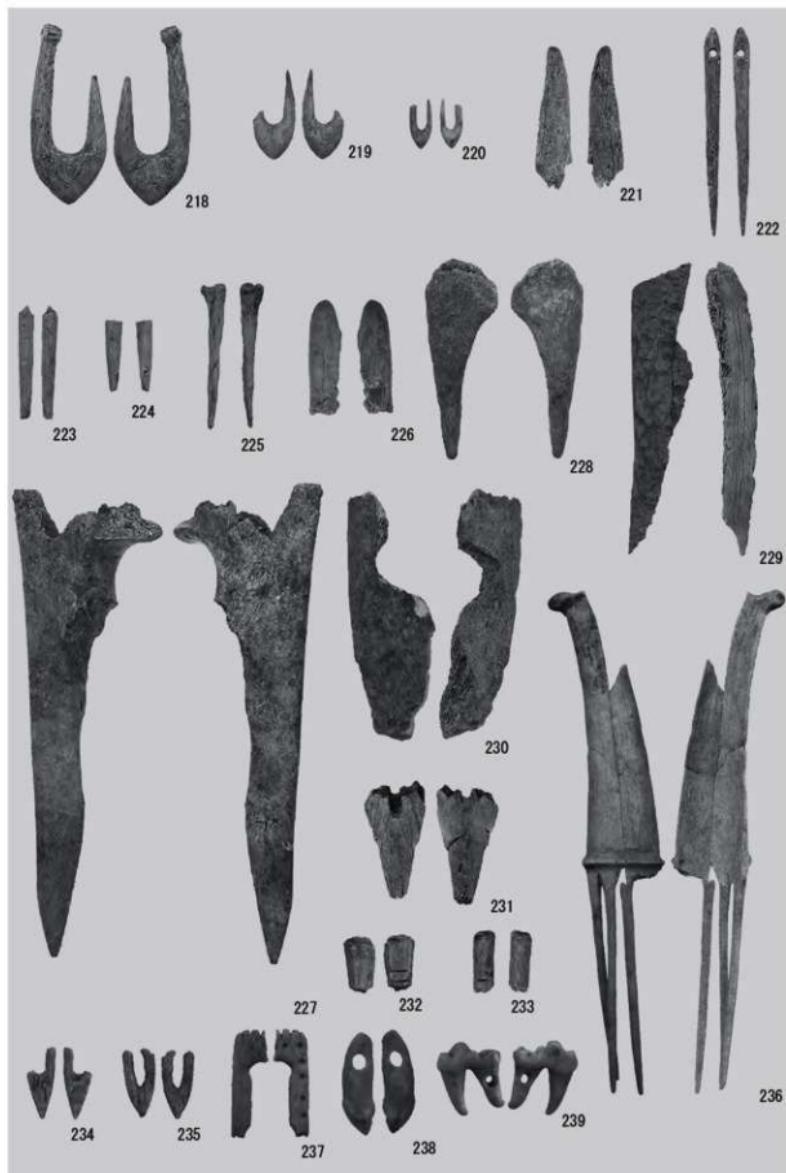
写真図版77 石器33



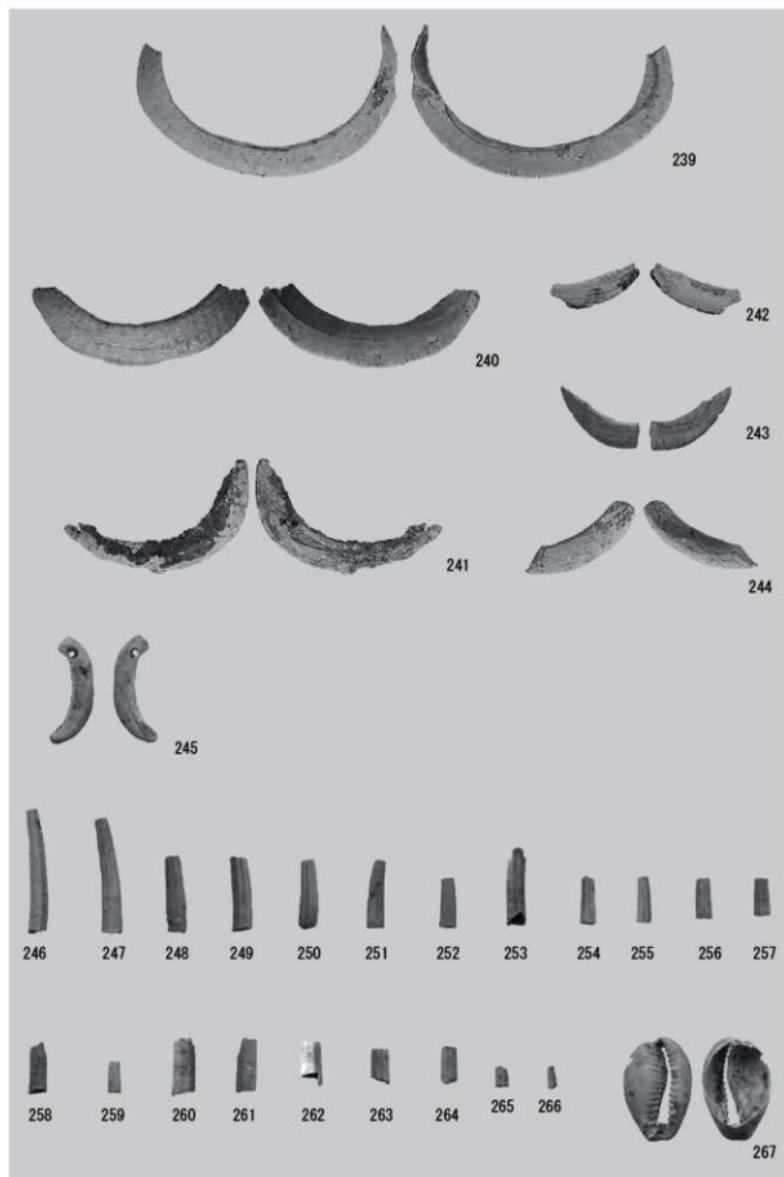
写真図版78 石器34



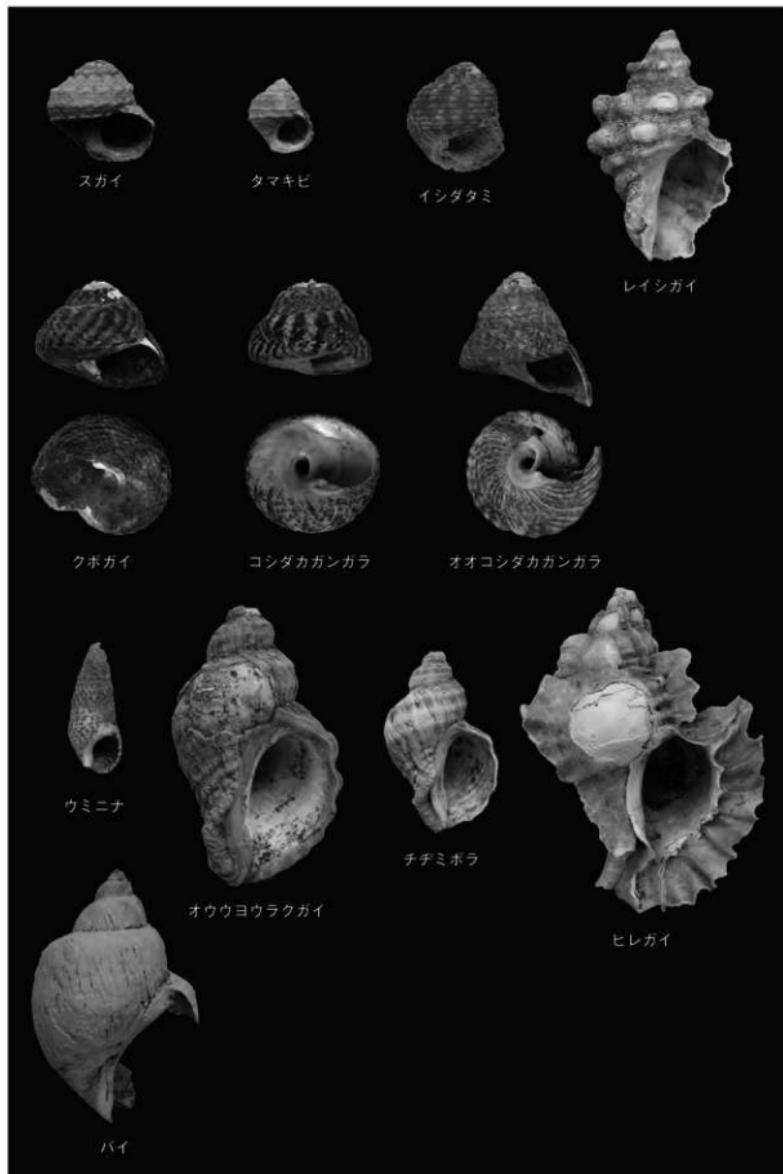
写真図版79 石器35・石製品2



写真図版80 骨角牙製品

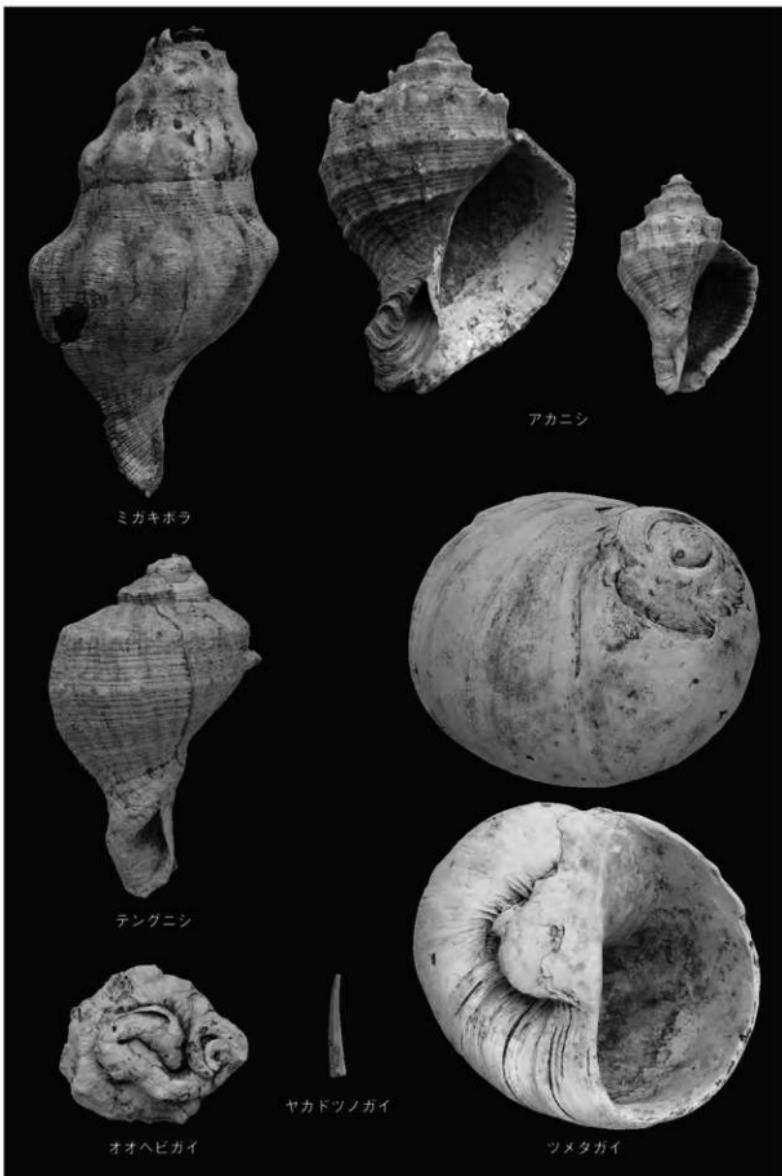


写真図版81 貝製品



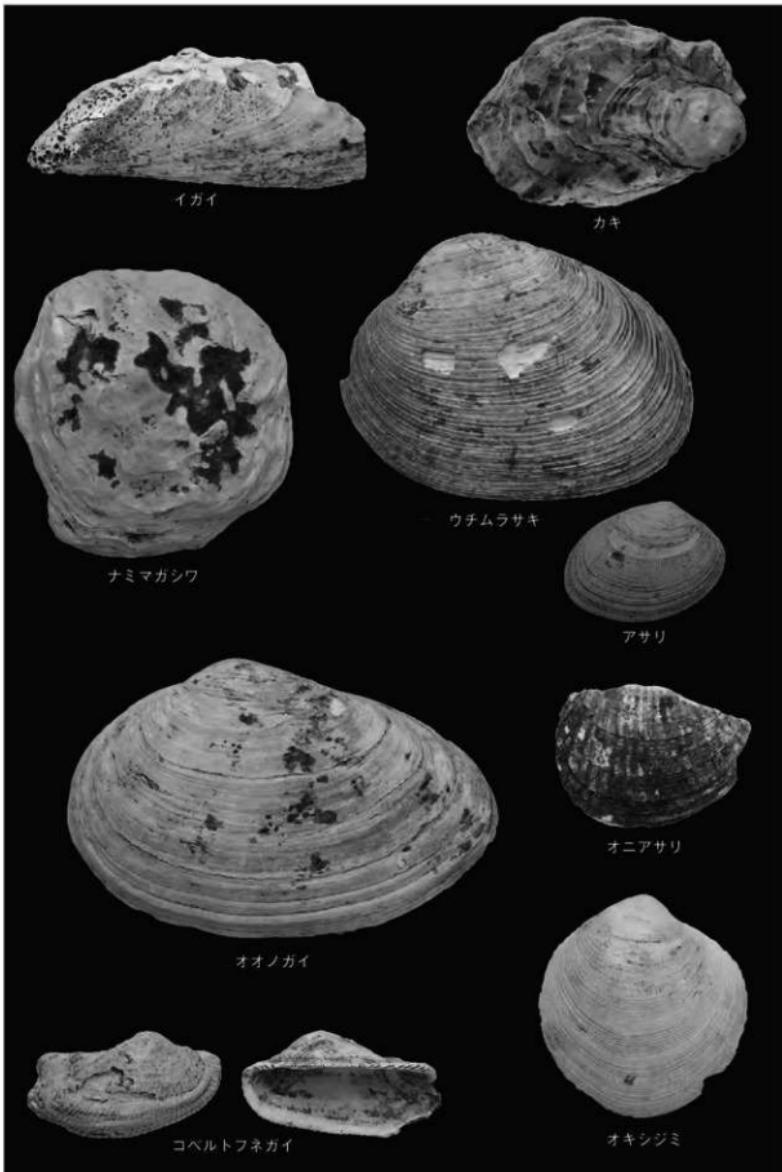
写真図版82 貝1

ほぼ原寸



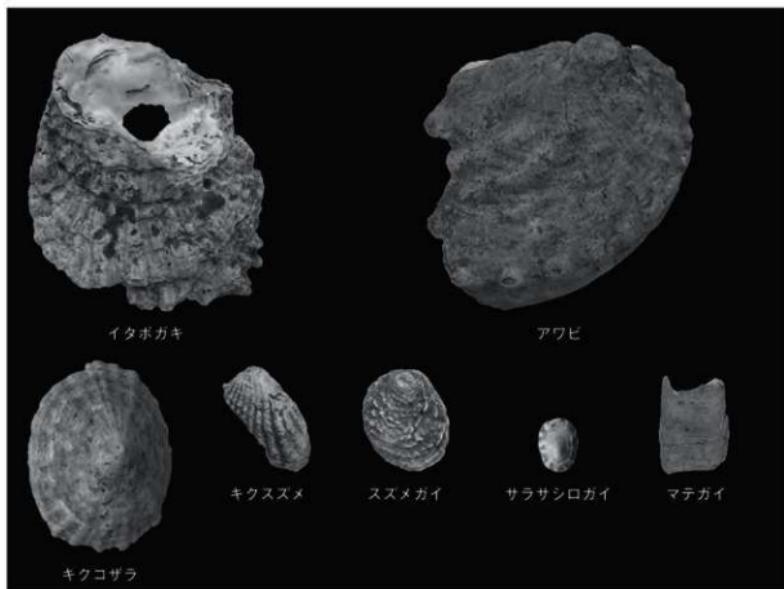
写真図版83 貝2

ほぼ原寸

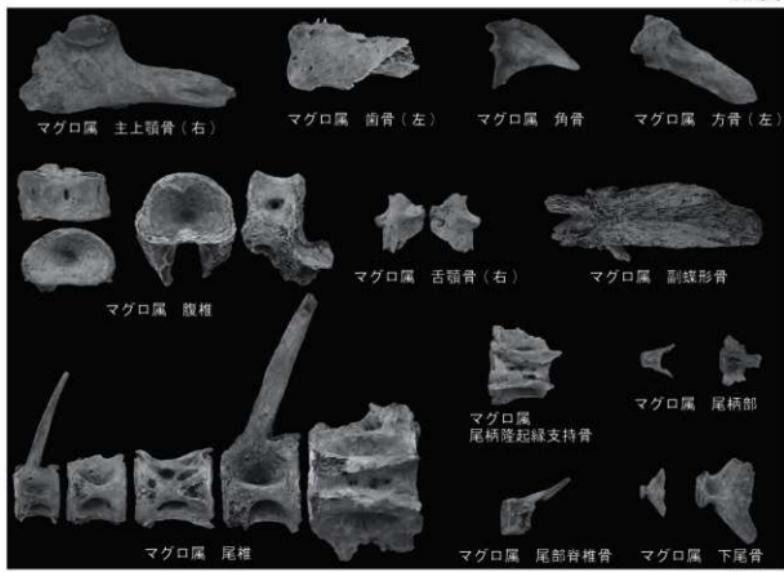


写真図版84 貝3

ほぼ原寸

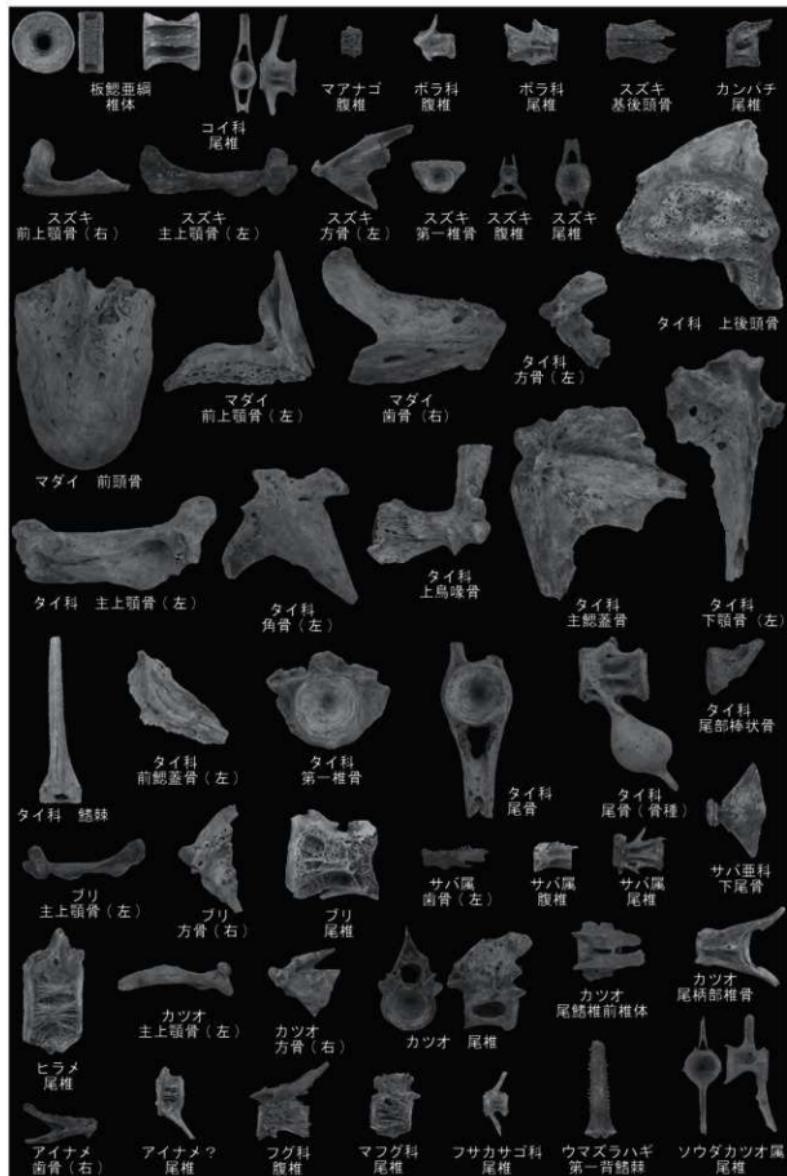


ほぼ原寸



ほぼ1/2

写真図版85 貝4・骨(魚類1)



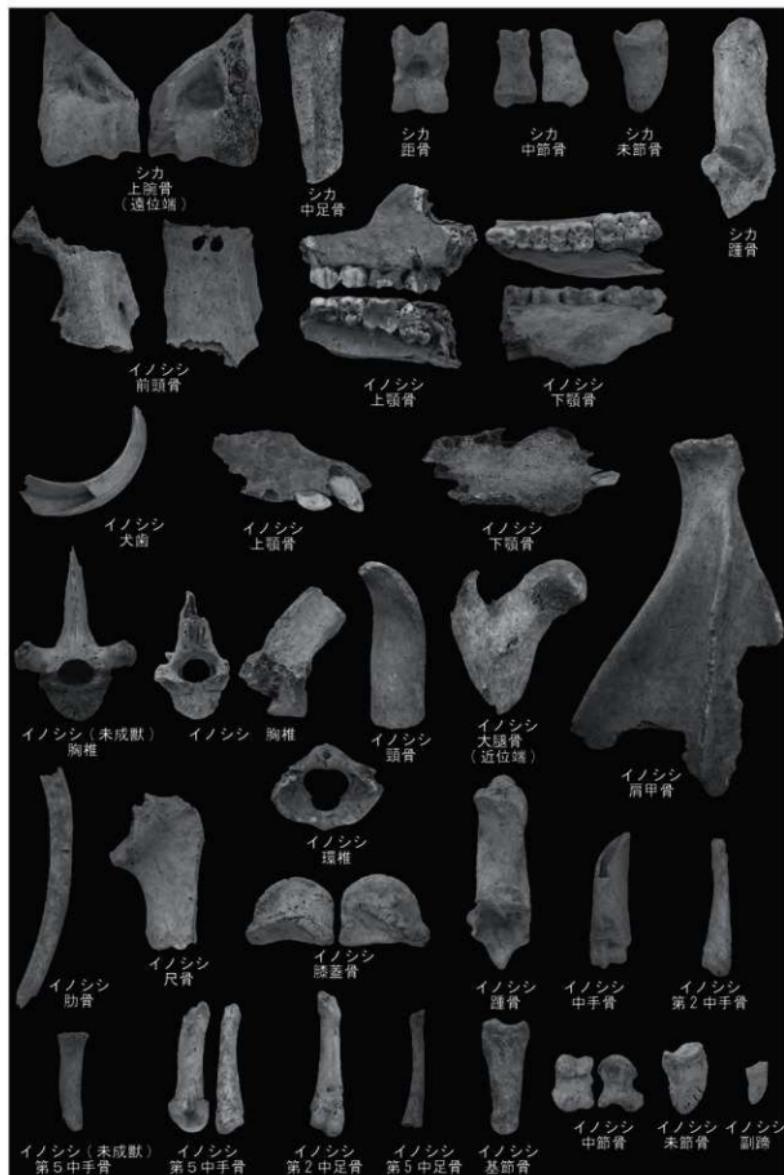
写真図版86 骨(魚類2)

ほぼ原寸



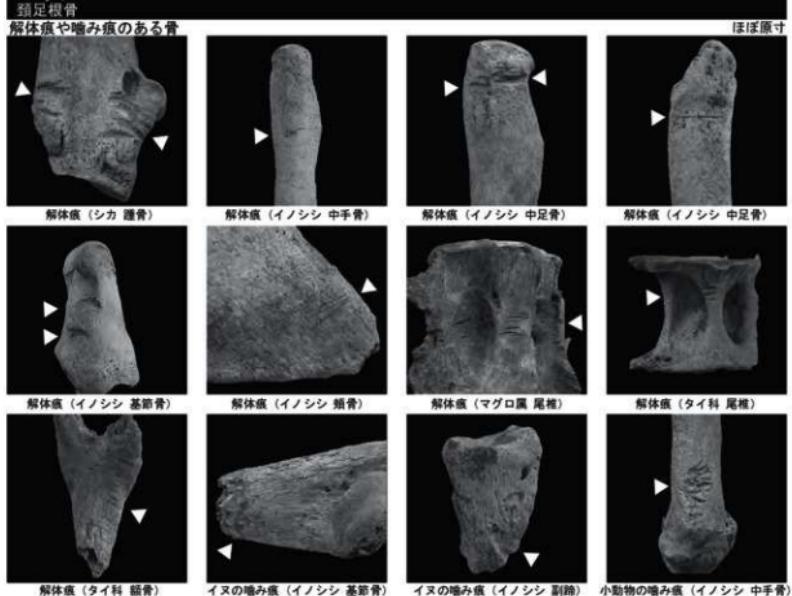
写真図版87 骨 (海棲・陸棲哺乳類 1)

はば1/2



写真図版88 骨（陸棲哺乳類2）

ほぼ1/2



写真図版89 骨 (陸棲哺乳類3・鳥類・解体痕など)

報告書抄録

ふりがな	うちだかいづかはつくつちょうさほうこくしょ						
書名	内田貝塚発掘調査報告書						
副書名	主要地方道大船渡広田陸前高田線事業関連遺跡発掘調査						
巻次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第707集						
編著者名	須原 拓						
編集機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001						
発行年月日	2019年3月15日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所在	市町村	遺跡番号	***	***	***	***
内田貝塚	岩手県大船渡市米崎町 字内田54番地6ほか	03203	NF69-0083	39度 01分 05秒	141度 42分 38秒	2018.06.01 ~ 2018.09.29	主要地方道 大船渡広田 陸前高田線事業
所取遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
内田貝塚	貝塚	縄文時代 前期	貝層1箇所	縄文土器(前期中葉)石器・ 骨角牙製品・貝製品・魚骨・ 獸骨			縄文時代前期中葉の貝塚 縄文時代前期末葉の集落遺跡
	集落跡	縄文時代 前期	堅穴住居跡1棟 土坑9基	縄文土器(前期末葉~中期 末葉)石器			
要約	遺跡は大船渡湾の湾口、南西岸に位置する。標高は45~36mである。調査区中央の南寄り、標高43~41mの斜面地で縄文時代前期中葉の貝層を確認した。貝層は規模145×5m、厚さは30cmを測り、面積は46m ² である。堆積層は68枚(層)で、混貝土層と土層で構成される。貝層からは縄文土器(大木3~5a式)、石器、石製品、骨角牙製品、貝製品、貝類、棘皮動物、軟体動物、また魚類・海棲哺乳類・陸棲哺乳類・鳥類の骨が出土している。						

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第707集

内田貝塚発掘調査報告書

主要地方道大船渡広田陸前高田線事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成31年3月15日

発 行 平成31年3月15日

編 集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

発 行 岩手県沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター

〒022-0004 岩手県大船渡市猪川町前田6-1

電話 (0192) 27-9919

(公財)岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 654-2235

印 刷 杜陵高速印刷株式会社

〒020-0811 岩手県盛岡市川町23番2号

電話 (019) 651-2110
